

西東京市

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第9期)

策定のためのアンケート調査報告書

令和5年3月

西東京市

目次

第1章 調査概要.....	1
1 調査概要.....	3
2 各調査の目的と調査項目.....	5
3 報告書の見方.....	16
第2章 調査結果.....	19
1 高齢者一般調査.....	21
(1)基本属性.....	21
(2)日頃の生活.....	24
(3)健康管理.....	36
(4)医療や介護.....	42
(5)生きがい.....	50
(6)認知症.....	53
(7)高齢者虐待.....	56
(8)高齢者を支えるしくみ.....	57
2 介護予防・日常生活圏域二エズ調査.....	59
(1)基本属性.....	59
(2)家族や生活の状況.....	62
(3)身体機能の状況.....	65
(4)食事の状況.....	69
(5)毎日の生活.....	72
(6)地域での活動.....	79
(7)助け合い.....	82
(8)健康管理・予防.....	86
(9)認知症.....	92
3 要介護・要支援認定者調査.....	94
(1)基本属性.....	94
(2)医療の状況.....	99
(3)今後の希望.....	102
(4)介護保険サービスの利用状況.....	108
(5)日常生活.....	120
(6)認知症、権利擁護.....	123
(7)介護保険制度.....	125
(8)介護者への質問(あて名の本人を介護している人).....	127
4 在宅介護実態調査.....	134
(1)調査対象者(本人)の状況.....	134

(2)主な介護者の状況.....	148
5 介護保険サービス事業者調査.....	157
(1)サービスの提供状況.....	157
(2)事業の運営状況.....	160
(3)サービスの質の向上への取組.....	173
(4)職員の処遇.....	183
(5)地域生活課題の状況.....	187
(6)西東京市への要望.....	189
6 介護支援専門員調査.....	191
(1)基本属性.....	191
(2)事業所について.....	194
(3)ケアマネジメントについて.....	199
(4)介護保険外サービス.....	205
(5)スキルアップ.....	210
(6)地域包括支援センター.....	215
(7)西東京市への要望.....	217
7 医療機関調査.....	222
(1)医療機関の現況.....	222
(2)在宅医療の取組状況(病院以外).....	225
(3)医療と介護の連携.....	229
(4)看取り.....	238
資料編 アンケート調査票及び集計結果.....	245
1 高齢者一般調査.....	247
2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査.....	254
3 要介護・要支援認定者調査.....	260
4 在宅介護実態調査.....	267
5 介護保険サービス事業者調査.....	271
6 介護支援専門員調査.....	277
7 医療機関調査.....	283

第1章 調査概要

1 調査概要

(1)調査目的

要介護・要支援認定を受けていない一般高齢者や総合事業対象者、要介護・要支援認定者等の生活実態、介護保険サービスを提供している事業者、ケアプランを作成している介護支援専門員、在宅療養を支える医療機関の実態等を把握し、西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第9期)の策定に向けたデータを得ることを目的として実施した。

(2)調査の全体構成

調査の対象は、『高齢者等調査』、『介護保険サービス事業者調査』、『介護支援専門員調査』、『医療機関調査』の4つから構成される。

対象	属性	一般高齢者	要支援認定者	要介護認定者
高齢者等		調査1 高齢者一般調査		
		調査2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査		
			調査3 要介護・要支援認定者調査	
			調査4 在宅介護実態調査	
介護保険サービス事業者		調査5 介護保険サービス事業者調査		
介護支援専門員		調査6 介護支援専門員調査		
医療機関		調査7 医療機関調査		

【参考】令和元年度調査からの変更点

- 属性ごとに分かれていた調査を統合し、調査件数を10件から7件に見直している。
- 他調査と重複する設問等を中心に、内容を見直している。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による高齢者の生活の変化や事業所・機関の経営への影響、ICT・デジタル機器の利用状況に関連する設問を新たに追加している。

(3)調査対象

調査名	調査対象
調査1 高齢者一般調査	介護保険第1号被保険者(介護予防事業参加者、要介護・要支援認定者を除く。)1,000人
調査2 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	他調査の対象となっていない市内在住の65歳以上の方(要介護1~5の方を除く。)2,000人
調査3 要介護・要支援認定者調査	要介護・要支援認定を受けている被保険者1,900人 (在宅サービス利用者 800人、施設等入所者 500人、サービス未利用者 300人、訪問看護利用者 300人)
調査4 在宅介護実態調査	在宅で生活している要介護・要支援認定者のうち、調査期間中に更新申請又は区分変更申請に伴う認定調査を受けた者730人
調査5 介護保険サービス事業者調査	西東京市介護保険連絡協議会会員及び市内地域包括支援センター208事業所
調査6 介護支援専門員調査	西東京市介護保険連絡協議会会員の介護支援専門員120人
調査7 医療機関調査	市内医療機関等349機関

(4)調査方法

郵送による配布・回収(礼状兼督促1回)

(5)調査時期

令和4年11月24日(木)~12月12日(月)

(6)回収数・回収率

調査名	発送数	回収数 (回収率)	有効回収数 (有効回収率)
調査1 高齢者一般調査	1,000	726 (72.6%)	722 (72.2%)
調査2 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査	2,000	1,487 (74.4%)	1,482 (74.1%)
調査3 要介護・要支援認定者調査	1,900	1,052 (55.4%)	871 (45.8%)
調査4 在宅介護実態調査	730	410 (56.2%)	381 (52.2%)
調査5 介護保険サービス事業者調査	208	112 (53.8%)	112 (53.8%)
調査6 介護支援専門員調査	120	91 (75.8%)	91 (75.8%)
調査7 医療機関調査	349	194 (55.6%)	194 (55.6%)
計	6,307	4,072 (64.6%)	3,853 (61.1%)

2 各調査の目的と調査項目

調査1 高齢者一般調査

① 調査の目的

要介護・要支援認定を受けていない第一号被保険者の市民の意識、生活実態、介護予防・健康づくりの取組状況や社会活動への参加状況を把握し、後期高齢者となる団塊の世代も含めた高齢者のニーズや課題を把握する。

② 調査項目

★:新規に追加した項目

(1)基本属性
記入不可の理由 問1 性別 問2 年齢 問3 居住地区 問4 居住形態 問5 家族構成
(2)日頃の生活
★問6 何歳からが高齢者と考えているか ★問7 働いているか ★問7-1 何歳まで働きたいか ★問8 介護・介助等をしている家族等の有無 ★問8-1 介護形態 ★問8-2 介護の困りごと ★問9 介護研修の受講意向 問10 福祉情報の入手先 ★問11 使用している情報通信機器 ★問12 情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向 問13 外出の頻度 問14 日常生活で困っていること 問15 困りごとの相談先 問16 利用している交通手段 問17 地域の行事や活動への参加状況 ★問18 コロナ禍による生活の変化
(3)健康管理
問19 健康状態(主観的健康感) 問20 食事の状況 問21 誰かと食事をする機会 問22 体調を維持するために行っていること 問23 健康維持のために利用したい場所 問24 フレイルの認知度 ★問25 フレイルチェックの利用意向 ★問26 短期集中サービスの利用意向 ★問27 自覚症状

(4)医療や介護
問 28 かかりつけ医の有無 問 29 かかりつけ歯科医の有無 問 30 かかりつけ薬局の有無 ★問 31 現在治療中の病気やけが 問 32 長期療養が必要になった場合に希望する居場所 問 32-1 在宅での療養を希望する方の実現可能性 問 32-2 在宅での療養を希望しない又は希望するが難しいと思う理由 問 33 人生の最期を迎えたい場所 問 33-1 在宅での最期の実現可能性 問 33-2 在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由 問 34 延命治療についての希望 問 35 今後の希望について家族等へ意向を伝えているか 問 35-1 今後の希望についての意向の伝え方 問 35-2 今後の希望についての意向を伝えていない理由
(5)生きがい
問 36 通いの場への参加経験 問 37 現在継続して行っていること、もしくは今後行いたいこと 問 38 できると思う地域等の活動
(6)認知症
★問 39 認知症の症状の有無、家族に認知症の症状がある人がいるか 問 40 認知症で心配なこと 問 41 認知症予防のために取り組んでいること 問 41-1 認知症予防に取り組まない理由 問 42 認知症サポーターの認知度 ★問 43 認知症施策として進める必要があること
(7)高齢者虐待
問 44 高齢者虐待につながる可能性があると思うもの ★問 45 高齢者虐待の通報先の認知度
(8)高齢者を支えるしくみ
問 46 地域包括支援センターの認知度 問 47 増大する高齢者福祉サービスへの対応方法 問 48 今後地域で暮らしていくために必要だと思うこと

調査2 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

① 調査の目的

市内に居住する一般高齢者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者、要支援者の要介護状態になる前の高齢者のリスクや生活状況等を調査し、地域の高齢者の抱える課題やニーズを把握する。

② 調査項目

★:新規に追加した項目

(1)基本属性
記入不可の理由 問1 記入日 問2 調査票の記入者 問3 性別 問4 年齢 問5 要支援認定の状況 問6 居住地区
(2)家族や生活の状況
問7 家族構成 問8 介護・介助の必要性 問8-1 介護・介助が必要になった原因 問9 現在の経済状況 問10 居住形態
(3)身体機能の状況
問11 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること 問12 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること 問13 15分位続けて歩くこと 問14 過去1年以内に転んだ経験 問15 転倒に対する不安 問16 外出の頻度 問17 昨年と比較した外出の頻度 問18 外出を控えているか 問18-1 外出を控えている理由 問19 外出する際の移動手段
(4)食事の状況
問20 身長・体重 問21 半年前に比べ固いものが食べにくくなったか 問22 お茶や汁物等でむせることがあるか 問23 口の渴きが気になるか 問24 歯の数と入れ歯の利用状況 問25 6ヶ月間で2～3kgの体重減少があったか 問26 誰かと食事をする機会
(5)毎日の生活
問27 物忘れが多いと感じるか 問28 バスや電車を使って1人で外出しているか 問29 自分で食品・日用品の買物をしているか 問30 自分で食事の用意をしているか 問31 自分で請求書の支払いをしているか 問32 自分で預貯金の出し入れをしているか 問33 年金などの書類が書けるか 問34 新聞を読んでいるか

(5)毎日の生活(続き)
問 35 本や雑誌を読んでいるか 問 36 健康についての記事や番組に関心があるか 問 37 友人の家を訪ねているか 問 38 家族や友人の相談にのっているか 問 39 病人を見舞うことができるか 問 40 若い人に自分から話しかけることがあるか ★問 41 使用している情報通信機器 ★問 42 情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向 ★問 43 コロナ禍による生活の変化
(6)地域での活動
問 44 地域での活動への参加頻度 問 45 地域活動への参加者としての参加意向 問 46 地域活動への企画・運営としての参加意向 問 47 地域の方から何らかの役割を期待されたり、頼りにされているか
(7)助け合い
問 48 心配事や愚痴を聞いてくれる人 問 49 心配事や愚痴を聞いてあげる人 問 50 看病や世話をしてくれる人 問 51 看病や世話をしてあげる人 問 52 何かあった時に相談する相手 問 53 友人・知人と会う頻度 ★問 54 条件が合えば手伝えること ★問 55 手伝ってほしいこと
(8)健康管理・予防
問 56 健康状態(主観的健康感) 問 57 現在の幸福度 問 58 この1か月で気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあるか 問 59 この1か月で物事に興味がわかない、楽しめないことがあったか 問 60 喫煙習慣の有無 問 61 現在治療中又は後遺症のある病気 ★問 62 「フレイル」の認知度 ★問 63 フレイルチェックの利用意向 ★問 64 短期集中サービスの利用意向
(9)認知症
問 65 認知症の症状の有無、家族に認知症の症状がある人がいるか 問 66 認知症に関する相談窓口の認知度 ★問 67 認知症施策として進める必要があること

調査3 要介護・要支援認定者調査

① 調査の目的

要介護・要支援認定を受けた地域の高齢者の生活実態、生活状態の課題やニーズを把握する。

本調査は、第8期計画策定の際に実施した「介護保険在宅サービス調査」、「介護保険施設・居住系サービス利用者調査」、「介護保険未利用者調査」の3調査を統合したものであり、調査の中で区分して集計・分析を行い、施策の参考とする。

② 調査項目

★:新規に追加した項目

(1)基本属性	
記入不可の理由	
問1 調査票の記入者	
問2 性別	
問3 年齢	
問4 居住地区	
問5 居住形態	
問6 家族構成	
問7 現在の介護度	
(2)医療の状況	
問8 かかりつけ医の有無	
問9 かかりつけ歯科医の有無	
問10 かかりつけ薬局の有無	
★問11 在宅医療の利用の有無	
★問12 現在治療中、または後遺症のある病気	
(3)今後の希望	
問13 長期療養が必要になった場合に、人生の最期を迎えたい場所	
問13-1 在宅での最期の実現可能性	
問13-2 在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由	
★問13-3 在宅療養を継続するための対応方法	
問14 延命治療についての希望	
問15 今後の希望について家族等へ意向を伝えているか	
問15-1 今後の希望についての意向の伝え方	
問15-2 今後の希望についての意向を伝えていない理由	
(4)介護保険サービスの利用状況	
問16 介護保険サービスの利用の有無	
問16-1(1) 現在利用しているサービス	
問16-1(2) 今後増やしたい、利用したいサービス	
★問16-1(3) 利用したいが利用できないサービス	
問16-2① 利用者負担額が高額になった人への軽減制度の認知度	
問16-2② 施設サービスが高額になった人への軽減制度の認知度	
問16-2③ 生計困難者等に対する利用者負担の軽減制度の認知度	
問16-3 介護保険サービス利用による生活環境の変化	
問16-4 ケアプランへの希望の反映状況	
問16-5 ケアマネジャーの満足度	
問16-6 サービスの満足度	
問17 介護サービス利用についての考え	
問18 必要なサービス、手助け	

第1章 調査概要

(4)介護保険サービスの利用状況(続き)	
問 19	介護保険外サービスの利用の有無
問 19-1	利用している介護保険外サービス
問 20	増大する高齢者福祉サービスへの対応方法
(5)日常生活	
★問 21	健康状態(主観的健康感)
★問 22	現在の幸福度
★問 23	使用している情報通信機器
★問 24	情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向
★問 25	コロナ禍による生活の変化
(6)認知症、権利擁護	
問 26	認知症で心配なこと
問 27	成年後見制度について
問 28	日常生活自立支援事業の認知度
★問 29	高齢者虐待の有無
(7)介護保険制度	
問 30	地域包括支援センターの認知度
問 31	今後地域で暮らしていくために必要だと思うこと
(8)介護者への質問(介護者がいる人のみ)	
★問 32	介護をしている方の有無
問 33	主に介護をしている方の性別
問 34	主に介護をしている方の続柄
問 35	主に介護をしている方の年齢
問 36	主に介護をしている方の居住地
問 37	介護している期間
問 38	一日の介護時間
問 39	認知症の診断
問 40	介護・看護・世話が必要な家族
問 41	介護する上で大変なことや困っていること
問 42	西東京市の介護者支援策で必要なこと

調査 4 在宅介護実態調査

① 調査の目的

主に在宅で要介護・要支援認定を受けている方を対象として、在宅での介護の状況を調査し、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスのあり方を検討する。

調査結果は要介護認定データ等と連携して分析する「接続方式」で行い、在宅療養や認知症ケアの施策の参考とする。

② 調査項目

A 票 [調査対象者(本人)の状況]
回答記入者 問 1 世帯類型 問 2 家族・親族からの介護の頻度 問 3 主な介護者の本人との関係 問 4 主な介護者の性別 問 5 主な介護者の年齢 問 6 主な介護者が行っている介護 問 7 介護者の介護のための離職の有無 問 8 介護保険外の支援・サービスの利用状況 問 9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス 問 10 施設等への入所・入居の検討の状況 問 11 本人が抱えている傷病 問 12 訪問診療の利用の有無 問 13 介護保険サービス(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外)利用の有無 問 14 介護保険サービス未利用の理由
B 票 [主な介護者の状況]
問 1 主な介護者の勤務形態 問 2 主な介護者の働き方の調整の状況 問 3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援 問 4 主な介護者の就業継続の可否に係る意識 問 5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

※接続方式(認定データとの連結による分析)で行う。

調査5 介護保険サービス事業者調査

① 調査の目的

市内の介護保険サービス事業者について、今後の事業展開、事業課題、市への意見や要望等、主に意向について把握し、介護保険制度の適切な運営に向けた方策を検討する。

② 調査項目

★:新規に追加した項目

(1)サービスの提供状況
問1 提供している介護保険サービス 問2 提供している介護保険外サービス ★問3 勤務形態別職員数
(2)事業の運営状況
問4 事業運営上で困難に感じていること 問5 職員の充足状況 ★問6 職員の就職・離職状況 ★問7(1) 現在行っている人材確保の取組 ★問7(2) 今後行いたい人材確保の取組 ★問8 特に確保が困難な職種 ★問9 実施している早期離職防止や定着促進策 問10 キャリア形成支援のために行っている研修や資格取得支援 問11 医療的ケアへの対応状況 問12 医療機関との連携で取り組んでいること 問13 医療機関との連携における課題 ★問14 新型コロナウイルス感染症のサービス提供への影響 ★問15 コロナ禍での取組の工夫
(3)サービスの質の向上への取組
★問16 第三者評価の実施経験 ★問17 第三者評価の実施予定 問17-1 実施予定がない理由 問18(1) サービス向上に向けた現在の課題 問18(2) サービス向上に向けた今後の取組 問19 利用者の自立支援を意識したサービス提供の実施状況 ★問20 介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービス提供の有無 ★問20-1 介護予防・日常生活支援総合事業の課題 問21 今後のサービス提供の見通し ★問22 ICT機器や介護ロボット等の活用状況 ★問22-1 ICT機器の活用状況 ★問22-2 介護ロボットの活用状況 ★問22-3 ICT機器や介護ロボット等の活用意向がない理由 ★問23 LIFE(科学的介護情報システム)への登録・活用状況 ★問23-1 LIFE(科学的介護情報システム)を活用する場面 問24 外国人の人材受入の意向 問24-1 外国人の人材受入の意向がない理由
(4)職員の処遇
問25 前年比の収支状況 問25-1 前年比の収支変化の理由 問26 各種手当の引き上げ、新設 問27(1) 処遇全般の改善策 問27(2) 教育・研修の改善策 問27(3) 職場環境の改善策 問28 職員の処遇改善を行う上での課題

(5)地域生活課題の状況
★問 29 利用者支援の側からみた地域課題 ★問 30 地域課題解決のために必要なこと
(6)西東京市への要望
問 31 保険者としての西東京市に望むこと 問 32 介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきこと

調査6 介護支援専門員調査

① 調査の目的

市内に事業所を設置し、市内在住の高齢者の居宅介護計画(ケアプラン)を作成している介護支援専門員について、業務全般の考え方、医療と介護の連携状況、研修参加等のスキルアップの状況や意向等を把握し、今後のケアマネジメントや介護保険サービスの充実に役立てる。

② 調査項目

★:新規に追加した項目

(1)基本属性
問 1 性別 問 2 年齢 問 3 勤務形態 問 4 経過年数 問 5 介護支援専門員以外の資格
(2)事業所について
問 6 西東京市内の利用者の割合 問 7 その他の介護保険サービスの運営の有無 問 7-1 運営している介護保険サービス ★問 8 新型コロナウイルス感染症のサービス提供への影響 ★問 9 新型コロナウイルス感染症によるモニタリングへの影響の有無 ★問 10 新型コロナウイルス感染症による利用者のサービス利用の変化
(3)ケアマネジメント について
★問 11 ケアマネジメントする上で困難を感じること 問 12 困難ケースへの対応方法 問 13 自立支援に向けたケアプランの作成が十分にできているか ★問 14 認知症の人のケアプランの作成が十分にできているか 問 15(1) 量的に不足しているサービス 問 15(2) 組み入れにくいサービス ★問 16 西東京市のケアマネジメントの特徴 ★問 17 LIFE(科学的介護情報システム)活用の有無 ★問 17-1 LIFE(科学的介護情報システム)を活用することで役に立ったこと ★問 18 AIの活用に対する意見
(4)介護保険外サービス
問 19 介護保険外サービスをケアプランに加えたことがあるか 問 19-1 ケアプランに加えた市の高齢者福祉サービス 問 19-2 ケアプランに加えた市の高齢者福祉サービス以外のサービス 問 20(1) 量的に不足している市の高齢者福祉サービス 問 20(2) 量的に不足している市の高齢者福祉サービス以外のサービス

第1章 調査概要

(5)スキルアップ
問 21 1年以内の研修や講習会への参加の有無 問 22 今後参加してみたい研修や講習会 問 23 医学的な情報の把握 問 24 関係機関、職種との連携状況 問 25 在宅療養で不足している機能 ★問 26 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の実践 ★問 27 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を進める上で必要なこと
(6)地域包括支援センター
★問 28 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務受託の有無 ★問 29 介護予防支援・介護予防ケアマネジメントに関して望むこと 問 30 これからの地域包括支援センターに期待すること
(7)西東京市への要望
問 31 保険者(西東京市)との連携状況 問 32 介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきこと ★問 33 西東京市の認知症施策で充実すべきこと 問 34 西東京市の介護保険制度についての意見・要望

調査7 医療機関調査

① 調査の目的

「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」(医療介護総合確保法)を踏まえて、医療機関側からみた在宅療養支援の実態や課題等を把握する。

② 調査項目

★:新規に追加した項目

(1)医療機関の現況
問1 記入者の職種 問2 医療機関の種類 問3 在宅医療実施に対する考え方 問4 在宅医療を実施する上での課題 ★問5 コロナ禍でのサービス提供への影響
(2)在宅医療の取組状況(病院以外)
問6(1) 一般診療所の在宅医療の実施状況(令和4年11月1日現在) 問6(2) 歯科診療所の在宅医療の実施状況(令和4年11月1日現在) 問6(3) 薬局の在宅医療の実施状況(令和4年11月1日現在) 問7 令和4年10月の1か月間における在宅医療患者数 問7-1 さらに対応できる在宅医療患者数 問8 在宅医療を行う区域や距離の設定 問9 在宅医療を行う時間帯の設定
(3)医療と介護の連携
問10 医療と介護の連携状況 問10-1 医療と介護の連携方法 問10-2 連携が不十分だと思う理由 問11 患者に関わる関係機関、職種との連携状況 ★問12 認知症の人の受診・治療にあたり困ること ★問13 認知症の人の治療にあたり連携している機関 ★問14 認知症の人も含めた医療職と介護職の連携のために充実すべきこと 問15 在宅療養連携支援センターの認知度 ★問16 在宅療養連携支援センターに期待すること 問17 医療と介護の連携についての意向
(4)看取り
★問18 1年間(令和3年11月1日から令和4年10月31日)に、在宅で看取った人数 ★問19 在宅での看取りが可能な条件 ★問20 在宅での看取りに関する課題等 ★問21 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の実践 ★問22 ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を進める上で必要なこと ★問23 地域包括ケアシステム構築に向けた課題 ★問24 西東京市の在宅医療・介護連携や介護保険制度についての意見・要望

3 報告書の見方

(1)集計結果の表記方法

- ・ 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN、それ以外の場合にはnと表記している。
- ・ %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも100%にならない場合がある。
- ・ 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は100%にならない。複数回答のグラフ、表については、原則、高い順に並び替えている。順番に意味がある場合には選択肢順となっている。
- ・ 性別、年代別の集計結果などでは、無回答を除いているため、合計が全体とは一致しない。全体は、性別、年代やそれらの無回答者を足し合わせたものである。また、複数回答の設問では、すべての回答比率を合計しても100%にならない場合がある。
- ・ 本文、グラフ、表の選択肢の表現は一部省略されている場合がある。
- ・ 本報告書における「圏域」は日常生活圏域を指し、これと地域包括支援センター及びその担当地域の関係は次のとおりである。

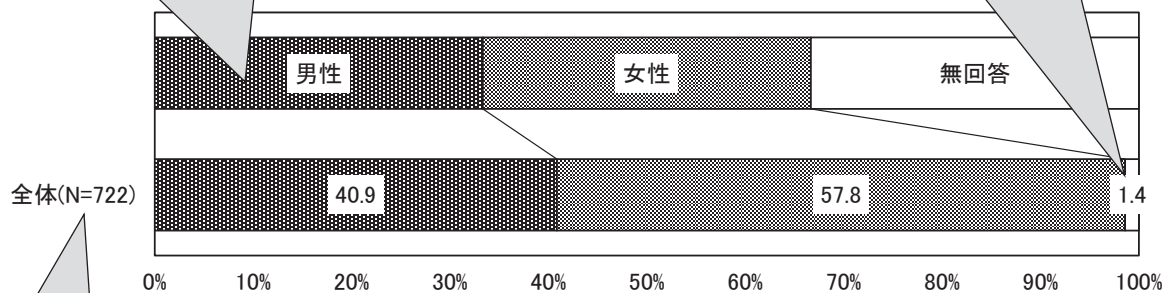
圏域	地域包括支援センター名	担当地域名
中部圏域	田無町地域包括支援センター	田無町
		保谷町
	泉町地域包括支援センター	北原町
		泉町
		住吉町
南部圏域	新町地域包括支援センター	新町
		柳沢
		東伏見
	向台町地域包括支援センター	南町
		向台町
西部圏域	西原町地域包括支援センター	西原町
		芝久保町
	緑町地域包括支援センター	緑町
		谷戸町
		ひばりが丘
北東部圏域	富士町地域包括支援センター	東町
		中町
		富士町
	栄町地域包括支援センター	ひばりが丘北
		北町
		栄町
		下保谷

(2) グラフ・表の見方

① 単数回答(「1 つに○」形式の設問)

単数回答形式の設問は、帯グラフで表示
最上段は選択肢の凡例
ただし、選択肢が多い場合などは、見やすさを考慮して、棒グラフで表示

小数点以下第2位を四捨五入して表示しているため、合計が 99.9%や 100.1%など、100.0%とならない場合がある。

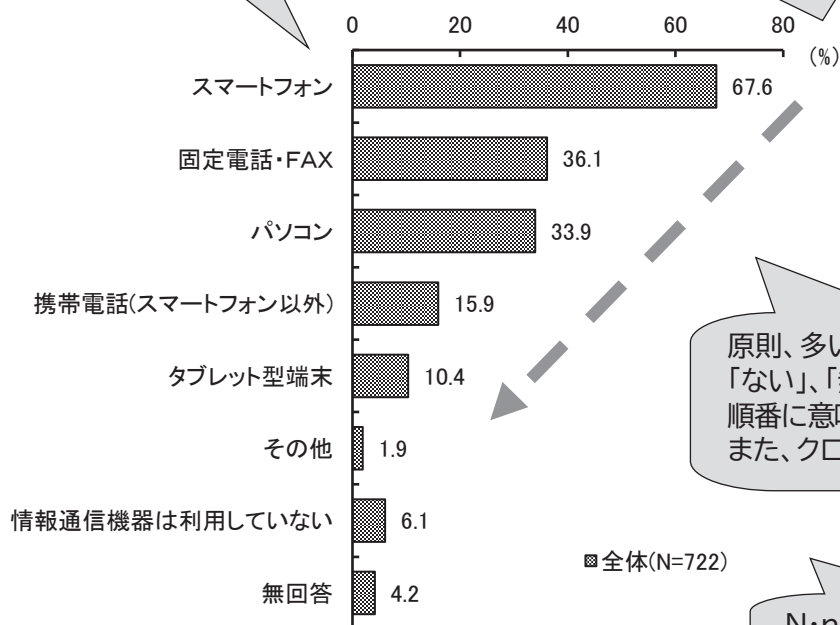


N・nは、回答者数(集計の母数)

② 複数回答(「いくつでも○」、「3つまで○」形式の設問)

複数回答設問は、棒グラフで表示

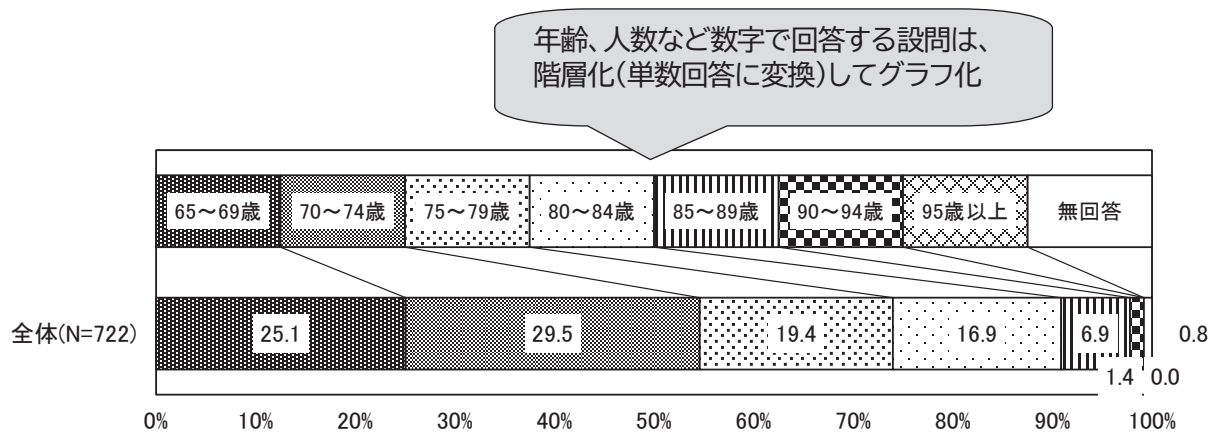
一人の回答者が複数「○」を付けられるため、割合の合計値が100%を超える。



原則、多い順に並び替え(「その他」、「ない」、「無回答」以外)
順番に意味がある場合は、選択肢順
また、クロス集計は選択肢順

N・nは、回答者数
棒グラフでは、原則右下に表示

③ 数量(年齢、人数など数値で回答する設問)



(3)在宅介護実態調査(調査 4)の集計について

在宅介護実態調査は、要介護認定データとの「接続方式」で実施している。

単純集計については、基本的に調査票(A票・B票)の構成通りとし、全員を対象に分析を行った。

クロス集計については、認定データとの連結に同意した方を対象に、認定データから得られる現在のサービスの利用状況、要介護度、認知症日常生活自立度等に本人や家族等介護者の生活状況を合わせた分析を行い、「要介護者の在宅生活の継続・介護者の就労継続」、「支援・サービスの提供体制の検討」等に向けた視点からのクロス集計を加え、A票・B票の調査結果に加え、とりまとめた。

よって、単純集計とクロス集計については、分析対象数が異なっている。また、クロス集計については、国の分析ツールを利用したため、「無回答」の表示方法など、分析項目が、一部単純集計と異なっているものがある。

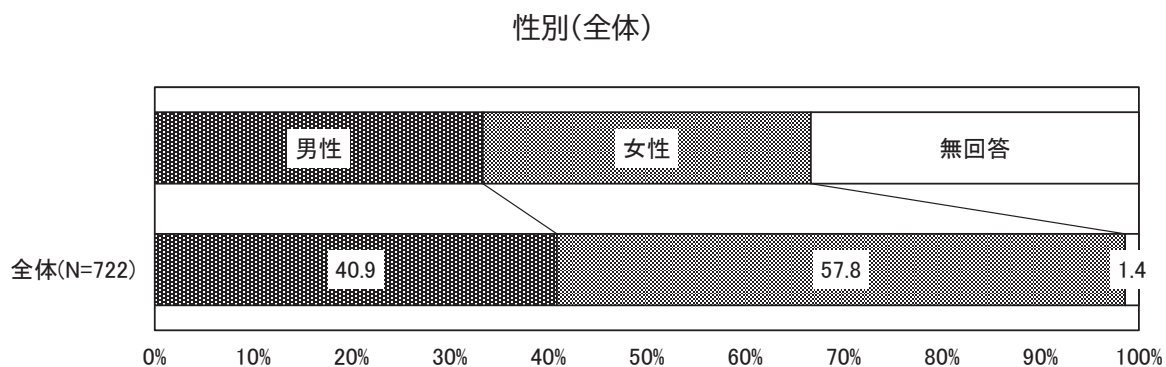
第2章 調査結果

1 高齢者一般調査

(1)基本属性

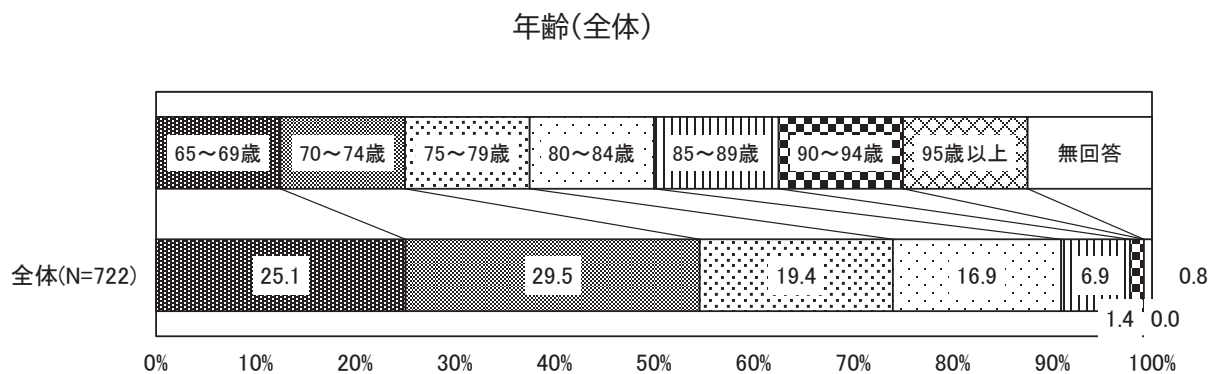
① 性別(問1)

性別は、「男性」が40.9%、「女性」が57.8%となっている。



② 年齢(問2)

年齢は、前期高齢者(65～74歳)が54.6%、後期高齢者(75歳以上)が44.6%となっている。

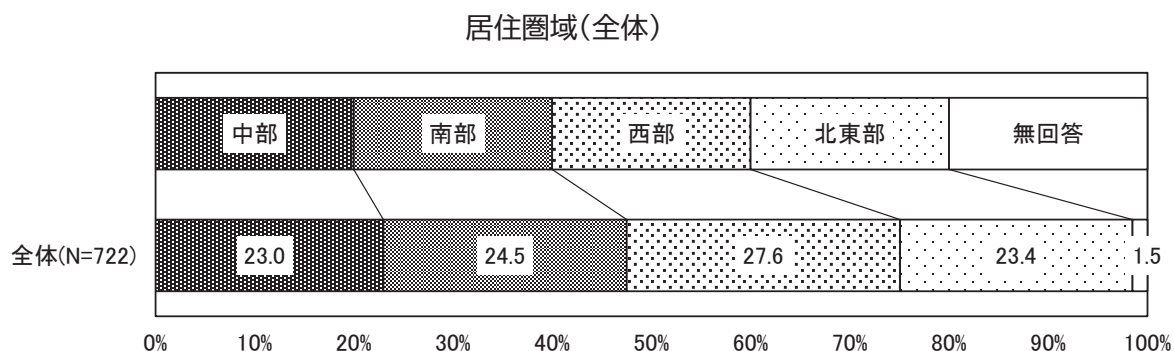
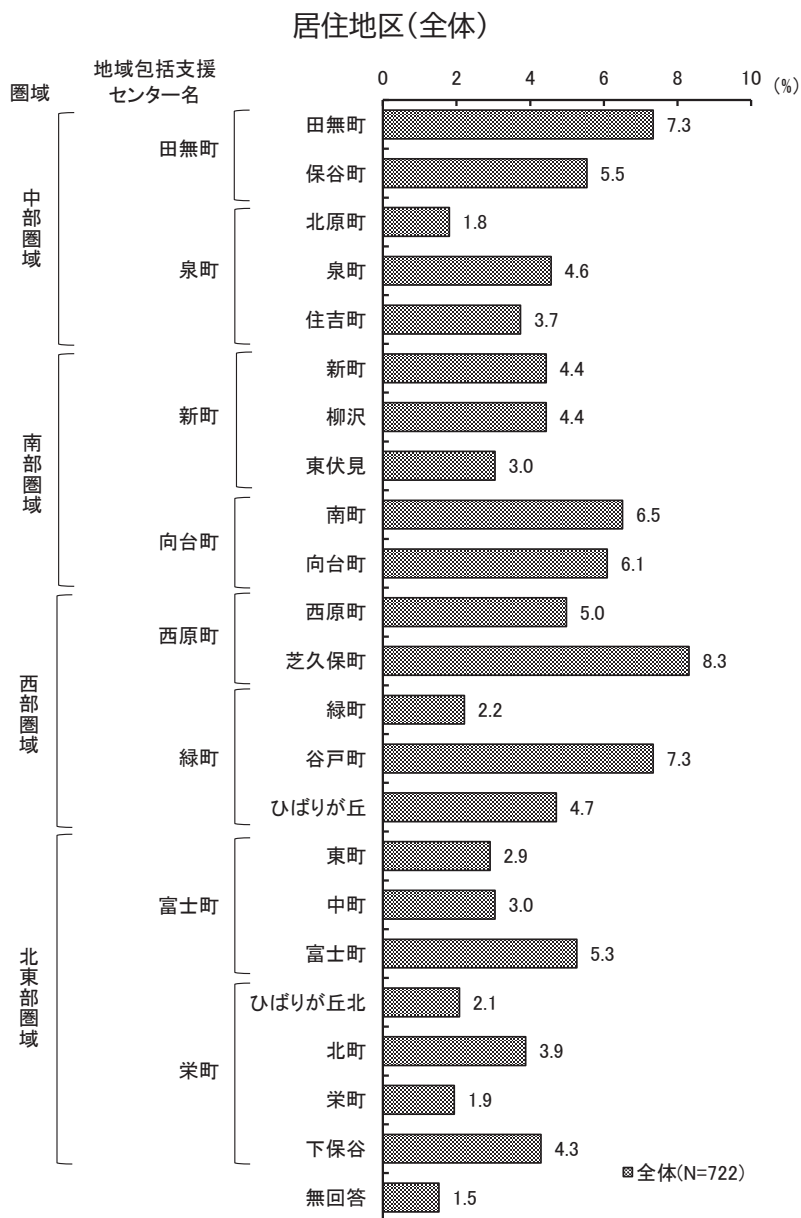


第2章 調査結果

③ 居住地区(問3)

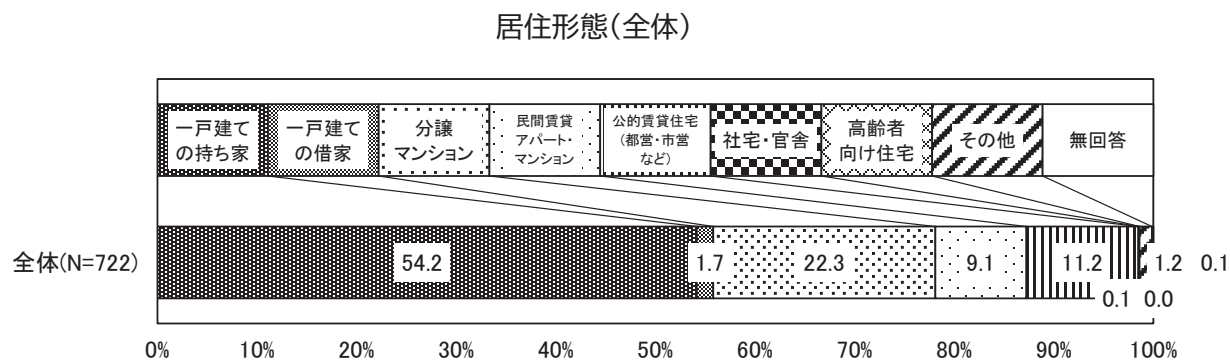
居住地区は、「芝久保町」(8.3%)が最も高く、「田無町」、「谷戸町」(7.3%)の順で続いている。地域包括支援センター区域ごとにみると、緑町地域包括支援センター区域が14.2%で最も高い。

圏域でみると、「西部」(27.6%)が最も高く、「南部」(24.5%)、「北東部」(23.4%)、「中部」(23.0%)の順で続いている。



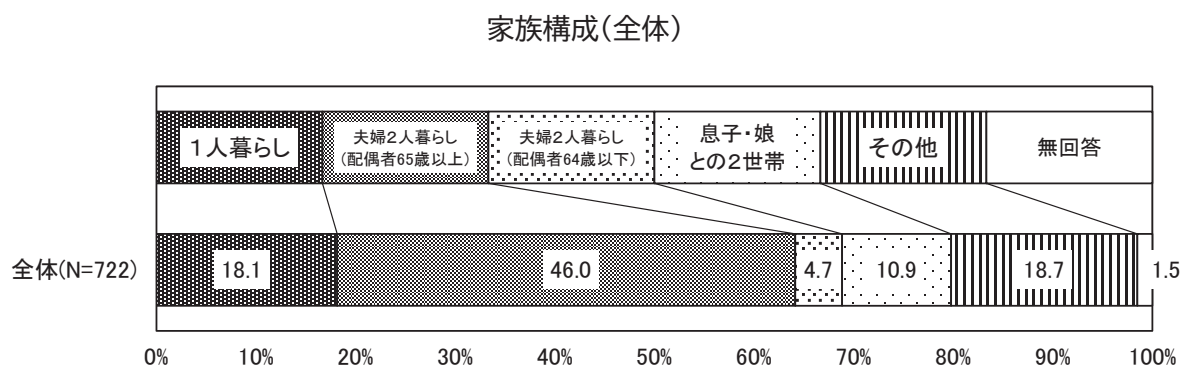
④ 居住形態(問 4)

居住形態は、「一戸建ての持ち家」(54.2%)が半数を超え最も高く、「分譲マンション」(22.3%)、「公的賃貸住宅(都営・市営など)」(11.2%)の順で続いている。



⑤ 家族構成(問 5)

家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」(46.0%)が最も高く、「1人暮らし」(18.1%)、「息子・娘との2世帯」(10.9%)の順で続いている。



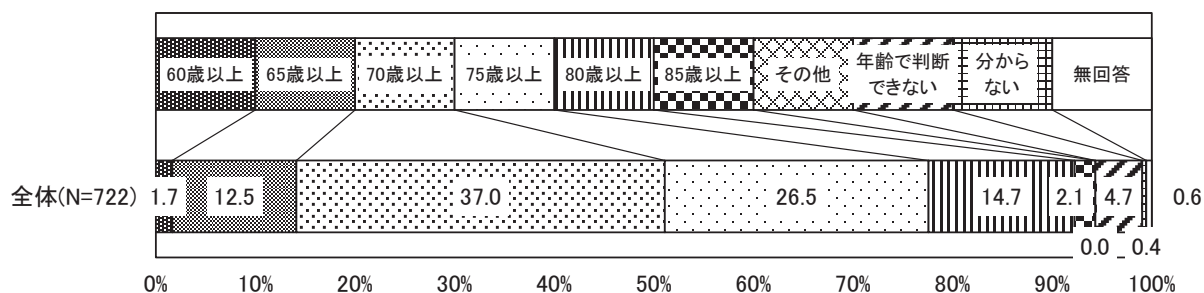
(2)日頃の生活

① 何歳からが高齢者と考えているか(問 6)

何歳からが高齢者と考えているかは、「70歳以上」が37.0%、「75歳以上」が26.5%であり、高齢者は、70歳以上であると考えている人が過半数となっている。

性・年代別にみると、【男女ともに65～74歳】、【女性75～84歳】では「70歳以上」が最も高く、【男性75～84歳】では「75歳以上」が最も高く、【男女ともに85歳以上】では「80歳以上」が最も高くなっている。

何歳からが高齢者と考えているか(全体)



何歳からが高齢者と考えているか(全体、性・年代別)

(人、%)

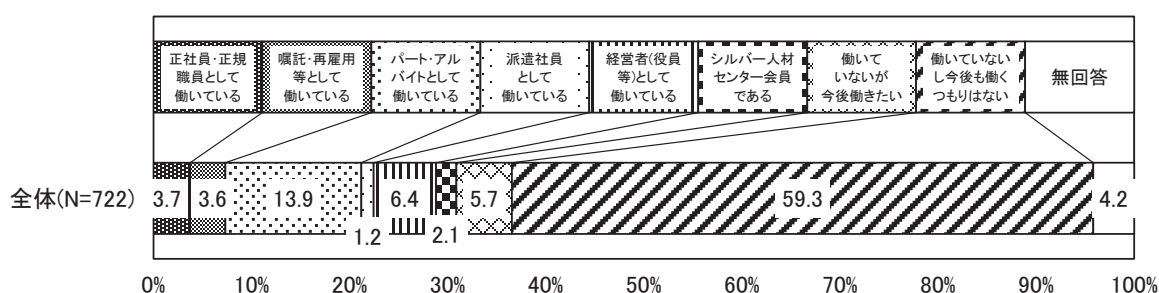
		回答者数	60歳以上	65歳以上	70歳以上	75歳以上	80歳以上	85歳以上	その他	年齢で判断できない	分からない	無回答
全体		722	1.7	12.5	37.0	26.5	14.7	2.1	0.0	4.7	0.4	0.6
性・年代別	男性-65～74歳	163	2.5	17.2	39.9	27.0	8.6	1.8	0.0	2.5	0.6	0.0
	男性-75～84歳	109	2.8	5.5	29.4	33.9	23.9	1.8	0.0	2.8	0.0	0.0
	男性-85歳以上	22	0.0	0.0	22.7	27.3	31.8	9.1	0.0	4.5	0.0	4.5
	女性-65～74歳	228	0.9	19.3	42.5	23.2	7.0	0.9	0.0	6.1	0.0	0.0
	女性-75～84歳	150	0.7	7.3	40.7	26.0	18.7	0.7	0.0	5.3	0.0	0.7
	女性-85歳以上	37	2.7	0.0	10.8	24.3	37.8	10.8	0.0	10.8	2.7	0.0

② 働いているか(問7)

働いているかは、「働いていないし今後も働くつもりはない」(59.3%)が過半数であり、働いている人では、「パート・アルバイトとして働いている」(13.9%)が最も高く、「経営者(役員等)として働いている」(6.4%)が続いている。「正社員・正規職員として働いている」から「シルバー人材センター会員である」までを合計した現在働いている割合は30.9%となっている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高いほど、現在働いている割合は低くなる。その割合は、【男性 65～74 歳】では6割弱、【男性 75～84 歳】、【女性 65～74 歳】では3割台、【男性 85 歳以上】、【女性 75～84 歳】では1割台、【女性 85 歳以上】では0%となっている。また、男性 75～84 歳では「シルバー人材センター会員である」(11.0%)が1割を超えている。

働いているか(全体)



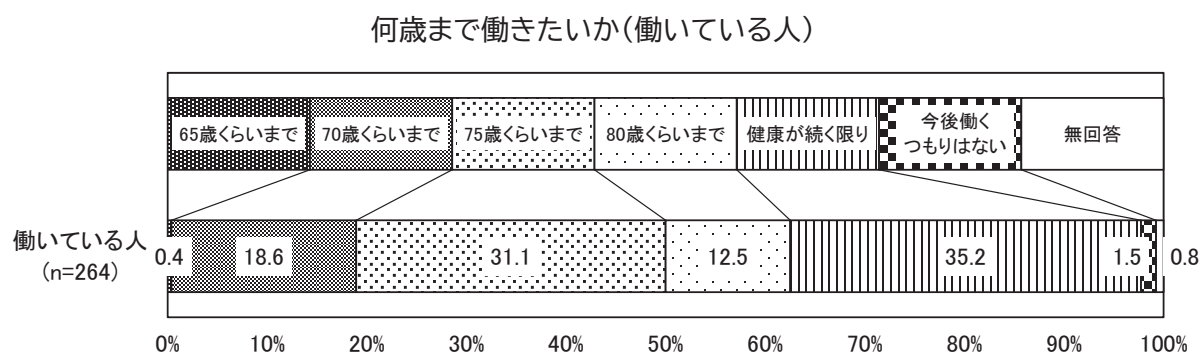
働いているか(全体、性・年代別)

		(人、%)									
		回答者数	正社員・正規職員として働いている	嘱託・再雇用等として働いている	パート・アルバイトとして働いている	派遣社員として働いている	経営者(役員等)として働いている	シルバー人材センター会員である	働いていないが今後働きたい	働いていないし今後働くつもりはない	無回答
全体		722	3.7	3.6	13.9	1.2	6.4	2.1	5.7	59.3	4.2
性・年代別	男性-65～74歳	163	12.3	10.4	17.8	1.8	16.0	0.6	6.1	34.4	0.6
	男性-75～84歳	109	1.8	1.8	7.3	2.8	5.5	11.0	7.3	58.7	3.7
	男性-85歳以上	22	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	0.0	0.0	77.3	9.1
	女性-65～74歳	228	1.8	3.1	23.2	0.4	3.5	0.4	8.3	56.6	2.6
	女性-75～84歳	150	0.7	0.0	6.7	0.7	2.0	0.7	1.3	83.3	4.7
	女性-85歳以上	37	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.7	24.3

第2章 調査結果

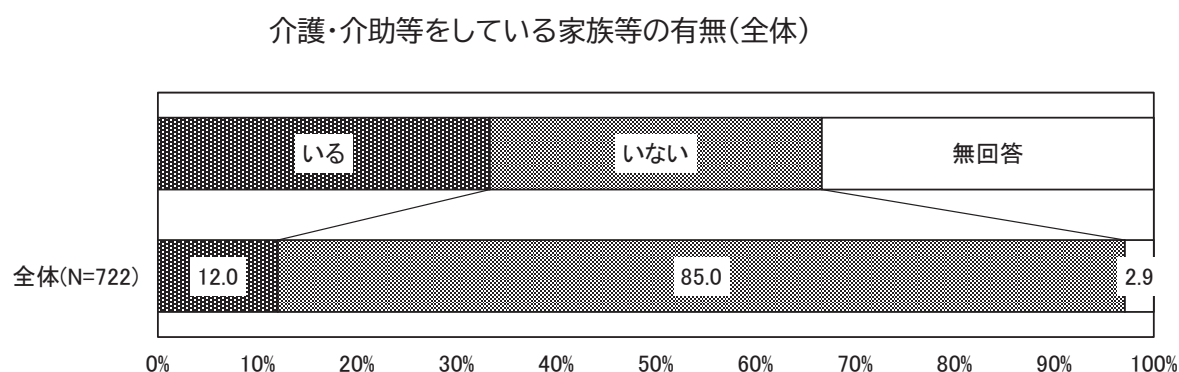
③ 何歳まで働きたいか(問 7-1)

働いている人に何歳まで働きたいかたずねたところ、「健康が続く限り」(35.2%)、「75 歳くらいまで」(31.1%)が高くなっている。



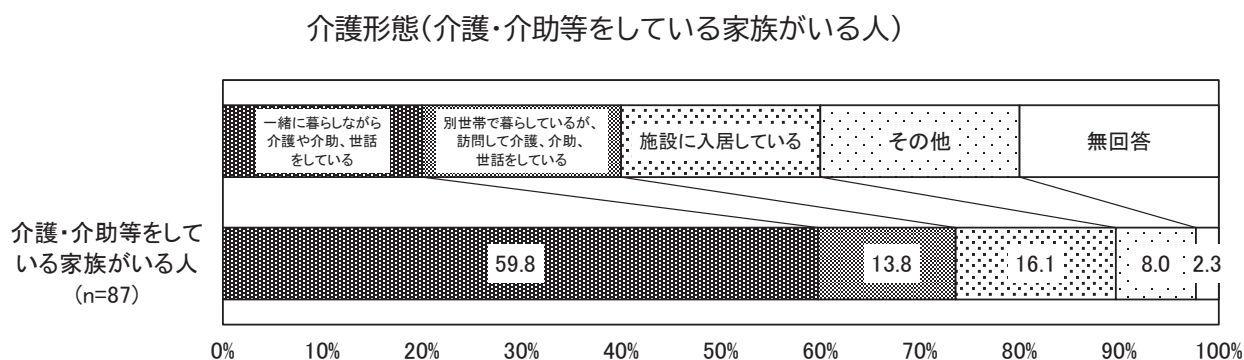
④ 介護・介助等をしている家族等の有無(問 8)

介護・介助等をしている家族等の有無は、「いる」が 12.0%となっている。



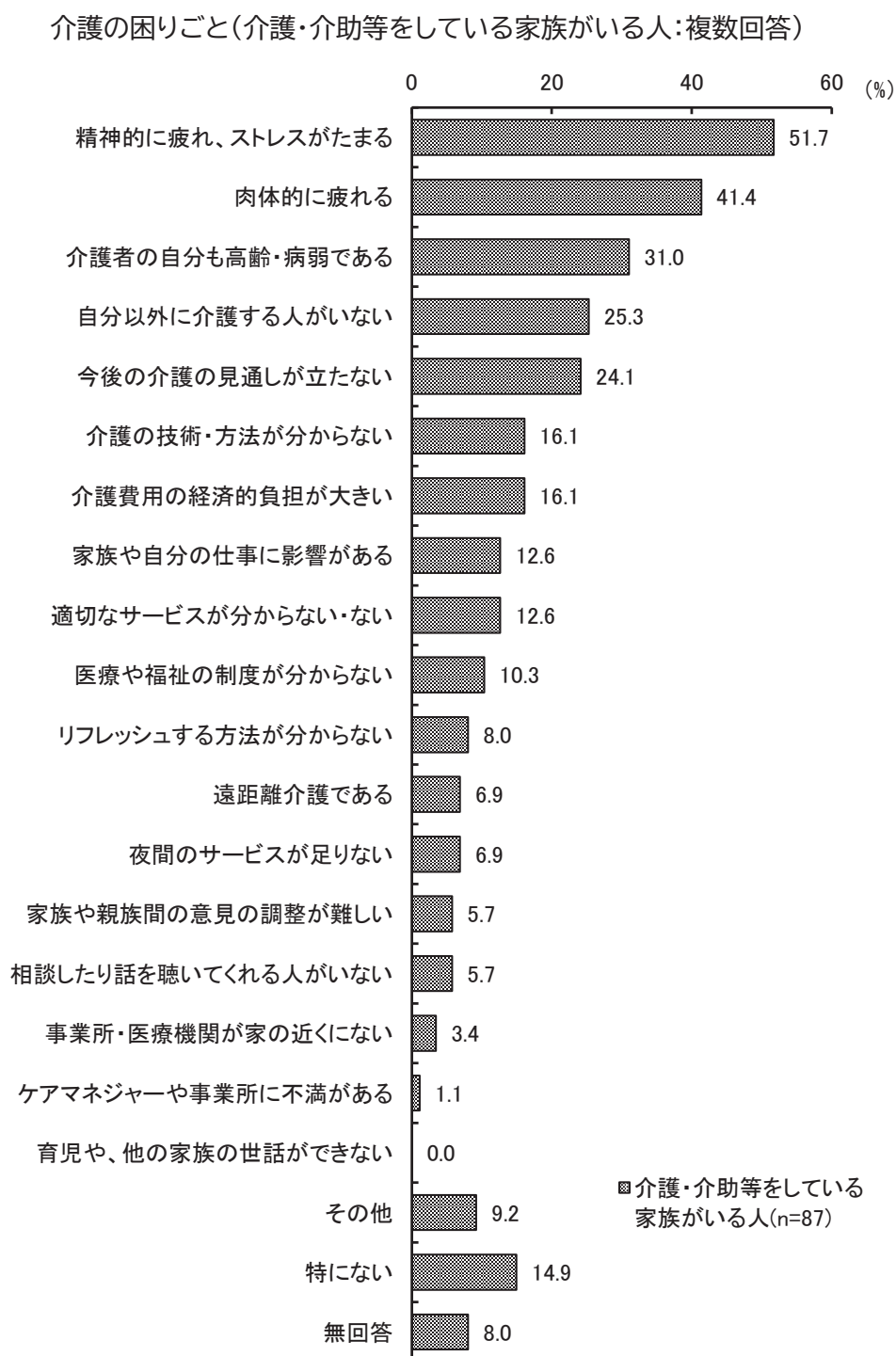
⑤ 介護形態(問 8-1)

介護・介助等をしている家族等がいる人に介護形態をたずねたところ、「一緒に暮らしながら介護や介助、世話をしている」(59.8%)が過半数であり、「施設に入居している」(16.1%)、「別世帯で暮らしながら、訪問して介護、介助、世話をしている」(13.8%)の順で続いている。



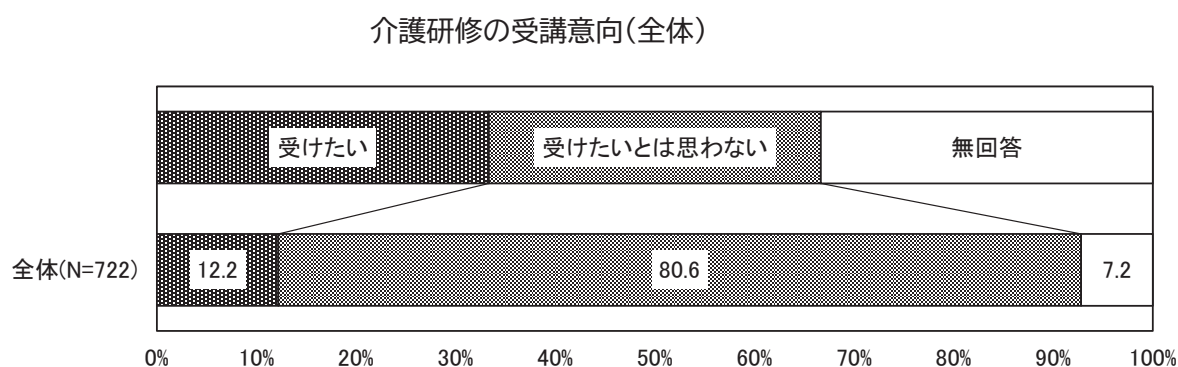
⑥ 介護の困りごと(問 8-2)

介護・介助等をしている家族がいる人に介護の困りごとをたずねたところ、「精神的に疲れ、ストレスがたまる」(51.7%)が最も高く、「肉体的に疲れる」(41.4%)、「介護者の自分も高齢・病弱である」(31.0%)、「自分以外に介護する人がいない」(25.3%)、「今後の介護の見通しが立たない」(24.1%)の順で続いている。



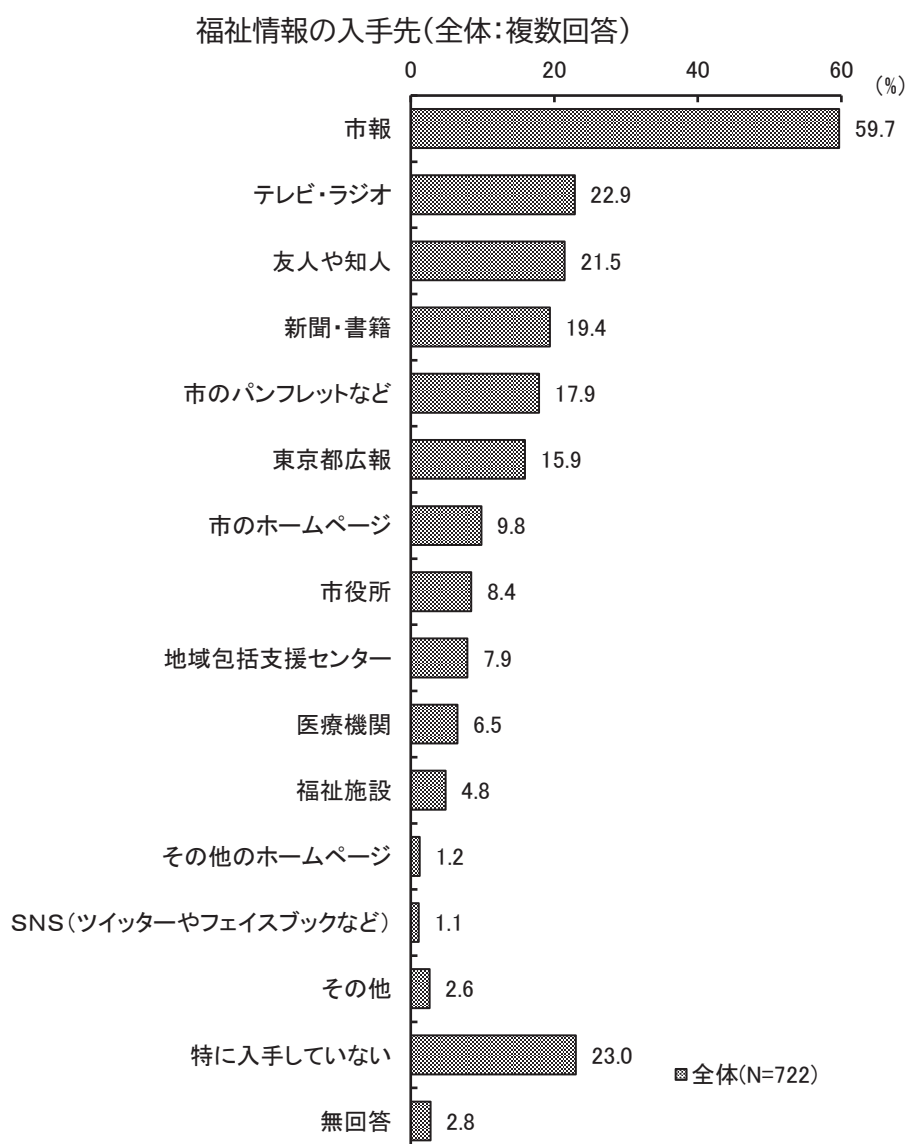
⑦ 介護研修の受講意向(問 9)

介護研修の受講意向は、「受けたい」が 12.2%となっている。



⑧ 福祉情報の入手先(問 10)

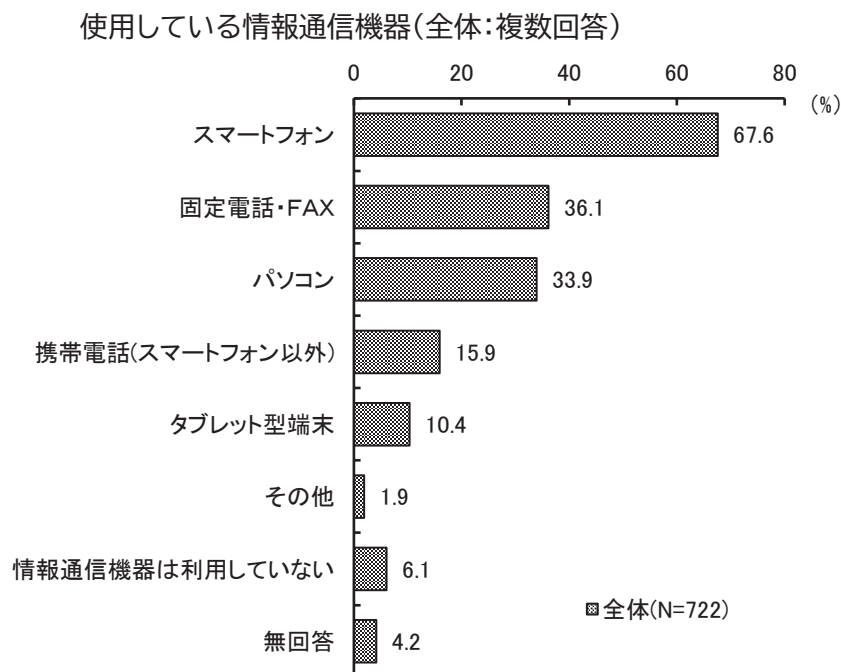
福祉情報の入手先は、「市報」(59.7%)が最も高く、「テレビ・ラジオ」(22.9%)、「友人や知人」(21.5%)の順で続いている。なお、「特に入手していない」は 23.0%となっている。



⑨ 使用している情報通信機器(問 11)

使用している情報通信機器は、「スマートフォン」(67.6%)が最も高く、「固定電話・FAX」(36.1%)、「パソコン」(33.9%)の順で続いている。

性・年代別にみると、「スマートフォン」、「パソコン」は、男女ともに年代が高いほど低くなる傾向がみられる。



使用している情報通信機器(全体、性・年代別:複数回答)

		(人、%)								
		回答者数	スマートフォン	固定電話・FAX	パソコン	携帯電話(スマートフォン以外)	タブレット型端末	その他	情報通信機器は利用していない	無回答
全体		722	67.6	36.1	33.9	15.9	10.4	1.9	6.1	4.2
性・年代別	男性-65～74歳	163	82.2	27.0	60.7	12.3	13.5	0.0	2.5	1.2
	男性-75～84歳	109	60.6	40.4	40.4	23.9	7.3	1.8	2.8	3.7
	男性-85歳以上	22	31.8	50.0	36.4	22.7	9.1	9.1	13.6	0.0
	女性-65～74歳	228	82.5	32.5	26.8	10.1	13.6	1.8	4.4	0.4
	女性-75～84歳	150	54.7	46.7	20.7	21.3	7.3	3.3	7.3	9.3
	女性-85歳以上	37	16.2	35.1	5.4	18.9	2.7	2.7	27.0	21.6

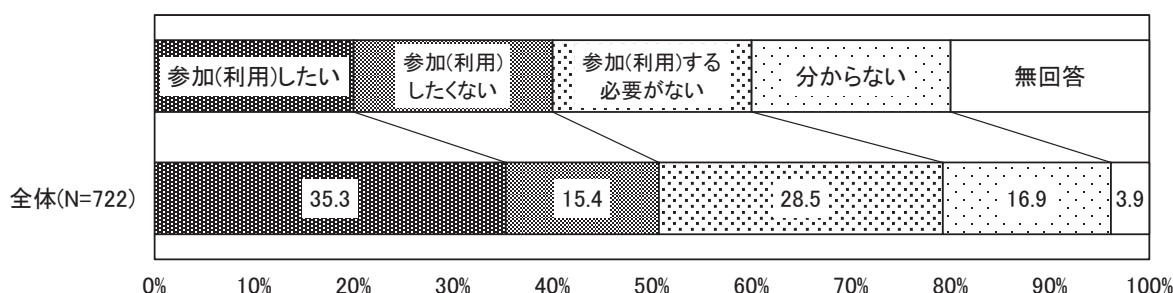
⑩ 情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向(問 12)

情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向は、「参加(利用)したい」(35.3%)が最も高く、「参加(利用)する必要がない」(28.5%)、「分からない」(16.9%)、「参加(利用)したくない」(15.4%)の順で続いている。

性・年代別にみると、「参加(利用)したくない」は、男女ともに年代が高いほど割合が高くなる傾向がみられる。「参加(利用)する必要がない」は、男女ともに年代が低いほど高率になる傾向がみられる。

家族構成別にみると、他の家族構成に比べ【夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)】では、「参加(利用)したい」(17.6%)は2割に満たず、逆に「参加(利用)する必要がない」(47.1%)では半数弱を占め、高くなっている。

情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向(全体)



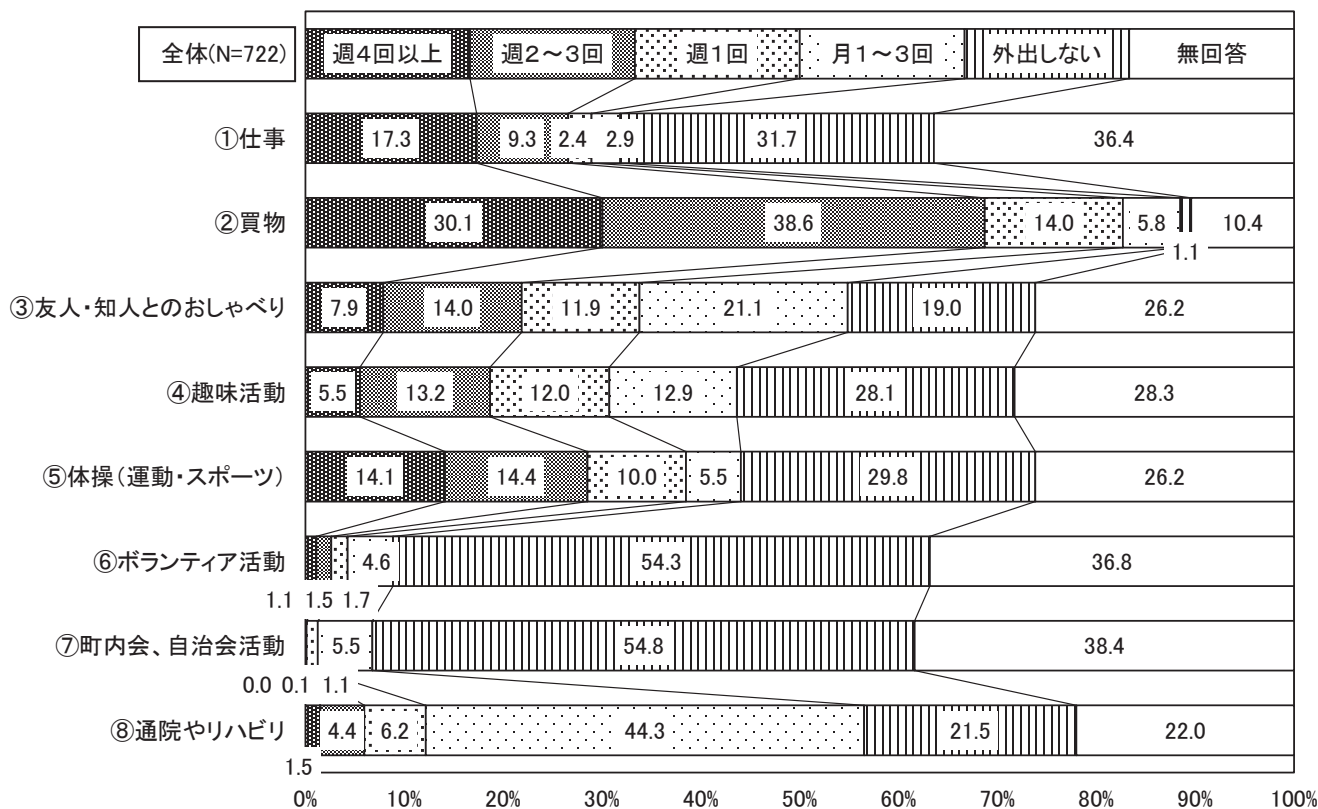
情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向(全体、性・年代別、家族構成別)

		回答者数	参加(利用)したい (%)	参加(利用)したくない (%)	参加(利用)する必要がない (%)	分からない (%)	無回答 (%)
全体		722	35.3	15.4	28.5	16.9	3.9
性・年代別	男性-65~74歳	163	27.0	14.1	39.3	17.8	1.8
	男性-75~84歳	109	44.0	15.6	26.6	12.8	0.9
	男性-85歳以上	22	40.9	22.7	22.7	13.6	0.0
	女性-65~74歳	228	34.6	12.7	29.4	20.6	2.6
	女性-75~84歳	150	38.7	16.7	24.7	12.7	7.3
	女性-85歳以上	37	29.7	24.3	10.8	16.2	18.9
家族構成別	1人暮らし	131	35.1	15.3	24.4	19.8	5.3
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	332	39.5	16.3	26.2	14.8	3.3
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	34	17.6	20.6	47.1	14.7	0.0
	息子・娘との2世帯	79	38.0	12.7	26.6	17.7	5.1
	その他	135	29.6	12.6	34.8	18.5	4.4

⑪ 外出の頻度(問 13)

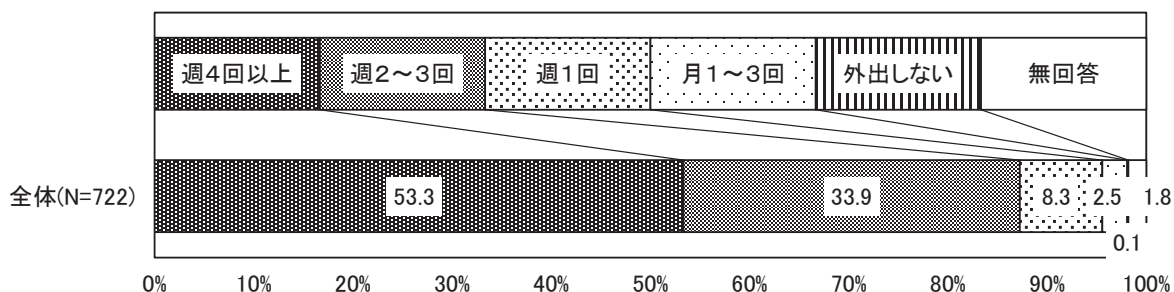
外出の頻度は、「週4回以上」と回答する割合は、『買物』(30.1%)で最も高く、『仕事』(17.3%)、『体操(運動・スポーツ)』(14.1%)の順で続いている。

外出の頻度(全体)



外出の頻度についてまとめると、①～⑧のいずれかで「週4回以上」と回答している人は53.3%となっている。

外出の頻度(①～⑧統合)(全体)



- 「週4回以上」 ①～⑧のいずれかの項目で「週4回以上」と回答
- 「週2~3回」 上記以外で、①～⑧のいずれかの項目で「週2~3回」と回答
- 「週1回」 上記2項目以外で、①～⑧のいずれかの項目で「週1回」と回答
- 「月1~3回」 上記3項目以外で、①～⑧のいずれかの項目で「月1~3回」と回答
- 「外出しない」 ①～⑧のすべての項目で「外出しない」と回答
- 「無回答」 ①～⑧のすべての項目で無回答

第2章 調査結果

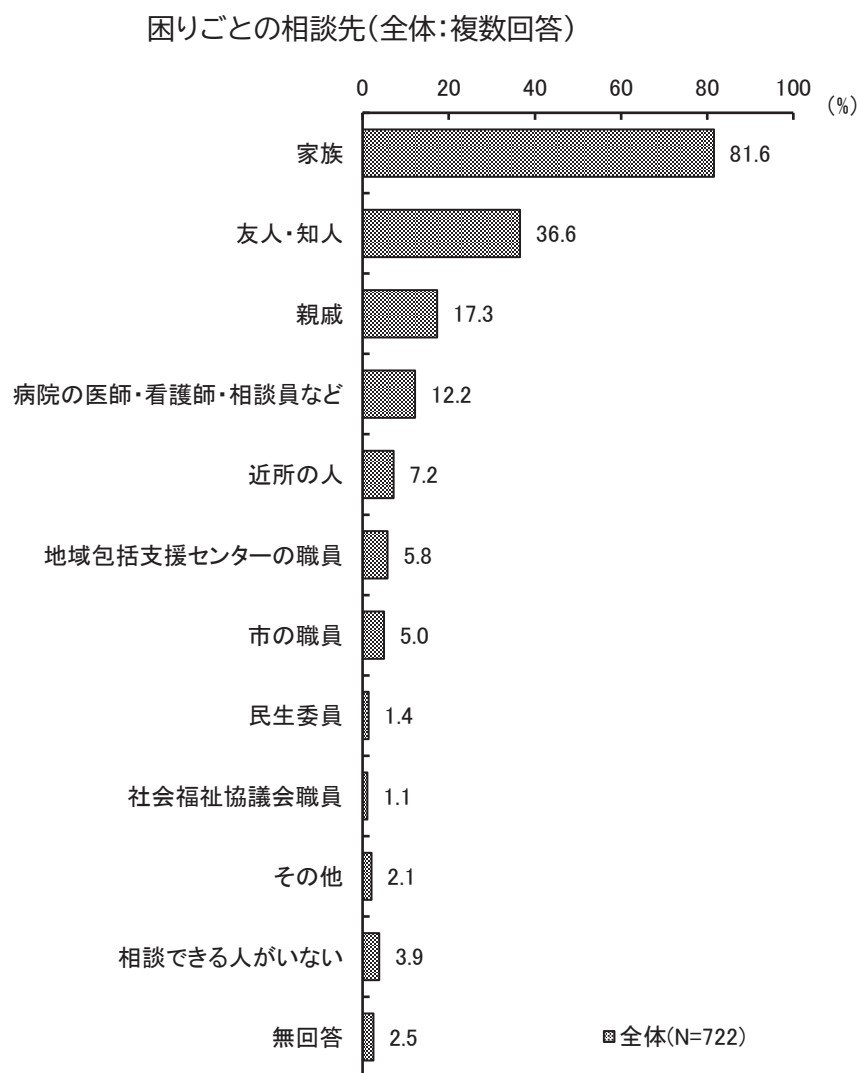
⑫ 日常生活で困っていること(問 14)

日常生活で困っていることは、「特にない」が 62.3%となっており、困っていることでは、「家具の移動」(14.3%)が最も高く、「庭の手入れ」(7.6%)、「電化製品の扱い方」(7.1%)の順で続いている。



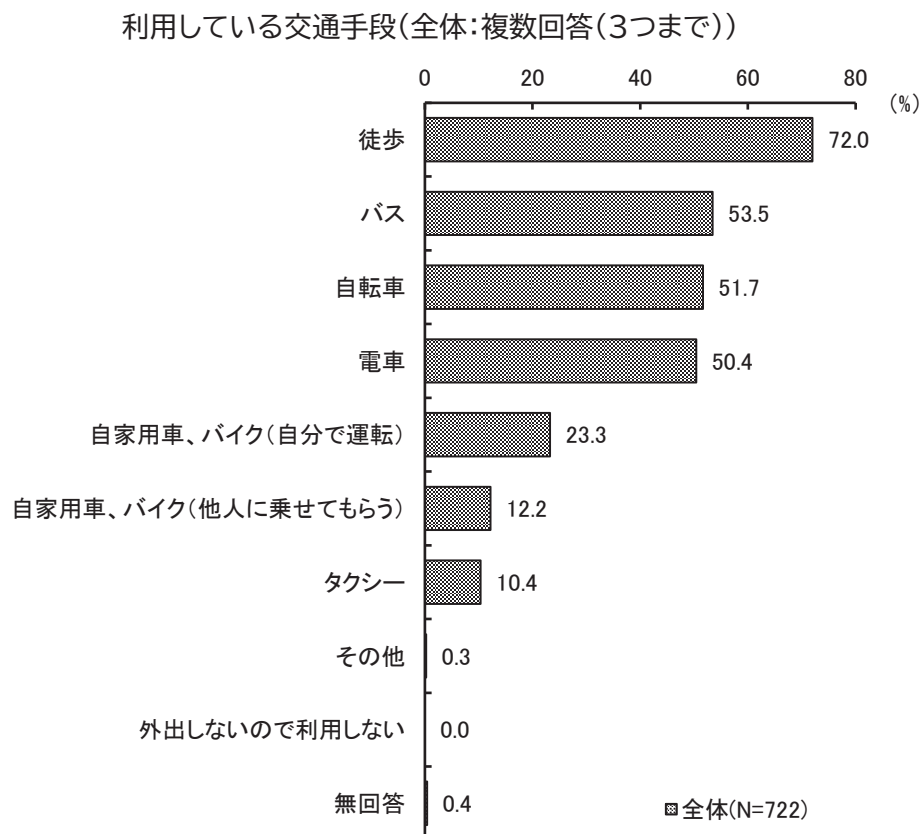
⑬ 困りごとの相談先(問 15)

困りごとの相談先は、「家族」(81.6%)が最も高く、「友人・知人」(36.6%)、「親戚」(17.3%)、「病院の医師・看護師・相談員など」(12.2%)の順で続いている。なお、「相談できる人がいない」は3.9%となっている。



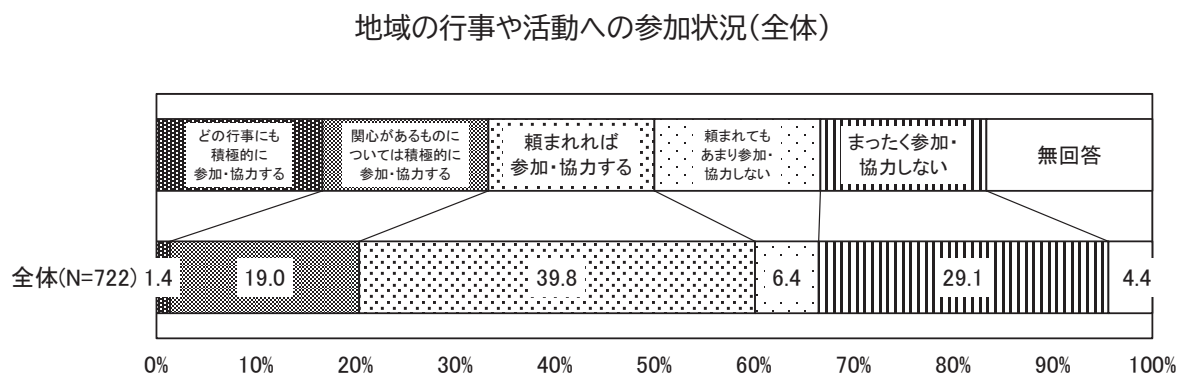
⑭ 利用している交通手段(問 16)

利用している交通手段は、「徒歩」(72.0%)が最も高く、「バス」(53.5%)、「自転車」(51.7%)、「電車」(50.4%)の順で続いている。



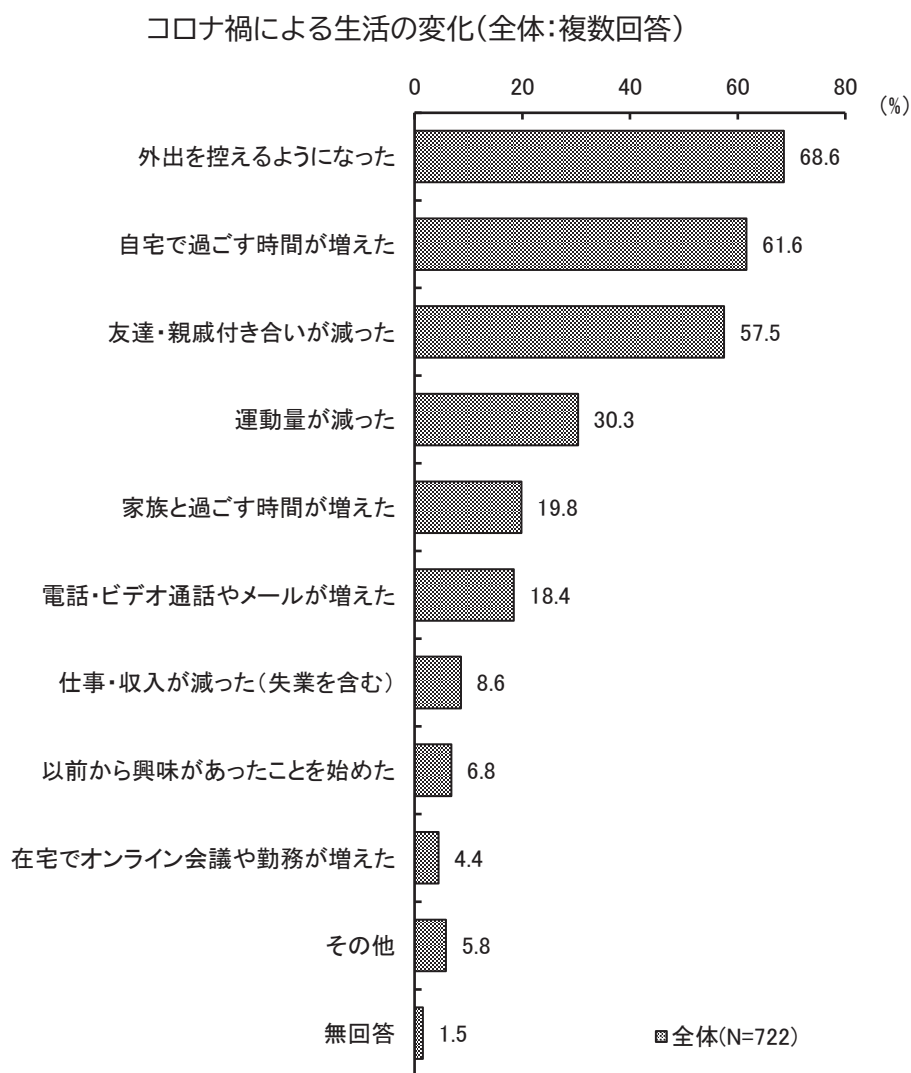
⑮ 地域の行事や活動への参加状況(問 17)

地域の行事や活動への参加状況は、「頼まれれば参加・協力する」(39.8%)が最も高く、「まったく参加・協力しない」(29.1%)、「関心があるものについては積極的に参加・協力する」(19.0%)の順で続いている。「どの行事にも積極的に参加・協力する」から「頼まれれば参加・協力する」まで合計した参加意向は、60.2%となっている。



⑩ コロナ禍による生活の変化(問 18)

コロナ禍による生活の変化は、「外出を控えるようになった」(68.6%)が最も高く、「自宅で過ごす時間が増えた」(61.6%)、「友達・親戚付き合いが減った」(57.5%)、「運動量が減った」(30.3%)の順で続いている。



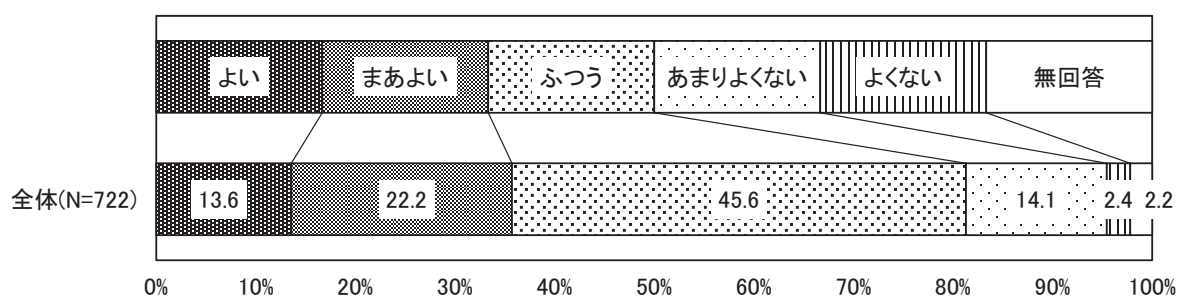
(3)健康管理

① 健康状態(主観的健康感)(問 19)

健康状態(主観的健康感)は、「よい」(13.6%)と「まあよい」(22.2%)を合計した、よいとする割合が 35.8%、「ふつう」が 45.6%、「あまりよくない」(14.1%)と「よくない」(2.4%)を合計した、よくないとする割合が 16.5%となっている。

性・年代別にみると、「よい」と「まあよい」を合計した割合は、【女性 75～84 歳】で 39.3%と高くなっている。

健康状態(主観的健康感)(全体)

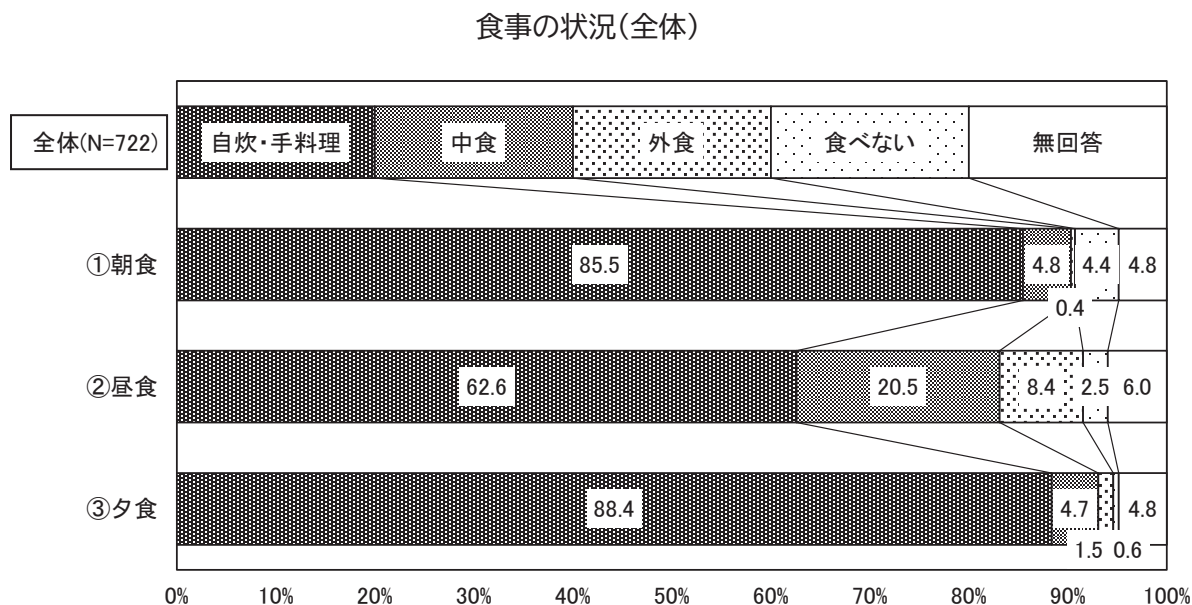


健康状態(主観的健康感)(全体、性・年代別)

		(人、%)						
		回答者数	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
全体		722	13.6	22.2	45.6	14.1	2.4	2.2
性・年代別	男性-65～74歳	163	12.9	24.5	44.8	12.9	3.7	1.2
	男性-75～84歳	109	11.0	26.6	41.3	14.7	6.4	0.0
	男性-85歳以上	22	9.1	13.6	31.8	40.9	4.5	0.0
	女性-65～74歳	228	17.1	18.0	50.9	11.0	0.4	2.6
	女性-75～84歳	150	14.0	25.3	40.0	16.7	1.3	2.7
	女性-85歳以上	37	2.7	21.6	59.5	10.8	0.0	5.4

② 食事の状況(問 20)

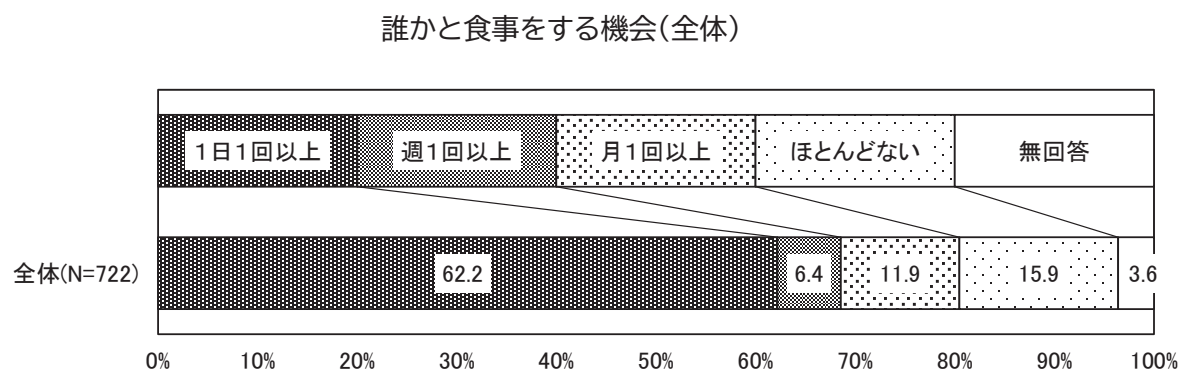
食事の状況は、朝食、夕食では「自炊・手料理」が 80%台となっている。昼食では「自炊・手料理」が 62.6%、「中食^{*}」が 20.5%、「外食」が 8.4%となっている。



※中食とは、家庭外で調理されたものを、購入もしくは配達等によって家庭内で食べること(冷凍食品、カップラーメンなどのインスタント食品を含む)。

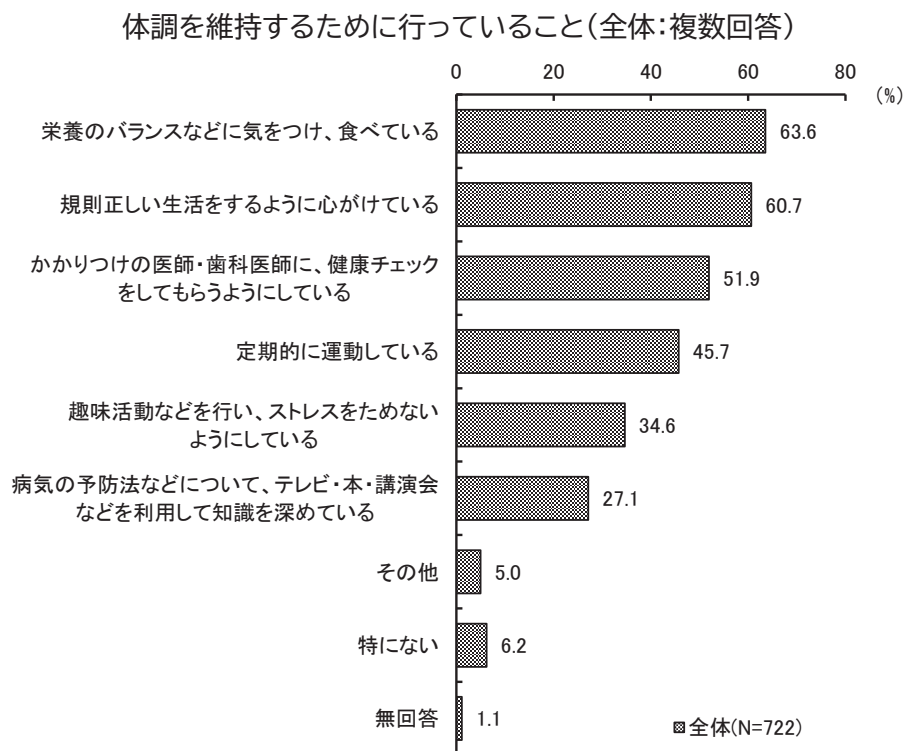
③ 誰かと食事をする機会(問 21)

誰かと食事をする機会は、「1日1回以上」が 62.2%で過半数となっており、「週1回以上」が 6.4%、「月1回以上」が 11.9%、「ほとんどない」が 15.9%となっている。



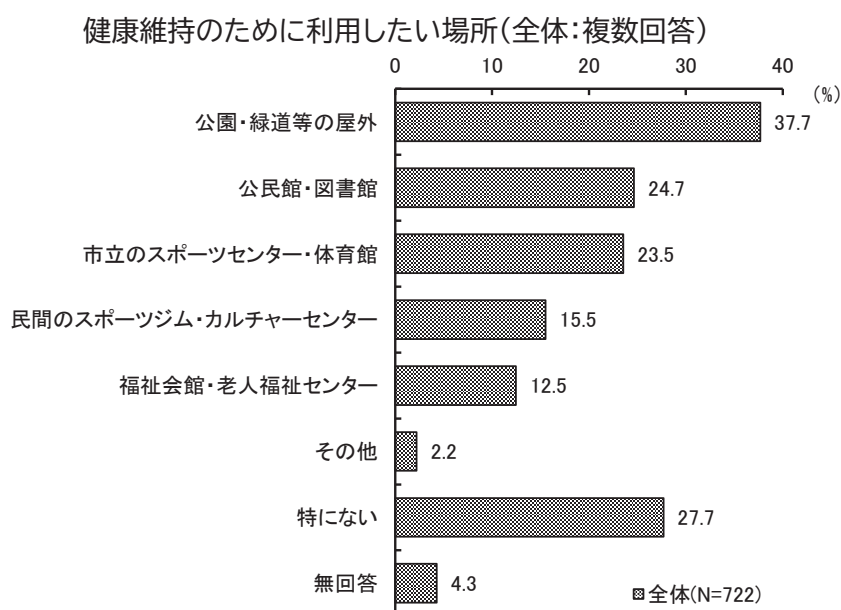
④ 体調を維持するために行っていること(問 22)

体調を維持するために行っていることは、「栄養のバランスなどに気をつけ、食べている」(63.6%)が最も高く、「規則正しい生活をするように心がけている」(60.7%)、「かかりつけの医師・歯科医師に、健康チェックをしてもらうようにしている」(51.9%)、「定期的に運動している」(45.7%)の順で続いている。



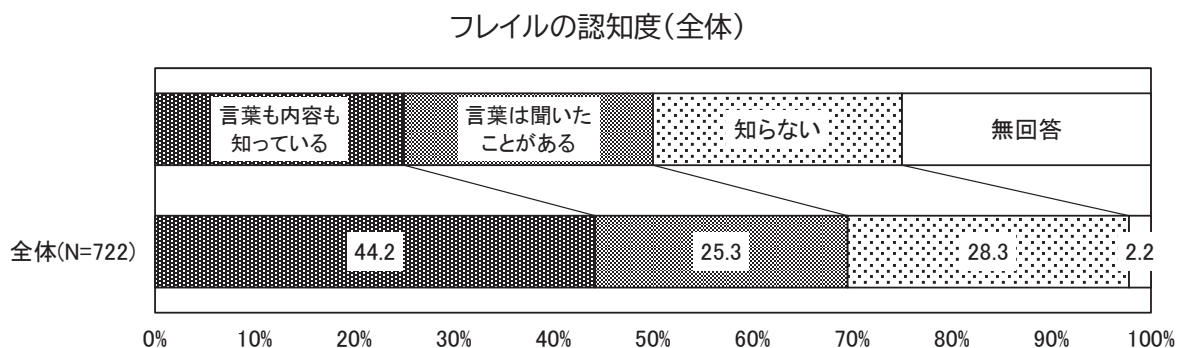
⑤ 健康維持のために利用したい場所(問 23)

健康維持のために利用したい場所は、「公園・緑道等の屋外」(37.7%)が最も高く、「公民館・図書館」(24.7%)、「市立のスポーツセンター・体育館」(23.5%)の順で続いている。なお、「特になし」は 27.7%となっている。



⑥ フレイルの認知度(問 24)

フレイルの認知度は、「言葉も内容も知っている」が 44.2%、「言葉は聞いたことがある」が 25.3%であり、合計すると 69.5%が言葉を聞いたことがある。なお、「知らない」は 28.3%となっている。

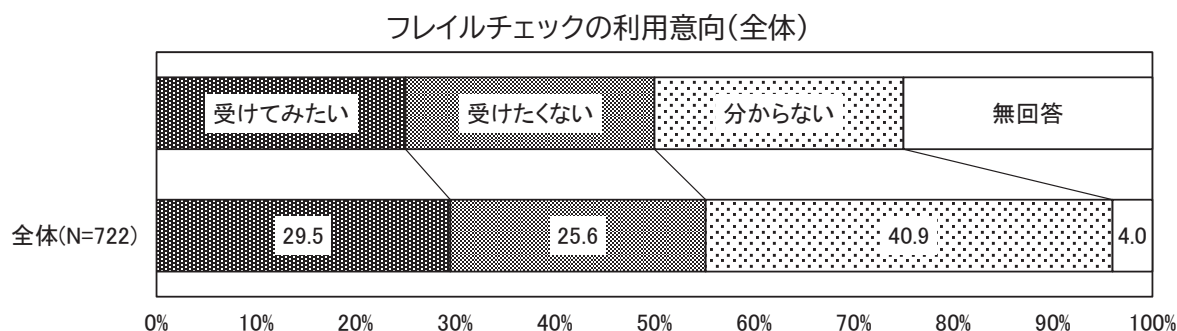


⑦ フレイルチェックの利用意向(問 25)

フレイルチェックの利用意向は、「分からない」が 40.9%、「受けてみたい」が 29.5%、「受けたくない」が 25.6%となっている。

性・年代別にみると、男女ともに 75～84 歳で「受けてみたい」が 3割台半ばで高い。

居住圏域別にみると、【中部圏域】で「受けてみたい」が 25.3%で低くなっている。



フレイルチェックの利用意向(全体、性・年代別、居住圏域別)

		(人、%)				
		回答者数	い受けてみた	い受けたくない	分からない	無回答
全体		722	29.5	25.6	40.9	4.0
性・年代別	男性-65～74歳	163	20.9	29.4	47.9	1.8
	男性-75～84歳	109	34.9	28.4	36.7	0.0
	男性-85歳以上	22	13.6	27.3	54.5	4.5
	女性-65～74歳	228	31.1	25.0	39.9	3.9
	女性-75～84歳	150	36.7	19.3	36.0	8.0
	女性-85歳以上	37	27.0	27.0	37.8	8.1
居住圏域別	中部圏域	166	25.3	25.3	46.4	3.0
	南部圏域	177	29.9	26.0	39.5	4.5
	西部圏域	199	31.7	26.1	38.2	4.0
	北東部圏域	169	29.6	26.0	40.8	3.6

⑧ 短期集中サービス※の利用意向(問 26)

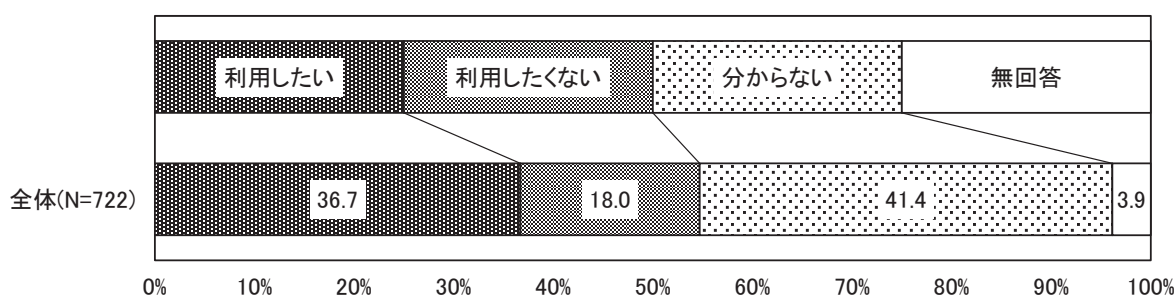
短期集中サービスの利用意向は、「分からない」が 41.4%、「利用したい」が 36.7%、「利用したくない」が 18.0%となっている。

性・年代別にみると、女性はその年代でも「利用したい」が 40%を超えている。

居住圏域別にみると、「利用したい」の割合は、【南部圏域】で 38.4%と高くなっている。

※短期集中サービスとは、心身の状態が落ちてしまった方が、もう一度自分らしい暮らしを取り戻せるよう、リハビリ専門職等との週1回の面談・指導を通して、自ら立てた目標に向かい、短期間(約3か月間)でその目標の達成を目指すサービスである。

短期集中サービスの利用意向(全体)



短期集中サービスの利用意向(全体、性・年代別、居住圏域別)

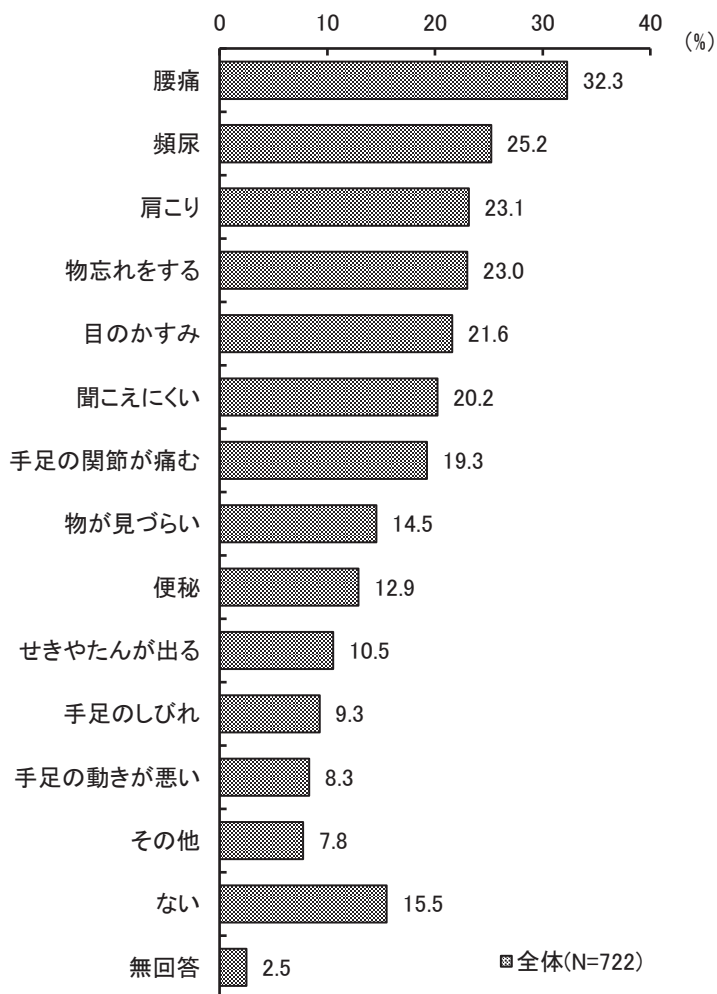
(人、%)

		回答者数	利用したい	ない利用したくない	分からない	無回答
全体		722	36.7	18.0	41.4	3.9
性・年代別	男性-65~74歳	163	24.5	22.1	51.5	1.8
	男性-75~84歳	109	34.9	21.1	44.0	0.0
	男性-85歳以上	22	31.8	18.2	40.9	9.1
	女性-65~74歳	228	43.9	16.2	37.3	2.6
	女性-75~84歳	150	41.3	14.7	36.0	8.0
	女性-85歳以上	37	40.5	16.2	35.1	8.1
居住圏域別	中部圏域	166	34.9	19.9	42.8	2.4
	南部圏域	177	38.4	18.6	37.3	5.6
	西部圏域	199	36.2	18.1	42.2	3.5
	北東部圏域	169	35.5	16.6	45.0	3.0

⑨ 自覚症状(問 27)

自覚症状は、「腰痛」(32.3%)が最も高く、「頻尿」(25.2%)、「肩こり」(23.1%)、「物忘れをする」(23.0%)、「目のかすみ」(21.6%)の順で続いている。なお、「ない」は 15.5%となっている。

自覚症状(全体:複数回答)

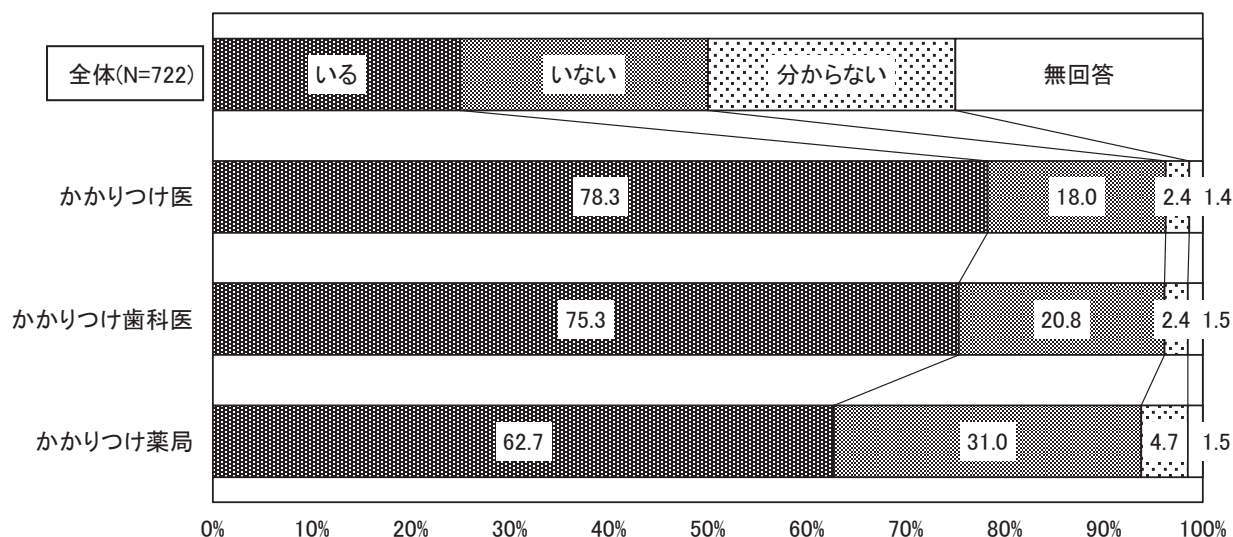


(4)医療や介護

① かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無(問 28～30)

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無は、「いる」の割合は、かかりつけ医で78.3%、かかりつけ歯科医で75.3%、かかりつけ薬局で62.7%となっている。

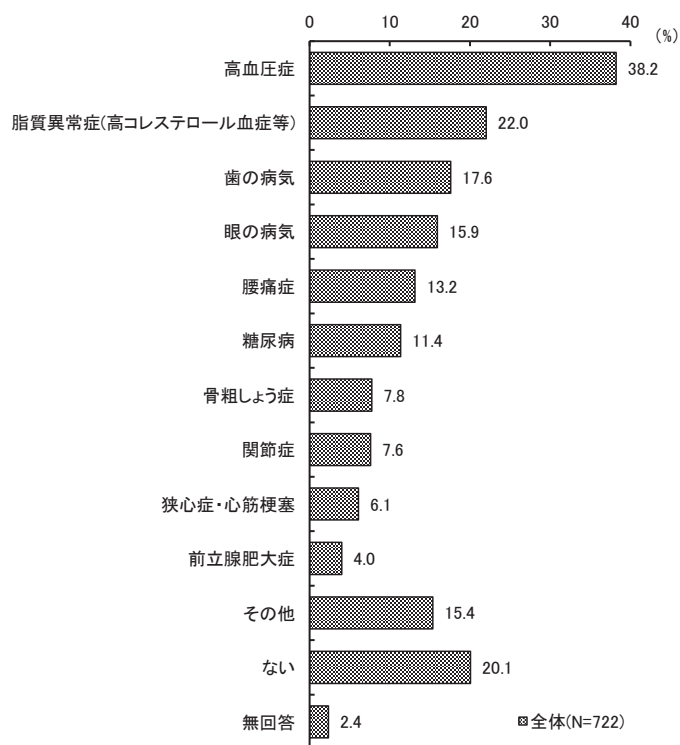
かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無(全体)



② 現在治療中の病気やけが(問 31)

現在治療中の病気やけがは、「高血圧症」(38.2%)が最も高く、「脂質異常症(高コレステロール血症等)」(22.0%)、「歯の病気」(17.6%)、「眼の病気」(15.9%)の順で続いている。なお、「ない」は20.1%となっている。

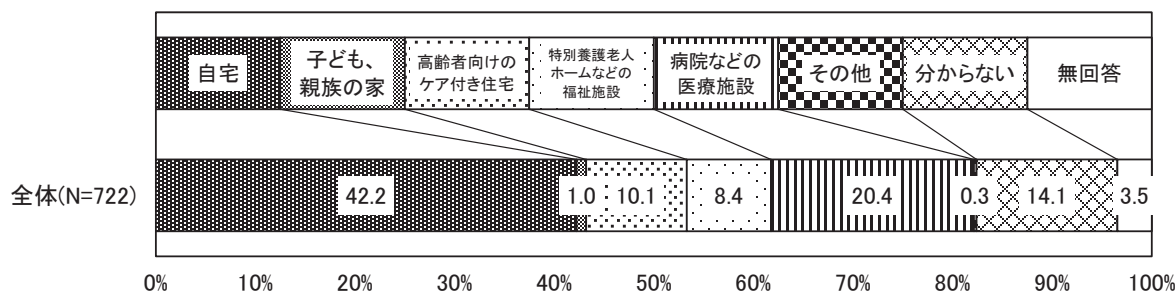
現在治療中の病気やけが(全体:複数回答)



③ 長期療養が必要になった場合に希望する居場所(問 32)

長期療養が必要になった場合に希望する居場所は、「自宅」(42.2%)が最も高く、「病院などの医療施設」(20.4%)、「高齢者向けのケア付き住宅」(10.1%)、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」(8.4%)の順で続いている。なお、「分からない」は14.1%となっている。

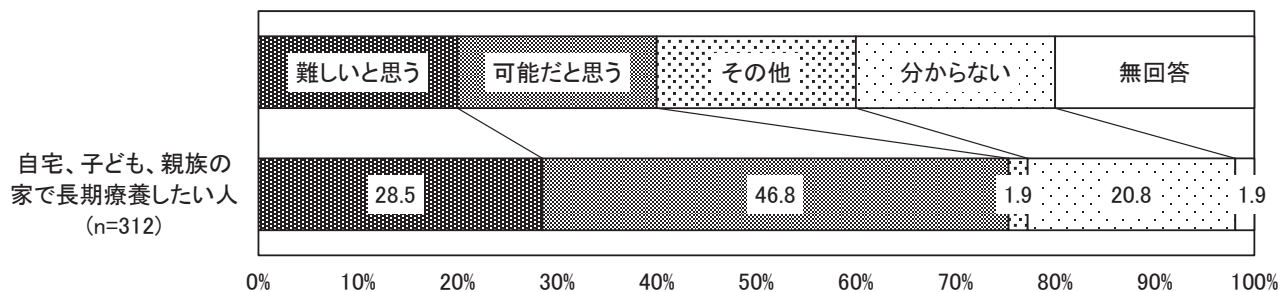
長期療養が必要になった場合に希望する居場所(全体)



④ 在宅での療養を希望する方の実現可能性(問 32-1)

自宅、子ども、親族の家で長期療養したい人に、在宅での療養の実現可能性をたずねたところ、「可能だと思う」が46.8%、「難しいと思う」が28.5%、「分からない」が20.8%となっている。

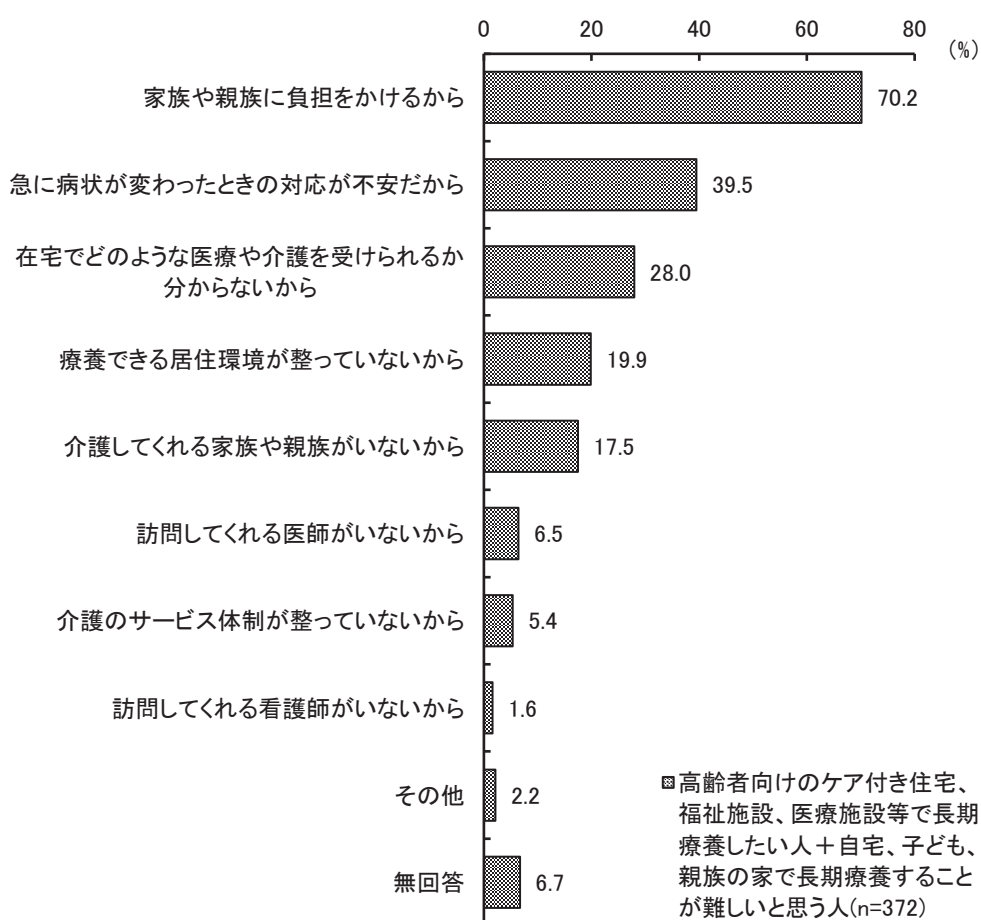
在宅での療養を希望する方の実現可能性(自宅、子ども、親族の家で長期療養したい人)



⑤ 在宅での療養を希望しない又は希望するが難しいと思う理由(問 32-2)

高齢者向けのケア付き住宅、福祉施設、医療施設等で長期療養したい人、又は自宅、子ども、親族の家で長期療養することが難しいと思う人に、在宅での療養を希望しない又は希望するが難しいと思う理由をたずねたところ、「家族や親族に負担をかけるから」(70.2%)が最も高く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」(39.5%)、「在宅でどのような医療や介護を受けられるか分からないから」(28.0%)の順で続いている。

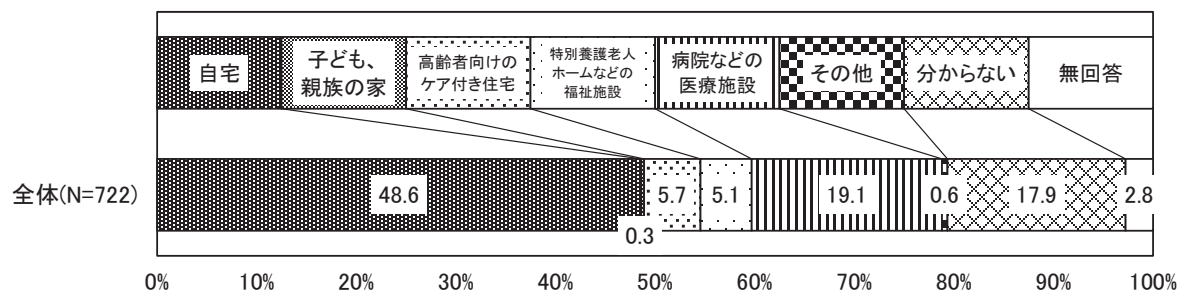
在宅での療養を希望しない又は希望するが難しいと思う理由
 (高齢者向けのケア付き住宅、福祉施設、医療施設等で長期療養したい人+自宅、子ども、親族の家で長期療養することが難しいと思う人:複数回答(3つまで))



⑥ 人生の最期を迎えたい場所(問 33)

人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」(48.6%)が最も高く、「病院などの医療施設」(19.1%)、「高齢者向けのケア付き住宅」(5.7%)、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」(5.1%)の順で続いている。なお、「分からない」は17.9%となっている。

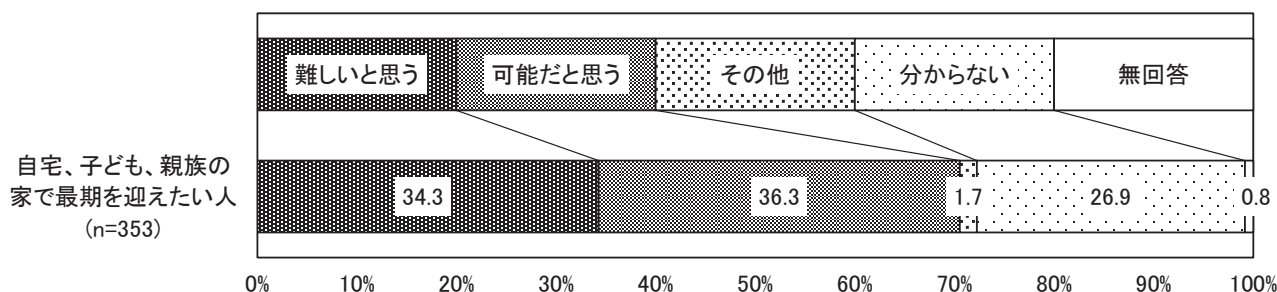
人生の最期を迎えたい場所(全体)



⑦ 在宅での最期の実現可能性(問 33-1)

自宅、子ども、親族の家で最期を迎えたい人に、在宅での最期の実現可能性をたずねたところ、「可能だと思う」が36.3%、「難しいと思う」が34.3%、「分からない」が26.9%となっている。

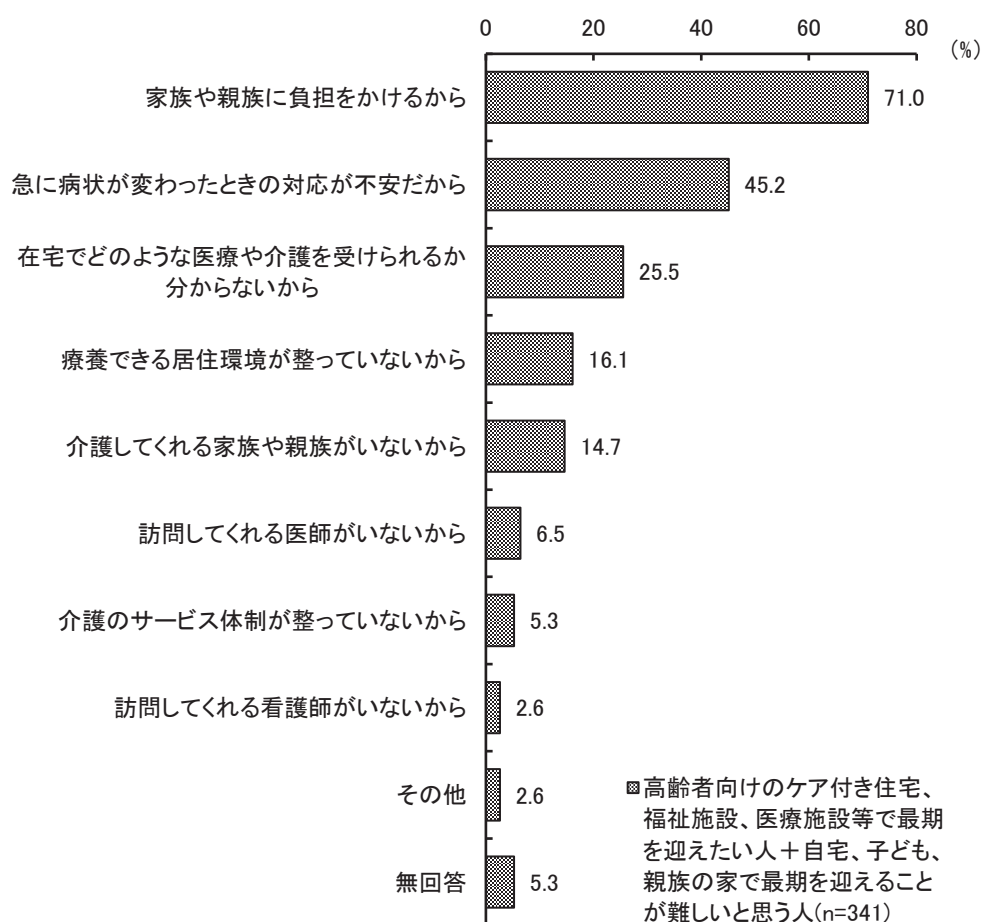
在宅での最期の実現可能性(自宅、子ども、親族の家で最期を迎えたい人)



⑧ 在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由(問 33-2)

高齢者向けのケア付き住宅、福祉施設、医療施設等で最期を迎えたい人、又は自宅、子ども、親族の家で最期を迎えることが難しいと思う人に、在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由をたずねたところ、「家族や親族に負担をかけるから」(71.0%)が最も高く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」(45.2%)、「在宅でどのような医療や介護を受けられるか分からないから」(25.5%)の順で続いている。

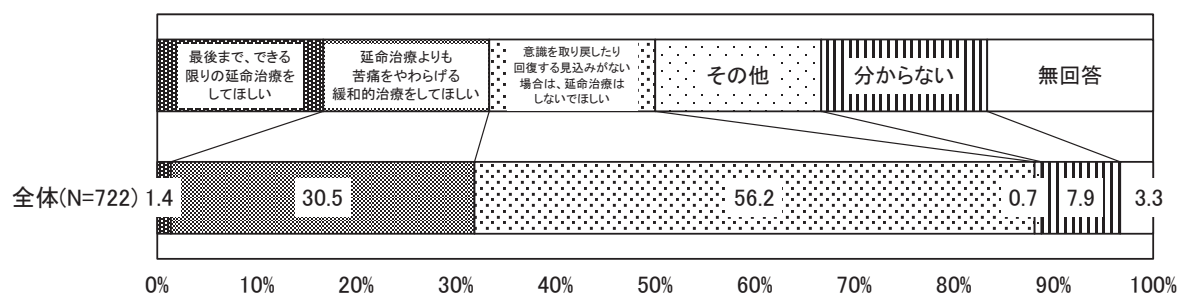
在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由
 (高齢者向けのケア付き住宅、福祉施設、医療施設等で最期を迎えたい人+自宅、子ども、親族の家で最期を迎えることが難しいと思う人:複数回答(3つまで))



⑨ 延命治療についての希望(問 34)

延命治療についての希望は、「意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療はしないでほしい」(56.2%)が過半数であり、「延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい」(30.5%)が続いている。

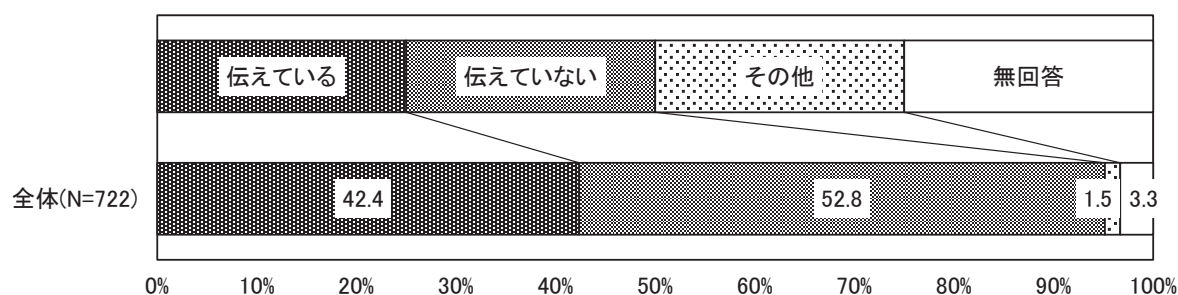
延命治療についての希望(全体)



⑩ 今後の希望について家族等へ意向を伝えているか(問 35)

長期療養が必要になった場合に希望する居場所、人生の最期を迎えたい場所、延命治療についての希望など(問 32~34)の今後の希望について家族等へ意向を伝えているかは、「伝えていない」が52.8%で過半数であり、「伝えている」が42.4%となっている。

今後の希望について家族等へ意向を伝えているか(全体)

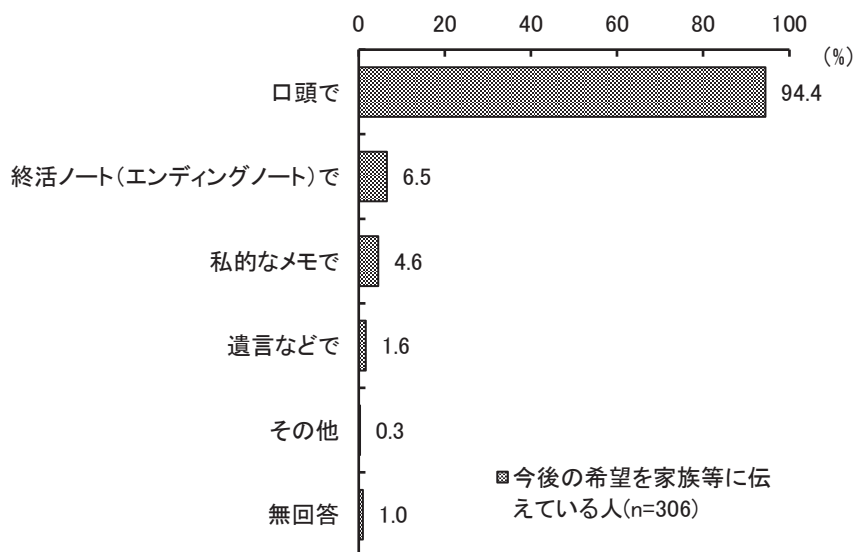


第2章 調査結果

⑪ 今後の希望についての意向の伝え方(問 35-1)

長期療養が必要になった場合に希望する居場所、人生の最期を迎えたい場所、延命治療についての希望など(問 32～34)の今後の希望を家族等に伝えている人に伝え方をたずねたところ、「口頭で」が 94.4%であり、「終活ノート(エンディングノート)で」が 6.5%、「私的なメモで」が 4.6%、「遺言などで」が 1.6%となっている。

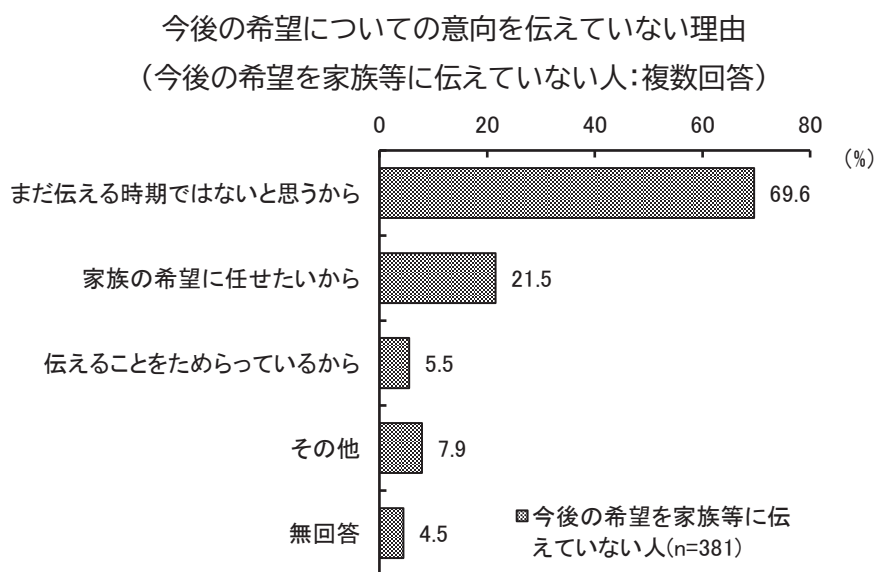
今後の希望についての意向の伝え方(今後の希望を家族等に伝えている人:複数回答)



⑫ 今後の希望についての意向を伝えていない理由(問 35-2)

長期療養が必要になった場合に希望する居場所、人生の最期を迎えたい場所、延命治療についての希望など(問 32～34)の今後の希望を家族等に伝えていない人に伝えていない理由をたずねたところ、「まだ伝える時期ではないと思うから」(69.6%)が最も高く、「家族の希望に任せたいから」(21.5%)、「その他」(7.9%)、「伝えることをためらっているから」(5.5%)の順で続いている。

性・年代別にみると、男女ともに年代が高いほど「まだ伝える時期ではないと思うから」の割合が低くなり、「家族の希望に任せたいから」と「伝えることをためらっているから」の割合が高くなっている。



今後の希望についての意向を伝えていない理由
(今後の希望を家族等に伝えていない人、性・年代別:複数回答)

(人、%)

		回答者数	はまだ伝える時期か	家族の希望に任せたいから	伝えることをためらっているから	その他	無回答
今後の希望を家族等に伝えていない人		381	69.6	21.5	5.5	7.9	4.5
性・年代別	男性-65～74歳	96	75.0	18.8	3.1	7.3	2.1
	男性-75～84歳	52	71.2	23.1	5.8	3.8	1.9
	男性-85歳以上	10	60.0	30.0	10.0	0.0	10.0
	女性-65～74歳	122	77.9	13.1	4.9	9.8	2.5
	女性-75～84歳	70	57.1	31.4	7.1	10.0	10.0
	女性-85歳以上	24	50.0	37.5	8.3	0.0	12.5

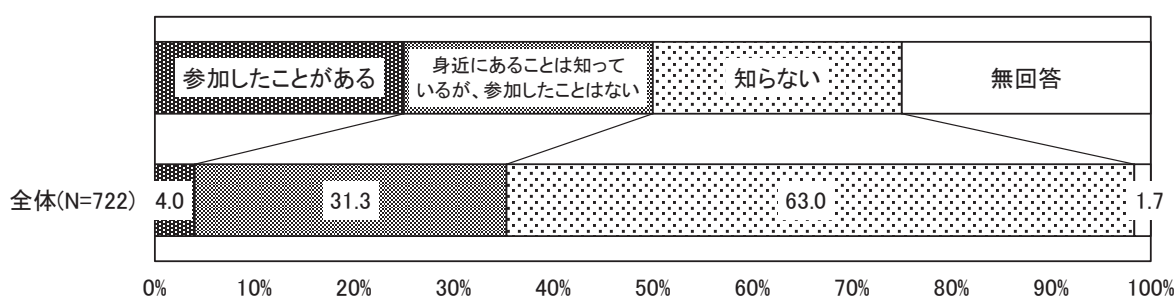
(5) 生きがい

① 通いの場への参加経験(問 36)

住んでいる地域で、街中いきいーなサロン、認知症カフェなどの住民同士が交流できる通いの場への参加経験があるかたずねたところ、「知らない」が 63.0%を占め、「参加したことがある」が 4.0%、「身近にあることは知っているが、参加したことはない」が 31.3%となっている。

居住圏域別にみると、【中部圏域】では「身近にあることは知っているが、参加したことはない」(38.6%)が4割弱で他の圏域に比べ若干高くなっている。また、【北東部圏域】では「知らない」(69.8%)が約7割と他の圏域に比べ高くなっている。

通いの場への参加経験(全体)



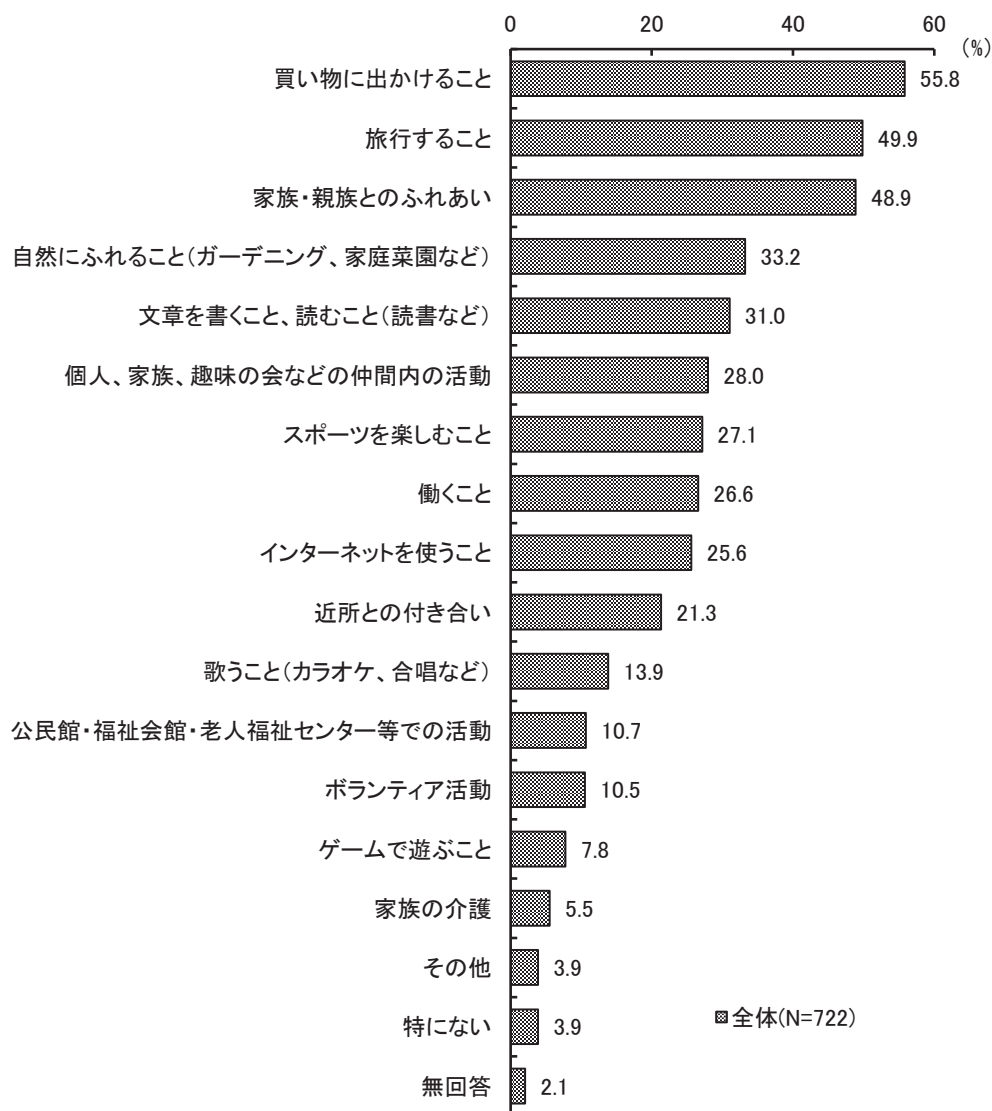
通いの場への参加経験(全体、居住圏域別)

		(人、%)				
		回答者数	参加したことがある	身近にあることは知っているが、参加したことはない	知らない	無回答
全体		722	4.0	31.3	63.0	1.7
居住圏域別	中部圏域	166	2.4	38.6	57.2	1.8
	南部圏域	177	4.0	28.8	64.4	2.8
	西部圏域	199	5.5	32.7	60.3	1.5
	北東部圏域	169	3.6	26.0	69.8	0.6

② 現在継続して行っていること、もしくは今後行いたいこと(問37)

現在継続して行っていること、もしくは今後行いたいことは、「買い物に出かけること」(55.8%)が最も高く、「旅行すること」(49.9%)、「家族・親族とのふれあい」(48.9%)、「自然にふれること(ガーデニング、家庭菜園など)」(33.2%)、「文章を書くこと、読むこと(読書など)」(31.0%)の順で続いている。

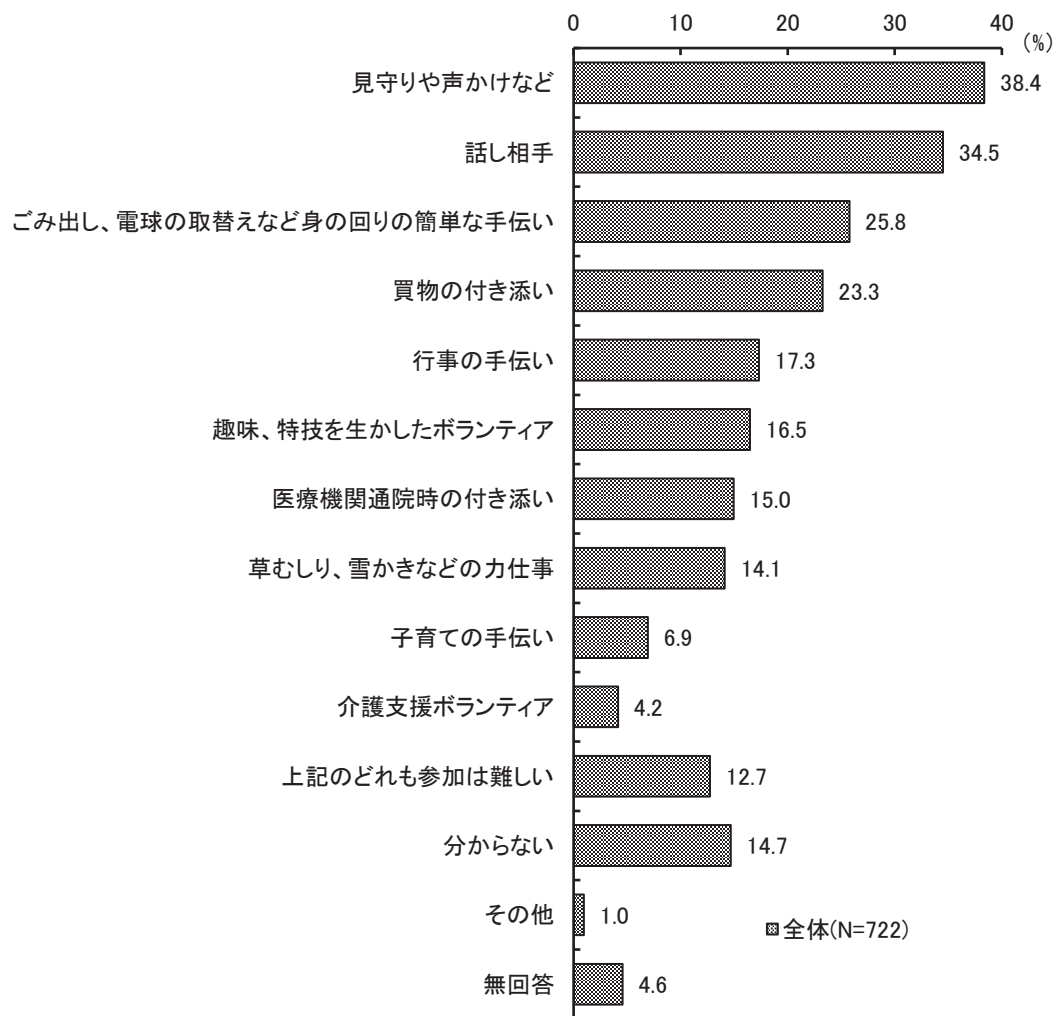
現在継続して行っていること、もしくは今後行いたいこと(全体:複数回答)



③ できると思う地域等の活動(問 38)

できると思う地域等の活動は、「見守りや声かけなど」(38.4%)が最も高く、「話し相手」(34.5%)、「ごみ出し、電球の取替えなど身の回りの簡単な手伝い」(25.8%)、「買物の付き添い」(23.3%)の順で続いている。

できると思う地域等の活動(全体:複数回答)

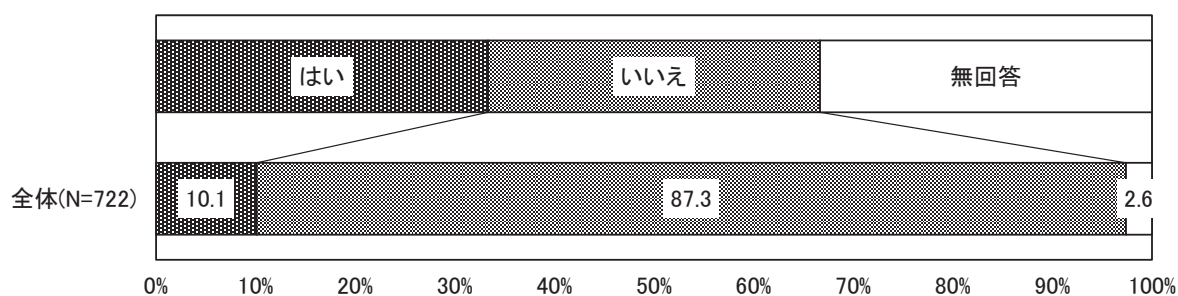


(6) 認知症

① 認知症の症状の有無、家族に認知症の症状がある人がいるか(問 39)

認知症の症状の有無、家族に認知症の症状がある人がいるかは、「はい」が 10.1%となっている。

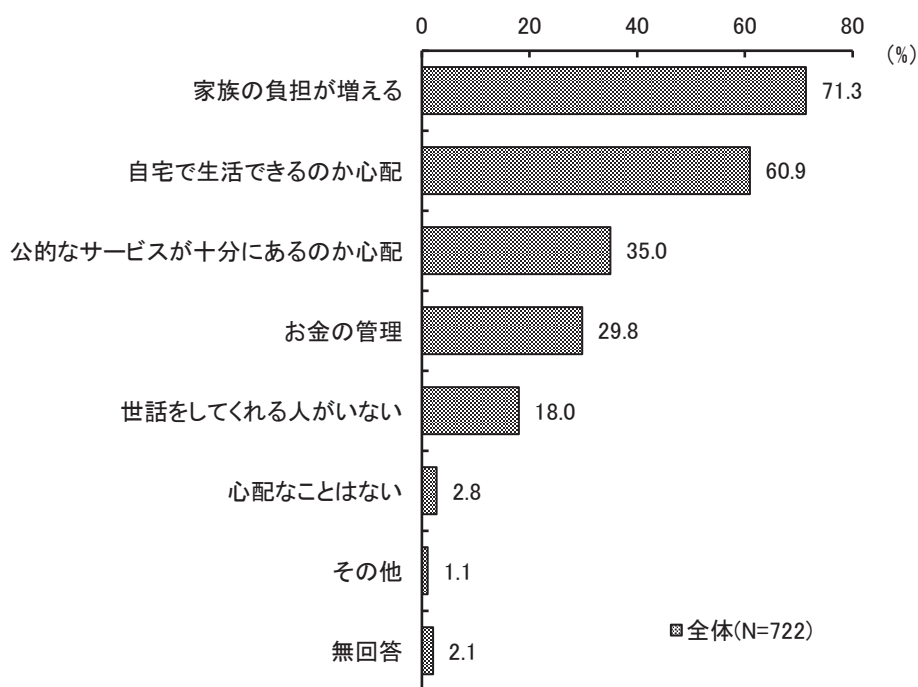
認知症の症状の有無、家族に認知症の症状がある人がいるか(全体)



② 認知症で心配なこと(問 40)

認知症で心配なことは、「家族の負担が増える」(71.3%)が最も高く、「自宅で生活できるのか心配」(60.9%)、「公的なサービスが十分にあるのか心配」(35.0%)、「お金の管理」(29.8%)の順で続いている。

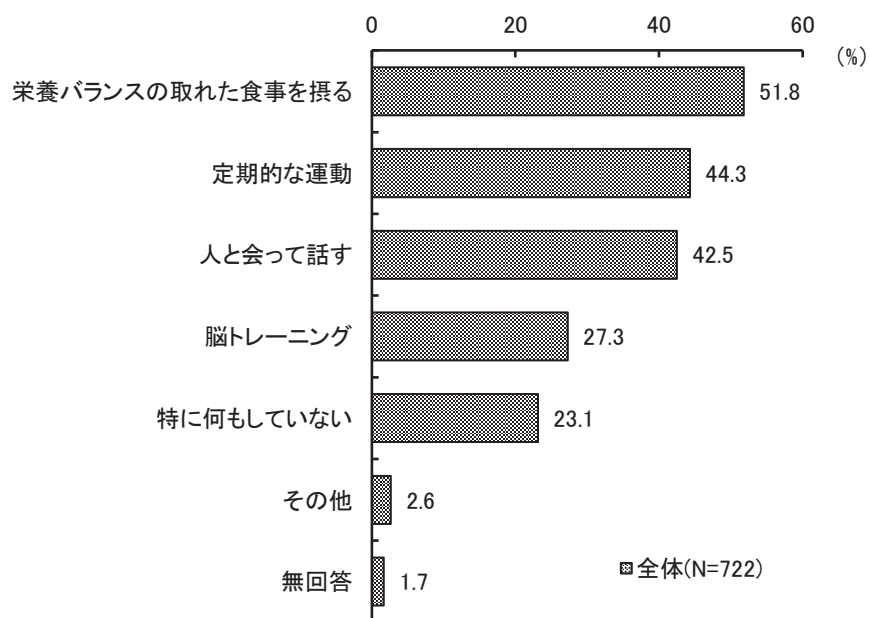
認知症で心配なこと(全体:複数回答)



③ 認知症予防のために取り組んでいること(問 41)

認知症予防のために取り組んでいることは、「栄養バランスの取れた食事を摂る」(51.8%)が最も高く、「定期的な運動」(44.3%)、「人と会って話す」(42.5%)の順で続いている。

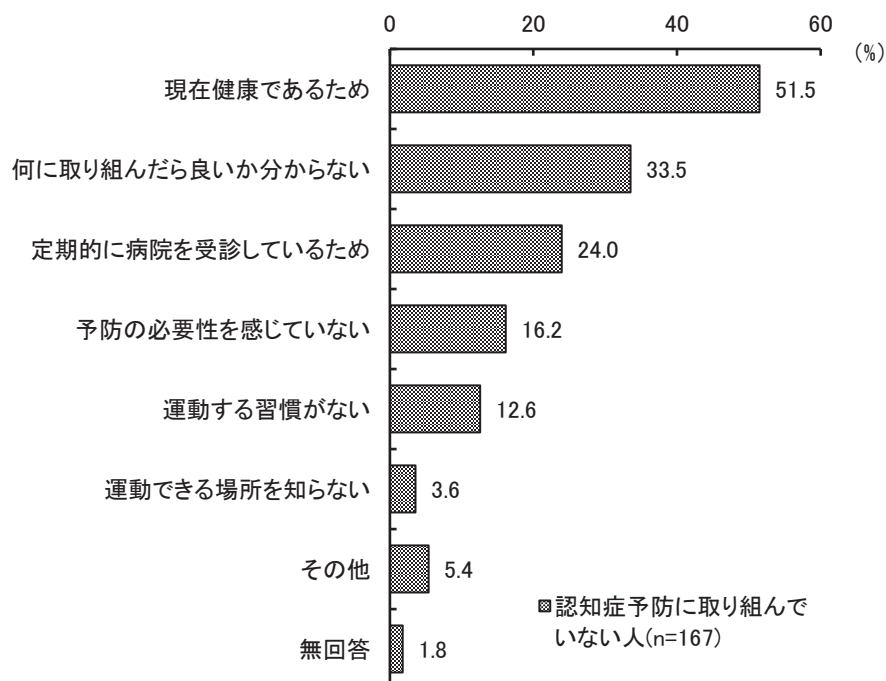
認知症予防のために取り組んでいること(全体:複数回答)



④ 認知症予防に取り組まない理由(問 41-1)

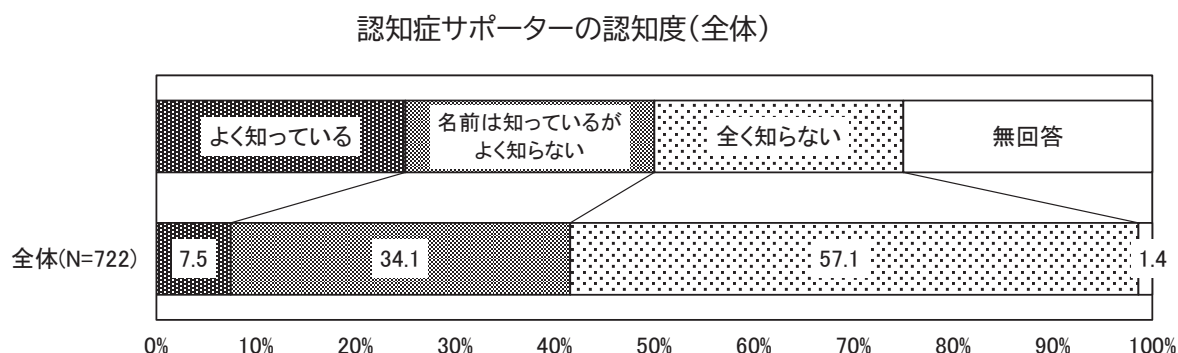
認知症予防に取り組んでいない人に認知症予防に取り組まない理由をたずねたところ、「現在健康であるため」(51.5%)が最も高く、「何に取り組んだら良いか分からない」(33.5%)、「定期的に病院を受診しているため」(24.0%)の順で続いている。

認知症予防に取り組まない理由(認知症予防に取り組んでいない人:複数回答)



⑤ 認知症サポーターの認知度(問 42)

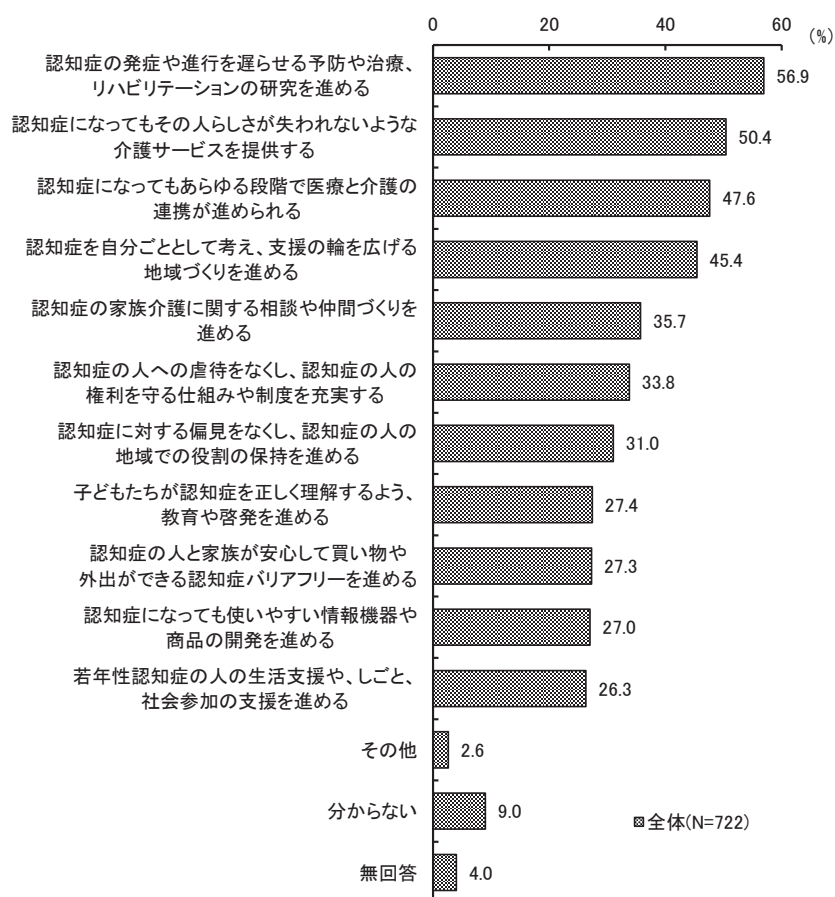
認知症サポーターの認知度は、「全く知らない」が 57.1%で過半数を占めており、「よく知っている」が 7.5%、「名前は知っているがよく知らない」が 34.1%となっている。



⑥ 認知症施策として進める必要があること(問 43)

認知症施策として進める必要があることは、「認知症の発症や進行を遅らせる予防や治療、リハビリテーションの研究を進める」(56.9%)が最も高く、「認知症になってもその人らしさが失われないような介護サービスを提供する」(50.4%)、「認知症になってもあらゆる段階で医療と介護の連携が進められる」(47.6%)、「認知症を自分ごととして考え、支援の輪を広げる地域づくりを進める」(45.4%)の順で続いている。

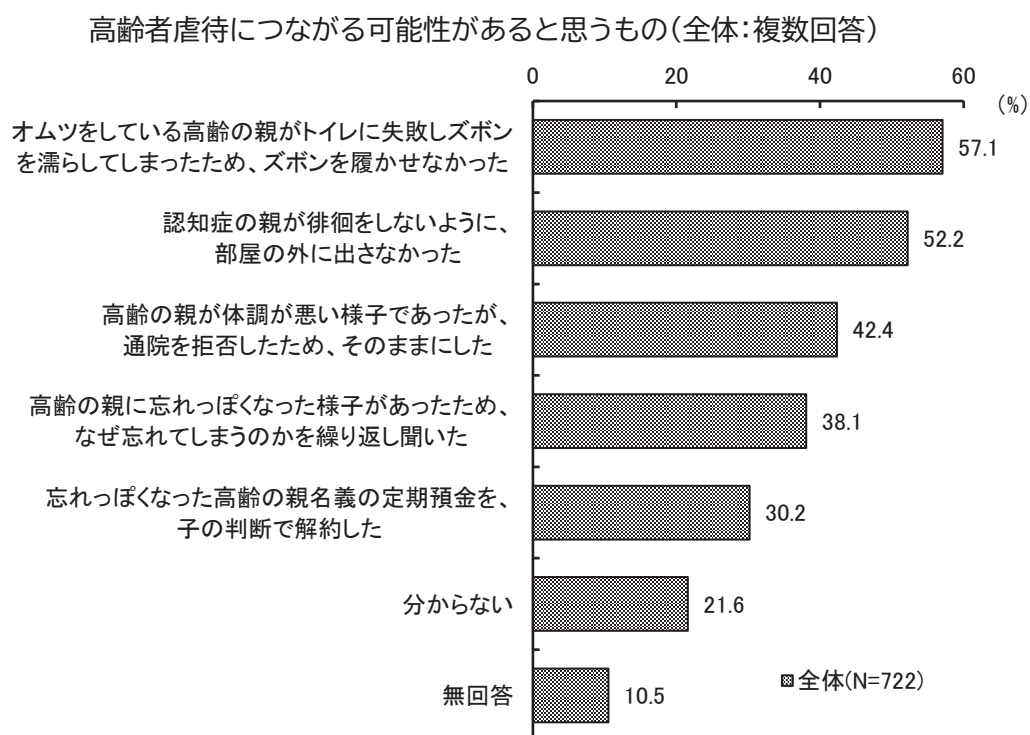
認知症施策として進める必要があること(全体:複数回答)



(7) 高齢者虐待

① 高齢者虐待につながる可能性があると思うもの(問 44)

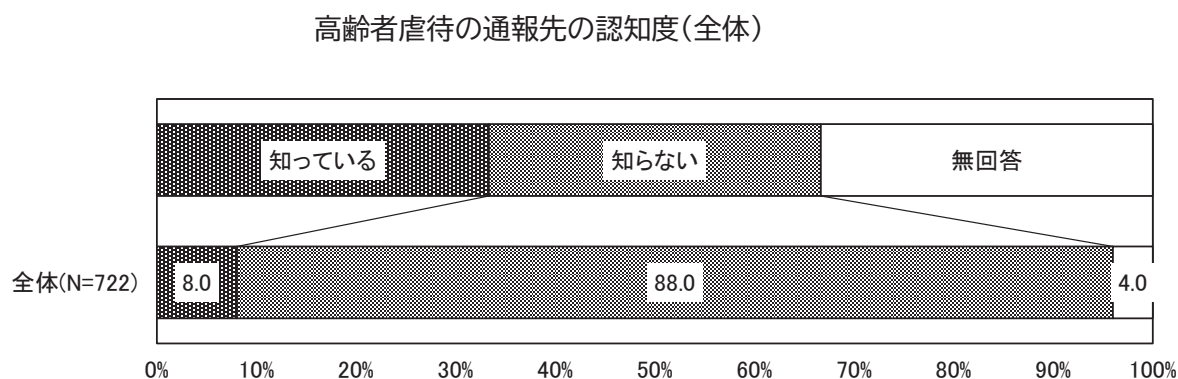
高齢者虐待につながる可能性があると思うものは、「オムツをしている高齢の親がトイレに失敗しズボンを濡らしてしまったため、ズボンを履かせなかった」(57.1%)が最も高く、「認知症の親が徘徊をしないように、部屋の外に出さなかった」(52.2%)、「高齢の親が体調が悪い様子であったが、通院を拒否したため、そのままにした」(42.4%)の順で続いている。なお、「分からない」は21.6%となっている。



② 高齢者虐待の通報先の認知度(問 45)

高齢者虐待の通報先の認知度は、「知っている」が8.0%となっている。

知っていると回答した人に自由回答でたずねた相談先は、地域包括支援センターとの回答が多く、市役所、社会福祉協議会もみられた。



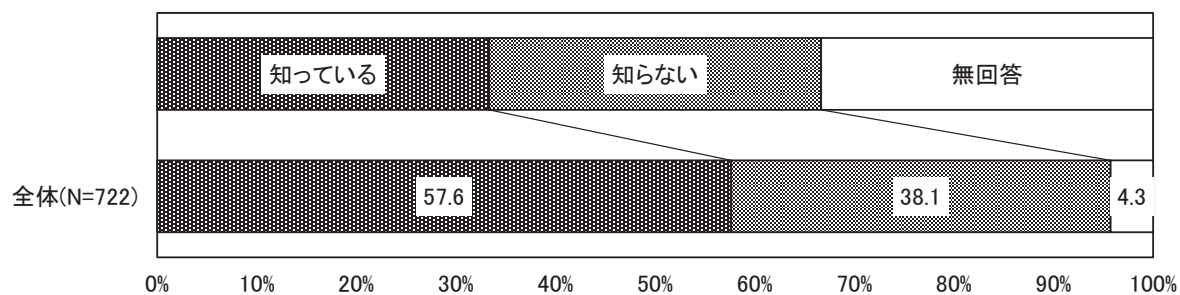
(8) 高齢者を支えるしくみ

① 地域包括支援センターの認知度(問 46)

地域包括支援センターの認知度は、「知っている」が 57.6%で過半数となっている。

地域包括支援センター地区別にみると、【富士町】で「知っている」が 65.4%と高くなっている。

地域包括支援センターの認知度(全体)



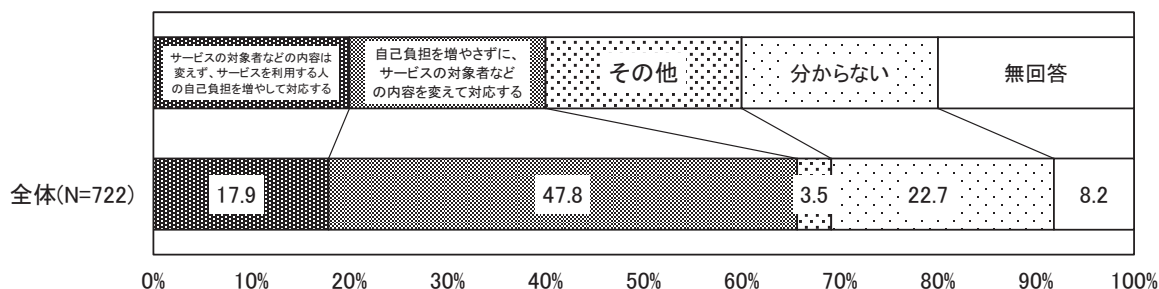
地域包括支援センターの認知度(全体、地域包括支援センター地区別)

		(人、%)			
		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		722	57.6	38.1	4.3
地域包括支援センター地区別	田無町	93	60.2	38.7	1.1
	泉町	73	60.3	37.0	2.7
	新町	86	57.0	37.2	5.8
	向台町	91	51.6	42.9	5.5
	西原町	96	59.4	36.5	4.2
	緑町	103	52.4	43.7	3.9
	富士町	81	65.4	28.4	6.2
	栄町	88	59.1	36.4	4.5

② 増大する高齢者福祉サービスへの対応方法(問 47)

増大する高齢者福祉サービスへの対応方法は、「自己負担を増やさずに、サービスの対象者などの内容を変えて対応する」(47.8%)が最も高く、「分からない」(22.7%)、「サービスの対象者などの内容は変えず、サービスを利用する人の自己負担を増やして対応する」(17.9%)の順となっている。

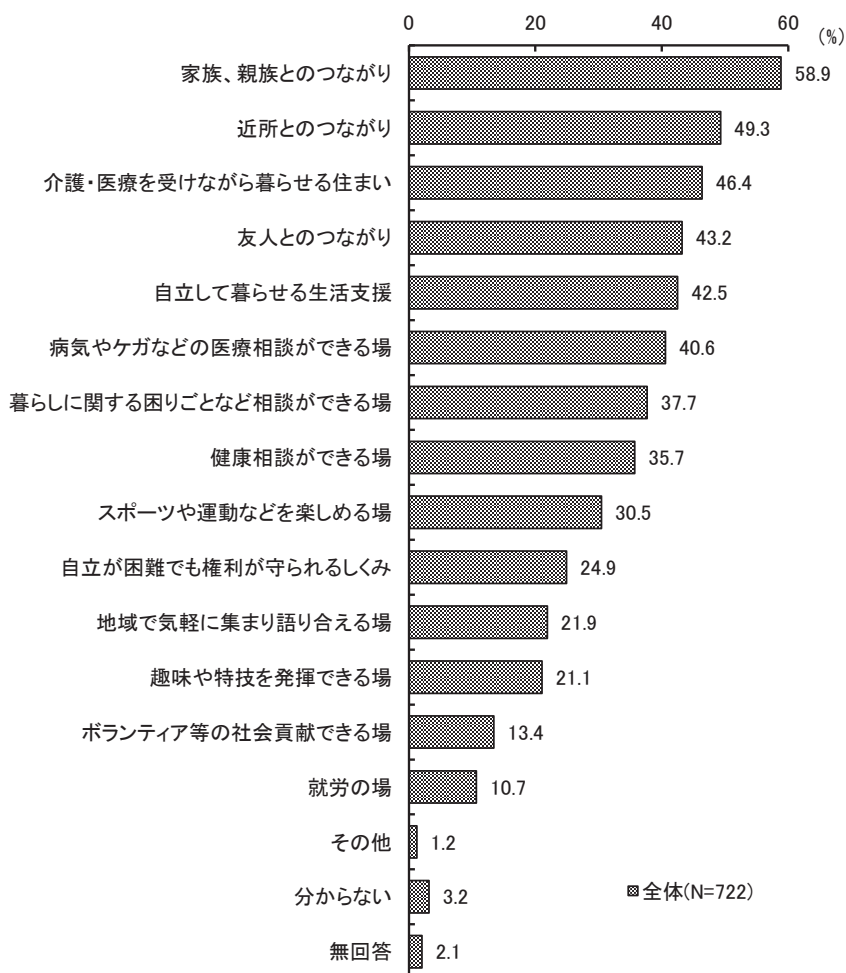
増大する高齢者福祉サービスへの対応方法(全体)



③ 今後地域で暮らしていくために必要だと思うこと(問 48)

今後地域で暮らしていくために必要だと思うことは、「家族、親族とのつながり」(58.9%)が最も高く、「近所とのつながり」(49.3%)、「介護・医療を受けながら暮らせる住まい」(46.4%)、「友人とのつながり」(43.2%)、「自立して暮らせる生活支援」(42.5%)の順で続いている。

今後地域で暮らしていくために必要だと思うこと(全体:複数回答)

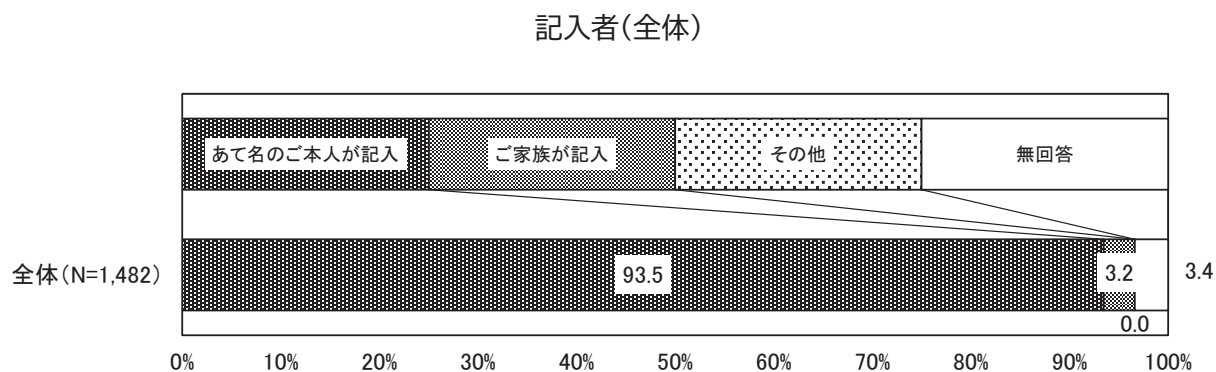


2 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

(1)基本属性

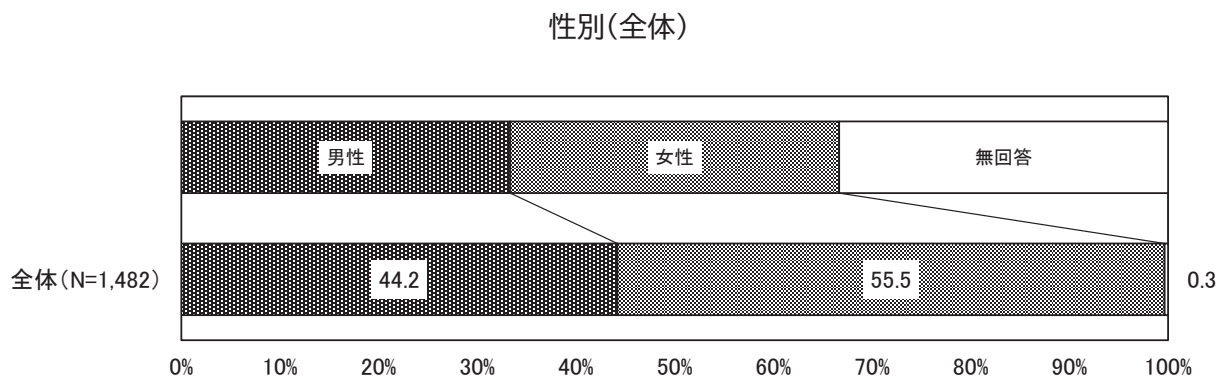
① 記入者(問2)

調査票の記入者は、「本人」が 93.5%、「家族」が 3.2%となっている。



② 性別(問3)

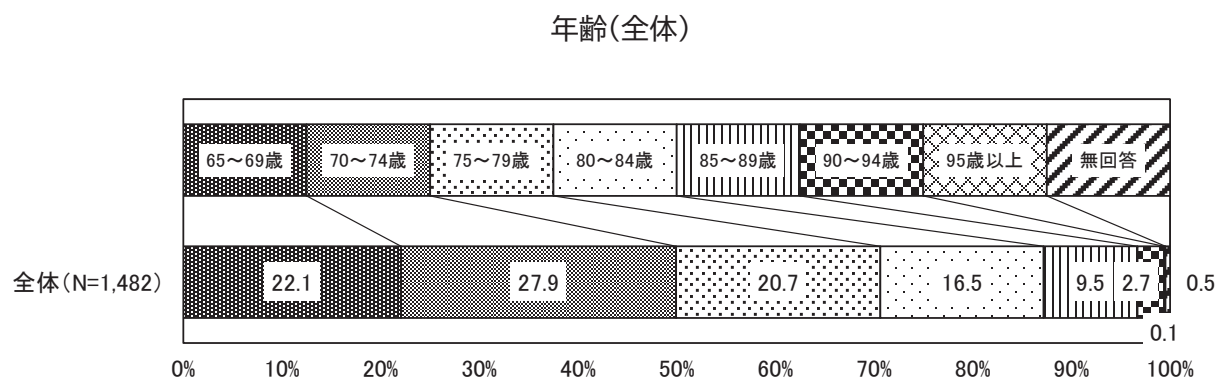
性別は、「男性」が 44.2%、「女性」が 55.5%となっている。



第2章 調査結果

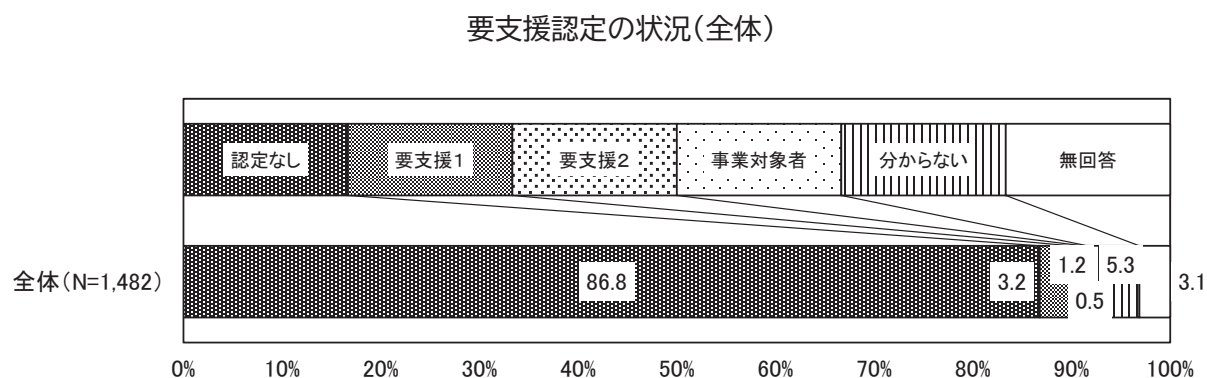
③ 年齢(問4)

年齢は、「70～74 歳」(27.9%)が最も高く、「65～69 歳」(22.1%)、「75～79 歳」(20.7%)、「80～84 歳」(16.5%)の順で続いている。



④ 要支援認定の状況(問5)

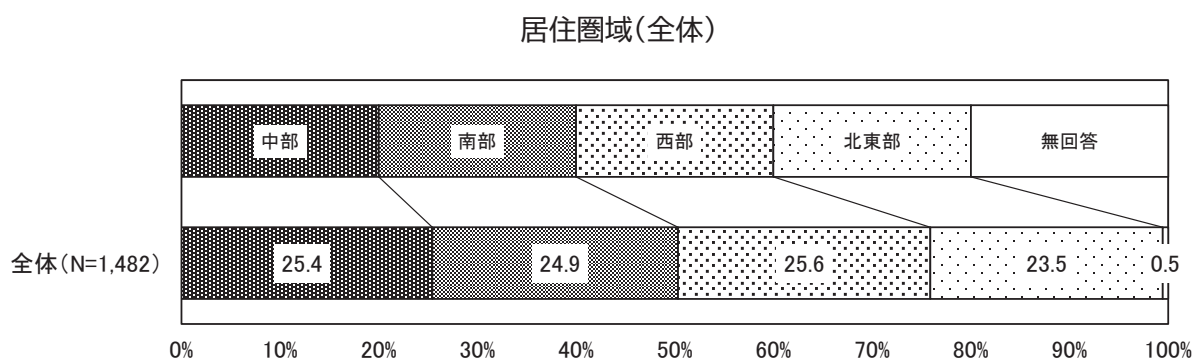
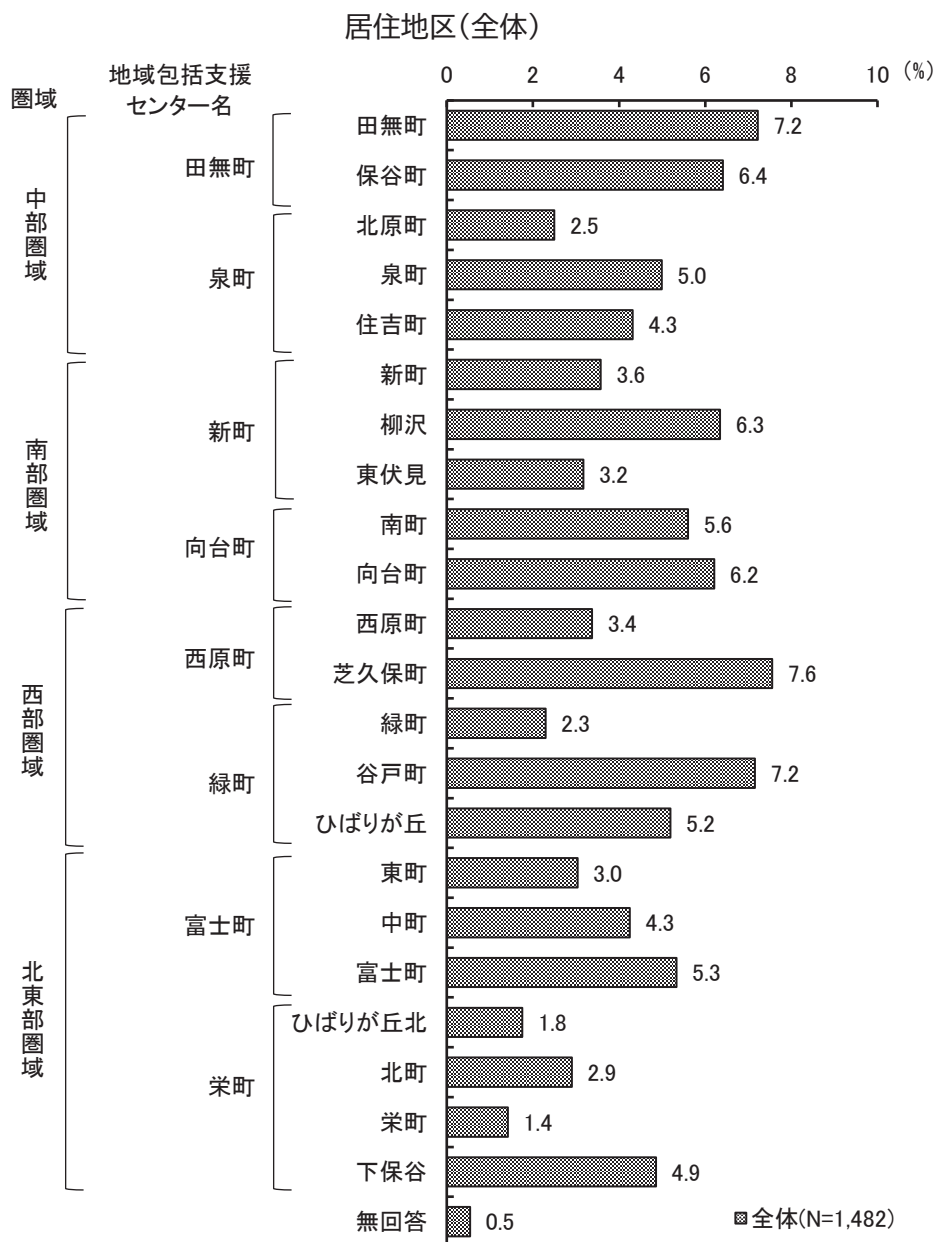
要支援認定の状況は、「認定なし」(86.8%)が最も高く、「分からない」(5.3%)、「要支援1」(3.2%)、「要支援2」(1.2%)の順で続いている。



⑤ 居住地区(問6)

居住地区は、「芝久保町」(7.6%)が最も高く、「田無町」、「谷戸町」(それぞれ 7.2%)、「保谷町」(6.4%)、「柳沢」(6.3%)の順で続いている。

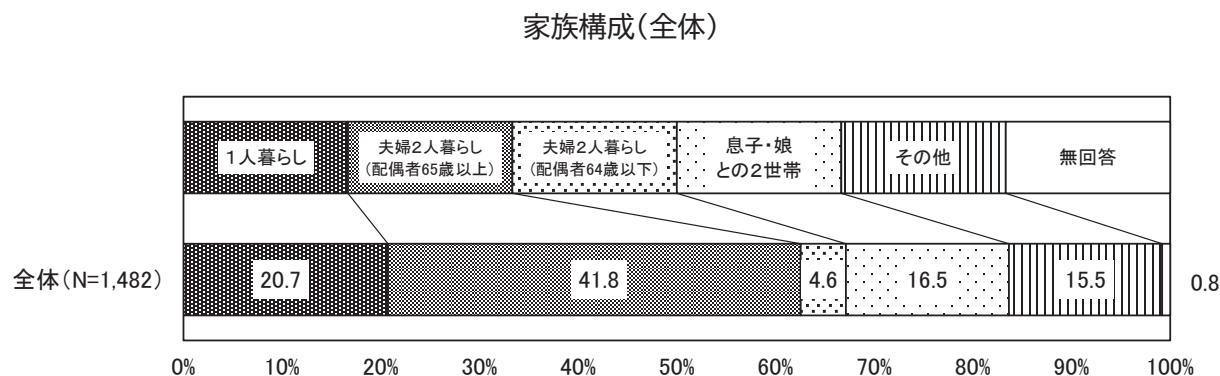
圏域でみると、「西部」(25.6%)が最も高く、「中部」(25.4%)、「南部」(24.9%)、「北東部」(23.5%)の順で続いている。



(2) 家族や生活の状況

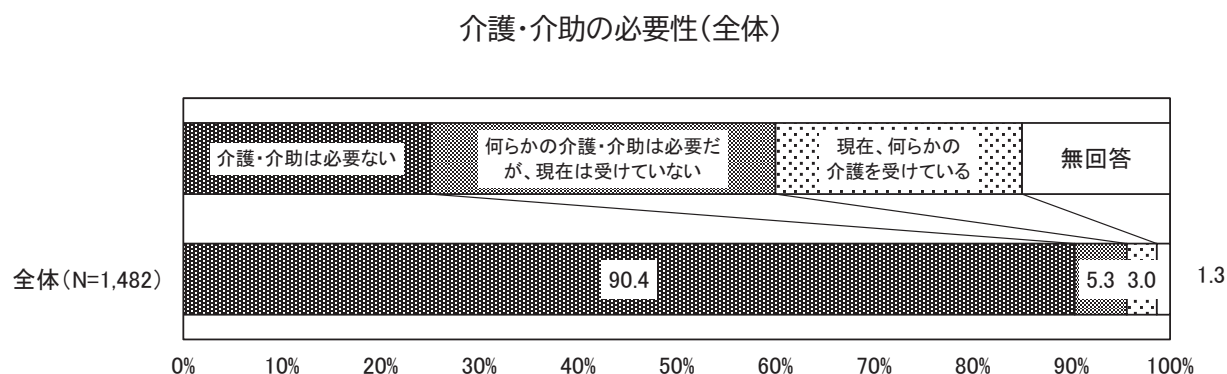
① 家族構成(問7)

家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」(41.8%)が最も高く、「1人暮らし」(20.7%)、「息子・娘との2世帯」(16.5%)の順で続いている。



② 介護・介助の必要性(問8)

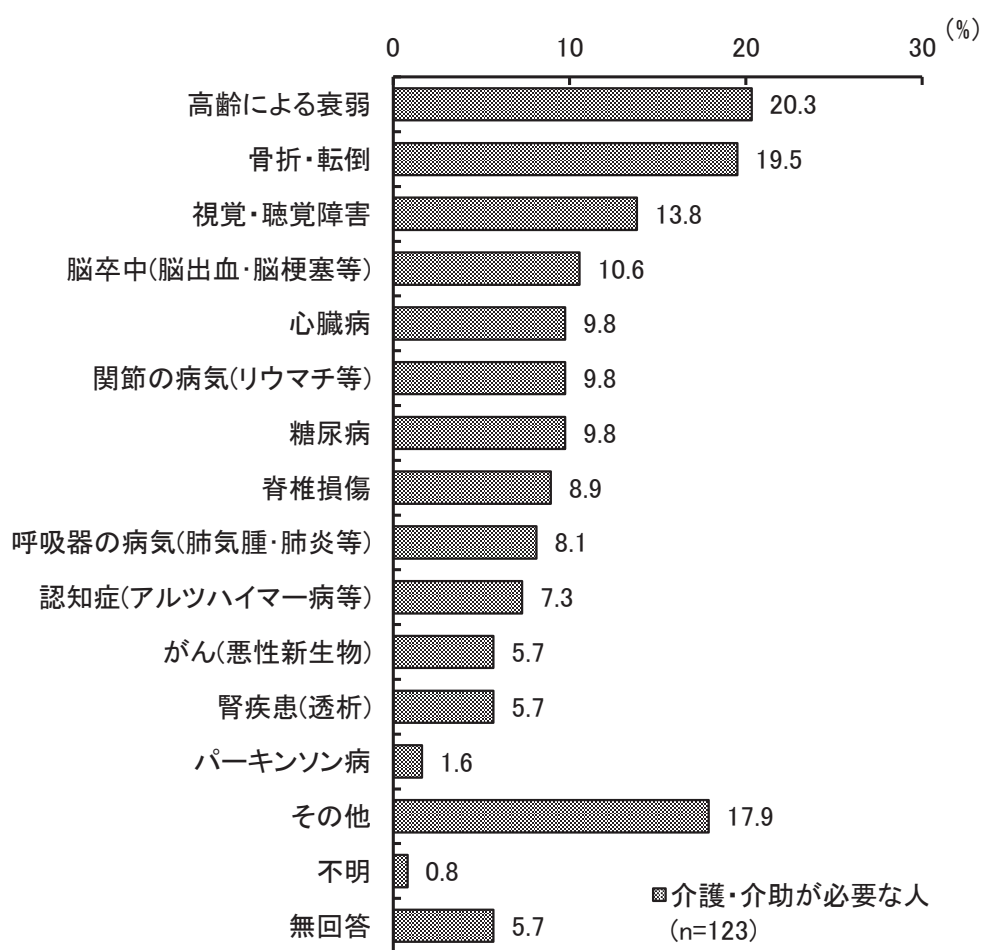
介護・介助の必要性は、「介護・介助は必要ない」が 90.4%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が 5.3%、「現在、何らかの介護を受けている」が 3.0%となっている。



③ 介護・介助が必要になった原因(問8-1)

介護・介助が必要な人(問8で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人)に介護・介助が必要になった原因をたずねたところ、「高齢による衰弱」(20.3%)が最も高く、「骨折・転倒」(19.5%)、「視覚・聴覚障害」(13.8%)、「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」(10.6%)、「心臓病」、「関節の病気(リウマチ等)」、「糖尿病」(9.8%)の順で続いている。

介護・介助が必要になった原因(介護・介助が必要な人:複数回答)

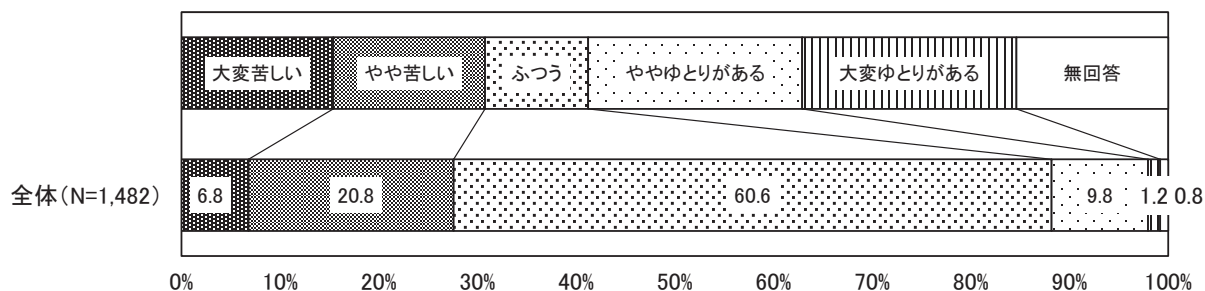


第2章 調査結果

④ 現在の経済状況(問9)

現在の経済状況は、「ふつう」が 60.6%で最も高く、「やや苦しい」(20.8%)、「ややゆとりがある」(9.8%)、「大変苦しい」(6.8%)、「大変ゆとりがある」(1.2%)の順で続いている。

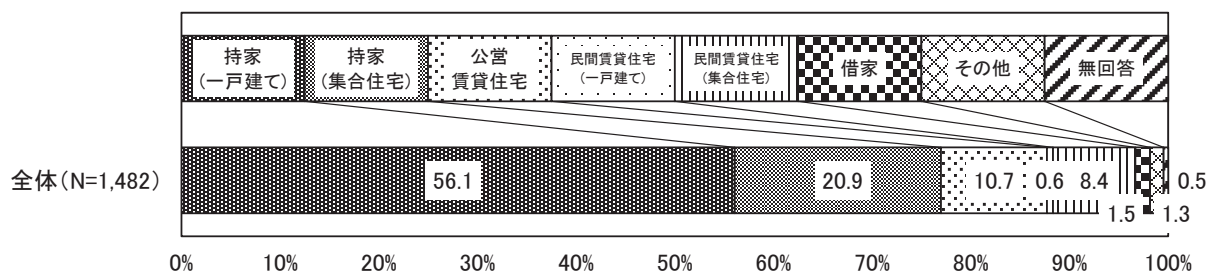
現在の経済状況(全体)



⑤ 居住形態(問10)

居住形態は、「持家(一戸建て)」(56.1%)が最も高く、「持家(集合住宅)」(20.9%)、「公営賃貸住宅」(10.7%)の順で続いている。

居住形態(全体)

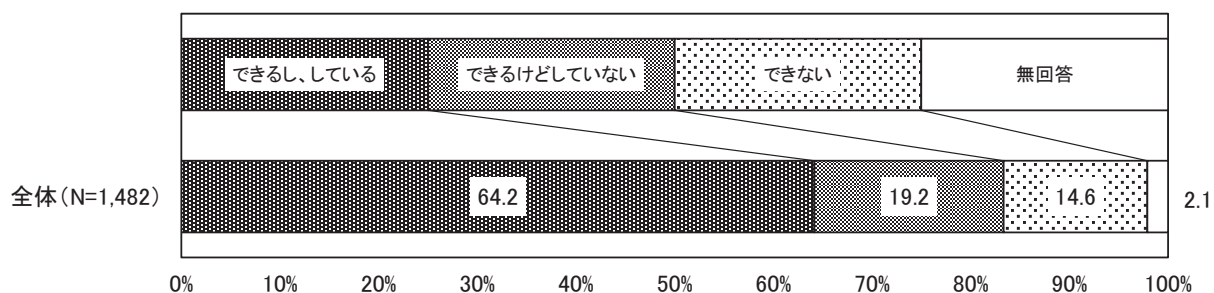


(3) 身体機能の状況

① 階段を手すりや壁をつたわずに昇ること(問 11)

階段を手すりや壁をつたわずに昇ることは、「できるし、している」が 64.2%、「できるけどしていない」が 19.2%、「できない」が 14.6%となっている。

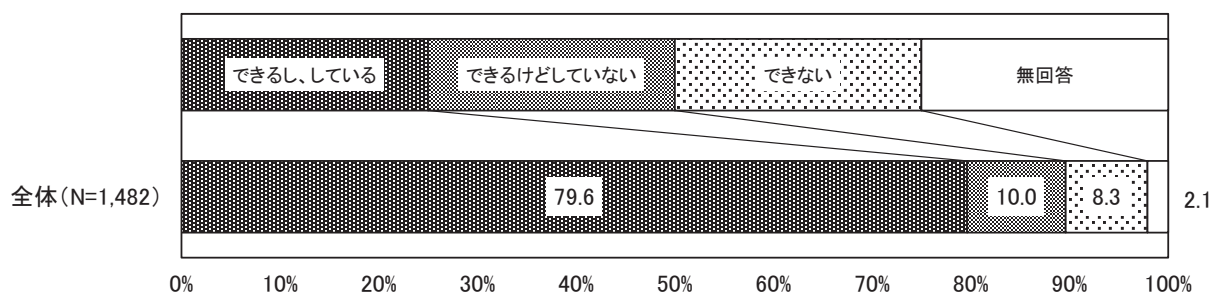
階段を手すりや壁をつたわずに昇ること(全体)



② 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること(問 12)

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることは、「できるし、している」が 79.6%、「できるけどしていない」が 10.0%、「できない」が 8.3%となっている。

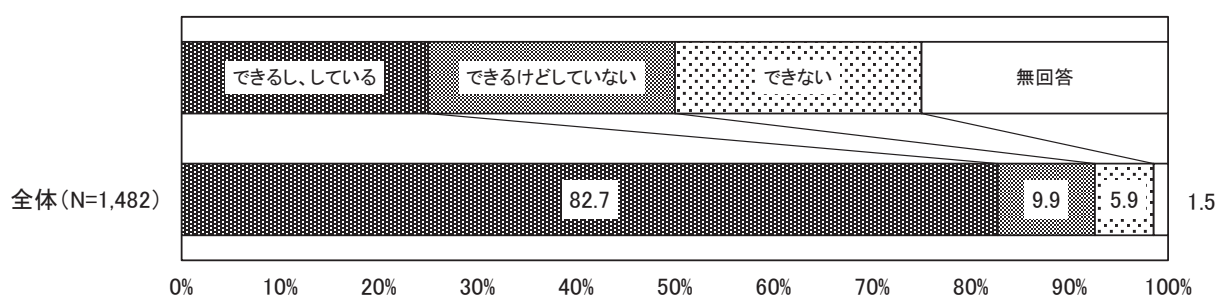
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がること(全体)



③ 15分位続けて歩くこと(問 13)

15分位続けて歩くことは、「できるし、している」が 82.7%、「できるけどしていない」が 9.9%、「できない」が 5.9%となっている。

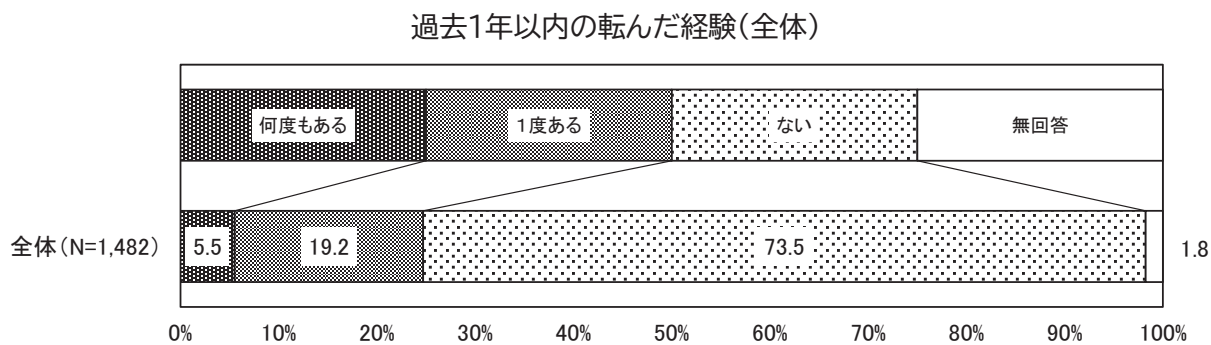
15分位続けて歩くこと(全体)



④ 過去1年以内の転んだ経験(問 14)

過去1年以内の転んだ経験は、「ない」(73.5%)が最も高く、「1度ある」(19.2%)、「何度もある」(5.5%)の順で続いている。

性・年代別にみると、男女ともに「何度もある」は年代が高いほど高率になる傾向がある。「ない」は、女性では年代が低いほど高率になる傾向がみられるが、男性ではどの年代でも7割を超え女性より高く、特に【男性 65～74 歳】(80.4%)では8割を超え高くなっている。



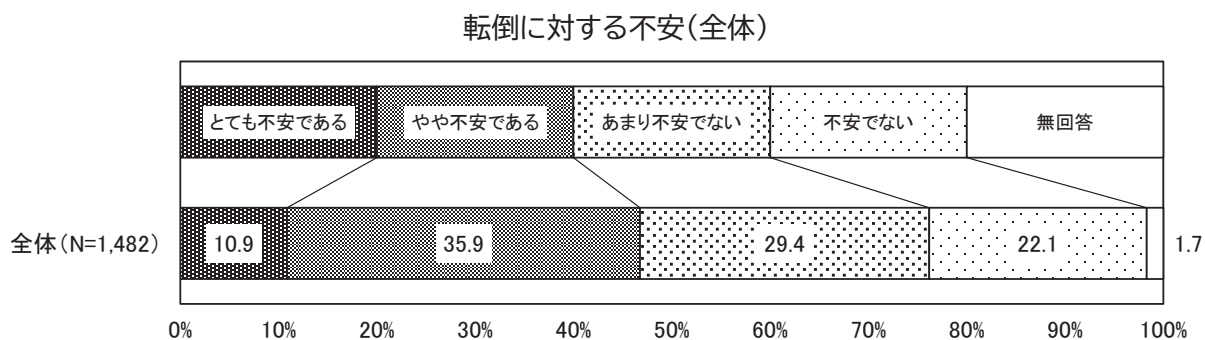
過去1年以内の転んだ経験(全体、性・年代別)

(人、%)

		回答者数	何度もある	1度ある	ない	無回答
全体		1,482	5.5	19.2	73.5	1.8
性・年代別	男性-65～74歳	337	4.2	14.5	80.4	0.9
	男性-75～84歳	240	6.3	18.3	72.1	3.3
	男性-85歳以上	77	10.4	9.1	75.3	5.2
	女性-65～74歳	403	3.7	20.3	75.2	0.7
	女性-75～84歳	312	4.8	24.4	69.2	1.6
	女性-85歳以上	105	14.3	22.9	60.0	2.9

⑤ 転倒に対する不安(問 15)

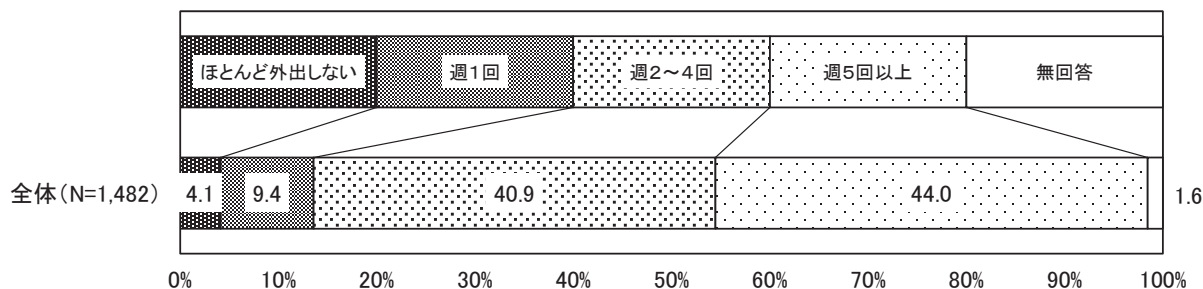
転倒に対する不安は、「やや不安である」(35.9%)が最も高く、「あまり不安でない」(29.4%)、「不安でない」(22.1%)、「とても不安である」(10.9%)の順で続いている。「(あまり)不安でない」(51.5%)のほうが「(とても・やや)不安である」(46.8%)より高くなっている。



⑥ 外出の頻度(問 16)

外出の頻度は、「週5回以上」(44.0%)が最も高く、「週2～4回」(40.9%)、「週1回」(9.4%)、「ほとんど外出しない」(4.1%)の順で続いている。

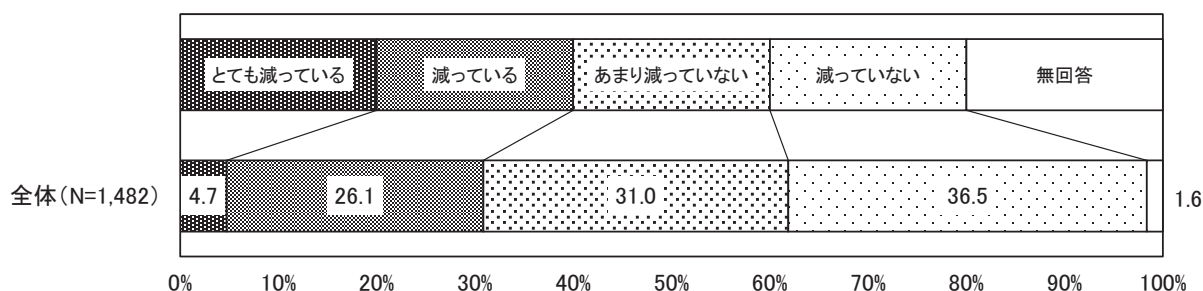
外出の頻度(全体)



⑦ 昨年と比較した外出の頻度(問 17)

昨年と比較した外出の頻度は、「減っていない」(36.5%)が最も高く、「あまり減っていない」(31.0%)、「減っている」(26.1%)、「とても減っている」(4.7%)の順で続いている。

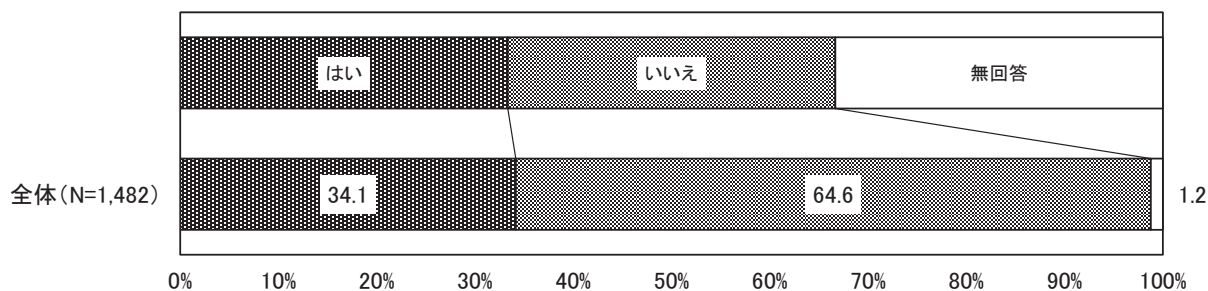
昨年と比較した外出の頻度(全体)



⑧ 外出を控えているか(問 18)

外出を控えているかは、「はい(控えている)」が 34.1%、「いいえ(控えていない)」が 64.6%となっている。

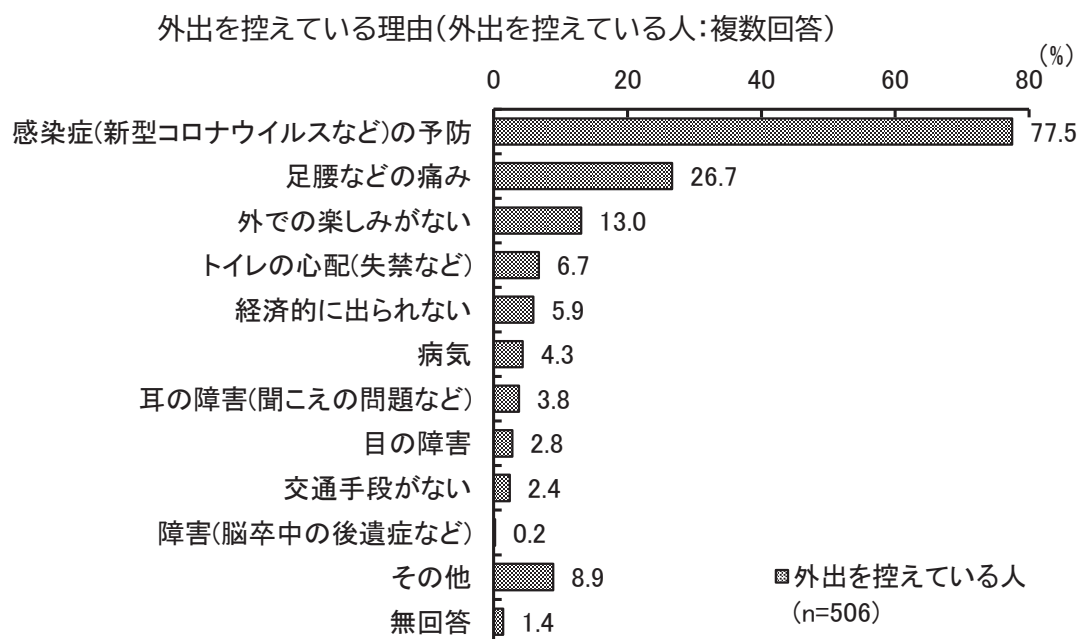
外出を控えているか(全体)



第2章 調査結果

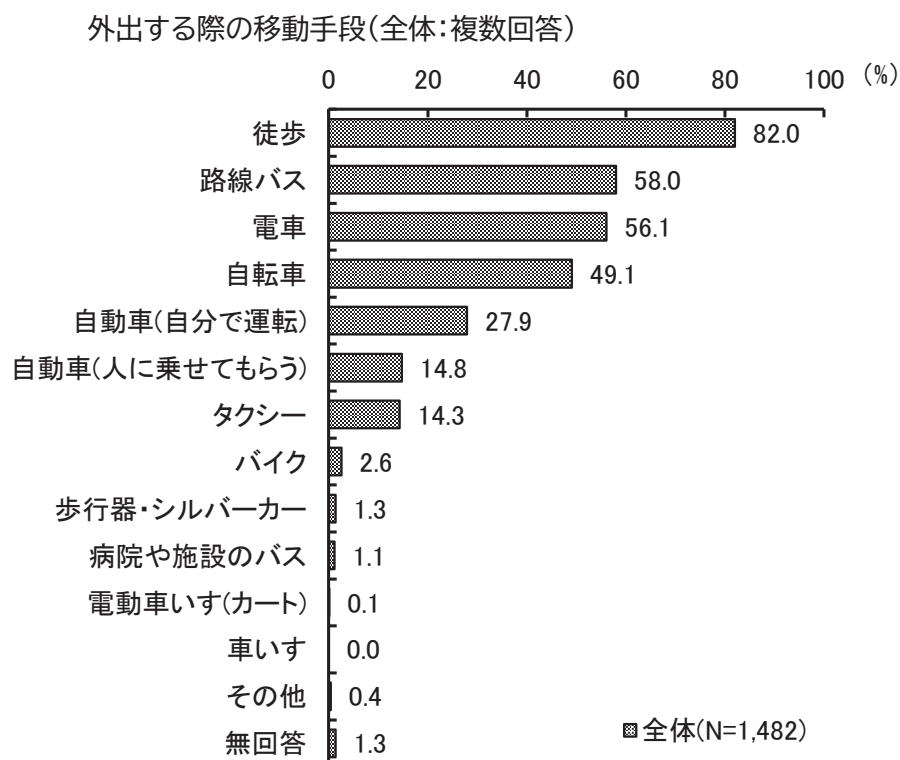
⑨ 外出を控えている理由(問 18-1)

外出を控えている人(問 18 で「はい」と回答した人)にその理由をたずねたところ、「感染症(新型コロナウイルスなど)の予防」(77.5%)が最も高く、「足腰などの痛み」(26.7%)、「外での楽しみがない」(13.0%)の順で続いている。



⑩ 外出する際の移動手段(問 19)

外出する際の移動手段は、「徒歩」(82.0%)が最も高く、「路線バス」(58.0%)、「電車」(56.1%)、「自転車」(49.1%)の順で続いている。

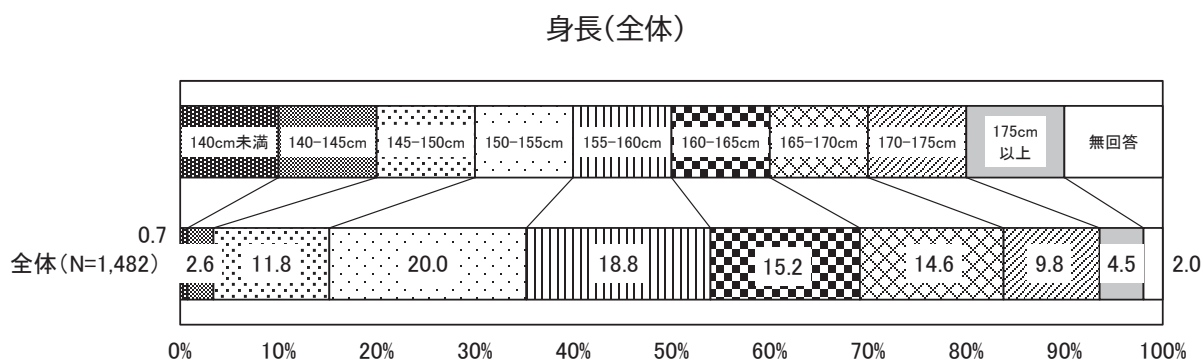


(4) 食事の状況

① 身長・体重(問 20)

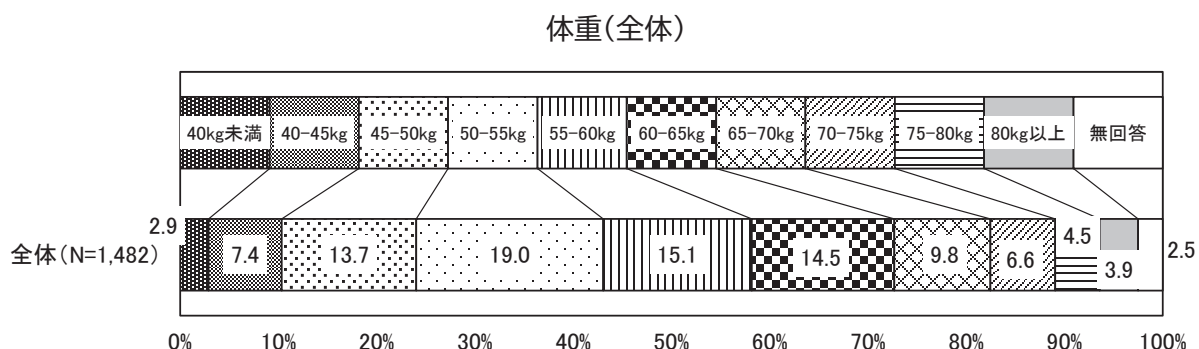
■身長

身長は、「150～155cm」(20.0%)が最も高く、「155～160cm」(18.8%)、「160～165cm」(15.2%)、「165～170cm」(14.6%)の順で続いている。



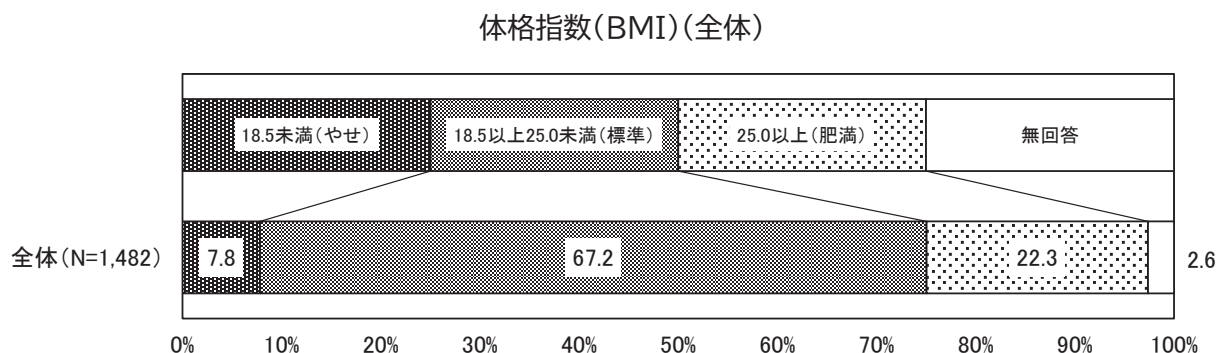
■体重

体重は、「50～55kg」(19.0%)が最も高く、「55～60kg」(15.1%)、「60～65kg」(14.5%)、「45～50kg」(13.7%)の順で続いている。



■体格指数(BMI)

低栄養リスクの指標となる体格指数(BMI=体重(kg)/身長(m)/身長(m))は、「18.5 以上 25.0 未満(標準)」(67.2%)が最も高く、「25.0 以上(肥満)」(22.3%)、「18.5 未満(やせ)」(7.8%)の順で続いている。なお、BMIが 18.5 未満(やせ)の人は、低栄養傾向ありとされる。

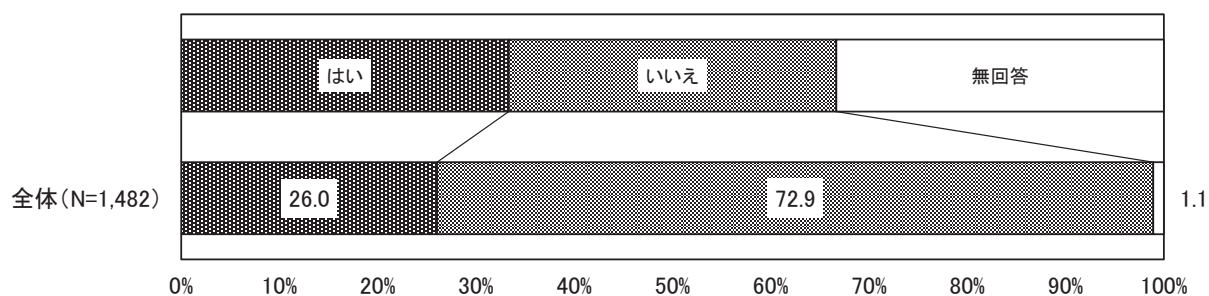


第2章 調査結果

② 半年前に比べ固いものが食べにくくなったか(問 21)

半年前に比べ固いものが食べにくくなったかは、「はい」が 26.0%、「いいえ」が 72.9%となっている。

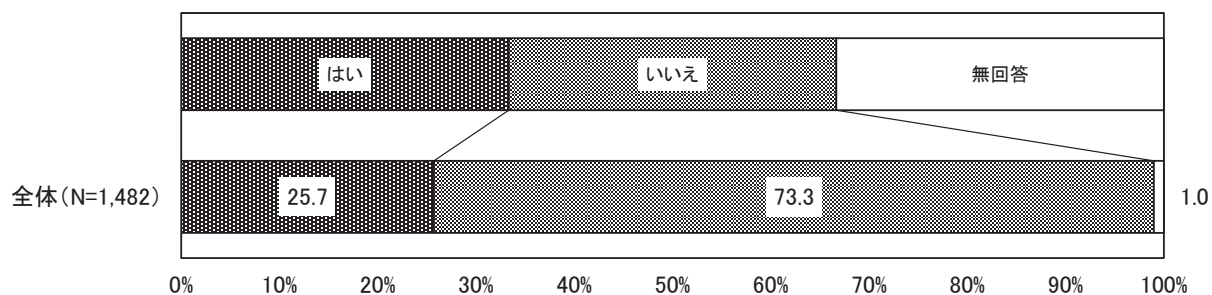
半年前に比べ固いものが食べにくくなったか(全体)



③ お茶や汁物等でむせることがあるか(問 22)

お茶や汁物等でむせることがあるかは、「はい」が 25.7%、「いいえ」が 73.3%となっている。

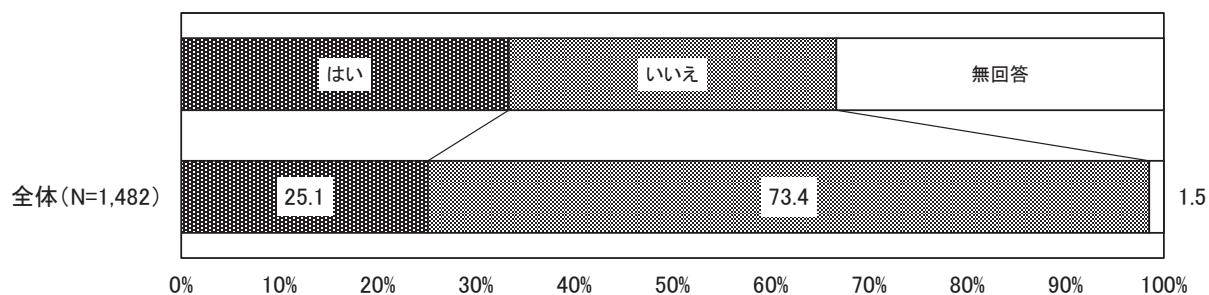
お茶や汁物等でむせることがあるか(全体)



④ 口の渇きが気になるか(問 23)

口の渇きが気になるかは、「はい」が 25.1%、「いいえ」が 73.4%となっている

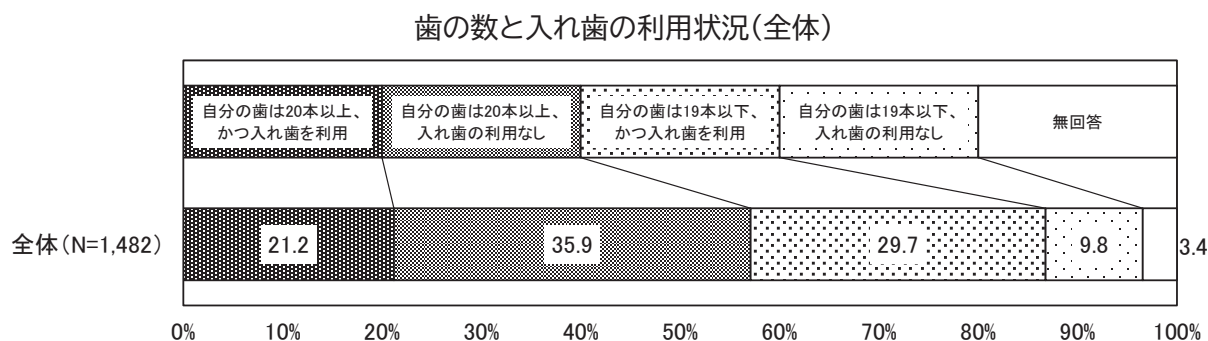
口の渇きが気になるか(全体)



⑤ 歯の数と入れ歯の利用状況(問 24)

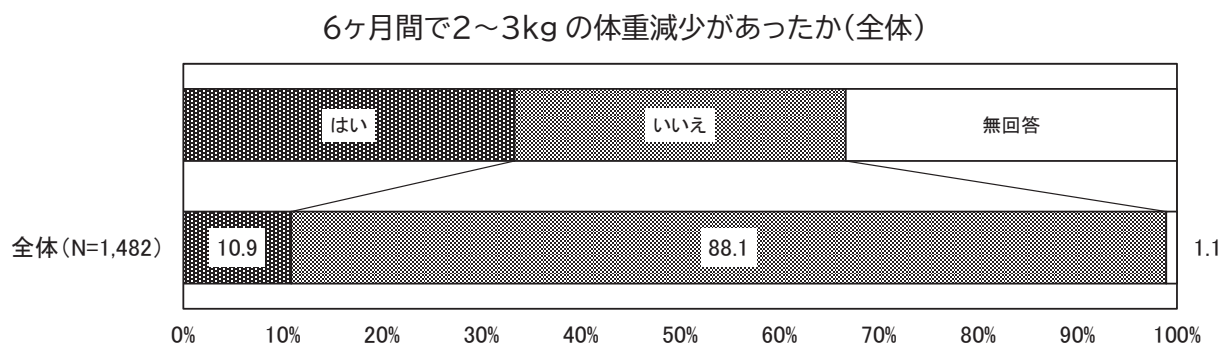
自分の歯が 20 本以上ある人(入れ歯の利用に関わらず「自分の歯は 20 本以上」と回答した人)は 57.1%、自分の歯は 19 本以下の人(入れ歯の利用に関わらず「自分の歯は 19 本以下」と回答した人)は 39.5%となっている。

入れ歯の利用状況は、利用している人(自分の歯の本数に関わらず「入れ歯を利用」と回答した人)が 50.9%、利用していない人(自分の歯の本数に関わらず「入れ歯の利用なし」と回答した人)が 45.7%となっている。



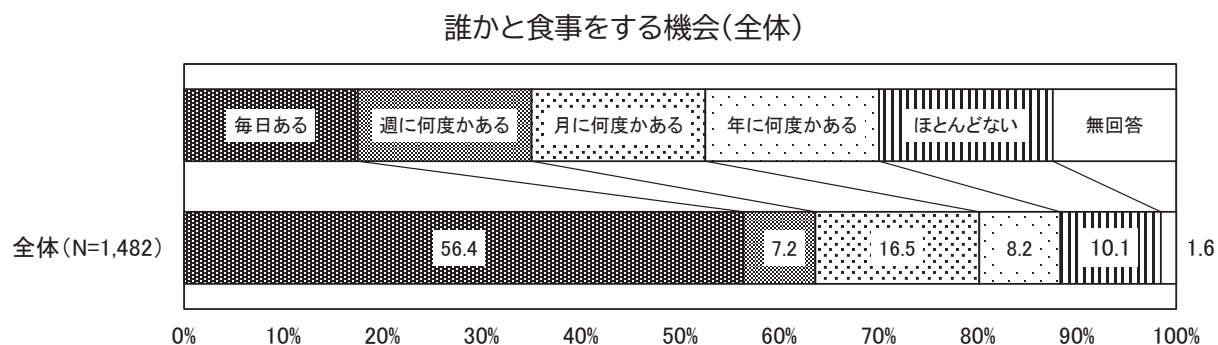
⑥ 6ヶ月間で2～3kgの体重減少があったか(問 25)

6ヶ月間で2～3kgの体重減少があったかは、「はい(あった)」が 10.9%、「いいえ(なかった)」が 88.1%となっている。



⑦ 誰かと食事をする機会(問 26)

誰かと食事をする機会は、「毎日ある」(56.4%)が最も高く、「月に何度かある」(16.5%)、「ほとんどない」(10.1%)、「年に何度かある」(8.2%)、「週に何度かある」(7.2%)の順で続いている。

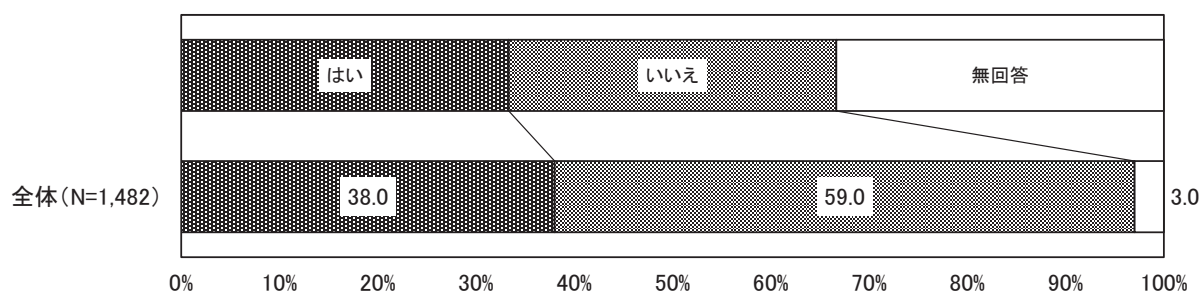


(5)毎日の生活

① 物忘れが多いと感じるか(問 27)

物忘れが多いと感じるかは、「はい」が 38.0%、「いいえ」が 59.0%となっている。

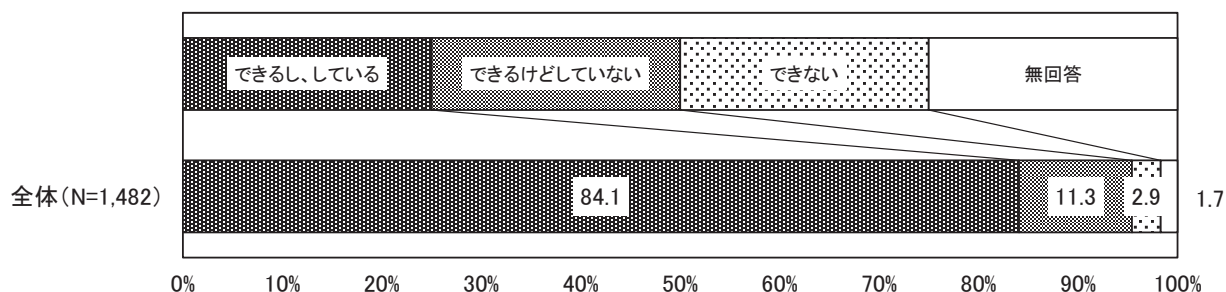
物忘れが多いと感じるか(全体)



② バスや電車を使って1人で外出しているか(問 28)

バスや電車を使って1人で外出しているかは、「できるし、している」が 84.1%、「できるけどしていない」が 11.3%、「できない」が 2.9%となっている。

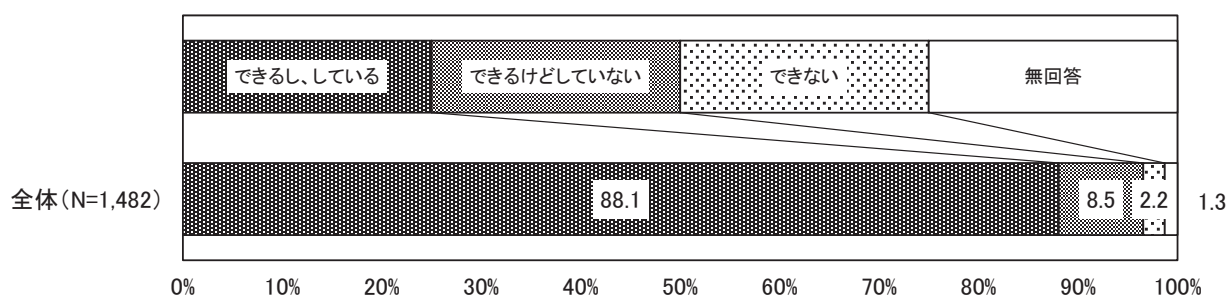
バスや電車を使って1人で外出しているか(全体)



③ 自分で食品・日用品の買物をしているか(問 29)

自分で食品・日用品の買物をしているかは、「できるし、している」が 88.1%、「できるけどしていない」が 8.5%、「できない」が 2.2%となっている。

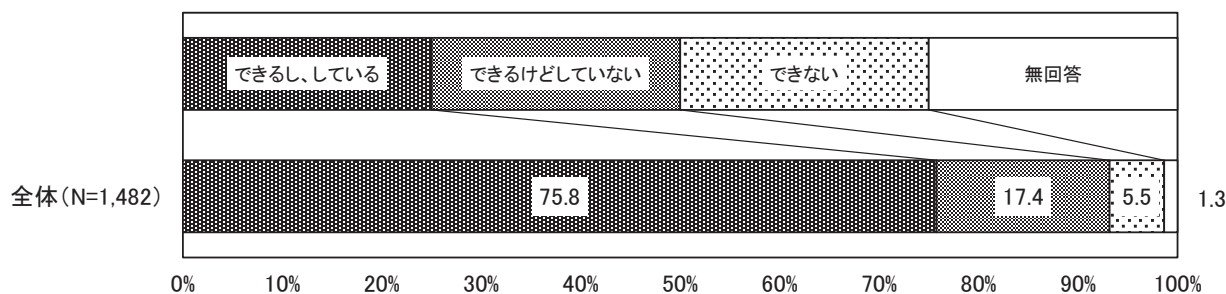
自分で食品・日用品の買物をしているか(全体)



④ 自分で食事の用意をしているか(問 30)

自分で食事の用意をしているかは、「できるし、している」が 75.8%、「できるけどしていない」が 17.4%、「できない」が 5.5%となっている。

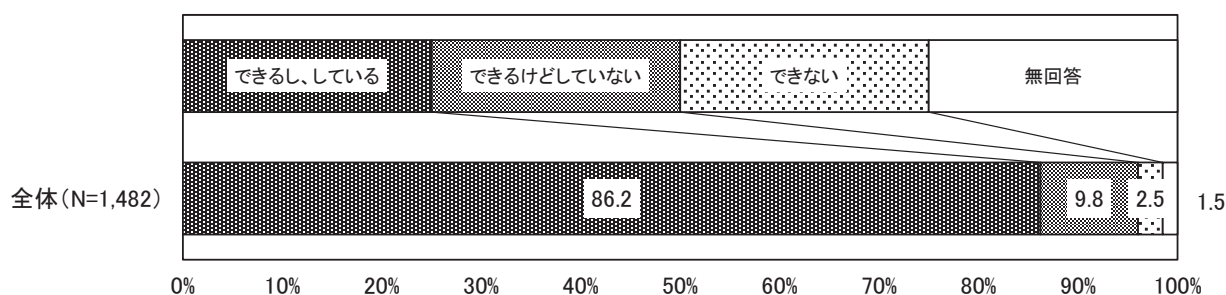
自分で食事の用意をしているか(全体)



⑤ 自分で請求書の支払いをしているか(問 31)

自分で請求書の支払いをしているかは、「できるし、している」が 86.2%、「できるけどしていない」が 9.8%、「できない」が 2.5%となっている。

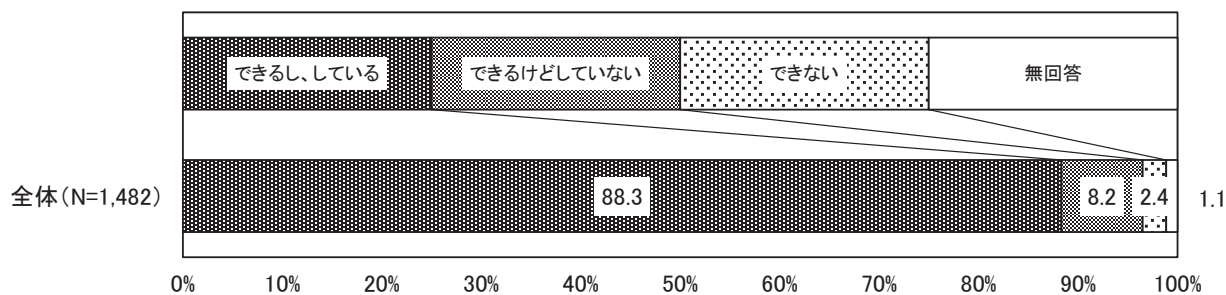
自分で請求書の支払いをしているか(全体)



⑥ 自分で預貯金の出し入れをしているか(問 32)

自分で預貯金の出し入れをしているかは、「できるし、している」が 88.3%、「できるけどしていない」が 8.2%、「できない」が 2.4%となっている。

自分で預貯金の出し入れをしているか(全体)

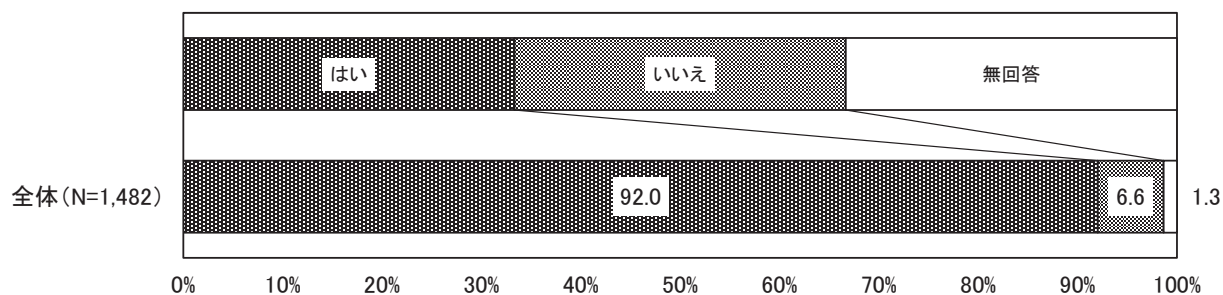


第2章 調査結果

⑦ 年金などの書類が書けるか(問 33)

年金などの書類が書けるかは、「はい」が 92.0%、「いいえ」が 6.6%となっている。

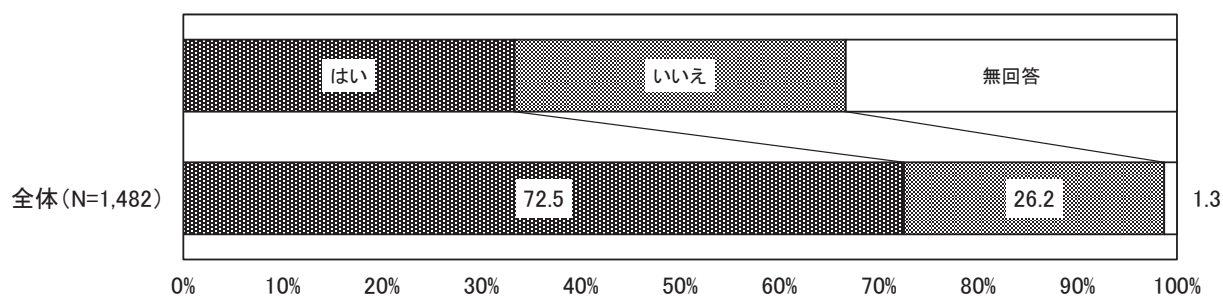
年金などの書類が書けるか(全体)



⑧ 新聞を読んでいるか(問 34)

新聞を読んでいるかは、「はい」が 72.5%、「いいえ」が 26.2%となっている。

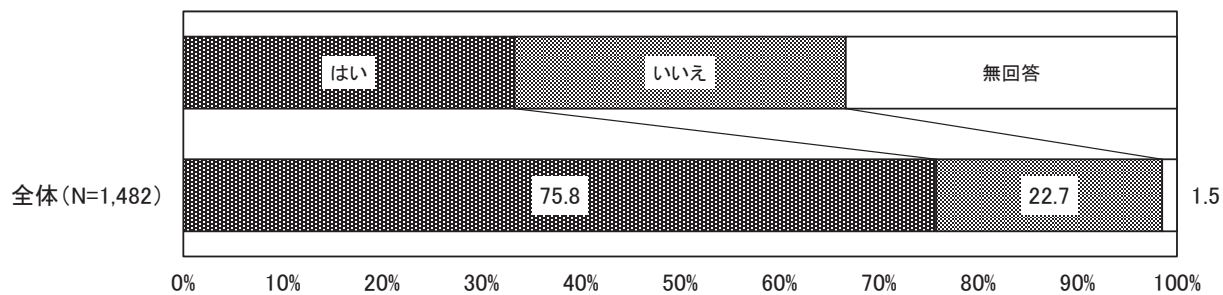
新聞を読んでいるか(全体)



⑨ 本や雑誌を読んでいるか(問 35)

本や雑誌を読んでいるかは、「はい」が 75.8%、「いいえ」が 22.7%となっている。

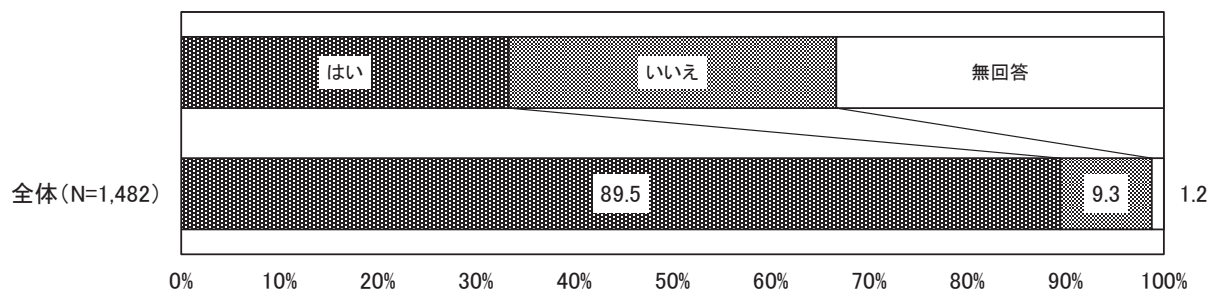
本や雑誌を読んでいるか(全体)



⑩ 健康についての記事や番組に関心があるか(問 36)

健康についての記事や番組に関心があるかは、「はい」が 89.5%、「いいえ」が 9.3%となっている。

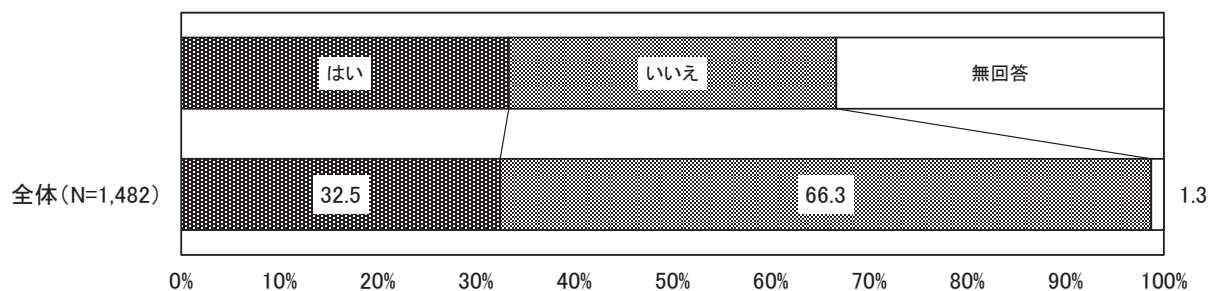
健康についての記事や番組に関心があるか(全体)



⑪ 友人の家を訪ねているか(問 37)

友人の家を訪ねているかは、「はい」が 32.5%、「いいえ」が 66.3%となっている。

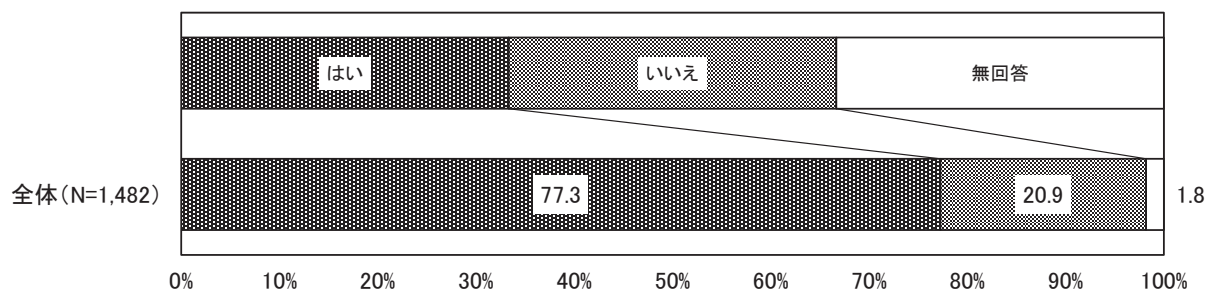
友人の家を訪ねているか(全体)



⑫ 家族や友人の相談にのっているか(問 38)

家族や友人の相談にのっているかは、「はい」が 77.3%、「いいえ」が 20.9%となっている。

家族や友人の相談にのっているか(全体)

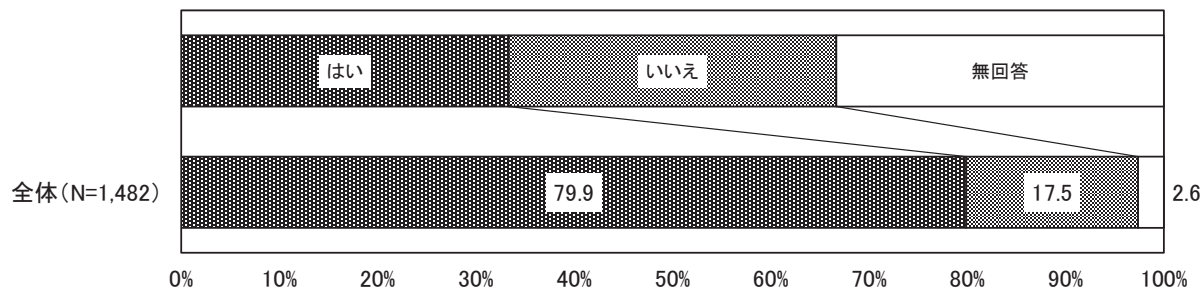


第2章 調査結果

⑬ 病人を見舞うことができるか(問 39)

病人を見舞うことができるかは、「はい」が79.9%、「いいえ」が17.5%となっている。

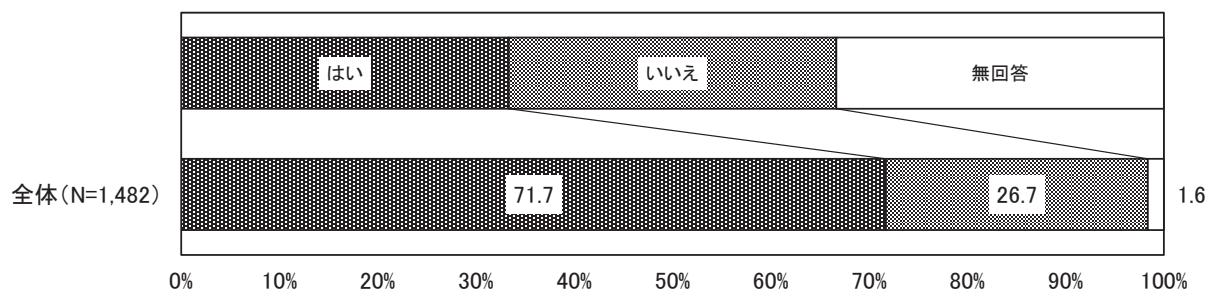
病人を見舞うことができるか(全体)



⑭ 若い人に自分から話しかけることがあるか(問 40)

若い人に自分から話しかけることがあるかは、「はい」が71.7%、「いいえ」が26.7%となっている。

若い人に自分から話しかけることがあるか(全体)

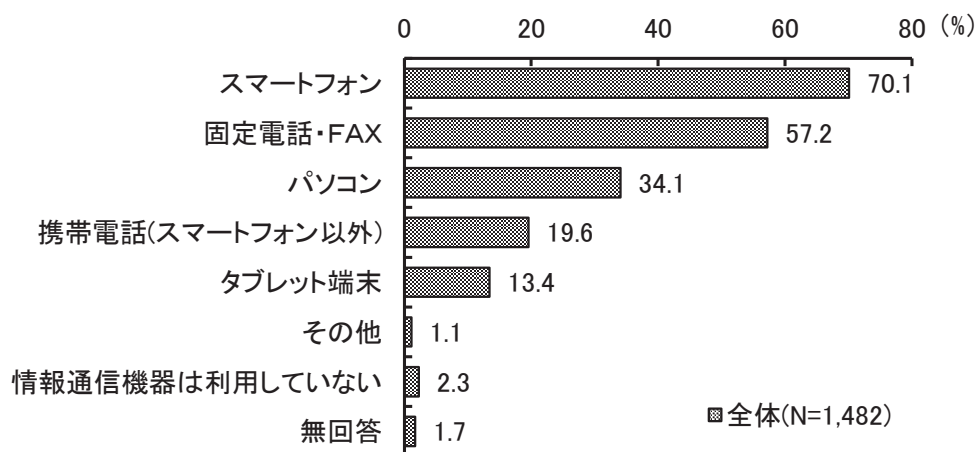


⑮ 使用している情報通信機器(問 41)

使用している情報通信機器としては、「スマートフォン」(70.1%)が最も高く、「固定電話・FAX」(57.2%)、「パソコン」(34.1%)、「携帯電話(スマートフォン以外)」(19.6%)の順で続いている。

性・年代別にみると、男女ともに「スマートフォン」、「パソコン」、「タブレット端末」は年代が低いほど高率になる傾向がある。

使用している情報通信機器(全体:複数回答)



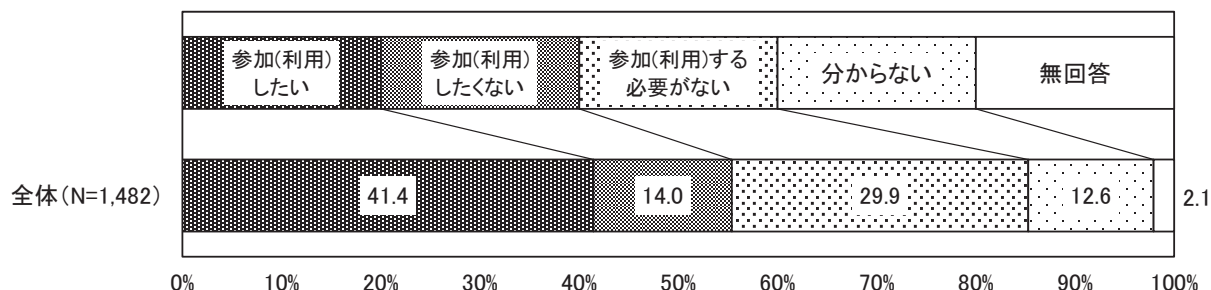
使用している情報通信機器(全体、性・年代別)

		(人、%)								
		回答者数	スマートフォン	固定電話・FAX	パソコン	携帯電話(スマートフォン以外)	タブレット端末	その他	情報通信機器は利用していない	無回答
全体		1,482	70.1	57.2	34.1	19.6	13.4	1.1	2.3	1.7
性・年代別	男性-65~74歳	337	85.5	46.9	59.9	12.8	18.1	1.2	0.9	1.5
	男性-75~84歳	240	61.3	58.8	40.8	28.8	12.1	1.3	2.5	1.3
	男性-85歳以上	77	46.8	67.5	35.1	15.6	6.5	1.3	9.1	3.9
	女性-65~74歳	403	82.4	53.3	30.8	15.1	19.1	1.2	0.7	1.0
	女性-75~84歳	312	65.4	67.9	13.5	23.1	7.4	1.0	3.2	0.6
	女性-85歳以上	105	27.6	65.7	8.6	31.4	3.8	1.0	3.8	4.8

⑩ 情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向(問 42)

情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向は、「参加(利用)したい」(41.4%)が最も高く、「参加(利用)する必要がない」(29.9%)、「参加(利用)したくない」(14.0%)、「分からない」(12.6%)の順で続いている。

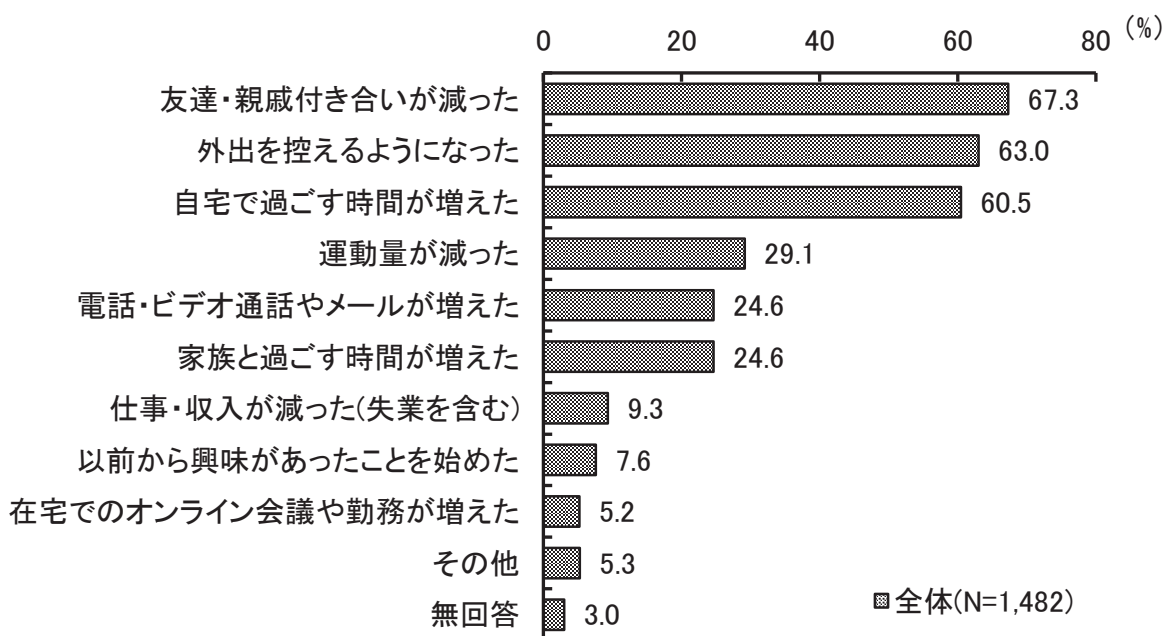
情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向(全体)



⑪ コロナ禍による生活の変化(問 43)

コロナ禍による生活の変化としては、「友達・親戚付き合いが減った」(67.3%)、「外出を控えるようになった」(63.0%)、「自宅で過ごす時間が増えた」(60.5%)がそれぞれ6割を超えて高くなっている。

コロナ禍による生活の変化(全体:複数回答)



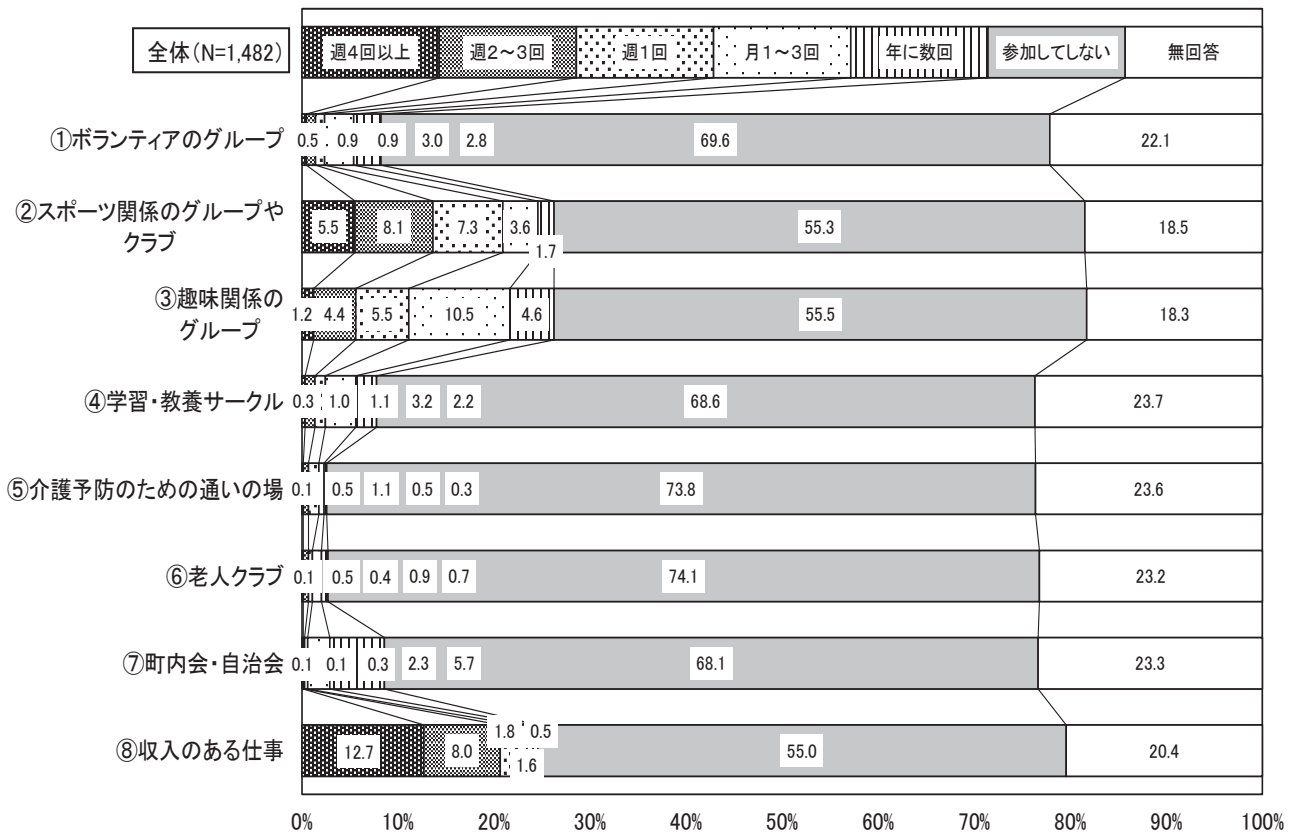
(6)地域での活動

① 地域での活動への参加頻度(問 44)

地域での活動への参加頻度は、8つの活動すべて「参加していない」が最も高くなっている。

参加している人が多い活動は『趣味関係のグループ』で、頻度は「月1～3回」(10.5%)が最も高くなっている。比較的多い『スポーツ関係のグループやクラブ』への参加頻度は、「週2～3回」(8.1%)が高く、『収入のある仕事』では「週4回以上」(12.7%)が高くなっている。

地域での活動への参加頻度(全体)



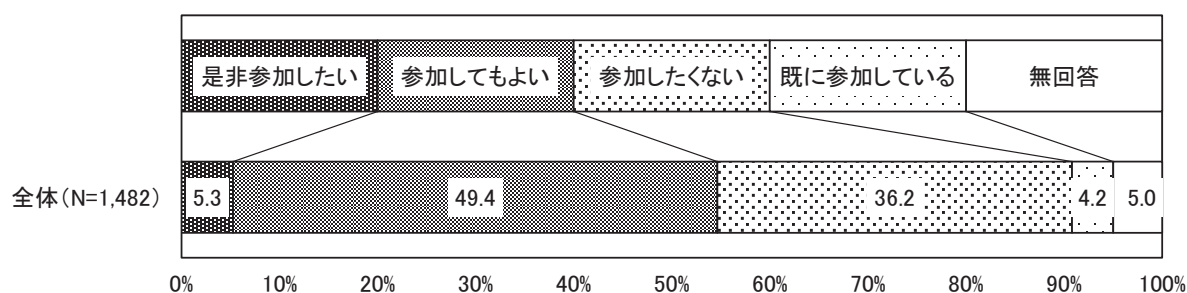
第2章 調査結果

② 地域活動への参加者としての参加意向(問 45)

地域活動への参加者としての参加意向は、「参加してもよい」(49.4%)が最も高く、「参加したくない」(36.2%)、「是非参加したい」(5.3%)、「既に参加している」(4.2%)の順で続いている。参加に前向きな人(「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」と回答した人)が半数以上となっている。

性・年代別にみると、男女ともに「参加してもよい」の割合は、年代が高いほど低くなっている。

地域活動への参加者としての参加意向(全体)



地域活動への参加者としての参加意向(全体、性・年代別)

(人、%)

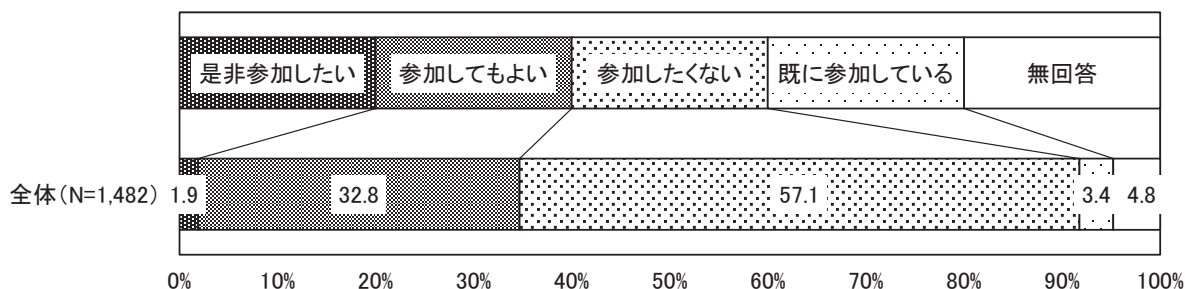
		回答者数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体		1,482	5.3	49.4	36.2	4.2	5.0
性・年代別	男性-65～74歳	337	2.7	56.4	38.0	1.5	1.5
	男性-75～84歳	240	3.8	47.5	38.8	5.0	5.0
	男性-85歳以上	77	2.6	35.1	48.1	6.5	7.8
	女性-65～74歳	403	5.0	54.3	33.5	4.5	2.7
	女性-75～84歳	312	10.9	46.2	30.4	5.8	6.7
	女性-85歳以上	105	3.8	31.4	42.9	3.8	18.1

③ 地域活動への企画・運営としての参加意向(問 46)

地域活動への企画・運営としての参加意向は、「参加したくない」(57.1%)が最も高く、「参加してもよい」(32.8%)、「既に参加している」(3.4%)、「是非参加したい」(1.9%)の順で続いている。

参加に前向きな人(「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」と回答した人)の割合は4割を切っている。

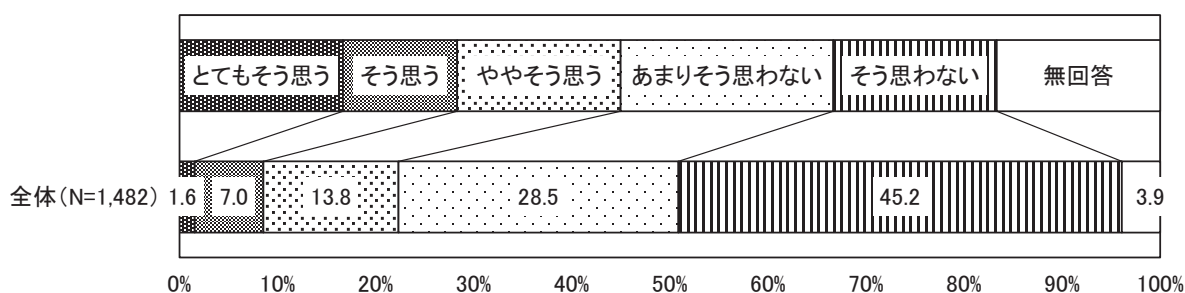
地域活動への企画・運営としての参加意向(全体)



④ 地域の方から何らかの役割を期待されたり、頼りにされているか(問 47)

地域の方から何らかの役割を期待されたり、頼りにされているかは、「そう思わない」(45.2%)が最も高く、「あまりそう思わない」(28.5%)、「ややそう思う」(13.8%)、「そう思う」(7.0%)、「とてもそう思う」(1.6%)の順で続いている。

地域の方から何らかの役割を期待されたり、頼りにされているか(全体)

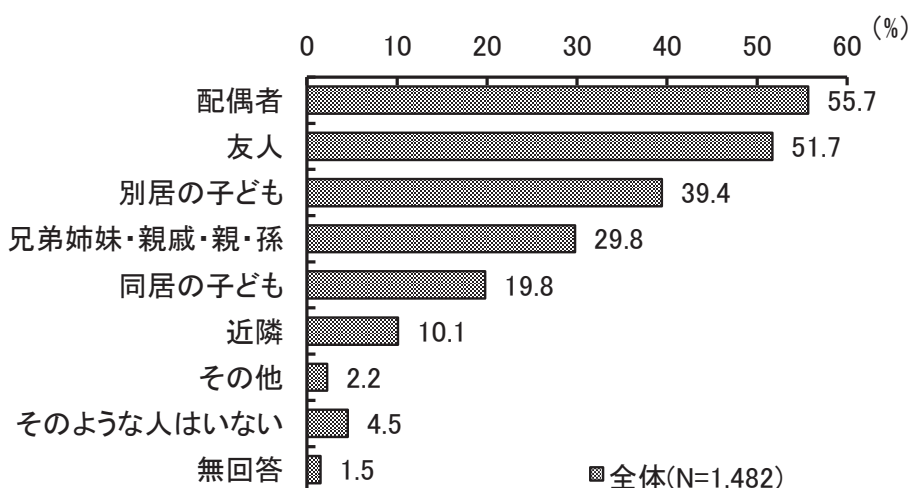


(7) 助け合い

① 心配事や愚痴を聞いてくれる人(問 48)

心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者」(55.7%)が最も高く、「友人」(51.7%)、「別居の子ども」(39.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(29.8%)の順で続いている。

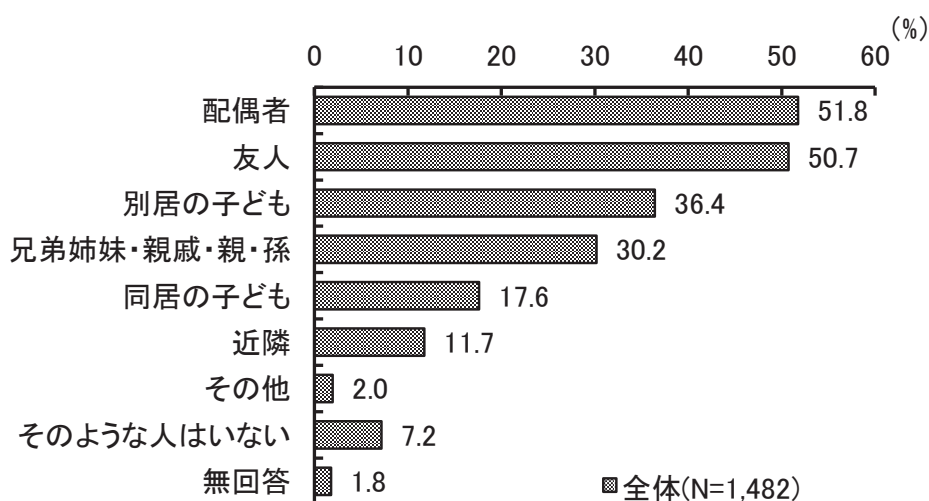
心配事や愚痴を聞いてくれる人(全体:複数回答)



② 心配事や愚痴を聞いてあげる人(問 49)

心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「配偶者」(51.8%)が最も高く、「友人」(50.7%)、「別居の子ども」(36.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(30.2%)の順で続いている。

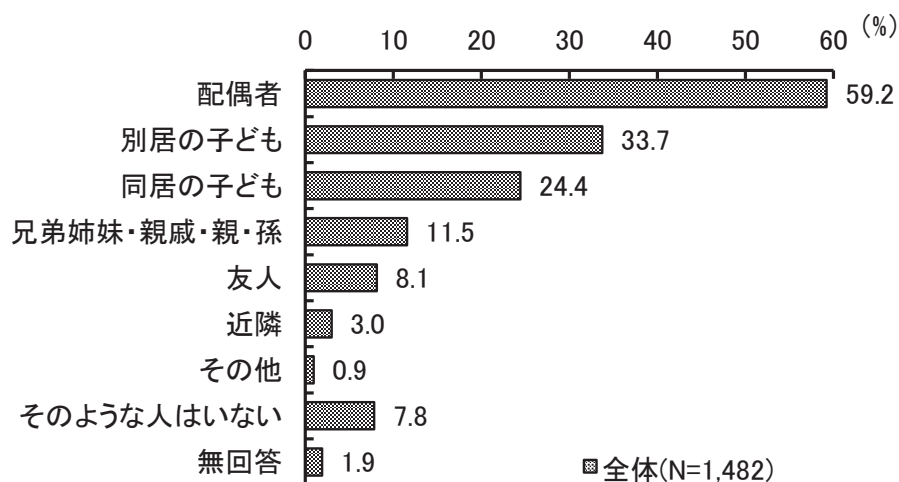
心配事や愚痴を聞いてあげる人(全体:複数回答)



③ 看病や世話をしてくれる人(問 50)

看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」(59.2%)が最も高く、「別居の子ども」(33.7%)、「同居の子ども」(24.4%)の順で続いている。

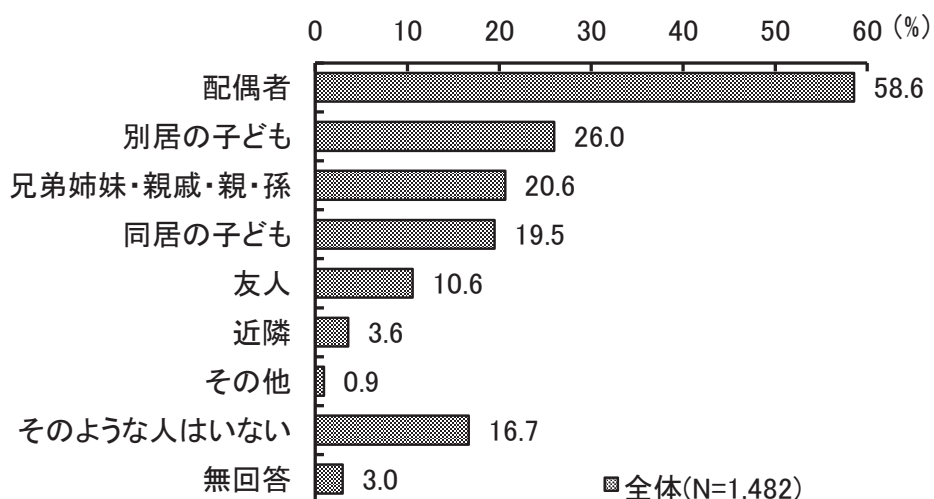
看病や世話をしてくれる人(全体:複数回答)



④ 看病や世話をしてあげる人(問 51)

看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」(58.6%)が最も高く、「別居の子ども」(26.0%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(20.6%)の順で続いている。

看病や世話をしてあげる人(全体:複数回答)

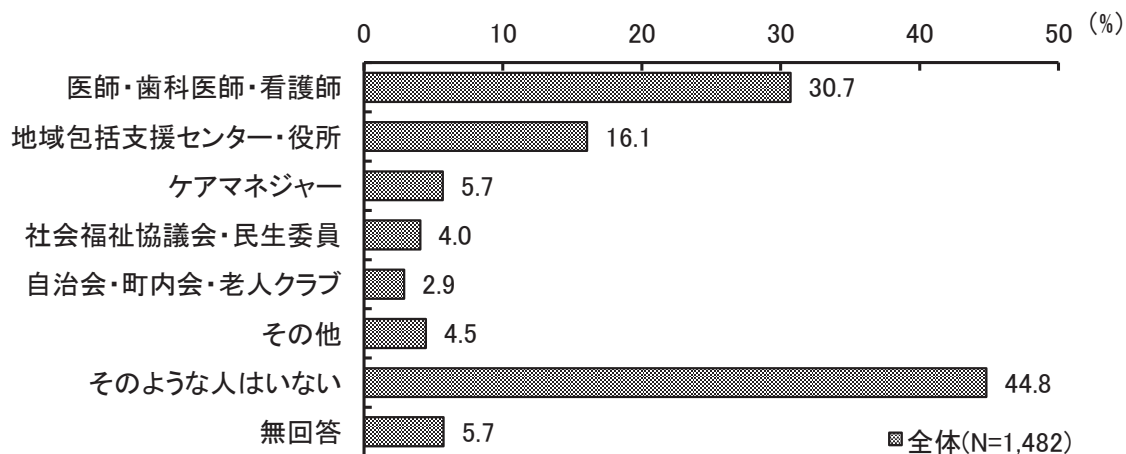


第2章 調査結果

⑤ 何かあった時に相談する相手(問 52)

何かあった時に相談する相手は、「そのような人はいない」(44.8%)が最も高く、「医師・歯科医師・看護師」(30.7%)、「地域包括支援センター・役所」(16.1%)の順で続いている。

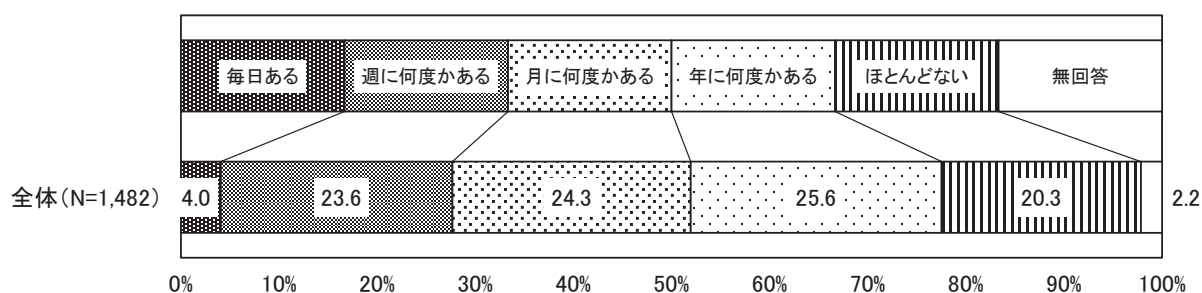
何かあった時に相談する相手(全体:複数回答)



⑥ 友人・知人と会う頻度(問 53)

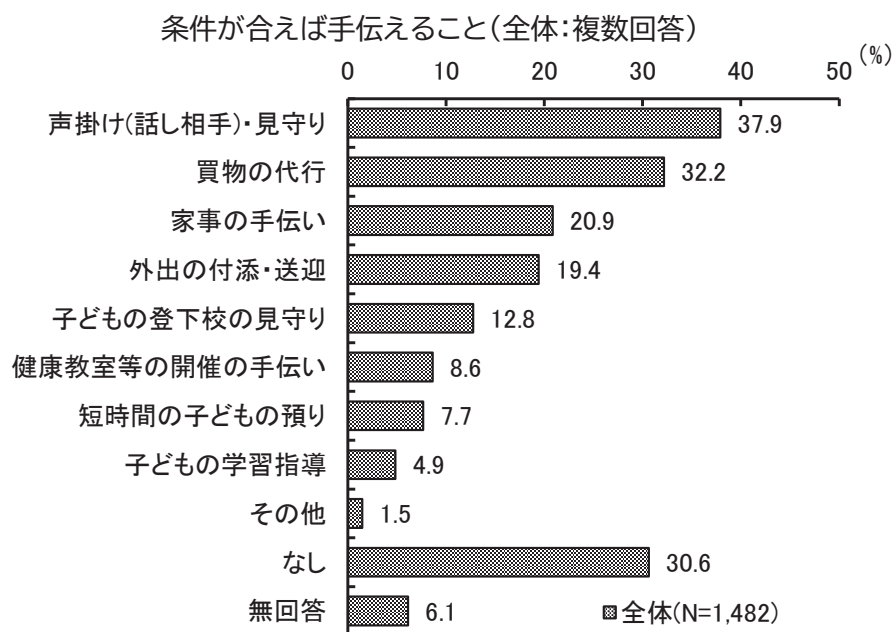
友人・知人と会う頻度は、「年に何度かある」(25.6%)が最も高く、「月に何度かある」(24.3%)、「週に何度かある」(23.6%)、「ほとんどない」(20.3%)の順で続いている。

友人・知人と会う頻度(全体)



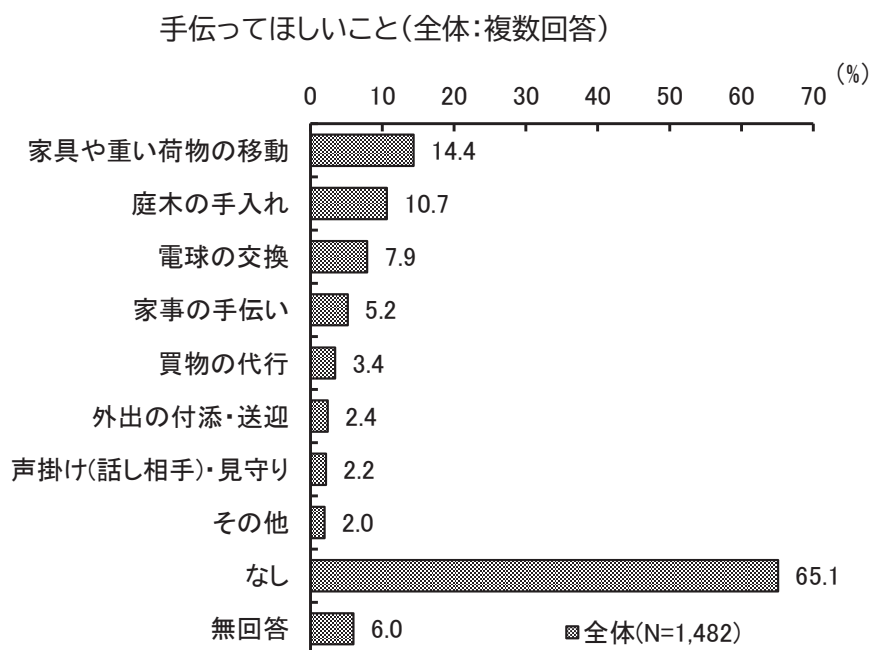
⑦ 条件が合えば手伝えること(問 54)

条件が合えば困っている人を手伝えることは、「声掛け(話し相手)・見守り」(37.9%)が最も高く、「買物の代行」(32.2%)、「家事の手伝い」(20.9%)、「外出の付添・送迎」(19.4%)の順で続いている。



⑧ 手伝ってほしいこと(問 55)

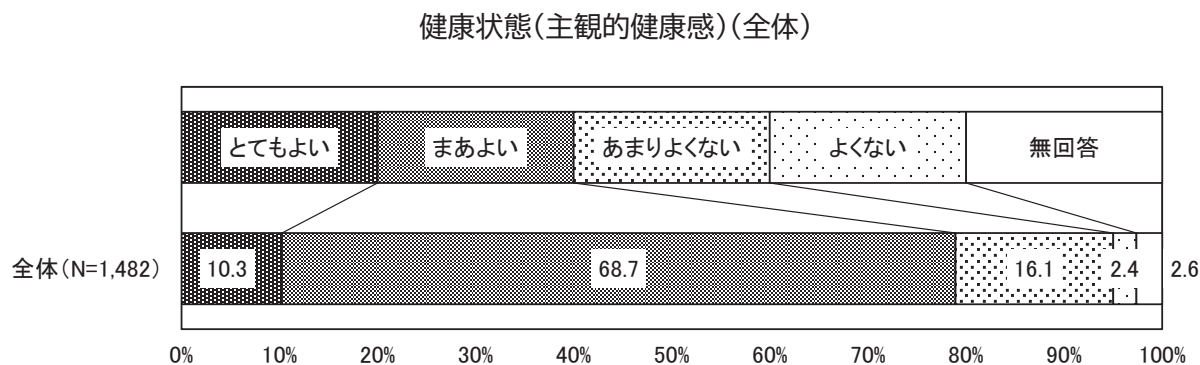
手伝ってほしいことは、「なし」(65.1%)が最も高く、「家具や重い荷物の移動」(14.4%)、「庭木の手入れ」(10.7%)の順で続いている。



(8)健康管理・予防

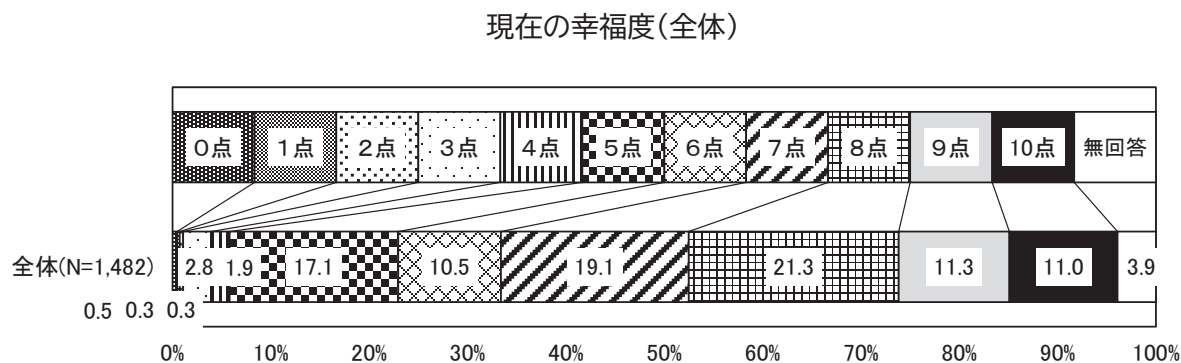
① 健康状態(主観的健康感)(問 56)

健康状態(主観的健康感)は、「まあよい」(68.7%)が最も高く、「あまりよくない」(16.1%)、「とともよい」(10.3%)、「よくない」(2.4%)の順で続いている。



② 現在の幸福度(問 57)

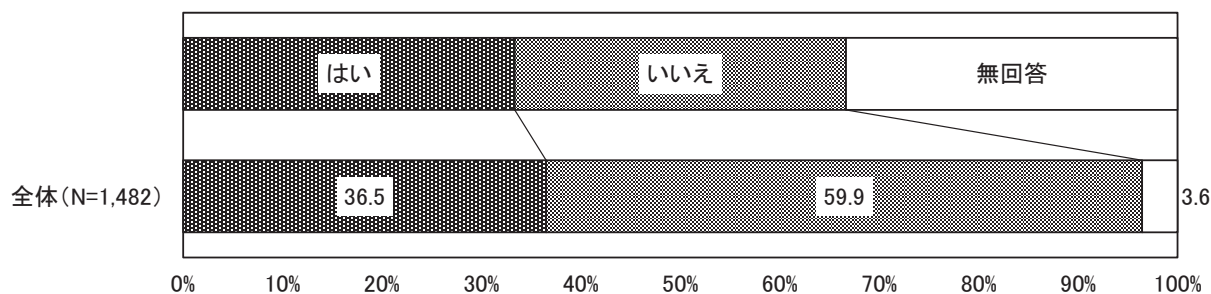
主観的な幸福度としての幸福度(ととも不幸を0点、ととも幸せを10点とした場合の評価)は、「8点」(21.3%)が最も高く、「7点」(19.1%)、「5点」(17.1%)の順で続いている。



③ この1か月で気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあるか(問 58)

この1か月で気分が沈んだりゆううつな気持ちになったことがあるかは、「はい」が 36.5%、「いいえ」が 59.9%となっている。

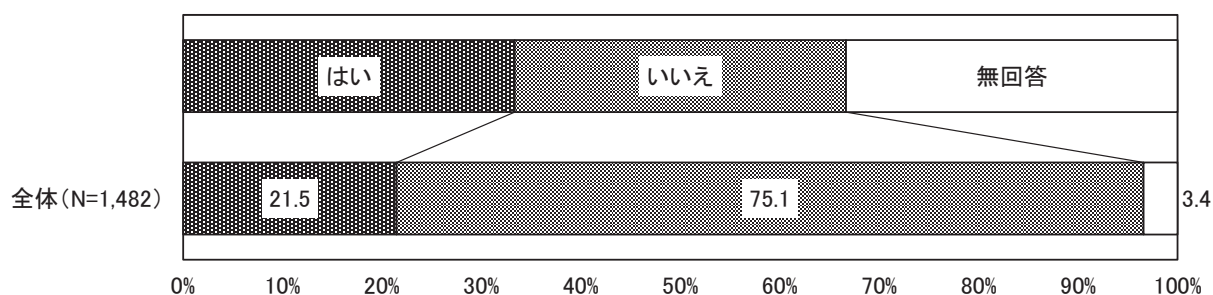
この1か月で気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったことがあるか(全体)



④ この1か月で物事に興味がわかない、楽しめないことがあったか(問 59)

この1か月で物事に興味がわかない、楽しめないことがあったかは、「はい」が 21.5%、「いいえ」が 75.1%となっている。

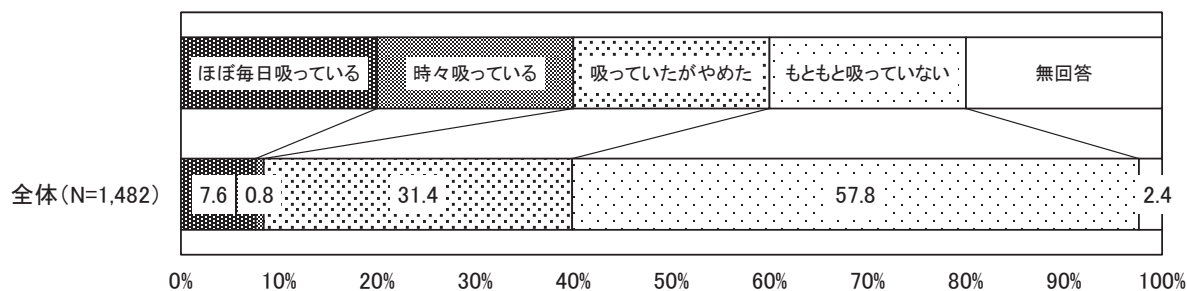
この1か月で物事に興味がわかない、楽しめないことがあったか(全体)



⑤ 喫煙習慣の有無(問 60)

喫煙習慣の有無は、「もともと吸っていない」(57.8%)が最も高く、「吸っていたがやめた」(31.4%)、「ほぼ毎日吸っている」(7.6%)、「時々吸っている」(0.8%)の順で続いている。

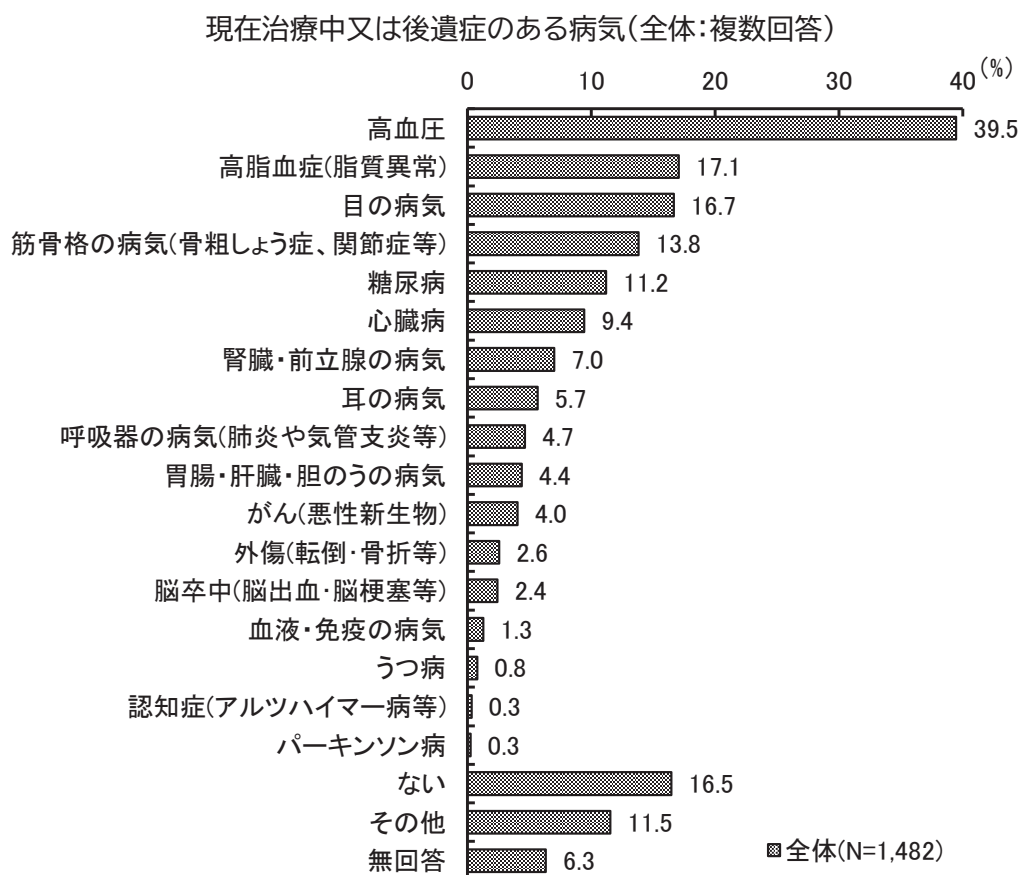
喫煙習慣の有無(全体)



第2章 調査結果

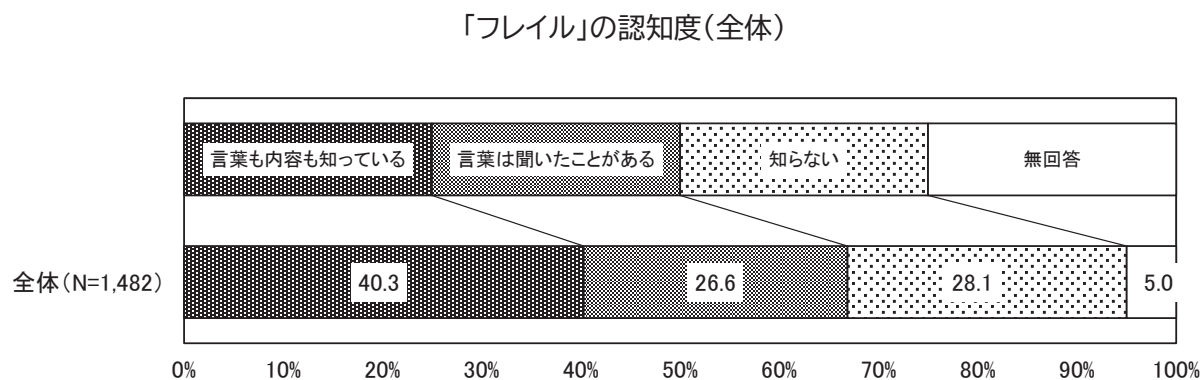
⑥ 現在治療中又は後遺症のある病気(問 61)

現在治療中又は後遺症のある病気は、「高血圧」(39.5%)が最も高く、「高脂血症(脂質異常)」(17.1%)、「目の病気」(16.7%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(13.8%)の順で続いている。



⑦ 「フレイル」の認知度(問 62)

フレイルの認知度は、「言葉も内容も知っている」が 40.3%、「言葉は聞いたことがある」が 26.6%であり、66.9%が言葉を聞いたことがあると回答している。「知らない」は 28.1%となっている。



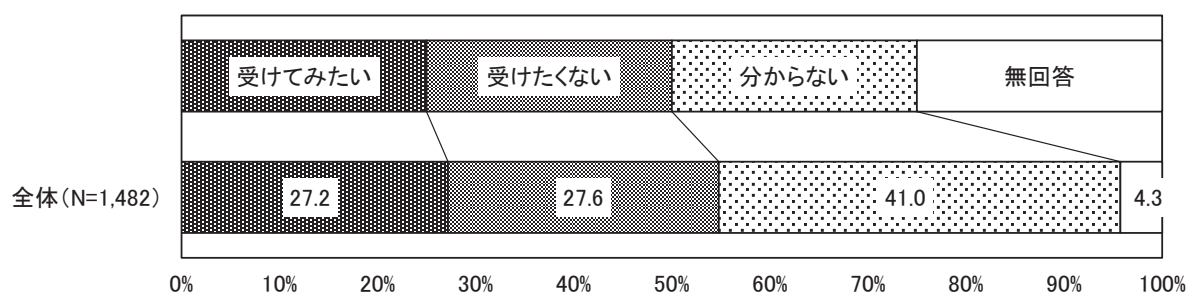
⑧ フレイルチェックの利用意向(問 63)

フレイルチェックの利用意向は、「分からない」が 41.0%で最も高いものの、次いで「受けたくない」が 27.6%、「受けてみたい」が 27.2%となっている。

性・年代別にみると、女性では「受けてみたい」は年代が低いほど高率になっており、【女性 85歳以上】(21.0%)では約2割なのに対し、【女性 65～74歳】(31.5%)では約3割となっている。

居住圏域別にみると、【北東部圏域】では「受けてみたい」(30.9%)が約3割を占めており、他の圏域に比べ若干高くなっている。

フレイルチェックの利用意向(全体)



フレイルチェックの利用意向(全体、性・年代別、居住圏域別)

		(人、%)				
		回答者数	受けてみたい	受けたくない	分からない	無回答
全体		1,482	27.2	27.6	41.0	4.3
性・年代別	男性-65～74歳	337	23.7	30.3	44.2	1.8
	男性-75～84歳	240	23.3	27.9	43.3	5.4
	男性-85歳以上	77	35.1	27.3	32.5	5.2
	女性-65～74歳	403	31.5	26.6	39.5	2.5
	女性-75～84歳	312	29.2	22.8	40.7	7.4
	女性-85歳以上	105	21.0	35.2	41.0	2.9
居住圏域別	中部圏域	377	24.4	26.8	45.1	3.7
	南部圏域	369	27.4	28.7	39.3	4.6
	西部圏域	379	26.4	25.9	43.5	4.2
	北東部圏域	349	30.9	28.4	36.4	4.3

第2章 調査結果

⑨ 短期集中サービスの利用意向(問 64)

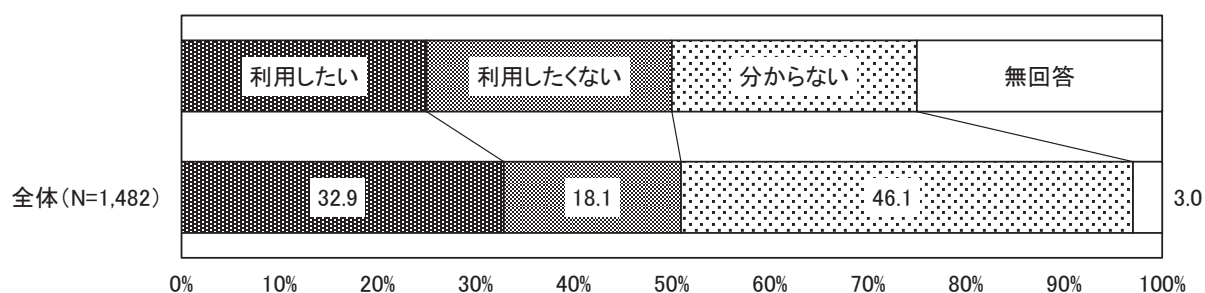
短期集中サービスの利用意向は、「分からない」が 46.1%で最も高いものの、「利用したい」が 32.9%、「利用したくない」が 18.1%となっている。

性・年代別にみると、「利用したい」は男性では年代が高いほど高率になる傾向がみられ、逆に女性では、年代が高いほど低率になる傾向がみられる。

認定状況別にみると、要支援者で「利用したい」(38.5%)が4割近くとなっている。

居住圏域別にみると、「利用したい」は、他の圏域では3割を超えているが、【西部圏域】(29.6%)では3割に満たない。

短期集中サービスの利用意向(全体)



短期集中サービスの利用意向(全体、性・年代別、認定状況別、居住圏域別)

		(人、%)				
		回答者数	利用したい	利用したくない	分からない	無回答
全体		1,482	32.9	18.1	46.1	3.0
性・年代別	男性-65～74歳	337	26.1	23.7	49.3	0.9
	男性-75～84歳	240	30.8	16.3	47.9	5.0
	男性-85歳以上	77	33.8	16.9	46.8	2.6
	女性-65～74歳	403	42.4	13.9	41.9	1.7
	女性-75～84歳	312	32.1	15.7	47.8	4.5
	女性-85歳以上	105	23.8	27.6	45.7	2.9
認定状況別	認定なし	1,286	33.9	18.4	44.9	2.9
	要支援	65	38.5	16.9	41.5	3.1
	事業対象者	7	28.6	14.3	57.1	0.0
居住圏域別	中部圏域	377	34.5	16.4	45.4	3.7
	南部圏域	369	32.2	19.8	45.5	2.4
	西部圏域	379	29.6	17.2	50.1	3.2
	北東部圏域	349	35.2	18.3	44.1	2.3

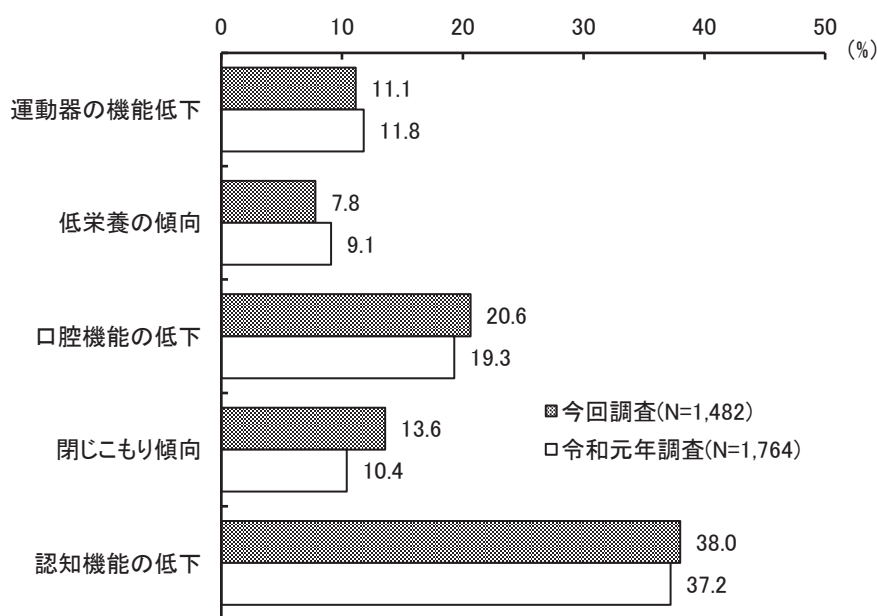
⑩ 介護予防リスクのある人の割合

今回の調査に含まれる質問への回答から介護予防リスクのある人の割合を算出した。「運動器の機能低下」が11.1%、「低栄養の傾向」が7.8%、「口腔機能の低下」が20.6%、「閉じこもり傾向」が13.6%などとなっている。

前回の調査結果と比較すると、「閉じこもり傾向」が 3.2 ポイント増加しており、コロナ禍で外出を控えている高齢者が多いことがうかがえる。

今回調査について、性・年代別にみると、ほぼ全ての項目で男女ともに年代が高いほど高率になる傾向がみられる。特に【女性 85 歳以上】では「運動器の機能低下」(40.0%)、「口腔機能の低下」(39.0%)ともに約4割を占め、また「認知機能の低下」(52.4%)では過半数を占めているのが特徴である。

介護予防リスクのある人の割合(全体)【前回比較】



介護予防リスクのある人の割合(全体、性・年代別)

(人、%)

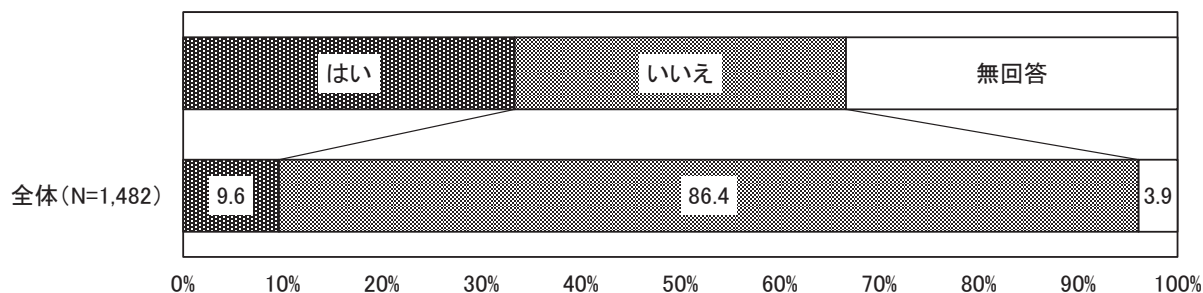
		回答者数	運動器の機能低下 (%)	低栄養の傾向 (%)	口腔機能の低下 (%)	閉じこもり傾向 (%)	認知機能の低下 (%)
全体		1,482	11.1	7.8	20.6	13.6	38.0
性・年代別	男性-65～74歳	337	4.2	3.9	14.2	9.5	30.9
	男性-75～84歳	240	7.5	3.8	19.2	14.6	37.1
	男性-85歳以上	77	26.0	13.0	31.2	27.3	39.0
	女性-65～74歳	403	5.2	8.4	16.9	8.2	37.5
	女性-75～84歳	312	15.7	10.9	24.7	12.8	42.3
	女性-85歳以上	105	40.0	14.3	39.0	37.1	52.4

(9) 認知症

① 認知症の症状の有無、家族に認知症の症状がある人がいるか(問 65)

本人を含む家族に認知症の症状のある人がいるかは、「はい」が9.6%、「いいえ」が86.4%となっている。

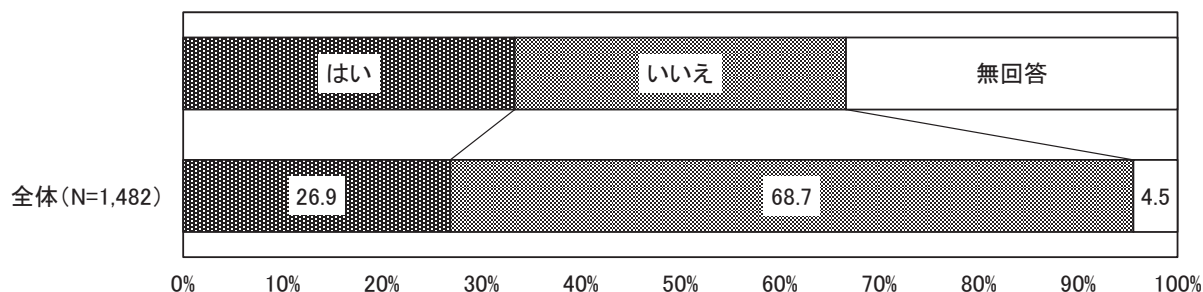
認知症の症状の有無、家族に認知症の症状がある人がいるか(全体)



② 認知症に関する相談窓口の認知度(問 66)

認知症に関する相談窓口を知っているかは、「はい」が26.9%、「いいえ」が68.7%となっている。

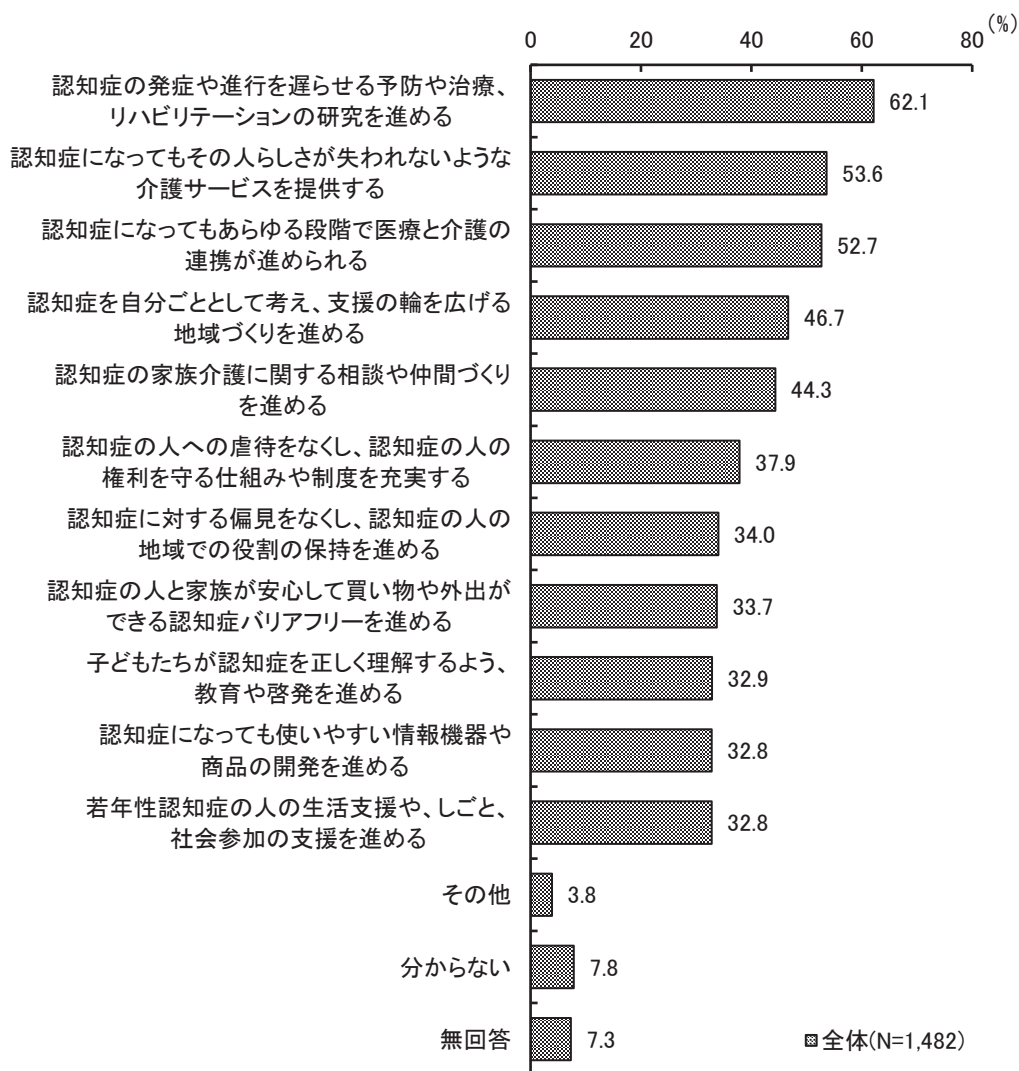
認知症に関する相談窓口の認知度(全体)



③ 認知症施策として進める必要があること(問 67)

認知症施策として進める必要があることは、「認知症の発症や進行を遅らせる予防や治療、リハビリテーションの研究を進める」(62.1%)が最も高く、「認知症になってもその人らしさが失われないような介護サービスを提供する」(53.6%)、「認知症になってもあらゆる段階で医療と介護の連携が進められる」(52.7%)、「認知症を自分ごととして考え、支援の輪を広げる地域づくりを進める」(46.7%)の順で続いている。

認知症施策として進める必要があること(全体:複数回答)

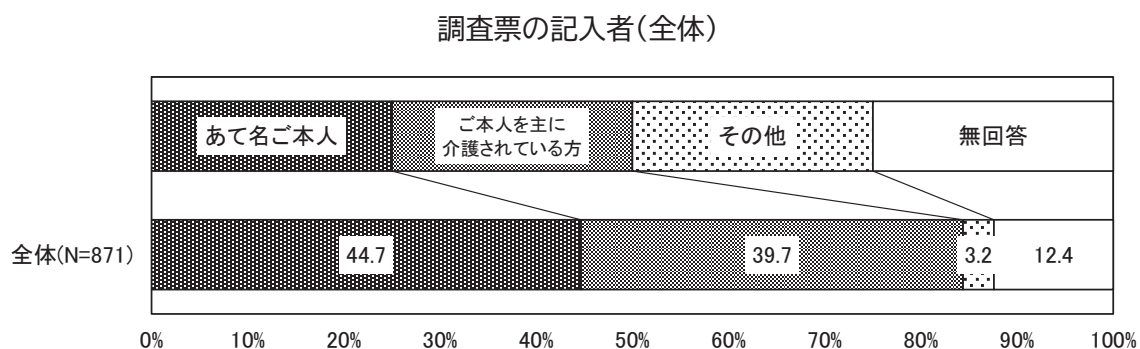


3 要介護・要支援認定者調査

(1)基本属性

① 調査票の記入者(問1)

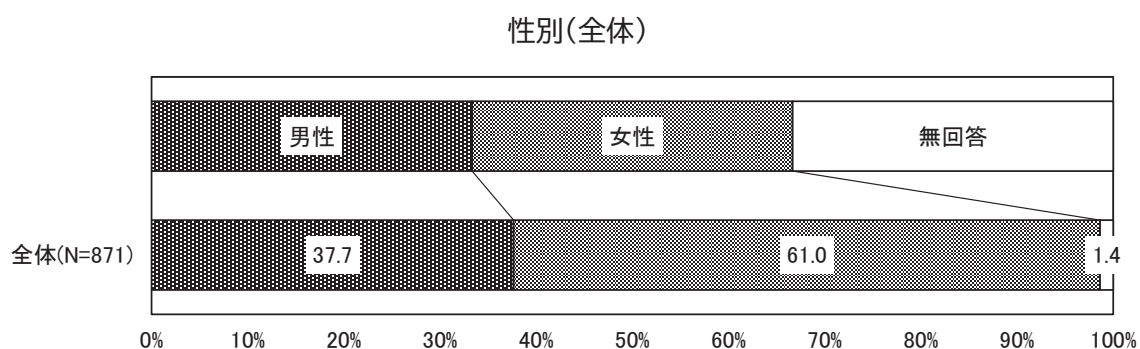
調査票の記入者は、「あて名ご本人」(44.7%)、「ご本人を主に介護されている方」(39.7%)の割合が高くなっている。



② 性別(問2)

性別は、「女性」が 61.0%、「男性」が 37.7%である。

利用サービス別にみると、どのサービスにおいても「女性」が 56%~77%を占め、「男性」より高くなっている。

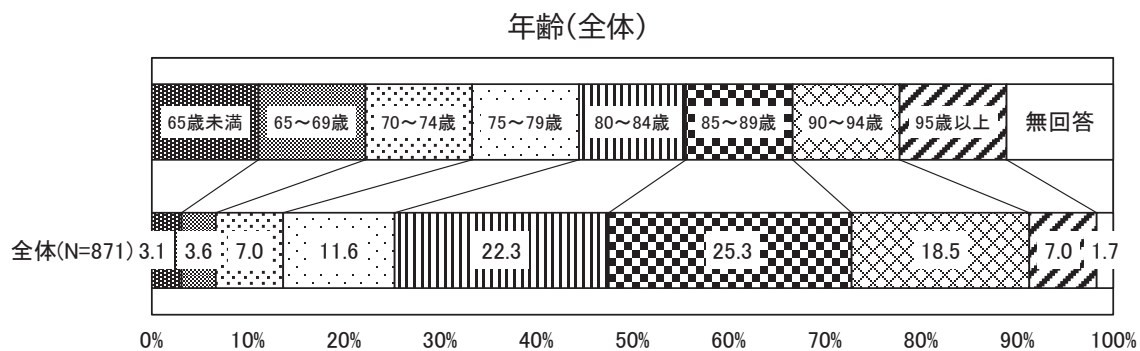


性別(全体、利用サービス別)

		(人、%)			
		回答者数	男性	女性	無回答
全体		871	37.7	61.0	1.4
サービス利用別	施設サービス	65	30.8	66.2	3.1
	居住系サービス	30	23.3	76.7	0.0
	在宅サービス(予防含む)	545	38.0	61.1	0.9
	未利用	137	43.1	56.2	0.7

③ 年齢(問3)

年齢は、「85～89歳」(25.3%)、「80～84歳」(22.3%)、「90～94歳」(18.5%)が高く、大半が80歳以上となっている。

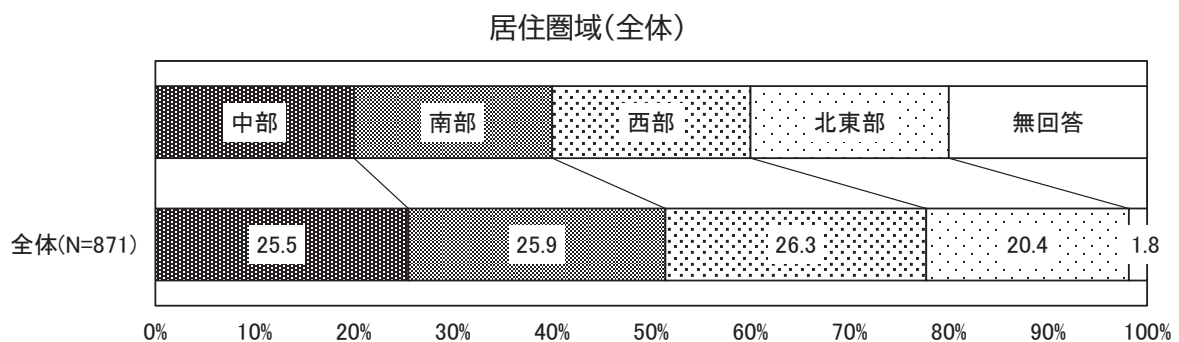
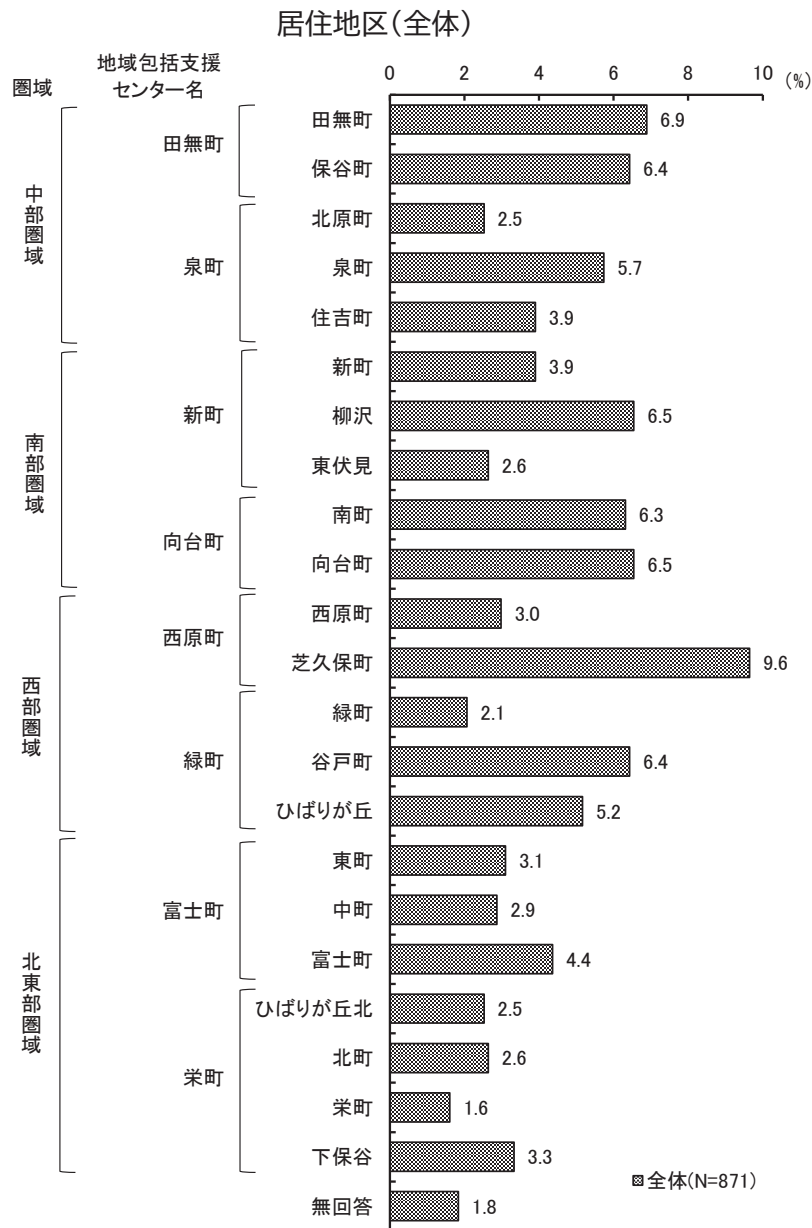


第2章 調査結果

④ 居住地区(問 4)

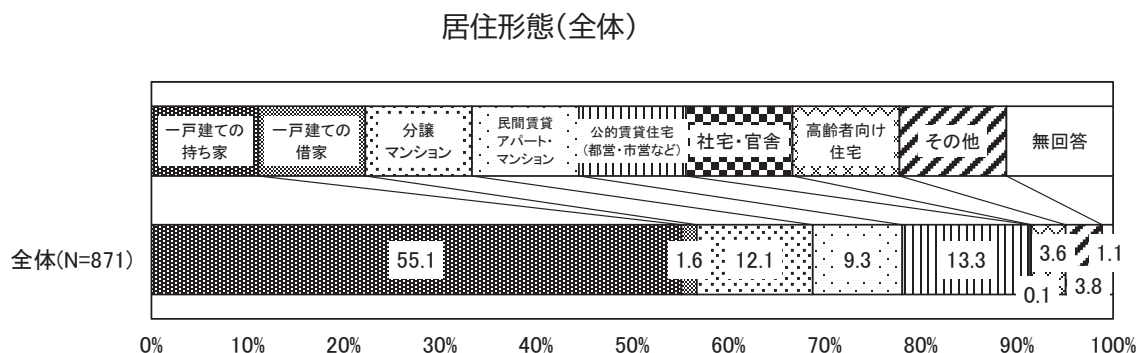
居住地区は、「芝久保町」(9.6%)が最も高く、「田無町」(6.9%)、「柳沢」、「向台町」(6.5%)の順で続いている。地域包括支援センター区域ごとにみると、緑町地域包括支援センター区域が13.7%で最も高い。

圏域でみると、「西部」(26.3%)が最も高く、「南部」(25.9%)、「中部」(25.5%)、「北東部」(20.4%)の順で続いている。



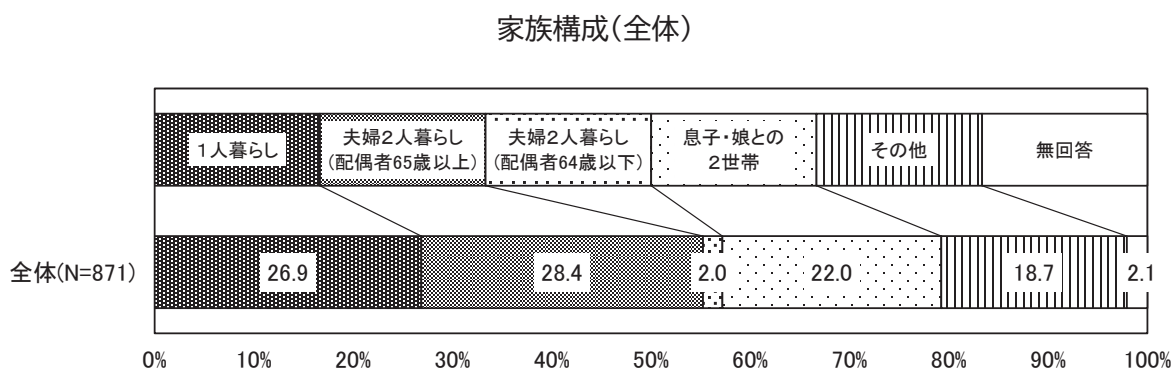
⑤ 居住形態(問 5)

居住形態は、「一戸建ての持ち家」(55.1%)が半数を超え、「公的賃貸住宅(都営・市営など)」(13.3%)、「分譲マンション」(12.1%)の順で続いている。



⑥ 家族構成(問 6)

家族構成は、「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」(28.4%)が最も高く、「1人暮らし」(26.9%)、「息子・娘との2世帯」(22.0%)の順で続いている。



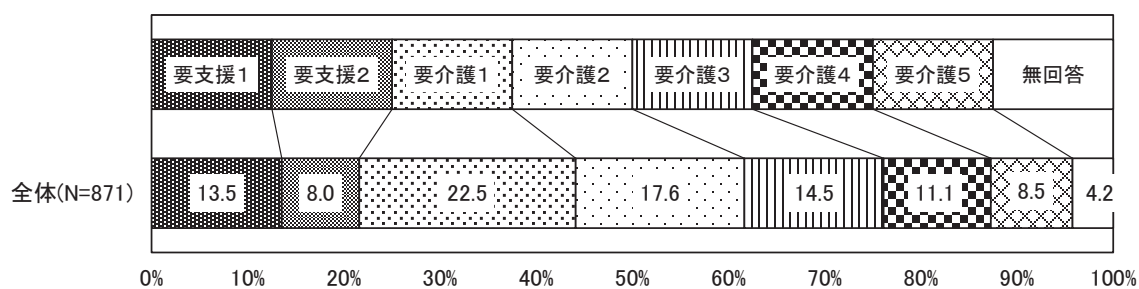
第2章 調査結果

⑦ 現在の介護度(問 7)

現在の介護度は、「要介護1」(22.5%)と「要介護2」(17.6%)が高く、およそ4割となっている。

利用サービス別にみると、【施設サービス】では「要介護4」(29.2%)が最も高く、【居住系サービス】では「要介護3」(23.3%)が最も高くなっている。また、【在宅サービス(予防含む)】では「要介護1」(25.1%)が、【未利用】では「要支援1」(39.4%)が最も高くなっている。

現在の介護度(全体)



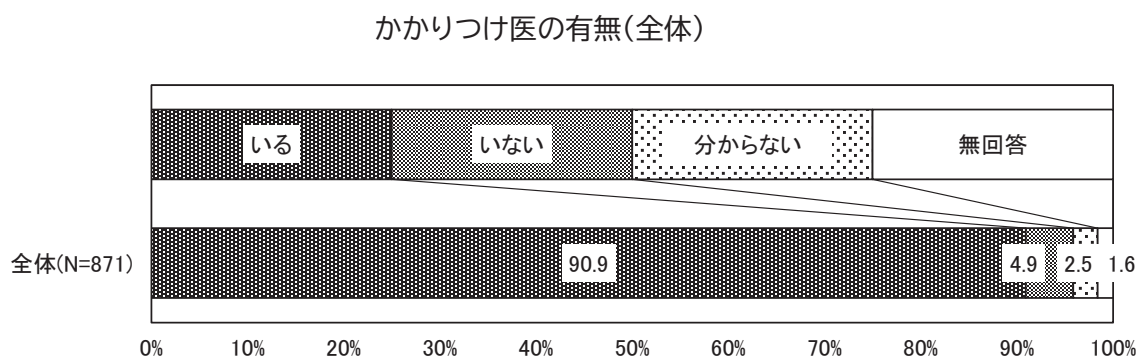
現在の介護度(全体、利用サービス別)

		(人、%)								
		回答者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
全体		871	13.5	8.0	22.5	17.6	14.5	11.1	8.5	4.2
サービス利用別	施設サービス	65	1.5	1.5	10.8	10.8	24.6	29.2	15.4	6.2
	居住系サービス	30	3.3	3.3	20.0	13.3	23.3	20.0	16.7	0.0
	在宅サービス(予防含む)	545	8.1	6.6	25.1	22.4	16.5	10.6	8.8	1.8
	未利用	137	39.4	14.6	19.0	8.0	3.6	2.2	3.6	9.5

(2)医療の状況

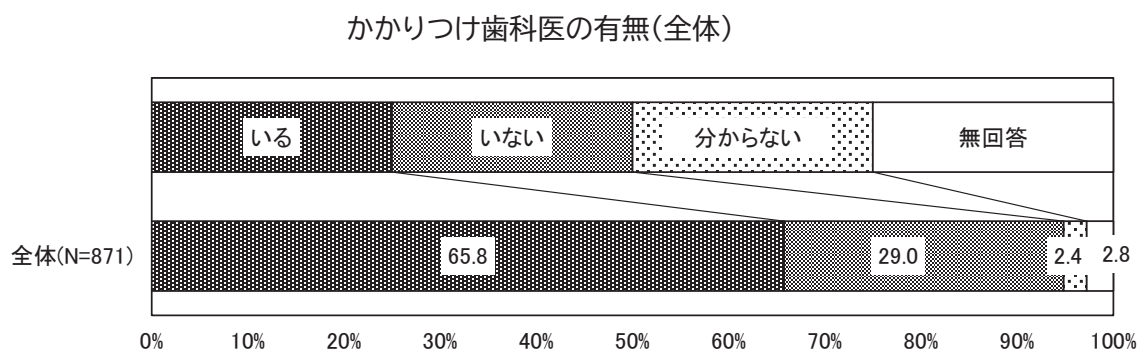
① かかりつけ医の有無(問 8)

かかりつけ医の有無は、「いる」の割合が 90.9%となっている。



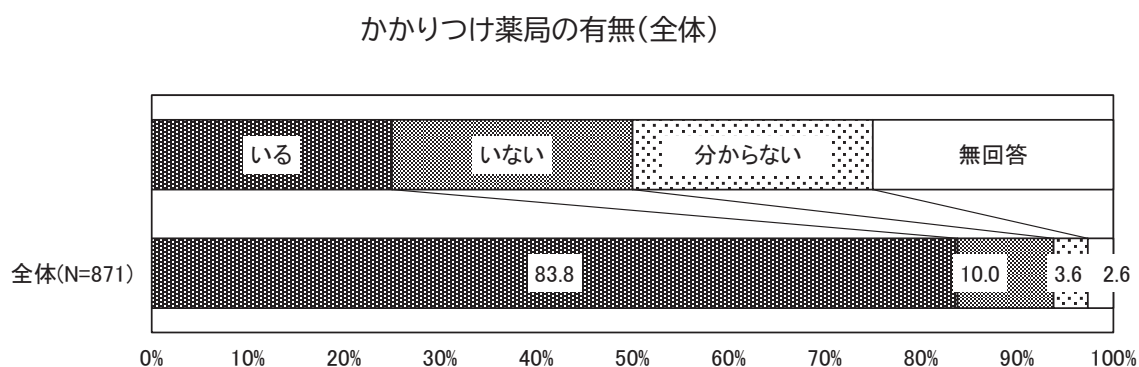
② かかりつけ歯科医の有無(問 9)

かかりつけ歯科医の有無は、「いる」の割合が 65.8%であり、「いない」が 29.0%となっている。



③ かかりつけ薬局の有無(問 10)

かかりつけ薬局の有無は、「いる」が 83.8%となっている。

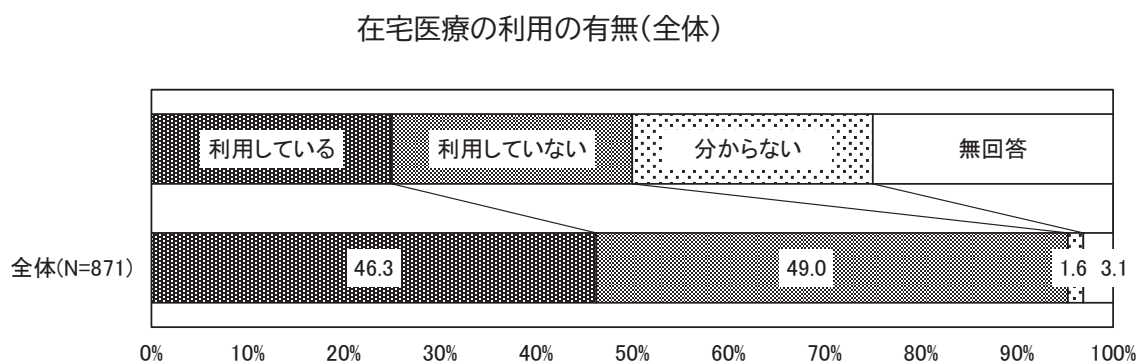


第2章 調査結果

④ 在宅医療の利用の有無(問 11)

在宅医療の利用の有無は、「利用している」(46.3%)と「利用していない」(49.0%)が同程度ずつとなっている。

在宅サービス利用者について要介護度別にみると、「利用している」の割合は要介護度が高いほど高くなる傾向がみられ、【要支援1】では 27.3%なのに対し、【要介護5】では 89.6%となっている。



在宅医療の利用の有無(在宅サービス利用者要介護度別)

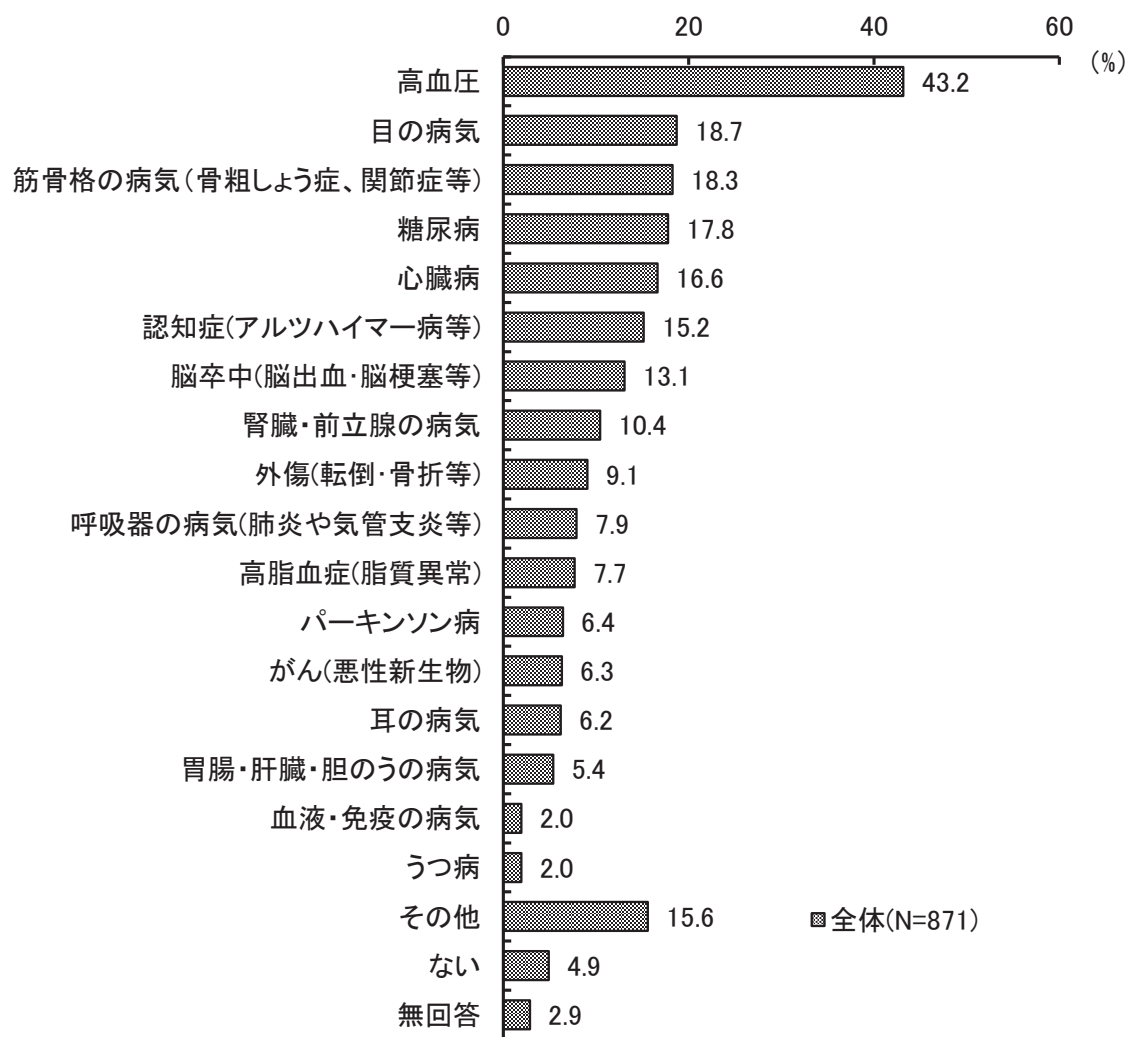
(人、%)

	回答者数	利用している (%)	利用していない (%)	分からない (%)	無回答 (%)	
在宅サービス利用者全体	545	56.7	41.1	1.1	1.1	
在宅サービス利用者要介護度別	要支援1	44	27.3	65.9	4.5	2.3
	要支援2	36	38.9	58.3	0.0	2.8
	要介護1	137	50.4	47.4	0.7	1.5
	要介護2	122	55.7	44.3	0.0	0.0
	要介護3	90	63.3	34.4	2.2	0.0
	要介護4	58	74.1	24.1	1.7	0.0
	要介護5	48	89.6	10.4	0.0	0.0

⑤ 現在治療中、または後遺症のある病気(問 12)

現在治療中、または後遺症のある病気は、「高血圧」(43.2%)が最も高く、「目の病気」(18.7%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(18.3%)、「糖尿病」(17.8%)の順で続いている。

現在治療中、または後遺症のある病気(全体)



(3) 今後の希望

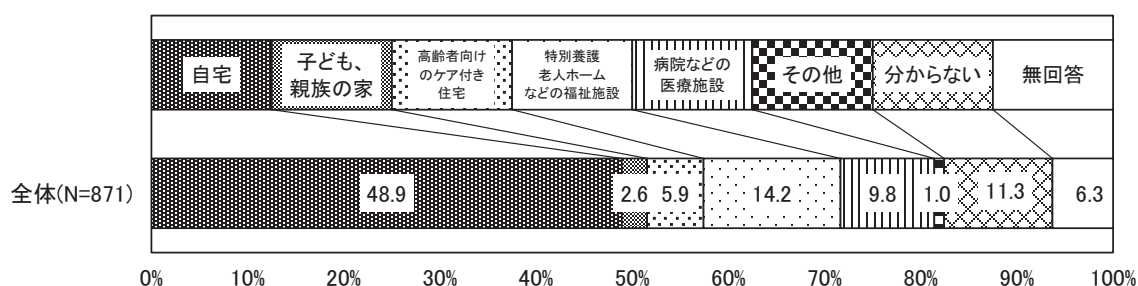
① 長期療養が必要になった場合に、人生の最期を迎えたい場所(問 13)

長期療養が必要になった場合に、人生の最期を迎えたい場所は、「自宅」(48.9%)の割合が高く、次いで「特別養護老人ホームなどの福祉施設」(14.2%)の割合が高くなっている。

調査票記入者別にみると、【本人】、【介護者】ともに「自宅」が5割前後となっている。

在宅サービス利用者について要介護度別にみると、「自宅」については、他の要介護度では「自宅」は5割～6割前後なのに対し、【要介護5】(68.8%)では7割弱を占め高くなっている。

長期療養が必要になった場合に、人生の最期を迎えたい場所(全体)



長期療養が必要になった場合に、人生の最期を迎えたい場所(全体、調査票記入者別)

		(人、%)										
		回答者数	自宅	子ども、親族の家	高齢者向けのケア付き住宅	福祉施設	特別養護老人ホーム	療養施設	病院などの医療施設	その他	分からない	無回答
全体		871	48.9	2.6	5.9	14.2	9.8	1.0	11.3	6.3		
記入者別	本人	389	49.1	1.0	8.0	10.3	14.4	0.5	10.5	6.2		
	介護者	346	52.3	4.9	3.2	17.3	4.6	1.2	11.6	4.9		
	その他	28	39.3	3.6	3.6	25.0	7.1	3.6	10.7	7.1		

長期療養が必要になった場合に、人生の最期を迎えたい場所(在宅サービス利用者要介護度別)

		(人、%)										
		回答者数	自宅	子ども、親族の家	高齢者向けのケア付き住宅	福祉施設	特別養護老人ホーム	療養施設	病院などの医療施設	その他	分からない	無回答
在宅サービス利用者全体		545	56.1	3.1	4.2	10.1	9.9	0.7	11.0	4.8		
在宅サービス利用者要介護度別	要支援1	44	50.0	2.3	9.1	11.4	9.1	0.0	15.9	2.3		
	要支援2	36	55.6	0.0	8.3	8.3	13.9	0.0	5.6	8.3		
	要介護1	137	51.1	2.2	5.1	10.9	12.4	0.7	10.9	6.6		
	要介護2	122	62.3	2.5	1.6	9.0	9.8	0.8	9.0	4.9		
	要介護3	90	56.7	3.3	5.6	12.2	5.6	1.1	12.2	3.3		
	要介護4	58	51.7	5.2	0.0	10.3	13.8	1.7	15.5	1.7		
要介護5	48	68.8	8.3	2.1	8.3	4.2	0.0	6.3	2.1			

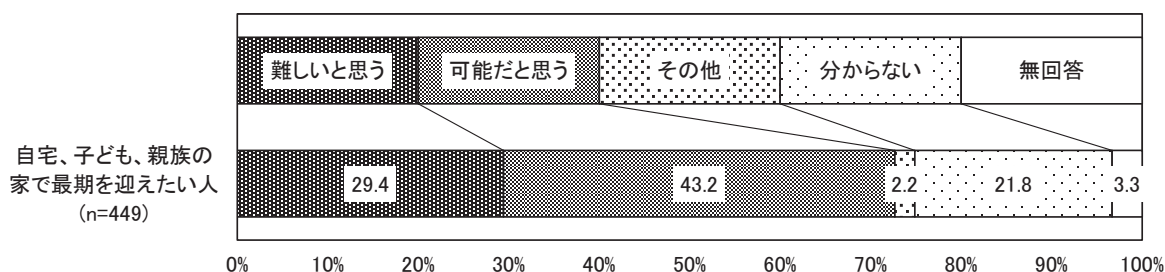
② 在宅での最期の実現可能性(問 13-1)

自宅、子ども、親族の家で最期を迎えたい人に、在宅での最期の実現可能性をたずねたところ、「可能だと思う」(43.2%)が「難しいと思う」(29.4%)を大きく上回っている。「分からない」は21.8%となっている。

調査票記入者別にみると、【本人】、【介護者】ともに「可能だと思う」が「難しいと思う」を上回っている。なお、「可能だと思う」の割合は、【介護者】が【本人】より高くなっている。

在宅での最期の実現可能性について、在宅サービス利用者について要介護度別にみると、【要支援1】、【要支援2】では、「難しいと思う」と「可能だと思う」が同率となっている。【要介護1】より重くなると、「可能だと思う」が「難しいと思う」より高くなっており、特に【要介護5】では、「可能だと思う」が59.5%と高くなっている。

在宅での最期の実現可能性(自宅、子ども、親族の家で最期を迎えたい人)



在宅での最期の実現可能性(調査票記入者別(自宅、子ども、親族の家で最期を迎えたい人)) (人、%)

調査票記入者別	回答者数	難しいと思う (%)	可能だと思う (%)	その他 (%)	分からない (%)	無回答 (%)
自宅、子ども、親族の家で最期を迎えたい人	449	29.4	43.2	2.2	21.8	3.3
本人	195	30.3	41.0	1.5	22.1	5.1
介護者	198	25.3	47.0	3.0	23.7	1.0
その他	12	50.0	25.0	8.3	8.3	8.3

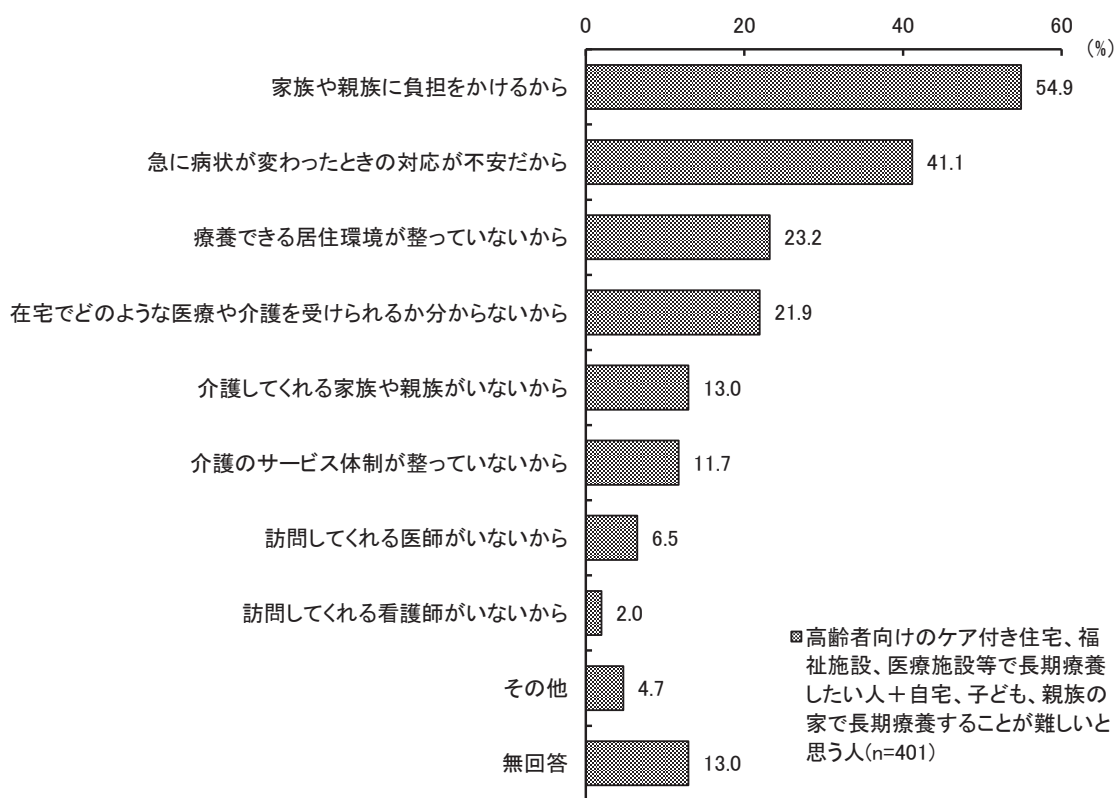
在宅での最期の実現可能性(在宅サービス利用者要介護度別(自宅、子ども、親族の家で最期を迎えたい人)) (人、%)

在宅サービス利用者別	回答者数	難しいと思う (%)	可能だと思う (%)	その他 (%)	分からない (%)	無回答 (%)
在宅サービス利用者全体	323	27.9	47.1	2.8	20.7	1.5
要支援1	23	39.1	39.1	0.0	21.7	0.0
要支援2	20	40.0	40.0	0.0	15.0	5.0
要介護1	73	30.1	49.3	2.7	16.4	1.4
要介護2	79	24.1	49.4	1.3	25.3	0.0
要介護3	54	25.9	42.6	1.9	25.9	3.7
要介護4	33	33.3	39.4	3.0	24.2	0.0
要介護5	37	16.2	59.5	10.8	13.5	0.0

③ 在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由(問 13-2)

高齢者向けのケア付き住宅、福祉施設、医療施設等で長期療養したい人、又は自宅、子ども、親族の家で長期療養することが難しいと思う人に、在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由をたずねたところ、「家族や親族に負担をかけるから」(54.9%)が最も高く、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」(41.1%)の順で続いている。

在宅での最期を希望しない又は希望するが難しいと思う理由
 (高齢者向けのケア付き住宅、福祉施設、医療施設等で長期療養したい人+自宅、子ども、親族の家で長期療養することが難しいと思う人:複数回答(3つまで))

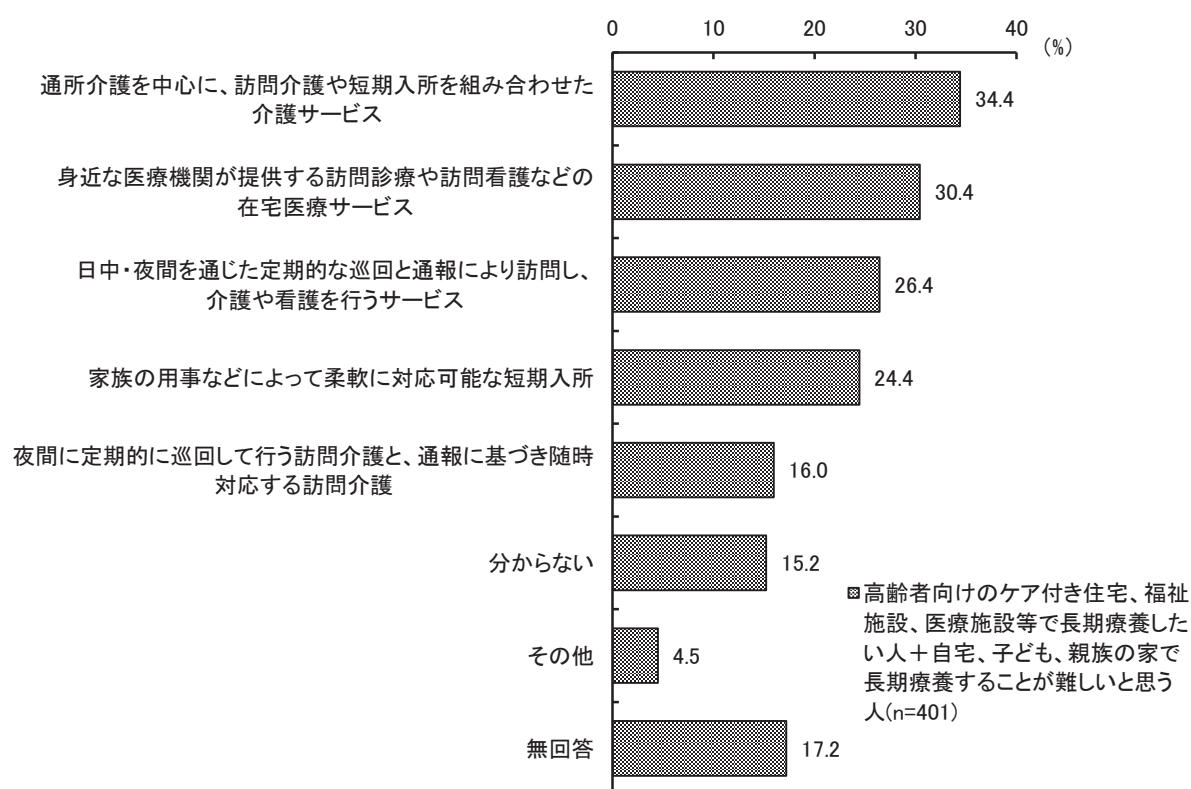


④ 在宅療養を継続するための対応方法(問 13-3)

高齢者向けのケア付き住宅、福祉施設、医療施設等で長期療養したい人、又は自宅、子ども、親族の家で長期療養することが難しいと思う人に、在宅療養を継続するための対応方法をたずねたところ、「通所介護を中心に、訪問介護や短期入所を組み合わせた介護サービス」(34.4%)が最も高く、「身近な医療機関が提供する訪問診療や訪問看護などの在宅医療サービス」(30.4%)の順で続いている。

在宅療養を継続するための対応方法

(高齢者向けのケア付き住宅、福祉施設、医療施設等で長期療養したい人+自宅、子ども、親族の家で長期療養することが難しいと思う人:複数回答(3 つまで))

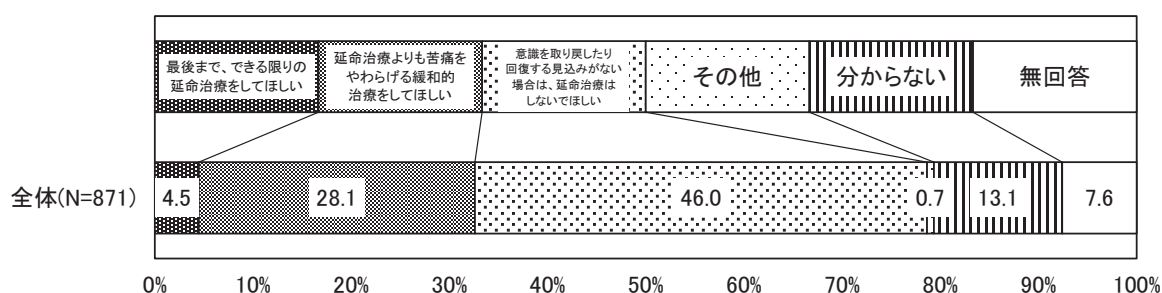


第2章 調査結果

⑤ 延命治療についての希望(問 14)

延命治療についての希望は、「意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療はしないでほしい」(46.0%)が最も高く、「延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい」(28.1%)が続いている。

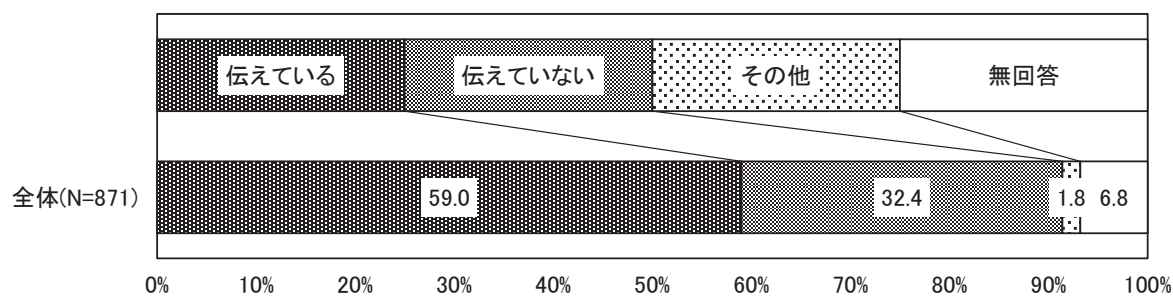
延命治療についての希望(全体)



⑥ 今後の希望について家族等へ意向を伝えているか(問 15)

人生の最期を迎えたい場所、延命治療についての希望など(問 13~14)の今後の希望について家族等へ意向を伝えているかは、「伝えている」(59.0%)が高く、「伝えていない」(32.4%)を上回っている。

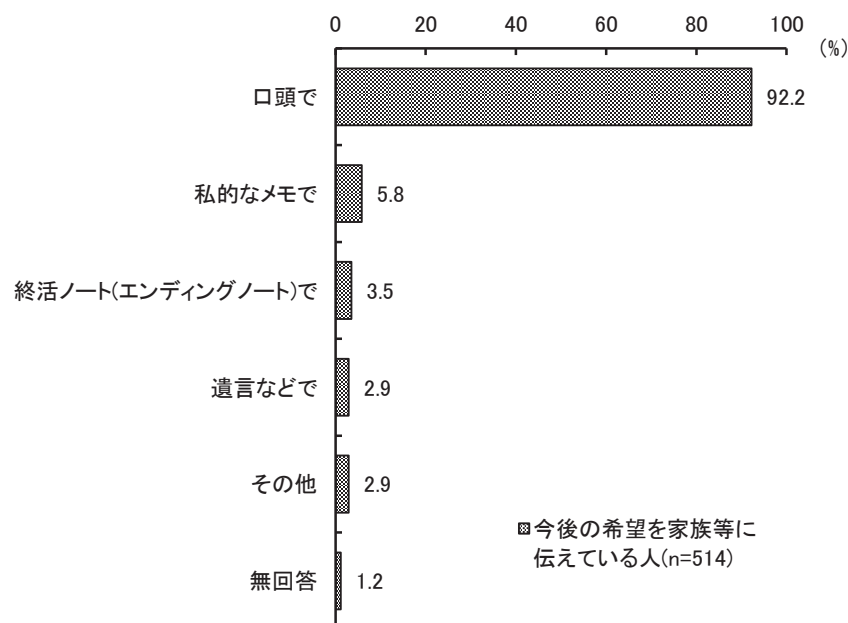
今後の希望について家族等へ意向を伝えているか(全体)



⑦ 今後の希望についての意向の伝え方(問 15-1)

人生の最期を迎えたい場所、延命治療についての希望など(問 13~14)の今後の希望を家族等に伝えている人に伝え方をたずねたところ、今後の希望についての意向の伝え方は、「口頭で」(92.2%)が最も高い。

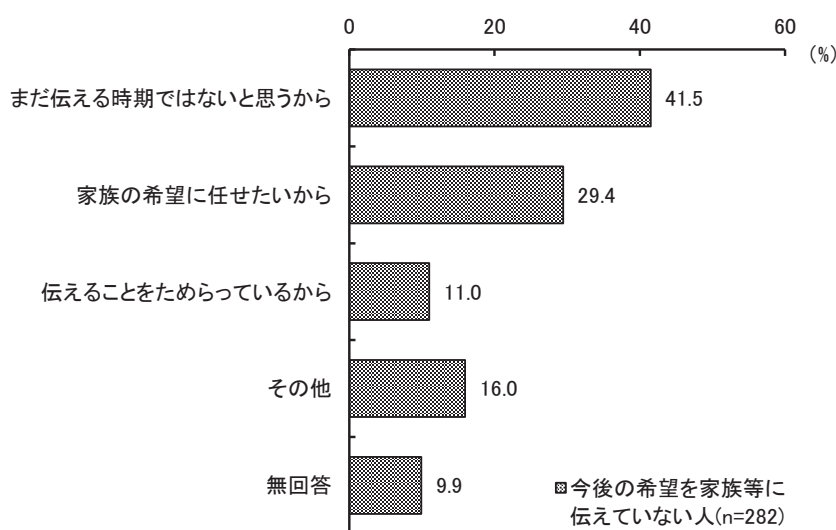
今後の希望についての意向の伝え方(今後の希望を家族等に伝えている人:複数回答)



⑧ 今後の希望についての意向を伝えていない理由(問 15-2)

人生の最期を迎えたい場所、延命治療についての希望など(問 13~14)の今後の希望を家族等に伝えていない人に、伝えていない理由をたずねたところ、「まだ伝える時期ではないと思うから」(41.5%)が高く、「家族の希望に任せたいから」(29.4%)の順で続いている。

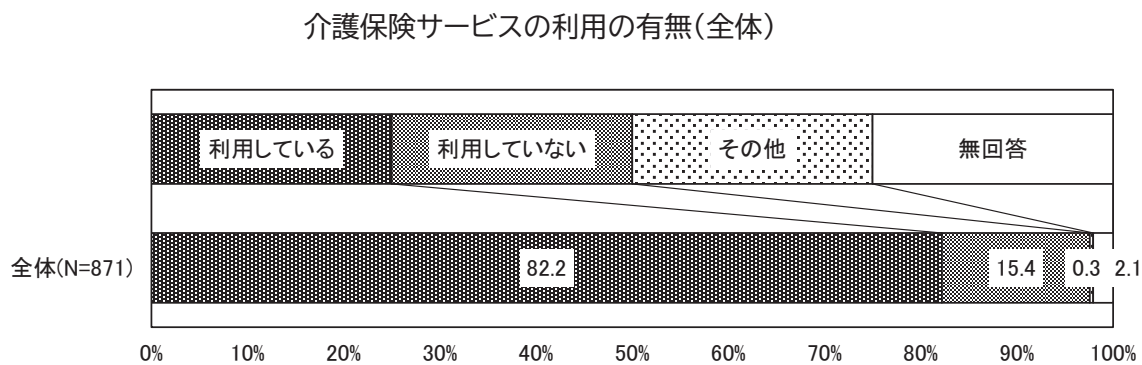
今後の希望についての意向を伝えていない理由
(今後の希望を家族等に伝えていない人:複数回答)



(4)介護保険サービスの利用状況

① 介護保険サービスの利用の有無(問 16)

介護保険サービスの利用の有無は、「利用している」が 82.2%、「利用していない」が 15.4%である。

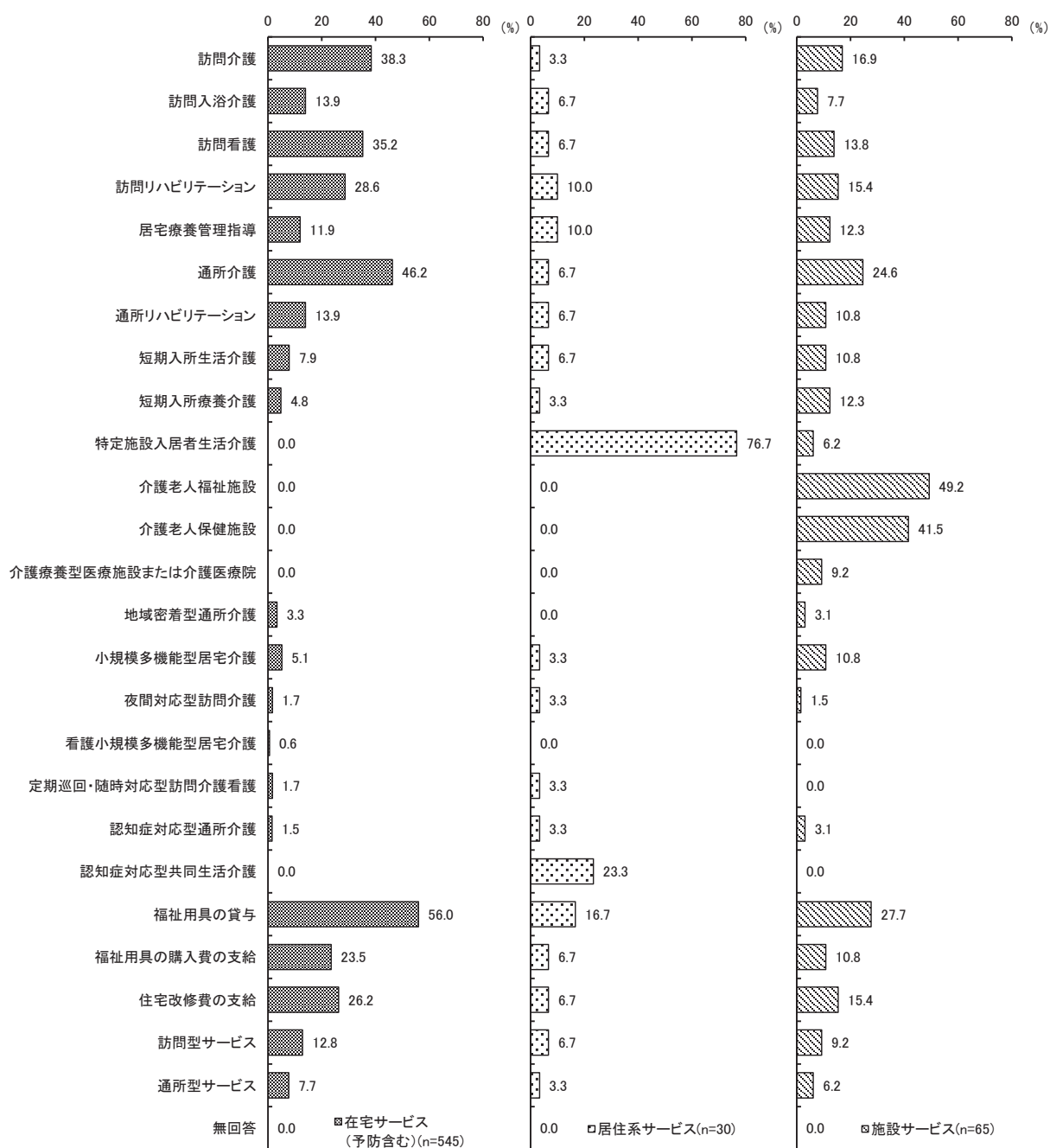


② 現在利用しているサービス(問 16-1(1))

現在利用しているサービスを、在宅サービス、居住系サービス、施設サービス別にみた。

【在宅サービス】では、「福祉用具の貸与」(56.0%)、「通所介護」(46.2%)、「訪問介護」(38.3%)、「訪問看護」(35.2%)の順で高い割合である。【居住系サービス】では、「特定施設入居者生活介護」(76.7%)、「認知症対応型共同生活介護」(23.3%)の順で高くなっており、【施設サービス】では、「介護老人福祉施設」(49.2%)、「介護老人保健施設」(41.5%)の割合が高い。

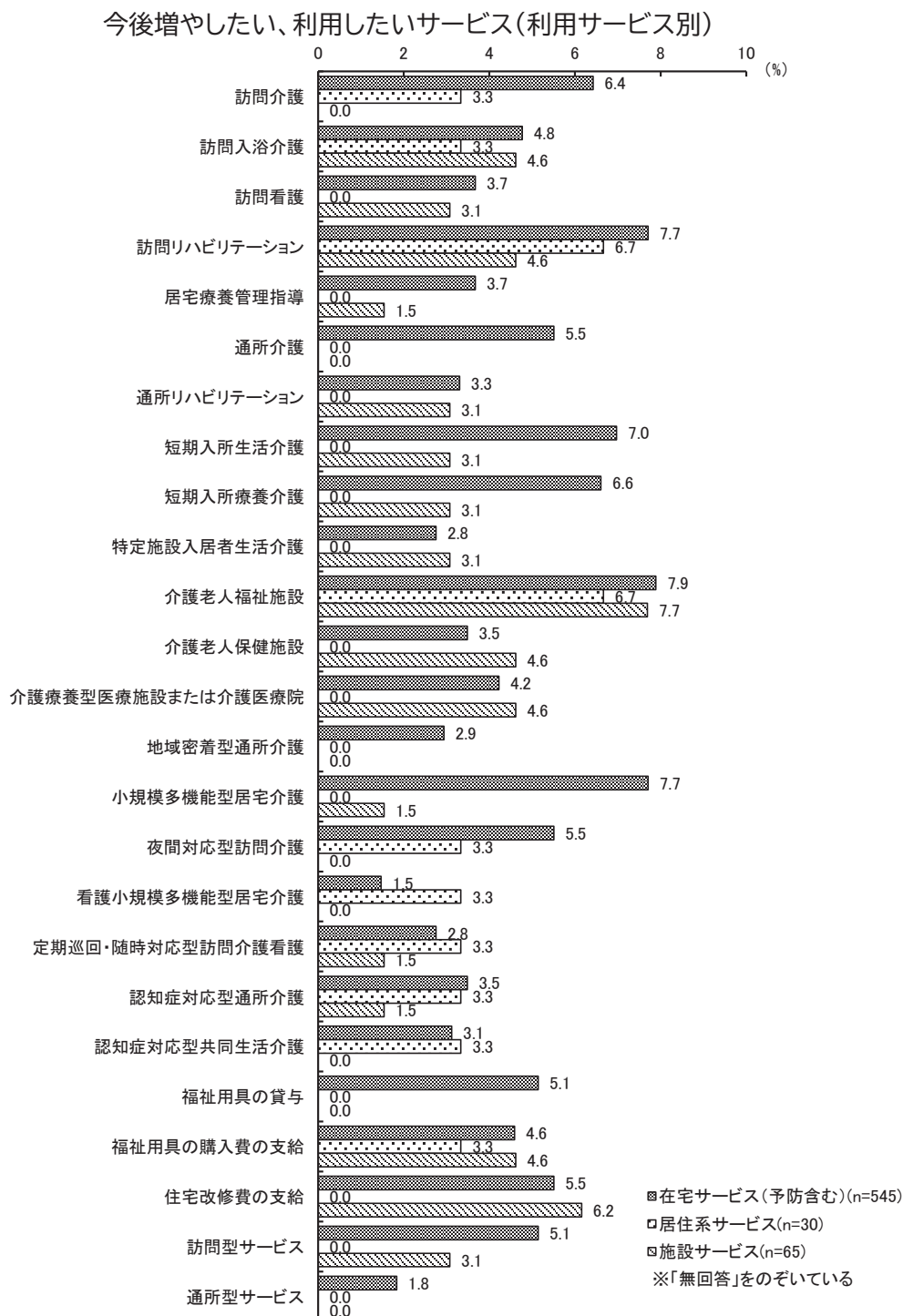
現在利用しているサービス(利用サービス別:複数回答)



第2章 調査結果

③ 今後増やしたい、利用したいサービス(問 16-1(2))

今後増やしたい、利用したいサービスについては、利用サービス別にみると、【在宅サービス】では、「介護老人福祉施設」(7.9%)、「訪問リハビリテーション」、「小規模多機能型居宅介護」(7.7%)、「短期入所生活介護」(7.0%)が7ポイント以上、【施設サービス】でも「介護老人福祉施設」(7.7%)が7ポイント以上と比較的高くなっている。



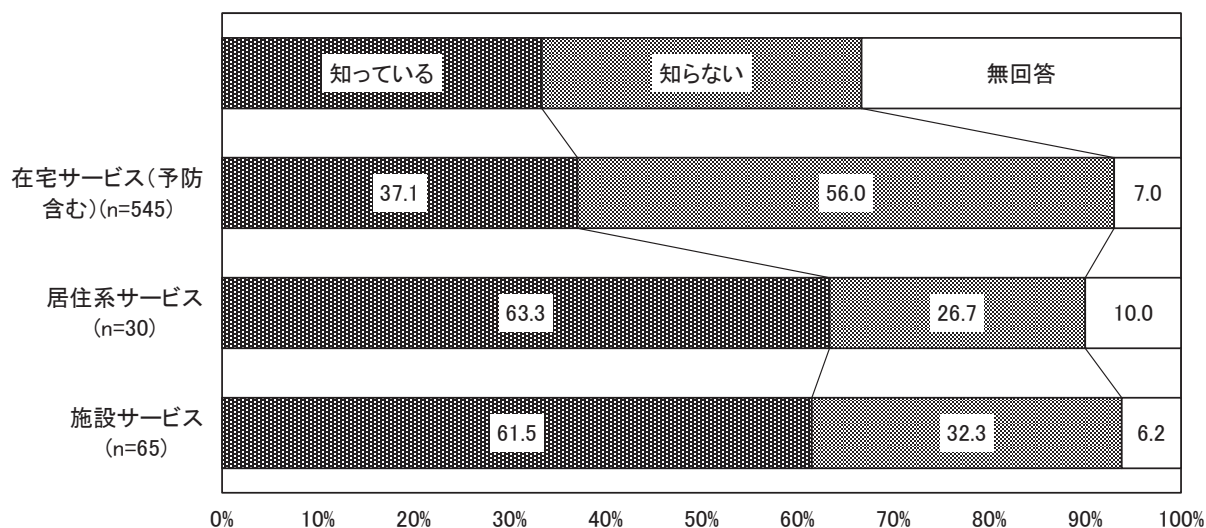
④ 利用したいが利用できないサービス(問 16-1(3))

利用したいが利用できないサービスは、回答者数が少ないため、記載していない。

⑤ 利用者負担額が高額になった人への軽減制度の認知度(問 16-2①)

介護保険サービスを利用している人に、利用者負担額が高額になった人への軽減制度の認知度をたずねたところ、利用サービス別にみると、【居住系サービス】は「知っている」が 63.3%、【施設サービス】でも 61.5%であるが、【在宅サービス】では 37.1%である。

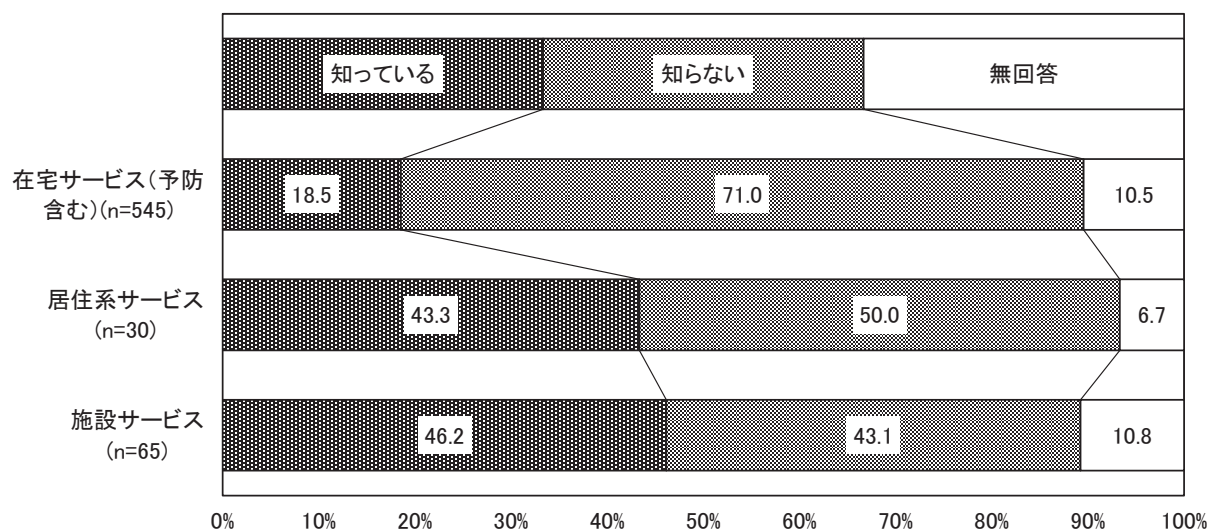
利用者負担額が高額になった人への軽減制度の認知度
(介護保険サービスを利用している人、利用サービス別)



⑥ 施設サービスが高額になった人への軽減制度の認知度(問 16-2②)

介護保険サービスを利用している人に、施設サービスが高額になった人への軽減制度の認知度をたずねたところ、利用サービス別にみると、【施設サービス】では「知っている」が 46.2%、【居住系サービス】では 43.3%であるが、【在宅サービス】では 18.5%にとどまっている。

施設サービスが高額になった人への軽減制度の認知度
(介護保険サービスを利用している人、利用サービス別)

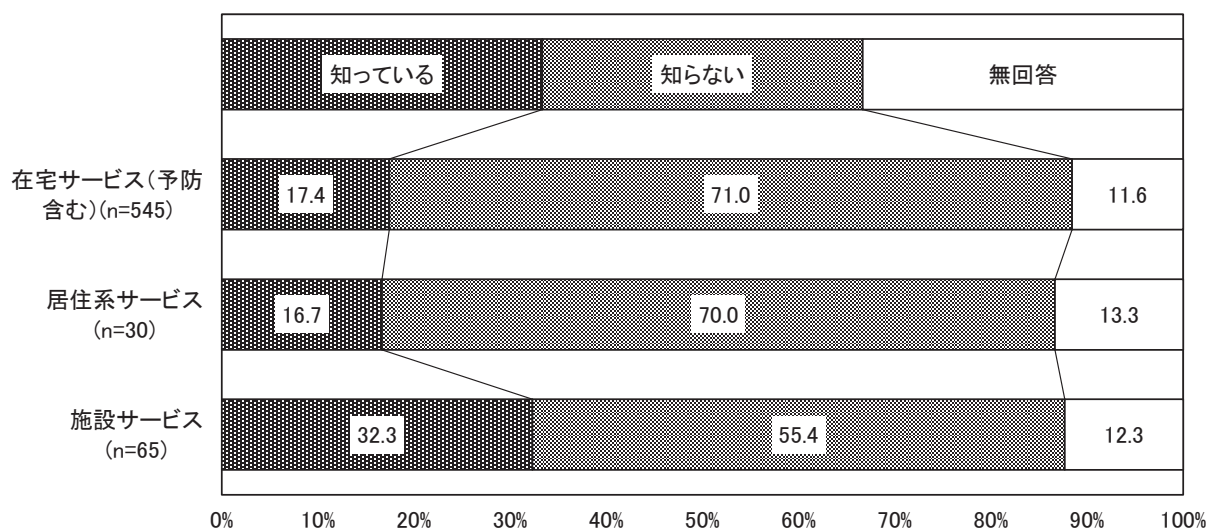


第2章 調査結果

⑦ 生計困難者等に対する利用者負担の軽減制度の認知度(問 16-2③)

介護保険サービスを利用している人に、生計困難者等に対する利用者負担の軽減制度の認知度をたずねたところ、利用サービス別にみると、【在宅サービス】では「知っている」が 17.4%、【居住系サービス】でも 16.7%となっている。【施設サービス】では「知っている」が 32.3%であるが、いずれも半数以上が知らないとしている。

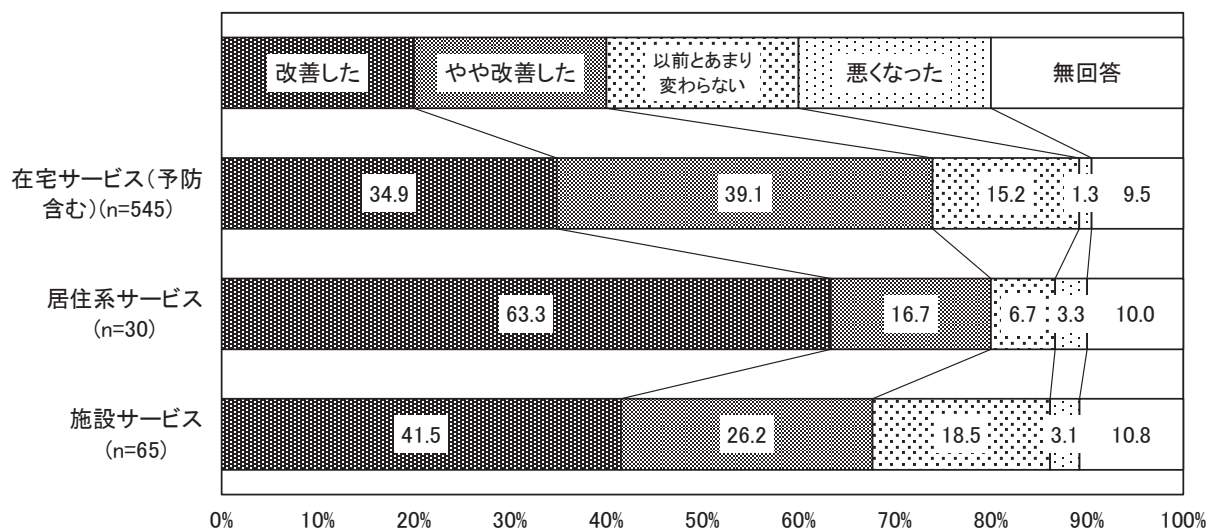
生計困難者等に対する利用者負担の軽減制度の認知度
(介護保険サービスを利用している人、利用サービス別)



⑧ 介護保険サービス利用による生活環境の変化(問 16-3)

介護保険サービスを利用している人に、介護保険サービス利用による生活環境の変化をたずねたところ、利用サービス別にみると、【居住系サービス】では「改善した」が 63.3%、【施設サービス】では「改善した」が 41.5%であり、改善したとする割合が高い。しかし、【在宅サービス】では、「改善した」は 34.9%にとどまり、「やや改善した」が 39.1%となっており、改善したと感じる程度が緩やかであり、利用しているサービスによって変化の感じ方が異なる。

介護保険サービス利用による生活環境の変化
(介護保険サービスを利用している人、利用サービス別)

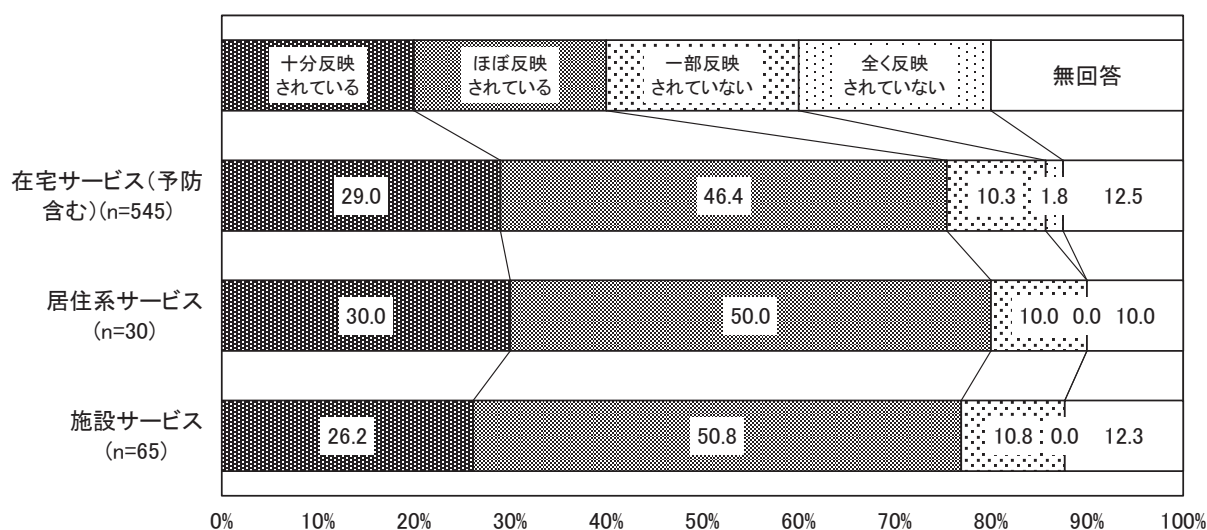


⑨ ケアプランへの希望の反映状況(問 16-4)

介護保険サービスを利用している人に、ケアプランへの希望の反映状況をたずねたところ、利用サービス別にみると、【在宅サービス】、【居住系サービス】、【施設サービス】ともに、「十分反映されている」と「ほぼ反映されている」の割合が70%を超えている。特に、【居住系サービス】では、「十分反映されている」と「ほぼ反映されている」は80%と高い割合となっている。

在宅サービス利用者について要介護度別にみると、「ほぼ反映されている」は【要介護2】、【要介護3】、【要介護4】、【要介護5】において5割近くを占めている。

ケアプランへの希望の反映状況(介護保険サービスを利用している人、利用サービス別)



ケアプランへの希望の反映状況

(在宅サービス利用者要介護度別(介護保険サービスを利用している人))

(人、%)

	回答者数	十分反映され	ほぼ反映され	一部反映され	全く反映され	無回答	
在宅サービス利用者全体	545	29.0	46.4	10.3	1.8	12.5	
在宅サービス利用者 要介護度別	要支援1	44	22.7	40.9	6.8	9.1	20.5
	要支援2	36	30.6	36.1	16.7	0.0	16.7
	要介護1	137	28.5	42.3	10.9	2.9	15.3
	要介護2	122	24.6	55.7	6.6	0.8	12.3
	要介護3	90	37.8	46.7	11.1	0.0	4.4
	要介護4	58	29.3	46.6	13.8	0.0	10.3
	要介護5	48	33.3	47.9	10.4	0.0	8.3

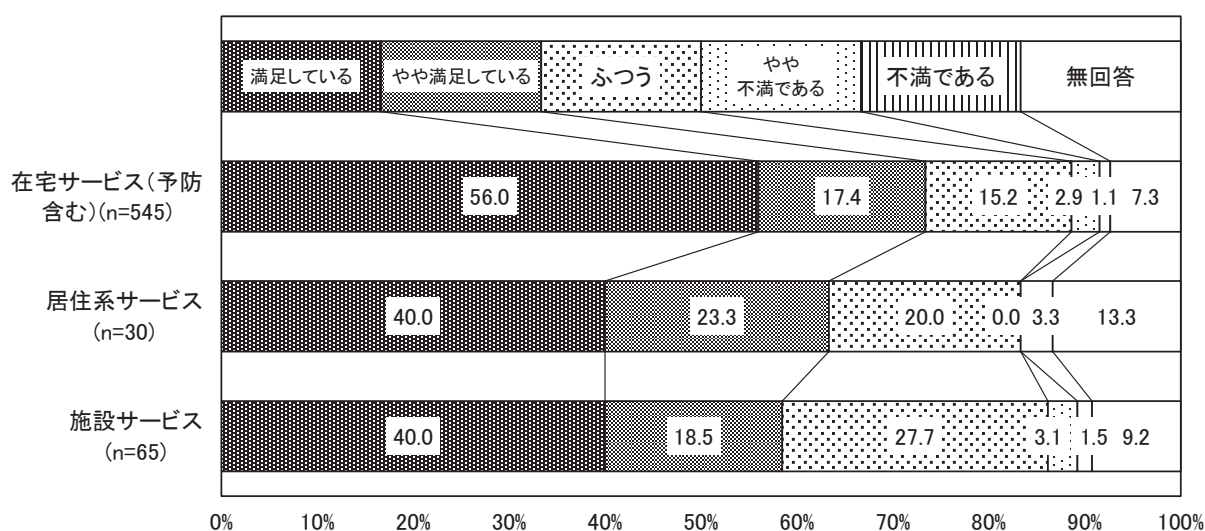
第2章 調査結果

⑩ ケアマネジャーの満足度(問 16-5)

介護保険サービスを利用している人に、ケアマネジャーの満足度をたずねたところ、利用サービス別にみると、【在宅サービス】で「満足している」(56.0%)が半数を超え、「やや満足している」(17.4%)とあわせた割合は【居住系サービス】、【施設サービス】と比べて高くなっている。【施設サービス】は「ふつう」が 27.7%であるが、【施設サービス】、【居住系サービス】とも 40.0%が「満足している」としている。

在宅サービス利用者について要介護度別にみると、要介護度が高いほど「満足している」の割合が高くなる傾向がみられる。

ケアマネジャーの満足度(介護保険サービスを利用している人、利用サービス別)



ケアマネジャーの満足度

(在宅サービス利用者要介護度別(介護保険サービスを利用している人))

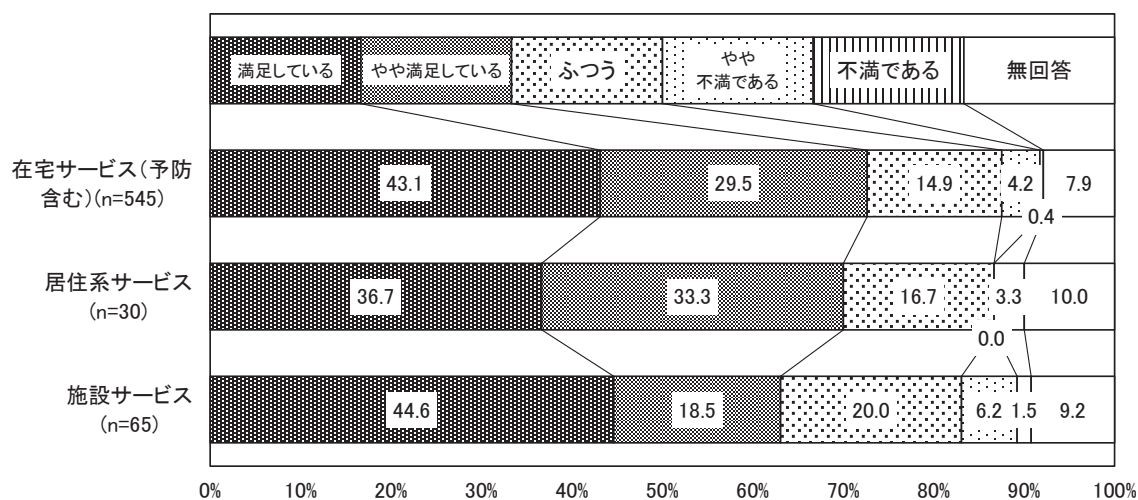
		回答者数	満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	無回答
在宅サービス利用者全体		545	56.0	17.4	15.2	2.9	1.1	7.3
在宅サービス利用者 要介護度別	要支援1	44	43.2	27.3	11.4	4.5	2.3	11.4
	要支援2	36	52.8	22.2	11.1	2.8	2.8	8.3
	要介護1	137	54.0	16.1	16.8	2.9	0.7	9.5
	要介護2	122	55.7	14.8	18.9	2.5	0.0	8.2
	要介護3	90	62.2	18.9	14.4	1.1	2.2	1.1
	要介護4	58	62.1	10.3	15.5	5.2	1.7	5.2
	要介護5	48	62.5	20.8	6.3	4.2	0.0	6.3

⑪ サービスの満足度(問 16-6)

介護保険サービスを利用している人に、サービスの満足度をたずねたところ、利用サービス別にみると、【在宅サービス】、【居住系サービス】、【施設サービス】ともに「満足している」(在宅 43.1%、居住系 36.7%、施設 44.6%)が最も高くなっており、「やや満足している」(在宅 29.5%、居住系 33.3%、施設 18.5%)まで含めると、大半が満足している。

在宅サービス利用者について要介護度別にみると、「満足している」は【要介護3】(47.8%)と【要介護4】(50.0%)で5割前後で高くなっている。

サービスの満足度(介護保険サービスを利用している人、利用サービス別)



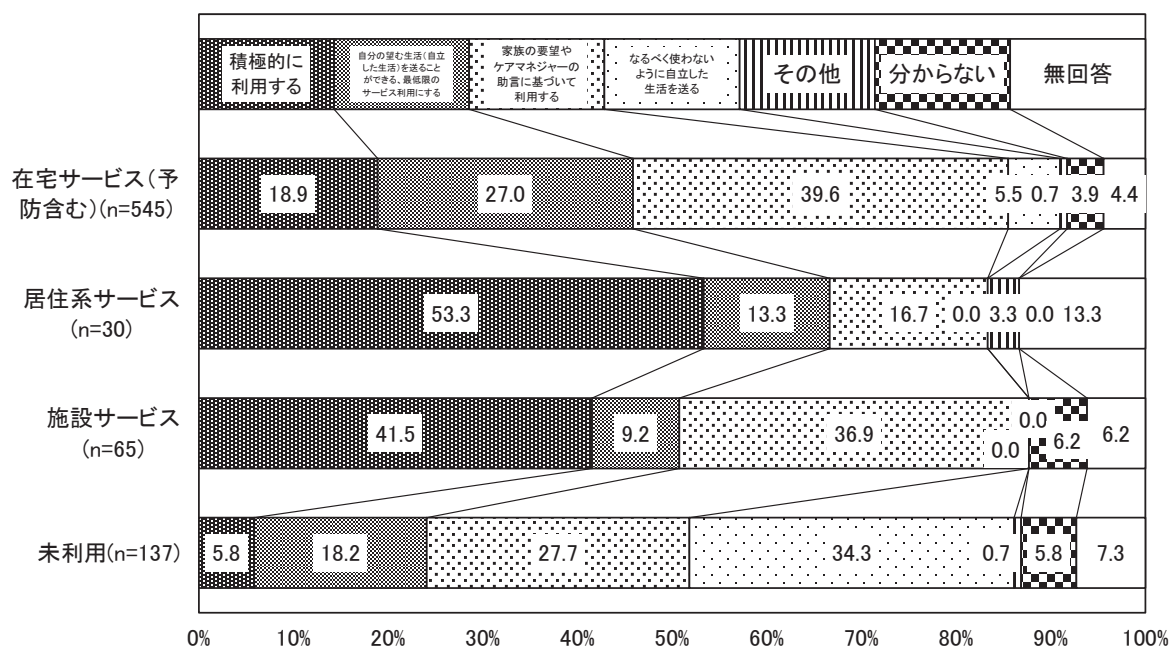
サービスの満足度(在宅サービス利用者要介護度別(介護保険サービスを利用している人))

		回答者数	満足している	やや満足している	ふつう	やや不満である	不満である	無回答
在宅サービス利用者全体		545	43.1	29.5	14.9	4.2	0.4	7.9
在宅サービス利用者 要介護度別	要支援1	44	45.5	20.5	13.6	6.8	0.0	13.6
	要支援2	36	38.9	30.6	19.4	2.8	0.0	8.3
	要介護1	137	40.9	29.9	15.3	5.1	0.7	8.0
	要介護2	122	40.2	32.8	15.6	4.1	0.0	7.4
	要介護3	90	47.8	35.6	13.3	1.1	1.1	1.1
	要介護4	58	50.0	24.1	13.8	5.2	0.0	6.9
	要介護5	48	45.8	22.9	16.7	6.3	0.0	8.3

⑫ 介護サービス利用についての考え(問 17)

介護サービス利用についての考えは、利用サービス別にみると、【居住系サービス】では、「積極的に利用する」(53.3%)が最も高く、【施設サービス】でも 41.5%で高くなっている。【在宅サービス】では、「家族の要望やケアマネジャーの助言に基づいて利用する」(39.6%)が最も高く、「自分の望む生活(自立した生活)を送ることができる、最低限のサービス利用にする」(27.0%)を上回っている。【未利用】は「なるべく使わないように自立した生活を送る」が 34.3%で最も高く、利用状況によって介護サービス利用についての考えが異なっている。

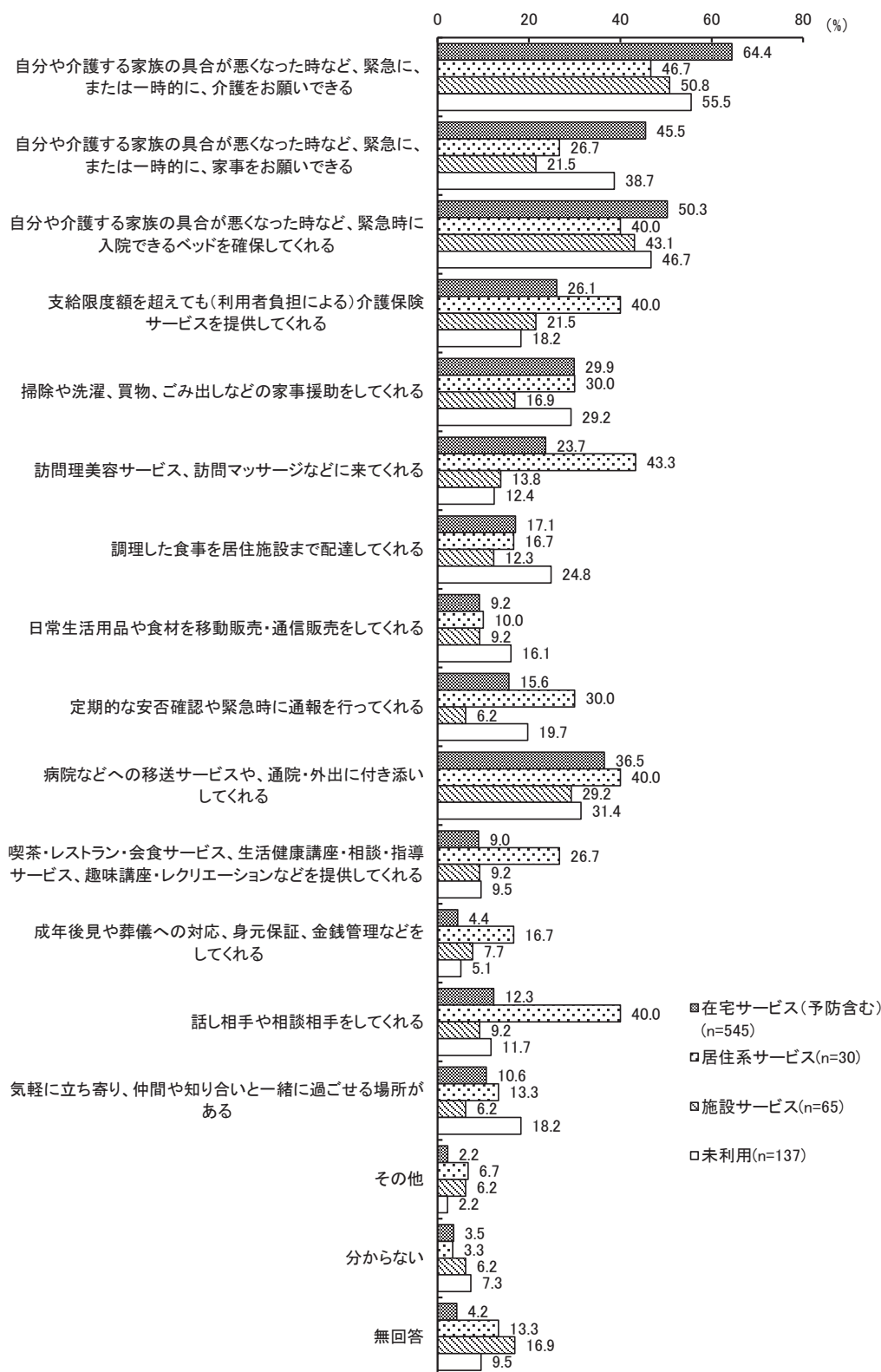
介護サービス利用についての考え(利用サービス別)



⑬ 必要なサービス、手助け(問 18)

必要なサービス、手助けについては、どのサービス利用者及び未利用者も、「自分や介護する家族の具合が悪くなった時など、緊急に、または一時的に、介護をお願いできる」が最も高くなっている。

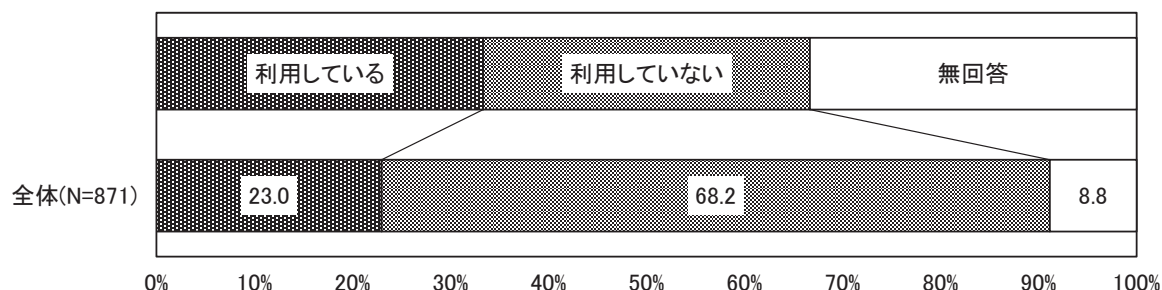
必要なサービス、手助け(利用サービス別:複数回答)



⑭ 介護保険外サービスの利用の有無(問 19)

介護保険外サービスの利用の有無は、「利用している」(23.0%)よりも、「利用していない」(68.2%)の割合が高くなっている。

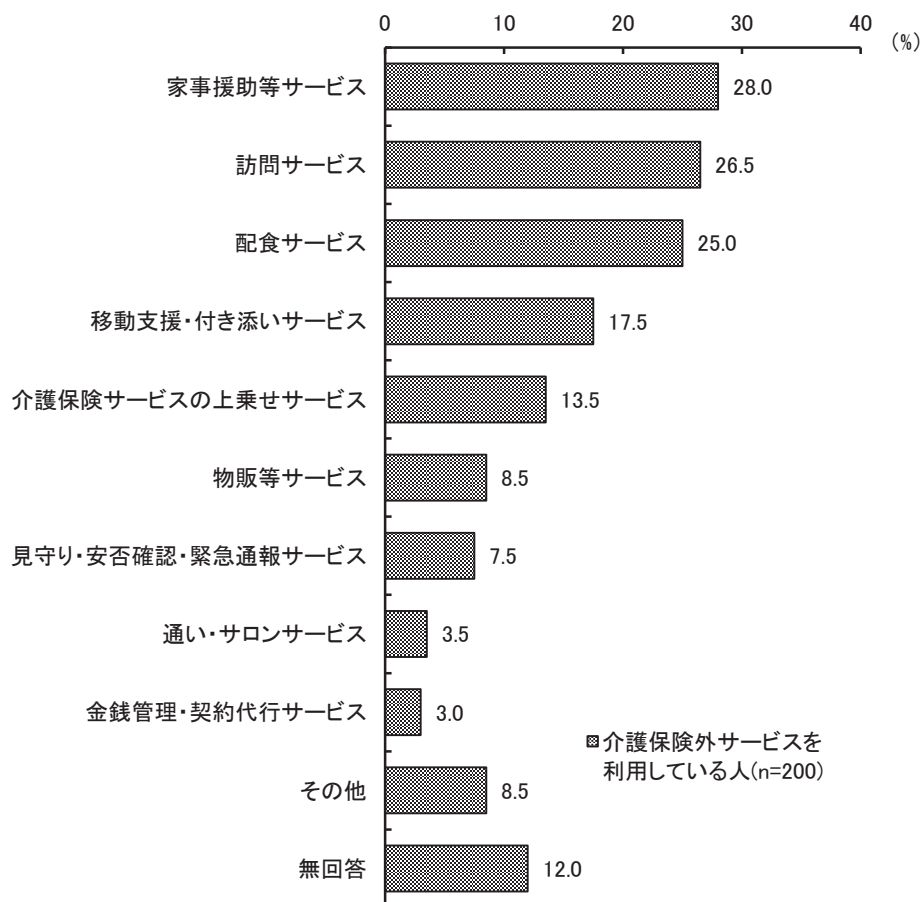
介護保険外サービスの利用の有無(全体)



⑮ 利用している介護保険外サービス(問 19-1)

介護保険外サービスを利用している人に、利用している介護保険外サービスをたずねたところ、「家事援助等サービス」(28.0%)、「訪問サービス」(26.5%)の割合が高く、「配食サービス」(25.0%)が続いている。

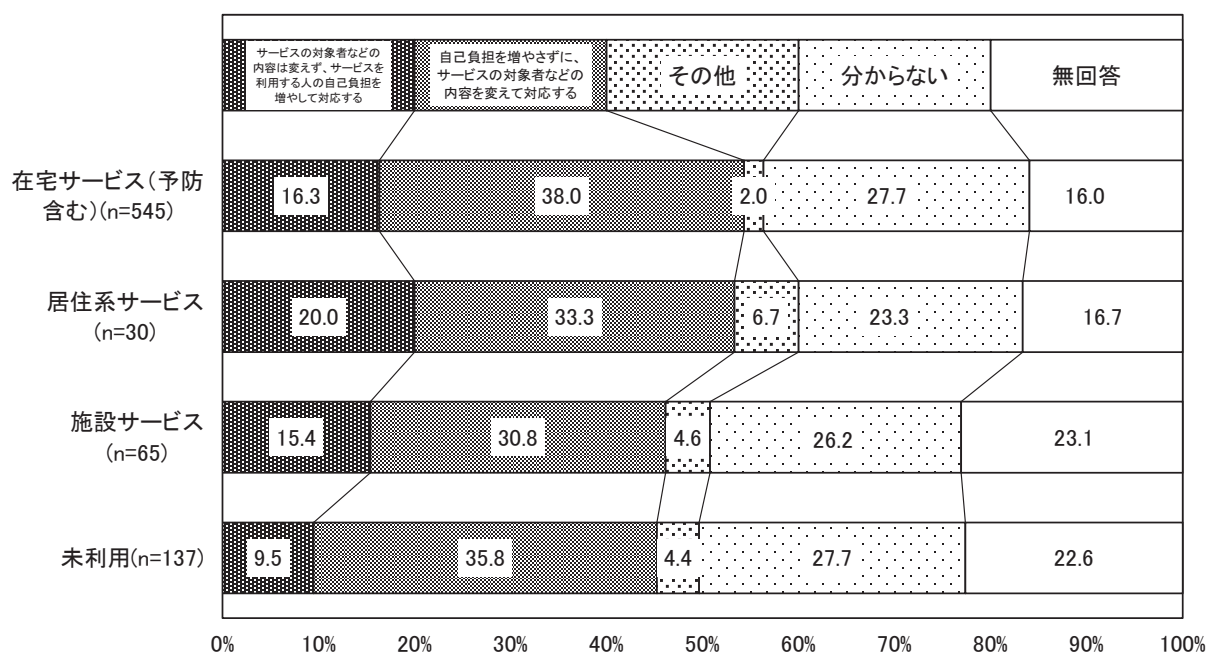
利用している介護保険外サービス(介護保険外サービスを利用している人:複数回答)



⑩ 増大する高齢者福祉サービスへの対応方法(問 20)

増大する高齢者福祉サービスへの対応方法は、利用サービス別にみると、どのサービス利用者でも「自己負担を増やさずに、サービスの対象者などの内容を変えて対応する」(在宅サービス: 38.0%、居住系サービス:33.3%、施設サービス:30.8%)の割合が高くなっており、【未利用】でも 35.8%となっている。

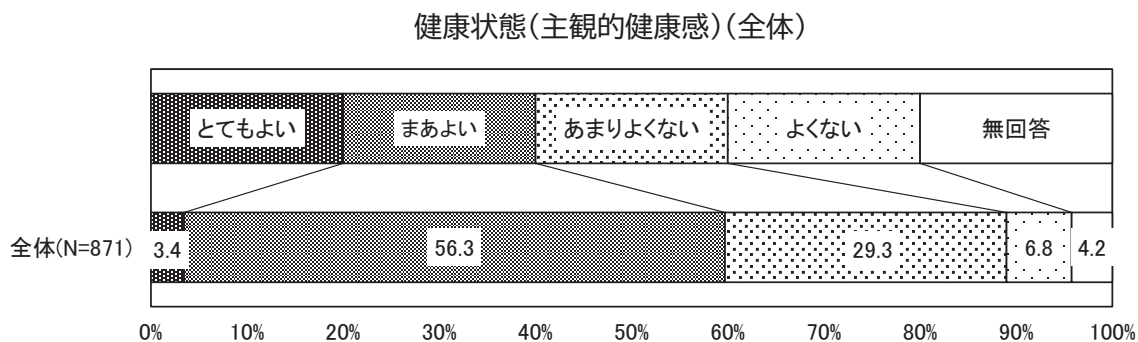
増大する高齢者福祉サービスへの対応方法(利用サービス別)



(5)日常生活

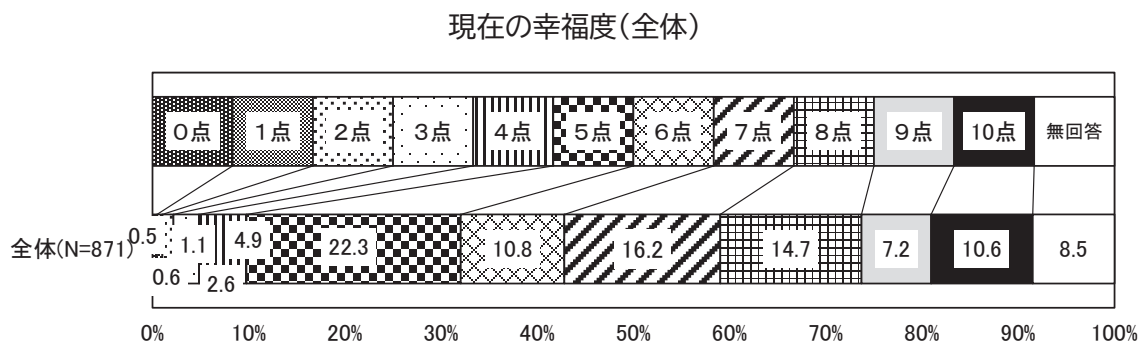
① 健康状態(主観的健康感)(問 21)

健康状態(主観的健康感)は、「とてもよい」(3.4%)と「まあよい」(56.3%)を合わせた割合が、約6割となっている。



② 現在の幸福度(問 22)

主観的な幸福感としての幸福度(とても不幸を0点、とても幸せを10点とした場合の評価)は、平均は6.6点となっている。点数の分布では「5点」(22.3%)の割合が高い。

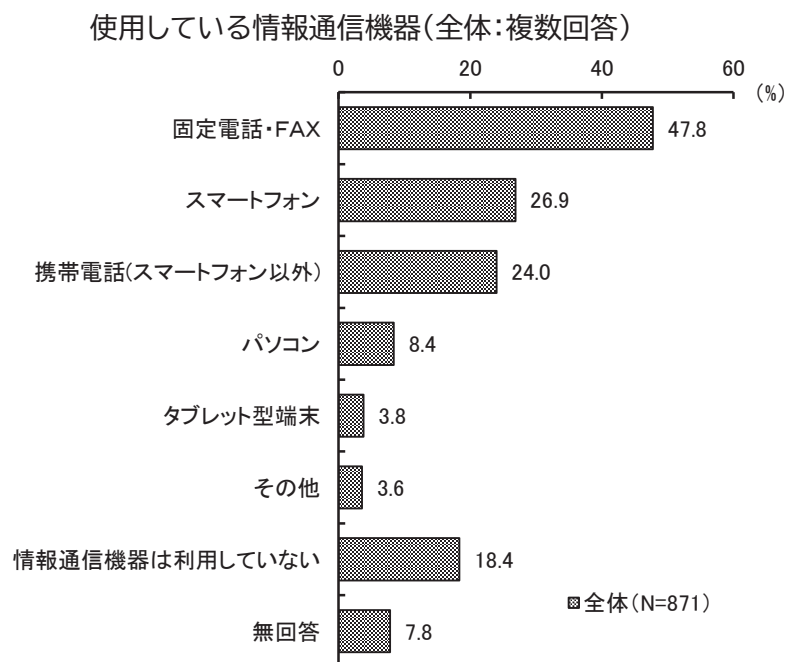


③ 使用している情報通信機器(問 23)

使用している情報通信機器は、「固定電話・FAX」(47.8%)が最も高く、「スマートフォン」(26.9%)、「携帯電話(スマートフォン以外)」(24.0%)の順で続いている。

年代別にみると、年代が高いほど「固定電話・FAX」、「携帯電話(スマートフォン以外)」の割合は高くなり、「スマートフォン」の割合は低くなっている。

要介護度別にみると、要介護1からは要介護度が重いほど、「スマートフォン」の割合が低くなっている。



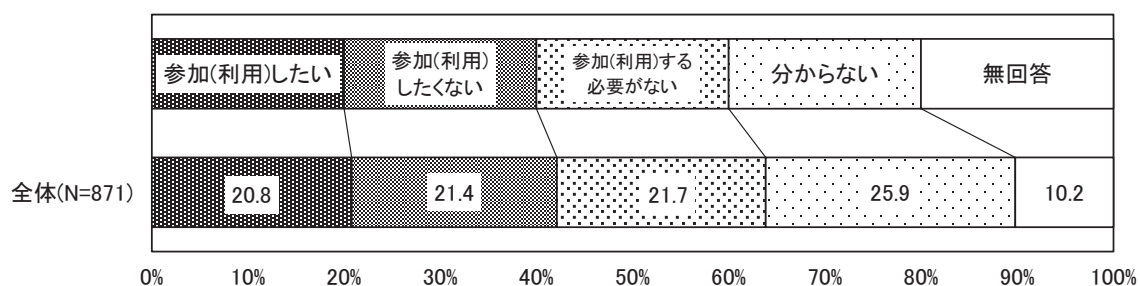
使用している情報通信機器(全体、年代別、要介護度別:複数回答)

		回答者数	固定電話・FAX	スマートフォン	携帯電話(スマートフォン以外)	パソコン	タブレット型端末	その他	情報通信機器は利用していない	無回答
全体		871	47.8	26.9	24.0	8.4	3.8	3.6	18.4	7.8
年代別	65歳未満	27	22.2	63.0	11.1	18.5	22.2	3.7	22.2	0.0
	65～74歳	92	38.0	58.7	20.7	20.7	12.0	5.4	5.4	7.6
	75～84歳	295	46.4	32.5	23.1	8.8	2.0	4.4	15.6	8.5
	85歳以上	442	52.3	14.3	26.0	5.2	2.3	2.7	22.9	7.7
要介護度別	要支援1	118	58.5	34.7	27.1	17.8	3.4	3.4	5.1	10.2
	要支援2	70	51.4	30.0	32.9	11.4	5.7	1.4	7.1	10.0
	要介護1	196	61.2	31.1	27.6	7.1	2.6	3.6	9.2	3.6
	要介護2	153	54.9	27.5	26.1	7.2	3.9	2.0	19.0	2.6
	要介護3	126	38.9	23.8	15.1	3.2	4.8	2.4	33.3	7.1
	要介護4	97	28.9	22.7	19.6	6.2	2.1	6.2	23.7	11.3
	要介護5	74	14.9	18.9	13.5	9.5	6.8	5.4	47.3	13.5

④ 情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向(問 24)

情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向は、「参加(利用)したい」(20.8%)は2割である。他方、「分からない」(25.9%)、「参加(利用)する必要がない」(21.7%)、「参加(利用)したくない」(21.4%)もそれぞれ2割程度であり、回答が分かれている。

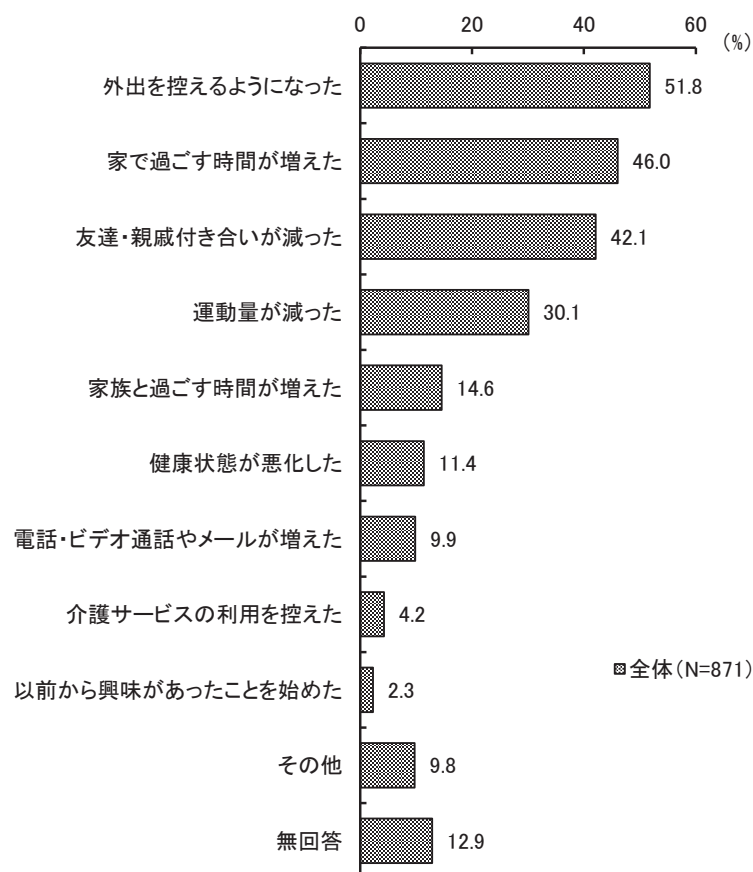
情報通信機器の使い方を教えてくれる機会への参加意向(全体)



⑤ コロナ禍による生活の変化(問 25)

コロナ禍による生活の変化は、「外出を控えるようになった」(51.8%)が最も高く、「家で過ごす時間が増えた」(46.0%)、「友達・親戚付き合いが減った」(42.1%)の順で続いている。

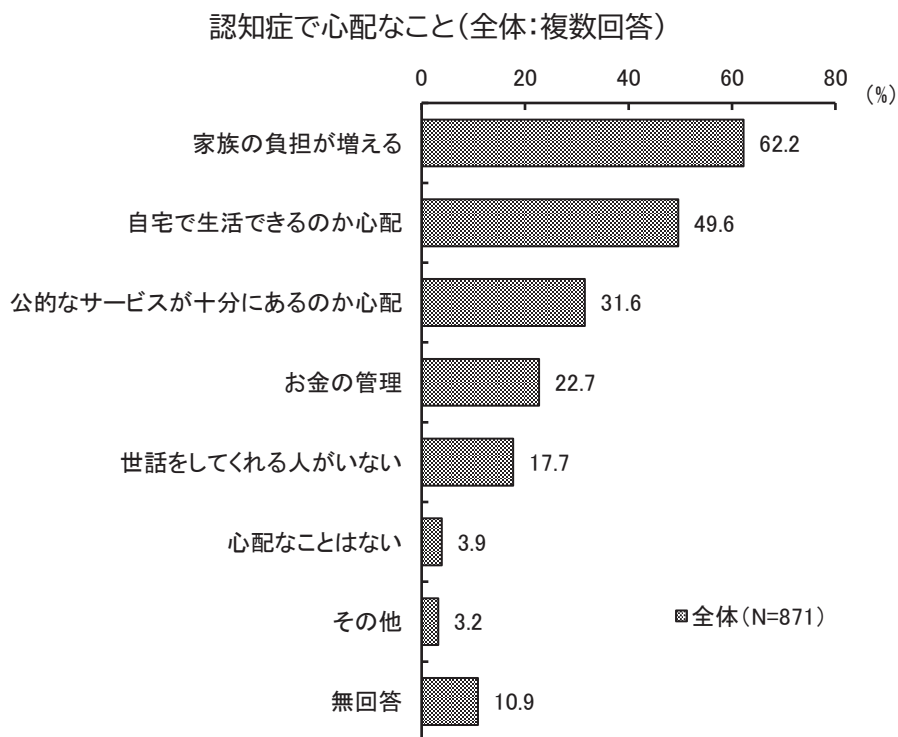
コロナ禍による生活の変化(全体:複数回答)



(6) 認知症、権利擁護

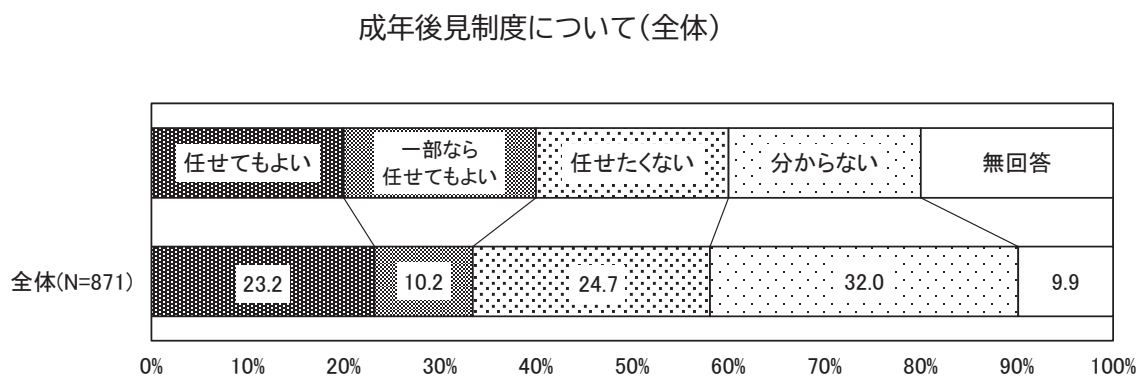
① 認知症で心配なこと(問 26)

認知症で心配なことは、「家族の負担が増える」(62.2%)の割合が高く、「自宅で生活できるのか心配」(49.6%)、「公的なサービスが十分にあるのか心配」(31.6%)の順で続いている。



② 成年後見制度について(問 27)

万一のときに、「成年後見人」に財産の管理に関することや各種手続き、相談といった生活のサポートなどを任せることについては、「分からない」(32.0%)が最も高く、「任せてもよい」(23.2%)と「任せたくない」(24.7%)と意見が分かれている。

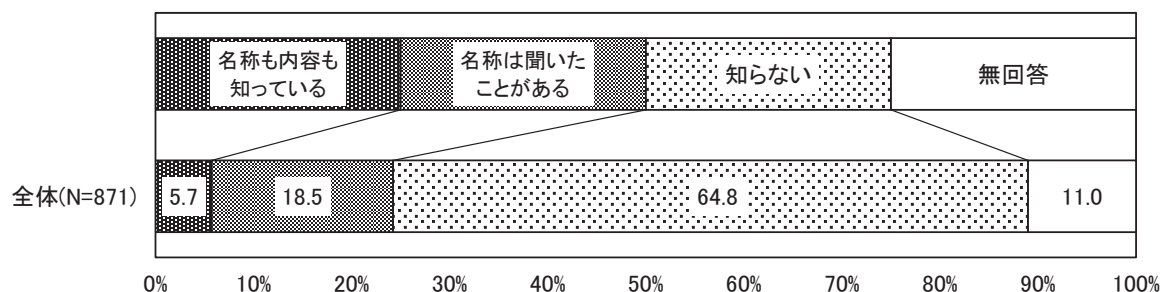


第2章 調査結果

③ 日常生活自立支援事業の認知度(問 28)

日常生活自立支援事業の認知度は、「知らない」(64.8%)が最も高く、「名称も内容も知っている」(5.7%)、「名称は聞いたことがある」(18.5%)を合わせた認知度は2割台となっている。

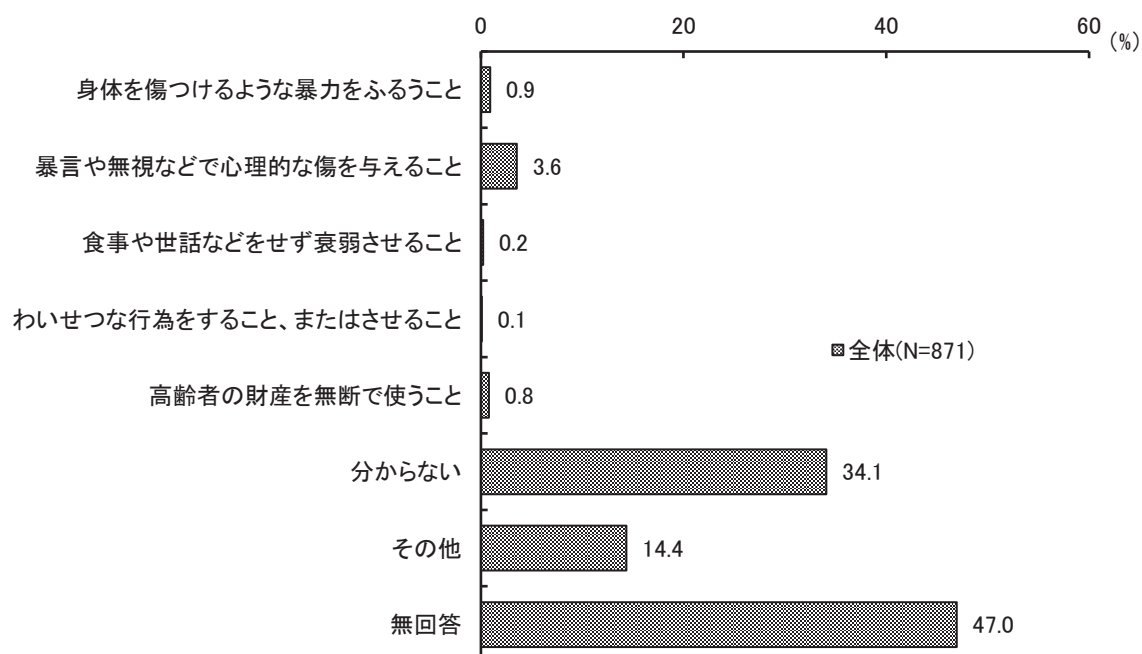
日常生活自立支援事業の認知度(全体)



④ 高齢者虐待の有無(問 29)

高齢者虐待の有無は、「分からない」(34.1%)の割合が高くなっている。

高齢者虐待の有無(全体:複数回答)



(7)介護保険制度

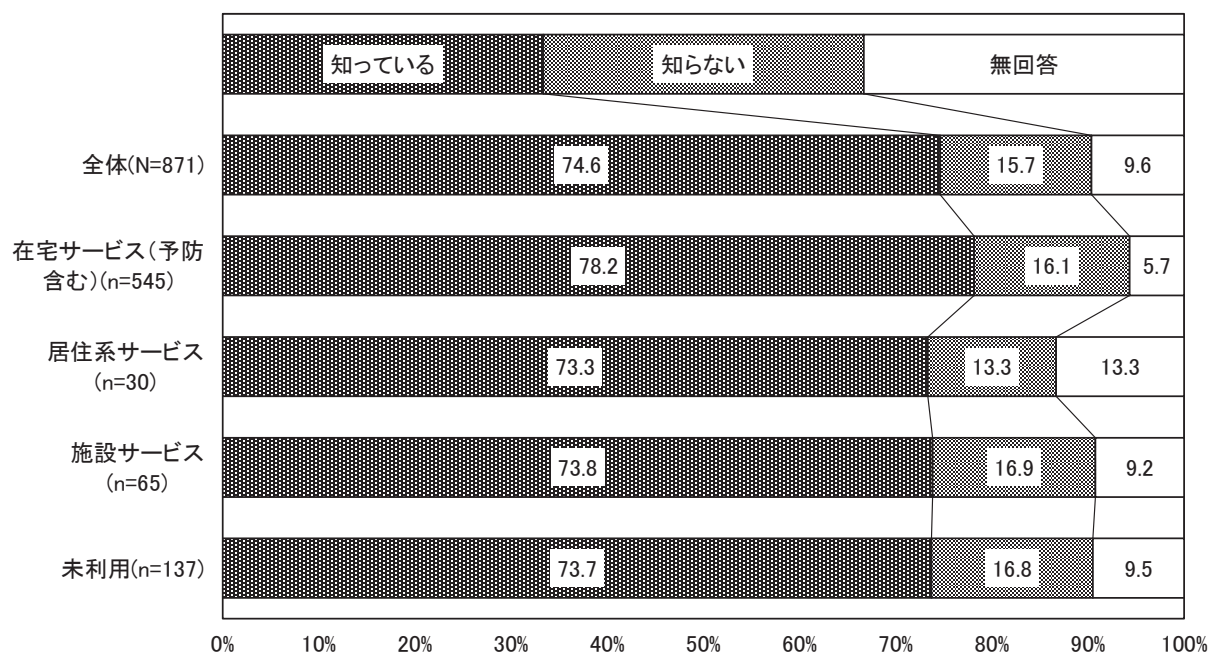
① 地域包括支援センターの認知度(問 30)

地域包括支援センターの認知度は、「知っている」(74.6%)が7割を超えている。

利用サービス別にみると、【在宅サービス】、【居住系サービス】、【施設サービス】、【未利用】とも認知度はいずれも7割を超えている。

地域包括支援センター地区別にみると、【西原町】で「知っている」(80.9%)が8割を超えて高くなっている。

地域包括支援センターの認知度(全体、利用サービス別)



地域包括支援センターの認知度(全体、地域包括支援センター地区別)
(人、%)

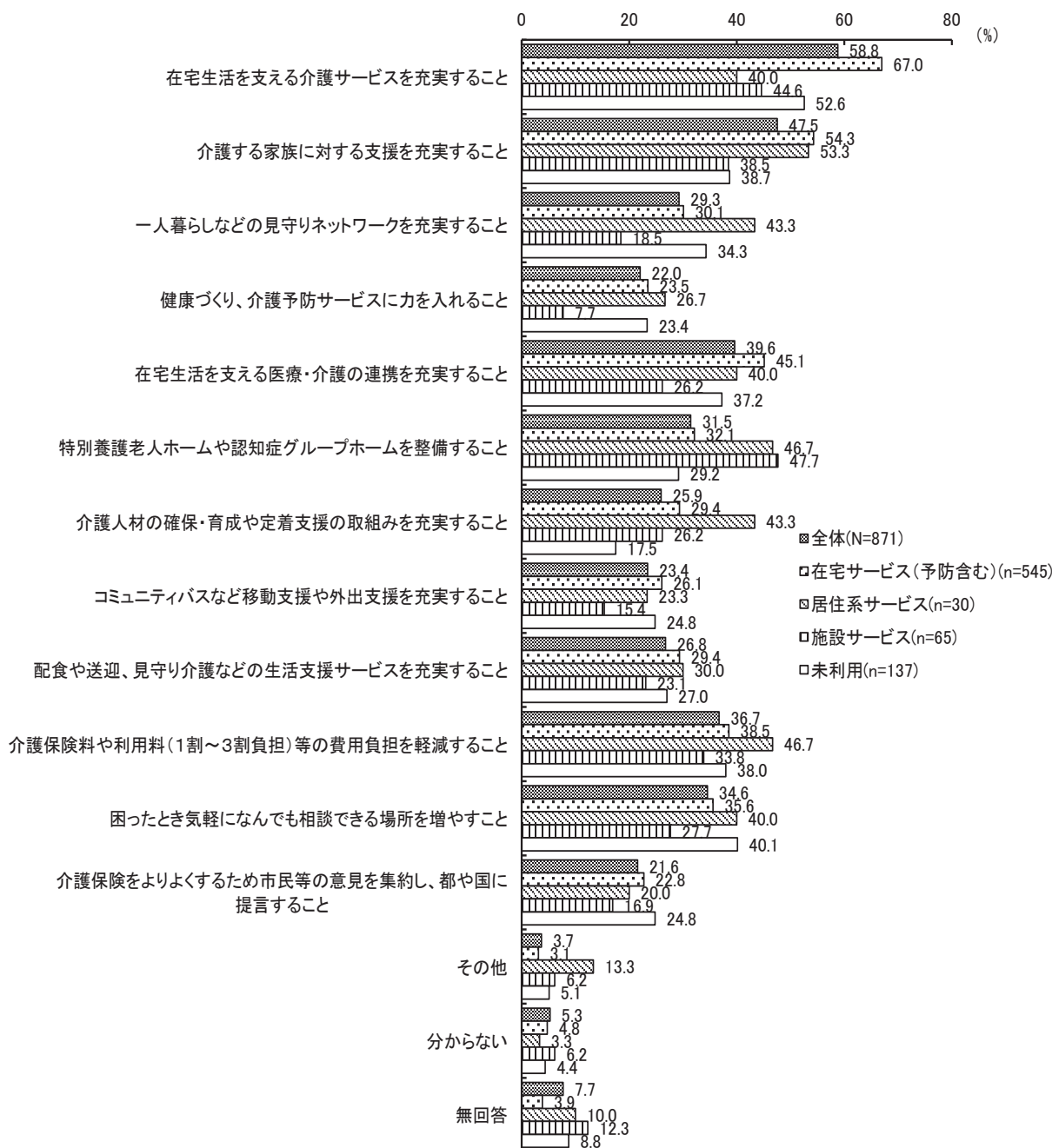
		回答者数	知っている	知らない	無回答
全体		871	74.6	15.7	9.6
地区別	田無町	116	77.6	15.5	6.9
	泉町	106	71.7	17.0	11.3
	新町	114	70.2	16.7	13.2
	向台町	112	72.3	15.2	12.5
	西原町	110	80.9	12.7	6.4
	緑町	119	75.6	15.1	9.2
	富士町	90	77.8	15.6	6.7
	栄町	88	75.0	18.2	6.8

② 今後地域で暮らしていくために必要だと思うこと(問 31)

今後地域で暮らしていくために必要だと思うことは、「在宅生活を支える介護サービスを充実すること」(58.8%)の割合が最も高く、「介護する家族に対する支援を充実すること」(47.5%)、「在宅生活を支える医療・介護の連携を充実すること」(39.6%)の順で続いている。

利用サービス別にみると、【在宅サービス】では「在宅生活を支える介護サービスを充実すること」(67.0%)、「介護する家族に対する支援を充実すること」(54.3%)の割合が高くなっている。【居住系サービス】は「介護する家族に対する支援を充実すること」(53.3%)や「介護保険料や利用料(1割～3割負担)等の費用負担を軽減すること」(46.7%)の割合が高く、その他「特別養護老人ホームや認知症グループホームを整備すること」(46.7%)の割合も高く、【施設サービス】と同様の傾向となっている。

今後地域で暮らしていくために必要だと思うこと(全体、利用サービス別:複数回答)

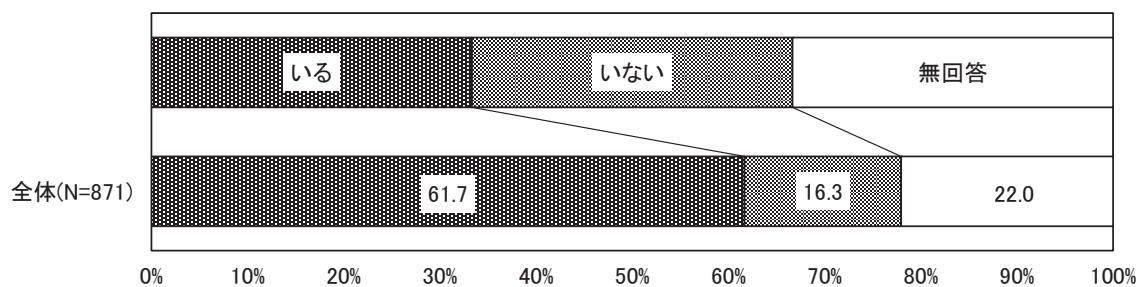


(8)介護者への質問(あて名の本人を介護している人)

① 日ごろ本人を介護している人の有無(問 32)

日ごろ本人を介護をしている人の有無は、「いる」(61.7%)が高い。

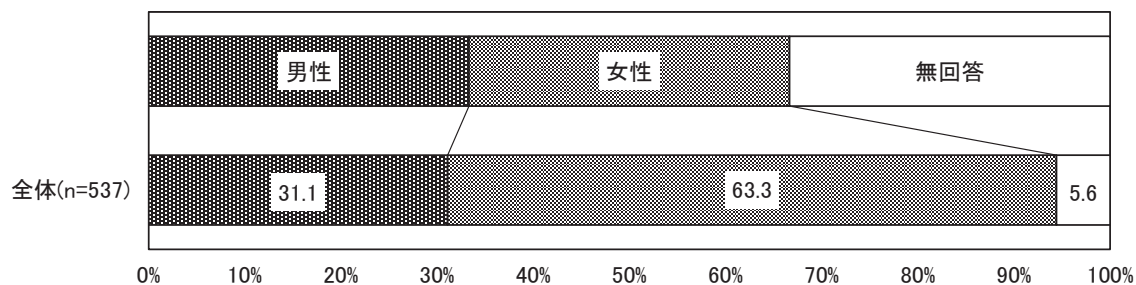
日ごろ本人を介護している人の有無(介護者)



② 主に介護をしている人の性別(問 33)

主に介護をしている人の性別をたずねたところ、「女性」が 63.3%、「男性」が 31.1%である。

主に介護をしている人の性別(介護者)

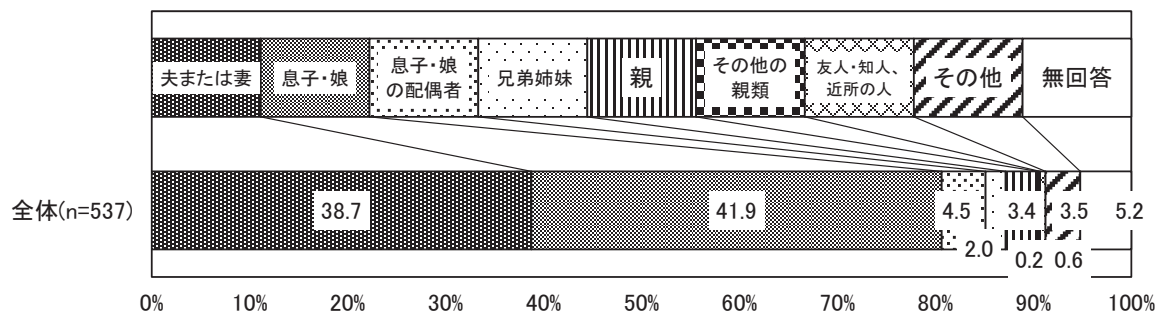


第2章 調査結果

③ 主に介護をしている人の続柄(問 34)

主に介護をしている方の続柄をたずねたところ、「息子・娘」(41.9%)の割合が高く、「夫または妻」(38.7%)を上回っている。

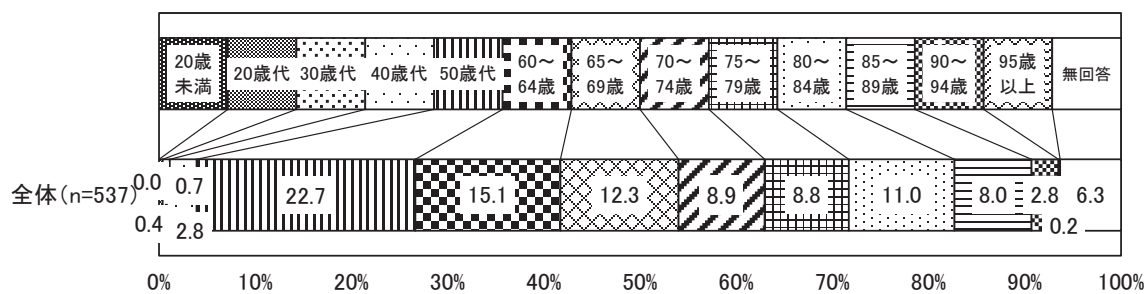
主に介護をしている方の続柄(介護者)



④ 主に介護している人の年齢(問 35)

主に介護している人の年齢をたずねたところ、「50 歳代」(22.7%)の割合が高いが、「60～64 歳」(15.1%)と「65～69 歳」(12.3%)が続き、それ以上の年代も「80～84 歳」(11.0%)で1割を超えるなど介護者の年齢は幅広い。

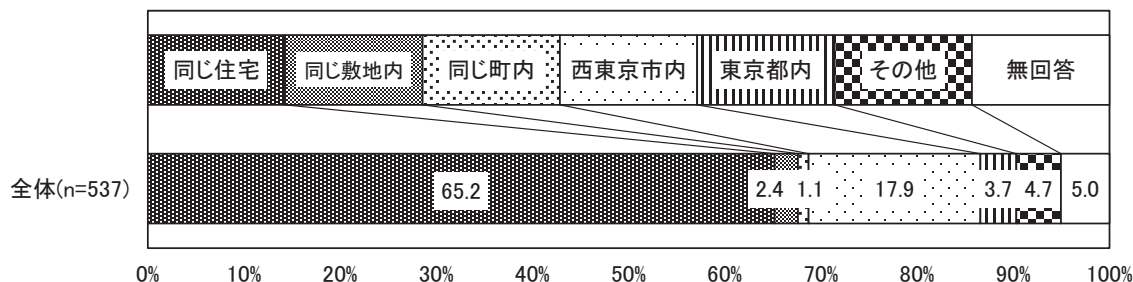
主に介護している人の年齢(介護者)



⑤ 主に介護している人の居住地(問 36)

主に介護している人の居住地をたずねたところ、「同じ住宅」(65.2%)が最も高い割合であり、「西東京市内」(17.9%)が続いている。

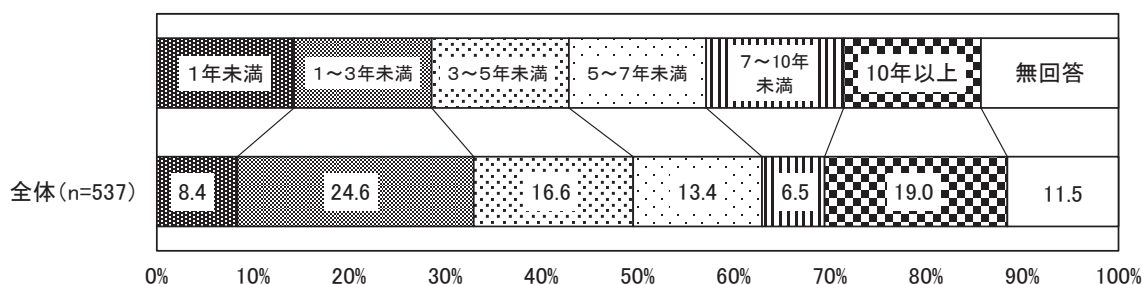
主に介護している人の居住地(介護者)



⑥ 介護している期間(問 37)

介護している期間をたずねたところ、「1～3年未満」(24.6%)、「10年以上」(19.0%)、「3～5年未満」(16.6%)の割合が高くなっている。

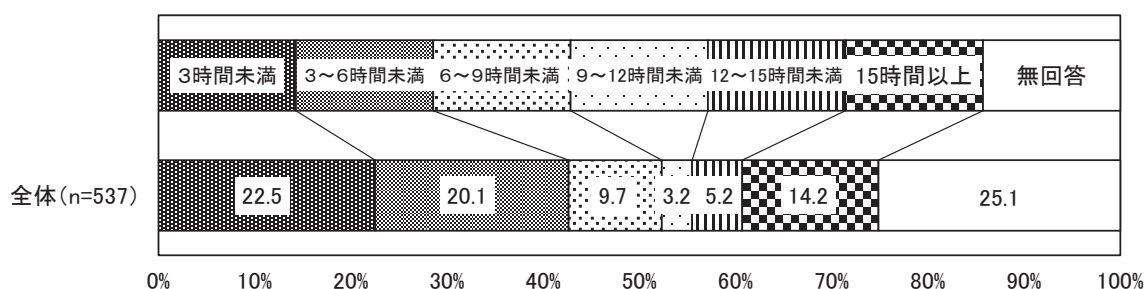
介護している期間(介護者)



⑦ 一日の介護時間(問 38)

一日の介護時間をたずねたところ、「3時間未満」(22.5%)、「3～6時間未満」(20.1%)が高いが、「15時間以上」(14.2%)も1割以上となっている。

一日の介護時間(介護者)

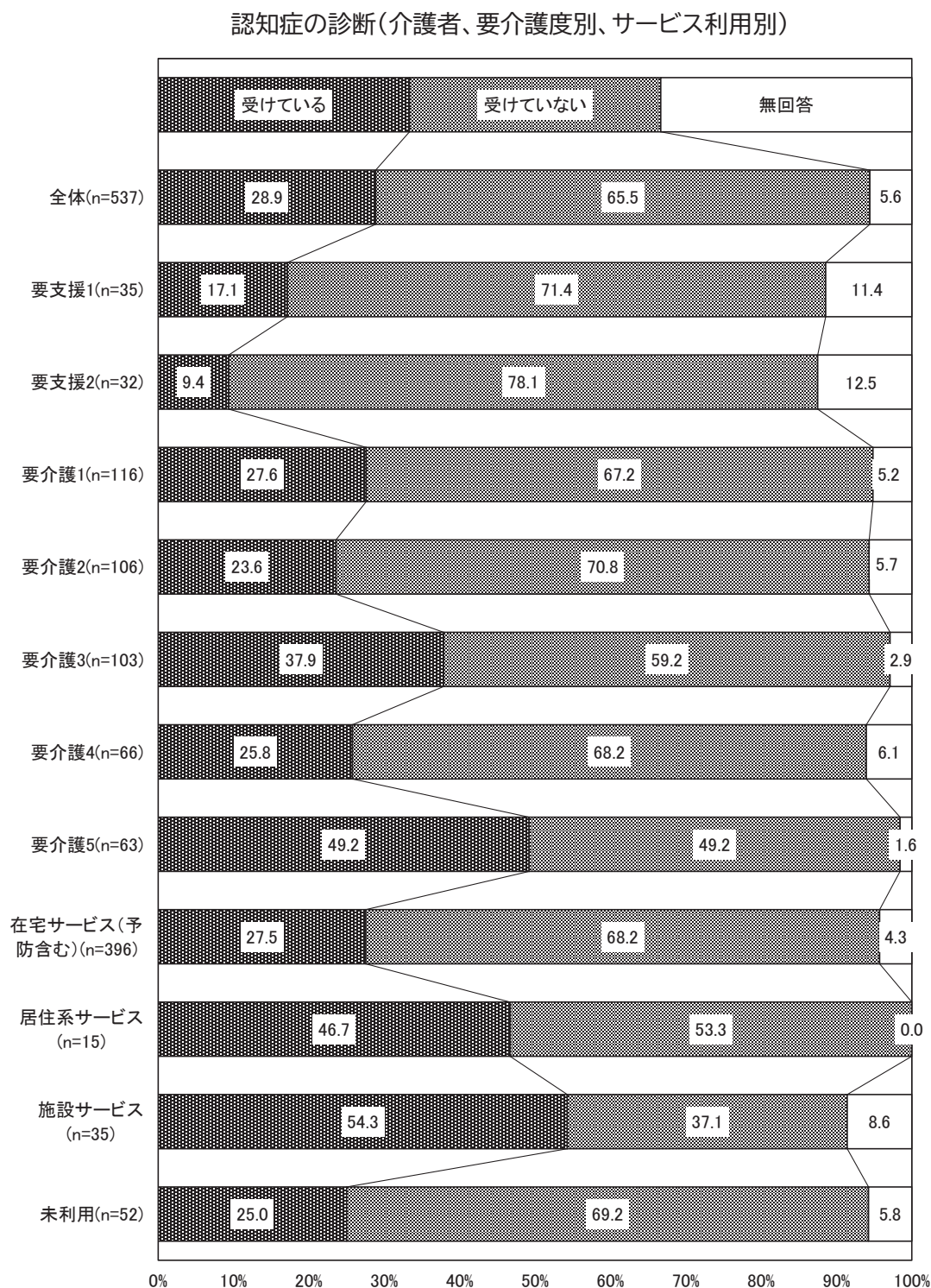


⑧ 認知症の診断(問 39)

本人の認知症の診断をたずねたところ、「受けている」が 28.9%、「受けていない」が 65.5%である。

要介護度別にみると、【要支援1】、【要支援2】では、「受けている」が 20%未満であるが、【要介護3】では 37.9%、【要介護5】では 49.2%となっている。

サービス利用別にみると、【在宅サービス】、【未利用】では「受けている」が 20%台であるが、【居住系サービス】では 46.7%、【施設サービス】では 54.3%となっている。

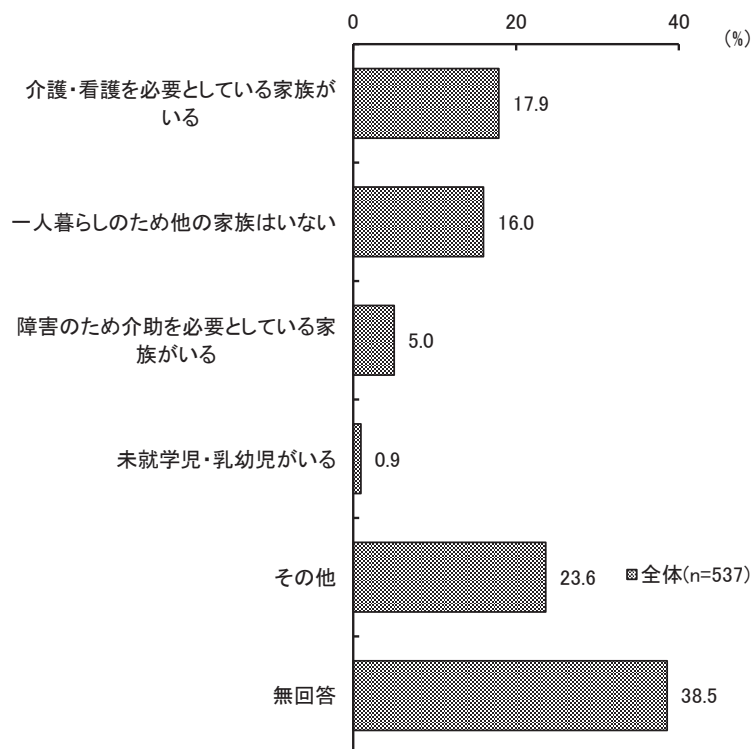


⑨ あて名の本人以外に介護・看護・世話が必要な家族の同居(問 40)

あて名の本人以外に、介護・看護・世話が必要な家族が同居しているかたずねたところ、「介護・看護を必要としている家族がいる」(17.9%)、「一人暮らしのため他の家族はいない」(16.0%)の順で高くなっている。

「その他」は 23.6%であり、介助が必要な障害者、精神障害者、認知症の配偶者などの回答となっている。

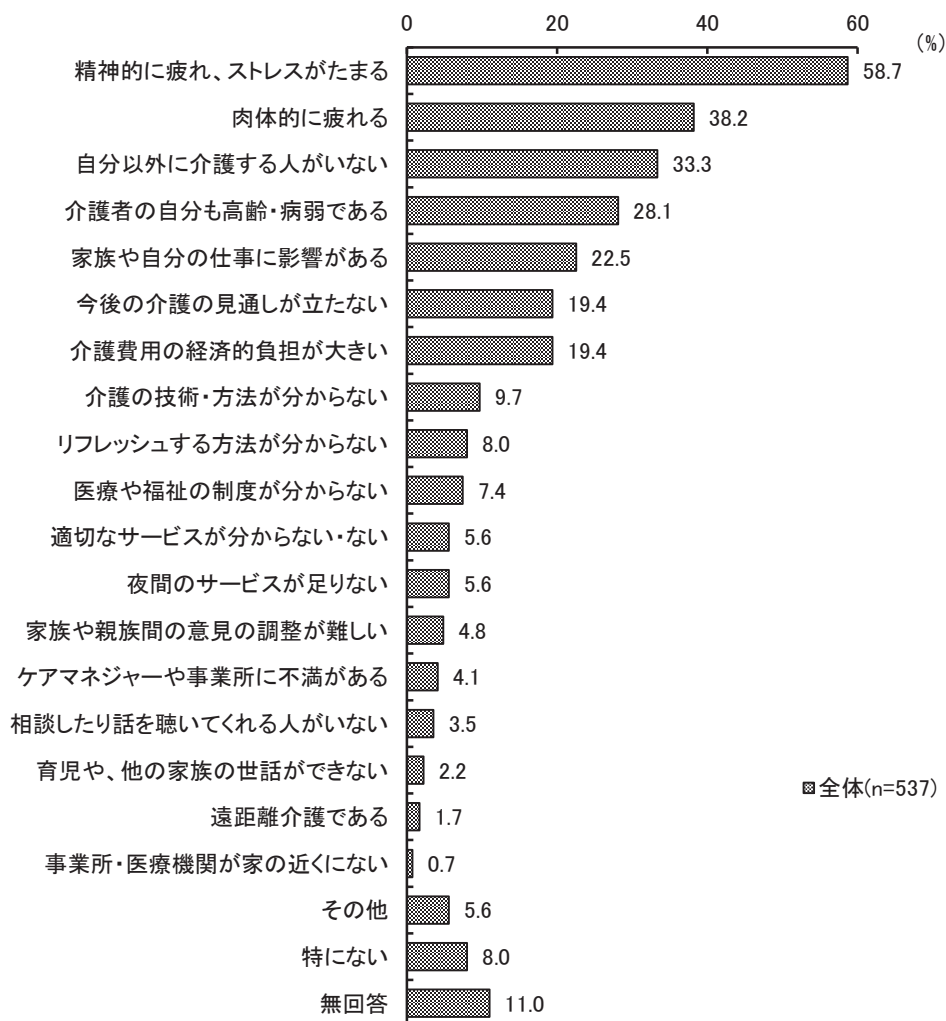
あて名の本人以外に介護・看護・世話が必要な家族の同居(介護者:複数回答)



⑩ 介護する上で大変なことや困っていること(問 41)

介護する上で大変なことや困っていることをたずねたところ、「精神的に疲れ、ストレスがたまる」(58.7%)が最も高く、「肉体的に疲れる」(38.2%)、「自分以外に介護する人がいない」(33.3%)の順で続いている。

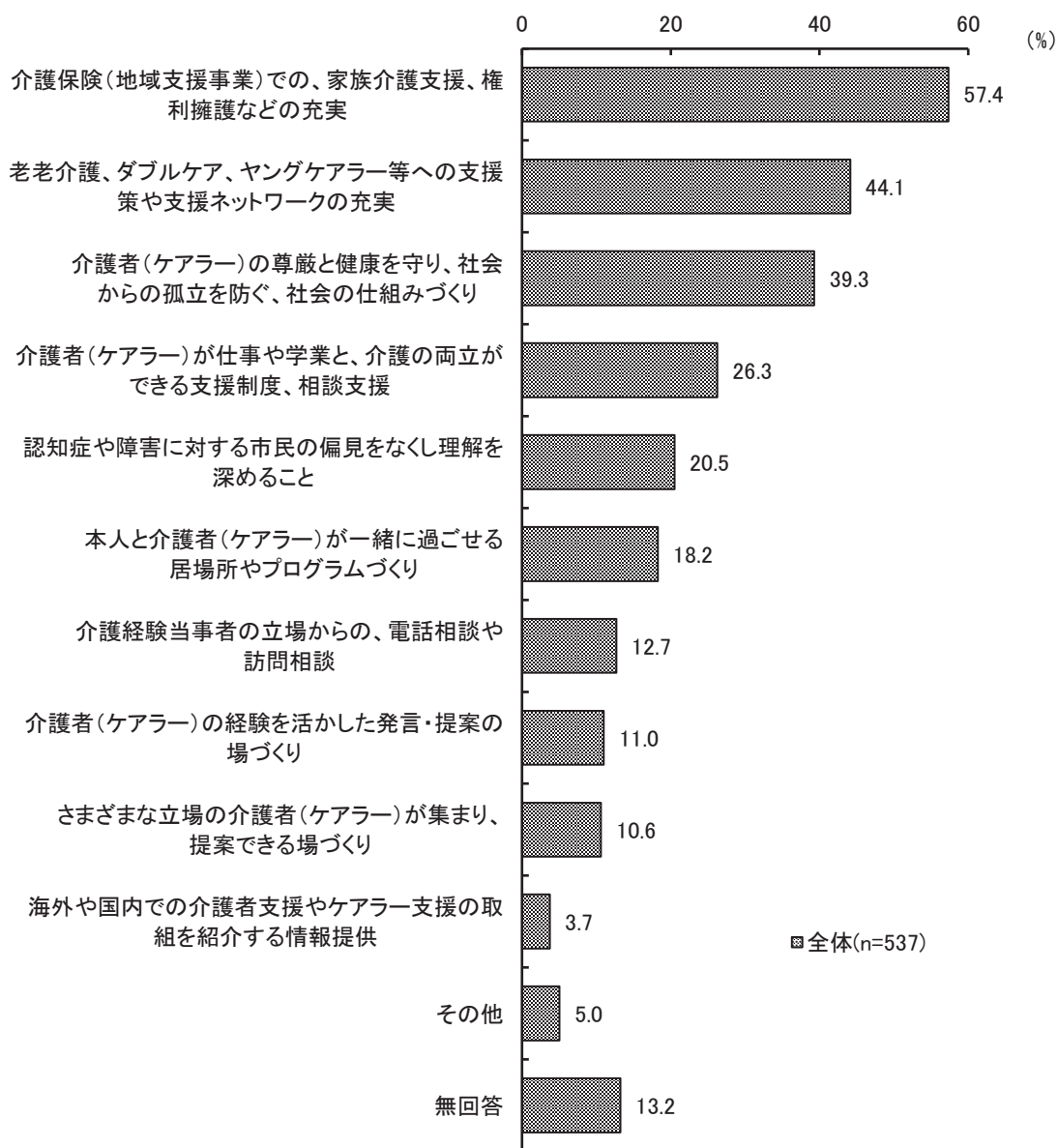
介護する上で大変なことや困っていること(介護者:複数回答)



⑪ 西東京市の介護者支援策で必要なこと(問 42)

西東京市の介護者支援策で必要なことをたずねたところ、「介護保険(地域支援事業)での、家族介護支援、権利擁護などの充実」(57.4%)が最も高く、「老老介護、ダブルケア、ヤングケアラー等への支援策や支援ネットワークの充実」(44.1%)、「介護者(ケアラー)の尊厳と健康を守り、社会からの孤立を防ぐ、社会の仕組みづくり」(39.3%)の順で続いている。

西東京市の介護者支援策で必要なこと(介護者:複数回答)

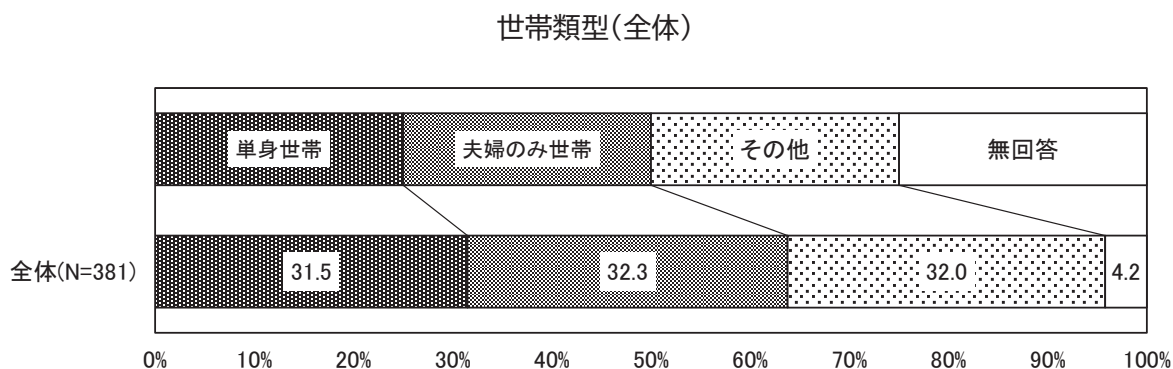


4 在宅介護実態調査

(1)調査対象者(本人)の状況

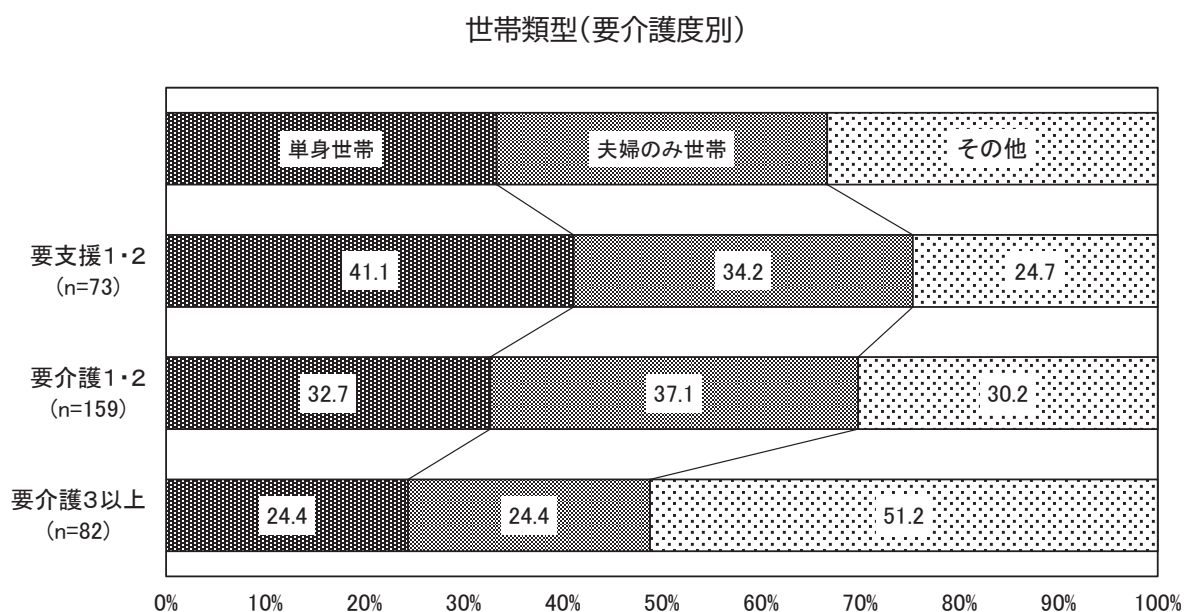
① 世帯類型(問1)

世帯類型は、「夫婦のみ世帯」が32.3%、「単身世帯」が31.5%、「その他」が32.0%となっている。



要支援1・2、要介護1・2、要介護3以上の3区分別にみると、【要支援1・2】では「単身世帯」(41.1%)が最も高く、次いで「夫婦のみ世帯」(34.2%)、「その他」(24.7%)の順となっている。

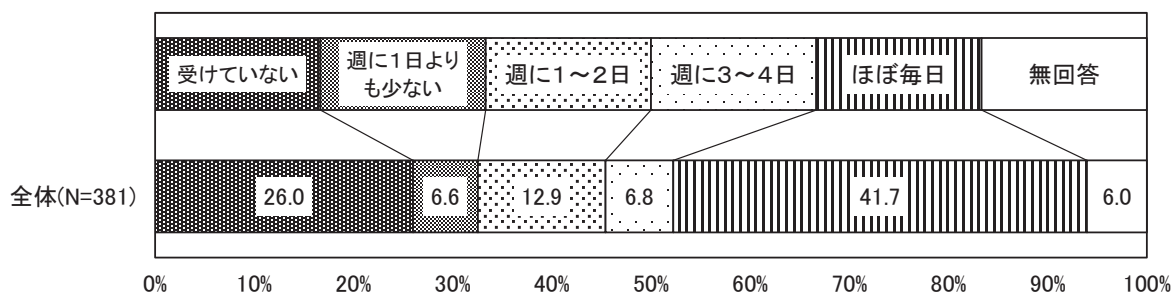
しかし、【要介護1・2】、【要介護3以上】と要介護度が高いほど、「単身世帯」の割合は低くなり(要介護1・2:32.7%、要介護3以上:24.4%)、「その他」の割合が高くなる(要介護1・2:30.2%、要介護3以上:51.2%)。



② 家族・親族からの介護の頻度(問 2)

家族・親族からの介護の頻度は、「ほぼ毎日」(41.7%)が4割を超え、「週に1~2日」(12.9%)は1割強となっている。また、「受けていない」は26.0%となっている。

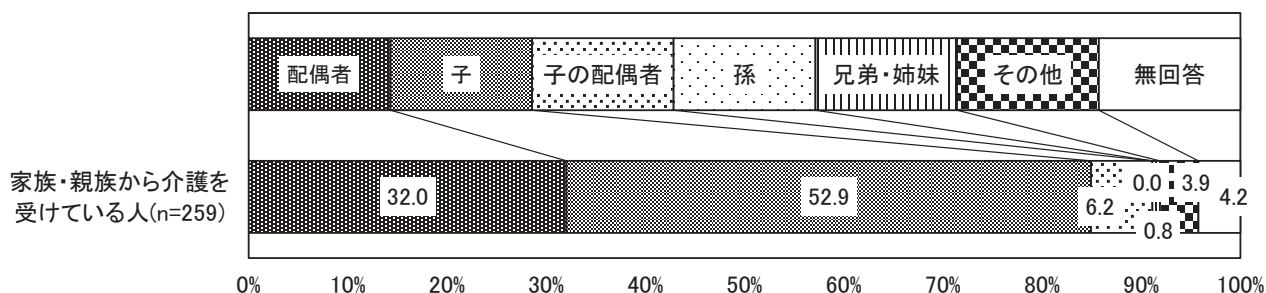
家族・親族からの介護の頻度(全体)



③ 主な介護者の本人との関係(問 3)

家族・親族から介護を受けている人に、主な介護者の本人との関係をたずねたところ、「子」(52.9%)が最も高く、過半数を占めている。次いで、「配偶者」(32.0%)となっている。

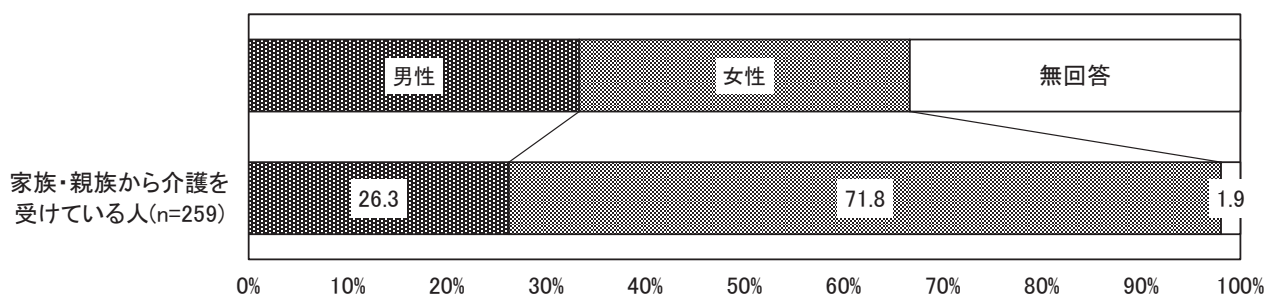
主な介護者の本人との関係(家族・親族から介護を受けている人)



④ 主な介護者の性別(問 4)

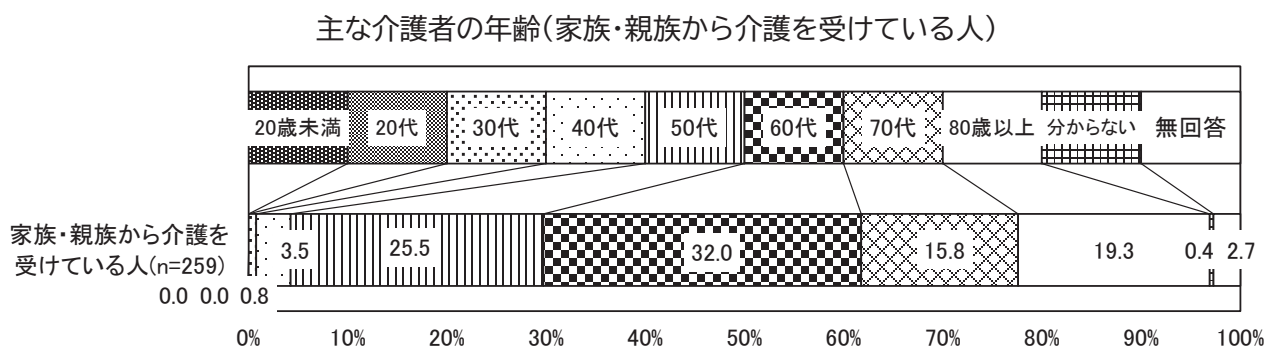
家族・親族から介護を受けている人に、主な介護者の性別をたずねたところ、「女性」が71.8%、「男性」が26.3%となっている。

主な介護者の性別(家族・親族から介護を受けている人)



⑤ 主な介護者の年齢(問 5)

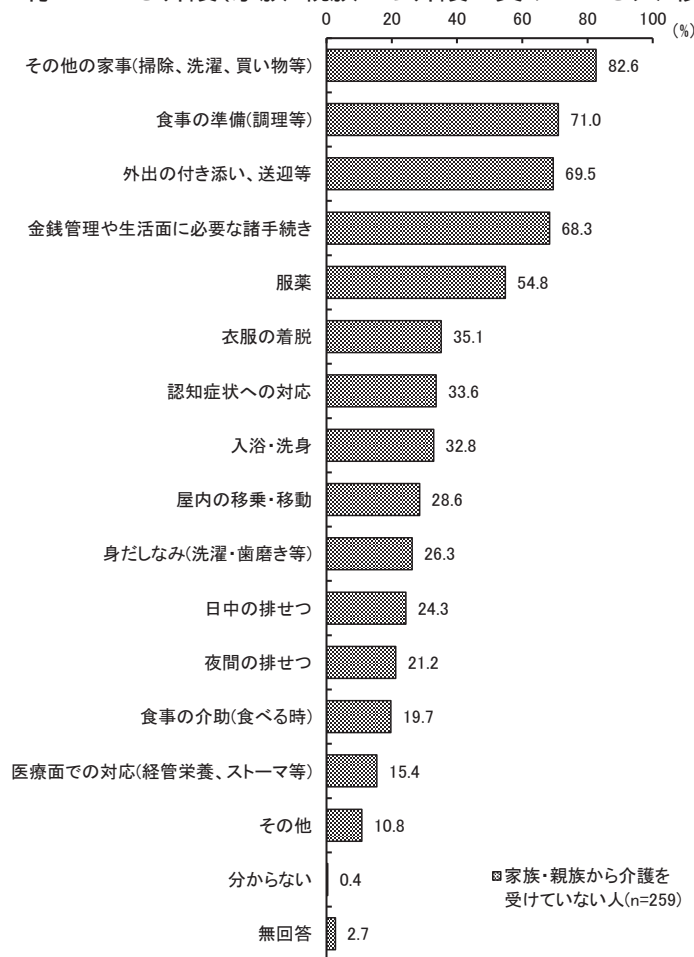
家族・親族から介護を受けている人に、主な介護者の年齢をたずねたところ、「60代」が32.0%、次いで「50代」が25.5%となっている。また、「80歳以上」(19.3%)と「70代」(15.8%)を合計すると70歳以上が35.1%となっている。



⑥ 主な介護者が行っている介護(問 6)

家族・親族から介護を受けている人に、主な介護者が行っている介護をたずねたところ、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」(82.6%)が最も高く、「食事の準備(調理等)」(71.0%)、「外出の付き添い、送迎等」(69.5%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(68.3%)、「服薬」(54.8%)の順で続いている。

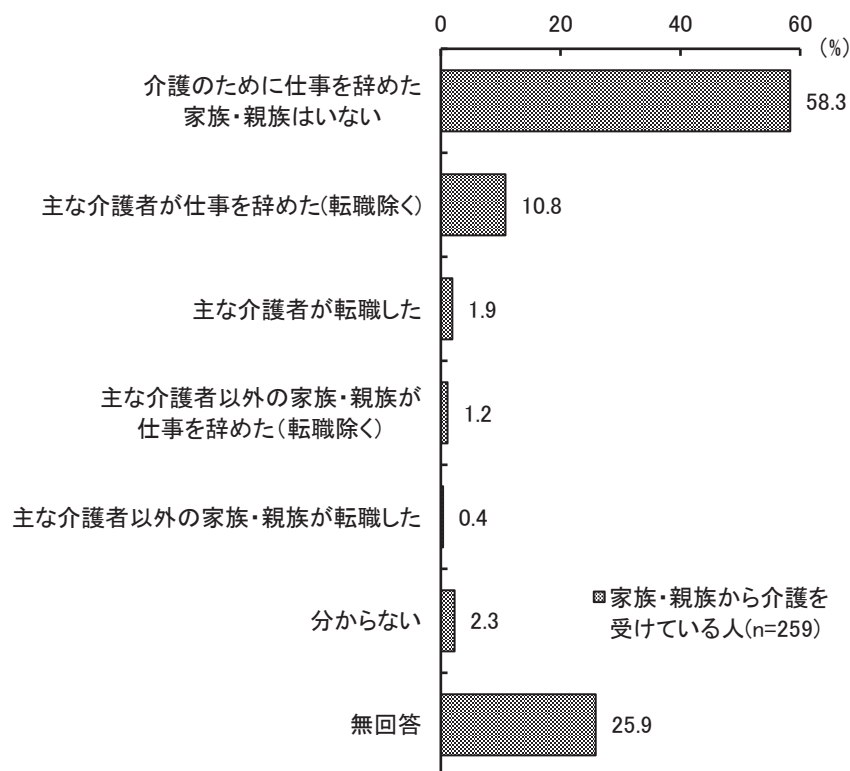
主な介護者が行っている介護(家族・親族から介護を受けている人:複数回答)



⑦ 介護者の介護のための離職の有無(問 7)

家族・親族から介護を受けている人に、介護者の介護のための離職の有無をたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」(58.3%)が最も高く、次いで、「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」(10.8%)となっている。

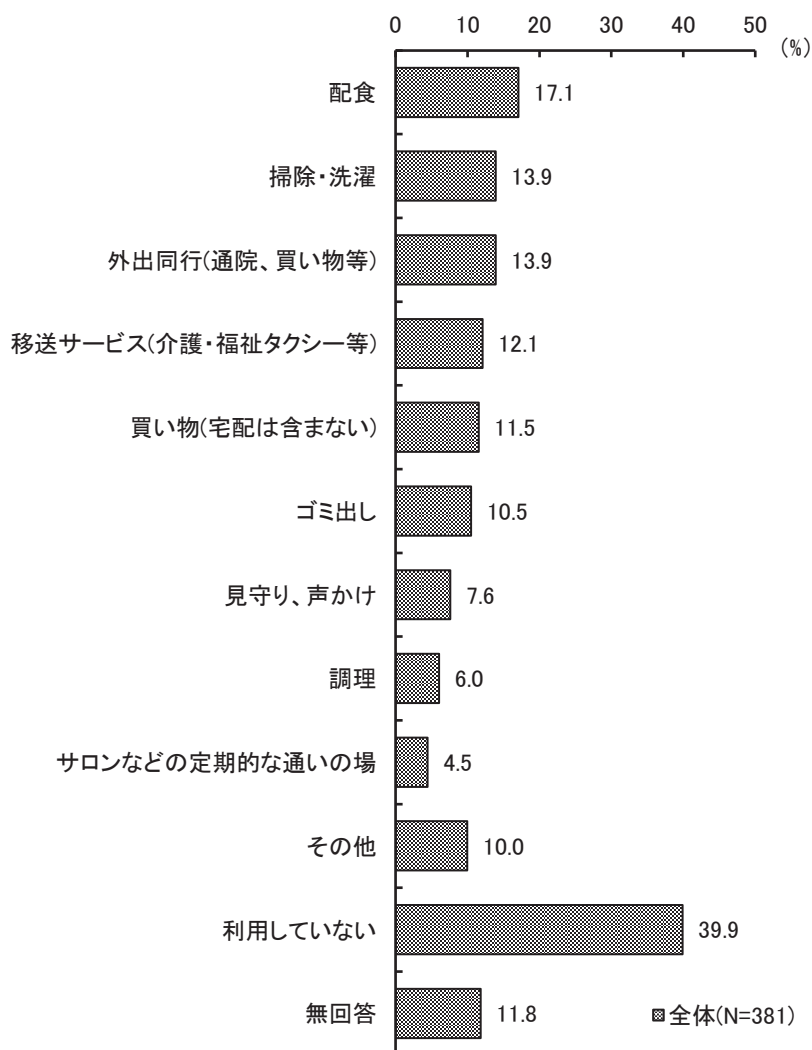
介護者の介護のための離職の有無(家族・親族から介護を受けている人:複数回答)



⑧ 介護保険外の支援・サービスの利用状況(問 8)

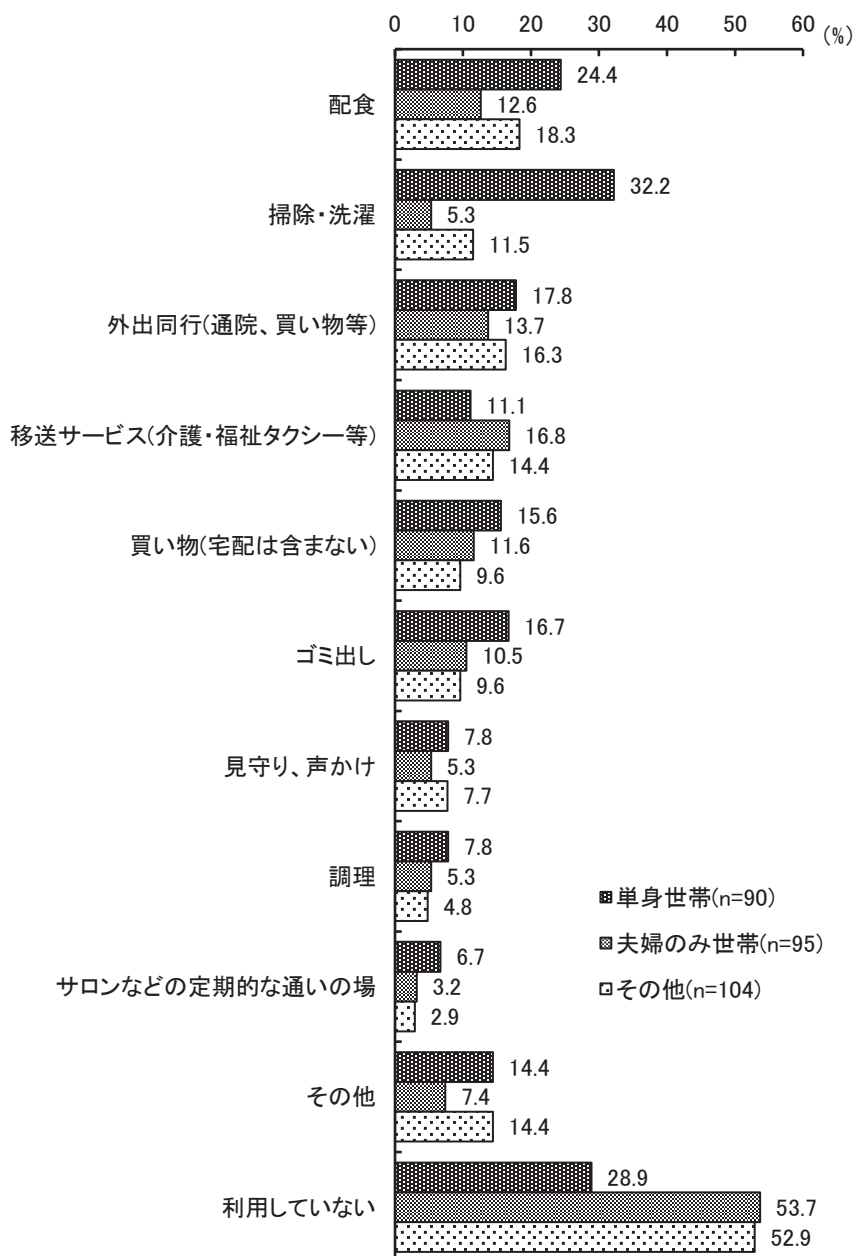
介護保険外の支援・サービスの利用状況は、「配食」(17.1%)が最も高く、「掃除・洗濯」(13.9%)、「外出同行(通院、買い物等)」(13.9%)、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(12.1%)、「買い物(宅配は含まない)」(11.5%)、「ゴミ出し」(10.5%)の順で続いている。また、「利用していない」(39.9%)は約4割を占めている。

介護保険外の支援・サービスの利用状況(全体:複数回答)



世帯類型別にみると、【単身世帯】では「掃除・洗濯」(32.2%)が最も高く、次いで「配食」(24.4%)となっており、「利用していない」(28.9%)は3割弱となっている。【夫婦のみ世帯】では「利用していない」(53.7%)が過半数を占めており、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(16.8%)、「外出同行(通院、買い物等)」(13.7%)が15%前後で高くなっている。【その他】では「利用していない」(52.9%)が過半数を占めており、「配食」(18.3%)、「外出同行(通院、買い物等)」(16.3%)が高くなっている。

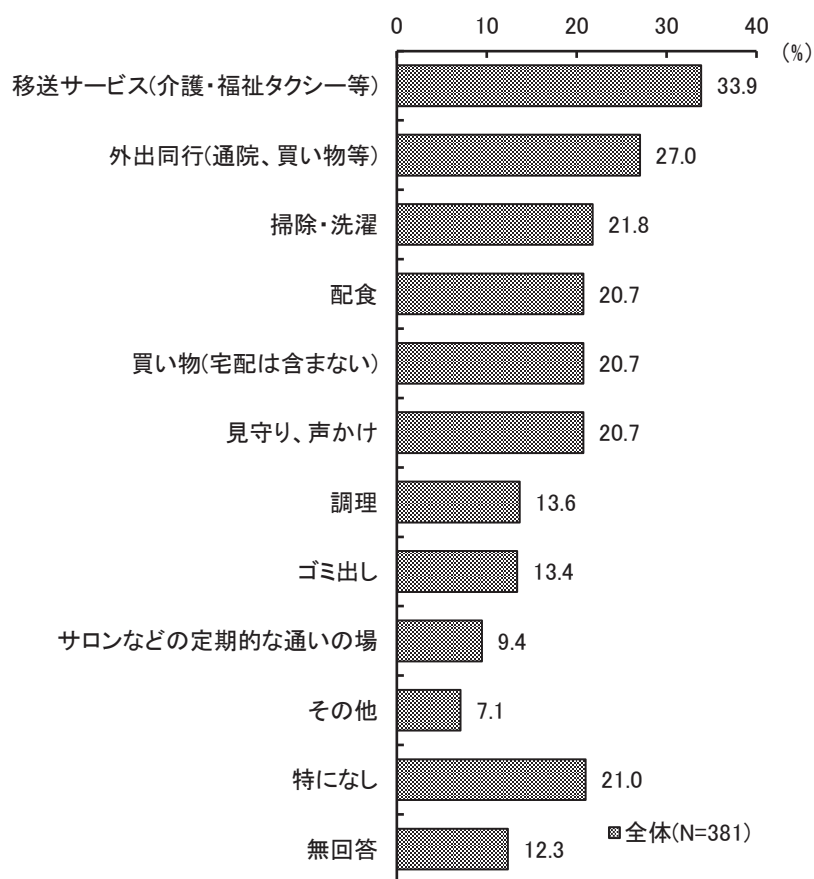
介護保険外の支援・サービスの利用状況(世帯類型別:複数回答)



⑨ 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス(問9)

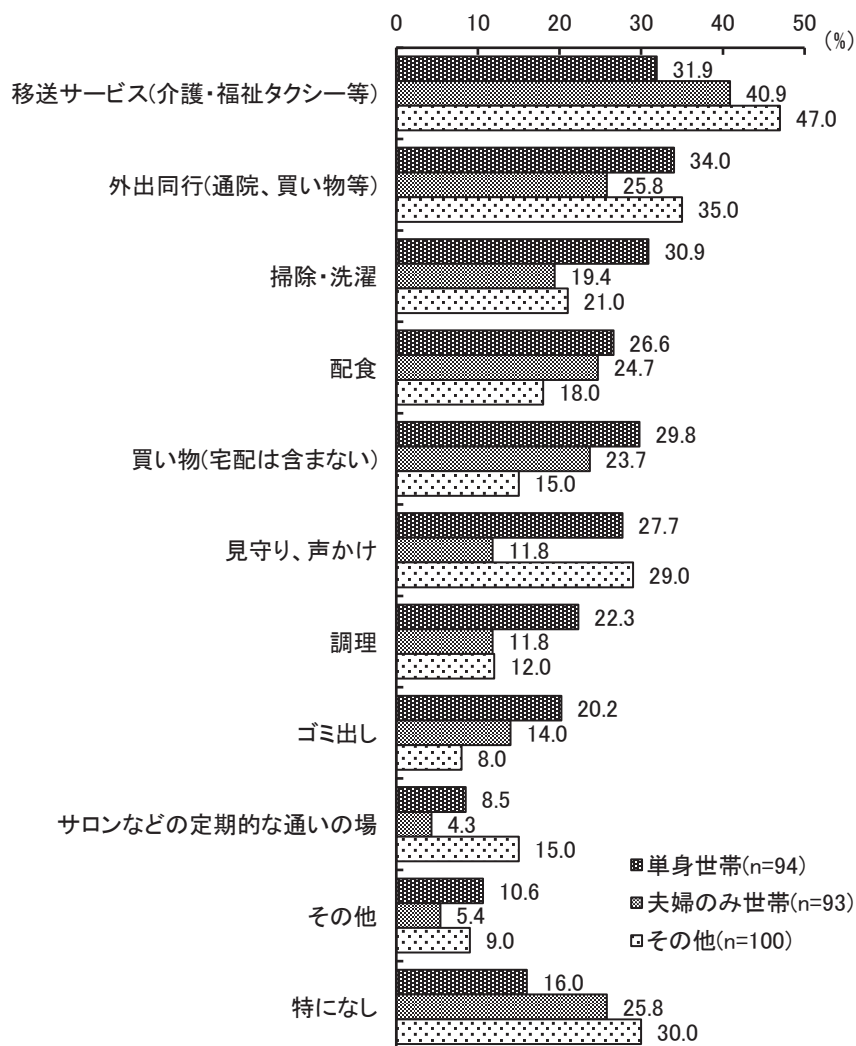
在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスは、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(33.9%)が最も高く、「外出同行(通院、買い物等)」(27.0%)、「掃除・洗濯」(21.8%)、「配食」、「買い物(宅配は含まない)」、「見守り、声かけ」(20.7%)の順で続いている。

在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス(全体:複数回答)



世帯類型別にみると、【単身世帯】では「外出同行(通院、買い物等)」(34.0%)、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(31.9%)、「掃除・洗濯」(30.9%)がいずれも3割を超え高くなっている。【夫婦のみ世帯】では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(40.9%)が最も高く、「外出同行(通院、買い物等)」、「特になし」(25.8%)、「配食」(24.7%)の順となっている。【その他】では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(47.0%)が5割弱で最も高く、次いで「外出同行(通院、買い物等)」(35.0%)となっている。また、「特になし」(30.0%)が3割を占めている。

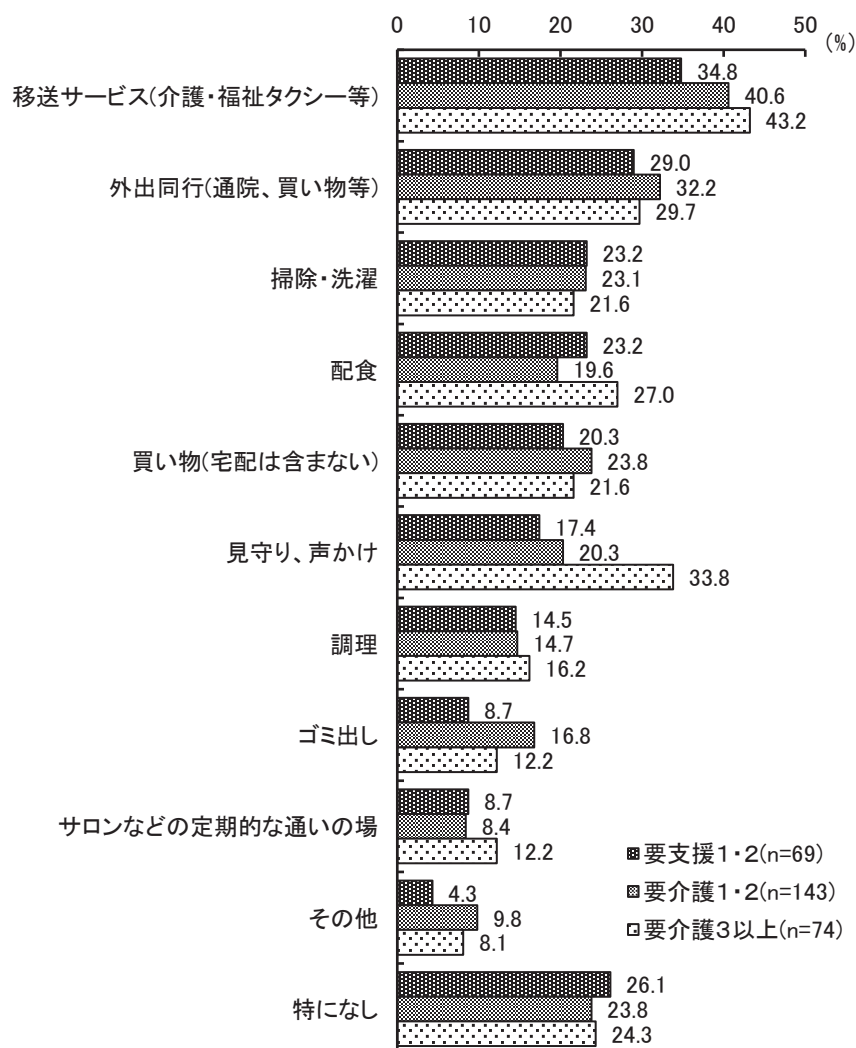
在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス(世帯類型別:複数回答)



第2章 調査結果

要介護度別にみると、【要支援1・2】では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(34.8%)が最も高く、「外出同行(通院、買い物等)」(29.0%)、「特になし」(26.1%)の順となっている。【要介護1・2】では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(40.6%)が最も高く、「外出同行(通院、買い物等)」(32.2%)、「買い物(宅配は含まない)」、「特になし」(23.8%)の順となっている。【要介護3以上】では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(43.2%)が4割強で最も高く、「見守り、声かけ」(33.8%)、「外出同行(通院、買い物等)」(29.7%)の順となっている。

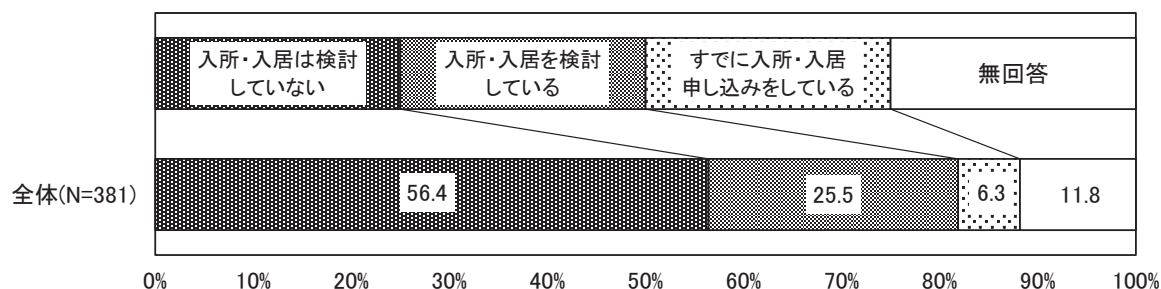
在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス(要介護度別:複数回答)



⑩ 施設等への入所・入居の検討の状況(問 10)

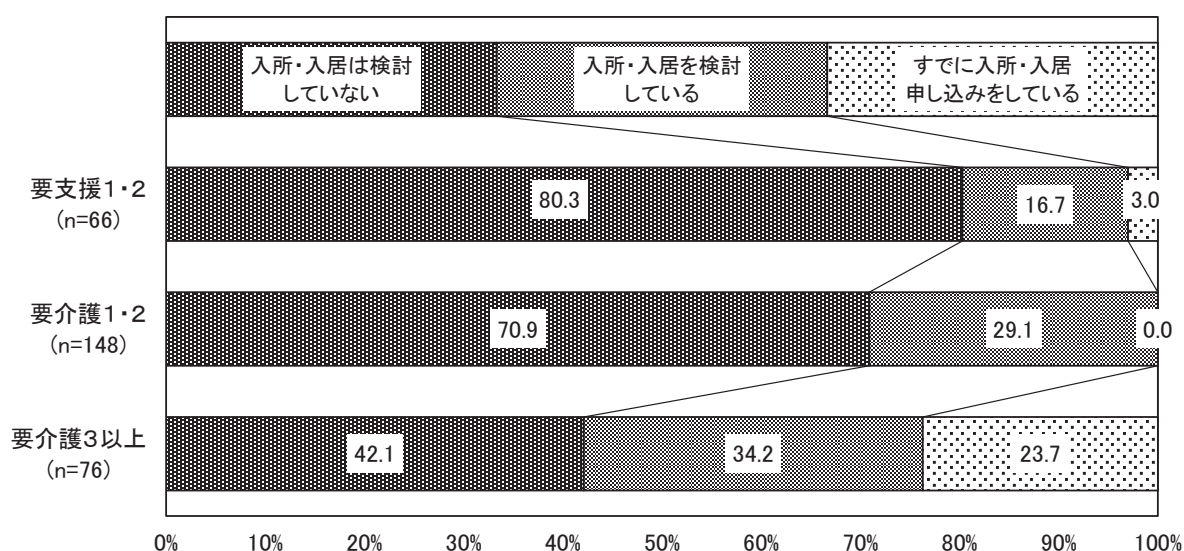
施設等への入所・入居の検討の状況は、「入所・入居は検討していない」(56.4%)が最も高く過半数を超えている。また、「入所・入居を検討している」が 25.5%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 6.3%となっている。

施設等への入所・入居の検討の状況(全体)



要介護度別にみると、【要支援1・2】では「入所・入居は検討していない」(80.3%)が8割を占めている。「入所・入居を検討している」は 16.7%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 3.0%となっている。【要介護1・2】では「入所・入居は検討していない」(70.9%)が7割を占めている。「入所・入居を検討している」は 29.1%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 0.0%となっている。【要介護3以上】では「入所・入居は検討していない」(42.1%)は4割強、「入所・入居を検討している」は 34.2%、「すでに入所・入居申し込みをしている」は 23.7%となっている。

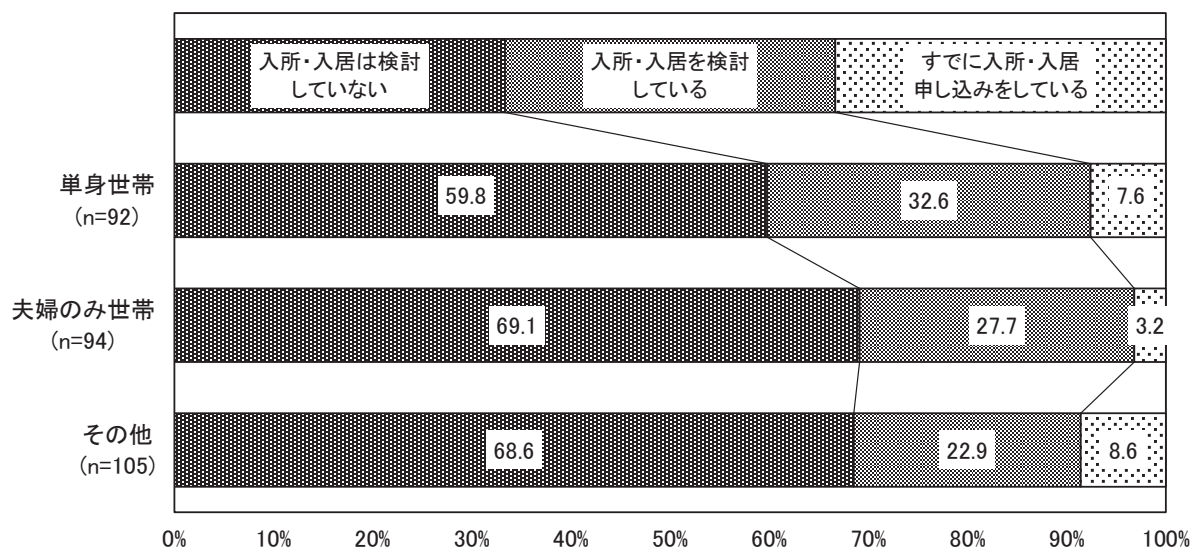
施設等への入所・入居の検討の状況(要介護度別)



第2章 調査結果

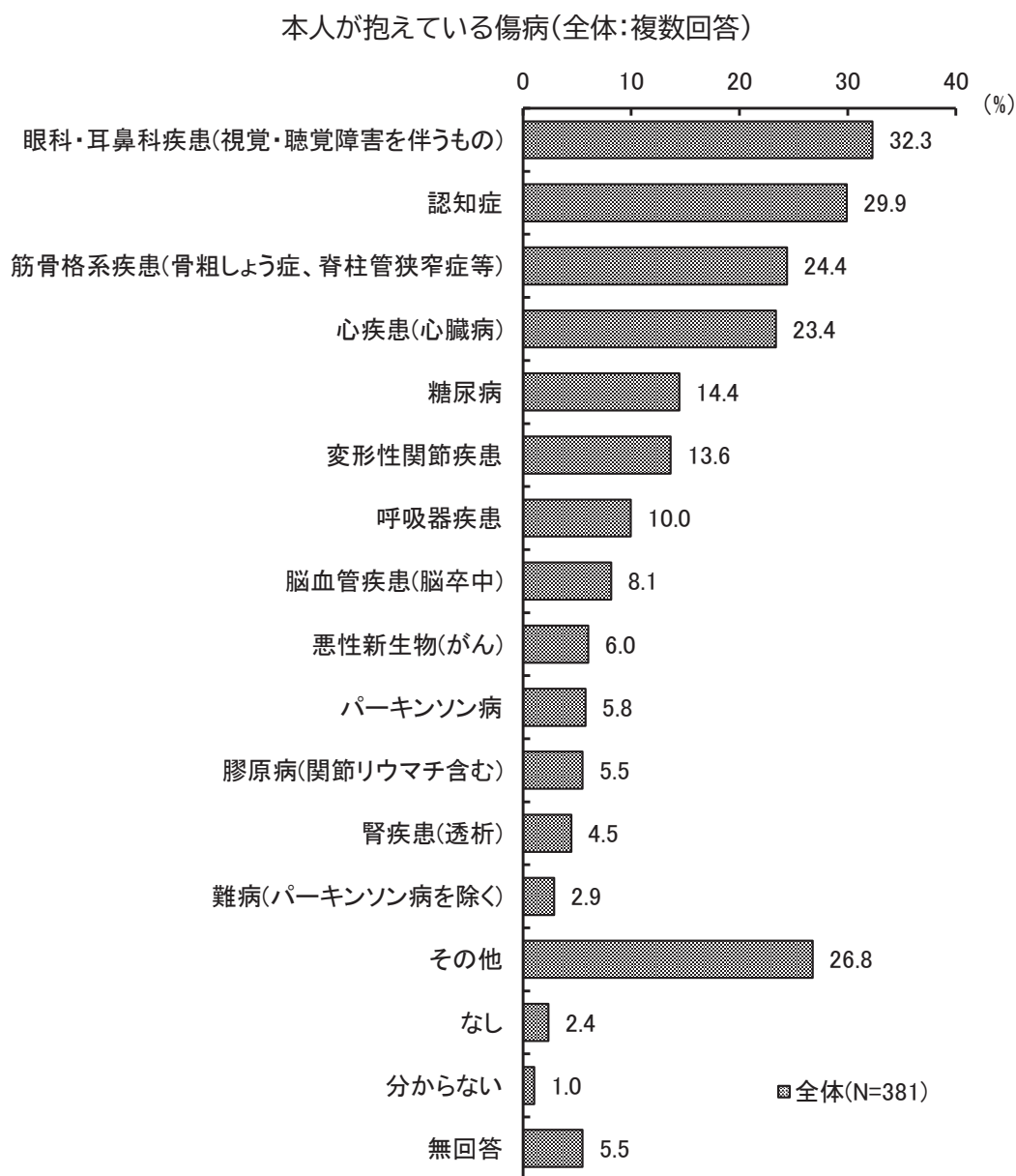
世帯類型別にみると、【単身世帯】では「入所・入居は検討していない」(59.8%)が約6割、「入所・入居を検討している」が 32.6%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 7.6%となっている。【夫婦のみ世帯】では「入所・入居は検討していない」(69.1%)が約7割、「入所・入居を検討している」が 27.7%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 3.2%となっている。【その他】では「入所・入居は検討していない」(68.6%)が7割弱、「入所・入居を検討している」が 22.9%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が 8.6%となっている。

施設等への入所・入居の検討の状況(世帯類型別)



⑪ 本人が抱えている傷病(問 11)

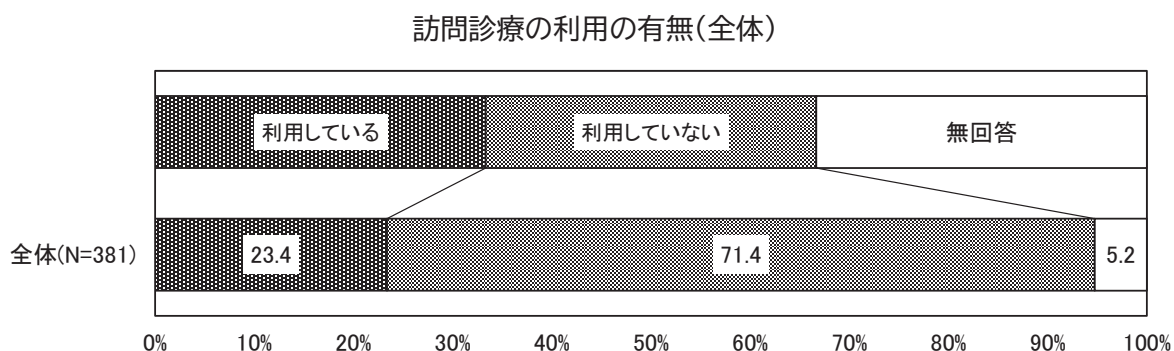
本人が抱えている傷病は、「眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)」(32.3%)が最も高く、次いで、「認知症」(29.9%)、「筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)」(24.4%)、「心疾患(心臓病)」(23.4%)の順で続いている。



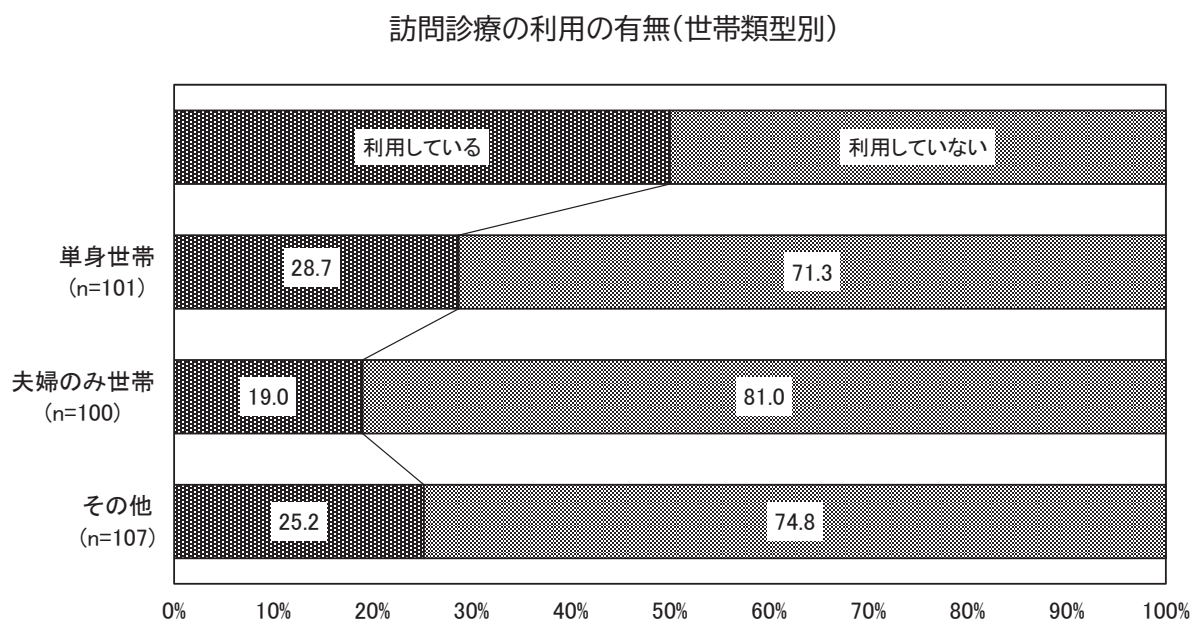
第2章 調査結果

⑫ 訪問診療の利用の有無(問 12)

訪問診療の利用の有無は、「利用している」(23.4%)は2割強となっており、「利用していない」(71.4%)は7割強を占めている。



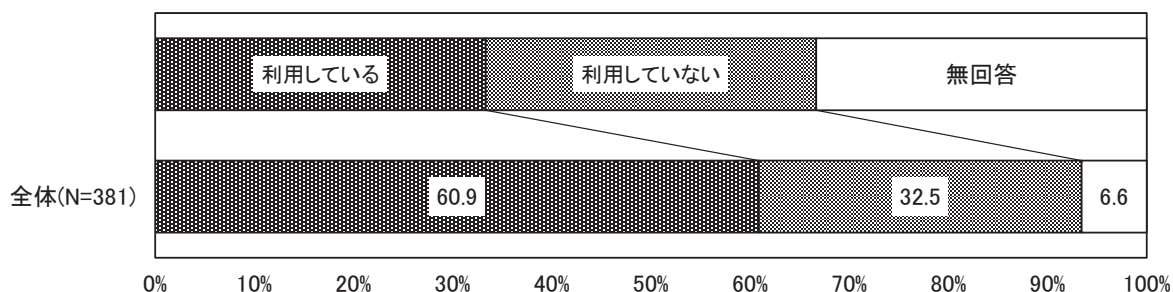
世帯類型別にみると、【単身世帯】では「利用している」(28.7%)が3割弱、「利用していない」(71.3%)が約7割となっている。【夫婦のみ世帯】では「利用している」(19.0%)が約2割、「利用していない」(81.0%)が約8割となっている。【その他】では「利用している」(25.2%)が2割台、「利用していない」(74.8%)が7割台となっている。



⑬ 介護保険サービス(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外)利用の有無(問 13)

介護保険サービス(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外)利用の有無は、「利用している」(60.9%)は6割となっており、「利用していない」(32.5%)と3割強を占めている。

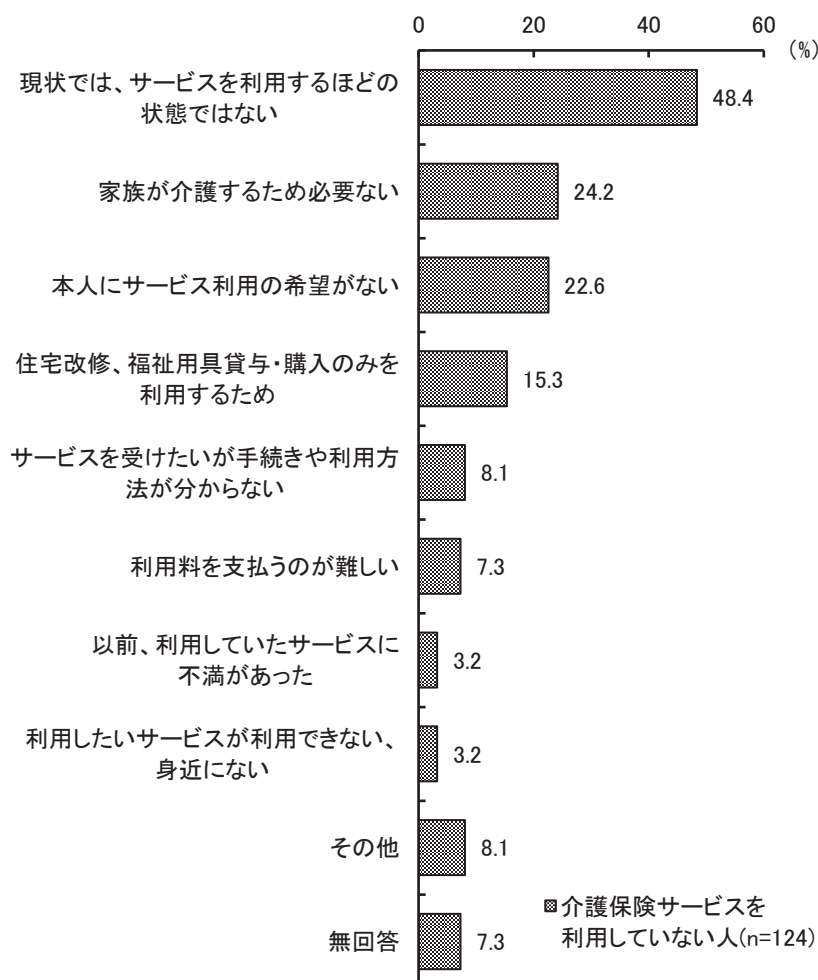
介護保険サービス(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外)利用の有無(全体)



⑭ 介護保険サービス未利用の理由(問 14)

介護保険サービスを利用していない人に、介護保険サービス未利用の理由をたずねたところ、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(48.4%)が最も高く、「家族が介護するため必要ない」(24.2%)、「本人にサービス利用の希望がない」(22.6%)の順で続いている。

介護保険サービス未利用の理由(介護保険サービスを利用していない人:複数回答)

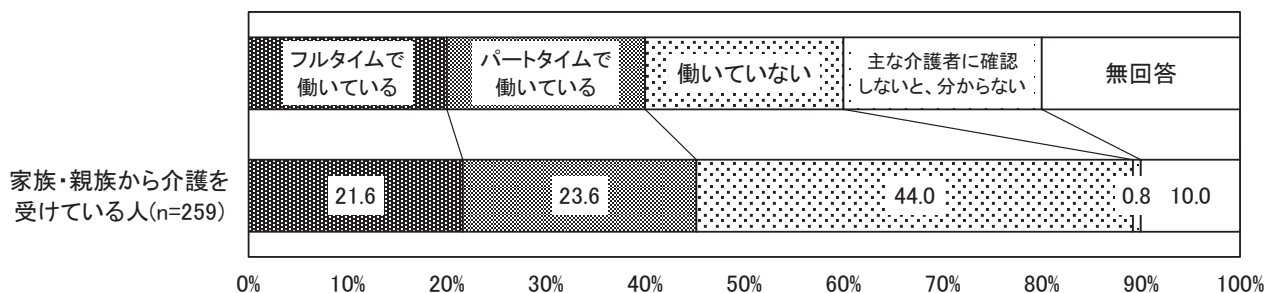


(2)主な介護者の状況

① 主な介護者の勤務形態(問1)

家族・親族から介護を受けている人に、主な介護者の勤務形態をたずねたところ、「働いていない」(44.0%)が4割強を占め最も高くなっている。また、「パートタイムで働いている」(23.6%)、「フルタイムで働いている」(21.6%)は共に2割強となっている。

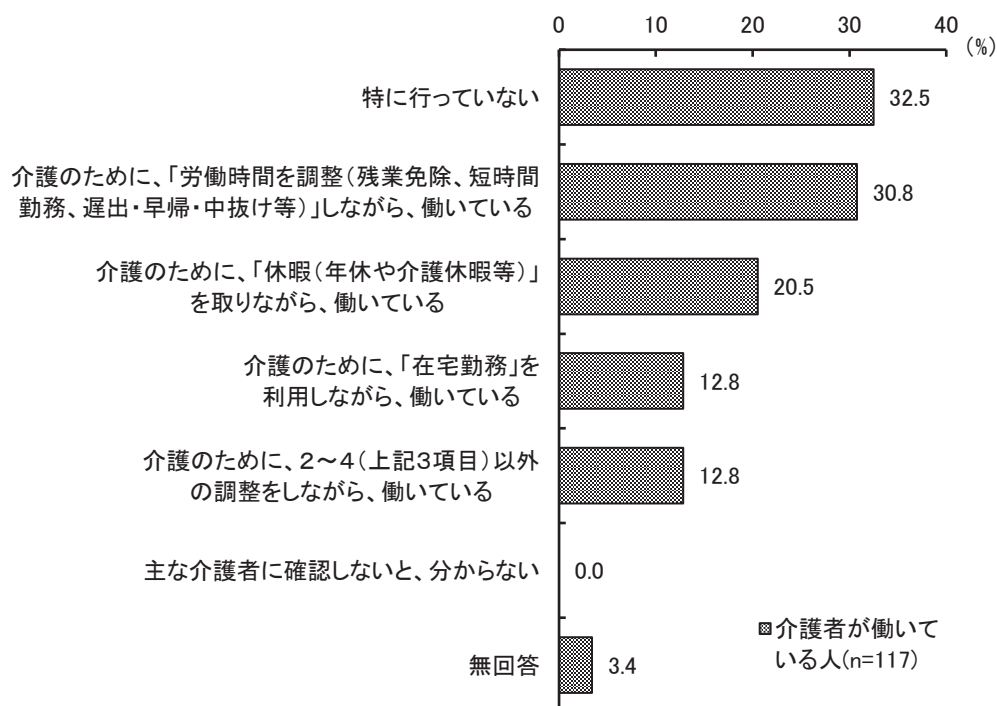
主な介護者の勤務形態(家族・親族から介護を受けている人)



② 主な介護者の働き方の調整の状況(問2)

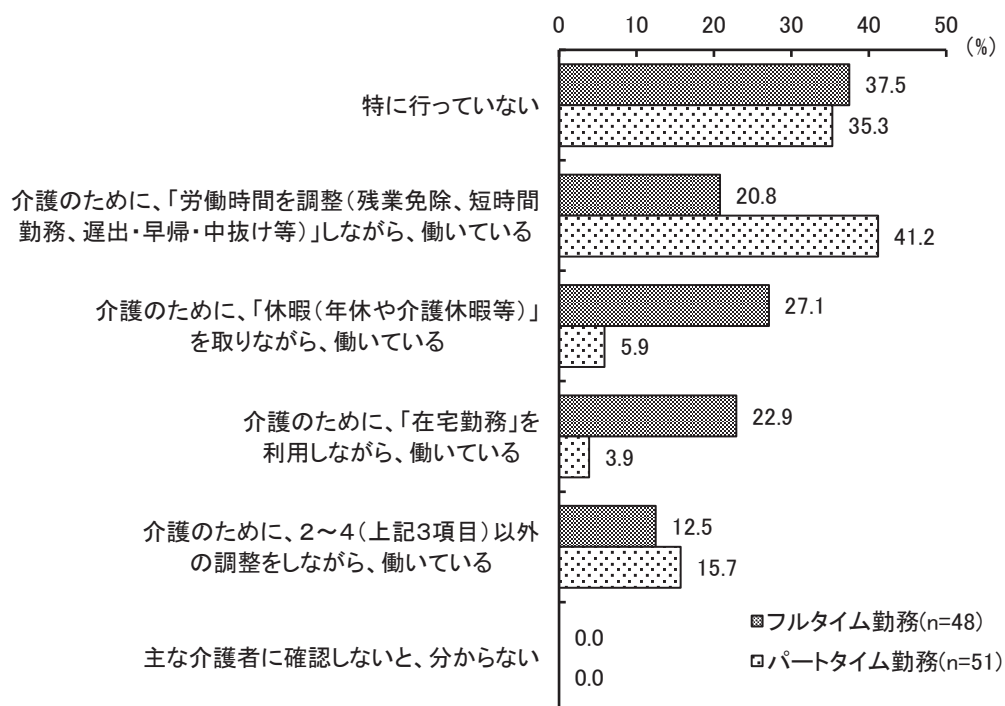
介護者が働いている人に、主な介護者の働き方の調整の状況をたずねたところ、「特に行っていない」(32.5%)が最も高く、「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(30.8%)、「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」(20.5%)の順で続いている。

主な介護者の働き方の調整の状況(介護者が働いている人:複数回答)



介護者の勤務形態別にみると、【フルタイム勤務】では「介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている」(27.1%)が3割弱を占め高くなっている。「特に行っていない」(37.5%)は4割弱となっている。【パートタイム勤務】では「介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている」(41.2%)が4割強で最も高く、「特に行っていない」(35.3%)が3割台となっている。

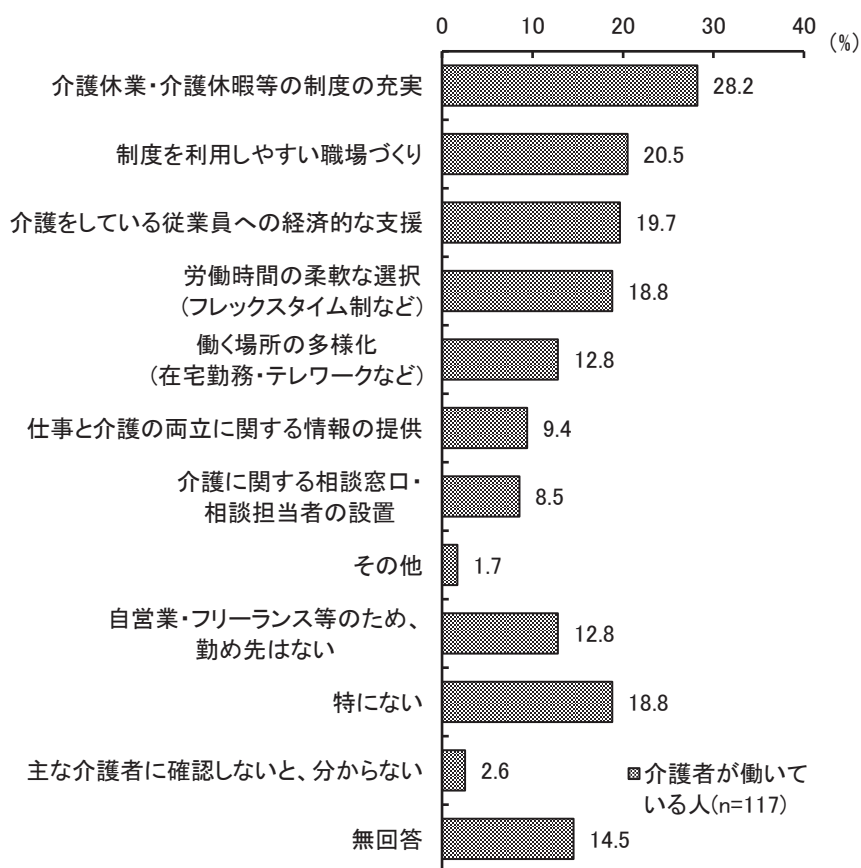
主な介護者の働き方の調整の状況(介護者の勤務形態別:複数回答)



③ 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援(問3)

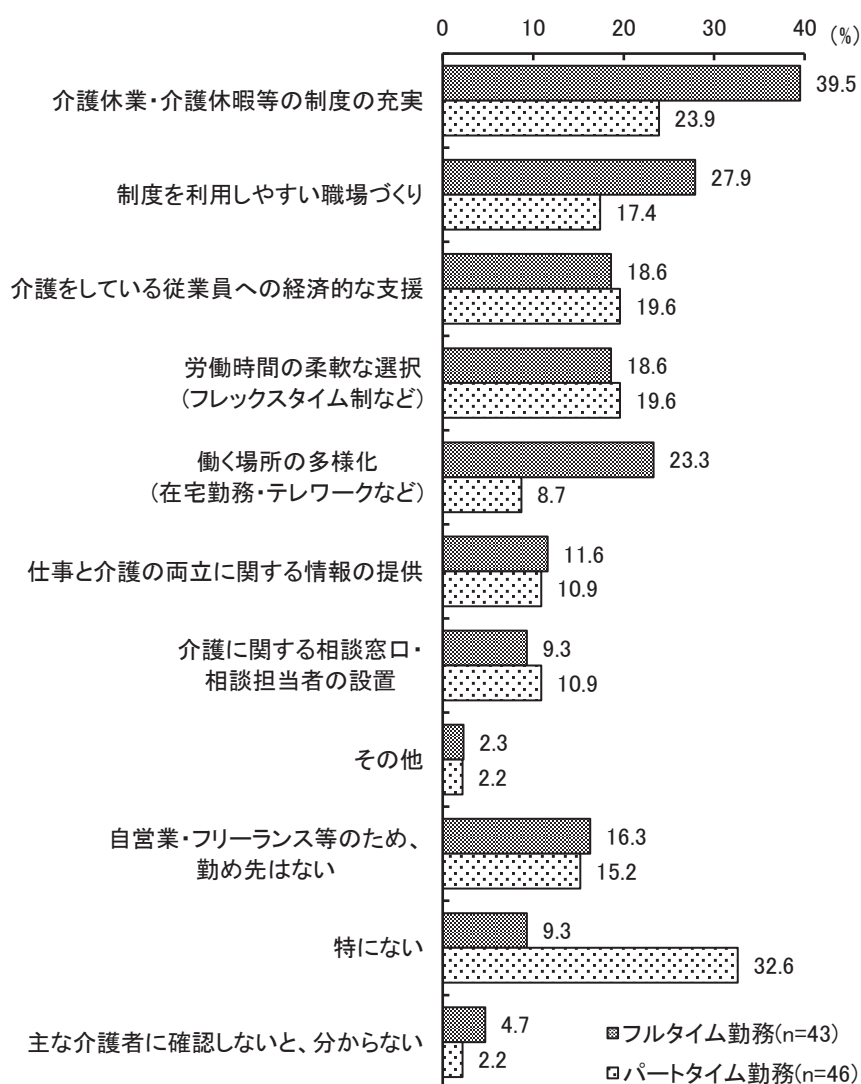
介護者が働いている人に、就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援をたずねたところ、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(28.2%)が最も高く、「制度を利用しやすい職場づくり」(20.5%)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(19.7%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(18.8%)の順で続いている。

就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援
(介護者が働いている人:複数回答(3つまで))



介護者の勤務形態別にみると、【フルタイム勤務】では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(39.5%)が最も高く、「制度を利用しやすい職場づくり」(27.9%)、「働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)」(23.3%)の順となっている。【パートタイム勤務】では「特にない」(32.6%)が最も高く、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(23.9%)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(19.6%)、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」(19.6%)の順となっている。

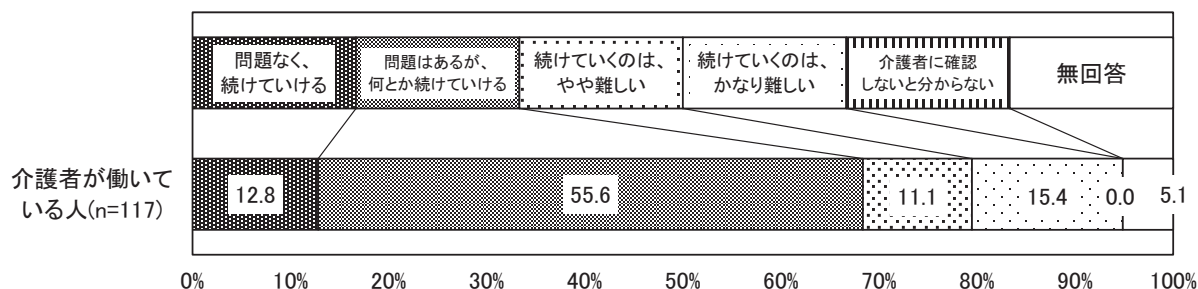
就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援
(介護者の勤務形態別:複数回答(3つまで))



④ 主な介護者の就業継続の可否に係る意識(問 4)

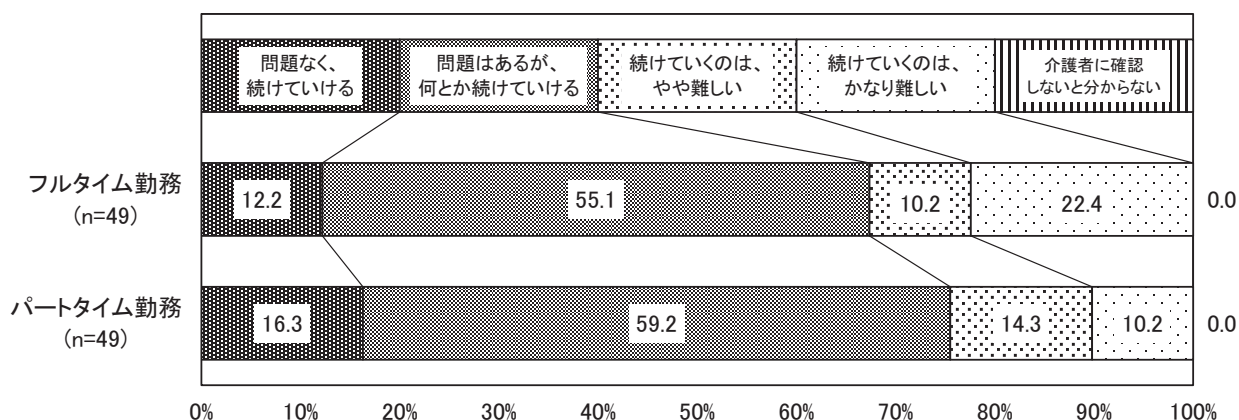
介護者が働いている人に、主な介護者の就業継続の可否に係る意識をたずねたところ、「問題はあるが、何とか続けていける」(55.6%)が最も高く、過半数を占めている。また、「問題なく続けていける」(12.8%)と合計すると 68.4%が続けていけると答えている。逆に、「続けていくのは、かなり難しい」(11.1%)と「続けていくのは、やや難しい」(15.4%)を合計すると 26.5%が難しいと答えている。

主な介護者の就業継続の可否に係る意識(介護者が働いている人)



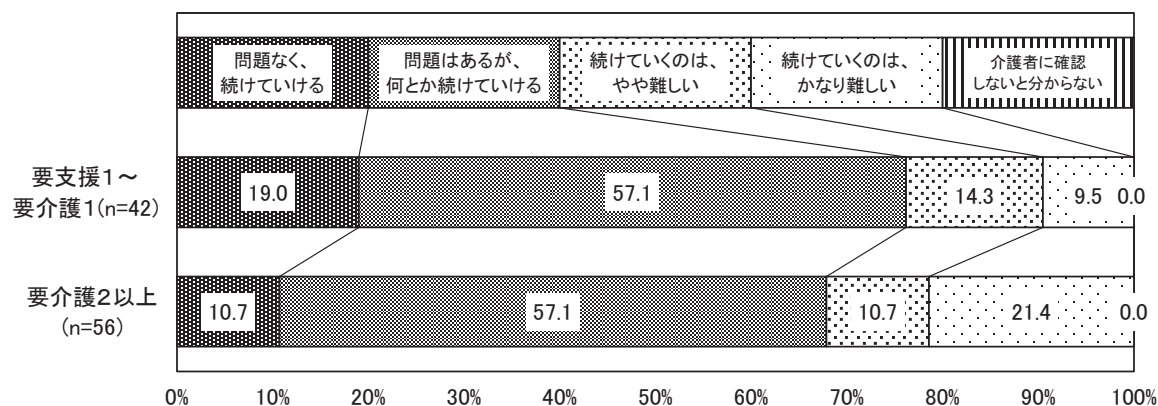
介護者の勤務形態別にみると、【フルタイム勤務】では「問題はあるが、何とか続けていける」(55.1%)が過半数を占め最も高く、「続けていくのは、かなり難しい」が 22.4%、「問題なく、続けていける」が 12.2%となっている。【パートタイム勤務】では「問題はあるが、何とか続けていける」(59.2%)が6割を占めており、「問題なく、続けていける」が 16.3%、「続けていくのは、やや難しい」が 14.3%となっている。

主な介護者の就業継続の可否に係る意識(介護者の勤務形態別)



要介護度別にみると、【要支援1～要介護1】では「問題はあるが、何とか続けていける」(57.1%)が6割弱を占め最も高く、「問題なく、続けていける」が 19.0%、「続けていくのは、やや難しい」が 14.3%となっている。【要介護2以上】でも「問題はあるが、何とか続けていける」(57.1%)が6割弱を占め最も高いが、「続けていくのは、かなり難しい」(21.4%)が2割を占めている。

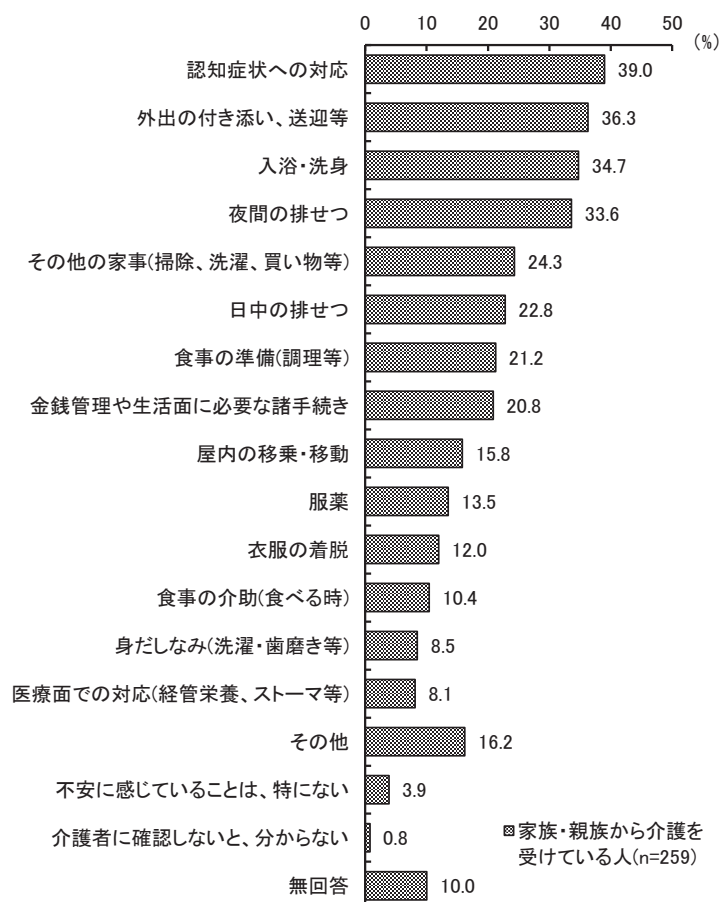
主な介護者の就業継続の可否に係る意識(要介護度別)



⑤ 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護(問5)

今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護は、「認知症状への対応」(39.0%)が最も高く、「外出の付き添い、送迎等」(36.3%)、「入浴・洗身」(34.7%)、「夜間の排せつ」(33.6%)の順で続いている。

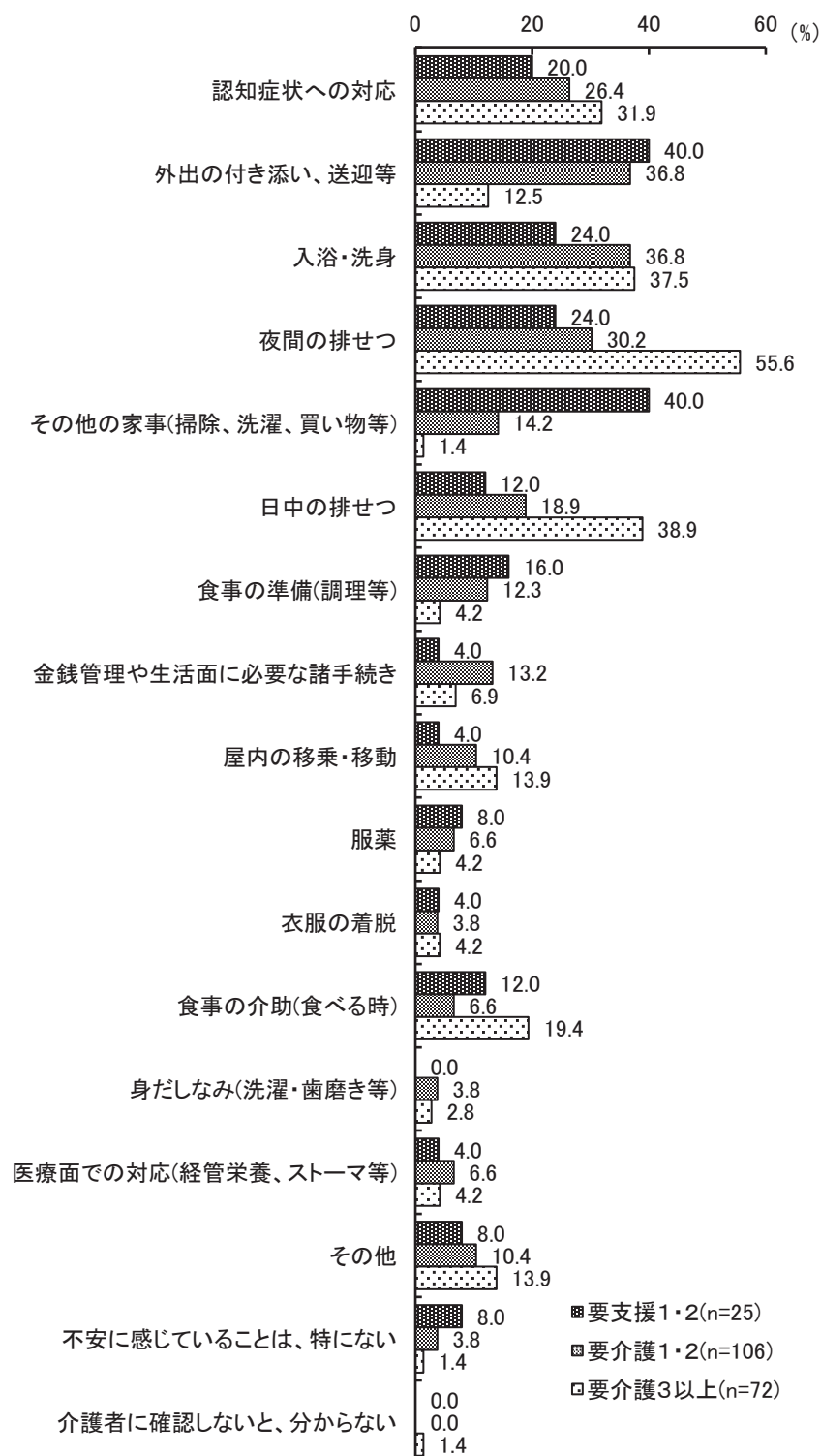
今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護
(家族・親族から介護を受けている人:複数回答(3つまで))



第2章 調査結果

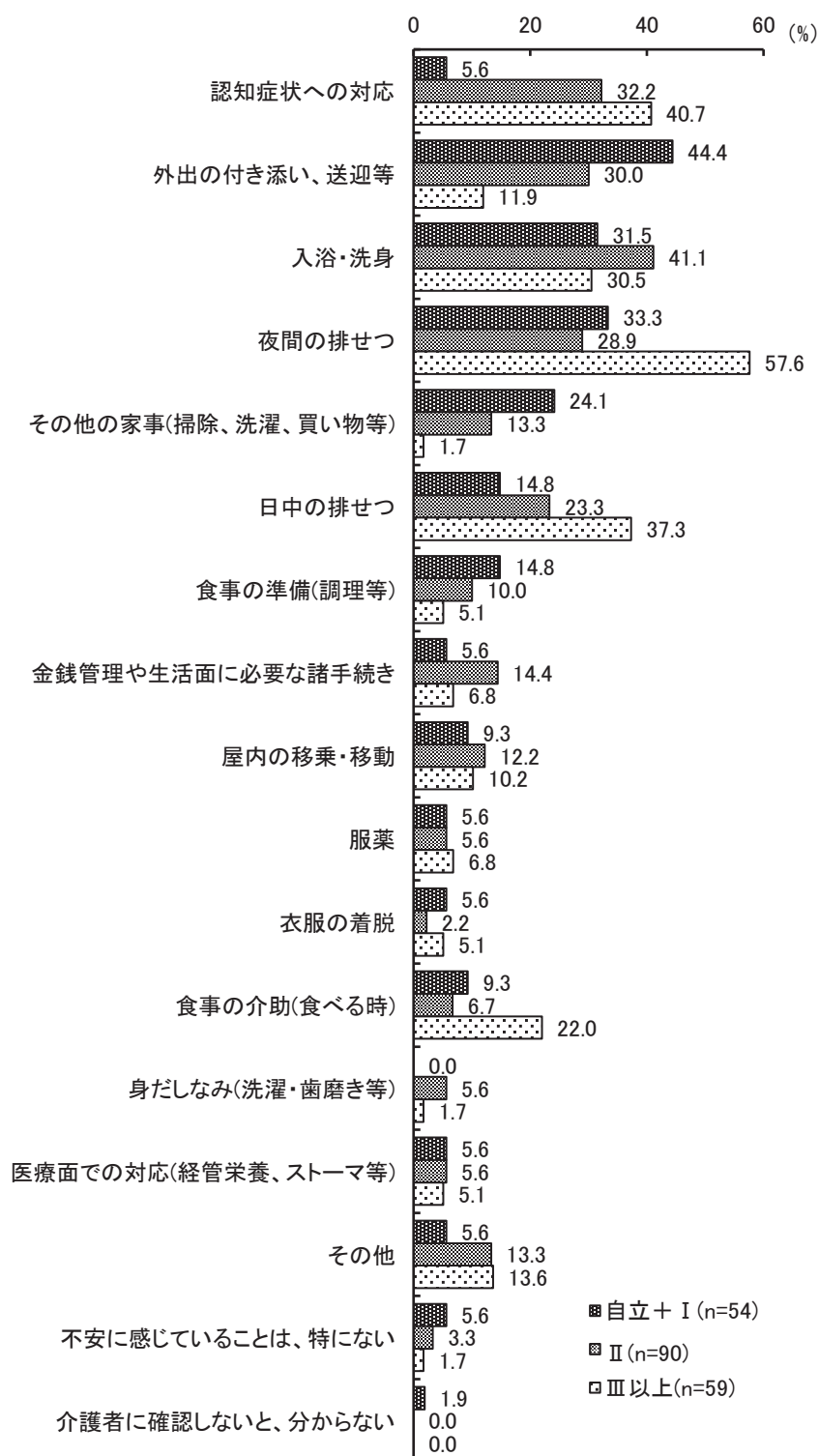
要介護度別にみると、【要介護1・2】では「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」(36.8%)が最も高く、「夜間の排せつ」(30.2%)、「認知症状への対応」(26.4%)の順となっている。【要介護3以上】では「夜間の排せつ」(55.6%)が過半数を占め最も高く、「日中の排せつ」(38.9%)、「入浴・洗身」(37.5%)の順となっている。(※要支援1・2は回答者数が少ないため除く。)

今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護
(要介護度別:複数回答(3つまで))



認知症高齢者の日常生活自立度*別にみると、【自立+ I】では「外出の付き添い、送迎等」(44.4%)が最も高く、「夜間の排せつ」(33.3%)、「入浴・洗身」(31.5%)の順となっている。【II】では「入浴・洗身」(41.1%)が最も高く、「認知症状への対応」(32.2%)、「外出の付き添い、送迎等」(30.0%)の順となっている。【III以上】では「夜間の排せつ」(57.6%)が最も高く、次いで「認知症状への対応」(40.7%)、「日中の排せつ」(37.3%)の順となっている。

今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護
(認知症高齢者自立度別:複数回答(3つまで))



第2章 調査結果

※認知症高齢者の日常生活自立度(5段階、自立は除く)

ランク	判定基準
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

5 介護保険サービス事業者調査

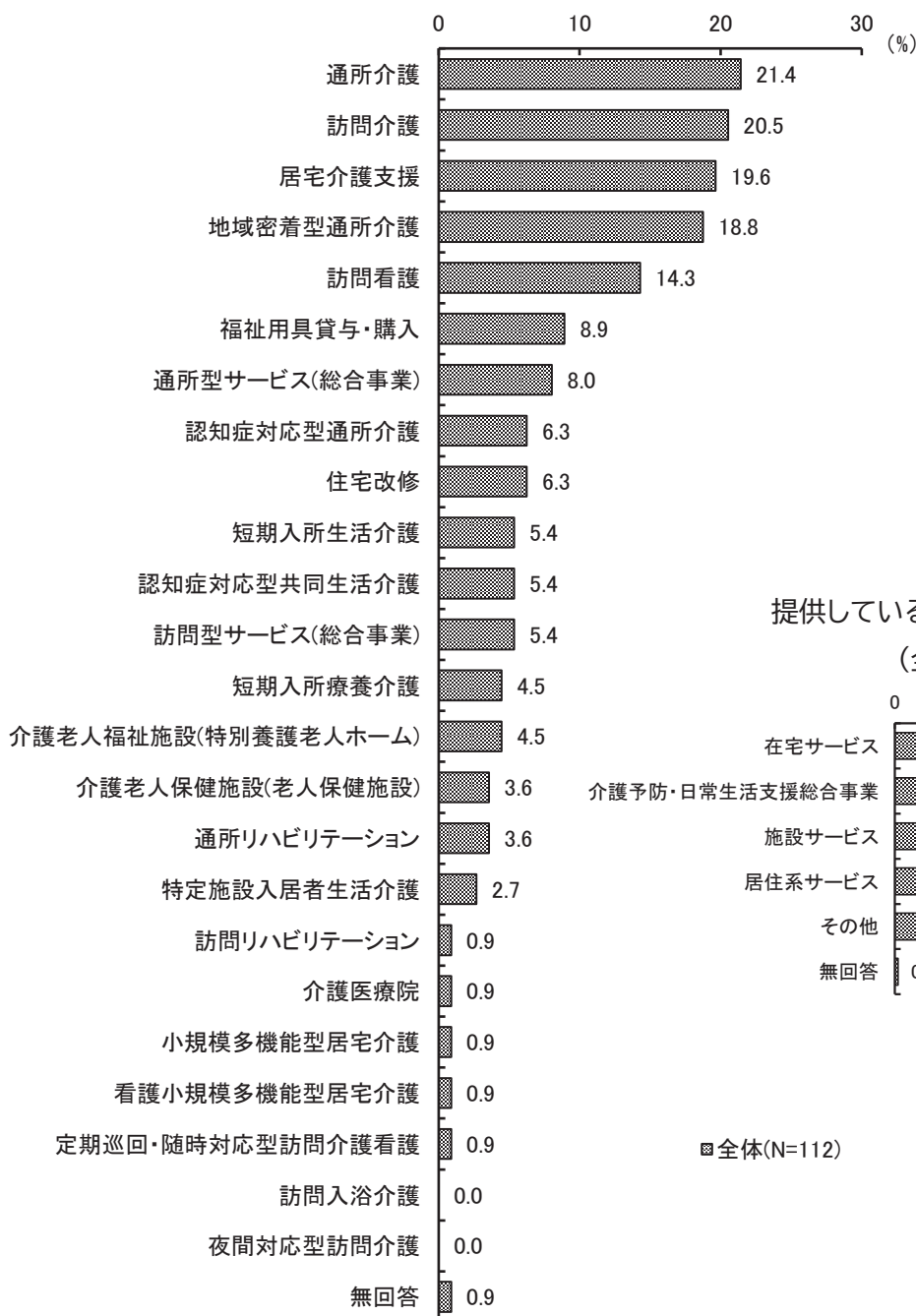
(1) サービスの提供状況

① 提供している介護保険サービス(問1)

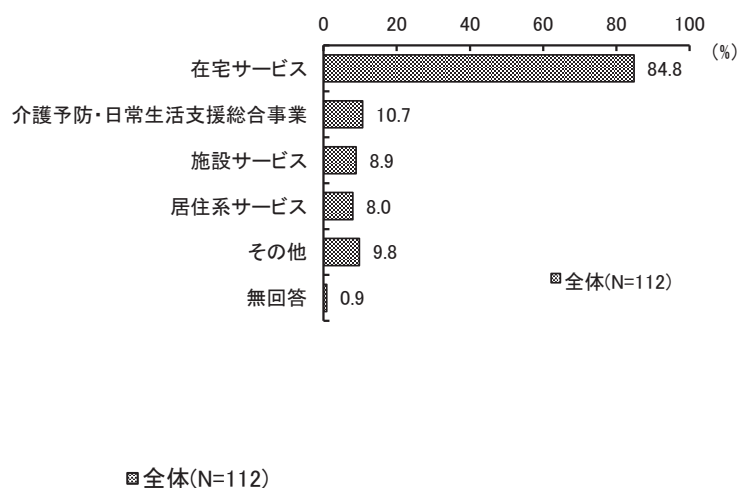
提供している介護保険サービスは、「通所介護」(21.4%)が最も高く、「訪問介護」(20.5%)、「居宅介護支援」(19.6%)の順で続いている。

提供している介護保険サービスの区分別にみると、「在宅サービス」が84.8%となっている。

提供している介護保険サービス(全体:複数回答)



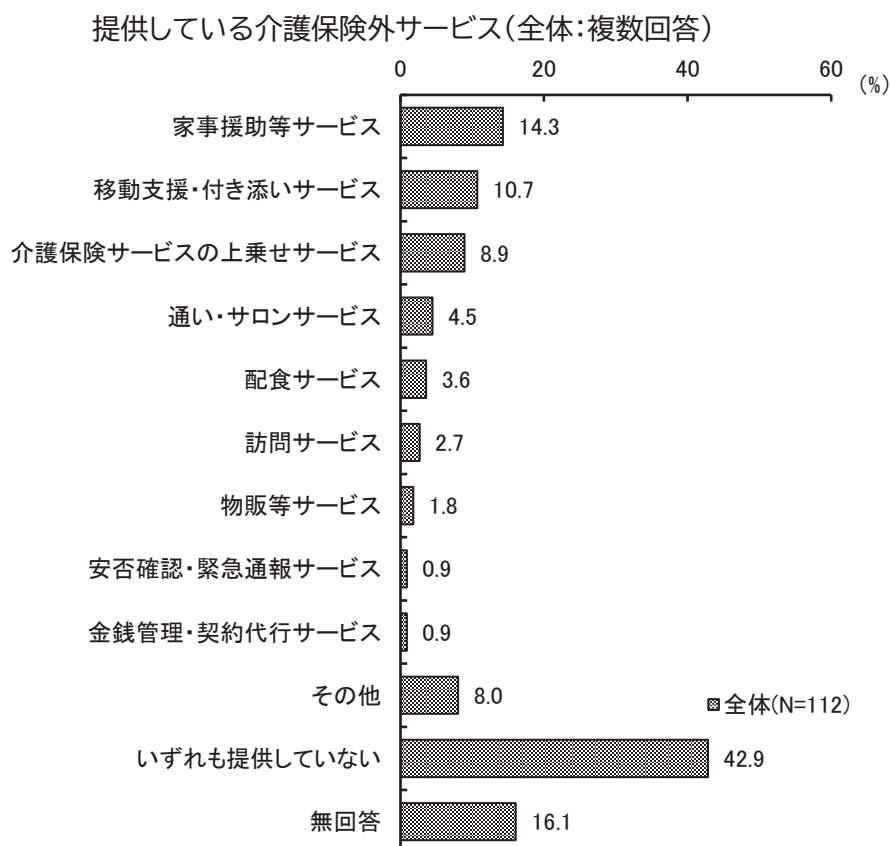
提供している介護保険サービスの区分
(全体:複数回答)



第2章 調査結果

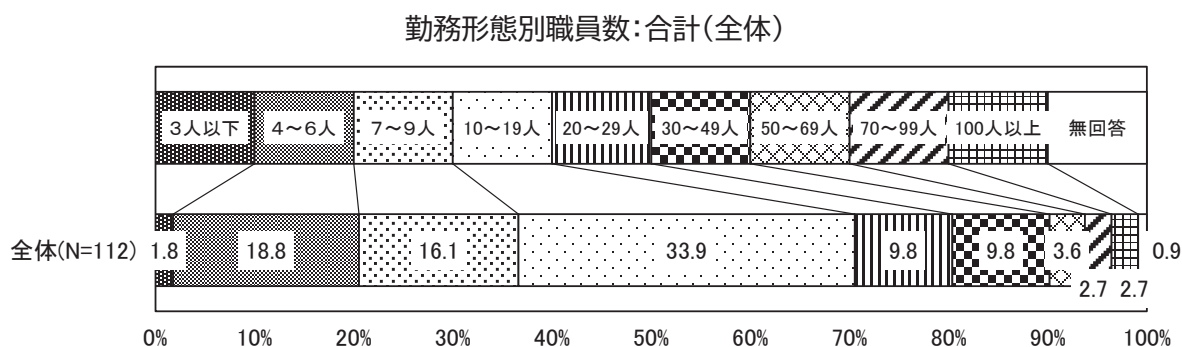
② 提供している介護保険外サービス(問 2)

提供している介護保険外サービスは、「家事援助等サービス」(14.3%)が最も高く、「移動支援・付き添いサービス」(10.7%)、「介護保険サービスの上乗せサービス」(8.9%)の順で続いている。

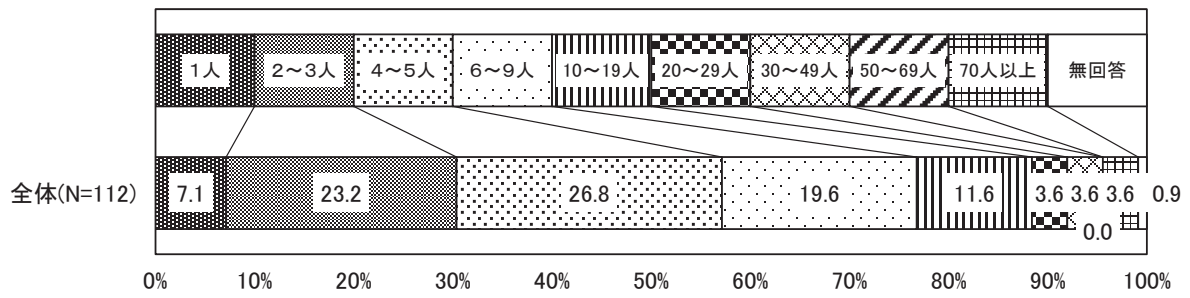


③ 勤務形態別職員数(問 3)

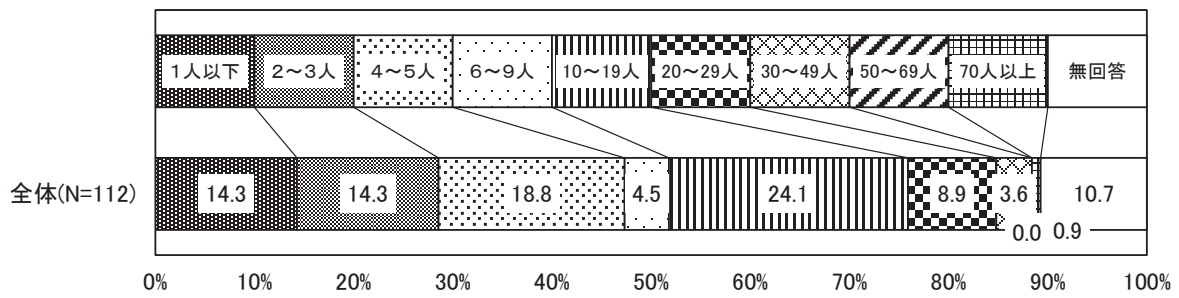
勤務形態別職員数は、合計は「10～19人」(33.9%)が最も高く、「4～6人」(18.8%)、「7～9人」(16.1%)の順で続いている。以下のカテゴリーは、次のページのグラフを参照。常勤職員は「4～5人」(26.8%)が最も高く、「2～3人」(23.2%)、「6～9人」(19.6%)の順で続いている。非常勤職員は「10～19人」(24.1%)が最も高く、「4～5人」(18.8%)、「1人以下」(14.3%)の順で続いている。臨時職員は「0人」(91.1%)が最も高い。



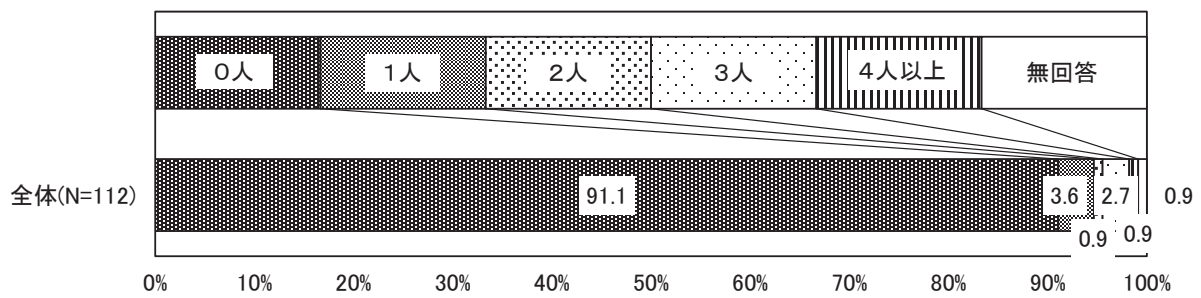
勤務形態別職員数:常勤職員(全体)



勤務形態別職員数:非常勤職員(全体)



勤務形態別職員数:臨時職員(全体)

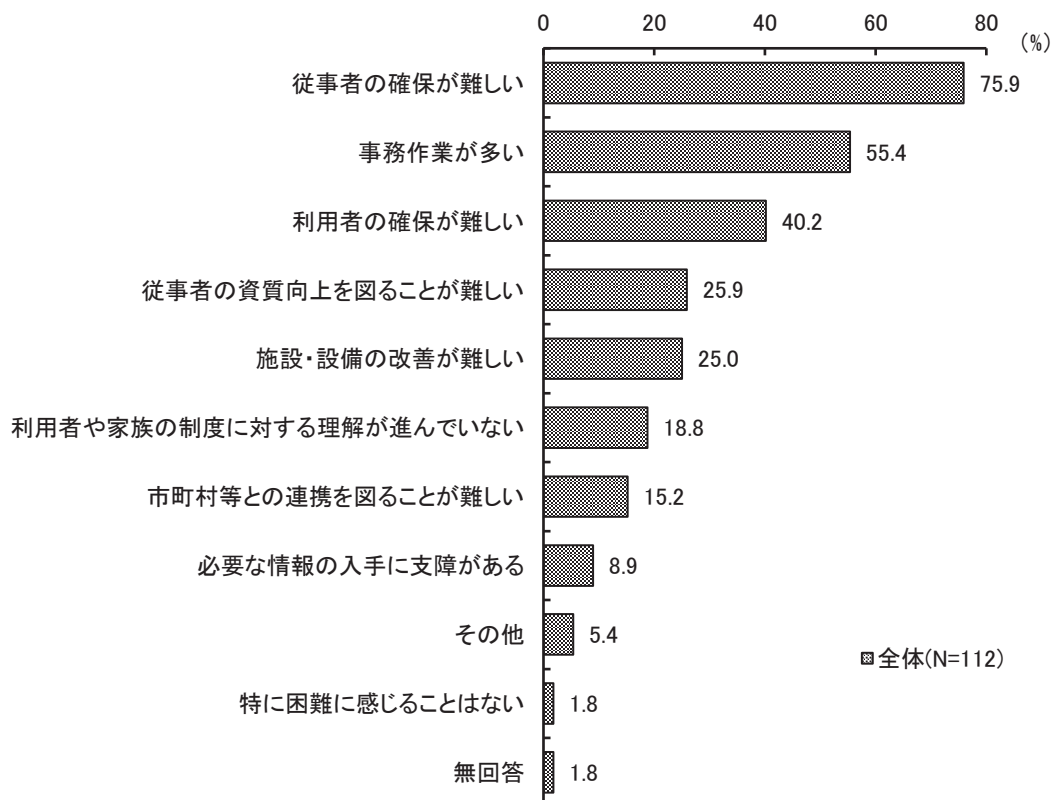


(2)事業の運営状況

① 事業運営上で困難に感じていること(問 4)

事業運営上で困難に感じていることは、「従事者の確保が難しい」(75.9%)が最も高く、「事務作業が多い」(55.4%)、「利用者の確保が難しい」(40.2%)の順で続いている。

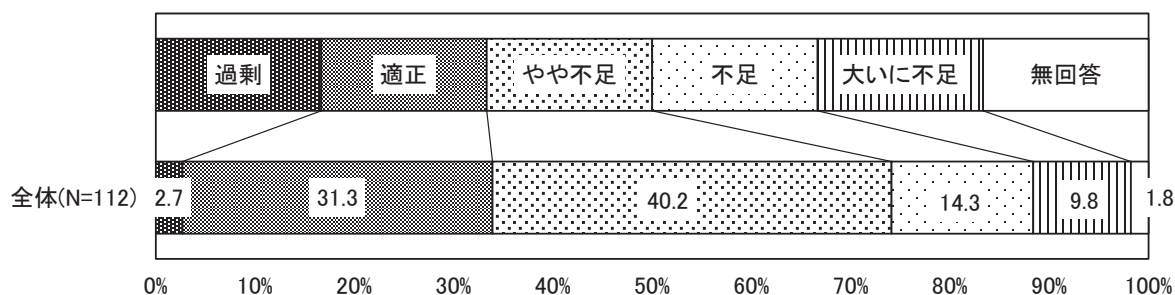
事業運営上で困難に感じていること(全体:複数回答)



② 職員の充足状況(問 5)

職員の充足状況は、「やや不足」(40.2%)が最も高く、「適正」(31.3%)、「不足」(14.3%)の順で続いている。

職員の充足状況(全体)

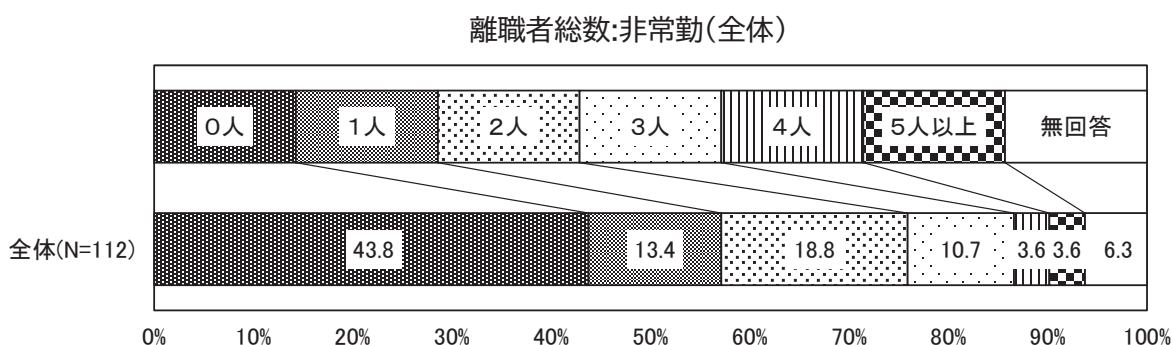
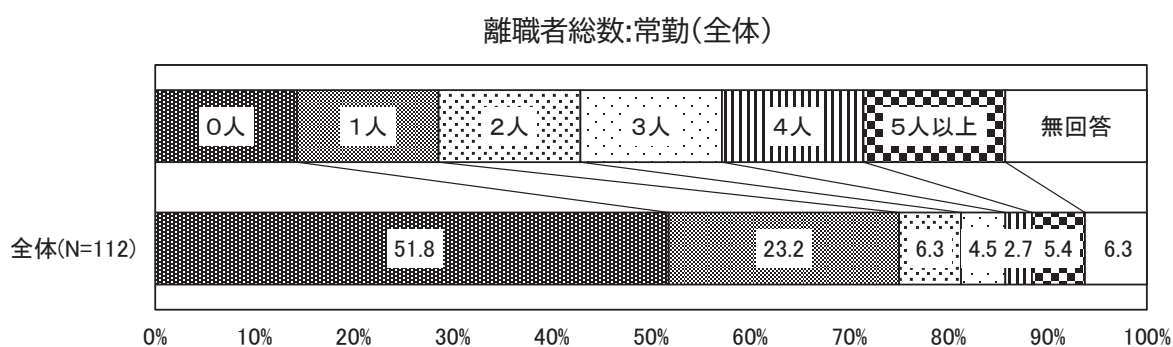


③ 職員の就職・離職状況(問 6)

職員の離職者総数は、常勤は「0人」(51.8%)が最も高く、「1人」(23.2%)、「2人」(6.3%)の順で続いている。非常勤は「0人」(43.8%)が最も高く、「2人」(18.8%)、「1人」(13.4%)の順で続いている。

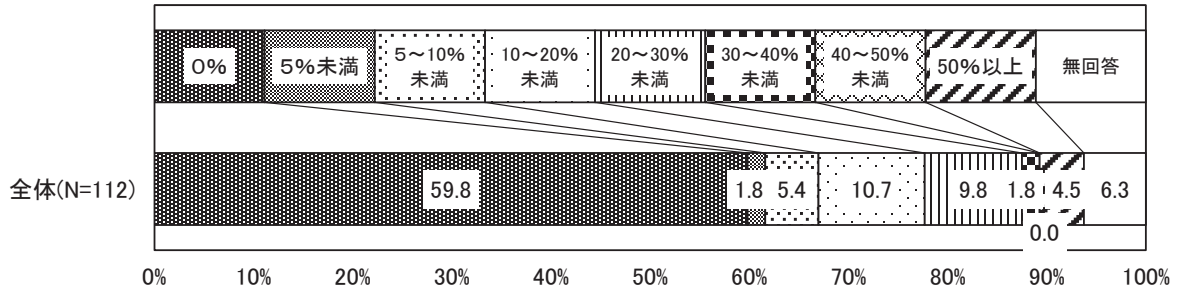
離職率は、常勤は「0%」(59.8%)が最も高く、「10~20%未満」(10.7%)、「20~30%未満」(9.8%)の順で続いている。非常勤は「0%」(55.4%)、「10~20%未満」(14.3%)、「5%未満」(7.1%)の順で続いている。

就職者総数は、常勤は「0人」(50.0%)が最も高く、「1人」(17.9%)、「5人以上」(10.7%)の順で続いている。非常勤は「0人」(47.3%)が最も高く、「1人」(15.2%)、「2人」(11.6%)の順で続いている。

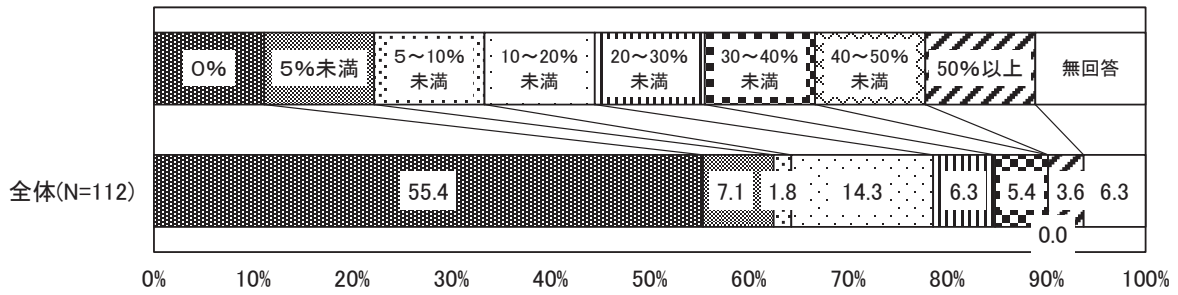


第2章 調査結果

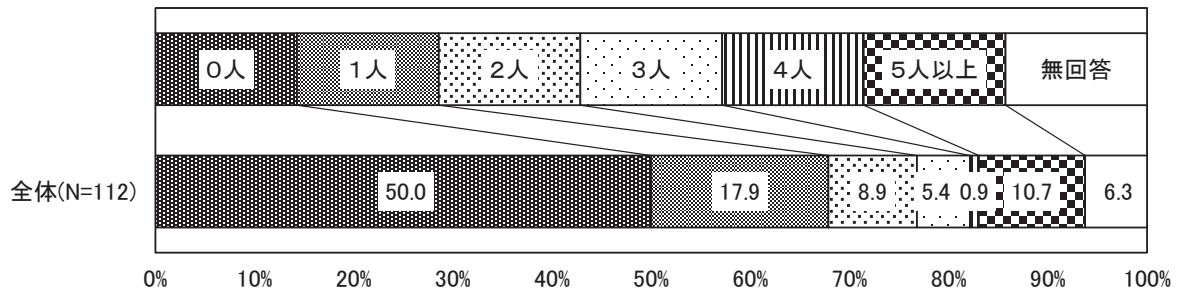
離職率:常勤(全体)



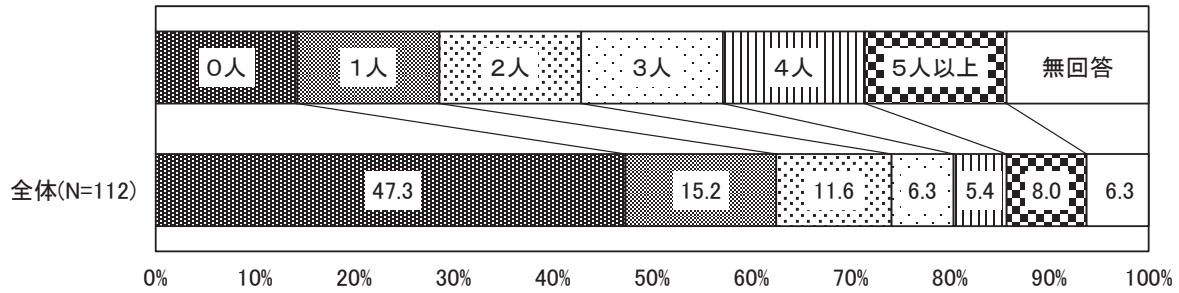
離職率:非常勤(全体)



就職者総数:常勤(全体)



就職者総数:非常勤(全体)

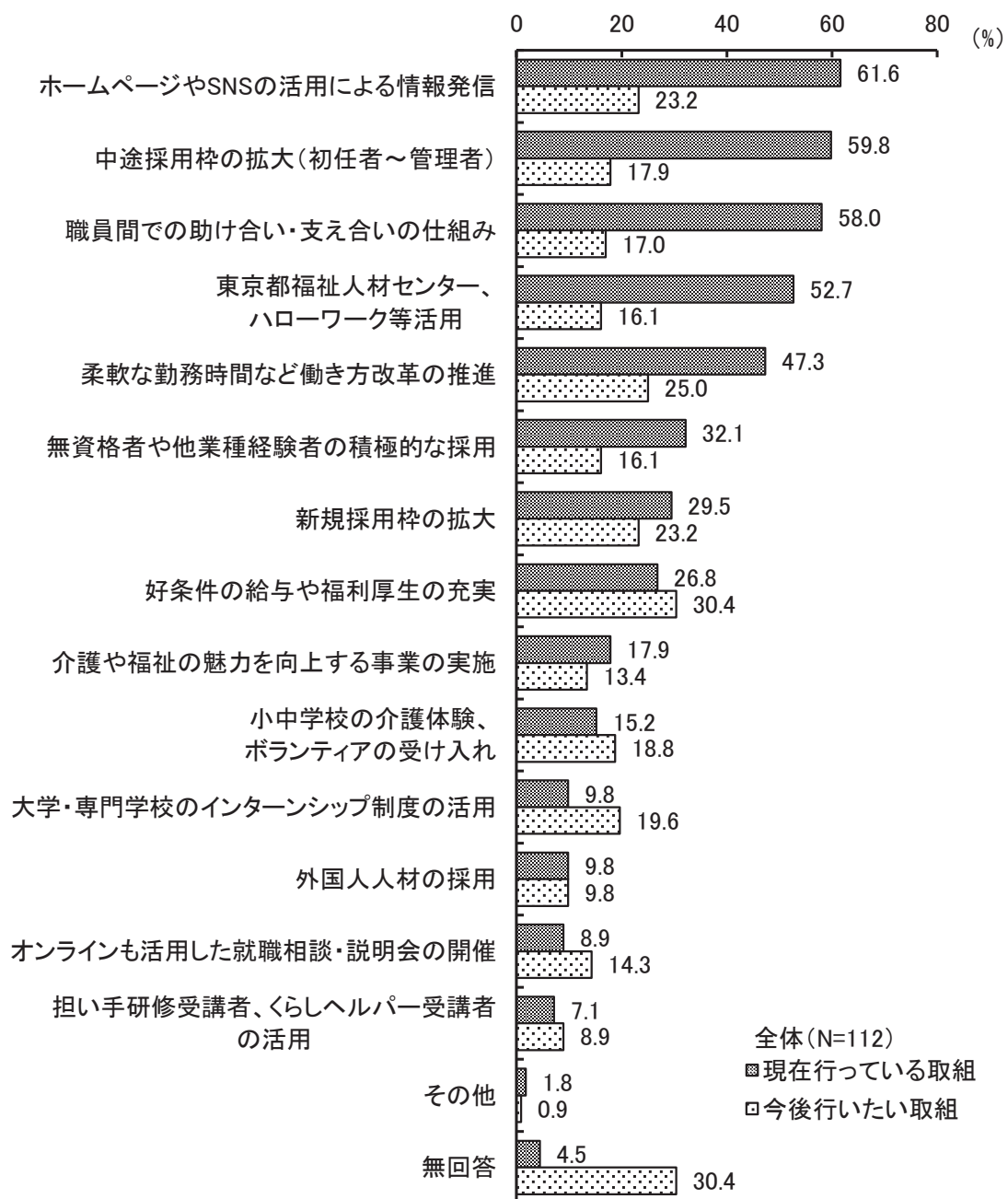


④ 現在行っている人材確保の取組、今後行いたい人材確保の取組(問 7)

現在行っている人材確保の取組は、「ホームページや SNS の活用による情報発信」(61.6%)が最も高く、「中途採用枠の拡大(初任者～管理者)」(59.8%)、「職員間での助け合い・支え合いの仕組み」(58.0%)の順で続いている。

今後行いたい人材確保の取組は、「好条件の給与や福利厚生の実施」(30.4%)が最も高く、「柔軟な勤務時間など働き方改革の推進」(25.0%)、「ホームページや SNS の活用による情報発信」、「新規採用枠の拡大」(23.2%)の順で続いている。

現在行っている人材確保の取組、今後行いたい人材確保の取組(全体:複数回答)



第2章 調査結果

現在行っている人材確保の取組について、提供サービス別にみると、【在宅サービス】では、「ホームページや SNS の活用による情報発信」(61.1%)が最も高く、「職員間での助け合い・支え合いの仕組み」(58.9%)が続いている。

また、【施設サービス】では、「中途採用枠の拡大(初任者～管理者)」(80.0%)が最も高く、「ホームページや SNS の活用による情報発信」、「東京都福祉人材センター、ハローワーク等活用」(70.0%)の順となっている。【居住系サービス】では、「中途採用枠の拡大(初任者～管理者)」、「無資格者や他業種経験者の積極的な採用」(88.9%)が最も高くなっている。【総合事業】では、「ホームページや SNS の活用による情報発信」(75.0%)が最も高く、「職員間での助け合い・支え合いの仕組み」(66.7%)の順となっている。

現在行っている人材確保の取組(全体、提供サービス別:複数回答)

		回答者数	る S ホ 者 (中 組 い 職 ワ ン 東 進 ど 柔 採 経 無 新 利 好	情 N イ ヲ 一 途 み 員 タ 京 進 ど 柔 採 経 無 新 利 好	報 S ム ヲ 初 採 組 員 タ 京 進 ど 柔 採 経 無 新 利 好	活 ペ 任 用 中 員 タ 京 進 ど 柔 採 経 無 新 利 好	用 ジ や 者 枠 の 支 間 等 ハ 社 人 材 推 な 積 極 的 な 種 業 種 採 用 枠 の 拡 大 給 与 や 福	に や よ 管 理 大 助 け の 仕 合 活 用 人 材 セ 推 な 種 業 種 採 用 枠 の 拡 大 給 与 や 福	よ 大 助 け の 仕 合 活 用 人 材 セ 推 な 種 業 種 採 用 枠 の 拡 大 給 与 や 福	(人、%)
全体		112	61.6	59.8	58.0	52.7	47.3	32.1	29.5	26.8
サ ー ビ ス 別	施設サービス	10	70.0	80.0	60.0	70.0	20.0	40.0	30.0	40.0
	居住系サービス	9	77.8	88.9	77.8	55.6	33.3	88.9	55.6	22.2
	在宅サービス	95	61.1	54.7	58.9	52.6	52.6	28.4	27.4	29.5
	その他	11	54.5	63.6	45.5	36.4	45.5	18.2	45.5	0.0
	総合事業	12	75.0	58.3	66.7	33.3	58.3	25.0	16.7	25.0
全体		112	17.9	15.2	9.8	9.8	8.9	7.1	1.8	4.5
サ ー ビ ス 別	施設サービス	10	40.0	60.0	30.0	10.0	30.0	10.0	0.0	0.0
	居住系サービス	9	22.2	33.3	22.2	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0
	在宅サービス	95	16.8	13.7	8.4	8.4	8.4	8.4	2.1	5.3
	その他	11	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	18.2	0.0	0.0
	総合事業	12	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0	41.7	0.0	8.3

今後行いたい人材確保の取組について、提供サービス別にみると、【在宅サービス】では、「好条件の給与や福利厚生の充実」(30.5%)が最も高く、「柔軟な勤務時間など働き方の改革」、「新規採用枠の拡大」(24.2%)の順となっている。

また、【施設サービス】では、「柔軟な勤務時間など働き方の改革」、「新規採用枠の拡大」、「好条件の給与や福利厚生 of 充実」(60.0%)が最も高くなっている。【居住系サービス】では、「小中学校の介護体験、ボランティアの受け入れ」(66.7%)が最も高くなっている。【総合事業】では、「介護や福祉の魅力を向上する事業の実施」(50.0%)が最も高くなっている。

今後行いたい人材確保の取組(全体、提供サービス別:複数回答)

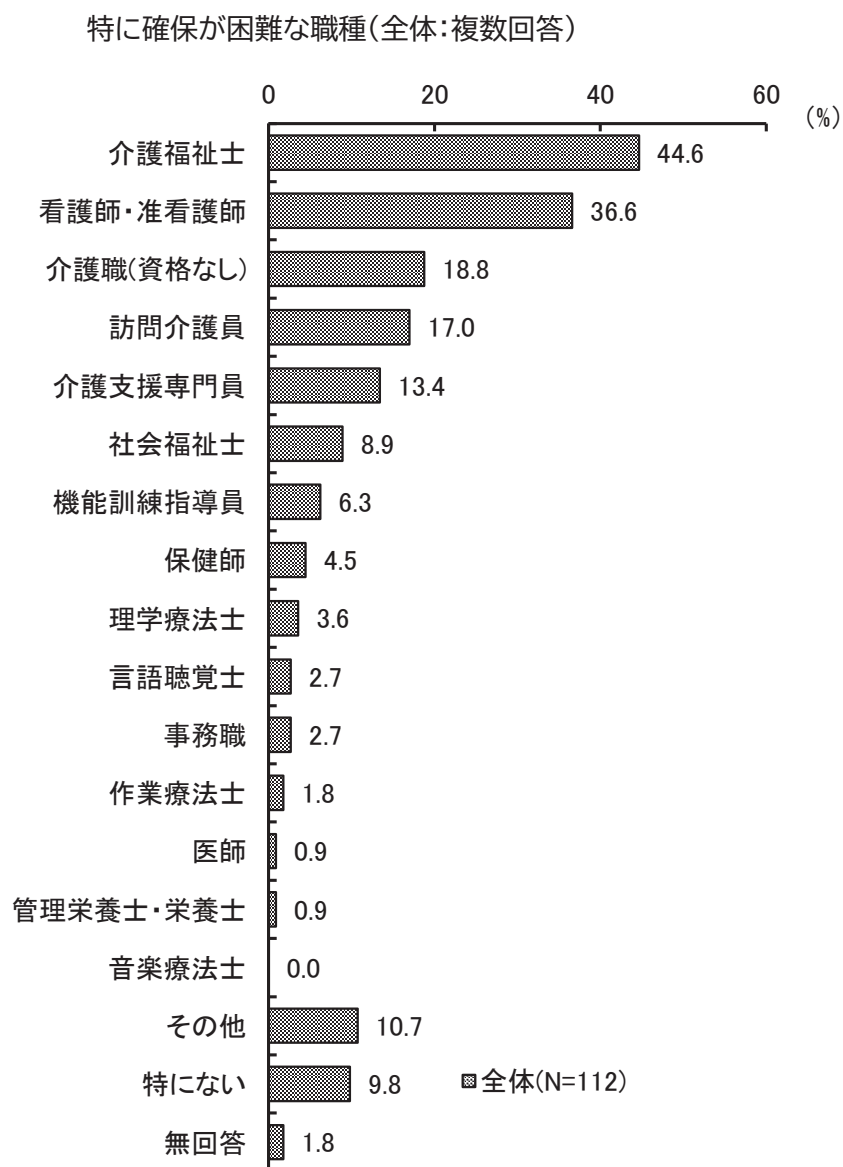
(人、%)

	回答者数	る S ホ 者 中 組 い 職 ワ 東 進 ど 柔 採 経 無 新 利 好	情 N ム ー 初 途 み 員 タ 京 働 軟 用 験 資 規 厚 好	報 S ム ー 任 採 組 員 ク 都 働 軟 な 者 格 採 生 条	発 の ペ ー 者 用 枠 支 え 活 ハ 福 方 勤 務 積 や 者 の 用 枠 の 給	信 活 じ や 管 理 大 合 の 助 け 仕 用 材 社 人 材 推 間 な 種 業 種 大 与 や 福			
全体	112	23.2	17.9	17.0	16.1	25.0	16.1	23.2	30.4
サ ー ビ ス 別	施設サービス	10	40.0	40.0	20.0	30.0	60.0	30.0	60.0
	居住系サービス	9	33.3	22.2	11.1	11.1	22.2	33.3	33.3
	在宅サービス	95	23.2	18.9	17.9	17.9	24.2	15.8	24.2
	その他	11	27.3	36.4	18.2	18.2	36.4	0.0	27.3
	総合事業	12	8.3	8.3	8.3	8.3	25.0	41.7	16.7

	回答者数	実 を 介 の 験 小 制 大 外 明 し オ パ 者 担	施 向 護 の 受 け 入 れ	中 学 校 の 介 護 ア 体	度 の 活 用	学 校 の 採 用	会 社 の 開 催	ン ラ イ ン も 活 用	パ ー 受 講 者 の 活 用	担 い 手 研 究 受 講	そ の 他	無 回 答
全体	112	13.4	18.8	19.6	9.8	14.3	8.9	0.9	30.4			
サ ー ビ ス 別	施設サービス	10	30.0	20.0	50.0	20.0	50.0	30.0	0.0			
	居住系サービス	9	33.3	66.7	33.3	22.2	33.3	22.2	0.0			
	在宅サービス	95	12.6	15.8	17.9	10.5	14.7	7.4	1.1			
	その他	11	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0			
	総合事業	12	50.0	33.3	41.7	25.0	33.3	8.3	0.0			

⑤ 特に確保が困難な職種(問 8)

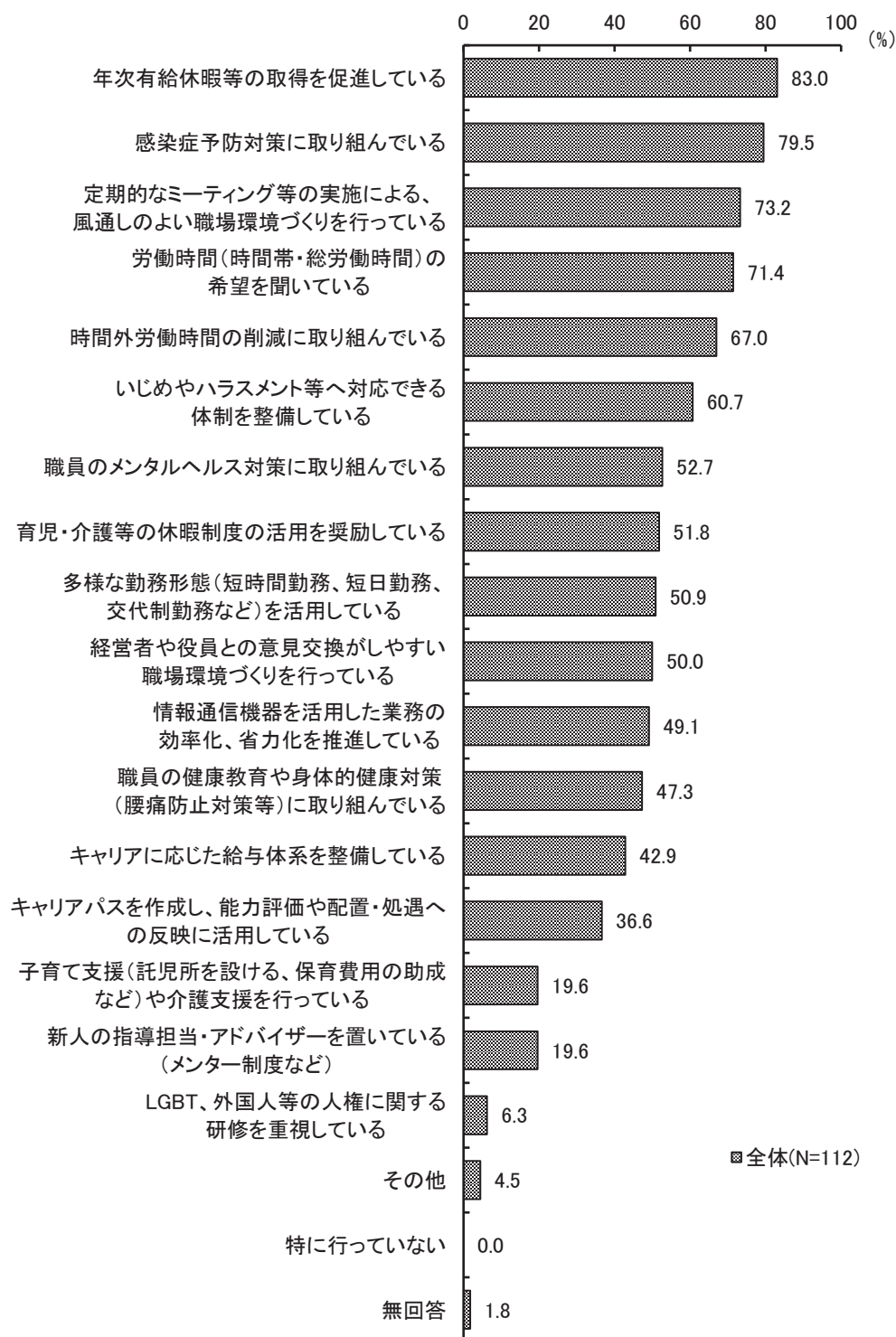
特に確保が困難な職種は、「介護福祉士」(44.6%)が最も高く、「看護師・准看護師」(36.6%)、「介護職(資格なし)」(18.8%)の順で続いている。



⑥ 実施している早期離職防止や定着促進策(問 9)

実施している早期離職防止や定着促進策は、「年次有給休暇等の取得を促進している」(83.0%)が最も高く、「感染症予防対策に取り組んでいる」(79.5%)、「定期的なミーティング等の実施による、風通しのよい職場環境づくりを行っている」(73.2%)の順で続いている。

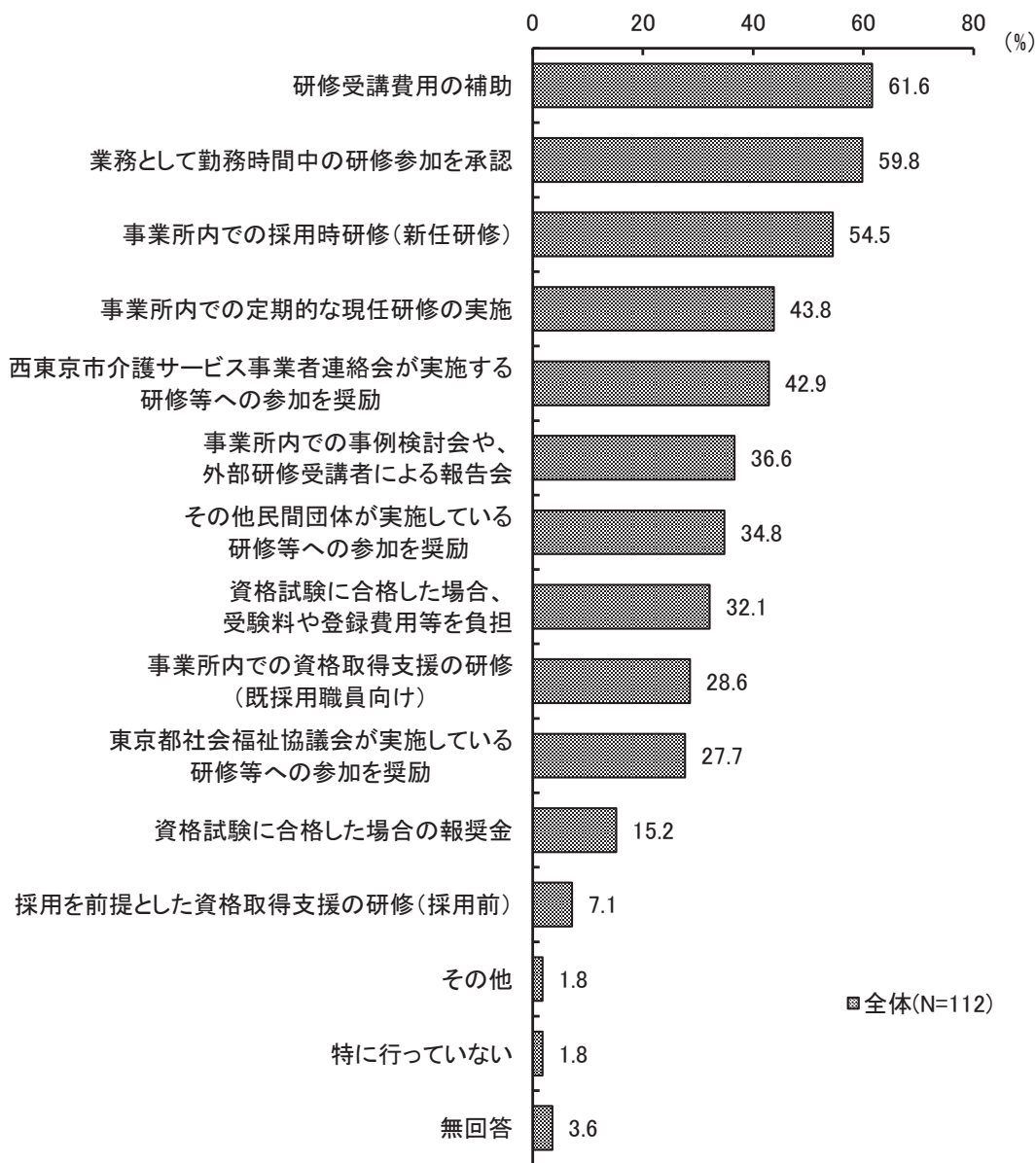
実施している早期離職防止や定着促進策(全体:複数回答)



⑦ キャリア形成支援のために行っている研修や資格取得支援(問 10)

キャリア形成支援のために行っている研修や資格取得支援は、「研修受講費用の補助」(61.6%)が最も高く、「業務として勤務時間中の研修参加を承認」(59.8%)、「事業所内での採用時研修(新任研修)」(54.5%)の順で続いている。

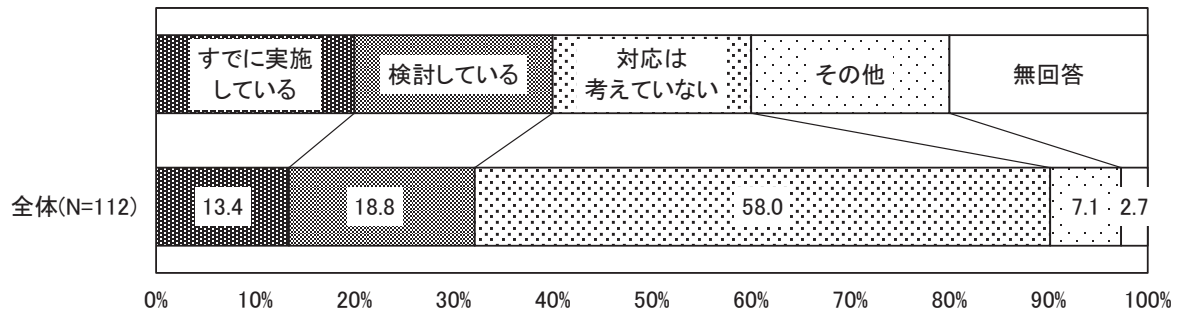
キャリア形成支援のために行っている研修や資格取得支援(全体)



⑧ 医療的ケアへの対応状況(問 11)

医療的ケアへの対応状況は、「対応は考えていない」(58.0%)が最も高く、「検討している」(18.8%)、「すでに実施している」(13.4%)の順で続いている。

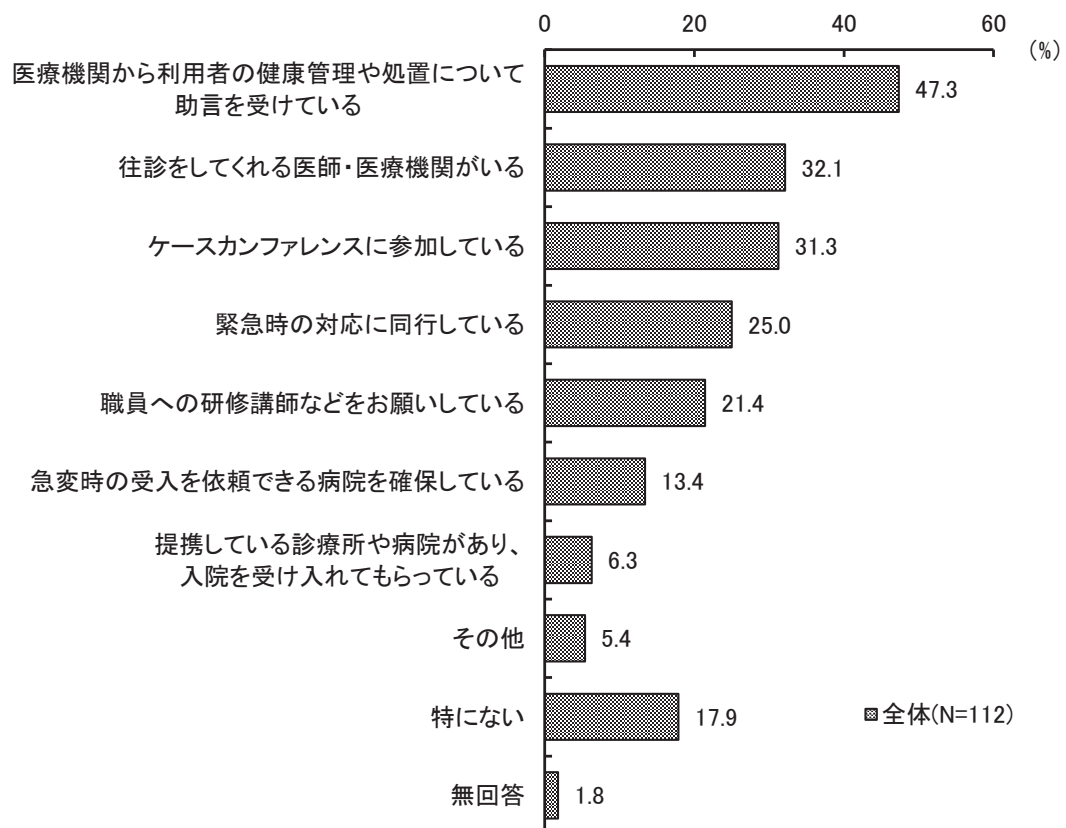
医療的ケアへの対応状況(全体)



⑨ 医療機関との連携で取り組んでいること(問 12)

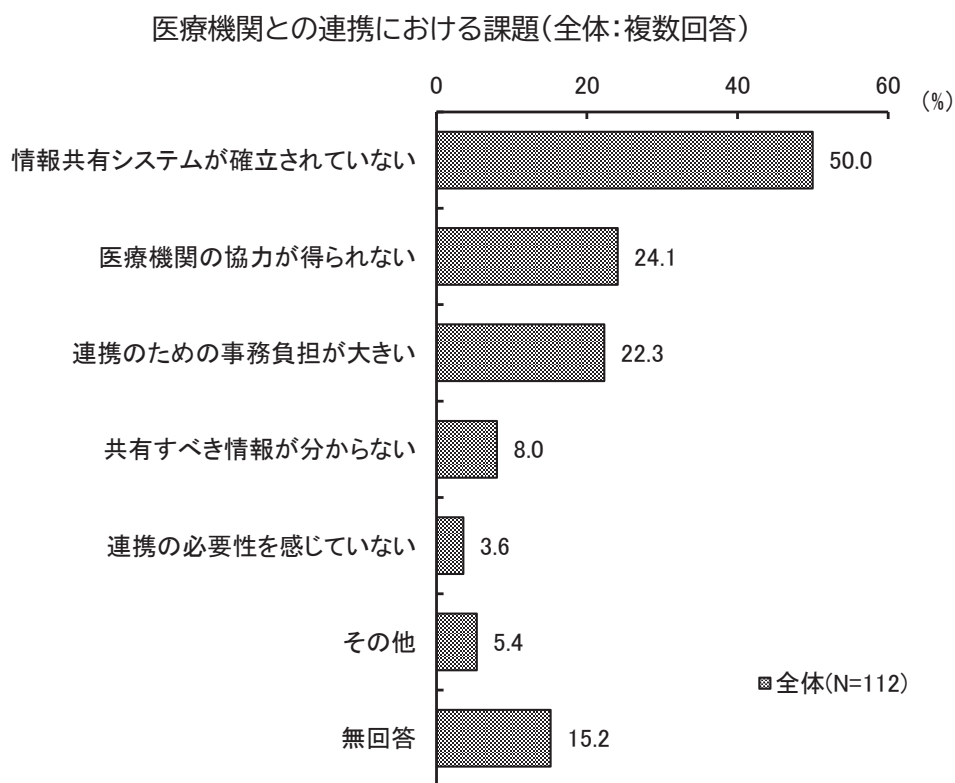
医療機関との連携で取り組んでいることは、「医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている」(47.3%)が最も高く、「往診をしてくれる医師・医療機関がいる」(32.1%)、「ケースカンファレンスに参加している」(31.3%)の順で続いている。

医療機関との連携で取り組んでいること(全体:複数回答)



⑩ 医療機関との連携における課題(問 13)

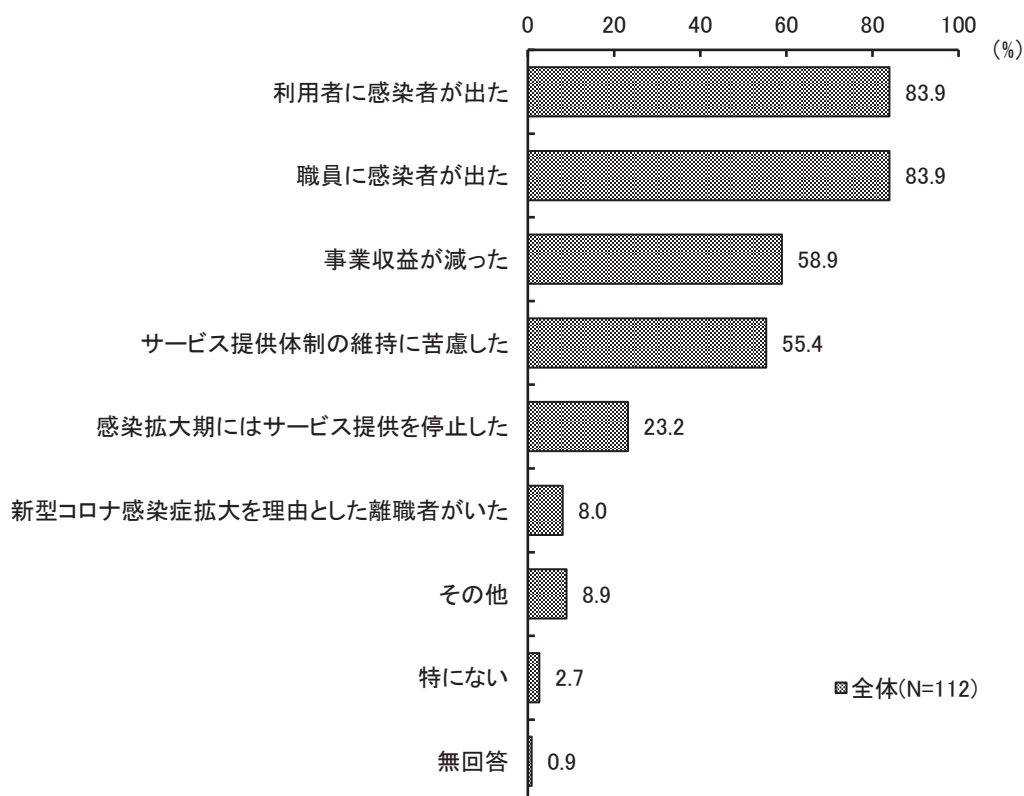
医療機関との連携における課題は、「情報共有システムが確立されていない」(50.0%)が最も高く、「医療機関の協力が得られない」(24.1%)、「連携のための事務負担が大きい」(22.3%)の順で続いている。



⑪ 新型コロナウイルス感染症のサービス提供への影響(問 14)

新型コロナウイルス感染症のサービス提供への影響は、「利用者に感染者が出た」、「職員に感染者が出た」(83.9%)が最も高く、「事業収益が減った」(58.9%)の順で続いている。

新型コロナウイルス感染症のサービス提供への影響(全体:複数回答)

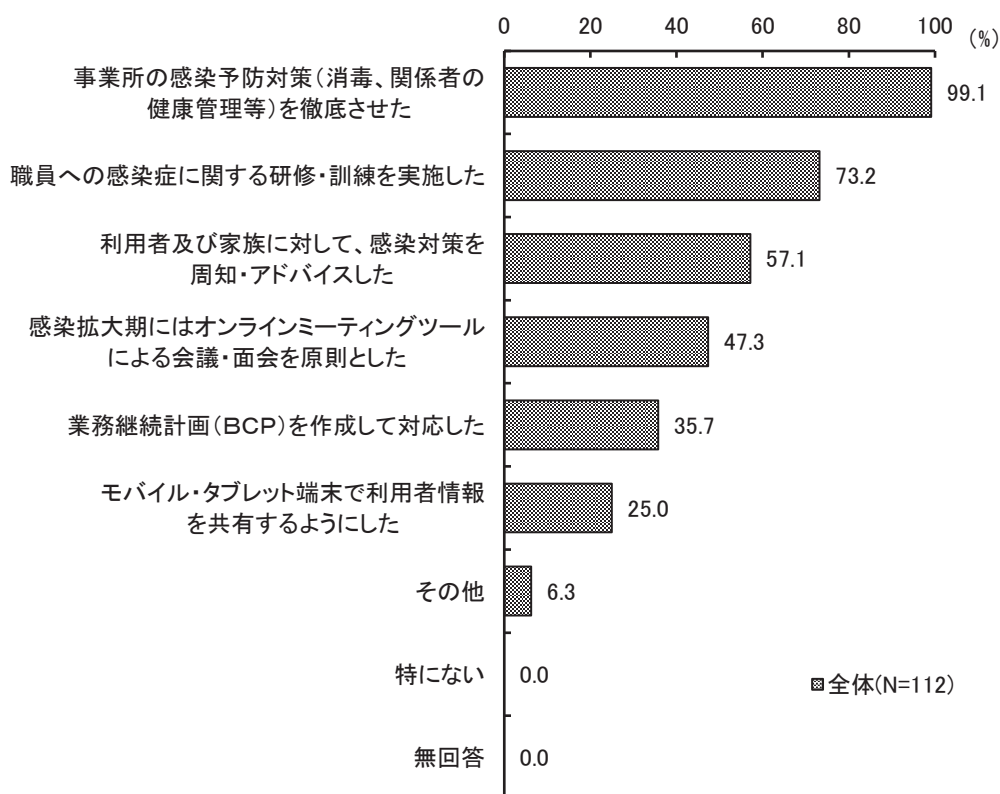


第2章 調査結果

⑫ コロナ禍での取組の工夫(問 15)

コロナ禍での取組の工夫は、「事業所の感染予防対策(消毒、関係者の健康管理等)を徹底させた」(99.1%)が最も高く、「職員への感染症に関する研修・訓練を実施した」(73.2%)、「利用者及び家族に対して、感染対策を周知・アドバイスした」(57.1%)の順で続いている。

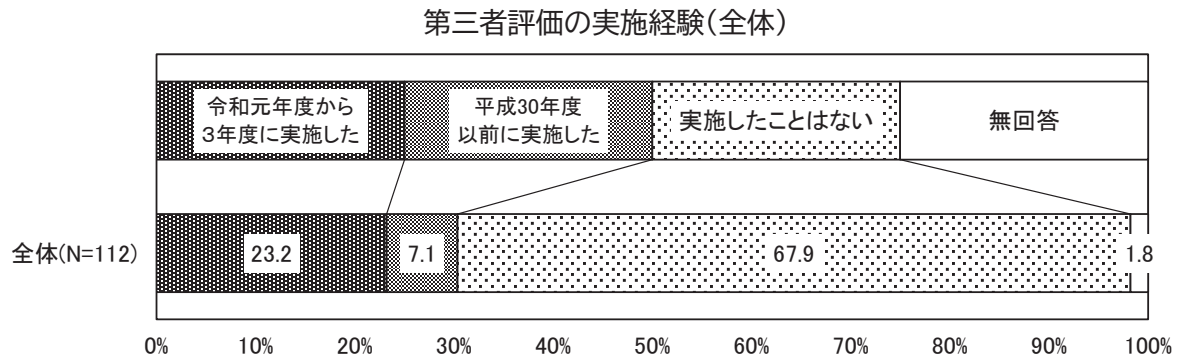
コロナ禍での取組の工夫(全体:複数回答)



(3)サービスの質の向上への取組

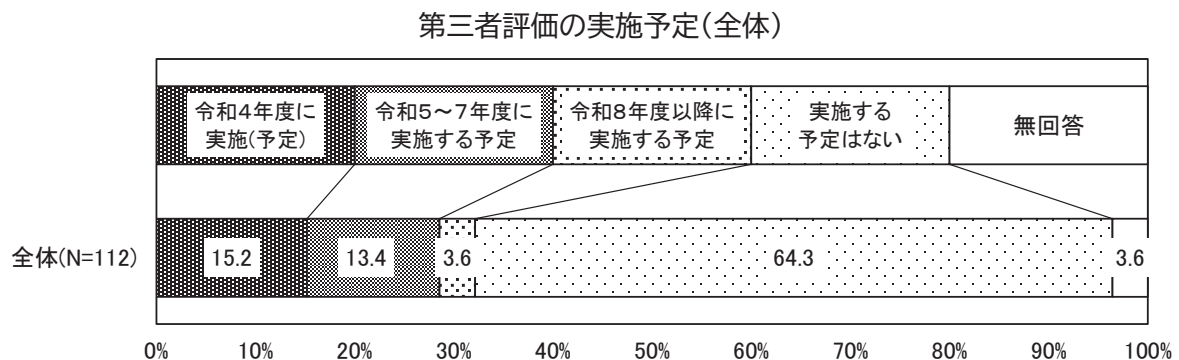
① 第三者評価の実施経験(問 16)

第三者評価の実施経験は、「実施したことはない」(67.9%)が最も高く、「令和元年度から3年度に実施した」(23.2%)、「平成30年度以前に実施した」(7.1%)の順で続いている。



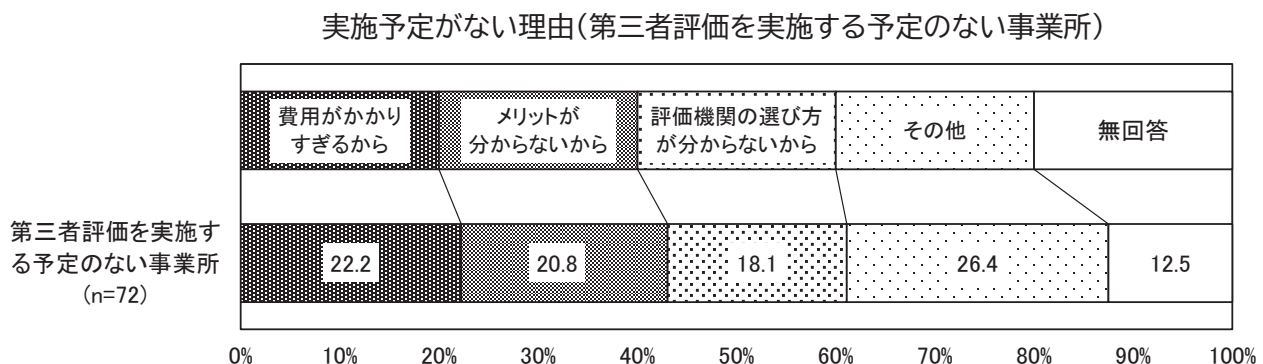
② 第三者評価の実施予定(問 17)

第三者評価の実施予定は、「実施する予定はない」(64.3%)が最も高く、「令和4年度に実施(予定)」(15.2%)、「令和5～7年度に実施する予定」(13.4%)の順で続いている。



③ 実施予定がない理由(問 17-1)

第三者評価を実施する予定のない事業所に、実施予定がない理由をたずねたところ、「その他」(26.4%)が最も高く、「費用がかかりすぎるから」(22.2%)、「メリットが分からないから」(20.8%)の順で続いている。なお、「その他」(26.4%)の内容としては、業務多忙、対象事業ではない、別の評価を実施しているなどが挙げられている。

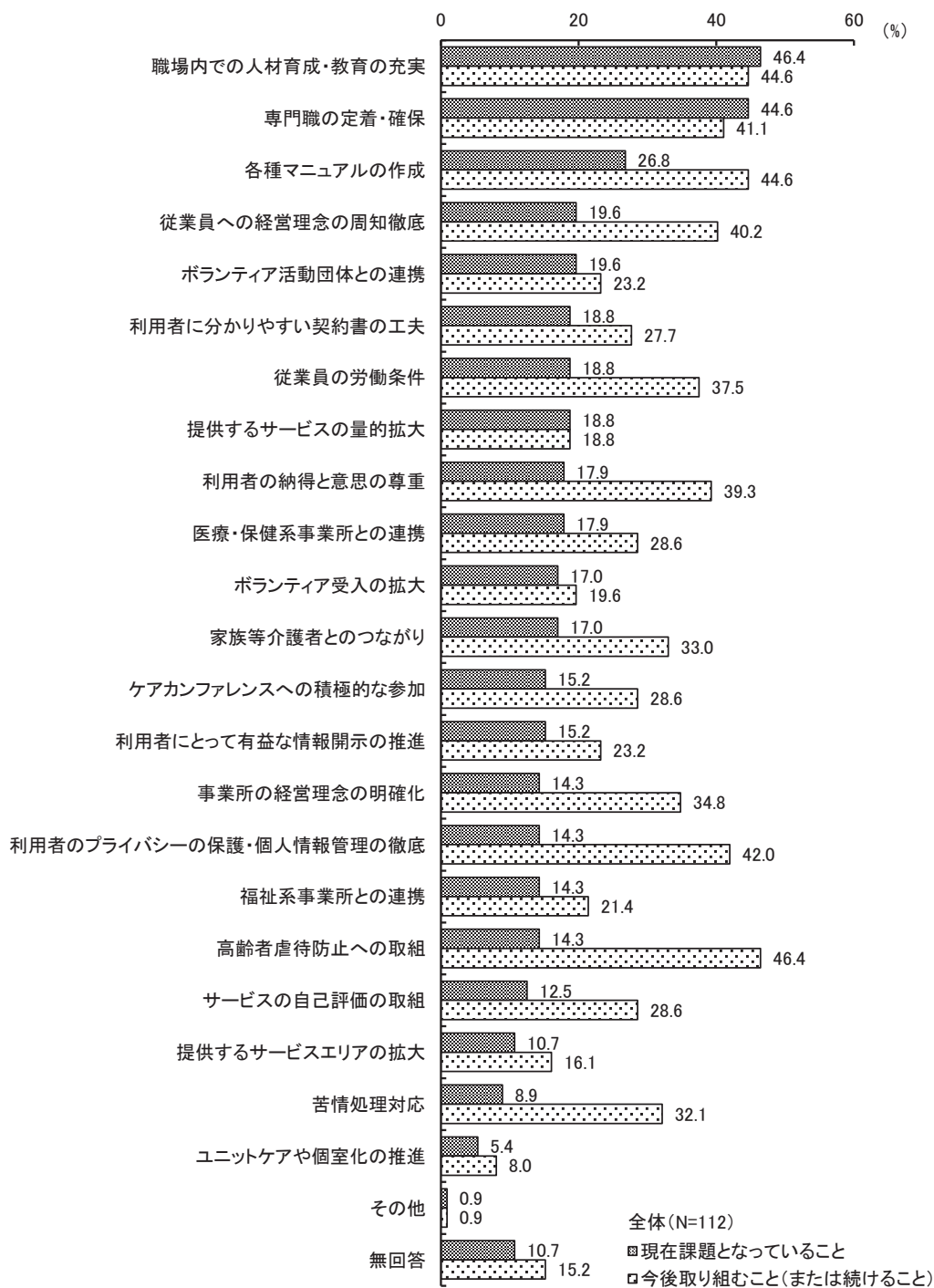


④ サービス向上に向けた現在の課題、今後取り組むこと(または続けること)(問 18)

サービス向上に向けた現在の課題は、「職場内での人材育成・教育の充実」(46.4%)が最も高く、「専門職の定着・確保」(44.6%)、「各種マニュアルの作成」(26.8%)の順で続いている。

サービス向上に向けて今後取り組むこと(または続けること)は、「高齢者虐待防止への取組」(46.4%)、「職場内での人材育成・教育の充実」、「各種マニュアルの作成」(44.6%)、「利用者のプライバシーの保護・個人情報管理の徹底」(42.0%)の順で続いている。

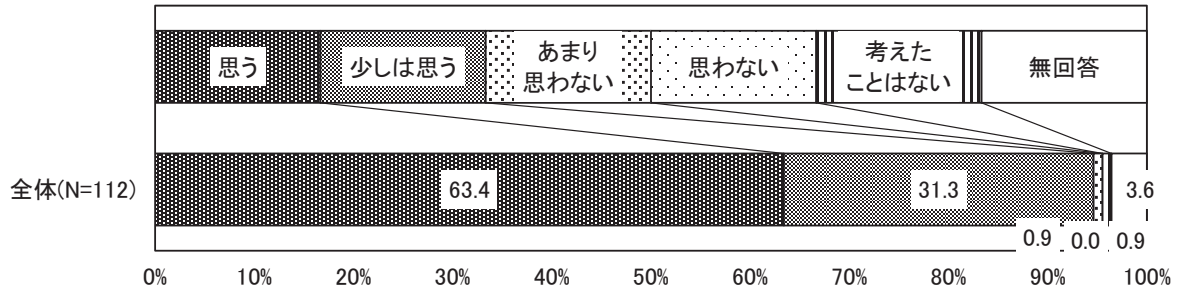
サービス向上に向けた現在の課題、今後取り組むこと(または続けること)(全体:複数回答)



⑤ 利用者の自立支援を意識したサービス提供の実施状況(問 19)

利用者の自立支援を意識したサービス提供の実施状況は、「思う」(63.4%)が最も高く、「少しは思う」(31.3%)、「あまり思わない」、「考えたことはない」(0.9%)の順で続いている。

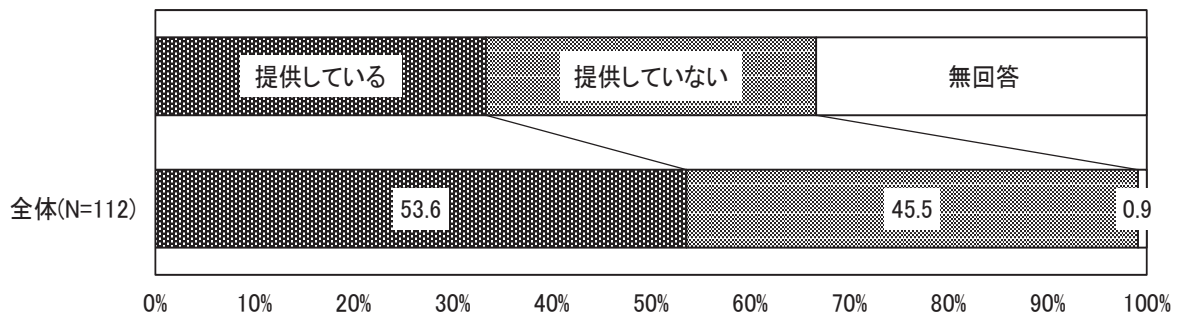
利用者の自立支援を意識したサービス提供の実施状況(全体)



⑥ 介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービス提供の有無(問 20)

介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービス提供の有無は、「提供している」が 53.6%、「提供していない」が 45.5%となっている。

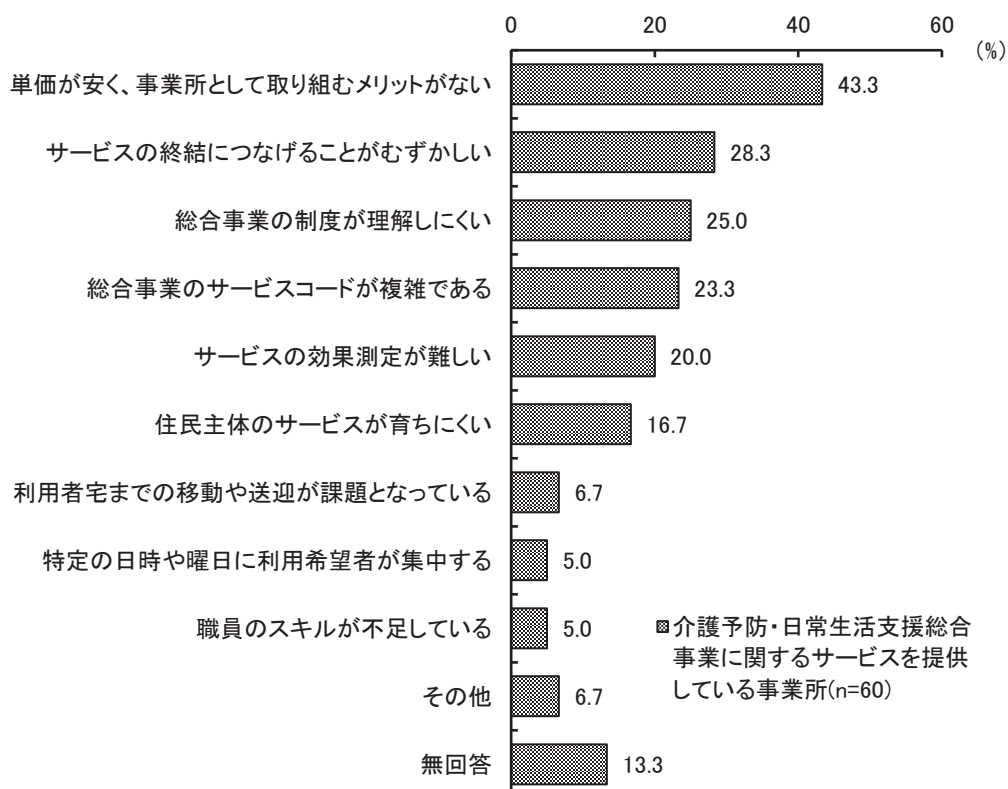
介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービス提供の有無(全体)



⑦ 介護予防・日常生活支援総合事業の課題(問 20-1)

介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービスを提供している事業所に、介護予防・日常生活支援総合事業の課題をたずねたところ、「単価が安く、事業所として取り組むメリットがない」(43.3%)が最も高く、「サービスの終結につなげるのがむずかしい」(28.3%)、「総合事業の制度が理解しにくい」(25.0%)の順で続いている。

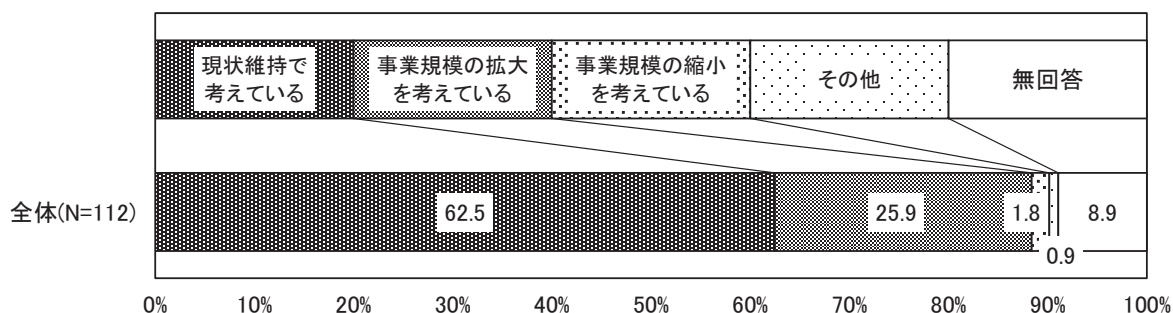
介護予防・日常生活支援総合事業の課題
(介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービスを提供している事業所:複数回答)



⑧ 今後のサービス提供の見通し(問 21)

今後のサービス提供の見通しは、「現状維持で考えている」(62.5%)が最も高く、「事業規模の拡大を考えている」(25.9%)、「事業規模の縮小を考えている」(1.8%)の順で続いている。

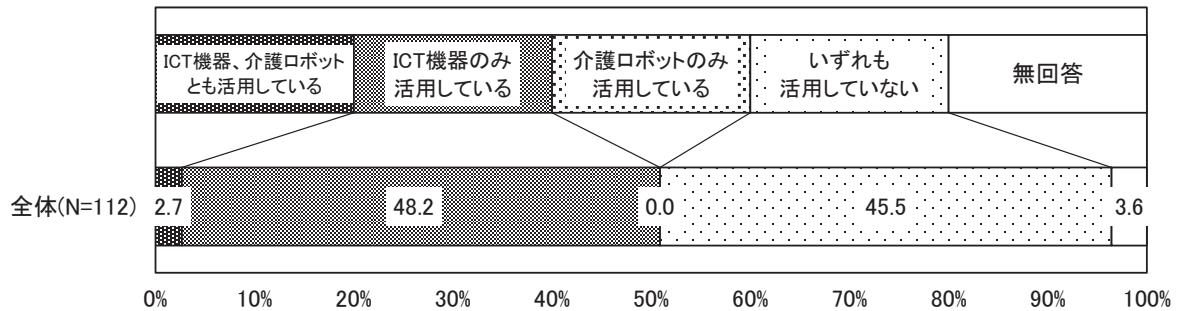
今後のサービス提供の見通し(全体)



⑨ ICT機器や介護ロボット等の活用状況(問 22)

ICT機器や介護ロボット等の活用状況は、「ICT 機器のみ活用している」(48.2%)が最も高く、「いずれも活用していない」(45.5%)、「ICT 機器、介護ロボットとも活用している」(2.7%)の順で続いている。

ICT機器や介護ロボット等の活用状況(全体)



⑩ ICT機器の活用状況(問 22-1)

ICT機器を活用している事業所に、活用状況をたずねたところ、利用者情報等の共有では「パソコン」(87.7%)が最も高く、「タブレット端末」(56.1%)、「スマートフォン」(29.8%)の順で続いている。

報酬請求との連携では「パソコン」(91.2%)が最も高く、「タブレット端末」(8.8%)、「スマートフォン」(1.8%)の順で続いている。

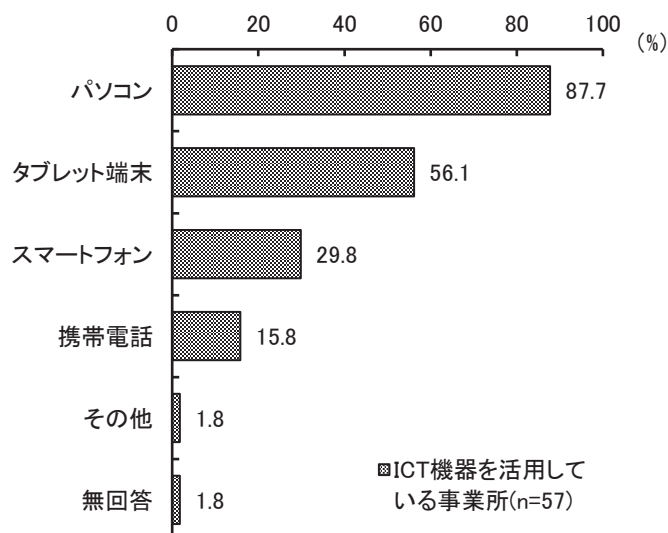
ケアプランの作成では「パソコン」(66.7%)が最も高く、「タブレット端末」(14.0%)、「スマートフォン」(1.8%)の順で続いている。

オンライン会議では「パソコン」(78.9%)が最も高く、「タブレット端末」(40.4%)、「スマートフォン」(21.1%)の順で続いている。

科学的介護情報システム(LIFE)では「パソコン」(36.8%)が最も高く、「タブレット端末」(7.0%)、「スマートフォン」(1.8%)の順で続いている。無回答は63.2%である。

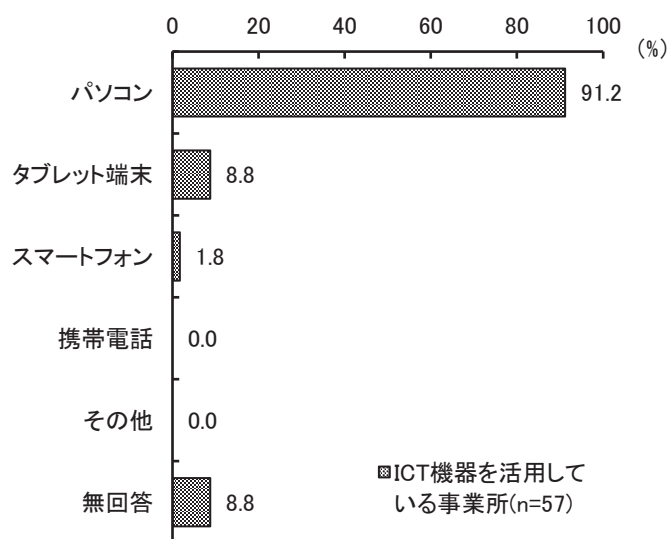
その他では無回答が96.5%である。

ICT機器の活用状況:利用者情報等の共有(ICT機器を活用している事業所:複数回答)

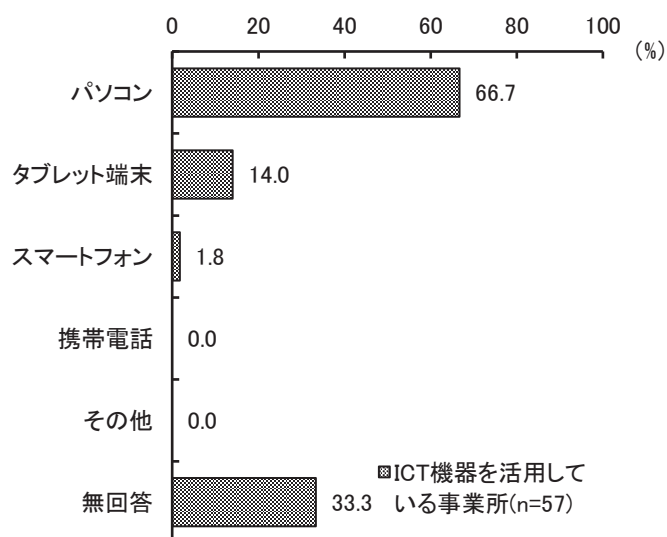


第2章 調査結果

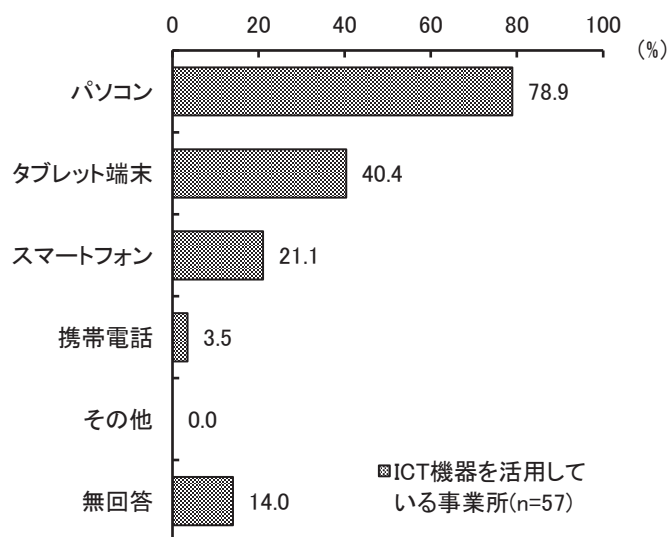
ICT機器の活用状況:報酬請求との連携(ICT機器を活用している事業所:複数回答)



ICT機器の活用状況:ケアプランの作成(ICT機器を活用している事業所:複数回答)

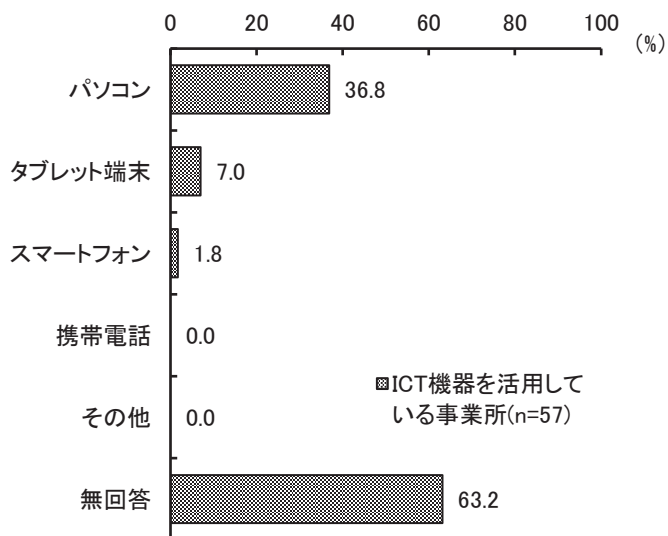


ICT機器の活用状況:オンライン会議(ICT機器を活用している事業所:複数回答)



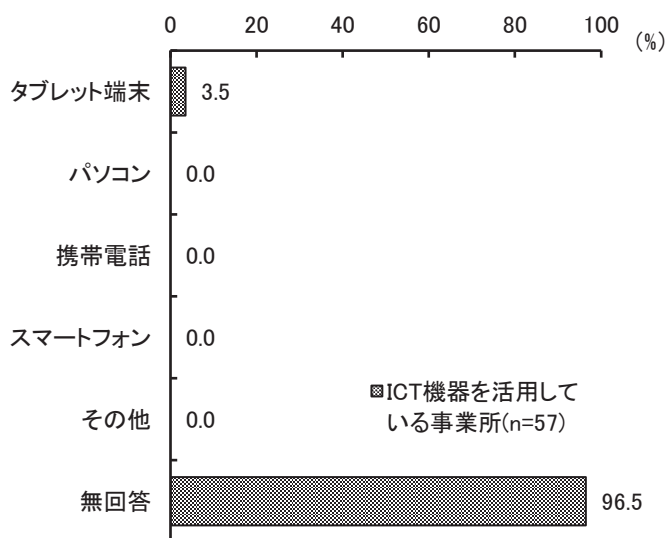
ICT機器の活用状況:科学的介護情報システム(LIFE)※

(ICT機器を活用している事業所:複数回答)



※LIFE とは、介護サービス利用者の状態や、介護施設・事業所で行っているケアの計画・内容などを一定の様式で入力すると、インターネットを通じて厚生労働省へ送信され、入力内容が分析されて、当該施設等にフィードバックされる情報システムのこと。

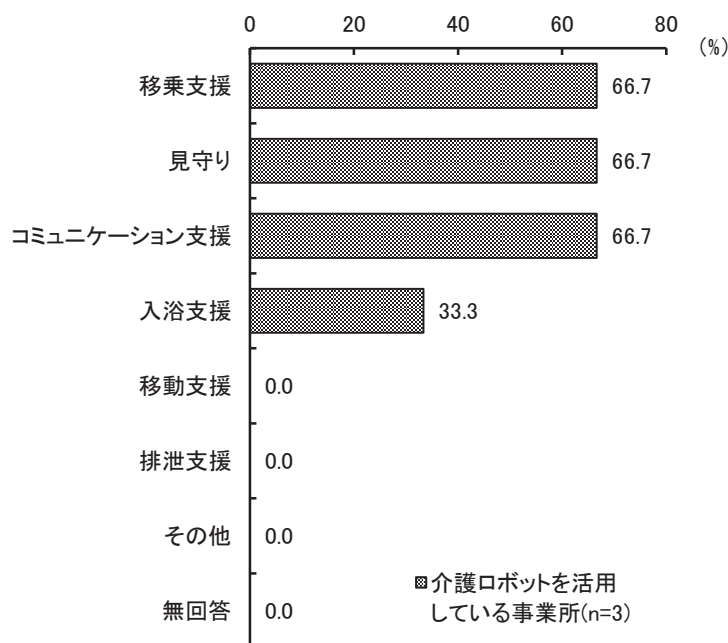
ICT機器の活用状況:その他(ICT機器を活用している事業所:複数回答)



⑪ 介護ロボットの活用状況(問 22-2)

介護ロボットを活用している事業所に、介護ロボットの活用状況をたずねたところ、介護ロボットを活用している3事業所のうち2事業所(66.7%)で、「移乗支援」、「見守り」、「コミュニケーション支援」となっている。

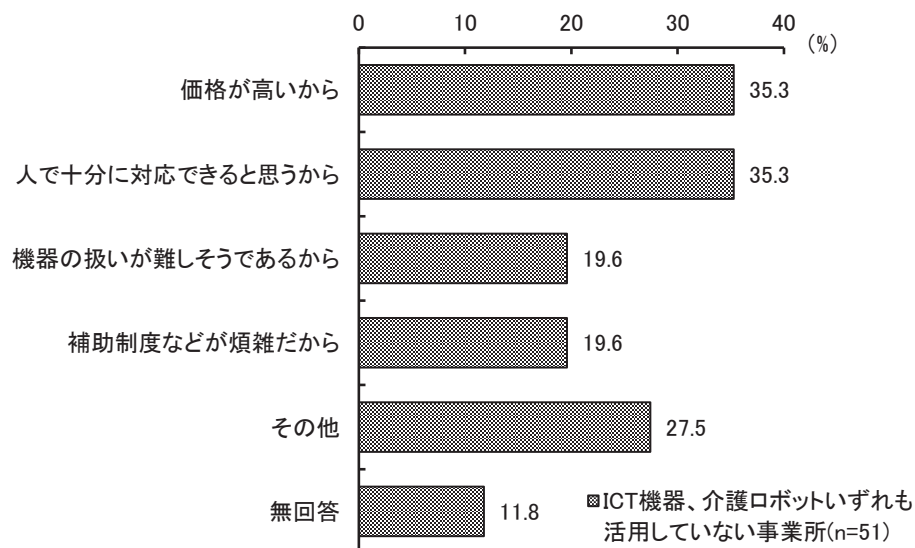
介護ロボットの活用状況(介護ロボットを活用している事業所:複数回答)



⑫ ICT機器や介護ロボット等の活用意向がない理由(問 22-3)

ICT機器や介護ロボットいずれも活用していない事業所に、活用意向がない理由をたずねたところ、「価格が高いから」、「人で十分に対応できると思うから」(35.3%)が最も高く、「機器の扱いが難しそうであるから」、「補助制度などが煩雑だから」(19.6%)の順で続いている。

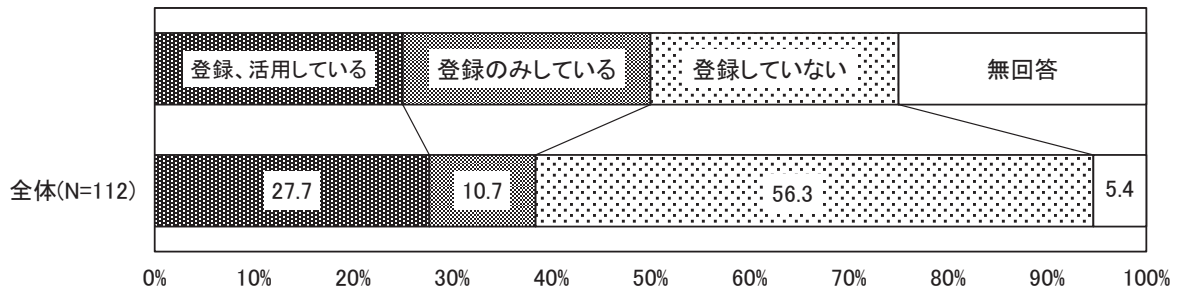
ICT機器や介護ロボット等の活用意向がない理由
(ICT機器や介護ロボットいずれも活用していない事業所:複数回答)



⑬ LIFE(科学的介護情報システム)への登録・活用状況(問 23)

LIFE(科学的介護情報システム)への登録・活用状況は、「登録していない」(56.3%)が最も高く、「登録、活用している」(27.7%)、「登録のみしている」(10.7%)の順で続いている。

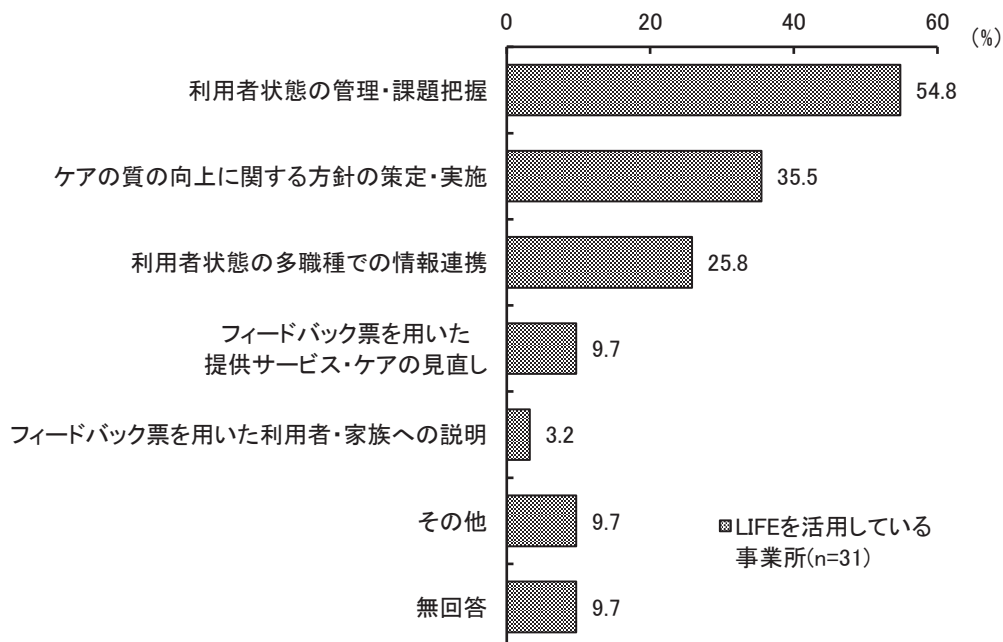
LIFE(科学的介護情報システム)への登録・活用状況(全体)



⑭ LIFE(科学的介護情報システム)を活用する場面(問 23-1)

LIFE(科学的介護情報システム)を活用している事業所に、活用する場面をたずねたところ、「利用者状態の管理・課題把握」(54.8%)が最も高く、「ケアの質の向上に関する方針の策定・実施」(35.5%)、「利用者状態の多職種での情報連携」(25.8%)の順で続いている。

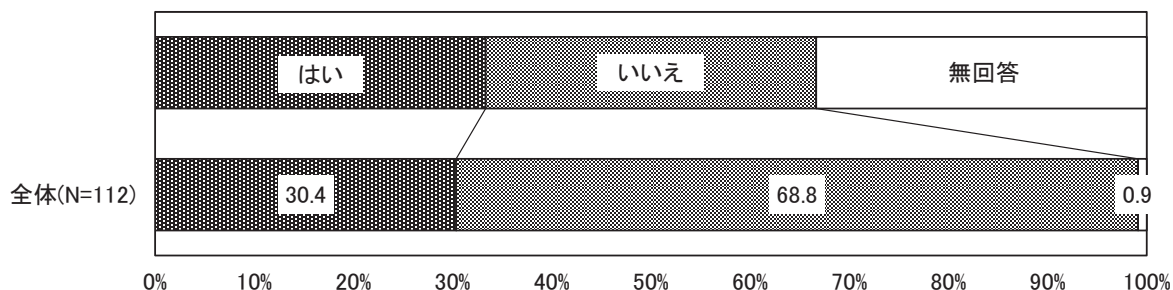
LIFE(科学的介護情報システム)を活用する場面(LIFEを活用している事業所:複数回答)



⑮ 外国人の人材受入の意向(問 24)

外国人の人材受入の意向は、「いいえ」が68.8%、「はい」が30.4%となっている。

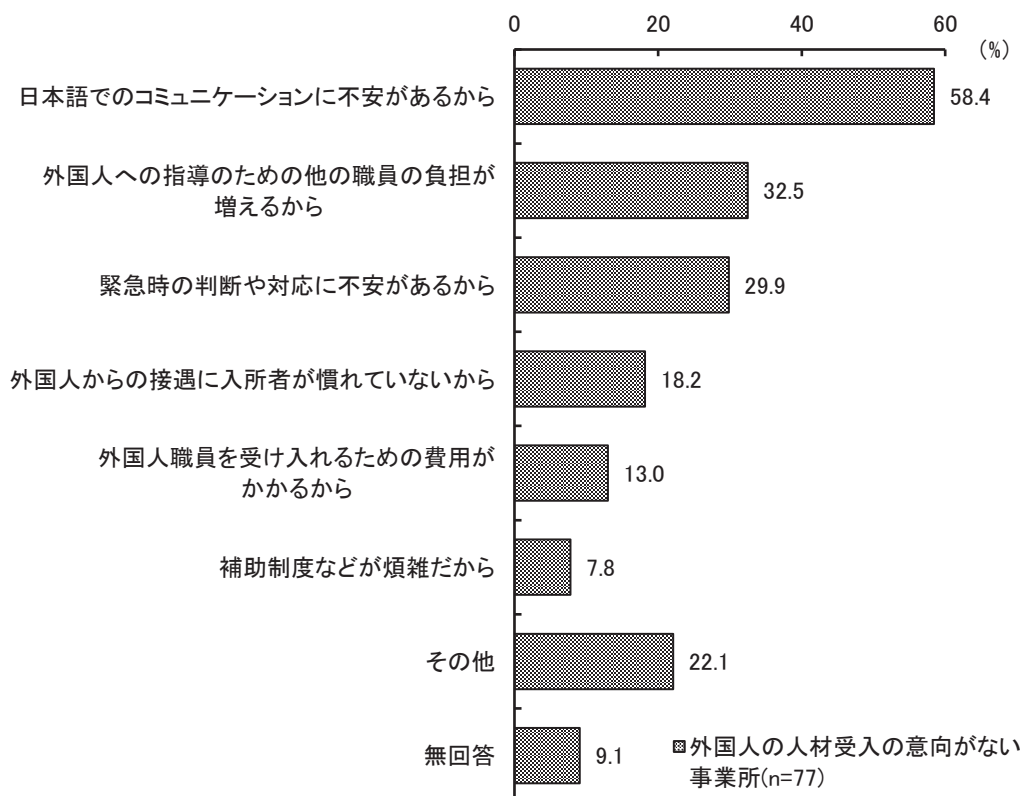
外国人の人材受入の意向(全体)



⑯ 外国人の人材受入の意向がない理由(問 24-1)

外国人の人材受入の意向がない事業所に、その理由をたずねたところ、「日本語でのコミュニケーションに不安があるから」(58.4%)が最も高く、「外国人への指導のための他の職員の負担が増えるから」(32.5%)、「緊急時の判断や対応に不安があるから」(29.9%)の順で続いている。

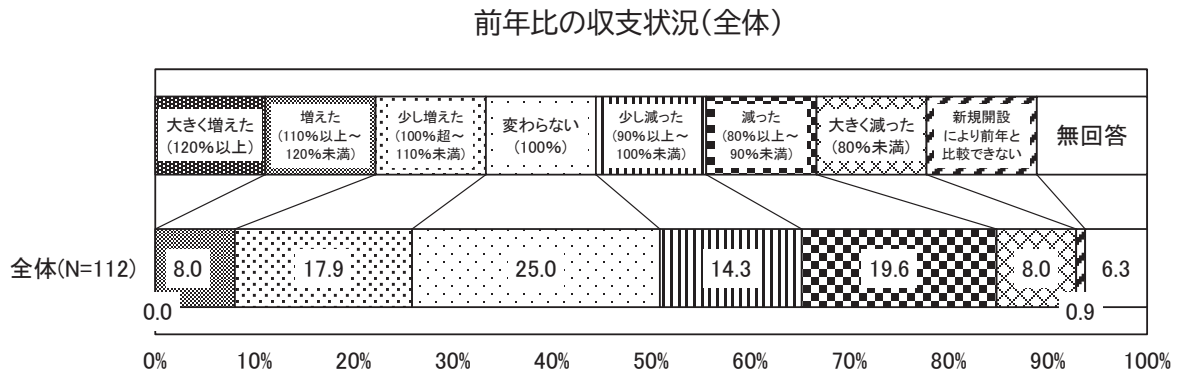
外国人の人材受入の意向がない理由(外国人の人材受入の意向がない事業所:複数回答)



(4)職員の処遇

① 前年比の収支状況(問 25)

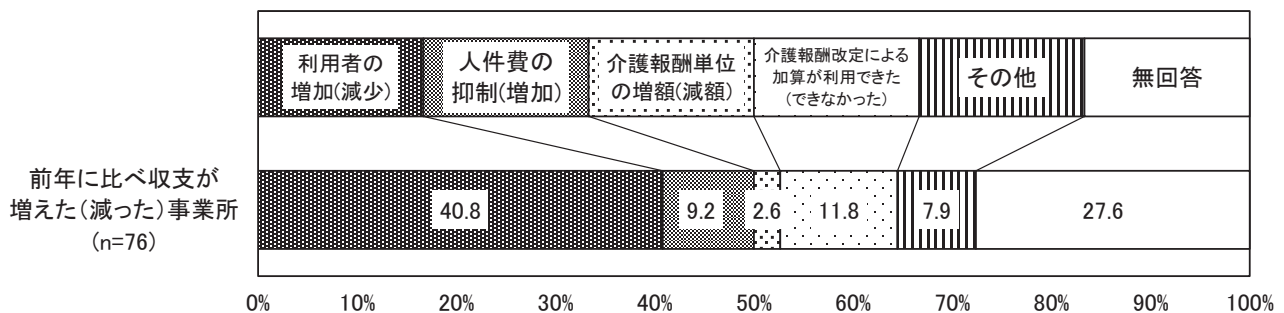
前年比の収支状況は、「変わらない(100%)」(25.0%)が最も高く、「減った(80%以上～90%未満)」(19.6%)、「少し増えた(100%以上～110%未満)」(17.9%)の順で続いている。



② 前年比の収支変化の理由(問 25-1)

前年に比べ収支が増えた(減った)事業所に、前年比の収支変化の理由をたずねたところ、「利用者の増加(減少)」(40.8%)が最も高く、「介護報酬改定による加算が利用できた(できなかった)」(11.8%)、「人件費の抑制(増加)」(9.2%)の順で続いている。

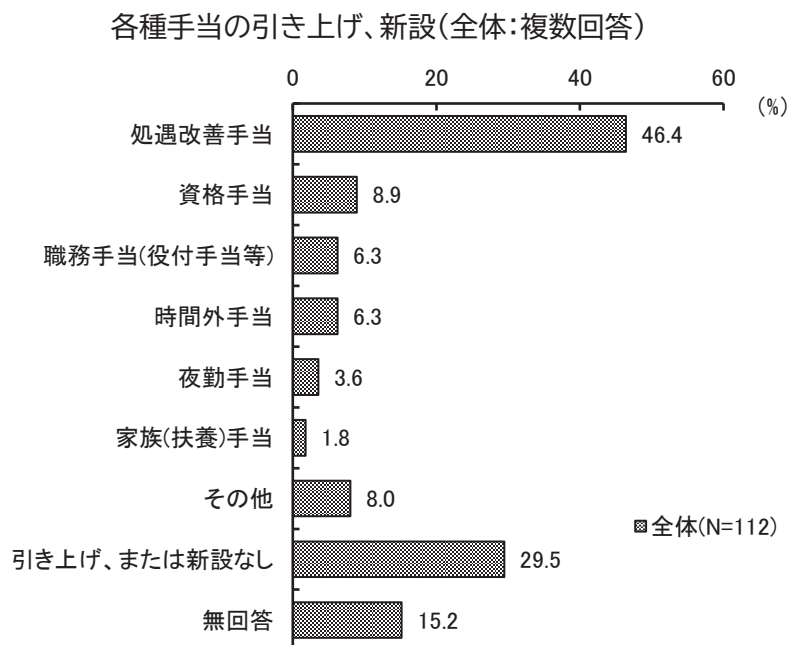
前年比の収支変化の理由(前年に比べ収支が増えた(減った)事業所)



第2章 調査結果

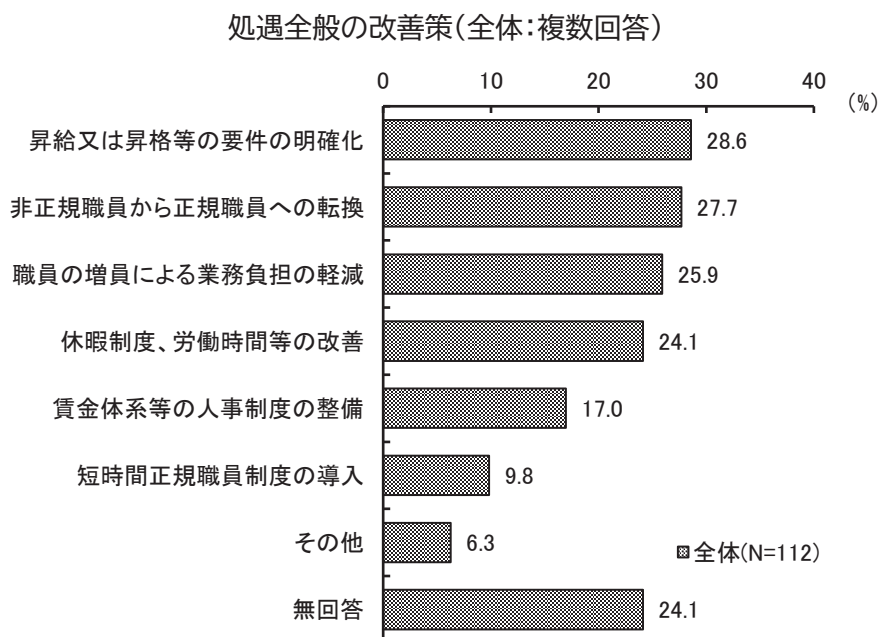
③ 各種手当の引き上げ、新設(問 26)

各種手当の引き上げ、新設は、「処遇改善手当」(46.4%)が最も高く、「引き上げ、または新設なし」(29.5%)、「資格手当」(8.9%)の順で続いている。



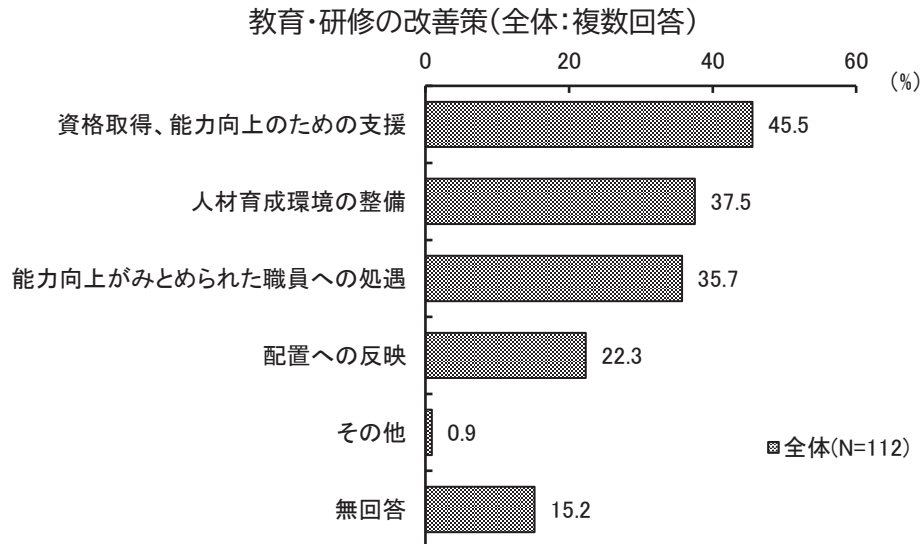
④ 処遇全般の改善策(問 27(1))

処遇全般の改善策は、「昇給又は昇格等の要件の明確化」(28.6%)が最も高く、「非正規職員から正規職員への転換」(27.7%)、「職員の増員による業務負担の軽減」(25.9%)の順で続いている。



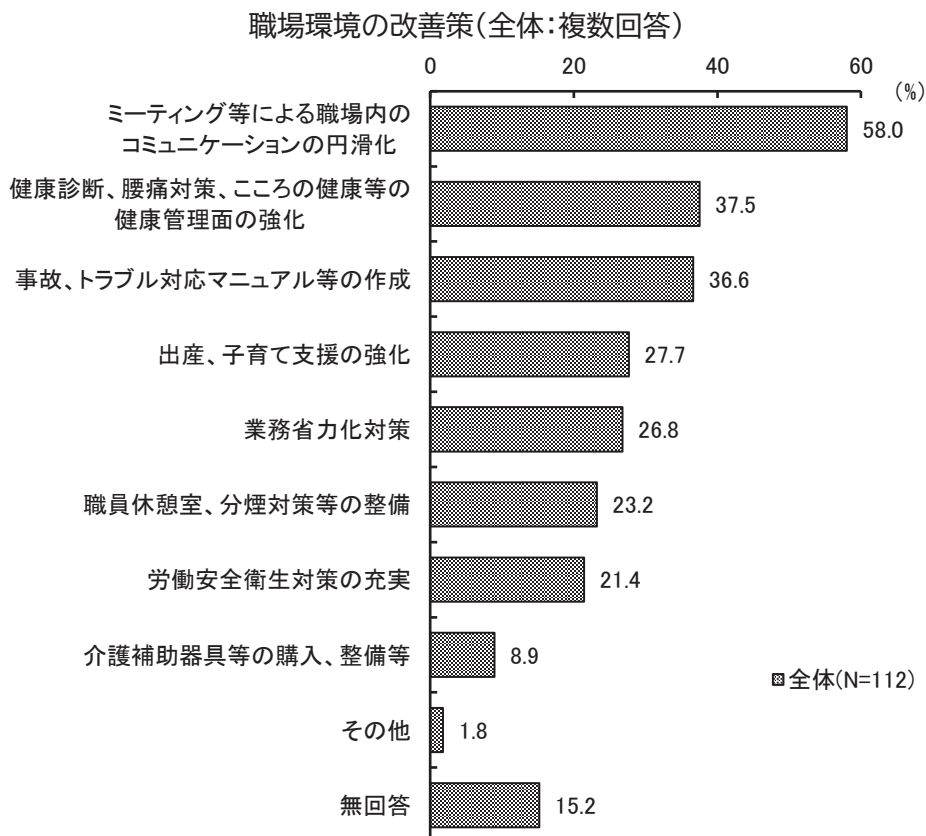
⑤ 教育・研修の改善策(問 27(2))

教育・研修の改善策は、「資格取得、能力向上のための支援」(45.5%)が最も高く、「人材育成環境の整備」(37.5%)、「能力向上がみとめられた職員への処遇」(35.7%)の順で続いている。



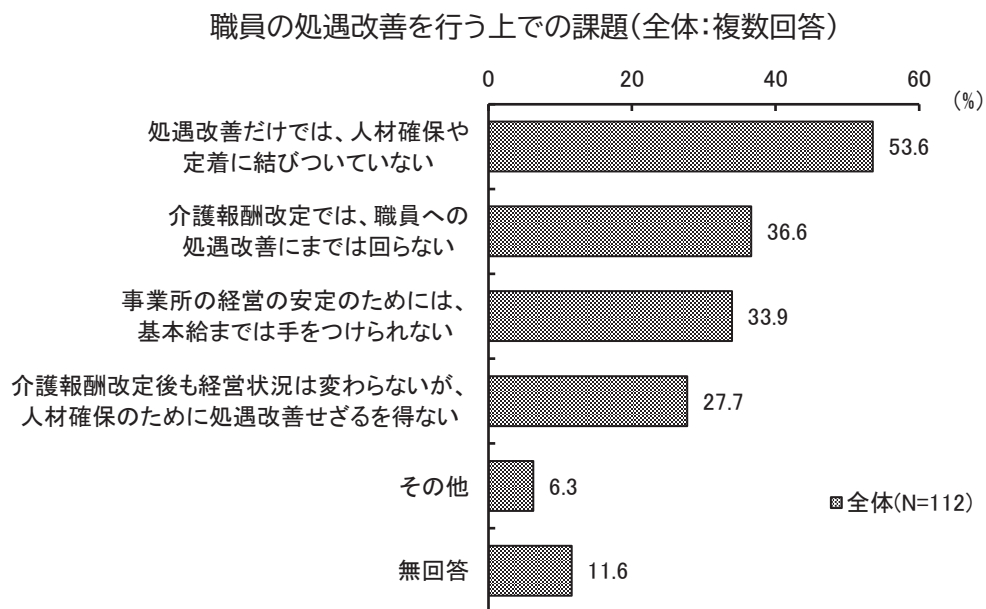
⑥ 職場環境の改善策(問 27(3))

職場環境の改善策は、「ミーティング等による職場内のコミュニケーションの円滑化」(58.0%)が最も高く、「健康診断、腰痛対策、こころの健康等の健康管理面の強化」(37.5%)、「事故、トラブル対応マニュアル等の作成」(36.6%)の順で続いている。



⑦ 職員の処遇改善を行う上での課題(問 28)

職員の処遇改善を行う上での課題は、「処遇改善だけでは、人材確保や定着に結びついていない」(53.6%)が最も高く、「介護報酬改定では、職員への処遇改善にまでは回らない」(36.6%)、「事業所の経営の安定のためには、基本給までは手をつけられない」(33.9%)の順が続いている。



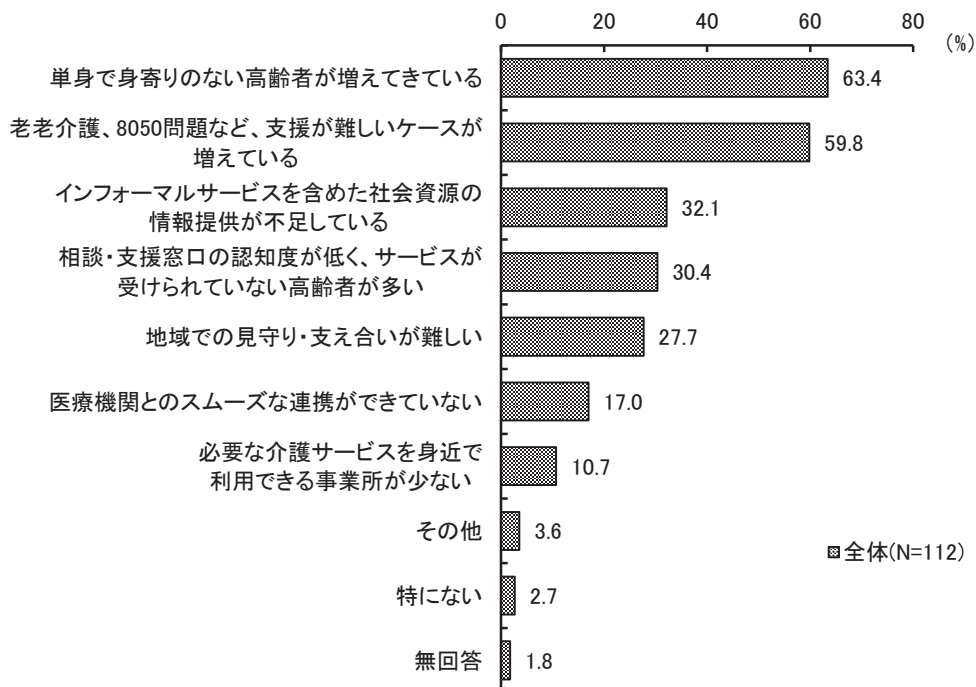
(5)地域生活課題の状況

① 利用者支援の側からみた地域課題(問 29)

利用者支援の側からみた地域課題は、「単身で身よりのない高齢者が増えてきている」(63.4%)が最も高く、「老老介護、8050 問題など、支援が難しいケースが増えている」(59.8%)、「インフォーマルサービスを含めた社会資源の情報提供が不足している」(32.1%)の順で続いている。

提供サービス別にみると、【居住系サービス】以外では、「単身で身よりのない高齢者が増えてきている」が最も高くなっている。【居住系サービス】では、「インフォーマルサービスを含めた社会資源の情報提供が不足している」、「医療機関とのスムーズな連携ができていない」(44.4%)が最も高くなっている。

利用者支援の側からみた地域課題(全体:複数回答(3 つまで))



利用者支援の側からみた地域課題(全体、提供サービス別:複数回答(3 つまで))

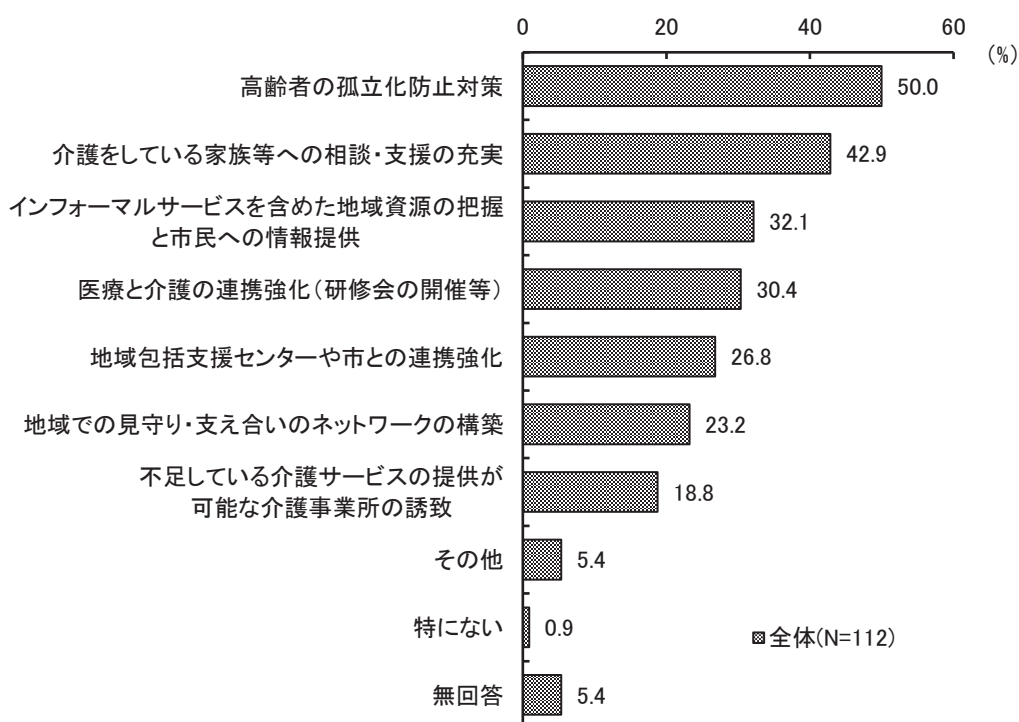
		回答者数	単身で身寄りのない高齢者が増えている	老老介護、8050問題など、支援が難しいケースが増えている	インフォーマルサービスを含めた社会資源の情報提供が不足している	相談・支援窓口の認知度が低く、サービスが受けられていない高齢者が多い	地域での見守り・支え合いが難しい	医療機関とのスムーズな連携ができていない	必要な介護サービスを身近で利用できる事業所が少ない	その他	特になし	無回答
全体		112	63.4	59.8	32.1	30.4	27.7	17.0	10.7	3.6	2.7	1.8
サービス別	施設サービス	10	90.0	70.0	20.0	40.0	30.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	居住系サービス	9	33.3	22.2	44.4	33.3	11.1	44.4	22.2	0.0	11.1	0.0
	在宅サービス	95	66.3	63.2	32.6	29.5	29.5	13.7	11.6	3.2	1.1	1.1
	その他	11	54.5	54.5	18.2	36.4	27.3	27.3	9.1	0.0	9.1	9.1
	総合事業	12	66.7	58.3	50.0	25.0	25.0	16.7	8.3	0.0	0.0	0.0

② 地域課題解決のために必要なこと(問 30)

地域課題解決のために必要なことは、「高齢者の孤立化防止対策」(50.0%)が最も高く、「介護をしている家族等への相談・支援の充実」(42.9%)、「インフォーマルサービスを含めた地域資源の把握と市民への情報提供」(32.1%)の順で続いている。

提供サービス別にみると、【居住系サービス】以外では、「高齢者の孤立化防止対策」が最も高くなっている。【居住系サービス】では、「インフォーマルサービスを含めた地域資源の把握と市民への情報提供」、「医療と介護の連携強化(研修会の開催等)」、「地域包括支援センターや市との連携強化」(44.4%)が最も高くなっている。

地域課題解決のために必要なこと(全体:複数回答(3 つまで))



地域課題解決のために必要なこと(全体、提供サービス別:複数回答(3 つまで))

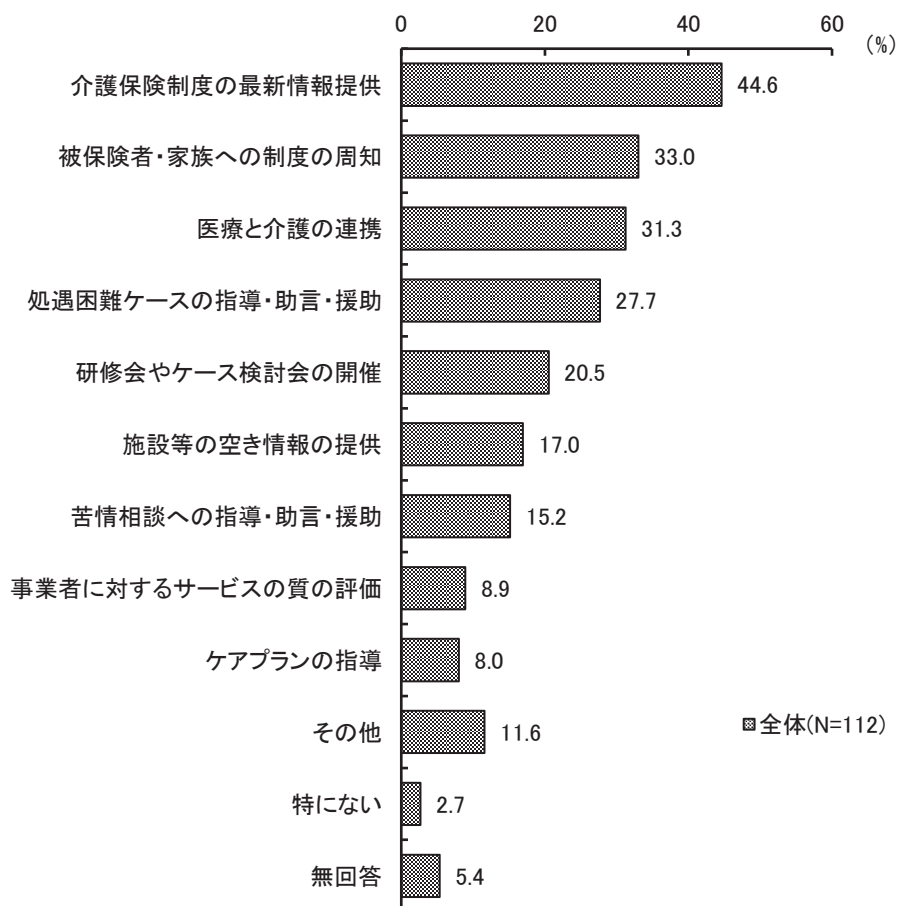
		回答者数	高齢者の孤立化防止対策	介護をしている家族等への相談・支援の充実	インフォーマルサービスを含めた地域資源の把握と市民への情報提供	医療と介護の連携強化(研修会の開催等)	地域包括支援センターや市との連携強化	地域での見守り・支え合いのネットワークの構築	不足している介護サービスの提供が可能な介護事業所の誘致	その他	特にない	無回答
全体		112	50.0	42.9	32.1	30.4	26.8	23.2	18.8	5.4	0.9	5.4
サービス別	施設サービス	10	60.0	40.0	30.0	30.0	30.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	居住系サービス	9	11.1	11.1	44.4	44.4	44.4	11.1	33.3	0.0	11.1	0.0
	在宅サービス	95	52.6	45.3	31.6	28.4	24.2	22.1	20.0	6.3	0.0	5.3
	その他	11	54.5	45.5	18.2	45.5	27.3	36.4	27.3	0.0	0.0	9.1
	総合事業	12	66.7	25.0	41.7	25.0	25.0	25.0	16.7	0.0	0.0	0.0

(6)西東京市への要望

① 保険者としての西東京市に望むこと(問 31)

保険者としての西東京市に望むことは、「介護保険制度の最新情報提供」(44.6%)が最も高く、「被保険者・家族への制度の周知」(33.0%)、「医療と介護の連携」(31.3%)の順で続いている。

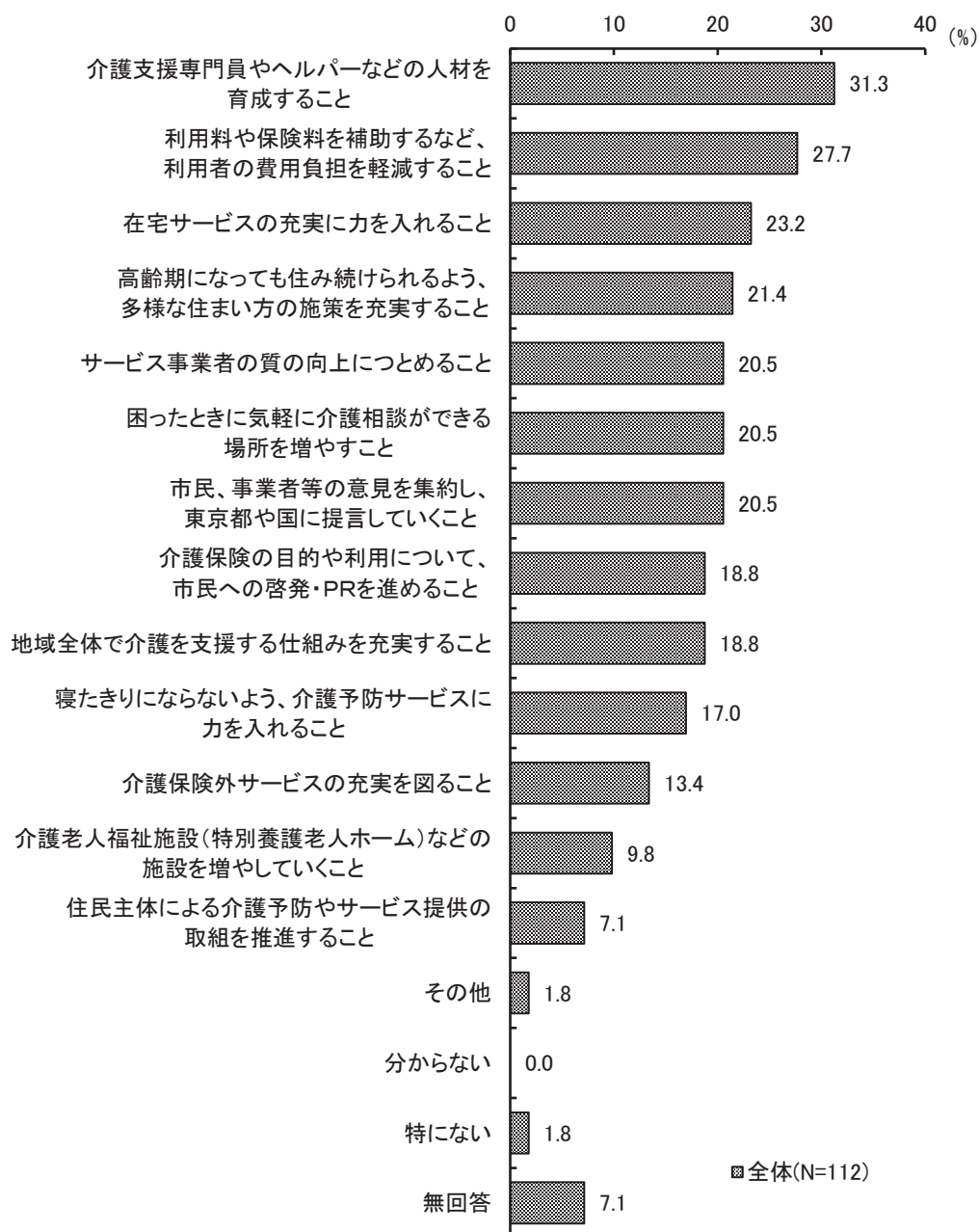
保険者としての西東京市に望むこと(全体:複数回答(3つまで))



② 介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきこと(問 32)

介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきことは、「介護支援専門員やヘルパーなどの人材を育成すること」(31.3%)が最も高く、「利用料や保険料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減すること」(27.7%)、「在宅サービスの充実に力を入れること」(23.2%)の順で続いている。

介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきこと(全体:複数回答(3 つまで))

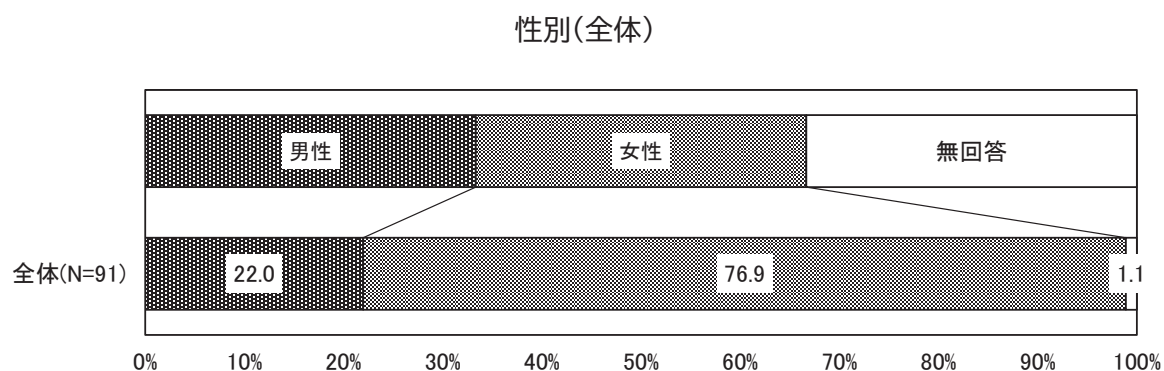


6 介護支援専門員調査

(1)基本属性

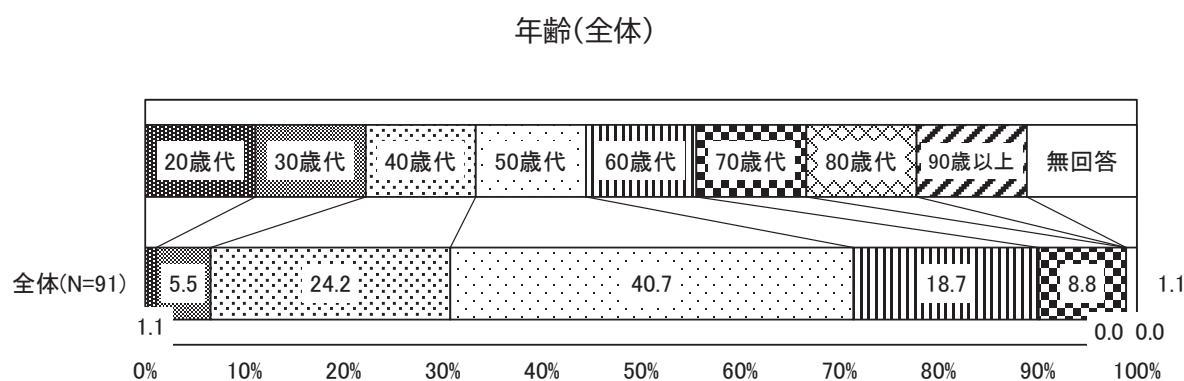
① 性別(問1)

性別は、「女性」が76.9%、「男性」が22.0%である。



② 年齢(問2)

年齢は、「50歳代」(40.7%)が最も高く、「40歳代」(24.2%)、「60歳代」(18.7%)の順で続いている。

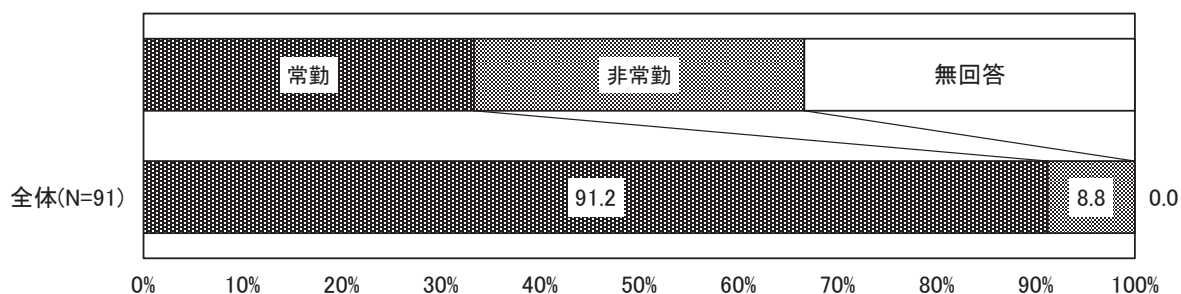


第2章 調査結果

③ 勤務形態(問3)

勤務形態は、「常勤」(91.2%)が最も高い。

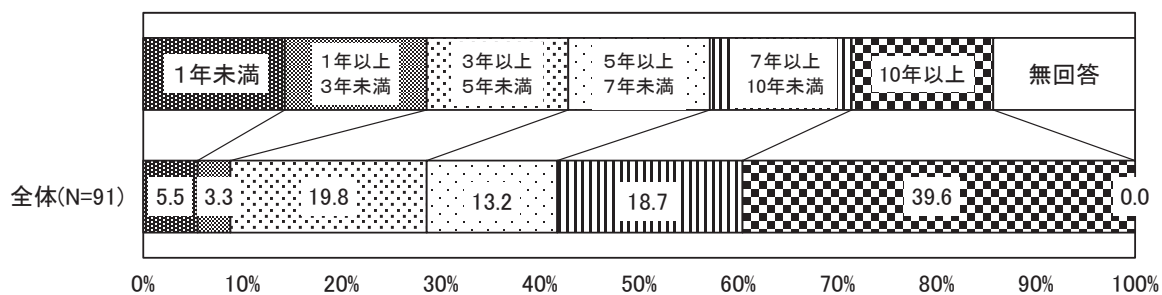
勤務形態(全体)



④ 経験年数(問4)

経験年数は、「10年以上」(39.6%)が最も高く、「3年以上5年未満」(19.8%)、「7年以上10年未満」(18.7%)の順で続いている。

経験年数(全体)

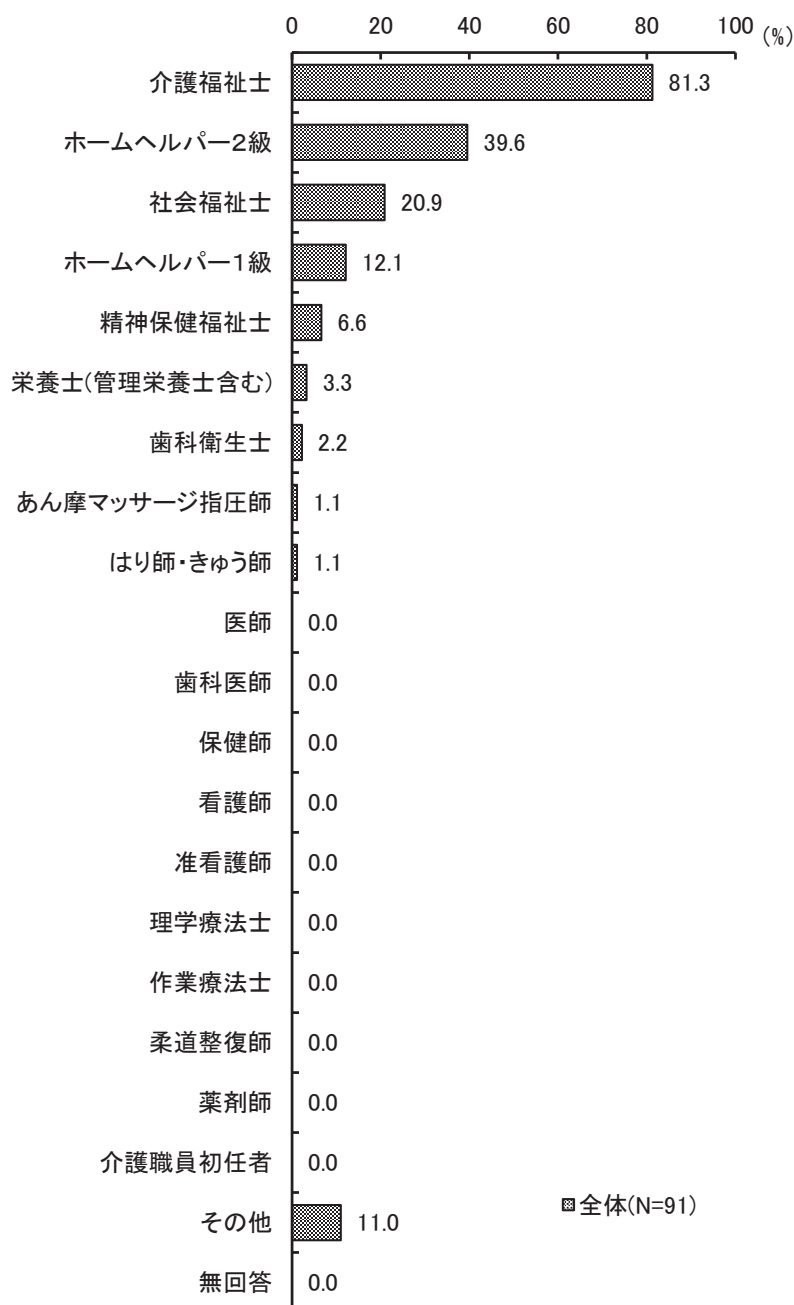


⑤ 介護支援専門員以外の資格(問 5)

介護支援専門員以外の資格は、「介護福祉士」(81.3%)が最も高く、「ホームヘルパー2級」(39.6%)、「社会福祉士」(20.9%)が続いている。

その他の内容としては、公認心理師、福祉住環境コーディネーター、社会福祉主事などが挙げられている。

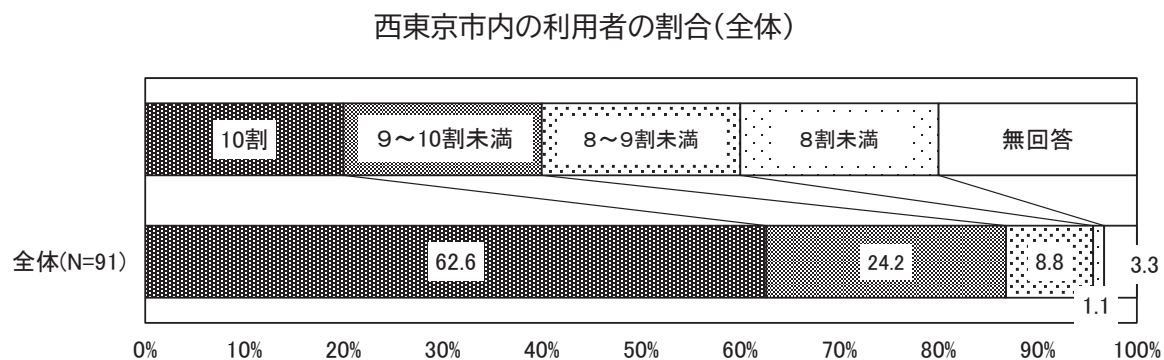
介護支援専門員以外の資格(全体:複数回答)



(2)事業所について

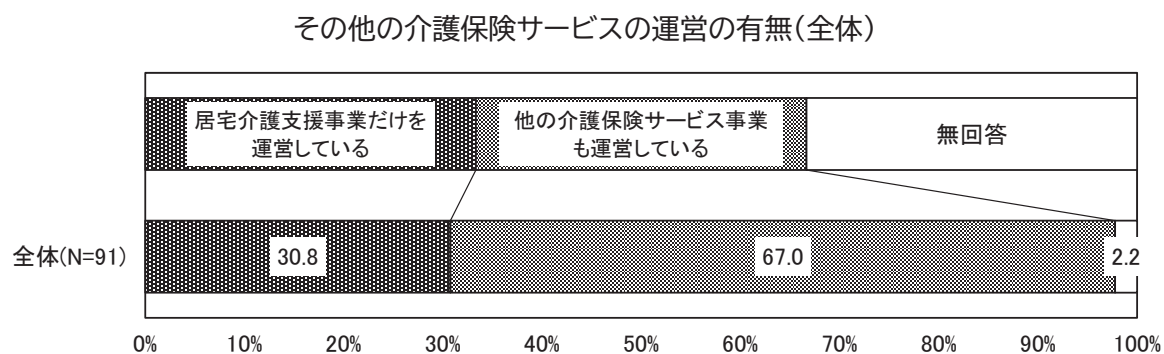
① 西東京市内の利用者の割合(問 6)

西東京市内の利用者の割合は、「10割」(62.6%)、「9~10割」(24.2%)でほとんどが市内の利用者となっている。



② その他の介護保険サービスの運営の有無(問 7)

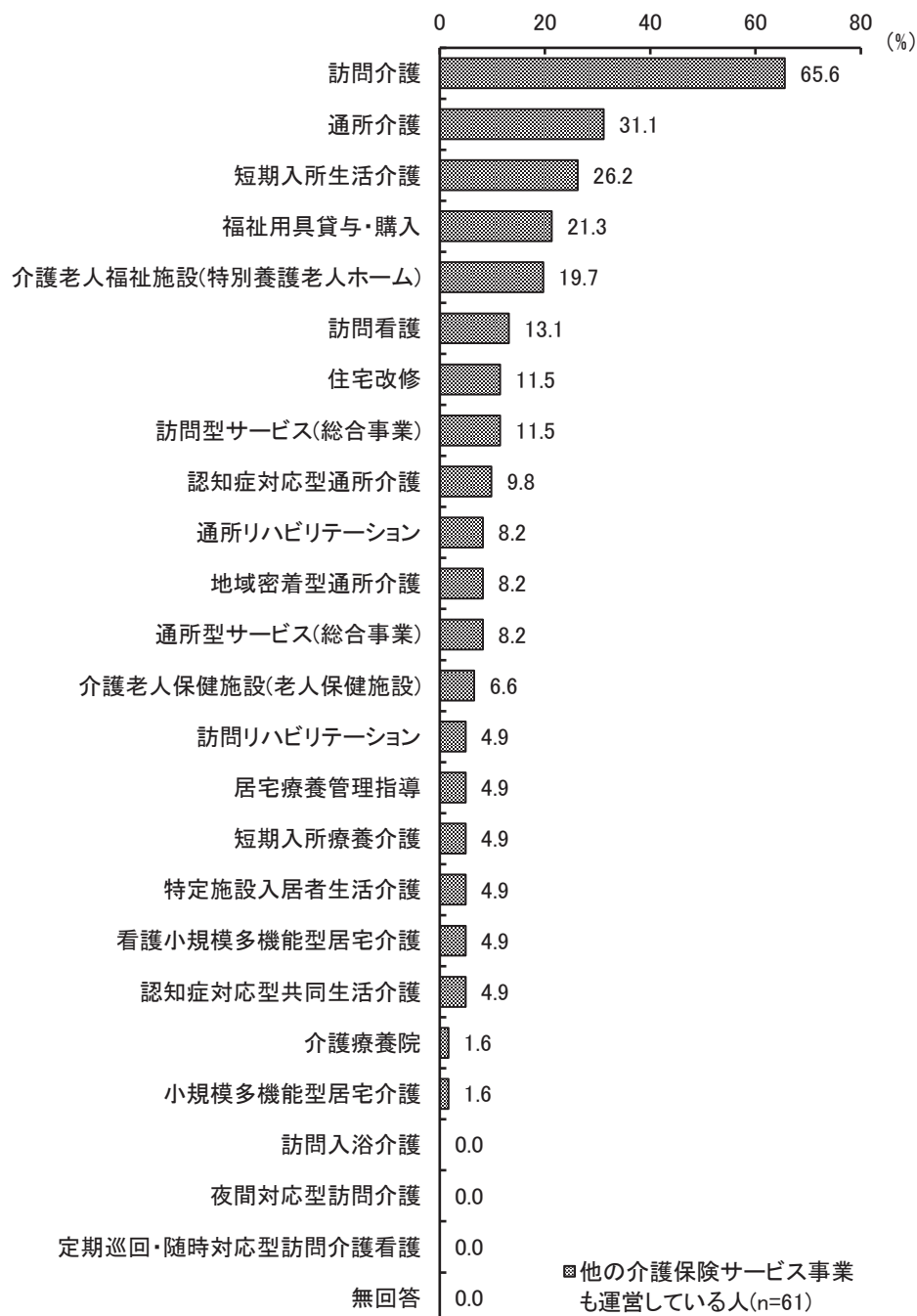
その他の介護保険サービスの運営の有無は、「他の介護保険サービス事業も運営している」(67.0%)が過半数となっている。



③ 運営している介護保険サービス(問 7-1)

他の介護保険サービス事業も運営している人に、運営している介護保険サービスをたずねたところ、「訪問介護」(65.6%)、「通所介護」(31.1%)、「短期入所生活介護」(26.2%)の順で続いている。

運営している介護保険サービス(他の介護保険サービス事業も運営している人:複数回答)

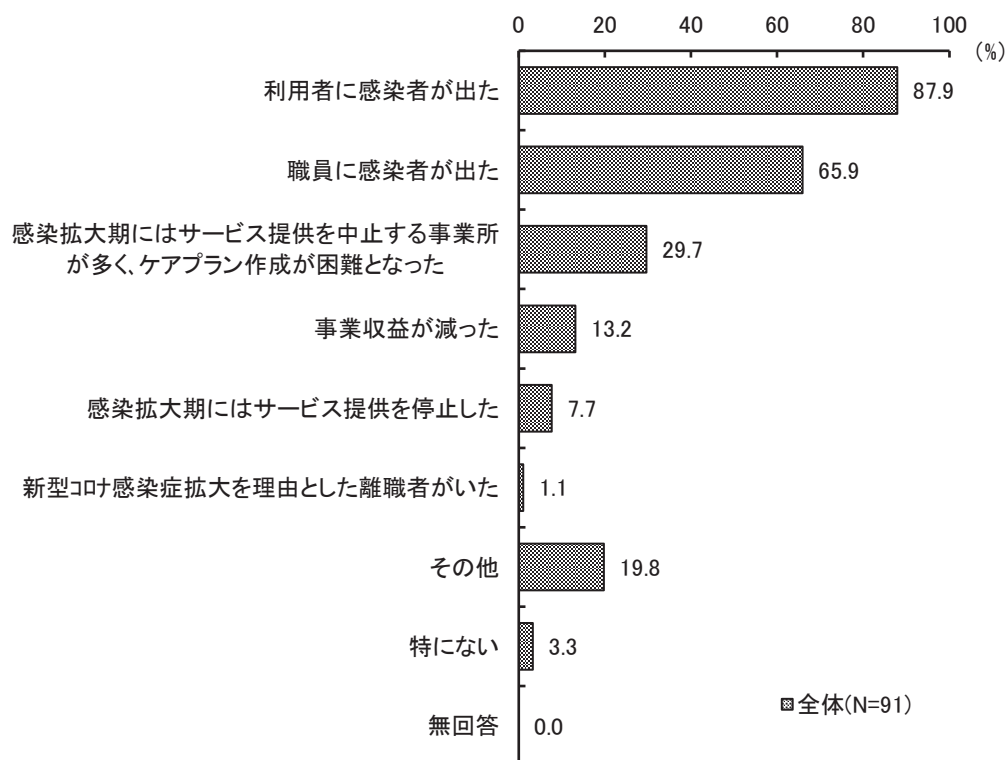


④ 新型コロナウイルス感染症のサービス提供への影響(問 8)

新型コロナウイルス感染症のサービス提供への影響は、「利用者に感染者が出た」(87.9%)、「職員に感染者が出た」(65.9%)が高く、「感染拡大期にはサービス提供を中止する事業所が多く、ケアプラン作成が困難となった」(29.7%)も3割弱となっている。

その他の内容としては、以下のような回答があった。

新型コロナウイルス感染症のサービス提供への影響(全体:複数回答(3 つまで))



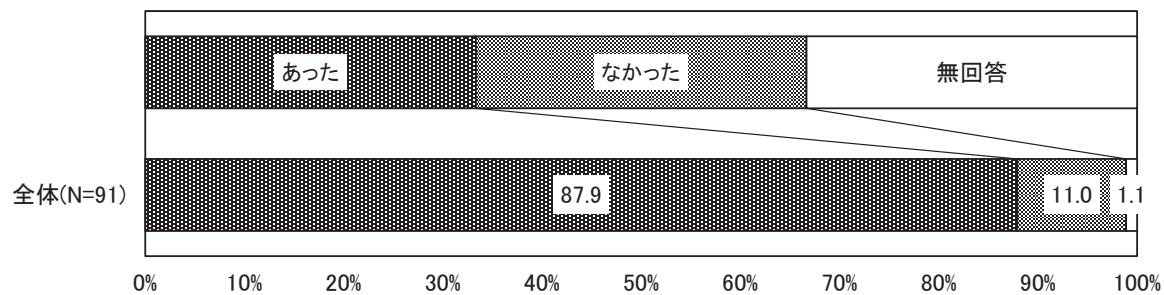
<その他>

- 家族対応できない方の病院との調整のため、通常業務に影響があった。
- 濃厚接触者のためサービス利用ができず、プラン作成やサービス調整が大変だった。
- モニタリング拒否により、状況把握が困難であった。
- 体調不良者の対応に苦慮した。
- サービス休止中に体力が落ちた利用者がいた。
- 分散勤務で仕事に支障があった。
- デイサービスの休みで給付が減った。 など

⑤ 新型コロナウイルス感染症によるモニタリングへの影響の有無(問 9)

新型コロナウイルス感染症によるモニタリングへの影響の有無は、「あった」(87.9%)が高い。

新型コロナウイルス感染症によるモニタリングへの影響の有無(全体)

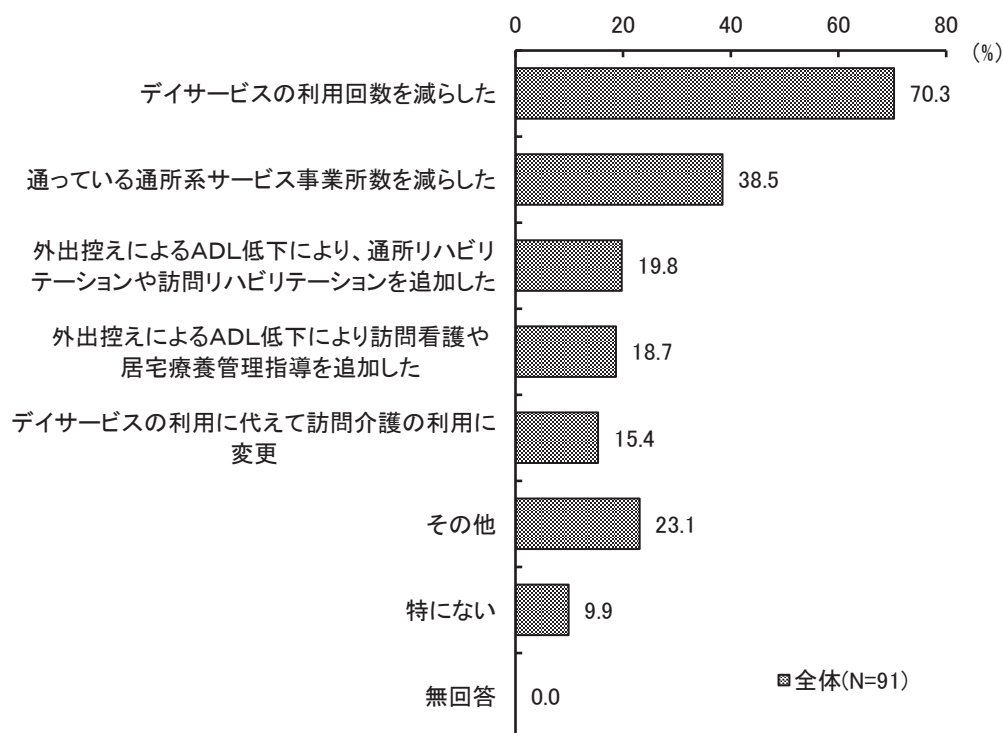


⑥ 新型コロナウイルス感染症による利用者のサービス利用の変化(問 10)

新型コロナウイルス感染症による利用者のサービス利用の変化は、「デイサービスの利用回数を減らした」(70.3%)、「通っている通所系サービス事業所数を減らした」(38.5%)が高く、通所系サービスへの影響が大きくなっている。

その他の内容として、以下のような回答があった。

新型コロナウイルス感染症による利用者のサービス利用の変化(全体:複数回答)



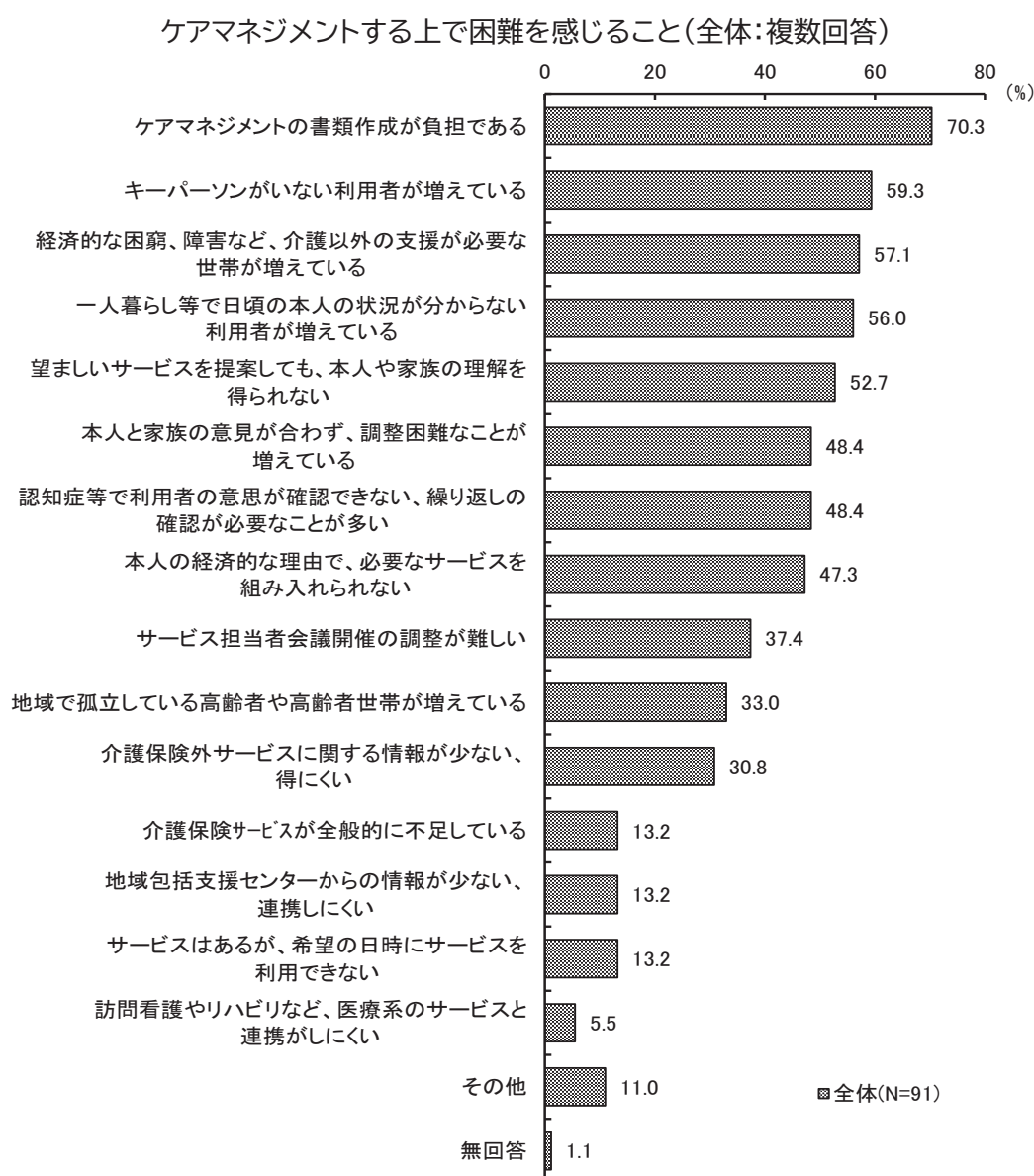
<その他>

- ショートステイの利用を制限したりされたりした。
- 濃厚接触者に該当するとサービスが利用できないことが多く、家族の負担が大きくなった。
- 通所リハビリが1ヶ月近く休みになり、デイサービスを追加した。
- 感染予防でサービスすべてを中止した利用者が歩行困難になった。
- 通所・訪問系サービスの利用を控えたためADLが低下した。
- 外出控えによりADLの低下がみられた。
- 家の中まで入ることができなくなり、ドア前での対応が増えた。
- デイサービスを休止しADLが低下し、認知症が進んで入院となった。 など

(3) ケアマネジメントについて

① ケアマネジメントする上で困難を感じること(問 11)

ケアマネジメントする上で困難を感じることは、「ケアマネジメントの書類作成が負担である」(70.3%)が最も高いが、「キーパーソンがいない利用者が増えている」(59.3%)、「経済的な困窮、障害など、介護以外の支援が必要な世帯が増えている」(57.1%)、「一人暮らし等で日頃の本人の状況が分からない利用者が増えている」(56.0%)等、高齢者を取り巻く状況の変化を指摘する割合が高くなっている。



<その他>

○家族が知的障害や理解力が低いなど、家族間での対応に困ることが増えた。

○家族に精神的な病気があったり、コミュニケーションが難しい人が増えた。

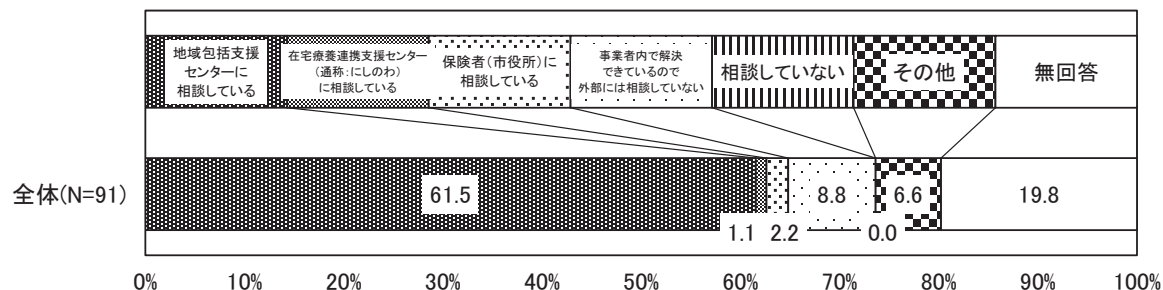
○介護保険以外の相談が増えた。 など

第2章 調査結果

② 困難ケースへの対応方法(問 12)

困難ケースへの対応方法は、「地域包括支援センターに相談している」(61.5%)が最も高い。

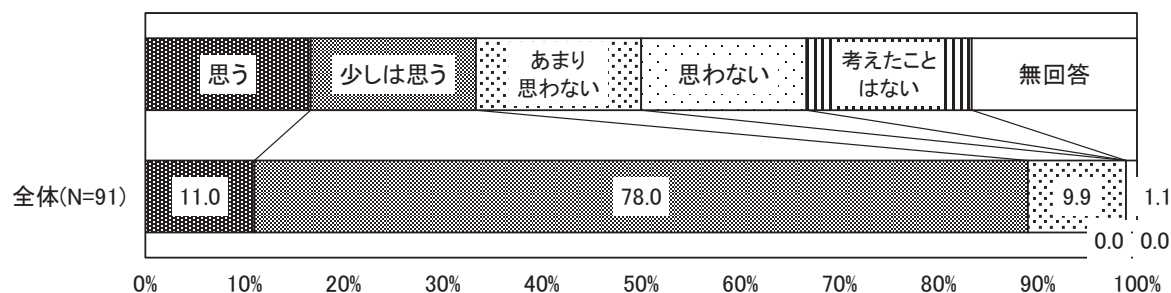
困難ケースへの対応方法(全体)



③ 自立支援に向けたケアプランの作成が十分にできているか(問 13)

自立支援に向けたケアプランの作成が十分にできているかは、「少しは思う」(78.0%)が8割弱となっている。

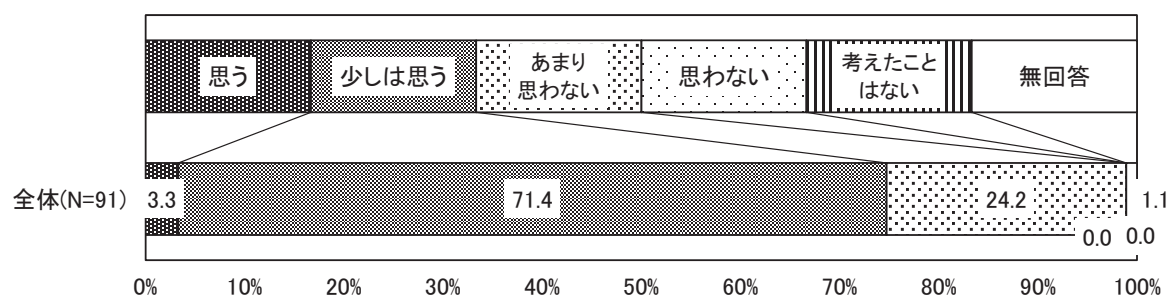
自立支援に向けたケアプランの作成が十分にできているか(全体)



④ 認知症の人のケアプランの作成が十分にできているか(問 14)

認知症の人のケアプランの作成が十分にできているかも、「少しは思う」(71.4%)が7割強となっている。

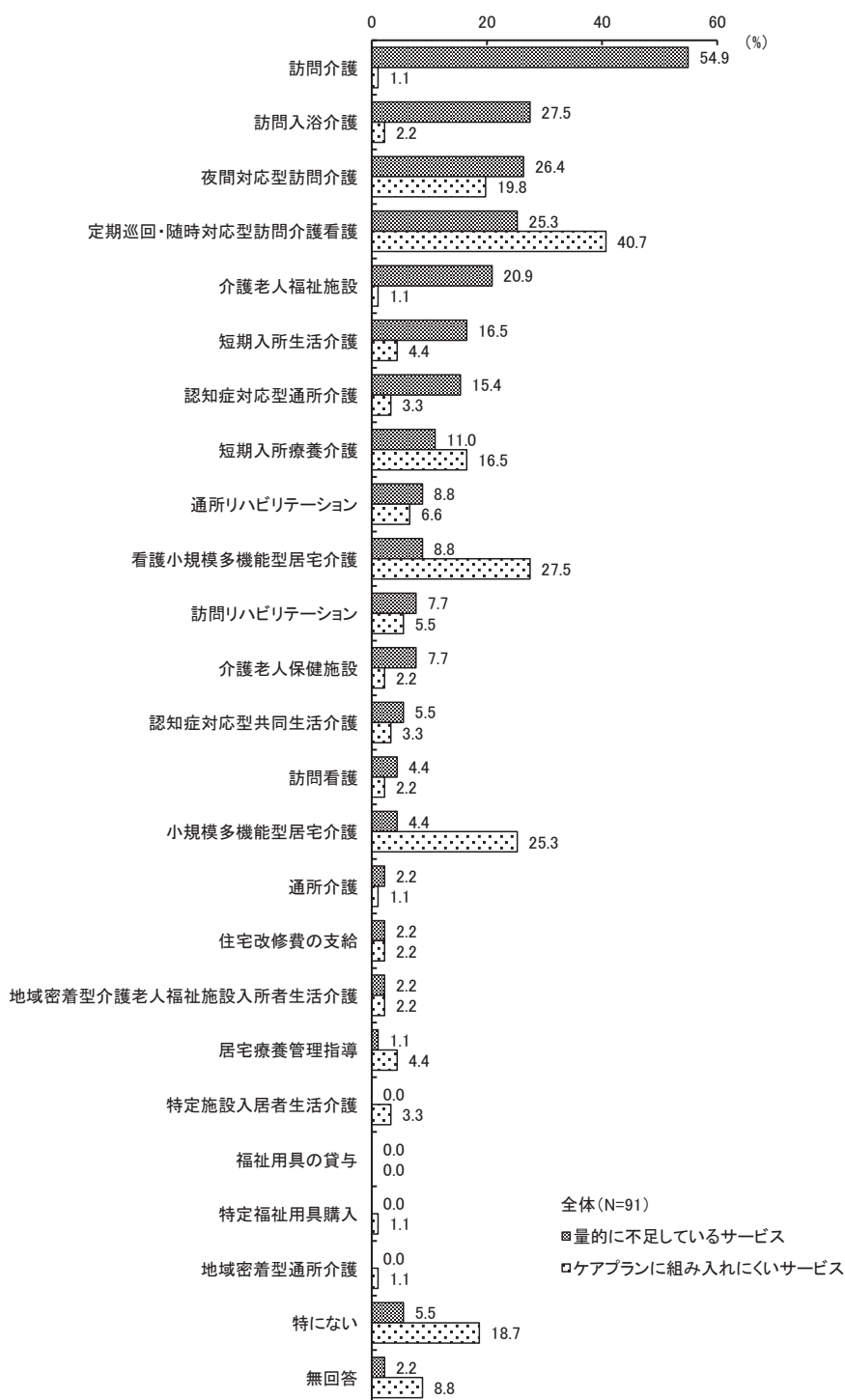
認知症の人のケアプランの作成が十分にできているか(全体)



⑤ 量的に不足しているサービス・組み入れにくいサービス(問 15(1)、(2))

量的に不足しているサービスは、「訪問介護」(54.9%)が最も高く、「訪問入浴介護」(27.5%)、「夜間対応型訪問介護」(26.4%)、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(25.3%)の順で、訪問系サービスが上位となっている。ケアプランに組み入れにくいサービスは、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(40.7%)が最も高く、「看護小規模多機能型居宅介護」(27.5%)、「小規模多機能型居宅介護」(25.3%)の順で続いている。

量的に不足しているサービス・組み入れにくいサービス(全体:複数回答(3つまで))



⑥ 西東京市のケアマネジメントの特徴(問 16)

西東京市のケアマネジメント、地域マネジメントの特徴について自由記述形式でたずねたところ、全体で 26 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

◆自立支援・重度化防止を推進している

- ・ 本人の自立を促している
- ・ リ・アセスメントを実施している

◆フレイル予防、介護予防が充実している

- ・ フレイル予防に力を入れている
- ・ フレイル予防等市民の参加が積極的である
- ・ フレイル予防は盛んだと思う。サロン(場の提供)も多い
- ・ フレイル予防でつながり応援カードはよい案だと思う
- ・ フレイル予防等地域住民の方の力が発揮されていて市民力が高い
- ・ つながるネットワークという点では課題があると思われる
- ・ 見守りネットワークが充実している(移動の手段としてけやき号の存在がある)
- ・ 民生委員との連携を取った「いきいき百歳体操」
- ・ フレイル予防は充実していて、利用者にもどこで何をしているかの情報が入っている

◆インフォーマルなネットワークが充実している

- ・ 認知症カフェや家族会が地域にあり交流の場となっていることと思います。社会資源を活用することで在宅生活が実現できています
- ・ 介護保険サービス以外の見守りネットワーク(3件)
- ・ オレンジカフェやサロン等インフォーマルサービスの活用
- ・ 認知症施策に力を入れている(オレンジカフェが増えている)

◆行政との連携や、専門職同士の連携と思いが強い

- ・ 利用者数に対してサービス事業者数が少ないように感じる
- ・ ケアマネジャー同士のつながりや、市と連携がしやすい(3件)
- ・ ケアマネジャー同士の連携が強い。在宅 Dr による在宅医療への思いが熱い
- ・ コンビニエンスストアの店員さんが意外と高齢福祉について理解がある
- ・ 医療機関など多職種連携しやすい環境がある

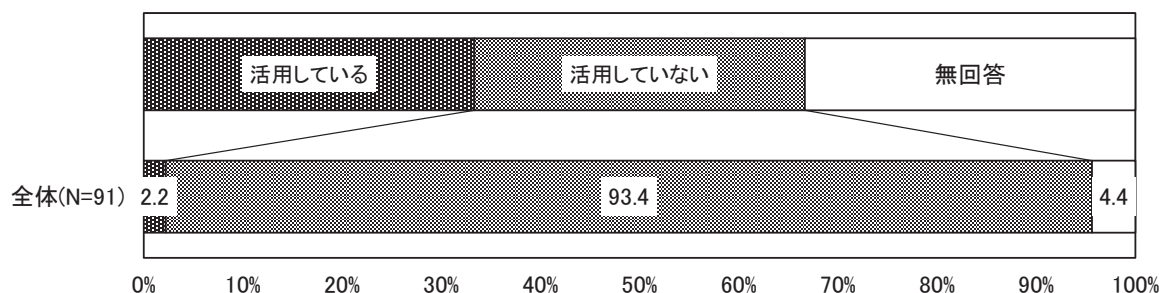
◆地域包括支援センター等の伴走支援がある

- ・ 訪問の際に、地域包括支援センターと一緒に動いて下さる
- ・ 困難事例のとき、地域包括支援センターと一緒に動いてくれ、生活福祉課や障害福祉課も協力してくれる
- ・ 地域包括支援センターに相談できて、来てくれたり、利用者の同行もありうる。生活福祉課が相談に対応してくれる

⑦ LIFE(科学的介護情報システム)活用の有無(問 17)

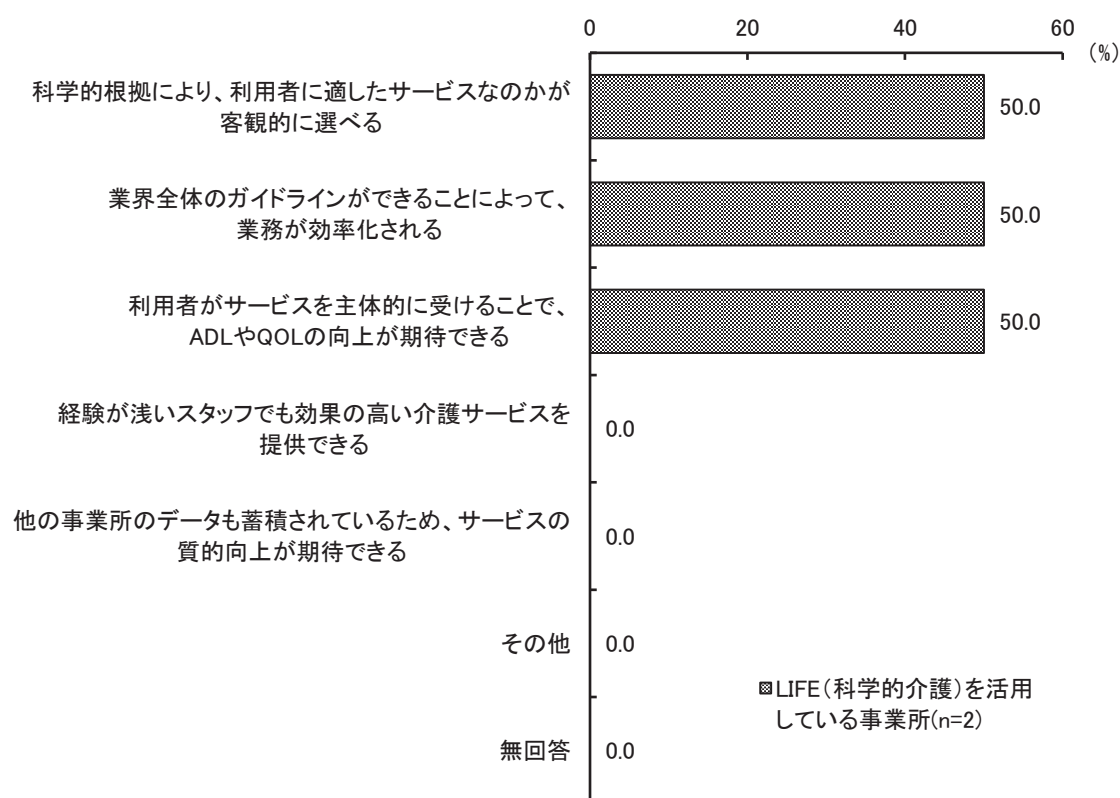
LIFE(科学的介護情報システム)活用の有無は、「活用していない」が 93.4%であり、「活用している」が 2.2%となっている。

LIFE(科学的介護情報システム)活用の有無(全体)



⑧ LIFE(科学的介護情報システム)を活用することで役に立ったこと(問 17-1)

LIFE(科学的介護情報システム)を活用している事業所に、活用することで役に立ったことをたずねたところ、活用している2事業所のうち1事業所(50.0%)が「科学的根拠により、利用者に適したサービスなのかが客観的に選べる」、「業界全体のガイドラインができることによって、業務が効率化される」、「利用者がサービスを主体的に受けることで、ADLやQOLの向上が期待できる」と回答している。

LIFE(科学的介護情報システム)を活用することで役に立ったこと
(LIFEを活用している事業所:複数回答)

⑨ AIの活用に対する意見(問 18)

AIの活用に対する意見について自由記述形式でたずねたところ、全体で 20 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

◆利用したい、利用している

- ・ 積極的に活用していきたい。事務的なことは AI、人との対応は人で役割分担する
- ・ セルフプランで AI 自動入力(一部)等の導入
- ・ 書類の電子保存や、契約書の電子化等
- ・ 利用している

◆今後期待する

- ・ よいケアマネジメント、利用者支援につながるとよい
- ・ もっと事務の効率化を図りたい(相変わらず紙ベースでの処理業務が減らない)
- ・ ケアマネの作成する帳票を紙ベースで保管するのではなく、共通データベース化することで、紙やインク、保管場所 etc 無駄を省けると思う
- ・ 請求業務(実績・計画の相互やりとり)の実現が待ち遠しい
- ・ できれば不要なケアプラン代削減可能(福祉用具のみの方など)
- ・ ケアマネに注意喚起するシステムの導入
- ・ 不必要な書類、手続きを省き、お役所の業務を省力化し、人件費の削減をするべきと思う
- ・ 現場の手続きも無駄をなくしてほしい

◆AIの活用の課題

- ・ AI の活用により効率よくなることもあると思うが、人の気持ちを汲み取りながら個別性のあるケアプランを作成することには向いていないような気がする
- ・ いかにして利用者と心を通じた関係に近づけるかが課題
- ・ AI 等 DX 化を推進すべき、未だに手書きや紙の書類が多すぎる
- ・ AI でケアプランが作れたら楽ですね。ケアマネの仕事がケアプラン作成だけであるなら。利用者個々の生活に、ケアマネがどれほどかかわっているのか知ってほしい
- ・ AI の活用についていられない自分がいます
- ・ 今後ケアマネと利用者の方のバランスが難しくなってくると思います。需要と供給がアンバランスになれば AI の活用もしていかないといけないと思います
- ・ AI を活用する場面によってメリットデメリットがあると思います。ただ今時点では実際に業務の効率化に繋がるのか想像しにくいです
- ・ 得られたデータを適切に利用できるかが今後の課題

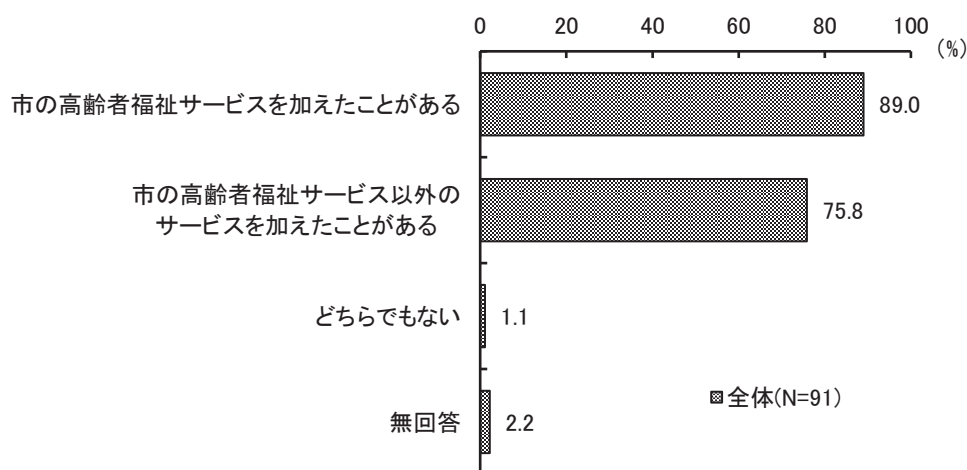
(4)介護保険外サービス

① 介護保険外サービスをケアプランに加えたことがあるか(問 19)

介護保険外サービスをケアプランに加えたことがあるかについては、「市の高齢者福祉サービスを加えたことがある」(89.0%)、「市の高齢者福祉サービス以外のサービスを加えたことがある」(75.8%)であり、ほとんどが加えたことがあるとしている。

他のサービスの提供有無別にみると、【居宅介護支援のみ】では「市の高齢者福祉サービスを加えたことがある」(89.3%)、「市の高齢者福祉サービス以外のサービスを加えたことがある」(85.7%)ともに 85%強となっているが、【サービス事業併設】では、「市の高齢者福祉サービスを加えたことがある」(91.8%)に比べ、「市の高齢者福祉サービス以外のサービスを加えたことがある」(73.8%)は7割強で 18 ポイント低くなっている。

介護保険外サービスをケアプランに加えたことがあるか(全体:複数回答)



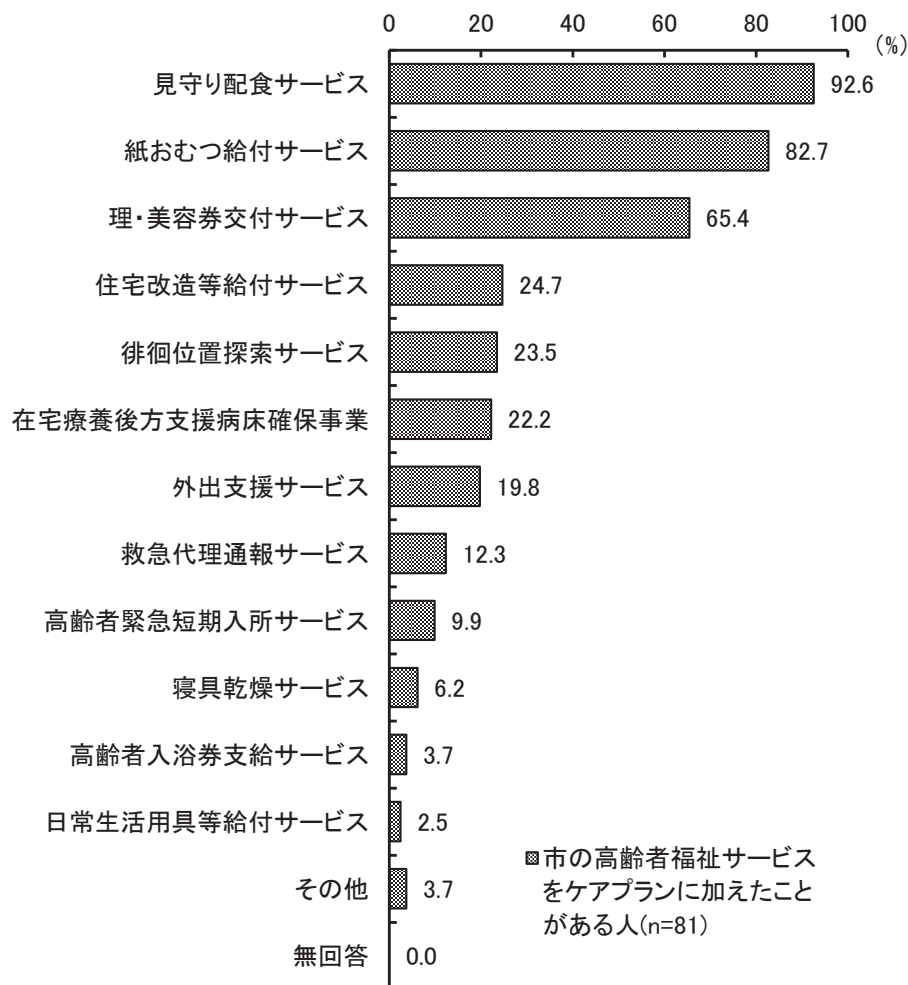
介護保険外サービスをケアプランに加えたことがあるか
(全体、他のサービスの提供有無別:複数回答)

		(人、%)				
回答者数		あビ市 るスの を高 加齢 え者 た福 こ社 とサ が	をビ市 加スの え以高 た外 この とサ が あビ るス	ど ち ら で も な い	無 回 答	
全体	91	89.0	75.8	1.1	2.2	
他のサービスの提供有無別	居宅介護支援のみ	28	89.3	85.7	0.0	0.0
	サービス事業併設	61	91.8	73.8	0.0	1.6

② ケアプランに加えた市の高齢者福祉サービス(問 19-1)

市の高齢者福祉サービスをケアプランに加えたことがある人に、高齢者福祉サービスの種類をたずねたところ、「見守り配食サービス」(92.6%)が最も高く、「紙おむつ給付サービス」(82.7%)、「理・美容券交付サービス」(65.4%)の順となっている。

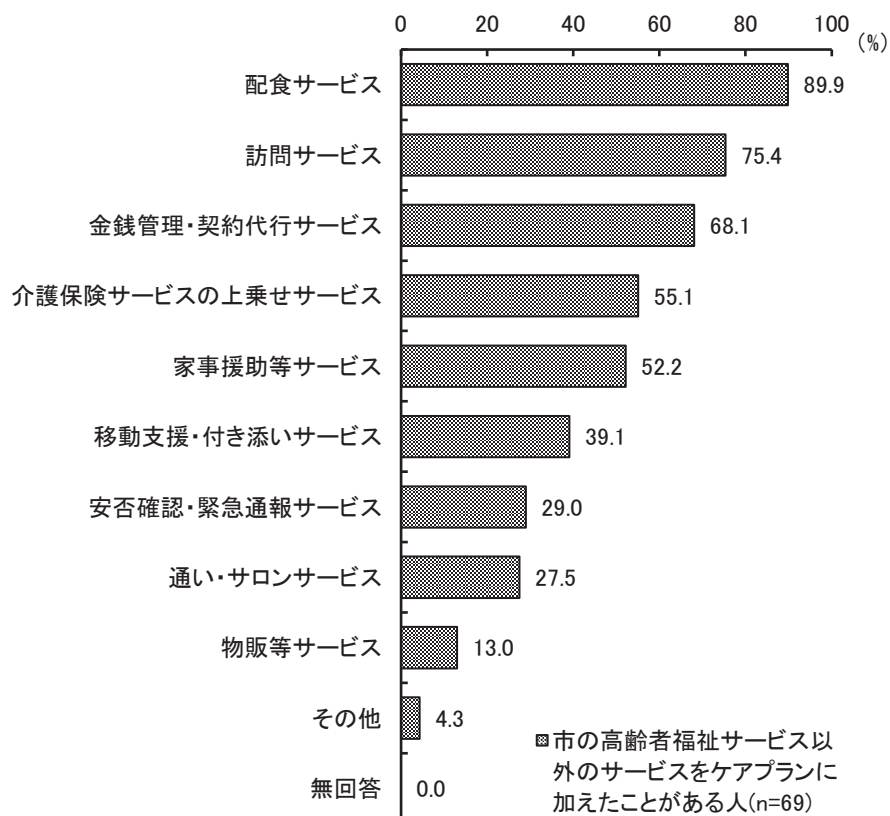
ケアプランに加えた市の高齢者福祉サービス
(市の高齢者福祉サービスをケアプランに加えたことがある人:複数回答)



③ ケアプランに加えた市の高齢者福祉サービス以外のサービス(問 19-2)

市の高齢者福祉サービス以外のサービスをケアプランに加えたことがある人に、サービスの種類をたずねたところ、「配食サービス」(89.9%)が最も高く、「訪問サービス」(75.4%)、「金銭管理・契約代行サービス」(68.1%)の順で続いている。

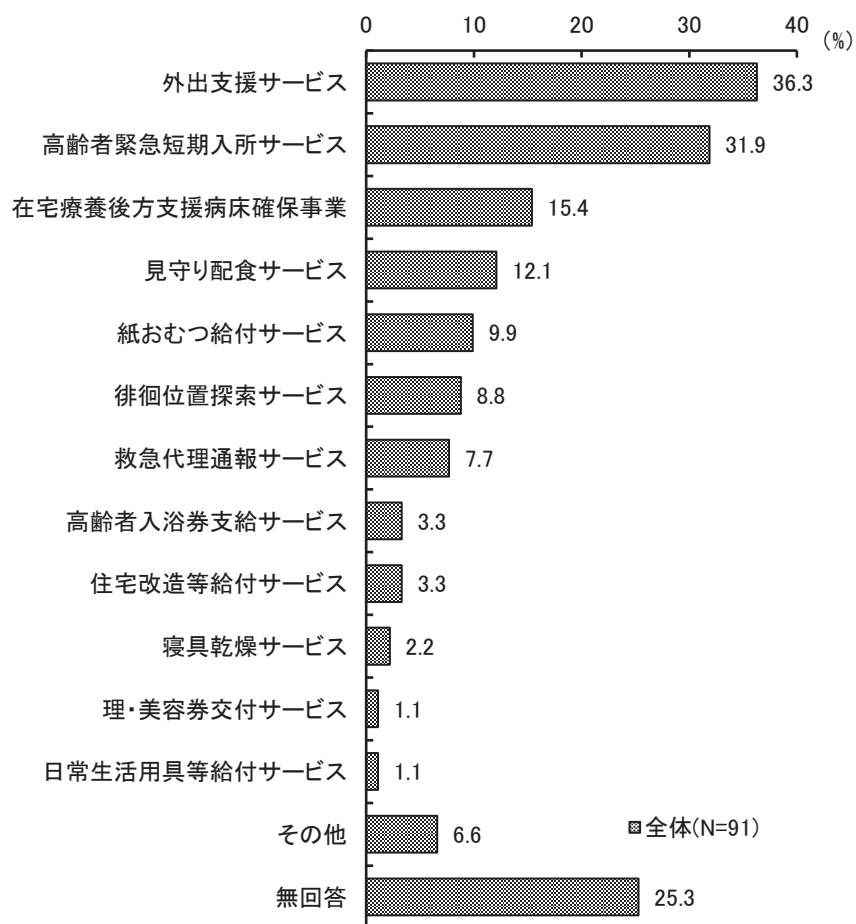
ケアプランに加えた市の高齢者福祉サービス以外のサービス
(市の高齢者福祉サービス以外のサービスをケアプランに加えたことがある人:複数回答)



④ 量的に不足している市の高齢者福祉サービス(問 20(1))

量的に不足している市の高齢者福祉サービスは、「外出支援サービス」(36.3%)と「高齢者緊急短期入所サービス」(31.9%)が3割以上で、「在宅療養後方支援病床確保事業」(15.4%)がそれに続いている。

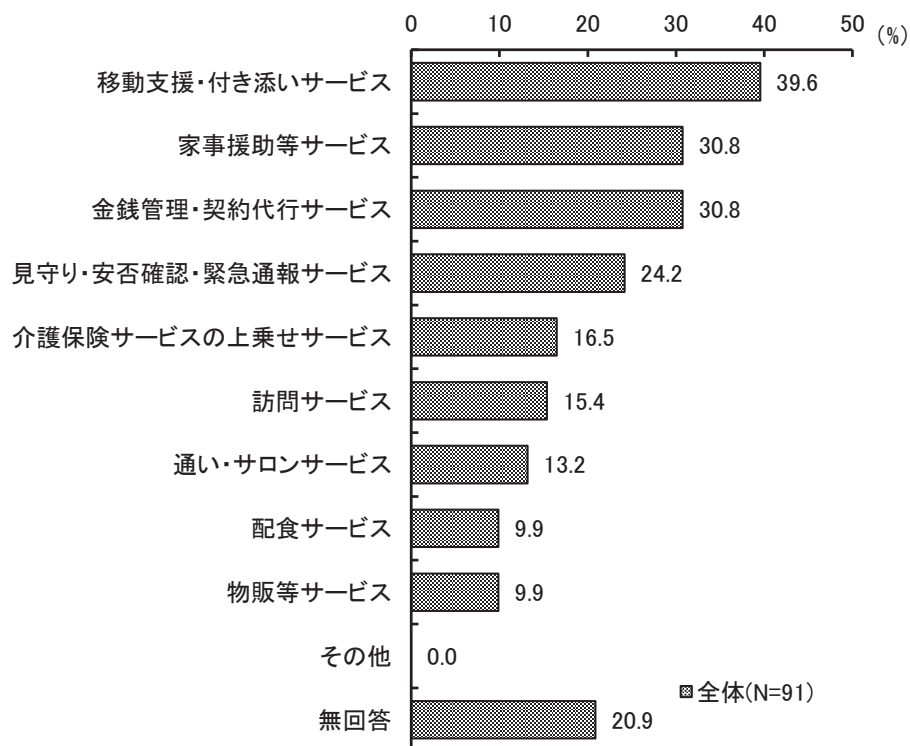
量的に不足している市の高齢者福祉サービス(全体:複数回答)



⑤ 量的に不足している市の高齢者福祉サービス以外のサービス(問 20(2))

量的に不足している市の高齢者福祉サービス以外のサービスは、「移動支援・付き添いサービス」(39.6%)が最も高く、「家事援助等サービス」、「金銭管理・契約代行サービス」(30.8%)が同じ割合で続いている。

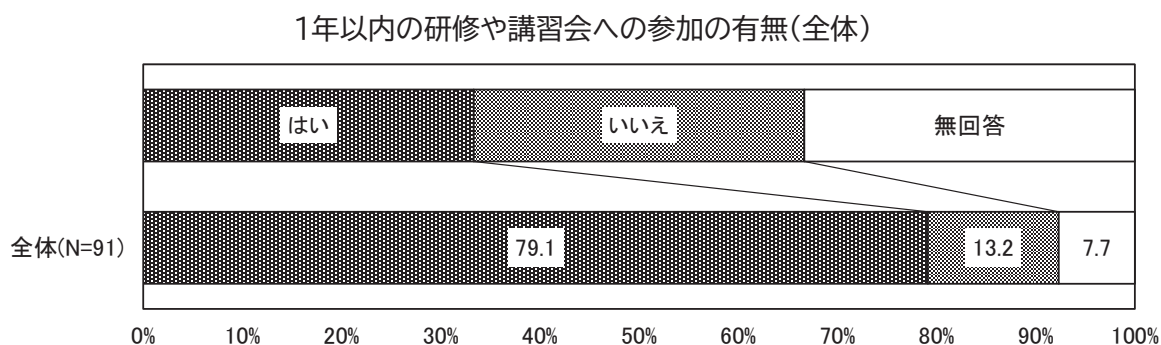
量的に不足している市の高齢者福祉サービス以外のサービス(全体:複数回答)



(5)スキルアップ

① 1年以内の研修や講習会への参加の有無(問 21)

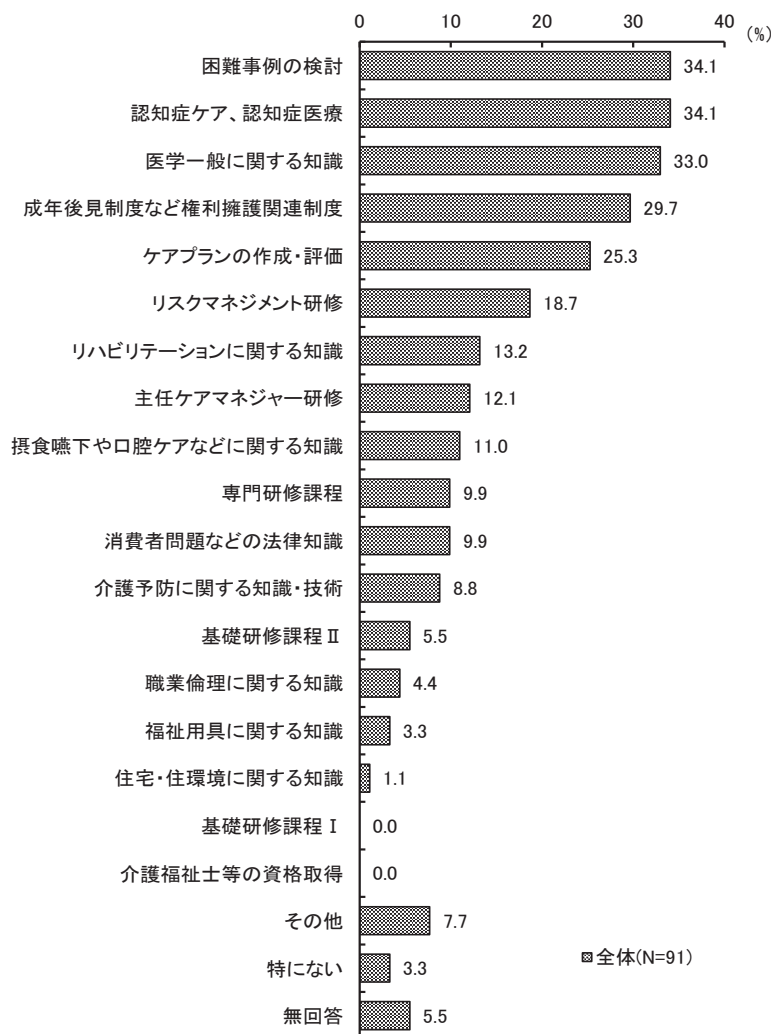
1年以内の研修や講習会への参加の有無は、「はい」(79.1%)が最も高い。



② 今後参加してみたい研修や講習会(問 22)

今後参加してみたい研修や講習会は、「困難事例の検討」、「認知症ケア、認知症医療」(34.1%)が最も高く、「医学一般に関する知識」(33.0%)などが3割台となっている。

今後参加してみたい研修や講習会(全体:複数回答(3 つまで))

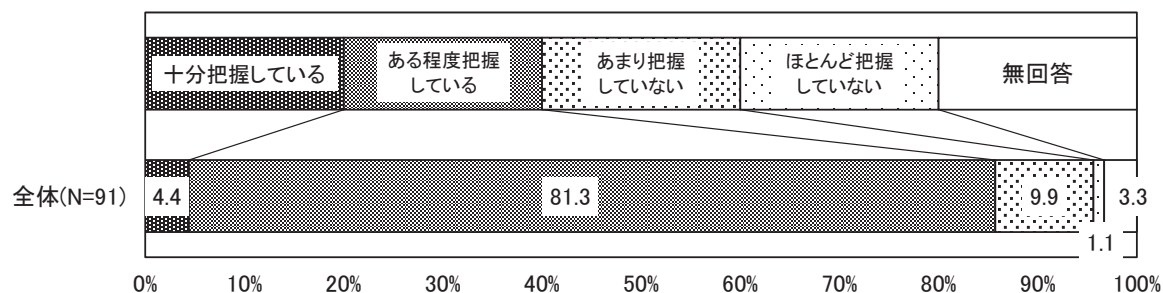


③ 医学的な情報の把握(問 23)

医学的な情報の把握については、「ある程度把握している」(81.3%)が最も高くなっている。「あまり把握していない」(9.9%)と「ほとんど把握していない」(1.1%)を合計した把握していない割合は 11.0%である。

経験年数別にみると、経験年数によってあまり大きな差はみられない。

医学的な情報の把握(全体)



医学的な情報の把握(全体、経験年数別)

(人、%)

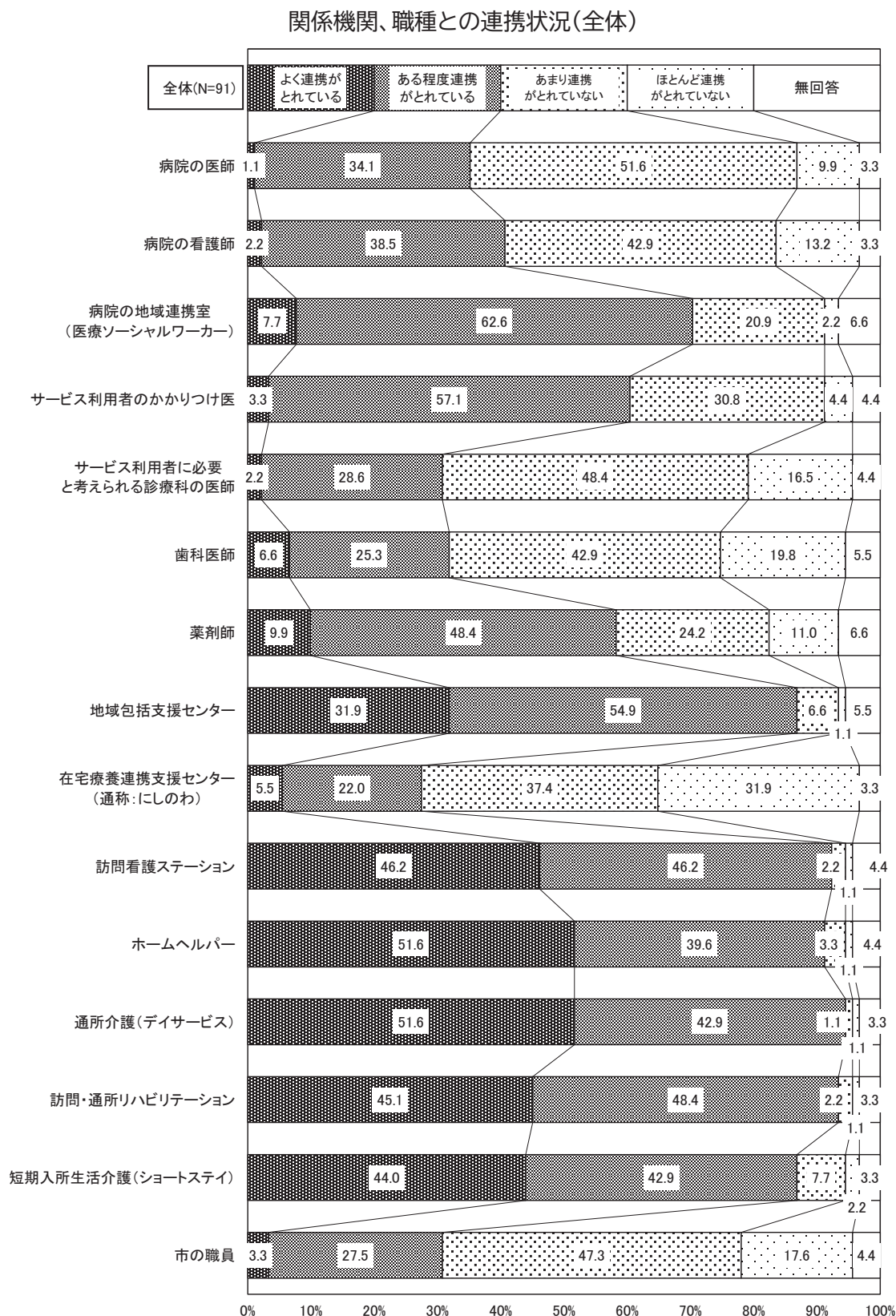
		回答者数	十分把握している	ある程度把握している	あまり把握していない	ほとんど把握していない	無回答
全体		91	4.4	81.3	9.9	1.1	3.3
経験年数別	5年未満	26	3.8	80.8	7.7	3.8	3.8
	5～10年未満	29	6.9	79.3	13.8	0.0	0.0
	10年以上	36	2.8	83.3	8.3	0.0	5.6

第2章 調査結果

④ 関係機関、職種との連携状況(問 24)

関係機関、職種との連携状況は、「よく連携が取れている」と回答したのは『ホームヘルパー』、『通所介護(デイサービス)』(51.6%)で最も高くなっている。

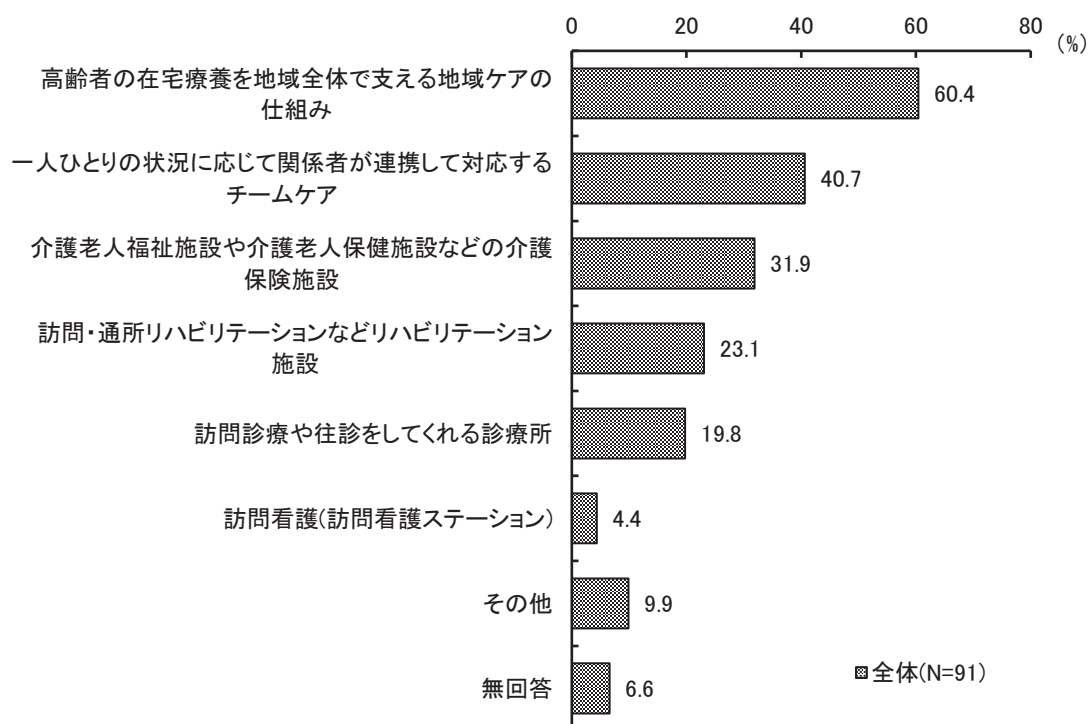
特に『通所介護(デイサービス)』は、連携が取れている割合(「よく連携がとれている」と「ある程度連携がとれている」の合計)が94.5%と最も高かった。



⑤ 在宅療養で不足している機能(問 25)

在宅療養で不足している機能は、「高齢者の在宅療養を地域全体で支える地域ケアの仕組み」(60.4%)が最も高く、「一人ひとりの状況に応じて関係者が連携して対応するチームケア」(40.7%)、「介護老人福祉施設や介護老人保健施設などの介護保険施設」(31.9%)の順で続いている。

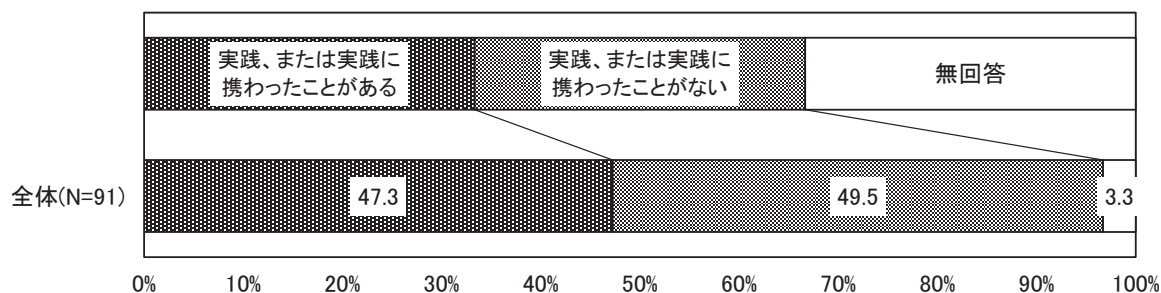
在宅療養で不足している機能(全体:複数回答)



⑥ ACP(アドバンス・ケア・プランニング)*の実践(問 26)

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の実践は、「実践、または実践に携わったことがない」(49.5%)が、「実践、または実践に携わったことがある」(47.3%)よりもわずかに高い。

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の実践(全体)



*ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは、人生の最終段階における医療や介護について、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合うこと。「人生会議」ともいう。

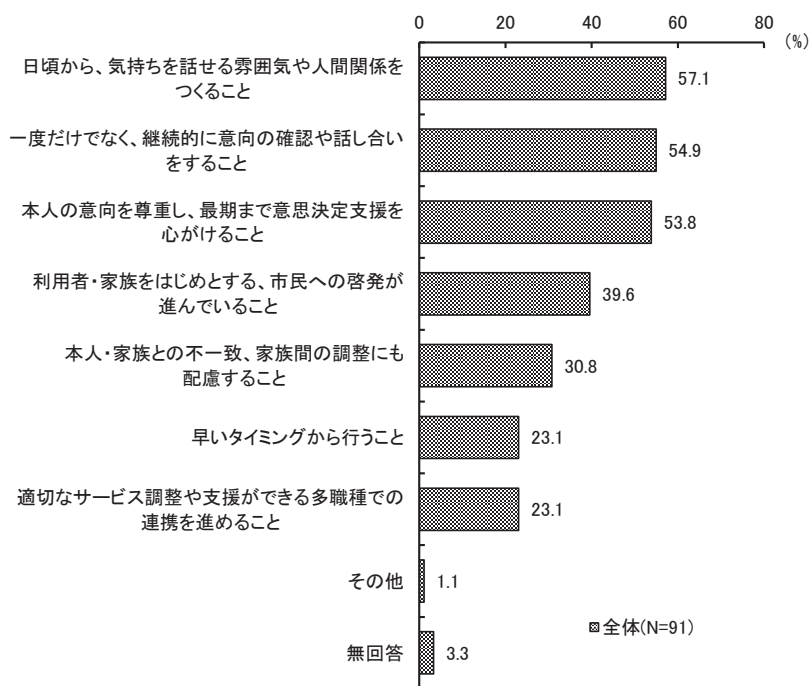
⑦ ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を進める上で必要なこと(問 27)

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を進める上で必要なことは、「日頃から、気持ちを話せる雰囲気や人間関係をつくること」(57.1%)が最も高く、「一度だけでなく、継続的に意向の確認や話し合いをすること」(54.9%)、「本人の意向を尊重し、最期まで意思決定支援を心がけること」(53.8%)が5割を超えている。

経験年数別にみると、「利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること」や「本人・家族との不一致、家族間の調整にも配慮すること」は、経験年数が長いほど割合が高くなる傾向がみられる。

他のサービスの提供有無別にみると、「日頃から、気持ちを話せる雰囲気や人間関係をつくること」は【居宅介護支援のみ】で【サービス事業併設】に比べ 20 ポイント以上高く、逆に「本人の意向を尊重し、最後まで意思決定支援を心がけること」は、【居宅介護支援のみ】に比べ【サービス事業併設】で 20 ポイント以上高くなっている。

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を進める上で必要なこと(全体:複数回答(3 つまで))



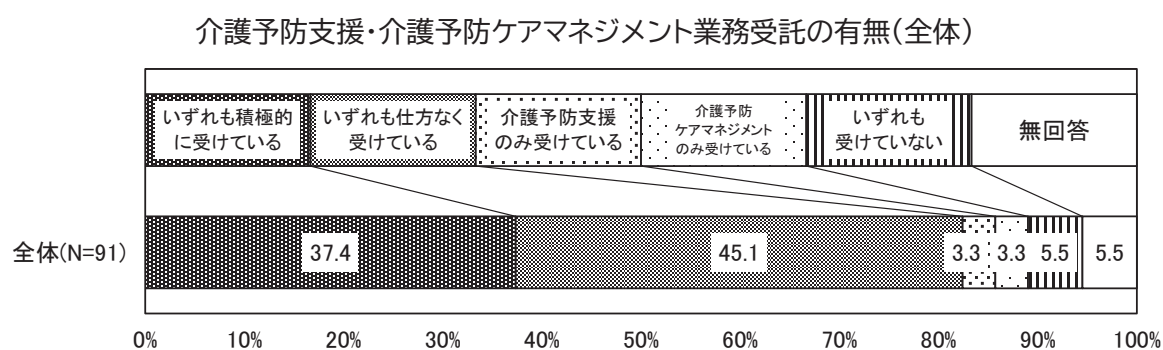
ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を進める上で必要なこと
(全体、経験年数別、他のサービスの提供有無別:複数回答(3 つまで))

		回答者数	をせ日 つる頃 から 雰囲気 や気持 ち 人間 関係 を話 すこと	合的 に意 向を 確認 し続 くこと	一 度だ けで なく 、決 定支 援を 進め ること	を最 本人 の意 向を 尊重 し、 支援 を 進め ること	がと 利用 者・ 家族 の間 に啓 発を 進め ること	配 慮、 本人 ・家 族と の調 整に も	う早 い タイ ミン グ から 行 うこと	の支 援が な さ る こと を 進め る こと	適 切な サー ビス 調 整 や	そ の 他	無 回 答
全体		91	57.1	54.9	53.8	39.6	30.8	23.1	23.1	1.1	3.3		
経験年数別	5年未満	26	65.4	42.3	57.7	34.6	23.1	19.2	19.2	3.8	3.8		
	5～10年未満	29	51.7	65.5	58.6	37.9	31.0	34.5	10.3	0.0	0.0		
	10年以上	36	55.6	55.6	47.2	44.4	36.1	16.7	36.1	0.0	5.6		
他のサービスの提供有無別	居宅介護支援のみ	28	71.4	50.0	39.3	50.0	25.0	25.0	17.9	0.0	3.6		
	サービス事業併設	61	50.8	59.0	60.7	36.1	34.4	23.0	26.2	1.6	1.6		

(6)地域包括支援センター

① 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務受託の有無(問 28)

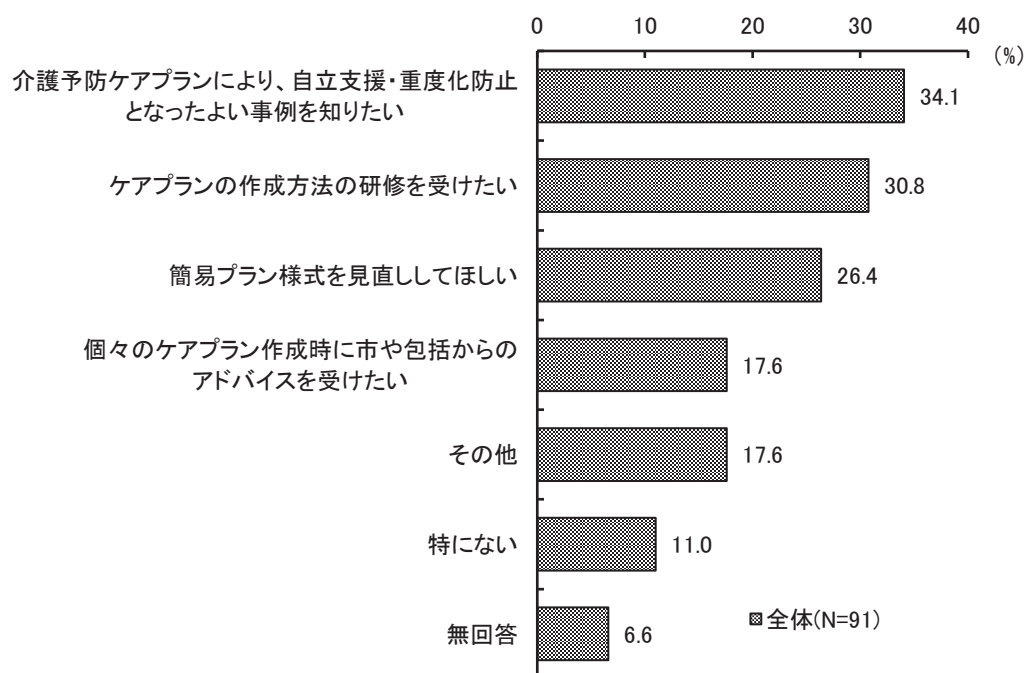
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント業務受託の有無は、「いずれも仕方なく受けている」(45.1%)が最も高く、次に「いずれも積極的に受けている」(37.4%)が続いており、合計すると、いずれも受けている割合は82.5%である。



② 介護予防支援・介護予防ケアマネジメントに関して望むこと(問 29)

介護予防支援・介護予防ケアマネジメントに関して望むことは、「介護予防ケアプランにより、自立支援・重度化防止となったよい事例を知りたい」(34.1%)が最も高く、「ケアプランの作成方法の研修を受けたい」(30.8%)、「簡易プラン様式を見直ししてほしい」(26.4%)の順で続いている。

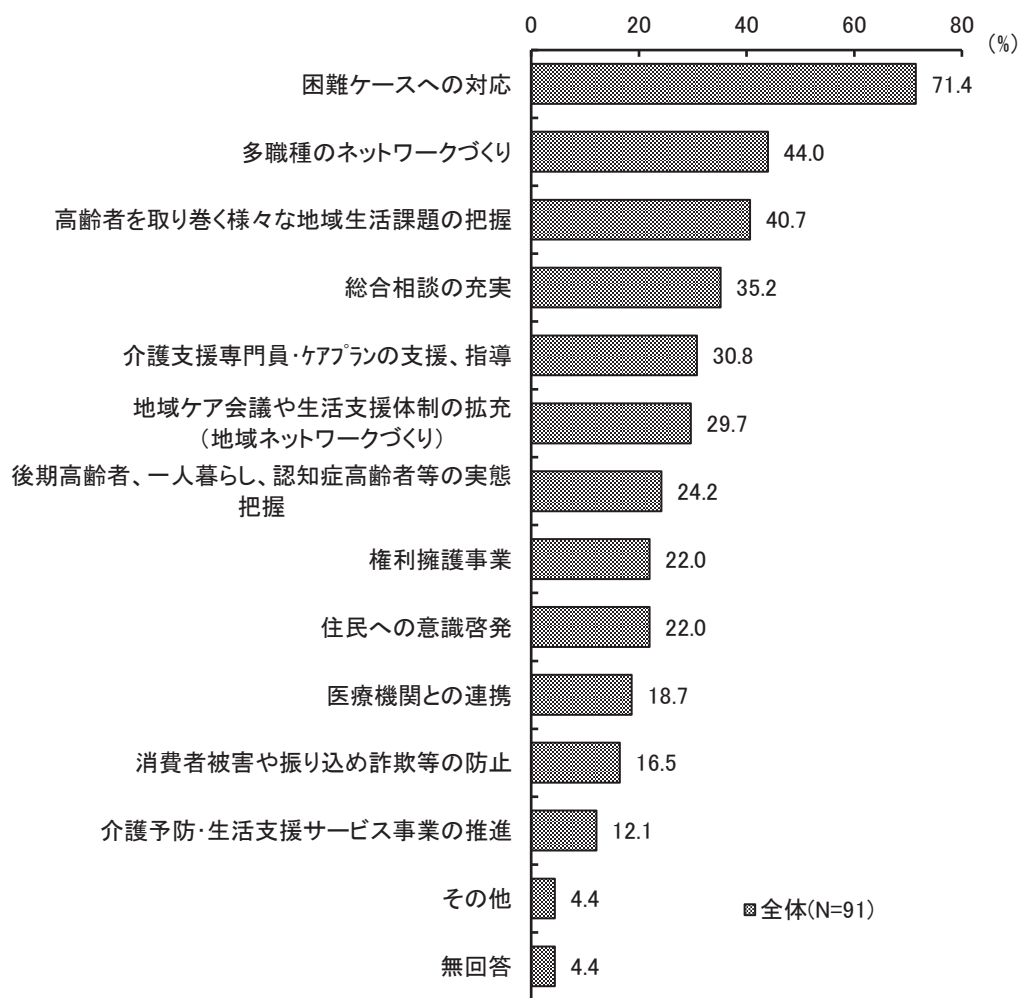
介護予防支援・介護予防ケアマネジメントに関して望むこと(全体:複数回答)



③ これからの地域包括支援センターに期待すること(問 30)

これからの地域包括支援センターに期待することは、「困難ケースへの対応」(71.4%)が最も高く、「多職種のネットワークづくり」(44.0%)、「高齢者を取り巻く様々な地域生活課題の把握」(40.7%)の順で続いている。

これからの地域包括支援センターに期待すること(全体:複数回答)



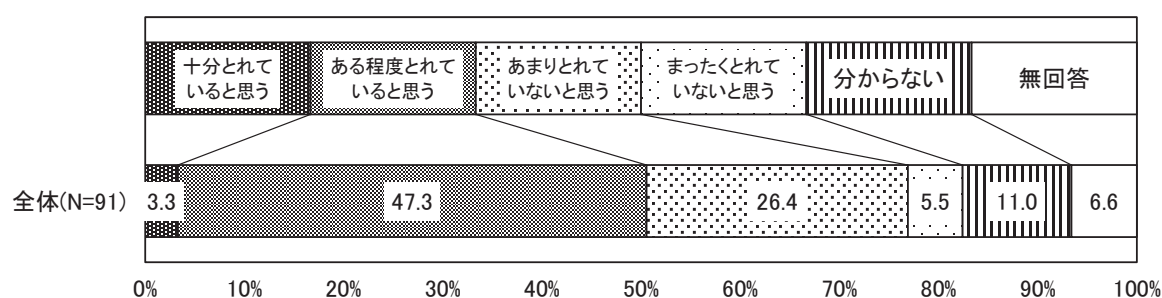
(7)西東京市への要望

① 保険者(西東京市)との連携状況(問 31)

保険者(西東京市)との連携状況は、「ある程度とれていると思う」(47.3%)が最も高く、「あまりとれていないと思う」(26.4%)、「まったくとれていないと思う」(5.5%)の順で続いている。

経験年数別にみると、経験年数が短いほど「あまりとれていないと思う」の割合が高くなる傾向がみられる。

保険者(西東京市)との連携状況(全体)



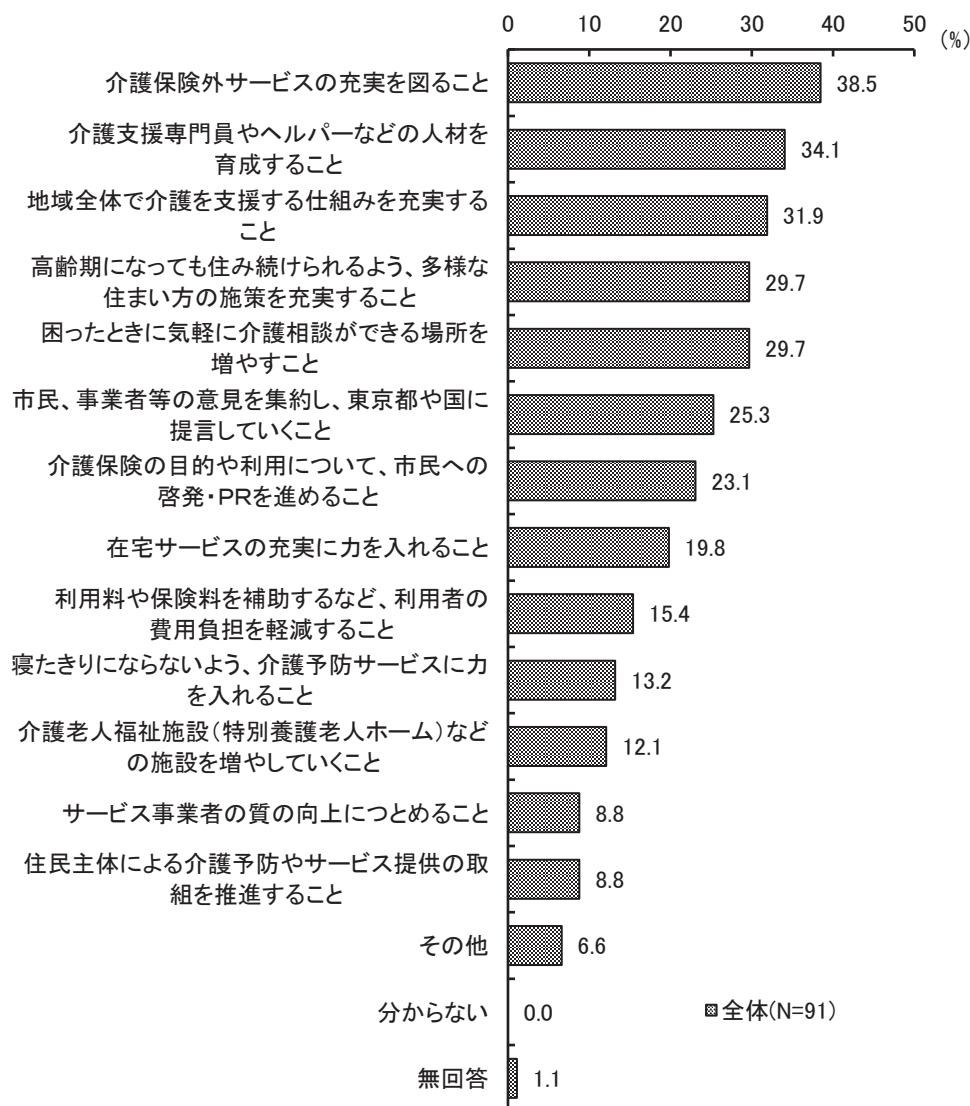
保険者(西東京市)との連携状況(全体、経験年数別)

		(人、%)						
		回答者数	十分とれていると思う	ある程度とれていると思う	あまりとれていると思う	まったくとれていないと思う	分からない	無回答
全体		91	3.3	47.3	26.4	5.5	11.0	6.6
経験年数別	5年未満	26	3.8	26.9	34.6	7.7	19.2	7.7
	5～10年未満	29	3.4	55.2	27.6	3.4	3.4	6.9
	10年以上	36	2.8	55.6	19.4	5.6	11.1	5.6

② 介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきこと(問 32)

介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきことは、「介護保険外サービスの充実を図ること」(38.5%)が最も高く、「介護支援専門員やヘルパーなどの人材を育成すること」(34.1%)、「地域全体で介護を支援する仕組みを充実すること」(31.9%)が3割を超えている。

介護保険制度全体をよくするために市が力を入れるべきこと
(全体:複数回答(3つまで))



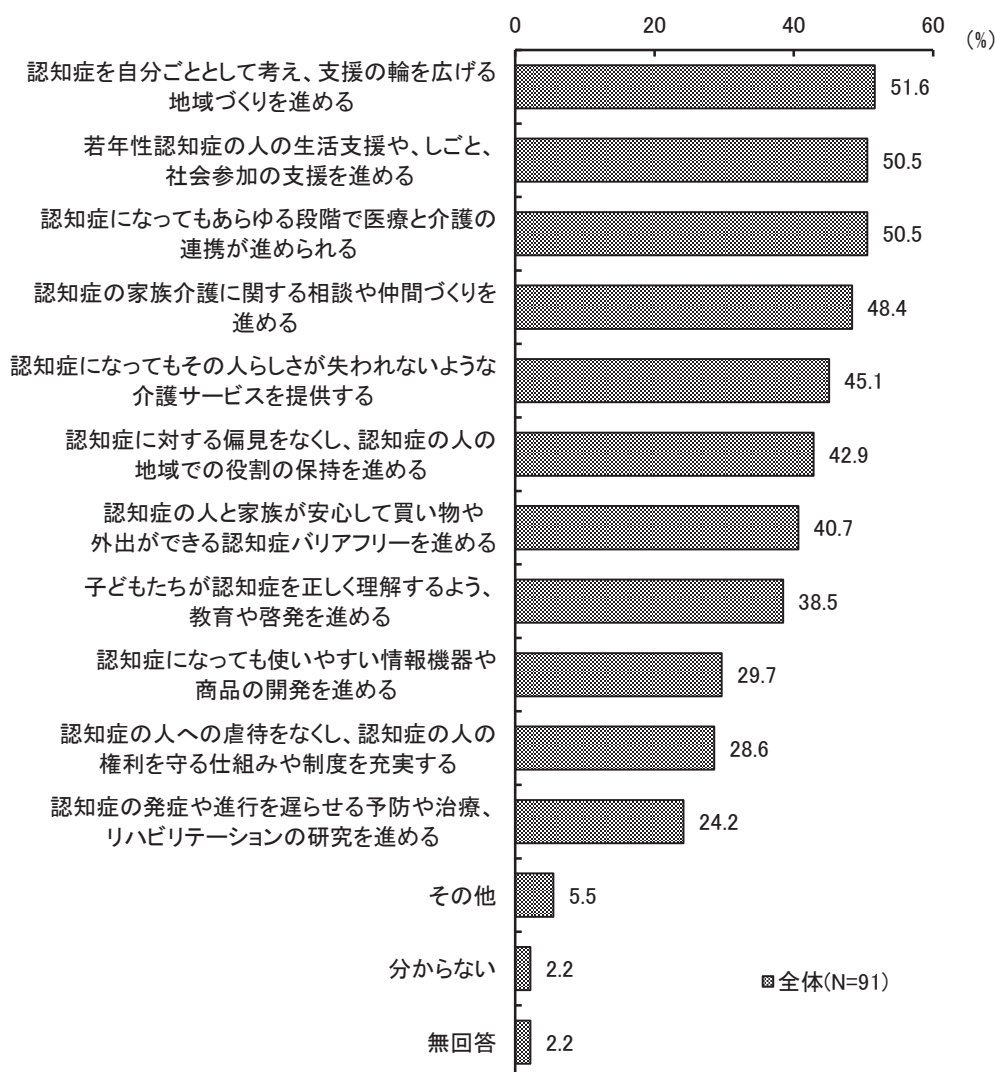
<その他>

- ・ 事業所が健全に運営できる報酬にすること(居宅介護支援のみ)
- ・ 地域包括支援センターの質の向上(居宅・施設サービス併設)
- ・ ケアマネの離職、高齢化が進んでいる。介護保険制度の持続にはケアマネは必要不可欠。若い世代の方々に担っていただくために業務の効率化、困ったときに気軽に相談できる環境、賃金の見直しは必須である。(居宅介護支援のみ)

③ 西東京市の認知症施策で充実すべきこと(問 33)

西東京市の認知症施策で充実すべきことは、「認知症を自分ごととして考え、支援の輪を広げる地域づくりを進める」(51.6%)が最も高く、「若年性認知症の人の生活支援や、しごと、社会参加の支援を進める」、「認知症になってもあらゆる段階で医療と介護の連携が進められる」(50.5%)が同じ割合で続いている。

西東京市の認知症施策で充実すべきこと(全体:複数回答)



<その他>

- ・ 認知症になった親を「恥ずかしい」と感じる家族がいる。正しい情報や知識を広める必要がある。(居宅サービス併設)
- ・ 医療機関も交えての市民への認知症の正しい理解を促す活動をしてほしい。(居宅サービス併設)
- ・ 共生型児童デイや共生型認知対応デイなどをつくって下さい。小さいころから認知症の人とふれあえることが大切です。(居宅介護支援のみ)
- ・ 家族が認知症を正しく理解出来ている事が大切だと思う。難しい問題です。(居宅サービス併設)

④ 西東京市の介護保険制度についての意見・要望(問 34)

西東京市の介護保険制度についての意見・要望について自由記述形式でたずねたところ、全体で 29 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

◆介護保険制度の運営について

- ・ 利用者や介護サービス提供者に寄り添って下さるのを感じる。一方的な制度の押し付けではなく、状況に耳を傾け理解しようとして下さっている姿勢に感謝する。利用者の思いを実現するための提案やケアプラン作成を行うことができているし、モチベーションを保って仕事(対策)ができる環境がある。(居宅介護支援のみ)
- ・ 介護保険は保険料や税金で賄われているので、不必要なサービスや過剰な支援を厳しく見ていく必要があると思う。(居宅サービス併設)
- ・ 情報開示等迅速なご対応を頂いており、困ったときには親身に相談に乗って頂いている。(居宅サービス併設)
- ・ 西東京市は他市に比べてケアマネや利用者に対しては親身になってくれていると思うので、ありがたい。(居宅サービス併設)
- ・ 認定結果の問い合わせや基本情報の開示など、丁寧に対応して頂いている。地域包括支援センターの職員の方には諸々相談させて頂きながら、利用者の生活を支援させて頂いています。(居宅サービス併設)
- ・ 介護保険認定調査時にケアマネとしてどの介護度があれば在宅生活継続できるか記載できたらよい。西東京市はここに力を入れているという PR ポイントが明確にできたらもっとよい。(施設サービス併設)

◆介護保険サービスについて

- ・ サービス事業所は数あるが、どこの事業所も余力がなく、サービス提供が困難になっている。危機感を持って取り組んで欲しい。(居宅介護支援のみ)

◆書類の手続きの簡素化、ICTの活用について

- ・ 書類手続きを簡素にしてほしい。(居宅介護支援のみ)
- ・ 申請や情報開示等は、ICT の活用を検討してほしい。(居宅サービス併設)
- ・ 書類など、紙ベースで提出・申請しているが、インターネットを利用し電子化して申請できるようにしてほしい。(居宅介護支援のみ)

◆介護人材について

- ・ ケアマネジャーの人員が不足していると感じます。(居宅介護支援のみ)
- ・ ケアマネ業務に関し帳票は紙ベースではなくデータ化を早く進めていただきたいと思えます。(居宅介護支援のみ)
- ・ ケアマネの数が少ない。ゆっくり仕事ができない。(居宅介護支援のみ)

◆ケアマネジメントについて

- ・ ケアマネジメントでよくある質問は Q&A を出してほしい。(居宅介護支援のみ)
- ・ 介護保険制度だけでは対応しきれない、見えてこない様々な利用者があり、介護保険制度に則った対応をしようとしても対応しきれないケースがあること等、精神的に大きな負担を抱えながら業務にあたっていることを分かってほしい。(施設サービス併設)
- ・ 精神疾患と思われる利用者、家族が増え、介護保険のケアマネだけで担いきれないケースが増えている。市として介護・障害等横のつながりを持って支援して欲しい。(居宅サービス(医療系)併設)

◆ケアマネジャー業務について

- ・ 西東京市のケアマネ業務はとてもやりやすかったです。親身に審査して下さっている結果かと思います。他の自治体に比べ、職員さんは親切で市民に対するサービスも良い方だと思います。ずっとこのままであって欲しいです。(居宅介護支援のみ)
- ・ 保険者主体での分科会から事業者団体独自ですすめる部会に発展することを期待します。(居宅サービス併設)
- ・ 利用者のことを中心に考えているが、自分の仕事の負担が大きく心が折れそうになります。ケアマネの数を減らなさいような取り組みをお願いします。(居宅介護支援のみ)
- ・ 行政やサービスの範囲外で対応する人がいない部分は結局ケアマネがボランティアすることになる。ケアマネの仕事は割が合わないと感じることが多い。ケアマネの不安を誰かきいてほしい。(居宅サービス併設)

◆地域の情報について

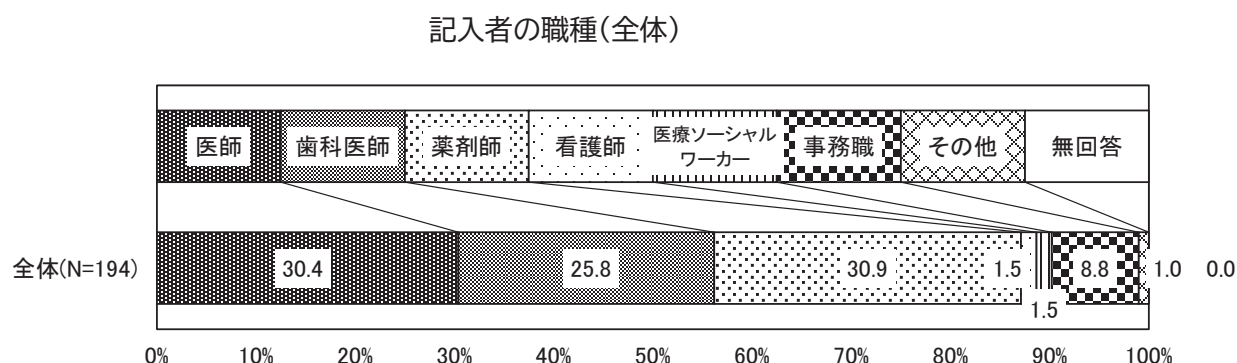
- ・ 市民が参加できるサロンやクラブの情報をもっと市民に広めてほしい。(居宅介護支援のみ)

7 医療機関調査

(1) 医療機関の現況

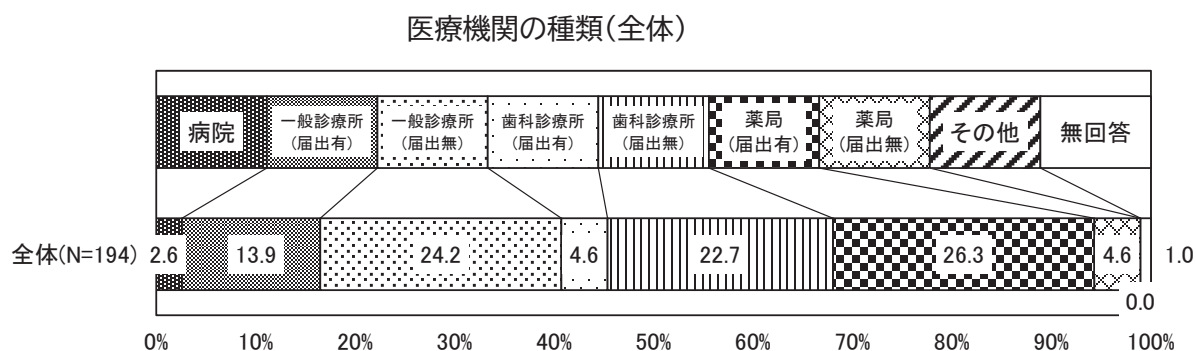
① 記入者の職種(問1)

記入者の職種は、「薬剤師」(30.9%)と「医師」(30.4%)が高く、「歯科医師」(25.8%)、「事務職」(8.8%)の順で続いている。



② 医療機関の種類(問2)

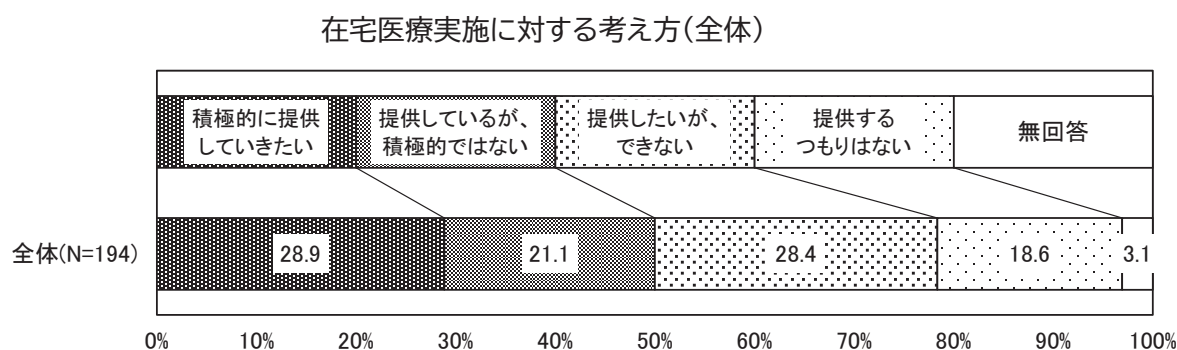
医療機関の種類は、「薬局(在宅患者訪問薬剤管理指導に係わる届出有)」(26.3%)が最も高く、「一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出無)」(24.2%)、「歯科診療所(在宅療養支援歯科診療所としての届出無)」(22.7%)の順で続いている。



※一般診療所は、在宅療養支援診療所としての届出。歯科診療所は、在宅療養支援歯科診療所としての届出。
薬局は、在宅患者訪問薬剤管理指導に係わる届出。

③ 在宅医療実施に対する考え方(問3)

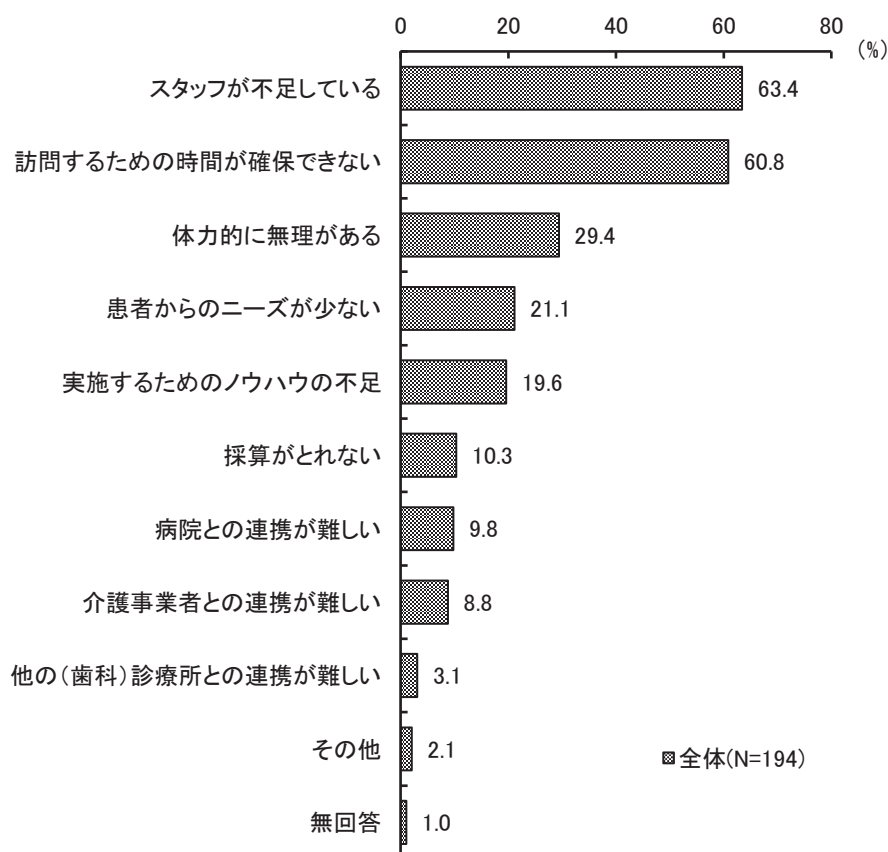
在宅医療実施に対する考え方は、「積極的に提供していきたい」(28.9%)と「提供しているが、積極的ではない」(21.1%)を合計すると、在宅医療を提供している割合が50.0%となっている。「提供したいが、できない」(28.4%)と「提供するつもりはない」(18.6%)を合計すると、在宅医療を提供していない割合が47.0%となっている。



④ 在宅医療を実施する上での課題(問4)

在宅医療を実施する上での課題は、「スタッフが不足している」(63.4%)と「訪問するための時間が確保できない」(60.8%)が高く、「体力的に無理がある」(29.4%)、「患者からのニーズが少ない」(21.1%)、「実施するためのノウハウの不足」(19.6%)の順で続いている。

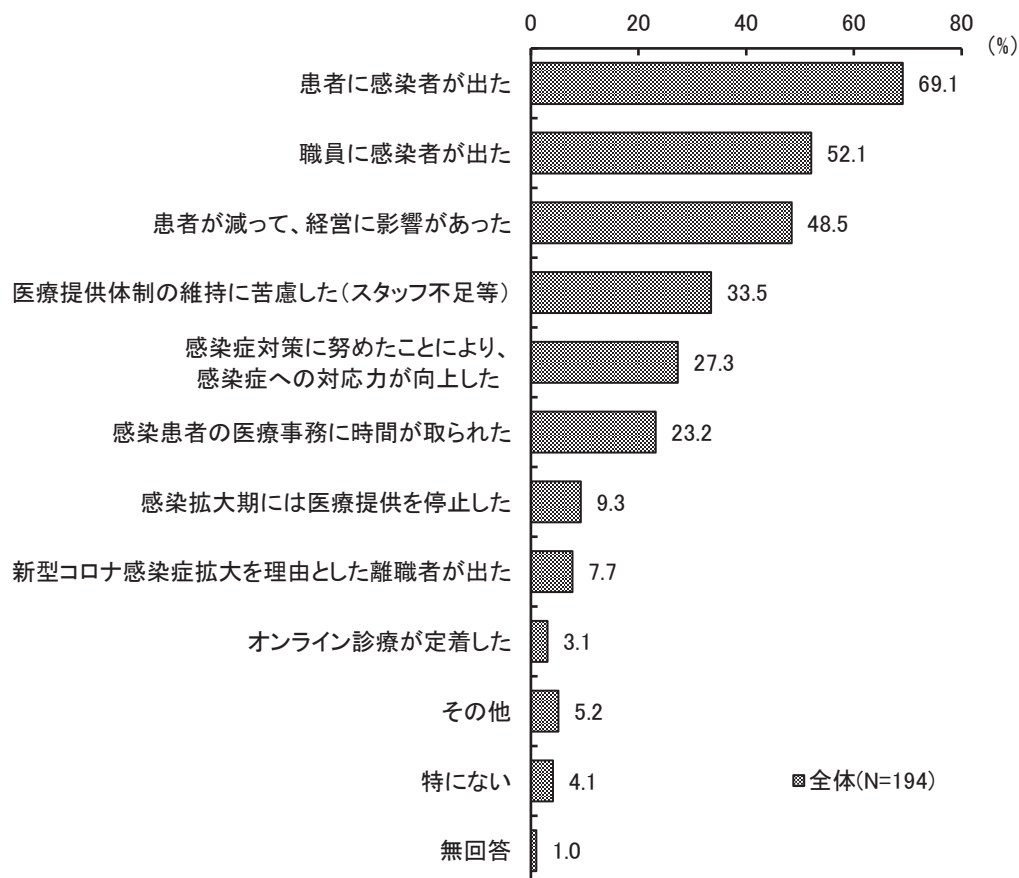
在宅医療を実施する上での課題(全体:複数回答(3つまで))



⑤ コロナ禍でのサービス提供への影響(問5)

コロナ禍でのサービス提供への影響は、「患者に感染者が出た」(69.1%)が最も高く、「職員に感染者が出た」(52.1%)、「患者が減って、経営に影響があった」(48.5%)、「医療提供体制の維持に苦慮した(スタッフ不足等)」(33.5%)の順で続いている。

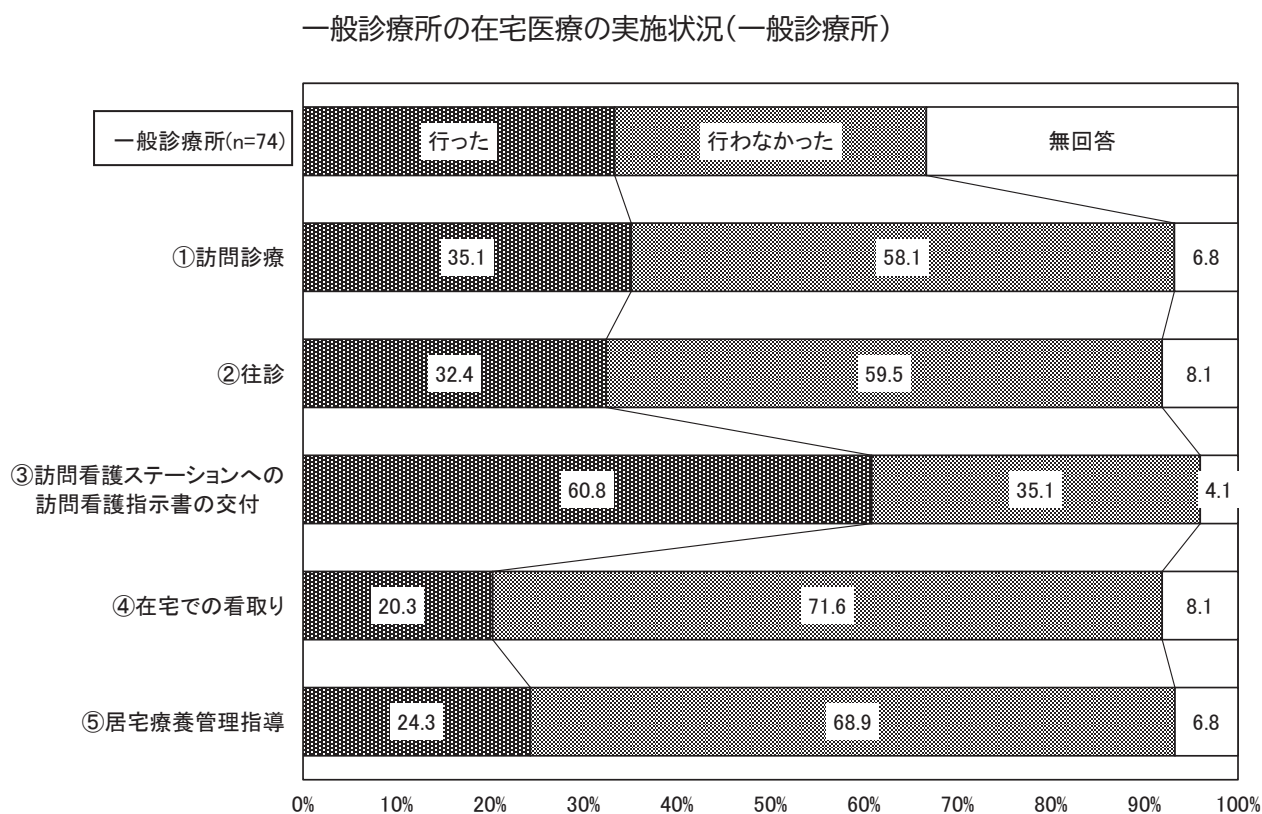
コロナ禍でのサービス提供への影響(全体:複数回答)



(2)在宅医療の取組状況(病院以外)

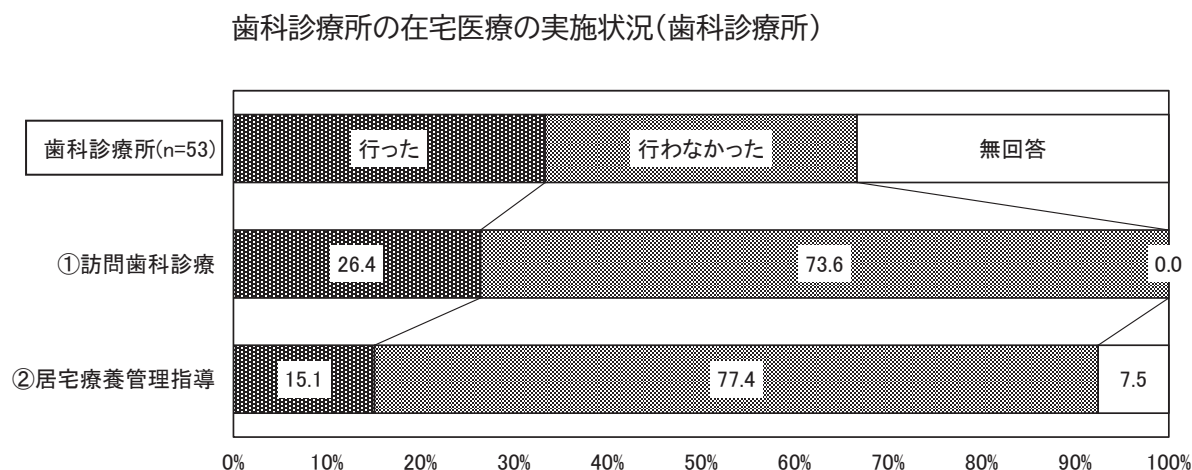
① 一般診療所の在宅医療の実施状況(問 6(1))

西東京市民を対象に、一般診療所で「行った」割合(令和4年 11 月1日現在)は、『訪問看護ステーションへの訪問看護指示書の交付』で 60.8%、『訪問診療』で 35.1%、『往診』で 32.4%、『居宅療養管理指導』で 24.3%、『在宅での看取り』で 20.3%となっている。



② 歯科診療所の在宅医療の実施状況(問 6(2))

西東京市民を対象に、歯科診療所で「行った」割合(令和4年 11 月1日現在)は、『訪問歯科診療』で 26.4%、『居宅療養管理指導』で 15.1%となっている。

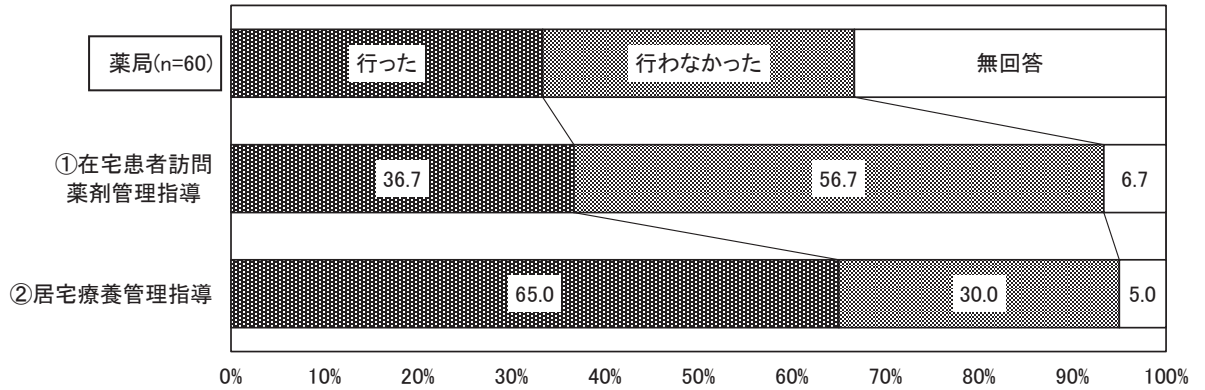


第2章 調査結果

③ 薬局の在宅医療の実施状況(問 6(3))

西東京市民を対象に、薬局で「行った」割合(令和4年 11 月1日現在)は、『居宅療養管理指導』で 65.0%、『在宅患者訪問薬剤管理指導』で 36.7%となっている。

薬局の在宅医療の実施状況(薬局)

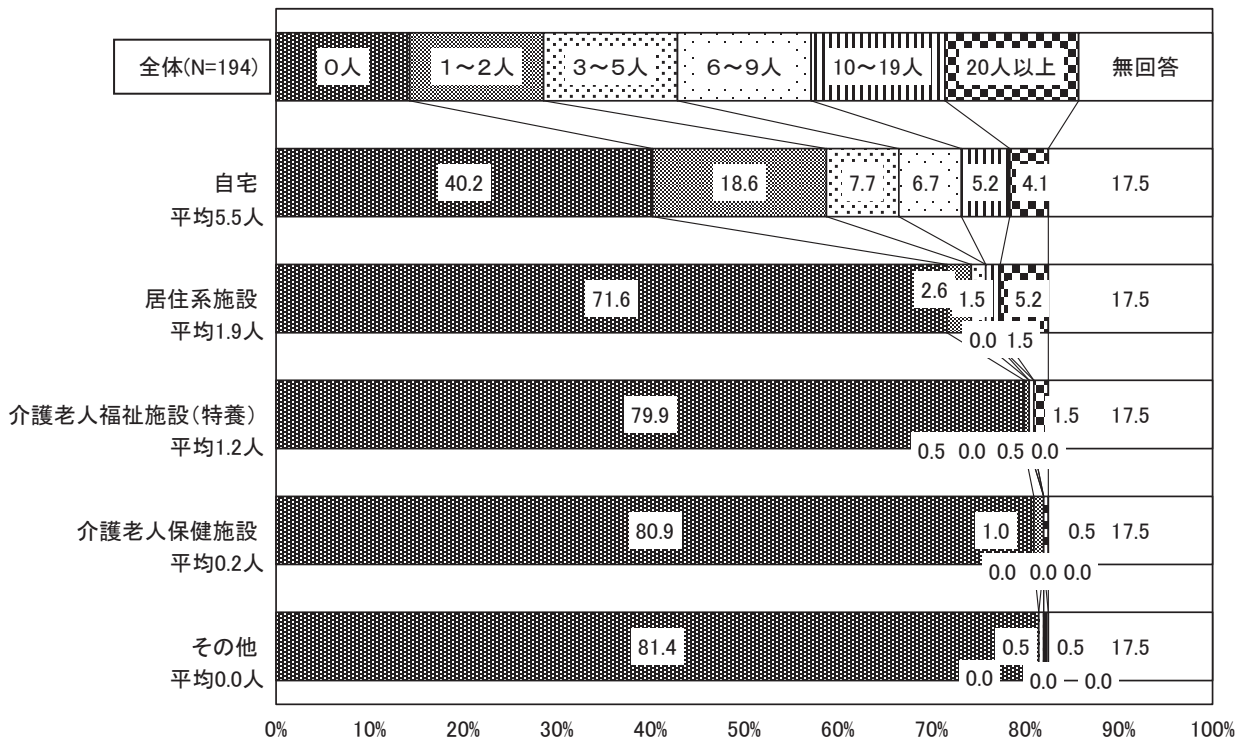


④ 令和4年 10 月の1か月間における在宅医療患者数(問 7)

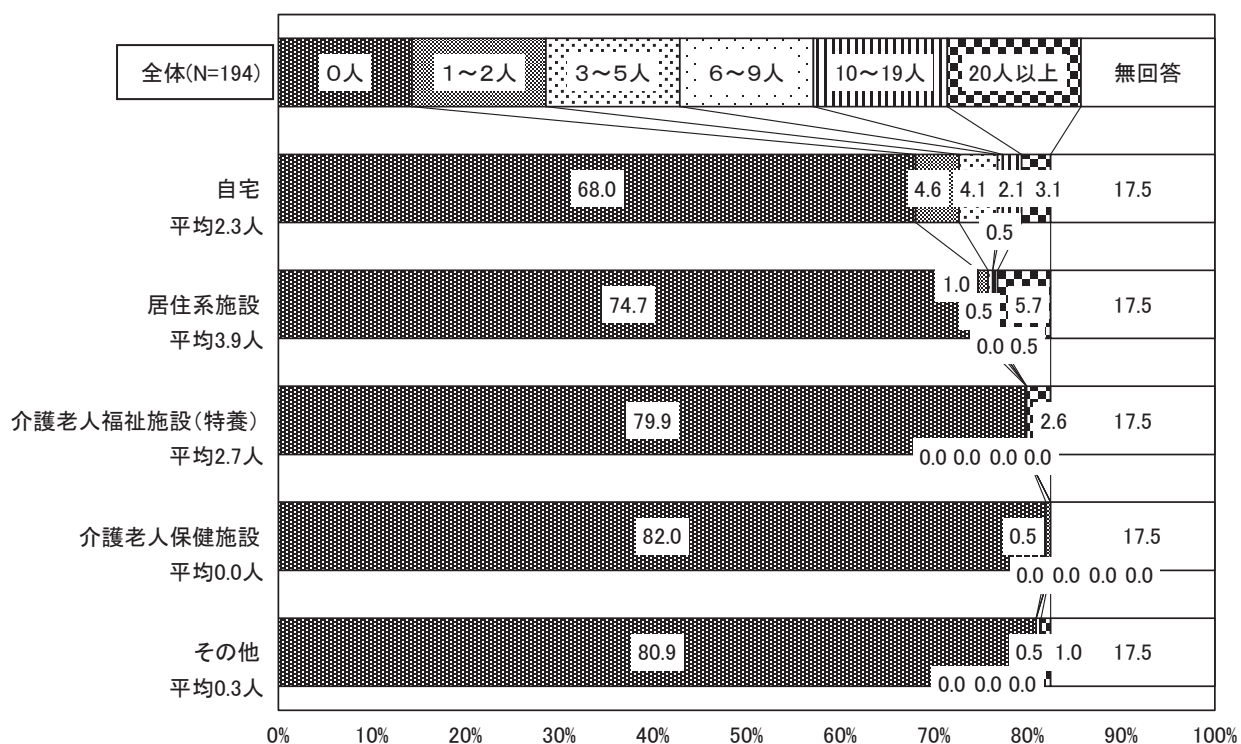
令和4年 10 月の1か月間における在宅医療患者数は、西東京市内では、『自宅』が平均 5.5 人、『居住系施設』が平均 1.9 人、『介護老人福祉施設(特養)』が平均 1.2 人となっている。

西東京市外では、『居住系施設』が平均 3.9 人、『介護老人福祉施設(特養)』が平均 2.7 人、『自宅』が平均 2.3 人となっている。

西東京市内の令和4年 10 月の1か月間における在宅医療患者数(全体)



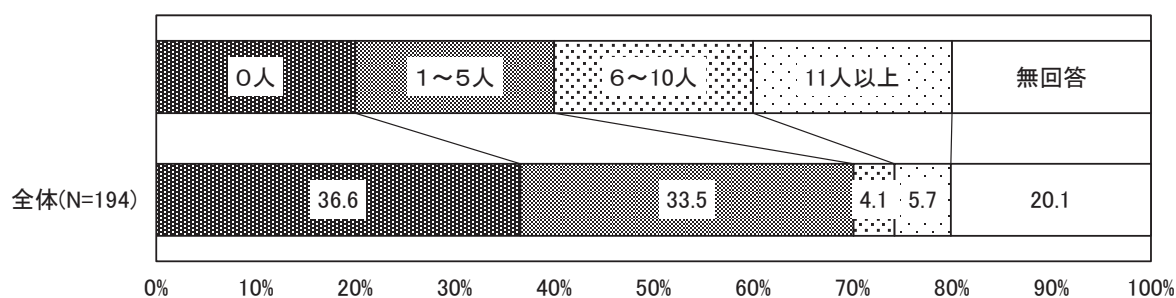
西東京市外の令和4年10月の1か月間における在宅医療患者数(全体)



⑤ さらに対応できる在宅医療患者数(問 7-1)

問7で記入した在宅医療患者数に対し、さらに何人程度の患者に対応できると考えるかたずねたところ、「0人」が36.6%、「1~5人」が33.5%と高くなっている。

さらに対応できる在宅医療患者数(全体)

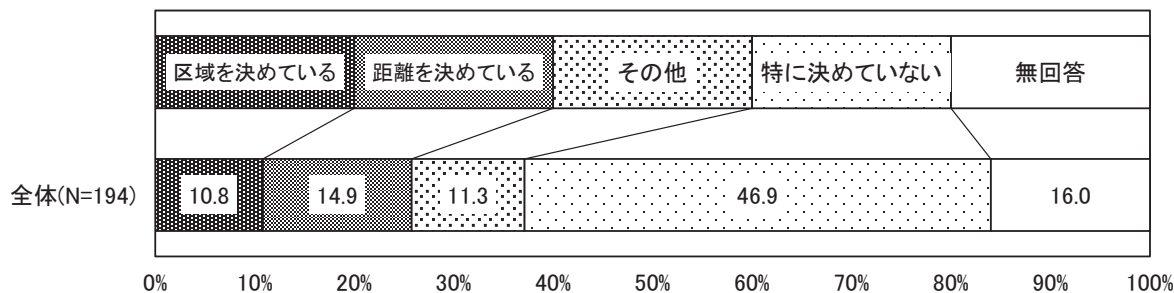


⑥ 在宅医療を行う区域や距離の設定(問8)

在宅医療を行う区域や距離の設定は、「特に決めていない」(46.9%)が最も高く、「距離を決めている」(14.9%)、「その他」(11.3%)、「区域を決めている」(10.8%)の順で続いている。

なお、「区域を決めている」の具体的回答は、「西東京市内」、「周辺市」等の回答が多かった。

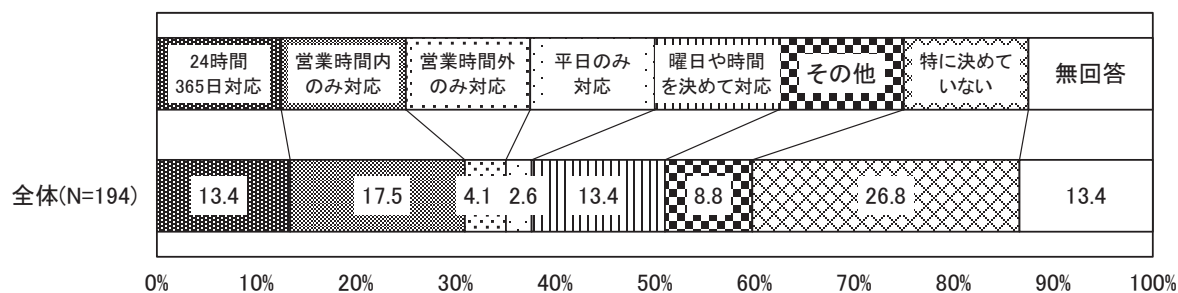
在宅医療を行う区域や距離の設定(全体)



⑦ 在宅医療を行う時間帯の設定(問9)

在宅医療を行う時間帯の設定は、「特に決めていない」(26.8%)が最も高く、「営業時間内のみ対応している」(17.5%)、「24時間 365日対応している」、「曜日や時間を決めて対応している」(13.4%)の順で続いている。

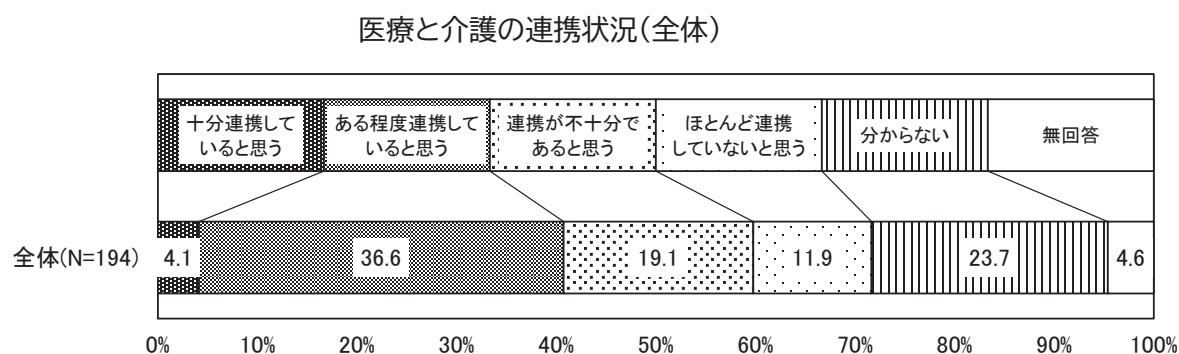
在宅医療を行う時間帯の設定(全体)



(3)医療と介護の連携

① 医療と介護の連携状況(問 10)

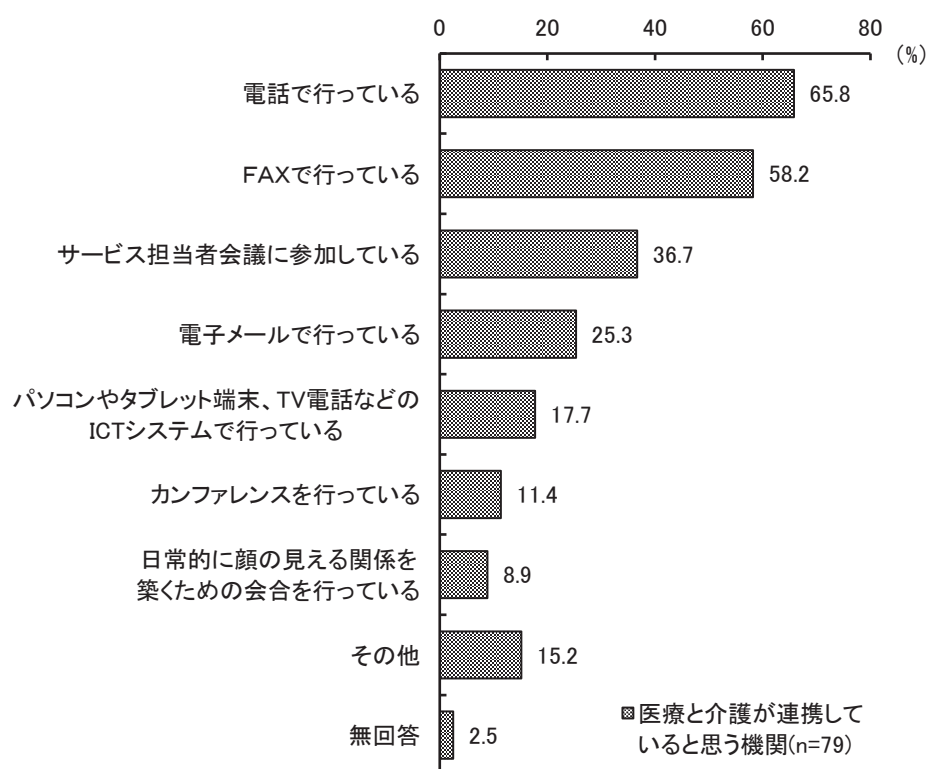
医療と介護の連携状況は、「十分連携していると思う」(4.1%)と「ある程度連携していると思う」(36.6%)を合計した連携していると思う割合は 40.7%となっている。



② 医療と介護の連携方法(問 10-1)

医療と介護が連携していると思う機関に医療と介護の連携方法をたずねたところ、「電話で行っている」(65.8%)が最も高く、「FAXで行っている」(58.2%)、「サービス担当者会議に参加している」(36.7%)、「電子メールで行っている」(25.3%)の順で続いている。

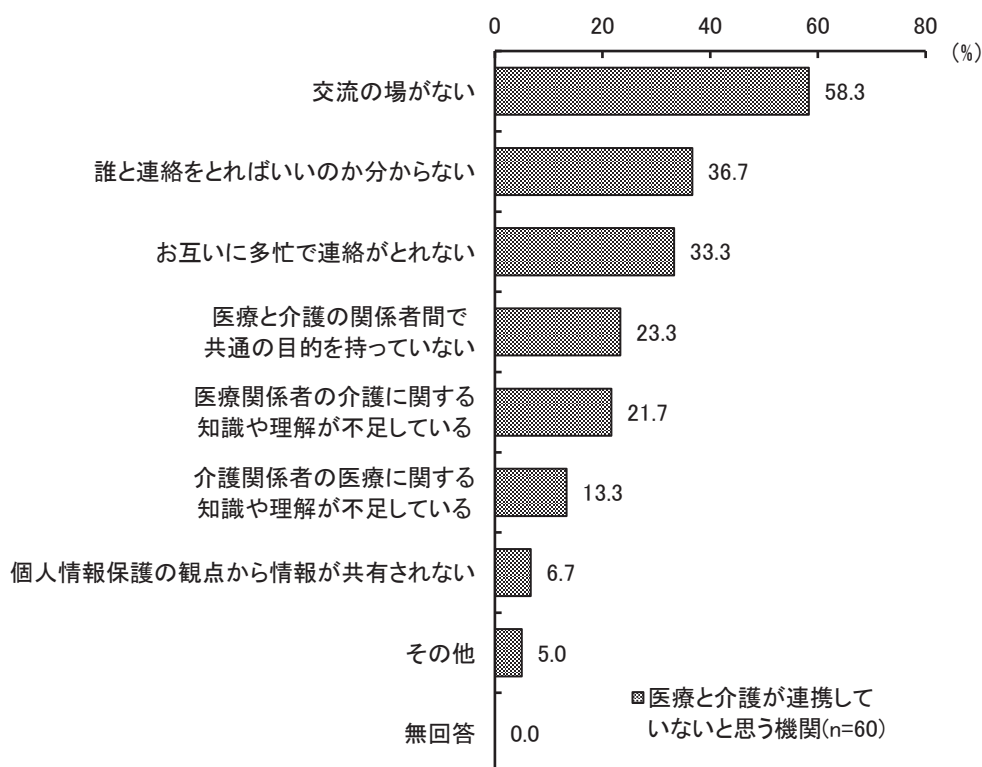
医療と介護の連携方法(医療と介護が連携していると思う機関:複数回答)



③ 連携が不十分だと思う理由(問 10-2)

医療と介護が連携していないと思う機関に連携が不十分だと思う理由をたずねたところ、「交流の場がない」(58.3%)が最も高く、「誰と連絡をとればいいのか分からない」(36.7%)、「お互いに多忙で連絡がとれない」(33.3%)、「医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない」(23.3%)、「医療関係者の介護に関する知識や理解が不足している」(21.7%)の順で続いている。

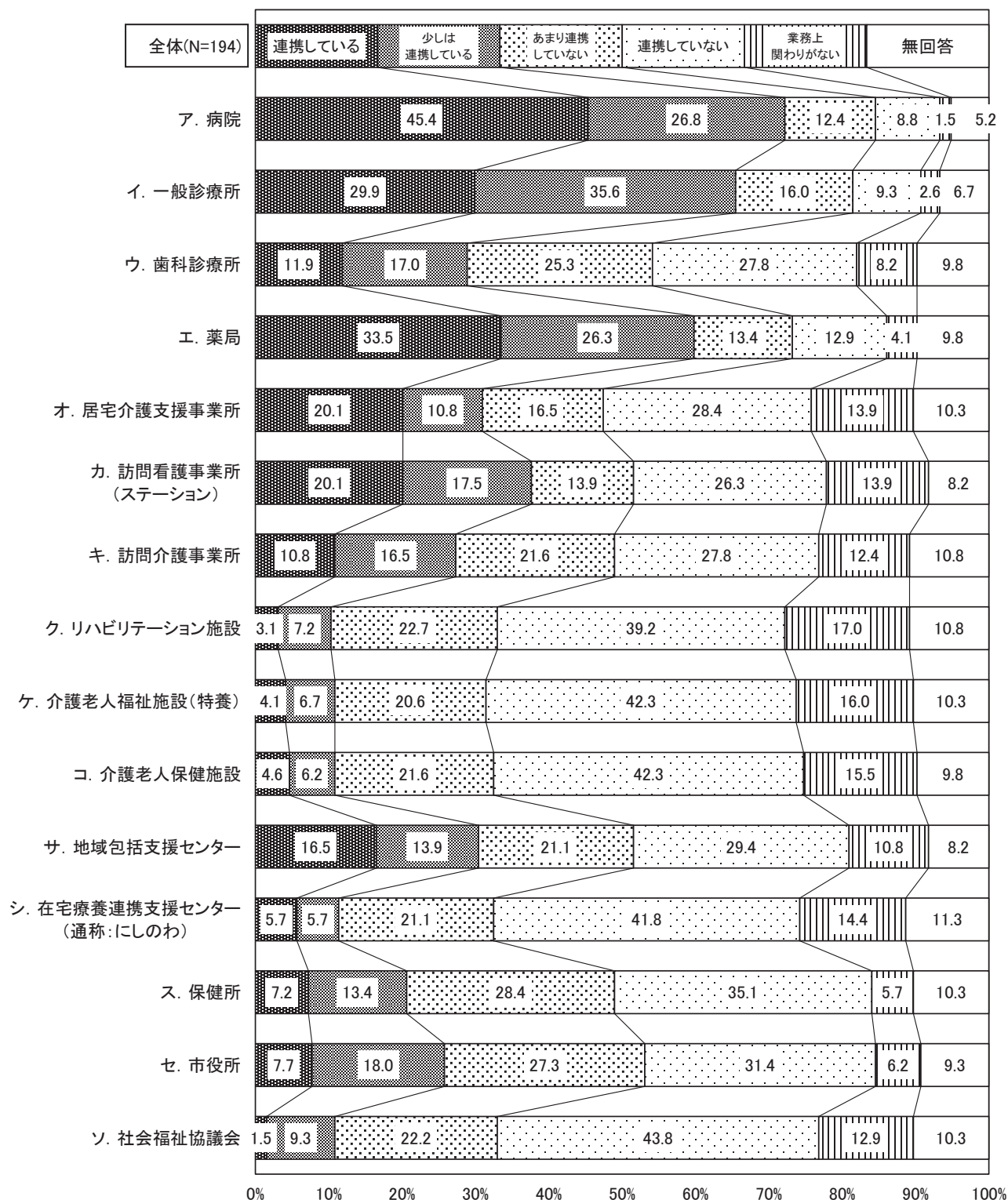
連携が不十分だと思う理由
(医療と介護が連携していないと思う機関:複数回答(3つまで))



④ 患者に関わる関係機関、職種との連携状況(問 11)

患者に関わる関係機関、職種との連携状況について、「連携している」と「少しは連携している」を合計した連携している割合は、『病院』(72.2%)で最も高く、『一般診療所』(65.5%)、『薬局』(59.8%)、『訪問看護事業所(ステーション)』(37.6%)が続いている。

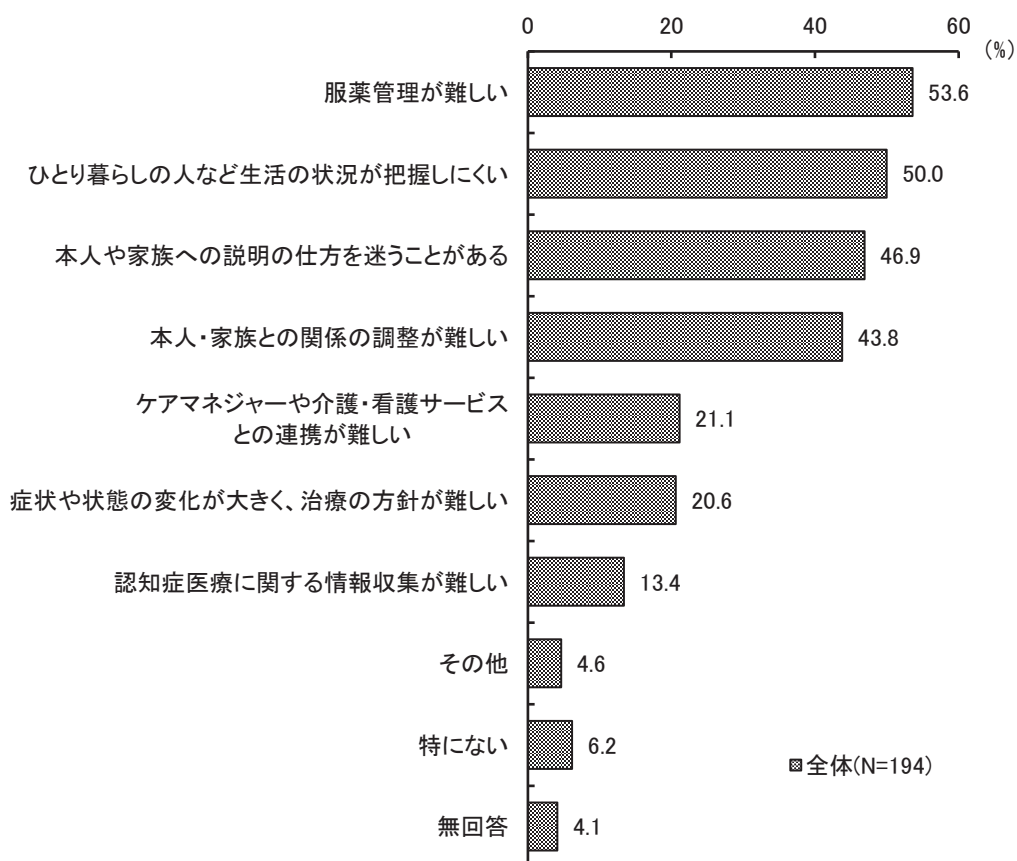
患者に関わる関係機関、職種との連携状況(全体)



⑤ 認知症の人の受診・治療にあたり困ること(問 12)

認知症の人の受診・治療にあたり困ることは、「服薬管理が難しい」(53.6%)が最も高く、「ひとり暮らしの人など生活の状況が把握しにくい」(50.0%)、「本人や家族への説明の仕方を迷うことがある」(46.9%)、「本人・家族との関係の調整が難しい」(43.8%)の順で続いている。

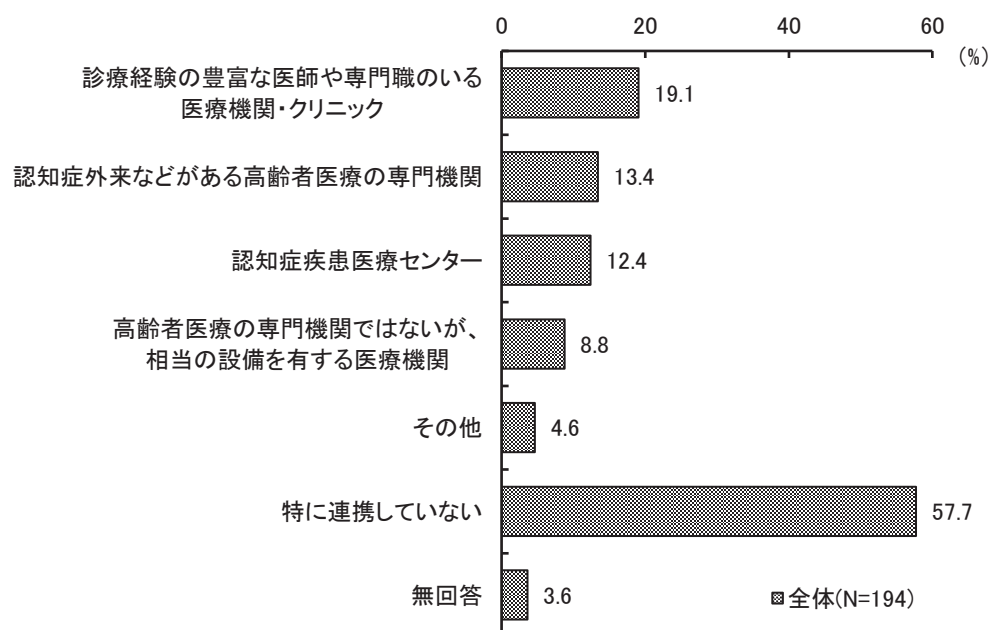
認知症の人の受診・治療にあたり困ること(全体:複数回答)



⑥ 認知症の人の治療にあたり連携している機関(問 13)

認知症の人の治療にあたり連携している機関は、「特に連携していない」が 57.7%である。連携している機関では、「診療経験の豊富な医師や専門職のいる医療機関・クリニック」(19.1%)が最も高く、「認知症外来などがある高齢者医療の専門機関」(13.4%)、「認知症疾患医療センター」(12.4%)の順で続いている。

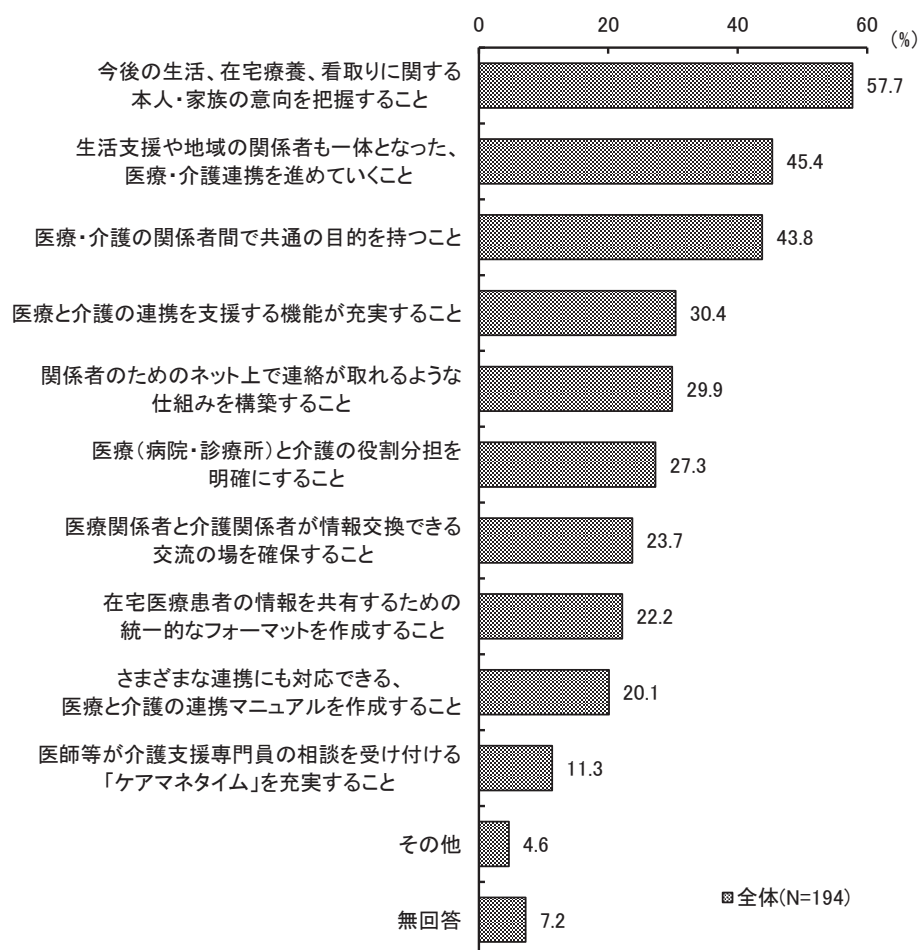
認知症の人の治療にあたり連携している機関(全体:複数回答)



⑦ 認知症の人も含めた医療職と介護職の連携のために充実すべきこと(問 14)

認知症の人も含めた医療職と介護職の連携のために充実すべきことは、「今後の生活、在宅療養、看取りに関する本人・家族の意向を把握すること」(57.7%)が最も高く、「生活支援や地域の関係者も一体となった、医療・介護連携を進めていくこと」(45.4%)、「医療・介護の関係者間で共通の目的を持つこと」(43.8%)の順で続いている。

認知症の人も含めた医療職と介護職の連携のために充実すべきこと(全体:複数回答)

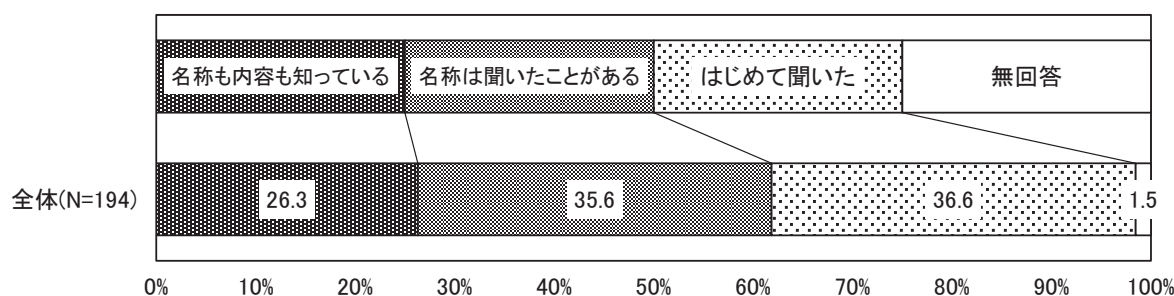


⑧ 在宅療養連携支援センターの認知度(問 15)

在宅療養連携支援センターの認知度は、「名称も内容も知っている」が 26.3%、「名称は聞いたことがある」が 35.6%、「はじめて聞いた」が 36.6%となっている。

在宅医療の提供の有無別にみると、【提供】では「名称も内容も知っている」が 41.2%で高く、【未提供】では「はじめて聞いた」が 48.4%で高くなっている。

在宅療養連携支援センターの認知度(全体)



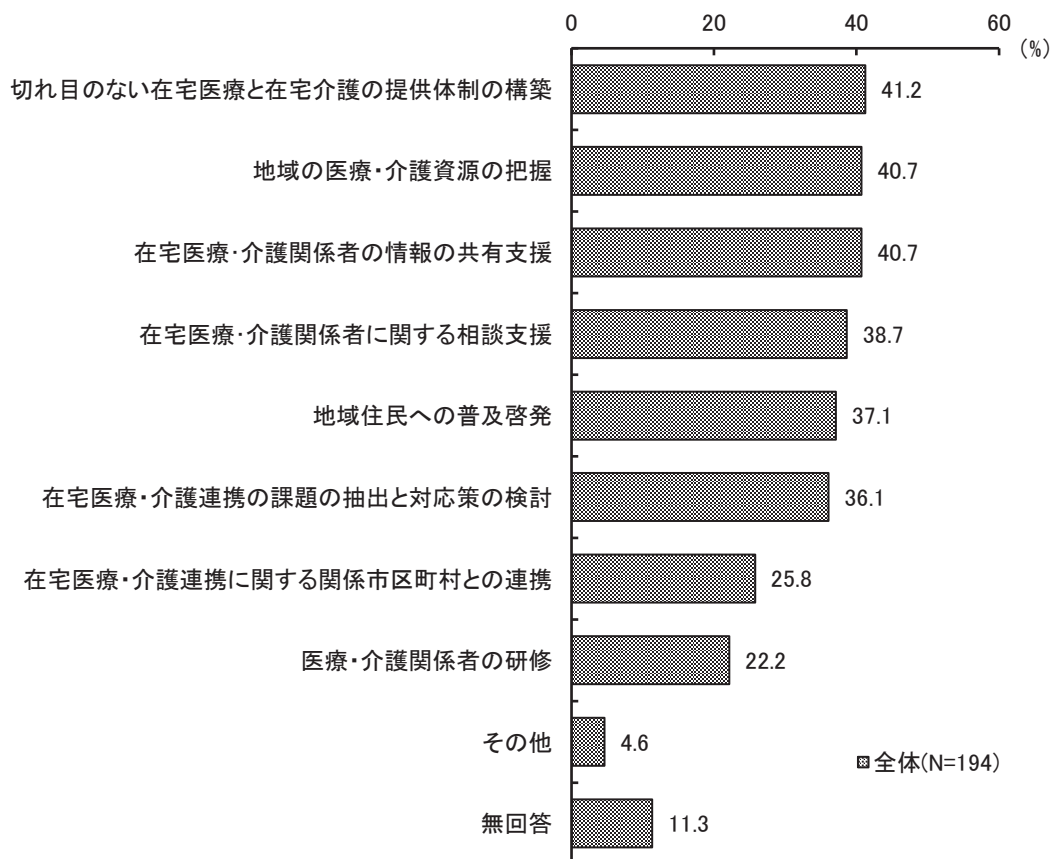
在宅療養連携支援センターの認知度(全体、在宅医療の提供の有無別)

		(人、%)				
		回答者数	名称も内容も知っている	名称は聞いたことがある	はじめて聞いた	無回答
全体		194	26.3	35.6	36.6	1.5
在宅医療の提供の有無別	提供	97	41.2	30.9	26.8	1.0
	未提供	91	9.9	40.7	48.4	1.1

⑨ 在宅療養連携支援センターに期待すること(問 16)

在宅療養連携支援センターに期待することは、「切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築」(41.2%)が最も高く、「地域の医療・介護資源の把握」、「在宅医療・介護関係者の情報の共有支援」(40.7%)の順で続いている。

在宅療養連携支援センターに期待すること(全体:複数回答)

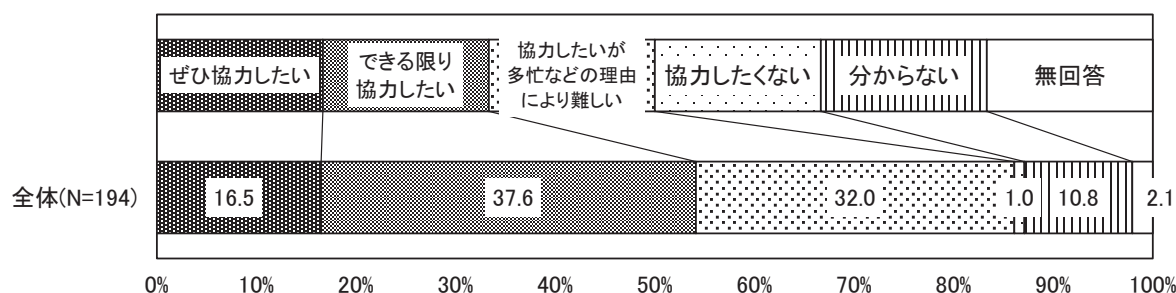


⑩ 医療と介護の連携についての意向(問 17)

医療と介護の連携についての意向は、「ぜひ協力したい」(16.5%)と「できる限り協力したい」(37.6%)を合計した協力したい割合は 54.1%となっている。

在宅医療の提供の有無別にみると、【提供】では「ぜひ協力したい」(29.9%)と「できる限り協力したい」(51.5%)を合計した協力したい割合は 81.4%となっている。また、【未提供】では「協力したいが多忙などの理由により難しい」(50.5%)が5割、「わからない」(22.0%)は2割強となっている。

医療と介護の連携についての意向(全体)



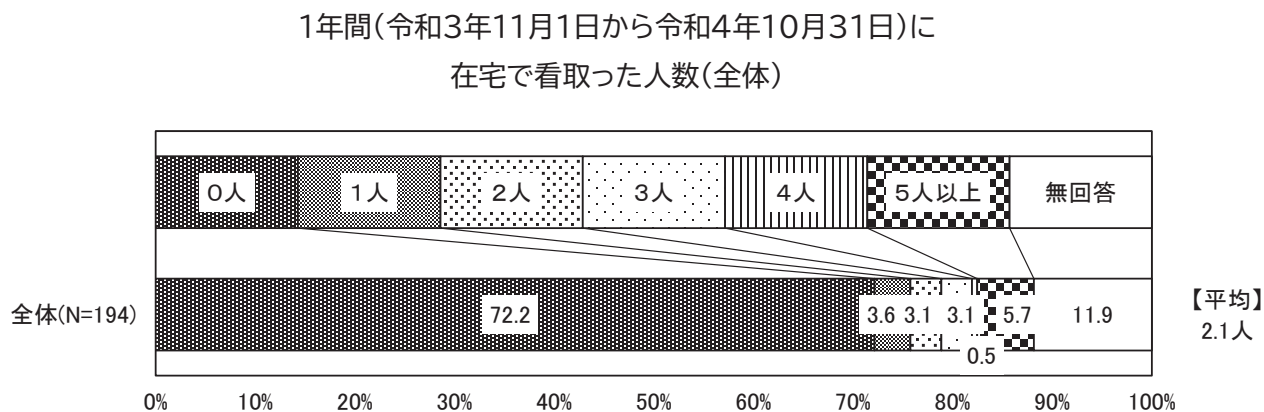
医療と介護の連携についての意向(全体、在宅医療の提供の有無別)

		(人、%)						
		回答者数	ぜひ協力したい	できる限り協力したい	協力したいが多忙などの理由により難しい	協力したくない	わからない	無回答
全体		194	16.5	37.6	32.0	1.0	10.8	2.1
在宅医療の提供の有無別	提供	97	29.9	51.5	15.5	0.0	1.0	2.1
	未提供	91	3.3	20.9	50.5	2.2	22.0	1.1

(4)看取り

① 1年間(令和3年11月1日から令和4年10月31日)に在宅で看取った人数(問 18)

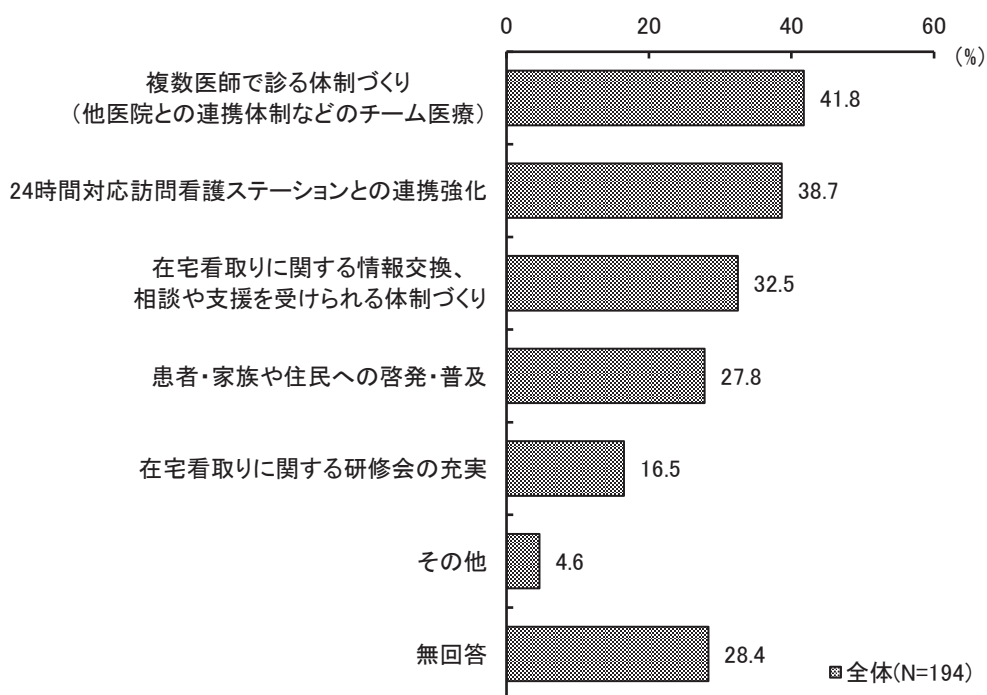
1年間(令和3年11月1日から令和4年10月31日)に、在宅で看取った人数は、「0人」が72.2%を占めており、平均人数は2.1人となっている。



② 在宅での看取りが可能な条件(問 19)

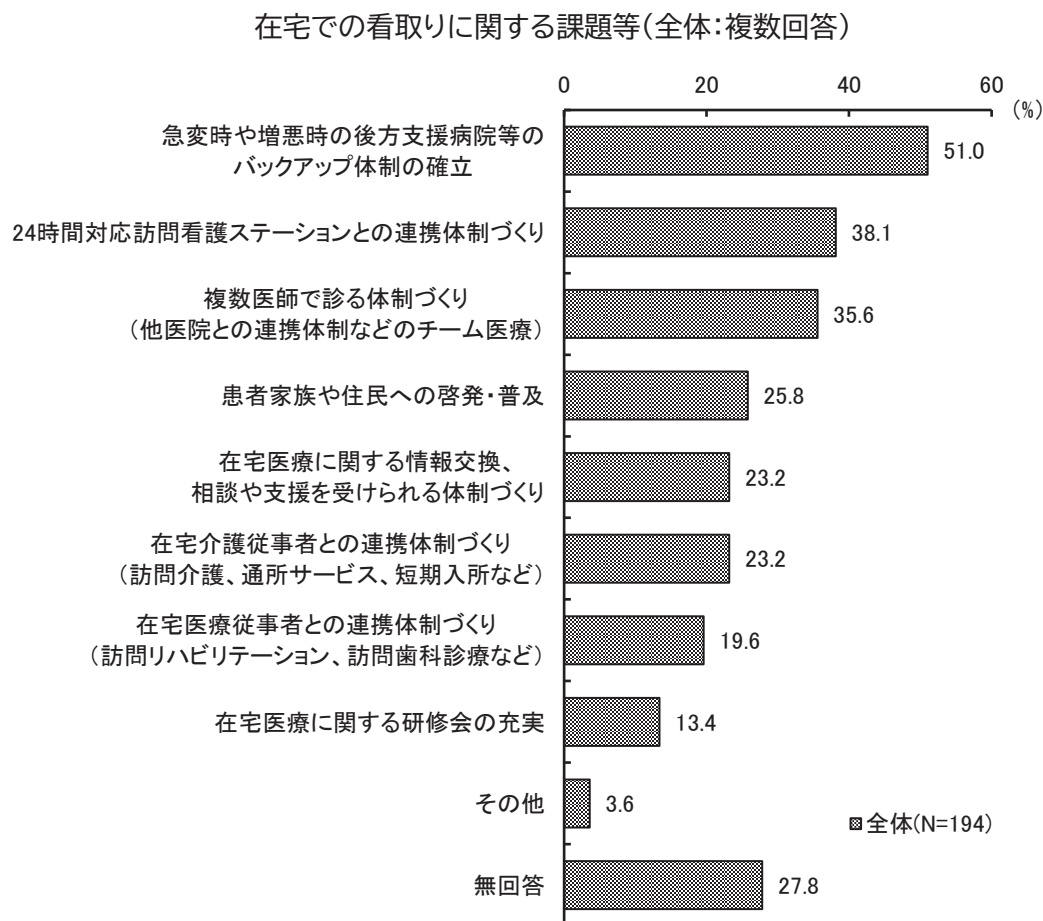
在宅での看取りが可能な条件は、「複数医師で診る体制づくり(他医院との連携体制などのチーム医療)」(41.8%)が最も高く、「24 時間対応訪問看護ステーションとの連携強化」(38.7%)、「在宅看取りに関する情報交換、相談や支援を受けられる体制づくり」(32.5%)の順で続いている。

在宅での看取りが可能な条件(全体:複数回答)



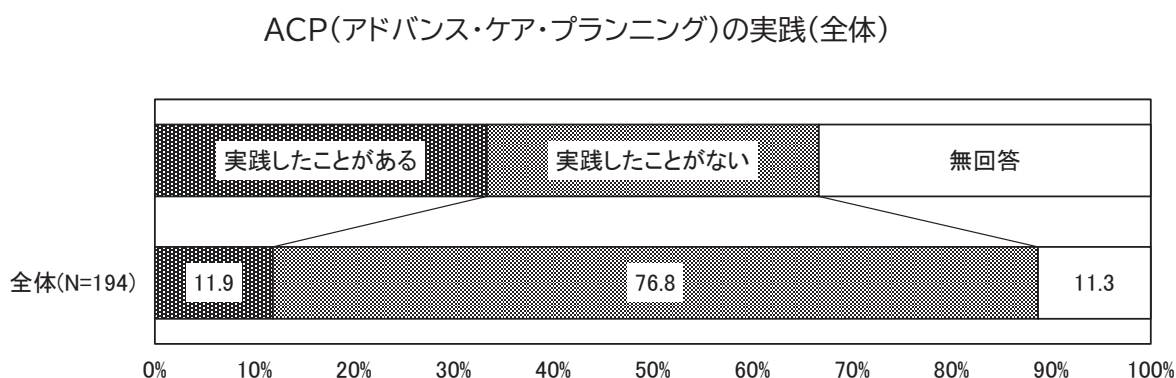
③ 在宅での看取りに関する課題等(問 20)

在宅での看取りに関する課題等は、「急変時や増悪時の後方支援病院等のバックアップ体制の確立」(51.0%)が最も高く、「24時間対応訪問看護ステーションとの連携体制づくり」(38.1%)、「複数医師で診る体制づくり(他医院との連携体制などのチーム医療)」(35.6%)の順で続いている。



④ ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の実践(問 21)

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の実践の経験は、「実践したことがある」が 11.9%となっている。

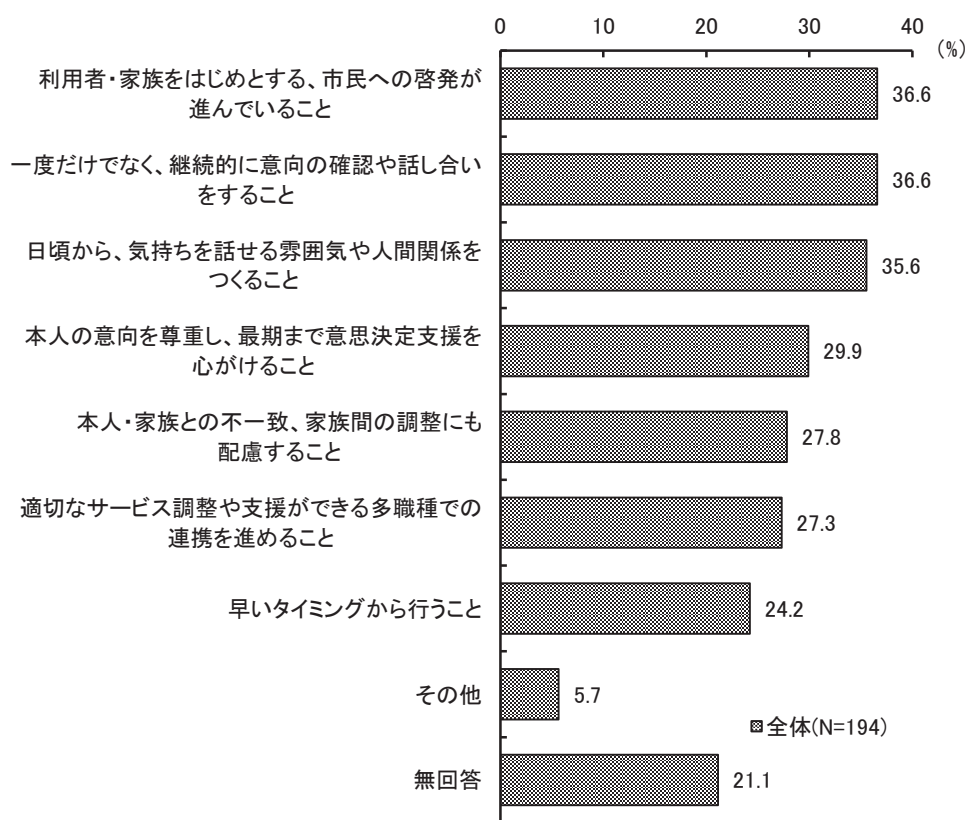


⑤ ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を進める上で必要なこと(問 22)

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を進める上で必要なことは、「利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること」、「一度だけでなく、継続的に意向の確認や話し合いをすること」(36.6%)が最も高く、「日頃から、気持ちを話せる雰囲気や人間関係をつくること」(35.6%)が続いている。

在宅医療の提供の有無別にみると、【提供】では、「日頃から、気持ちを話せる雰囲気や人間関係をつくること」(45.4%)、「一度だけでなく、継続的に意向の確認や話し合いをすること」(44.3%)、「利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること」(43.3%)がいずれも4割を超えている。一方、【未提供】では、ほとんどのカテゴリーが3割未満となっている。

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を進める上で必要なこと(全体:複数回答(3つまで))

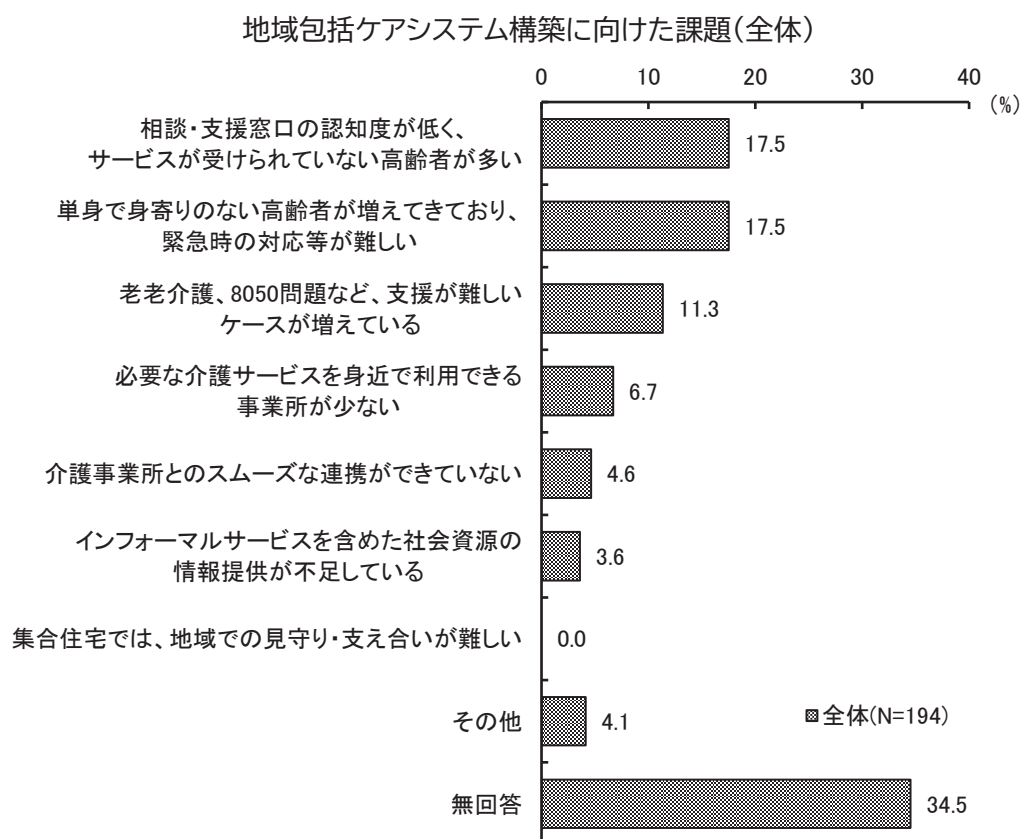


ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を進める上で必要なこと
(全体、在宅医療の提供の有無別:複数回答(3つまで))

		(人、%)										
		回答者数	利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること	利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること	一度だけでなく、継続的に意向の確認や話し合いをすること	日頃から、気持ちを話せる雰囲気や人間関係をつくること	本人の意向を尊重し、最期まで意思決定支援を心がけること	本人・家族との不一致、家族間の調整にも配慮すること	適切なサービス調整や支援ができる多職種での連携を進めること	早いタイミングから行うこと	その他	無回答
全体		194	36.6	36.6	35.6	29.9	27.8	27.3	24.2	5.7	21.1	
在宅医療の提供の有無別	提供	97	43.3	44.3	45.4	30.9	33.0	34.0	25.8	2.1	13.4	
	未提供	91	28.6	29.7	25.3	30.8	23.1	20.9	23.1	9.9	27.5	

⑥ 地域包括ケアシステム構築に向けた課題(問 23)

地域包括ケアシステム構築に向けた課題は、「相談・支援窓口の認知度が低く、サービスが受けられていない高齢者が多い」、「単身で身寄りのない高齢者が増えてきており、緊急時の対応等が難しい」(17.5%)が最も高く、「老老介護、8050 問題など、支援が難しいケースが増えている」(11.3%)が続いている。



⑦ 西東京市の在宅医療・介護連携や介護保険制度についての意見・要望(問 24)

西東京市の在宅医療・介護連携や介護保険制度についての意見・要望について自由記述形式でたずねたところ、全体で 30 件の回答があった。以下、主なものを掲載する。なお、文末の()には、記入者の職種(問1)と医療機関の種類(問2)を記載している。

◆在宅医療・介護連携

- ・ 街を挙げて一緒にと言う考えがないように思う。顔見知りの連携で、満足しているようである。(歯科医師、歯科診療所(在宅療養支援歯科診療所としての届出無))
- ・ 医療者も介護者も一市民、一生活者。自分の生活を守った上でできる範囲でなければ、他の人への継続しての支援は破綻します。一人のマンパワーに依存せず、一つの役割を一人だけが支えるのではなく、多くの人で支える援助の仕組みをつくるのが大切だと思います。「かかりつけ」も大切ですが、情報を共有した上でその時できる人がフォローに入れることを目指すべきだと思います。地域にある薬局として、その一端でも担えるように

第2章 調査結果

- なりたいと考えています。(薬剤師、薬局(在宅患者訪問薬剤管理指導に係わる届出有))
- ・ 医療と介護の連携には訪問看護師が間に入ることで一日でも長く住みなれた地域で生活を送ることができ、関係職種と協力し合って必要な支援を提供することができると思います。(医療ソーシャルワーカー、病院)
 - ・ 1ヶ月と短い期間ですが、在宅医療をやらせていただいた感想ですが、訪問につなげるタイミングが遅いと思うケースに多数あたっています。もっと在宅へ早期・初期からつないでいけるような土台を地域につくっていきたいと思います。困っているケースの相談などが出来る環境や、病院から早期に介入出来るシステム作りなどを提案していきたいと思います。(医師、一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出有))
 - ・ 当院の場合、介護サービスを受けている患者の一般診療のみ担当している状況です。必要に応じ、医療機関からの相談も受け付けていただけたらと思います。すでに対応していることなのかも知れませんが、なんとなく敷居が高く感じています。(医師、一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出無))
 - ・ 高齢者の健康維持、疾病からの早期回復には予防医学が不可欠と考えます。しかしながら、今の保健医療では予防は対象外のため、連携といっても介護の後追いに医療が参加する現状は変わらず連携の効果は不十分なままに終わると思います。なお、当院は自由診療を選択することになると思います。このため個々の質問は割愛させていただきました。(医師、一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出無))
 - ・ 老々介護であり、介護者が自宅看取りを拒否するケースが多い。患者本人は住み慣れた自宅での看取りを希望していても同時に我々は介護者を守る立場であり難しい。(医師、一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出有))
 - ・ 私自身は医師からの依頼で訪問(歯科)診療を多く引き受けてきたが、医師、介護関係者からの依頼、相談はほとんど皆無と聞いている。歯科についての意識をもっと高めていただかなければ、歯科が直接介護者と接触することはないのだから。(歯科医師、歯科診療所(在宅療養支援歯科診療所としての届出無))
 - ・ コロナウイルスが落ち着きましたら、介護側の方たちの意見を聞く機会を頂きたい。そのような場を市が率先して用意して頂きたい。(事務職、一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出有))

◆人材不足

- ・ 在宅をやりたいくてもやれない薬局があることを知って欲しい。人手不足の上、薬価改定等で利益が圧迫される中でやるのは難しい。(薬剤師、薬局(在宅患者訪問薬剤管理指導に係わる届出無))

◆利用者負担

- ・ 介護保険、医療保険の負担が重くのしかかり治療の継続が困難になることがあります。市独自で利用料の減免施策を実施して欲しいです。応援カードで治療をお支払いいただき助かった方もいました。そうした取組みも大歓迎です。(事務職、歯科診療所(在宅療養

支援歯科診療所としての届出有))

◆その他

- ・ 健康保険も介護保険も財源に限りがあると思いますので、効率的、現実的な運用を期待したいです。個人在宅などは、医療資源の使い方において効率が悪いと思います。(薬剤師、薬局(在宅患者訪問薬剤管理指導に係わる届出有))
- ・ 保谷駅近くの薬局の為、練馬区在住の患者さんも多いです。近隣市区との情報交換や交流もあると良いと思います。(薬剤師、薬局(在宅患者訪問薬剤管理指導に係わる届出有))
- ・ 介護認定度により、様々なサービスに限度があると思います。例えば薬を薬局にとりにみえるヘルパーさんの時間制限があって、とても慌しく薬を渡すこともあります。もう少し余裕を持っていただけるとありがたいと思います。(薬剤師、薬局(在宅患者訪問薬剤管理指導に係わる届出有))
- ・ 介護認定の書類を読んでいると、高齢独居や老々介護の方がものすごく多い事に毎回びっくりしています。残り少ない人生を幸せに過ごせるように廃校跡地に医療付きのケアハウスみたいな物を作ってある程度個人と集団と医療が充実した所で最期を迎えたら良いと思います。理想ですが現実には難しいかもしれません。(歯科医師、歯科診療所(在宅療養支援歯科診療所としての届出有))
- ・ 一般の飲食店で高齢者が安い価格で栄養価の高い食事を取ることができるクーポンの配布だったり、介護になる前のケア、見守り事業のようなことも積極的に行っていく事も大切かなと思います。(薬剤師、薬局(在宅患者訪問薬剤管理指導に係わる届出有))
- ・ 草の根的に認知症患者を診療しているが、市と話し合ったことはほぼない。このような状況がまずだめだと思います。神経内科、精神科医師の一部にあまりにも負担が集中しすぎている。(医師、一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出無))

資料編 アンケート調査票及び集計結果

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定のための市民アンケート調査 ご協力をお願いします

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を1期として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和5年度に、令和6年度から8年度までの第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定します。

このアンケート調査は、65歳以上の市民の皆様へ、健康・福祉・介護に関することや日常生活でお困りのことなどについてご意見とご要望をお聞かせいただき、計画の策定に役立てるものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月

西東京市長 池澤 隆史

記入についてのお願い

1. この調査は、令和4年11月1日現在でお答えください。
 2. 回答は、特に説明のない限り、あてはまる番号を○で囲んでください。
 3. 回答が「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み、〔 〕内にその内容を記入してください。
 4. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印（⇒）など、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。
 5. 回答はできる限り、対象者ご本人がご記入ください。なお、対象者ご本人おひとりの回答が難しい場合は、ご家族の方がお手伝いいただくか、対象者の意見を聞いた上でご家族の方が代わりにご記入ください。
- ★対象の方が何らかの事情により記入できない場合は、回答不要です。下の枠内のいずれかに○印をつけてご返送ください。

1. 医療機関入院中 2. 福祉施設入所中 3. 転居 4. その他〔 〕

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、

12月12日(月)までに ご返送ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時（土日・祝日を除く。）

★調査の内容、調査票の書き方や同封物の不足について

株式会社 生活構造研究所

★調査の趣旨について

西東京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810～2816（直通）

（この調査は西東京市から株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。）

あなた（あてご本人）についておたずねします

※以下の質問で「あなた」とは、あてご本人のことです。お間違えないようにお答えください。

- 問1 あなたの性別をお答えください。（1つに○） (N=722)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 男性 | 40.9% | 2. 女性 | 57.8% |
| | | 無回答 | 1.4% |

- 問2 あなたの年齢をお答えください。（数字を記入） (N=722)
- ※令和4年11月1日現在の年齢をお答えください。
- 平均 74.6 歳

- 問3 あなたのお住まいの地区をお答えください。（1つに○） (N=722)
- | | | | | | | | |
|--------|------|---------|------|-----------|------|-----------|------|
| 1. 田無町 | 7.3% | 7. 向台町 | 6.1% | 13. 富士町 | 5.3% | 19. ひばりが丘 | 2.1% |
| 2. 南町 | 6.5% | 8. 芝久保町 | 8.3% | 14. 中町 | 3.0% | 20. 栄町 | 1.9% |
| 3. 西原町 | 5.0% | 9. 新町 | 4.4% | 15. 東町 | 2.9% | 21. 北町 | 3.9% |
| 4. 緑町 | 2.2% | 10. 柳沢 | 4.4% | 16. 泉町 | 4.6% | 22. 下保谷 | 4.3% |
| 5. 谷戸町 | 7.3% | 11. 美伏見 | 3.0% | 17. 住吉町 | 3.7% | 無回答 | 1.5% |
| 6. 北原町 | 1.8% | 12. 保谷町 | 5.5% | 18. ひばりが丘 | 4.7% | | |

- 問4 あなたのお住まいは次のうちどれですか。（1つに○） (N=722)
- | | | | |
|--------------------|-------|-----------------------------------|------|
| 1. 一戸建ての持ち家 | 54.2% | 6. 社宅・官舎 | 0.1% |
| 2. 一戸建ての借家 | 1.7% | 7. 高齢者向け住宅（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅） | 0.0% |
| 3. 分譲マンション | 22.3% | 8. その他（具体的に： ） | 1.2% |
| 4. 民間賃貸アパート・マンション | 9.1% | 無回答 | 0.1% |
| 5. 公的賃貸住宅（都営・市営など） | 11.2% | | |

- 問5 家族構成をお答えください。（1つに○） (N=722)
- | | | | |
|----------------------|-------|----------------|-------|
| 1. 1人暮らし | 18.1% | 4. 息子・娘との2世帯 | 10.9% |
| 2. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上） | 46.0% | 5. その他（具体的に： ） | 18.7% |
| 3. 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下） | 4.7% | 無回答 | 1.5% |

日頃の生活についておたずねします

- 問6 あなたは、何歳からが「高齢者」だと思いますか。（1つに○） (N=722)
- | | | | |
|----------|-------|--------------|------|
| 1. 60歳以上 | 1.7% | 6. 85歳以上 | 2.1% |
| 2. 65歳以上 | 12.5% | 7. その他（ 歳以上） | 0.0% |
| 3. 70歳以上 | 37.0% | 8. 年齢で判断できない | 4.7% |
| 4. 75歳以上 | 26.5% | 9. 分からない | 0.4% |
| 5. 80歳以上 | 14.7% | 無回答 | 0.6% |

1 高齢者一般調査

問7 あなたは現在、働いていますか。複数の仕事をしている場合は収入の最も多いものを教えてください。(1つに○) (N=722)

1. 正社員・正規職員として働いている	3.7%
2. 嘱託・再雇用等として働いている	3.6%
3. パート・アルバイトとして働いている	13.9%
4. 派遣社員として働いている	1.2%
5. 経営者(役員等)として働いている	6.4%
6. シルバー人材センター会員である	2.1%
7. 働いていないが今後働きたい	5.7%
8. 働いていないし今後働くつもりはない	59.3%
無回答	4.2%

問7-1 問7で「1」～「7」と回答した方におたずねします。
何歳まで働きたいと思いますか。(1つに○) (n=264)

1. 65歳くらいまで	0.4%
2. 70歳くらいまで	18.6%
3. 75歳くらいまで	31.1%
4. 80歳くらいまで	12.5%
5. 健康が続く限り	35.2%
6. 今後働くつもりはない	1.5%
無回答	0.8%

問8 現在、あなたが中心となって介護や介助、日常生活の世話をしているご家族、親戚の方はいませんか。(1つに○) (N=722)

1. 親戚の方はいない	12.0%
2. いる	85.0%
無回答	2.9%

問8-1 問8で「1」と回答した方におたずねします。
どのような形で介護や介助、世話をしていますか。(1つに○) (n=87)

1. 一緒に暮らしながら介護や介助、世話をしている	59.8%
2. 別世帯で暮らしているが、訪問して介護、介助、世話をしている	13.8%
3. 施設に入居している ⇒ [具体的な施設の種類:]	16.1%
4. その他 [具体的に:]	8.0%
無回答	2.3%

問8-2 問8で「1」と回答した方におたずねします。
介護や介助等で大変なことや困っていることは何ですか。(いくつでも○) (n=87)

1. 精神的に疲れ、ストレスがたまる	51.7%
2. 肉体的に疲れる	41.4%
3. 介護の技術・方法が分からない	16.1%
4. リフレッシュする方法が分からない	8.0%
5. 家族や自分の仕事に影響がある	12.6%
6. 今後の介護の見通しが立たない	24.1%
7. 介護費用の経済的負担が大きい	16.1%
8. 家族や親戚間の意見の調整が難しい	5.7%
9. 遠距離介護である	6.9%
10. 自分以外に介護する人がいない	25.3%
11. 介護者の自分も高齢・病弱である	31.0%
12. 育児や、他の家族の世話ができない	0.0%
13. 相談したり話を聞いてくれる人がいない	5.7%
14. 適切なサービスが分からない、ない	12.6%
15. ケアマネジャーや事業所に不満がある	1.1%
16. 医療や福祉の制度が分からない	10.3%
17. 事業所・医療機関が家の近くにない	3.4%
18. 夜間のサービスが足りない	6.9%
19. その他 [具体的に:]	9.2%
20. 特になし	14.9%
無回答	8.0%

1 高齢者一般調査

問9 あなたは、介護職員初任者研修やくらしヘルパー養成研修[※]など、介護に関する研修を受けてみたいと思いますか。(1つに○) (N=722)

1. 受けない	12.2%
2. 受けたらいいと思う	80.6%
無回答	7.2%

※家事援助を行える西東京市独自のヘルパー資格を取得するための研修(2日間)

問10 あなたは、福祉サービスなどの情報を、主にどこから入手していますか。(いくつでも○) (N=722)

1. 特に入手していない	23.0%
2. 市報	59.7%
3. 東京都広報	15.9%
4. 市のホームページなど	17.9%
5. 市のホームページ	9.8%
6. その他のホームページ	1.2%
7. テレビ・ラジオ	22.9%
8. 新聞・書籍	19.4%
9. SNS(ツイッターやフェイスブックなど)	1.1%
10. 市役所	8.4%
11. 医療機関	6.5%
12. 福祉施設	4.8%
13. 地域包括支援センター	7.9%
14. 友人や知人	21.5%
15. その他 [具体的に:]	2.6%
無回答	2.8%

問11 あなたは、普段どのような情報通信機器を利用していますか。(いくつでも○) (N=722)

1. スマートフォン	67.6%
2. タブレット型端末	10.4%
3. 携帯電話(スマートフォン以外)	15.9%
4. パソコン	33.9%
5. 固定電話・FAX	36.1%
6. その他 [具体的に:]	1.9%
7. 情報通信機器は利用していない	6.1%
無回答	4.2%

問12 あなたは、スマートフォンの操作方法など、情報通信機器の使い方を教えてください。どのような機会があったら参加(利用)したいと思いますか。(1つに○) (N=722)

1. 参加(利用)したい	35.3%
2. 参加(利用)したくない	15.4%
3. 参加(利用)する必要がない	28.5%
4. 分からない	16.9%
無回答	3.9%

問13 あなたは、外出の機会がどれだけありますか。次の目的別にお答えください。(①～⑧のそれぞれ1つに○) (N=722)

	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	外出しない	無回答
①仕事	17.3%	9.3%	2.4%	2.9%	31.7%	36.4%
②買物	30.1%	38.6%	14.0%	5.8%	1.1%	10.4%
③友人・知人とのおしゃべり	7.9%	14.0%	11.9%	21.1%	19.0%	26.2%
④趣味活動	5.5%	13.2%	12.0%	12.9%	28.1%	28.3%
⑤体健(運動・スポーツ)	14.1%	14.4%	10.0%	5.5%	29.8%	26.2%
⑥ボランティア活動	1.1%	1.5%	1.7%	4.6%	54.3%	36.8%
⑦町内会、自治会活動	0.0%	0.1%	1.1%	5.5%	54.8%	38.4%
⑧通院やリハビリ	1.5%	4.4%	6.2%	44.3%	21.5%	22.0%

1 高齢者一般調査

問 14 あなたは、普段の生活の場面で困ったことがありますか。(3つまで○) (N=722)

1. 日々の買物	2.5%	9. 入浴	1.2%
2. 日々のごみ出し	1.5%	10. 外出の際の移動手段	4.3%
3. 家具の移動	14.3%	11. 税金の支払や公共機関の手続き	3.9%
4. 庭の手入れ	7.6%	12. 財産やお金の管理	1.7%
5. 掃除	4.0%	13. 電化製品の扱い方	7.1%
6. 洗濯	1.1%	14. 家族や親戚の介護	3.0%
7. 炊事	2.5%	15. その他〔具体的に：〕	1.8%
8. トイレ	0.4%	16. 特になし	62.3%
		無回答	5.8%

問 15 あなたは、普段の生活の中で困りごとがあったとき、どこに(誰に)相談しますか。(いくつでも○) (N=722)

1. 家族	81.6%	7. 病院の医師・看護師・相談員など	12.2%
2. 親戚	17.3%	8. 市の職員	5.0%
3. 友人・知人	36.6%	9. 社会福祉協議会職員	1.1%
4. 近所の人	7.2%	10. その他〔具体的に：〕	2.1%
5. 民生委員	1.4%	11. 相談できる人がいない	3.9%
6. 地域包括支援センターの職員	5.8%	無回答	2.5%

問 16 あなたは、普段の生活の中で、どのような交通や移動手段を利用していますか。(3つまで○) (N=722)

1. 徒歩	72.0%	6. 電車	50.4%
2. 自転車	51.7%	7. タクシー	10.4%
3. 自家用車、バイク(自分で運転)	23.3%	8. その他〔具体的に：〕	0.3%
4. 自家用車、バイク(他人運転でもらう)	12.2%	9. 外出しないので利用しない	0.0%
5. バス	53.5%	無回答	0.4%

問 17 あなたは、地域の行事や活動には、どの程度参加・協力していますか。(1つに○) (N=722)

1. どの行事にも積極的に参加・協力する	1.4%
2. 関心があるものについては積極的に参加・協力する	19.0%
3. 頼まれれば参加・協力する	39.8%
4. 頼まれてもあまり参加・協力しない	6.4%
5. まったく参加・協力しない	29.1%
無回答	4.4%

問 18 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、あなたの生活にどのような変化がありましたか。(いくつでも○) (N=722)

1. 友達・親戚付き合いが減った	57.5%	6. 家族と過ごす時間が増えた	19.8%
2. 電話・ビデオ通話やメールが増えた	18.4%	7. 以前から興味があったこと始めた	6.8%
3. 外出を控えるようになった	68.6%	8. 在宅でのオンライン会議や勤務が増えた	4.4%
4. 運動量が減った	30.3%	9. 仕事・収入が減った(失業を含む)	8.6%
5. 自宅で過ごす時間が増えた	61.6%	10. その他〔具体的に：〕	5.8%
		無回答	1.5%

1 高齢者一般調査

健康管理についておたずねします

問 19 あなたは現在の健康状態はいかがですか。(1つに○) (N=722)

1. よい	13.6%	3. 悪つう	45.6%	5. よくない	2.4%
2. まあよい	22.2%	4. あまりよくない	14.1%	無回答	2.2%

問 20 あなたは普段の朝・昼・夜の食事は、自炊・手料理、中食※、外食のどれになることが多いですか。(①～③のそれぞれ1つに○) (N=722)

※家庭外で調理されたものを、購入もしくは配達等によって家庭内で食べる(冷凍食品、カップラーメンなどのインスタント食品を含む)。

	1. 自炊・手料理	2. 中食	3. 外食	4. 食べない	無回答
①朝食	85.5%	4.8%	0.4%	4.4%	4.8%
②昼食	62.6%	20.5%	8.4%	2.5%	6.0%
③夕食	88.4%	4.7%	1.5%	0.6%	4.8%

問 21 あなたは、普段どなたかと一緒に食事をする機会がありますか。(1つに○) (N=722)

1. 1日1回以上	62.2%	3. 月1回以上	11.9%	無回答	3.6%
2. 週1回以上	6.4%	4. ほとんどない	15.9%		

問 22 あなたは、普段体調を維持するためにに行っていることはありますか。(いくつでも○) (N=722)

1. 定期的に運動している	45.7%
2. 栄養のバランスなどに気をつけ、食べている	63.6%
3. 病期正しい生活をするように心がけている	60.7%
4. 病気の予防法などについて、テレビ・本・講演会などを利用して知識を深めている	27.1%
5. かかりつけの医師・歯科医師に、健康チェックをしてもらうようにしている	51.9%
6. 趣味活動などを行い、ストレスをためないようしている	34.6%
7. その他〔具体的に：〕	5.0%
8. 特になし	6.2%
無回答	1.1%

問 23 健康維持のために、今後利用する(したい)場所(施設)はどこですか。(いくつでも○) (N=722)

1. 市立のスポーツセンター・体育館	23.5%
2. 民間のスポーツジム・カルチャーセンター	15.5%
3. 福祉会館・老人福祉センター	12.5%
4. 公園・緑道の屋外	37.7%
5. 公民館・図書館	24.7%
6. その他〔具体的に：〕	2.2%
7. 特になし	27.7%
無回答	4.3%

問 24 あなたは「フレイル」という言葉を知っていますか。(1つに○) (N=722)

1. 言葉も内容も知っている	44.2%	3. 知らない	28.3%
2. 言葉は聞いたことがある	25.3%	無回答	2.2%

1 高齢者一般調査

問 25 西東京市では、高齢者のフレイル（虚弱）を防止、元気で過ごす時間を伸ばす取組として、どなたでも参加できるフレイルチェックを行っています。あなたはこ
のフレイルチェックを受けてみたいですか。(1つに○) (N=722)

1. 受けてみたい	29.5%	3. 分らない	40.9%
2. 受けたくない	25.6%	無回答	4.0%

問 26 西東京市では、心身の状態が悪くなってしまった方が、もう一度自分らしい暮らしを取り戻せるよう、リハビリ専門職等との週1回の面談・指導を通して、自ら立てた目標に向かい、短期間（約3か月間）でその目標の達成を目指すサービスを実施しています。心身の状態が悪くなってしまったときに、このようなサービスを利用したいと思えますか。(1つに○) (N=722)

1. 利用したい	36.7%	3. 分らない	41.4%
2. 利用したくない	18.0%	無回答	3.9%

問 27 あなたは、病气やけがなどで体の具合の悪いところ（自覚症状）がありますか。(いくつでも○) (N=722)

1. ない	15.5%	8. 便秘	12.9%
2. 物忘れをする	23.0%	9. 腰痛	32.3%
3. 目のかすみ	21.6%	10. 手足の関節が痛む	19.3%
4. 物が冴つらい	14.5%	11. 手足の動きが悪い	8.3%
5. 聞こえにくい	20.2%	12. 手足のしびれ	9.3%
6. せきやたんが出る	10.5%	13. 頻尿	25.2%
7. 肩こり	23.1%	14. その他【具体的に：】	7.8%
		無回答	2.5%

医療や介護についておたずねします

※「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬局」とは、あなたの生活の状況などを理解していて、健康や病气のことを日ごろから、気軽に相談できるような身近な開業医、歯科医、薬局をさ
します。

問 28 あなたには、「かかりつけ医」がいますか。(1つに○) (N=722)

1. いる	78.3%	3. 分らない	2.4%
2. いない	18.0%	無回答	1.4%

問 29 あなたには、「かかりつけ歯科医」がいますか。(1つに○) (N=722)

1. いる	75.3%	3. 分らない	2.4%
2. いない	20.8%	無回答	1.5%

問 30 あなたには、「かかりつけ薬局」がいますか。(1つに○) (N=722)

1. いる	62.7%	3. 分らない	4.7%
2. いない	31.0%	無回答	1.5%

1 高齢者一般調査

問 31 あなたは、現在治療中の病气やけががありますか。(いくつでも○) (N=722)

1. ない	20.1%	7. 歯の病气	17.6%
2. 糖尿病	11.4%	8. 関節症	7.6%
3. 脂質異常症（高コレステロール血症等）	22.0%	9. 腰痛症	13.2%
4. 眼の病气	15.9%	10. 骨粗しょう症	7.8%
5. 高血圧症	38.2%	11. 前立腺肥大症	4.0%
6. 狭心症・心筋梗塞	6.1%	12. その他【具体的に：】	15.4%
		無回答	2.4%

※はり、あんま、きゅう、柔道整復師による施術を含む。

問 32 あなたは、医療的ケアのため長期療養が必要になった場合、どこで生活したいと思えますか。(1つに○) (N=722)

1. 自宅	42.2%	
2. 子ども、親族の家	1.0%	⇒問 32-1へ
3. 高齢者向けのケア付き住宅	10.1%	
4. 特別養護老人ホームなどの福祉施設	8.4%	⇒問 32-2へ
5. 病院などの医療施設	20.4%	
6. その他【具体的に：】	0.3%	
7. 分からない	14.1%	
無回答	3.5%	

問 32-1 問 32で「1」「2」と回答した方におたずねします。
あなたは、あなたの希望の実現は可能だと思いますか。(1つに○) (n=312)

1. 難しいと思う	⇒問 32-2へ	28.5%
2. 可能だと思う		46.8%
3. その他【具体的に：】		1.9%
4. 分からない		20.8%
無回答		1.9%

問 32-2 問 32で「3」～「6」のいずれか、または問 32-1で「1」と回答した方におたずねします。それはなぜですか。(3つまで○) (n=372)

1. 家族や親族に負担をかけるから	70.2%
2. 介護してくれる家族や親族がいないから	17.5%
3. 急に病状が変化したときの対応が不安だから	39.5%
4. 訪問してくれる医師がいないから	6.5%
5. 訪問してくれる看護師がいないから	1.6%
6. 療養できる居住環境が整っていないから	19.9%
7. 介護のサービス体制が整っていないから	5.4%
8. 在宅でどのような医療や介護を受けられるか分からないから	28.0%
9. その他【具体的に：】	2.2%
無回答	6.7%

問 33 あなたが、人生の最期を迎えたい場所はどこですか。(1つに○) (N=722)

1. 自宅	48.6%
2. 子ども、親族の家	0.3%
3. 高齢者向けのケア付き住宅	5.7%
4. 特別養護老人ホームなどの福祉施設	5.1%
5. 病院などの医療施設	19.1%
6. その他〔具体的に：〕	0.6%
7. 分からない	17.9%
無回答	2.8%

⇒問 33-1 ⇨

⇒問 33-2 ⇨

問 33-1 問 33 で「1」「2」と回答した方におたずねします。
あなたは、あなたの希望の実現は可能だと思いますか。(1つに○) (n=353)

あなたと思う ⇒問 33-2 ⇨

1. 難しいと思う	34.3%
2. 可能だと思う	36.3%
3. その他〔具体的に：〕	1.7%
4. 分からない	26.9%
無回答	0.8%

問 33-2 問 33 で「3」～「6」のいずれか、または問 33-1 で「1」と回答した方におたずねします。それはなぜですか。(3つまで○) (n=341)

1. 家族や親族に負担をかけるから	71.0%
2. 介護してくれる家族や親族がいないから	14.7%
3. 急に病状が変わったときの対応が不安だから	45.2%
4. 訪問してくれる医師がいないから	6.5%
5. 訪問してくれる看護師がいないから	2.6%
6. 療養できる居住環境が整っていないから	16.1%
7. 介護のサービス体制が整っていないから	5.3%
8. 在宅でどのような医療や介護を受けられるか分からないから	25.5%
9. その他〔具体的に：〕	2.6%
無回答	5.3%

問 34 あなたは、延命治療をどこまで希望しますか。(1つに○) (N=722)

1. 最後まで、できる限りの延命治療をしてほしい	1.4%
2. 延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい	30.5%
3. 意識を取り戻したり返す見込みがない場合は、延命治療はしないでほしい	56.2%
4. その他〔具体的に：〕	0.7%
5. 分からない	7.9%
無回答	3.3%

問 35 問 32 から問 34 までの設問でお聞きした希望を家族や身近な方に伝えていきますか。(1つに○) (N=722)

1. 伝えている	⇒問 35-1 ⇨	42.4%
2. 伝えていない	⇒問 35-2 ⇨	52.8%
3. その他〔具体的に：〕		1.5%
無回答		3.3%

問 35-1 問 35 で「1」と回答した方におたずねします。
どのような形で伝えていきますか。(いくつでも○) (n=306)

1. 口頭で	94.4%
2. 私的なメモで	4.6%
3. 遺言などで	1.6%
4. 終活ノート(エンディングノート)で	6.5%
5. その他〔具体的に：〕	0.3%
無回答	1.0%

問 35-2 問 35 で「2」と回答した方におたずねします。
自分の希望を伝えていないのはなぜですか。(いくつでも○) (n=381)

1. まだ伝える時期ではないと思うから	69.6%
2. 伝えることをためらっているから	5.5%
3. 家族の希望に任せたいから	21.5%
4. その他〔具体的に：〕	7.9%
無回答	4.5%

生きがいについておたずねします

問 36 あなたは、これまでお住まいの地域で、街中いきいーなサロン、認知症カフェなどの住民同士が交流できる「通いの場」に参加したことがありますか。(1つに○) (N=722)

1. 参加したことがある	4.0%
2. 身近にあることは知っているが、参加したことはない	31.3%
3. 知らない	63.0%
無回答	1.7%

問 37 あなたが現在継続して行っていること、もしくは今後行いたいことは何ですか。(いくつでも○) (N=722)

1. 働くこと	26.6%	11. 家族の介護	5.5%
2. 文章を書くこと、読むこと(読書など)	31.0%	12. 近所との付き合い	21.3%
3. 旅行すること	49.9%	13. 公民館・福祉会館・老人福祉センター等での活動(町内会、自治会、社会福祉協議会などの活動を含む)	10.7%
4. 買い物に出かけること	55.8%	14. 個人、家族、趣味の会などの仲間内の活動	28.0%
5. 歌うこと(カラオケ、合唱など)	13.9%	15. ボランティア活動	10.5%
6. ゲームで遊ぶこと	7.8%	16. その他〔具体的に：〕	3.9%
7. スポーツを楽しむこと	27.1%	17. 特になし	3.9%
8. インターネットを使うこと	25.6%	無回答	2.1%
9. 自然にふれること(カーテニング、家庭菜園など)	33.2%		
10. 家族・親族とのふれあい	48.9%		

1 高齢者一般調査

問 38 次のような活動のうち、あなたができると思うものはどれですか。(いくつでも○) (N=722)

1. 見守りや声かけなど	38.4%	7. 行事の手伝い	17.3%
2. 話し相手	34.5%	8. 子育ての手伝い	6.9%
3. こみ出し、電球の取替えなど身の回り	16.5%	9. 趣味、特技を生かしたボランティア	16.5%
4. 簡単な手伝い	25.8%	10. 介護支援ボランティア*	4.2%
5. 草むしり、雪かきなどの力仕事	14.1%	11. 上記のどれも参加は難しい	12.7%
6. 買物の付き添い	23.3%	12. 分からない	14.7%
7. 医療機関通院時の付き添い	15.0%	13. その他(具体的に：)	4.6%
		無回答	4.0%

*介護に関連する各種のボランティア活動によって、年間 60 ポイント(6千円)を上限として換金できるポイントを得られる仕組み(60歳以上)

認知症についておたずねします

問 39 認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つに○) (N=722)

1. はい	10.1%	2. いいえ	87.3%
		無回答	2.6%

問 40 将来、もしも認知症になった場合、心配なことは何ですか。(いくつでも○) (N=722)

1. 家族の負担が増える	71.3%	5. お金の管理	29.8%
2. 世話をしてくれる人がいない	18.0%	6. 心配なことはない	2.8%
3. 公的なサービスが十分にあるのか心配	35.0%	7. その他(具体的に：)	1.1%
4. 自宅で生活できるのか心配	60.9%	無回答	2.1%

問 41 現在、認知症予防に取り組んでいることはありますか。(いくつでも○) (N=722)

1. 定期的な運動	44.3%	4. 人と会って話す	42.5%
2. 栄養バランスの取れた食事を摂る	51.8%	5. 特に何もしていない	23.1%
3. 脳トレーニング	27.3%	6. その他(具体的に：)	2.6%
		無回答	1.7%

問 41-1 問 41 で「5」と回答した方におたずねします。
認知症予防に取り組んでいない理由は何ですか。(いくつでも○) (n=167)

1. 現在健康であるため	51.5%	5. 運動できる場所を知らない	3.6%
2. 定期的に病院を診察しているため	24.0%	6. 予防の必要性を感じていない	16.2%
3. 何に取り組んだら良いかわからない	33.5%	7. その他(具体的に：)	5.4%
4. 運動する習慣がない	12.6%	無回答	1.8%

問 42 現在、西東京市では、認知症の正しい知識をもち、認知症の人や家族を応援しながら、暮らしやすいまちづくりを行うボランティア「認知症サポーター」を増やす運動をしています。このような「認知症サポーター」の制度について、あなたは知っていますか。(1つに○) (N=722)

1. よく知っている	7.5%	3. 全く知らない	57.1%
2. 名前を知っているがよく知らない	34.1%	無回答	1.4%

1 高齢者一般調査

問 43 急速な高齢化が進む西東京市でも、今後は認知症がますます増加すると予想されています。市ではこれまでもさまざまな認知症施策を推進してきましたが、今後どのような施策を進めることが重要だと考えますか。(いくつでも○) (N=722)

1. 認知症を自分ごととして考え、支援の輪を広げる地域づくりを進める	45.4%
2. 認知症に対する偏見をなくし、認知症の人の地域での役割の保持を進める	31.0%
3. 子どもたちが認知症を正しく理解するよう、教育や啓発を進める	27.4%
4. 認知症の人への虐待をなくし、認知症の人の権利を守る仕組みや制度を充実させる	33.8%
5. 認知症になっても使いやすい情報機器や商品の開発を進める	27.0%
6. 認知症の発症や進行を遅らせる予防や治療、リハビリテーションの研究を進める	56.9%
7. 若年性認知症の人の生活支援や、しごと、社会参加の支援を進める	26.3%
8. 認知症の人と家族が安心して買い物や外出ができる認知症バリアフリーを進める	27.3%
9. 認知症になってもあらゆる段階で医療と介護の連携が進められる	47.6%
10. 認知症になってもその人らしさが失われないような介護サービスを提供する	50.4%
11. 認知症の家族介護に関する相談や仲間づくりを進める	35.7%
12. その他(具体的に：)	2.6%
13. 分からない	9.0%
無回答	4.0%

高齢者虐待についておたずねします

問 44 次の中で、あなたが高齢者虐待へつながる可能性があると思うものは何ですか。(いくつでも○) (N=722)

1. 認知症の親が徘徊をしないように、部屋の外に出さなかった	52.2%
2. 高齢の親に忘れっぽくなくなった様子があったため、なぜ忘れてしまうのかを繰り返し聞いた	38.1%
3. 高齢の親が体調が悪い様子があったが、通院を拒否したため、そのままにした	42.4%
4. オムツをしている高齢の親がトイレに失敗しスポンを濡らしてしまったため、スポンを履かせなかった	57.1%
5. 忘れっぽくなくなった高齢の親名義の定期預金を、子の判断で解約した	30.2%
6. 分からない	21.6%
無回答	10.5%

問 45 高齢者虐待に気づいたときの通報先または相談先を知っていますか。(1つに○) (N=722)

1. 知っている	8.0%
→知っている相談先をご記入ください(具体的に：)	
2. 知らない	88.0%
無回答	4.0%

1 高齢者一般調査

高齢者を支えるしくみについておたずねします

問 46 あなたは、「地域包括支援センター※」を知っていますか。(1つに○)
 ※高齢者の方が住み慣れた地域で暮らしていることができるよう、介護・福祉・健康・医療など様々な面から関係機関との連携をとりながら、総合的に支えていく機関

1. 知っている	57.6%	2. 知らない	38.1%
		無回答	4.3%

問 47 介護保険外の高齢者福祉サービス（紙おむつの支給、見守り配食など）については、高齢者人口の増加に伴い、今後利用が増えていくと予想されます。これに対応するために、あなたの考えに一番近いものはどれですか。(1つに○)

1. サービスの対象者などの内容は変わらず、サービスを利用する人の自己負担を増やして対応する	17.9%
2. 自己負担を増やさずに、サービスの対象者などの内容を変えて対応する	47.8%
3. その他（具体的に：	3.5%
4. 分からない	22.7%
無回答	8.2%

問 48 あなたが、今後地域で暮らしていくために必要なことは、次のどれですか。

(いくつかでも○) (N=722)	
1. 近所とのつながり	49.3%
2. 友人とのつながり	43.2%
3. 家族、親族とのつながり	58.9%
4. 就労の場	10.7%
5. ボランティア等の社会貢献できる場	13.4%
6. 地域で気軽に集まり語り合える場	21.9%
7. 趣味や特技を発揮できる場	21.1%
8. スポーツや運動などを楽しめる場	30.5%
9. 健康相談ができる場	35.7%
10. 病気やケガなどの医療相談ができる場	40.6%
11. 暮らしに関する悩みごとなど相談できる場	37.7%
12. 介護・医療を受けながら暮らせる住まい	46.4%
13. 自立して暮らせる生活支援	42.5%
14. 自立が困難でも権利が守られるしくみ	24.9%
15. その他（具体的に：	1.2%
16. 分からない	3.2%
無回答	2.1%

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめの上、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、**12月12日（月）までに**お近くのポストに投函してください。

**西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
策定のための市民アンケート調査
(介護予防・日常生活圏域二一ス調査) ご協力をお願い**

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。
さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を1期として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和5年度に、令和6年度から8年度までの第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定します。

このアンケート調査は、65歳以上の市民の皆様へ、健康・福祉・介護に関することや日常生活でお困りのことなどについてご意見とご要望をお聞かせいただき、計画の策定に役立てるものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月

西東京市長 池澤 隆史

記入についてのお願い

1. この調査は、**令和4年11月1日現在**でお答えください。
2. 回答は、特に説明のない限り、あてはまる番号を○で囲んでください。
3. 回答が「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み、〔 〕内にその内容を記入してください。
4. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印(⇒)など、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。
5. 回答はできる限り、対象者本人がご記入ください。なお、対象者本人おひとりの回答が難しい場合は、ご家族の方がお手伝いいただくか、対象者の意見を聞いた上でご家族の方が代わりにご記入ください。

★対象の方が何らかの事情により記入できない場合は、回答不要です。下の枠内のいずれかに○印をつけてご返送ください。

1. 医療機関入院中
2. 福祉施設入所中
3. 転居
4. その他〔 〕

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、**同封の返信用封筒(切手は不要)**に入れ、

12月12日(月)までに ご返送ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時(土日・祝日を除く。)

★調査の内容、調査票の書き方や同封の不足について

株式会社 生活構造研究所

TEL 0120-335-120 (フリーダイヤル)

★調査の趣旨について

西東京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810~2816 (直通)

(この調査は西東京市から株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。)

問1 調査票の記入日をご記入ください。

記入日	令和4年	月	日
-----	------	---	---

問2 調査票を記入されたのはどなたですか。(1つに○) (N=1,482)

1. あて名のご本人が記入 93.5%
2. ご家族が記入(あて名のご本人からみられた続柄) 3.2%
3. その他 0.0%
- 無回答 3.4%

あなた(あて名ご本人)についておたずねします

※以下の質問で「あなた」とは、あて名ご本人のことです。お間違えないようにお答えください。

問3 あなたの性別をお答えください。(1つに○) (N=1,482)

1. 男性 44.2%
2. 女性 55.5%
- 無回答 0.3%

問4 あなたの年齢をお答えください。(数字を記入)

※令和4年11月1日現在の年齢でお答えください。 (N=1,482)

平均 75.5 歳

問5 あなたの要支援認定の状況についてお答えください。(1つに○)

※令和4年11月1日現在の状況でお答えください。更新申請などの理由で、結果が出ていない方は、分かっている状況でお答えください。 (N=1,482)

1. 認定なし 86.8%
2. 要支援1 3.2%
3. 要支援2 1.2%
4. 事業対象者 0.5%
5. 分からない 5.3%
- 無回答 3.1%

問6 あなたのお住まいの地区をお答えください。(1つに○) (N=1,482)

1. 田無町 7.2%
2. 南町 5.6%
3. 西原町 3.4%
4. 緑町 2.3%
5. 谷戸町 7.2%
6. 北原町 2.5%
7. 向台町 6.2%
8. 芝久保町 7.6%
9. 新町 3.6%
10. 柳沢 6.3%
11. 東伏見 3.2%
12. 保谷町 6.4%
13. 富士町 5.3%
14. 中町 4.3%
15. 東町 3.0%
16. 泉町 5.0%
17. 住吉町 4.3%
18. ひばりヶ丘 5.2%
19. ひばりが丘 1.8%
20. 栄町 1.4%
21. 北町 2.9%
22. 下保谷 4.9%
- 無回答 0.5%

あなたのご家族や生活状況についておたずねします

問7 家族構成をお教えてください。(1つに○) (N=1,482)

1. 1人暮らし	20.7%	4. 息子・娘との2世帯	16.5%
2. 夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	41.8%	5. その他(具体的に:)	15.5%
3. 夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	4.6%	無回答	0.8%

問8 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(1つに○) (N=1,482)

1. 介護・介助は必要ない	90.4%
2. 何らかの介護・介助が必要だが、現在は受けていない	5.3%
3. 現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む) 無回答	3.0%
	1.3%

⇒問8-1へ

問8-1 問8において、「2」または「3」と答えた方の方のみにおたずねします。

介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(いくつでも○)

1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	10.6%	9. 腎疾患(透析)	5.7%
2. 心臓病	9.8%	10. 視覚・聴覚障害	13.8%
3. がん(悪性新生物)	5.7%	11. 骨折・転倒	19.5%
4. 呼吸器の病気(肺炎・肺がん等)	8.1%	12. 背椎損傷	8.9%
5. 関節の病気(リウマチ等)	9.8%	13. 高齢による衰弱	20.3%
6. 認知症(アルツハイマー病等)	7.3%	14. その他(具体的に:)	17.9%
7. パーキンソン病	1.6%	15. 不明	0.8%
8. 糖尿病	9.8%	無回答	5.7%

問9 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. 大変苦しい	6.8%	4. ややゆとりがある	9.8%
2. やや苦しい	20.8%	5. 大変ゆとりがある	1.2%
3. ぶつう	60.6%	無回答	0.8%

問10 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つに○) (N=1,482)

1. 持家(一戸建て)	56.1%	5. 民間賃貸住宅(集合住宅)	8.4%
2. 持家(集合住宅)	20.9%	6. 借家	1.5%
3. 公営賃貸住宅	10.7%	7. その他(具体的に:)	1.3%
4. 民間賃貸住宅(一戸建て)	0.6%	無回答	0.5%

からだを動かすことについておたずねします

問11 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. できるし、している	64.2%	3. できない	14.6%
2. できるけどしていない	19.2%	無回答	2.1%

問12 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. できるし、している	79.6%	3. できない	8.3%
2. できるけどしていない	10.0%	無回答	2.1%

問13 15分位続けて歩いていきますか。(1つに○) (N=1,482)

1. できるし、している	82.7%	3. できない	5.9%
2. できるけどしていない	9.9%	無回答	1.5%

問14 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つに○) (N=1,482)

1. 何度もある	5.5%	3. ない	73.5%
2. 1度ある	19.2%	無回答	1.8%

問15 転倒に対する不安は大きいですか。(1つに○) (N=1,482)

1. とても不安である	10.9%	3. あまり不安でない	29.4%
2. やや不安である	35.9%	4. 不安でない	22.1%
		無回答	1.7%

問16 週に1回以上は外出していますか。(1つに○) (N=1,482)

1. ほとんど外出しない	4.1%	3. 週2~4回	40.9%
2. 週1回	9.4%	4. 週5回以上	44.0%
		無回答	1.6%

問17 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. とも減っている	4.7%	3. あまり減っていない	31.0%
2. 減っている	26.1%	4. 減っていない	36.5%
		無回答	1.6%

問18 外出を控えていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	34.1%	2. いいえ	64.6%
		無回答	1.2%

問18-1 問18で「1. はい」(外出を控えている)の方のみにおたずねします。

外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも○) (n=506)

1. 病氣	4.3%	7. 外での楽しみがない	13.0%
2. 障害(脳卒中の後遺症など)	0.2%	8. 経済的に出られない	5.9%
3. 足腰などの痛み	26.7%	9. 交通手段がない	2.4%
4. トイレの心配(失禁など)	6.7%	10. 感染症(新型コロナウイルスなどの)予防	77.5%
5. 耳の障害(聞こえの悪化など)	3.8%	11. その他(具体的に:)	8.9%
6. 目の障害	2.8%	無回答	1.4%

2 介護予防・日常生活圏域二一ス調査

問 19 外出する際の移動手段は何ですか。(いくつでも可) (N=1,482)

1. 徒歩	82.0%	8. 病院や施設のバス	1.1%
2. 自転車	49.1%	9. 車いす	0.0%
3. バイク	2.6%	10. 電動車いす (カート)	0.1%
4. 自動車 (自分で運転)	27.9%	11. 歩行者・シルバーカー	1.3%
5. 自動車 (人に乗せてもらう)	14.8%	12. タクシー	14.3%
6. 電車	56.1%	13. その他 (具体的に:)	0.4%
7. 路線バス	58.0%	無回答	1.3%

食べることにしておたずねします

問 20 身長・体重をご記入ください。(N=1,482)

身長 平均 158.7 cm 体重 平均 57.5 kg

問 21 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	26.0%	2. いいえ	72.9%	無回答	1.1%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 22 お茶や汁物等でむせることがありますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	25.7%	2. いいえ	73.3%	無回答	1.0%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 23 口の渴きが気になりますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	25.1%	2. いいえ	73.4%	無回答	1.5%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 24 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください。(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です。)(1つに○) (N=1,482)

1. 自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用	21.2%
2. 自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし	35.9%
3. 自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用	29.7%
4. 自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし	9.8%
無回答	3.4%

問 25 6か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	10.9%	2. いいえ	88.1%	無回答	1.1%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 26 どなたかと食事をとむる機会がありますか。(1つに○) (N=1,482)

1. 毎日ある	56.4%	4. 年に何度かある	8.2%
2. 週に何度かある	7.2%	5. ほとんどない	10.1%
3. 月に何度かある	16.5%	無回答	1.6%

2 介護予防・日常生活圏域二一ス調査

毎日の生活についておたずねします

問 27 物忘れが多いと感じますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	38.0%	2. いいえ	59.0%	無回答	3.0%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 28 バスや電車をを使って 1 人で外出していますか。(自家用車でも可) (1つに○) (N=1,482)

1. できるし、している	84.1%	3. できない	2.9%
2. できるけどしていない	11.3%	無回答	1.7%

問 29 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. できるし、している	88.1%	3. できない	2.2%
2. できるけどしていない	8.5%	無回答	1.3%

問 30 自分で食事の用意をしていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. できるし、している	75.8%	3. できない	5.5%
2. できるけどしていない	17.4%	無回答	1.3%

問 31 自分で請求書の支払いをしていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. できるし、している	86.2%	3. できない	2.5%
2. できるけどしていない	9.8%	無回答	1.5%

問 32 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. できるし、している	88.3%	3. できない	2.4%
2. できるけどしていない	8.2%	無回答	1.1%

問 33 年金などの書類 (役所や病院などに出す書類) が書けますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	92.0%	2. いいえ	6.6%	無回答	1.3%
-------	-------	--------	------	-----	------

問 34 新聞を読んでいますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	72.5%	2. いいえ	26.2%	無回答	1.3%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 35 本や雑誌を読んでいますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	75.8%	2. いいえ	22.7%	無回答	1.5%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 36 健康についての記事や番組に関心がありますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	89.5%	2. いいえ	9.3%	無回答	1.2%
-------	-------	--------	------	-----	------

問 37 友人の家を訪ねていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	32.5%	2. いいえ	66.3%	無回答	1.3%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 38 家族や友人の相談にのっていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	77.3%	2. いいえ	20.9%	無回答	1.8%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 39 病人を見舞うことができますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	79.9%	2. いいえ	17.5%	無回答	2.6%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 40 若い人に自分から話しかけることがありますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	71.7%	2. いいえ	26.7%	無回答	1.6%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 41 あなたは、普段どのような情報通信機器を利用していますか。(いくつでも○) (N=1,482)

1. スマートフォン	70.1%	5. 固定電話・FAX	57.2%
2. タブレット型端末	13.4%	6. その他(具体的に:)	1.1%
3. 携帯電話(スマートフォン以外)	19.6%	7. 情報通信機器は利用していない	2.3%
4. パソコン	34.1%	無回答	1.7%

問 42 あなたは、スマートフォンなどの操作方法など、情報通信機器の使い方を教えてくれるような機会があったら参加(利用)したいと思いますか。(1つに○) (N=1,482)

1. 参加(利用)したい	41.4%	3. 参加(利用)する必要がない	29.9%
2. 参加(利用)したくない	14.0%	4. 分からない	12.6%
		無回答	2.1%

問 43 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、あなたの生活にはどのような変化がありましたか。(いくつでも○) (N=1,482)

1. 友達・親戚付き合いが減った	67.3%
2. 電話・ビデオ通話やメールが増えた	24.6%
3. 外出を控えるようになった	63.0%
4. 運動量が減った	29.1%
5. 自宅で過ごす時間が増えた	60.5%
6. 家族と過ごす時間が増えた	24.6%
7. 以前から興味があったことを始めた	7.6%
8. 在宅でのオンライン会議や勤務が増えた	5.2%
9. 仕事・収入が減った(失業を含む)	9.3%
10. その他(具体的に:)	5.3%
無回答	3.0%

地域での活動についておたずねします

問 44 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(①～⑧のそれぞれ1つに○) (N=1,482)

	週4回以上	週3回	週2回	週1回	月に1～3回	年に数回	参加しない	無回答
①ボランティアのグループ	0.5%	0.9%	0.9%	0.9%	3.0%	2.8%	69.6%	22.1%
②スポーツ関係のグループやクラブ	5.5%	8.1%	7.3%	3.6%	1.7%	55.3%	18.5%	
③趣味関係のグループ	1.2%	4.4%	5.5%	10.5%	4.6%	55.5%	18.3%	
④学習・教養サークル	0.3%	1.0%	1.1%	3.2%	2.2%	68.6%	23.7%	
⑤(街中)にいーなサロン、いきいきミニデイ、いきいき百歳体健など)介護予防のための通いの場	0.1%	0.5%	1.1%	0.5%	0.3%	73.8%	23.6%	
⑥老人クラブ	0.1%	0.5%	0.4%	0.9%	0.7%	74.1%	23.2%	
⑦町内会・自治会	0.1%	0.1%	0.3%	2.3%	5.7%	68.1%	23.3%	
⑧収入のある仕事	12.7%	8.0%	1.8%	1.6%	0.5%	55.0%	20.4%	

問 45 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行っている、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つに○) (N=1,482)

1. 是非参加したい	5.3%	3. 参加したくない	36.2%	無回答	5.0%
2. 参加してもよい	49.4%	4. 既に参加している	4.2%		

問 46 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行っている、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(1つに○) (N=1,482)

1. 是非参加したい	1.9%	3. 参加したくない	57.1%	無回答	4.8%
2. 参加してもよい	32.8%	4. 既に参加している	3.4%		

問 47 あなたは、お住まいの地域の方から何らかの役割を期待されたり、頼りにされたりしていると思いますか。(1つに○)

※自分なりにできること、会やグループでの役、隣近所のちょっとしたこと、お手伝いやお願いごとなど

1. とてもそう思う	1.6%	3. ややそう思う	13.8%	5. そう思わない	45.2%
2. そう思う	7.0%	4. あまりそう思わない	28.5%	無回答	3.9%

2 介護予防・日常生活圏域二一ス調査

たすけあいについて
あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

問 48 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいいますか。（いくつでも○）（N=1,482）

1. 配偶者	55.7%	5. 近隣	10.1%
2. 同居の子ども	19.8%	6. 友人	51.7%
3. 別居の子ども	39.4%	7. その他〔具体的に：〕	2.2%
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	29.8%	8. そのような人はいない	4.5%
		無回答	1.5%

問 49 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいいますか。

（いくつでも○）（N=1,482）

1. 配偶者	51.8%	5. 近隣	11.7%
2. 同居の子ども	17.6%	6. 友人	50.7%
3. 別居の子ども	36.4%	7. その他〔具体的に：〕	2.0%
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	30.2%	8. そのような人はいない	7.2%
		無回答	1.8%

問 50 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はいいますか。

（いくつでも○）（N=1,482）

1. 配偶者	59.2%	5. 近隣	3.0%
2. 同居の子ども	24.4%	6. 友人	8.1%
3. 別居の子ども	33.7%	7. その他〔具体的に：〕	0.9%
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	11.5%	8. そのような人はいない	7.8%
		無回答	1.9%

問 51 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人はいいますか。（いくつでも○）（N=1,482）

1. 配偶者	58.6%	5. 近隣	3.6%
2. 同居の子ども	19.5%	6. 友人	10.6%
3. 別居の子ども	26.0%	7. その他〔具体的に：〕	0.9%
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫	20.6%	8. そのような人はいない	16.7%
		無回答	3.0%

問 52 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。

（いくつでも○）（N=1,482）

1. 自治会・町内会・老人クラブ	2.9%	5. 地域包括支援センター・役所	16.1%
2. 社会福祉協議会・民生委員	4.0%	6. その他〔具体的に：〕	4.5%
3. ケアマネジャー	5.7%	7. そのような人はいない	44.8%
4. 医師・歯科医師・看護師	30.7%	無回答	5.7%

問 53 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。（1つに○）（N=1,482）

1. 毎日ある	4.0%	4. 年に何度かある	25.6%
2. 週に何度かある	23.6%	5. ほとんどない	20.3%
3. 月に何度かある	24.3%	無回答	2.2%

2 介護予防・日常生活圏域二一ス調査

問 54 条件を整えば、困っている人をあなたが手伝えることは何ですか。（いくつでも○）（N=1,482）

1. 家事の手伝い	20.9%	6. 短時間の子ども預り	7.7%
2. 外出の付添・送迎	19.4%	7. 子どもの学習指導	4.9%
3. 買物の代行	32.2%	8. 子どもの登下校の見守り	12.8%
4. 声掛け（話し相手）・見守り	37.9%	9. その他〔具体的に：〕	1.5%
5. 健康教室等の開催の手伝い	8.6%	10. なし	30.6%
		無回答	6.1%

問 55 あなたが、現在手伝ってほしいことは何ですか。（いくつでも○）（N=1,482）

1. 家事の手伝い	5.2%	6. 電球の交換	7.9%
2. 外出の付添・送迎	2.4%	7. 庭木の手入れ	10.7%
3. 買物の代行	3.4%	8. その他〔具体的に：〕	2.0%
4. 声掛け（話し相手）・見守り	2.2%	9. なし	65.1%
5. 家具や重い荷物の移動	14.4%	無回答	6.0%

健康についておたずねします

問 56 現在のあなたの健康状態はいかがですか。（1つに○）（N=1,482）

1. とてもよい	10.3%	3. あまりよくない	16.1%	無回答	2.6%
2. まあよい	68.7%	4. よくない	2.4%		

問 57 あなたは、現在のどの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数に○をつけてください。（N=1,482）

とても不幸	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	とても幸せ
	0.5%	0.3%	0.3%	2.8%	1.9%	17.1%	10.5%	19.1%	21.3%	11.3%	11.0%	
												無回答 3.9%

問 58 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。（1つに○）（N=1,482）

1. はい	36.5%	2. いいえ	59.9%	無回答	3.6%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 59 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。（1つに○）（N=1,482）

1. はい	21.5%	2. いいえ	75.1%	無回答	3.4%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 60 タバコは吸っていますか。（1つに○）（N=1,482）

1. ほぼ毎日吸っている	7.6%	3. 吸っていたがやめた	31.4%
2. 時々吸っている	0.8%	4. ともとも吸っていない	57.8%
		無回答	2.4%

問 61 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも○) (N=1,482)

1. ない	16.5%	11. 外傷 (転倒・骨折等)	2.6%
2. 高血圧	39.5%	12. がん (悪性新生物)	4.0%
3. 脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	2.4%	13. 血液・免疫の病気	1.3%
4. 心臓病	9.4%	14. うつ病	0.8%
5. 糖尿病	11.2%	15. 認知症 (アルツハイマー病等)	0.3%
6. 高脂血症 (脂質異常)	17.1%	16. パーキンソン病	0.3%
7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	4.7%	17. 目の病気	16.7%
8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気	4.4%	18. 耳の病気	5.7%
9. 腎臓・前立腺の病気	7.0%	19. その他 (具体的に：)	11.5%
10. 筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)	13.8%	無回答	6.3%

問 62 あなたは「フレイル」という言葉を知っていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. 言葉も内容も知らない	40.3%
2. 言葉は聞いたことがある	26.6%
3. 知らない	28.1%
無回答	5.0%

問 63 西東京市では、高齢者のフレイル (虚弱) を防ぎ、元気で過ごす時間を伸ばす取組として、どなたでも参加できるフレイルチェックを行っています。あなたはご自分のフレイルチェックを受けてみたいですか。(1つに○) (N=1,482)

1. 受けてみたい	27.2%
2. 受けたくない	27.6%
3. 分からない	41.0%
無回答	4.3%

問 64 西東京市では、心身の状態が悪化してしまったり、もう一度自分らしい暮らしを取り戻せるよう、リハビリ専門職等との週1回の面談・指導を通して、自ら立てた目標に向かい、短期間 (約3か月間) でその目標の達成を目指すサービスを実施しています。心身の状態が悪化してしまったり、このようなサービスを利用したいと思いませんか。(1つに○) (N=1,482)

1. 利用したい	32.9%
2. 利用したくない	18.1%
3. 分からない	46.1%
無回答	3.0%

認知症にかかる相談窓口の把握についておたずねします

問 65 認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	9.6%	2. いいえ	86.4%	無回答	3.9%
-------	------	--------	-------	-----	------

問 66 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つに○) (N=1,482)

1. はい	26.9%	2. いいえ	68.7%	無回答	4.5%
-------	-------	--------	-------	-----	------

問 67 急速な高齢化が進む西東京市でも、今後は認知症がますます増加すると予想されています。市ではこれまでもさまざまな認知症施策を推進してきましたが、今後はどのような施策を進めると考えますか。(いくつでも○) (N=1,482)

1. 認知症を自分ごととして考え、支援の輪を広げる地域づくりを進める	46.7%
2. 認知症に対する偏見をなくし、認知症の人の地域での役割の保持を進める	34.0%
3. 子どもたちが認知症を正しく理解するよう、教育や啓発を進める	32.9%
4. 認知症の人への虐待をなくし、認知症の人の権利を守る仕組みや制度を充実させる	37.9%
5. 認知症になっても使いやすい情報機器や商品の開発を進める	32.8%
6. 認知症の発症や進行を遅らせる予防や治療、リハビリテーションの研究を進める	62.1%
7. 若年性認知症の人の生活支援や、しごと、社会参加の支援を進める	32.8%
8. 認知症の人と家族が安心して買い物や外出ができる認知症バリアフリーを進める	33.7%
9. 認知症になってもあらゆる段階で医療と介護の連携が進められる	52.7%
10. 認知症になってもその人らしさが失われないような介護サービスを提供する	53.6%
11. 認知症の家族介護に関する相談や仲間づくりを進める	44.3%
12. その他 (具体的に：)	3.8%
13. 分からない	7.8%
無回答	7.3%

調査にご協力いただき誠にありがとうございます。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめの上、同封の返信用封筒 (切手は不要) に入れて、**12月12日 (月) までに**お近くのポストに投函してください。

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定のための市民アンケート調査 ご協力をお願い

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。
さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を1期として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和5年度に、令和6年度から8年度までの第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定します。
このアンケート調査は、40歳以上の市民の方で、介護保険の要介護・要支援認定を受けられている方に、健康・福祉・介護に関することなどについてご意見とご要望をお聞かせいただき、計画の策定に役立てるものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月

西東京市長 池澤 隆史

記入についてお願い

1. この調査は、令和4年11月1日現在でお答えください。
 2. 回答は、特に説明のない限り、あてはまる番号を○で囲んでください。
 3. 回答が「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み、〔 〕内にその内容を記入してください。
 4. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印(⇒)など、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。
 5. 回答は、対象者ご本人でご記入ください。なお、対象者ご本人が回答できない場合は、ご本人を主に介護されている方がご記入ください。
- ★対象の方が何らかの事情により記入できない場合は、回答不要です。下の枠内のいずれかに○印をつけてご返送ください。

1. 医療機関入院中 2. 福祉施設入所中 3. 転居 4. その他〔 〕

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、

12月12日(月)までに ご返送ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時（土日・祝日を除く。）

★調査の内容、調査票の書き方や同封物の不足について

株式会社 生活構造研究所
TEL 0120-335-120（フリーダイヤル）

★調査の趣旨について

西東京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810～2816（直通）
（この調査は西東京市から株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。）

問1 この調査票はどなたがご記入されますか。（1つに○） (N=871)

- | | |
|-----------------------|-------|
| 1. あてご本人 | 44.7% |
| 2. ご本人を主に介護されている方〔続柄〕 | 39.7% |
| 3. その他〔具体的に： 〕 | 3.2% |
| 無回答 | 12.4% |

あなた（あてご本人）についておたずねします

※以下の質問で「あなた」とは、あてご本人のことです。お間違えないようにお答えください。

問2 あなたは性別をお答えください。（1つに○） (N=871)

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-----|------|
| 1. 男性 | 37.7% | 2. 女性 | 61.0% | 無回答 | 1.4% |
|-------|-------|-------|-------|-----|------|

問3 あなたの年齢をお答えください。（数字を記入） (N=871)

※令和4年11月1日現在の年齢でお答えください。

平均83.7 歳

問4 あなたのお住まいの地区をお答えください。（1つに○） (N=871)

- | | | | | | | | |
|--------|------|---------|------|-----------|------|-----------|------|
| 1. 田無町 | 6.9% | 7. 向台町 | 6.5% | 13. 富士町 | 4.4% | 19. ひばりが丘 | 2.5% |
| 2. 南町 | 6.3% | 8. 芝久保町 | 9.6% | 14. 中町 | 2.9% | 20. 栄町 | 1.6% |
| 3. 西原町 | 3.0% | 9. 新町 | 3.9% | 15. 東町 | 3.1% | 21. 北町 | 2.6% |
| 4. 緑町 | 2.1% | 10. 柳沢 | 6.5% | 16. 泉町 | 5.7% | 22. 下保谷 | 3.3% |
| 5. 谷戸町 | 6.4% | 11. 東伏見 | 2.6% | 17. 住吉町 | 3.9% | 無回答 | 1.8% |
| 6. 北原町 | 2.5% | 12. 保台町 | 6.4% | 18. ひばりが丘 | 5.2% | | |

問5 あなたのお住まいは次のうちどれですか。（1つに○） (N=871)

- | | | | |
|--------------------|-------|-----------------------------------|------|
| 1. 一戸建ての持ち家 | 55.1% | 6. 社宅・官舎 | 0.1% |
| 2. 一戸建ての借家 | 1.6% | 7. 高齢者向け住宅（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅） | 3.6% |
| 3. 分譲マンション | 12.1% | 8. その他〔具体的に： 〕 | 3.8% |
| 4. 民間賃貸アパート・マンション | 9.3% | 無回答 | 1.1% |
| 5. 公的賃貸住宅（都営・市営など） | 13.3% | | |

問6 家族構成をお答えください。（1つに○） (N=871)

- | | | | |
|----------------------|-------|----------------|-------|
| 1. 1人暮らし | 26.9% | 4. 息子・娘との2世帯 | 22.0% |
| 2. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上） | 28.4% | 5. その他〔具体的に： 〕 | 18.7% |
| 3. 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下） | 2.0% | 無回答 | 2.1% |

問7 あなた現在の介護度はどれですか。（1つに○） (N=871)

- | | | | | | |
|---------|-------|---------|-------|---------|-------|
| 1. 要支援1 | 13.5% | 3. 要介護1 | 22.5% | 6. 要介護4 | 11.1% |
| 2. 要支援2 | 8.0% | 4. 要介護2 | 17.6% | 7. 要介護5 | 8.5% |
| | | 5. 要介護3 | 14.5% | 無回答 | 4.2% |

医療の状況についておたずねします

※「かかりつけ医」「かかりつけ歯科医」「かかりつけ薬局」とは、あなたの生活の状況などを理解して、健康や病気のことを日ごろから、気軽に相談できるような身近な開業医、歯科医、薬局をさします。

問 8 あなたには、「かかりつけ医」がいますか。(1つに○) (N=871)	1. いる 90.9%	3. 分からない 2.5%
	2. いない 4.9%	無回答 1.6%
問 9 あなたには、「かかりつけ歯科医」がいますか。(1つに○) (N=871)	1. いる 65.8%	3. 分からない 2.4%
	2. いない 29.0%	無回答 2.8%
問 10 あなたには、「かかりつけ薬局」がありますか。(1つに○) (N=871)	1. いる 83.8%	3. 分からない 3.6%
	2. いない 10.0%	無回答 2.6%
問 11 あなたは、訪問診療や訪問看護などの在宅医療を利用していますか。(1つに○) (N=871)	1. 利用している 46.3%	3. 分からない 1.6%
	2. 利用していない 49.0%	無回答 3.1%
問 12 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも○) (N=871)	1. ない 4.9%	11. 外傷(転倒・骨折等) 9.1%
	2. 高血圧 43.2%	12. がん(悪性新生物) 6.3%
	3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 13.1%	13. 血液・免疫の病気 2.0%
	4. 心臓病 16.6%	14. うつ病 2.0%
	5. 糖尿病 17.8%	15. 認知症(アルツハイマー病等) 15.2%
	6. 高脂血症(脂質異常) 7.7%	16. パーキンソン病 6.4%
	7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等) 7.9%	17. 目の病気 18.7%
	8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 5.4%	18. 耳の病気 6.2%
	9. 腎臓・前立腺の病気 10.4%	19. その他(具体的に:) 15.6%
	10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症 関節症等) 18.3%	無回答 2.9%
問 13 あなたは、介護や医療的ケアのため長期療養が必要になり、その後人生の最期を迎えたとしたら、どこで生活したいと思いますか。(1つに○) (N=871)	1. 自宅 48.9%	⇒問 13-1へ
	2. 子ども、親族の家 2.6%	⇒問 13-2、3へ
	3. 高齢者向けのケア付き住宅 5.9%	
	4. 特別養護老人ホームなどの福祉施設 14.2%	
	5. 病院などの医療施設 9.8%	
	6. その他(具体的に:) 1.0%	
	7. 分からない 11.3%	無回答 6.3%

問 13-1 問 13 で「1」「2」と回答した方におたずねします。

あなたは、あなたの希望の実現は可能だと思いますか。(1つに○) (n=449)

⇒問 13-2、3へ

1. 難しいと思う	29.4%
2. 可能だと思う	43.2%
3. その他(具体的に:)	2.2%
4. 分からない	21.8%
無回答	3.3%

問 13-2 問 13 で「3」～「6」のいずれか、または問 13-1 で「1」と回答した方におたずねします。

それはなぜですか。(3つまで○) (n=401)

1. 家族や親族に負担をかけるから	54.9%
2. 介護してくれる家族や親族がいないから	13.0%
3. 急に病状が変わったときの対応が不安だから	41.1%
4. 訪問してくれる医師がいないから	6.5%
5. 訪問してくれる看護師がいないから	2.0%
6. 療養できる居住環境が整っていないから	23.2%
7. 介護のサービス体制が整っていないから	11.7%
8. 在宅でどのような医療や介護を受けられるか分からないから	21.9%
9. その他(具体的に:)	4.7%
無回答	13.0%

問 13-3 問 13 で「3」～「6」のいずれか、または問 13-1 で「1」と回答した方におたずねします。

どのような支援・サービスがあれば、少しでも長く在宅で過ごせると思えますか。(3つまで○) (n=401)

1. 通所介護を中心に、訪問介護や短期入所を組み合わせさせた介護サービス	34.4%
2. 夜間に定期的に巡回して行う訪問介護と、通報に基づき随時対応する訪問介護	16.0%
3. 日中・夜間を通じて定期的な巡回と通報による訪問し、介護や看護を行うサービス	26.4%
4. 家族の用事などによって柔軟に対応可能な短期入所	24.4%
5. 身近な医療機関が提供する訪問診療や訪問看護などの在宅医療サービス	30.4%
6. 分からない	15.2%
7. その他(具体的に:)	4.5%
無回答	17.2%

問 14 あなたは、延命治療をどこまで希望しますか。(1つに○) (N=871)

1. 最後まで、できる限りの延命治療をしてほしい	4.5%
2. 延命治療よりも苦痛をやわらげる緩和的治療をしてほしい	28.1%
3. 意識を取り戻したり回復する見込みがない場合は、延命治療はしないでほしい	46.0%
4. その他(具体的に:)	0.7%
5. 分からない	13.1%
無回答	7.6%

3 要介護・要支援認定者調査

問 15 問 13 から問 14 までの設問でお聞きした希望を家族や身近な方に伝えていきますか。(1つに○)
(N=871)

1. 伝えている	⇒問 15-1 へ	59.0%
2. 伝えていない	⇒問 15-2 へ	32.4%
3. その他(具体的に: 無回答))	1.8% 6.8%

問 15-1 問 15 で「1」と回答した方におたずねします。
どのような形で伝えていきますか。(いくつでも○)
(n=514)

1. 口頭で	92.2%
2. 私的なメモで	5.8%
3. 遺言などで	2.9%
4. 終活ノート(エンディングノート)で	3.5%
5. その他(具体的に: 無回答)	2.9% 1.2%

問 15-2 問 15 で「2」と回答した方におたずねします。
自分の希望を伝えていないのはなぜですか。(いくつでも○)
(n=282)

1. まだ伝える時期ではないと思うから	41.5%
2. 伝えることをためらっているから	11.0%
3. 家族の希望に任せたいから	29.4%
4. その他(具体的に: 無回答)	16.0% 9.9%

介護保険サービスの利用についておたずねします

問 16 あなたは、現在介護保険サービス(介護予防・日常生活支援総合事業を含む。)を利用していますか。(1つに○)
(N=871)

1. 利用している	⇒問 16-1~6 へ	82.2%
2. 利用していない	⇒問 17 (P8) へ	15.4%
3. その他(具体的に: 無回答))	0.3% 2.1%

3 要介護・要支援認定者調査

問 16-1 問 16 で「1. 利用している」と回答した方におたずねします。
現在、あなたが利用している介護保険サービスと、今後回数や日数を増やしたいサービス、あるいは現在利用していないが、今後新たに利用したいサービス、利用したいが利用できないサービスは何か。(それぞれあてはまるものに○)
(n=716)

★は要支援1~2の方も利用できるサービス	現在利用しているサービス	今後増やしたい、利用できないサービス	利用したいサービス
◆家庭への訪問や通いで受けるサービス			
1. 訪問介護★(ホームヘルパーの訪問)	30.9%	5.4%	0.8%
2. 訪問入浴介護★(入浴チームの訪問)	11.6%	4.6%	1.0%
3. 訪問看護★(看護師などの訪問)	28.4%	3.6%	0.7%
4. 訪問リハビリテーション★(リハビリの専門職の訪問)	23.6%	6.8%	1.4%
5. 居宅療養管理指導★(医師などによる指導)	10.6%	2.9%	0.8%
6. 通所介護(デイサービス)★ (日曜の介護施設などへの通所)	37.7%	4.6%	1.3%
7. 通所リハビリテーション(デイケア)★ (老人保健施設などへの通所)	11.9%	2.9%	1.0%
8. 短期入所生活介護(ショートステイ)★ (特別養護老人ホームへの短期入所)	7.3%	5.9%	1.3%
9. 短期入所療養介護(ショートステイ)★ (老人保健施設などへの短期入所)	4.9%	5.6%	1.3%
10. 特定施設入居者生活介護★ (有料老人ホームなどでの介護)	3.8%	2.5%	2.2%
◆施設などを利用するサービス			
11. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	4.5%	7.0%	2.2%
12. 介護老人保健施設(老人保健施設)	3.8%	3.2%	1.0%
13. 介護療養型医療施設または介護医療院	0.8%	3.8%	1.8%
14. 地域密着型通所介護 (定員18人以下の小規模な通所介護)	2.8%	2.4%	0.7%
15. 小規模多機能型居宅介護★ (通所介護(デイサービス)を中心に、「訪問介護」や「短期入所(ショートステイ)」を組み合わせた介護サービス)	5.0%	6.3%	0.7%
16. 夜間対応型訪問介護 (夜間に定期的に巡回して行う訪問介護と、通報に基づき 随時対応する訪問介護)	1.5%	4.5%	0.7%
17. 看護小規模多機能型居宅介護	0.4%	1.3%	0.8%
18. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1.4%	2.4%	1.1%
19. 認知症対応型通所介護★(認知症デイサービス)	1.5%	3.1%	0.3%
20. 認知症対応型共同生活介護★ (認知症高齢者グループホーム)	1.0%	2.5%	1.0%
◆その他			
21. 福祉用具の貸与★(車いす・特殊寝台などの貸与)	45.8%	4.2%	0.4%
22. 福祉用具の購入費の支給★ (入浴いすなどの購入費の支給)	19.1%	4.3%	0.6%
23. 住宅改修費の支給★ (手すりの取付けなど改修費の支給)	21.6%	4.7%	0.8%
◆介護予防・日常生活支援総合事業			
24. 訪問型サービス	10.9%	4.5%	0.4%
25. 通所型サービス	6.6%	1.5%	0.3%
無回答	10.6%	69.8%	90.1%

3 要介護・要支援認定者調査

問 16-2 問 16 で「1. 利用している」と回答した方におたずねします。
あなたは、次のような利用者負担軽減制度を知っていますか。

(それぞれ1つに○) (n=716)

①利用者負担額が高額になった人への軽減制度
(高額介護サービス費・高額医療合算介護サービス費)

1. 知っている 39.0% 2. 知らない 52.2% 無回答 8.8%

②施設サービスの居住費及び食費の軽減制度 (負担限度額認定)

1. 知っている 21.9% 2. 知らない 65.6% 無回答 12.4%

③生計困難者等に対する利用者負担の軽減制度

1. 知っている 18.4% 2. 知らない 66.9% 無回答 14.7%

問 16-3 問 16 で「1」と回答した方におたずねします。

介護保険サービスを利用するようになってから、あなたの生活環境はどのようになりましたか。(1つに○)

1. 改善した 34.5% 3. 以前とあまり変わらない 15.9%
2. やや改善した 35.8% 4. 悪くなった 1.4%
無回答 12.4%

問 16-4 問 16 で「1」と回答した方におたずねします。

あなたのサービス計画(ケアプラン)には、あなたやご家族の希望は反映されていますか。(1つに○)

1. 十分に反映されている 27.2% 3. 一部反映されていない 9.8%
2. ほぼ反映されている 45.9% 4. 全く反映されていない 1.8%
無回答 15.2%

問 16-5 問 16 で「1」と回答した方におたずねします。

あなたは、介護支援専門員(ケアマネジャー)に満足していますか。(1つに○)

1. 満足している 53.2% 4. やや不満である 2.8%
2. やや満足している 16.6% 5. 不満である 1.1%
3. ぶつ 17.0% 無回答 9.2%

問 16-6 問 16 で「1」と回答した方におたずねします。

あなたは、利用しているサービスに満足していますか。(1つに○) (n=716)

1. 満足している 41.9% 4. やや不満である 3.9%
2. やや満足している 27.5% 5. 不満である 0.6%
3. ぶつ 15.9% 無回答 10.2%

3 要介護・要支援認定者調査

問 17 介護保険サービスの利用について、あなたのお考えに近いものをお答えください。
(1つに○) (N=871)

1. 積極的に利用する 18.6%
2. 自分の望み生活(自立した生活)を送ることができ、最限度のサービス利用にする 23.9%
3. 家族の要望やケアマネジャーの助言に基づいて利用する 34.6%
4. なるべく使わないように自立した生活を送る 9.8%
5. その他(具体的に:) 0.7%
6. 分からない 4.0%
無回答 8.5%

問 18 あなたのお暮らしを支える上で、どんなサービスや手助けがあればいいと思いますか。(いくつでも○) (N=871)

1. 自分や介護する家族の具合が悪くなった時など、緊急に、または一時的に、介護をお願いできる 58.3%
2. 自分や介護する家族の具合が悪くなった時など、緊急に、または一時的に、家事をお願いできる 39.3%
3. 自分や介護する家族の具合が悪くなった時など、緊急時に入院できるベッドを確保してくれる 46.5%
4. 支給限度額を超えても(利用者負担による)介護保険サービスを提供してくれる 24.0%
5. 掃除や洗濯、買物、ごみ出しなどの家事援助をしてくれる 27.6%
6. 訪問美容サービス、訪問マッサージなどに来てくれる 21.0%
7. 調理した食事を居住施設まで配達してくれる 17.1%
8. 日常生活用品や食料を移動販売・通信販売をしてくれる 10.2%
9. 定期的な安否確認や緊急時に通報を行ってくれる 14.9%
10. 病院などへの移送サービスや、通院・外出に付き添いしてくれる 32.8%
11. 喫茶・レストラン・会食サービス、生活健康講座・相談・指導サービス、趣味講座・レクリエーションなどを提供してくれる 9.5%
12. 成年後見や葬儀への対応、身元保証、金銭管理などをしてくれる 5.2%
13. 話し相手や相談相手をしてくれる 12.2%
14. 気軽に立ち寄り、仲間や知り合いと一緒に過ごせる場所がある 11.7%
15. その他(具体的に:) 2.4%
16. 分からない 4.5%
無回答 9.3%

問 19 あなたは、介護保険外のサービスを利用していますか。(1つに○) (N=871)

1. 利用している ⇒問 19-1へ 23.0%
2. 利用していない 68.2%
無回答 8.8%

3 要介護・要支援認定者調査

問 19-1 問 19 で「1」と回答した方におたずねします。

どのようなサービスを利用していますか。(いくつでも○) (n=200)

1. 介護保険サービスの上乗せサービス (居宅サービスなどの補給金として利用したサービス)	13.5%
2. 家事援助等サービス (掃除、洗濯、調理、買物等の代行、ごみ出し、簡単な大工仕事、庭仕事・ベットの散歩など)	28.0%
3. 訪問サービス (訪問美容サービス、訪問マッサージ、訪問趣味講座、訪問生活健康相談など)	26.5%
4. 配食サービス (調理した食事を居住施設まで配達するサービス)	25.0%
5. 物販等サービス (日常生活用品や食材の通信販売、移動販売または貸与・お掛けなど)	8.5%
6. 見守り・安否確認・緊急通報サービス (定期訪問サービス、定期的な電話サービス、緊急通報・安否確認機器販売・貸与・設置)	7.5%
7. 移動支援・付き添いサービス (移送サービス、通院・入院・外出付き添いなど)	17.5%
8. 通い・サロンサービス (喫茶・レストラン・会食サービス、生活健康講座・相談・指導サービス、趣味講座・レクリエーションなど)	3.5%
9. 金銭管理・契約代行サービス (成年後見、葬儀対応、残存家財整理、身元保証支援、金銭管理に関わる支援など)	3.0%
10. その他【具体的に： 無回答	8.5% 12.0%

問 20 介護保険外の高齢者福祉サービス(紙おむつの支給、見守り配食など)については、高齢者人口の増加に伴い、今後も利用が増えていくと予想されます。これに対応するために、あなたの考えに一番近いものはどれですか。(1つに○) (N=871)

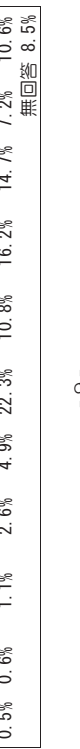
1. サービス対象者などの対応は増やす、サービス利用者の自己負担を替えて対応する	14.4%
2. 自己負担を増やさずに、サービスの対象者などの内容を変えて対応する	35.5%
3. その他【具体的に： 無回答	2.6% 26.4%
4. 分からない	21.1%

日常生活についておたずねします

問 21 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つに○) (N=871)

1. とてもよい	3.4%	3. あまりよくない	29.3%	無回答	4.2%
2. まあよい	56.3%	4. よくない	6.8%		

問 22 あなたは、現在のどの程度幸せですか。「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、点数に○をつけてください。(N=871)



問 23 あなたは、普段どのような情報通信機器を利用していますか。(いくつでも○) (N=871)

1. スマートフォン	26.9%	5. 固定電話・FAX	47.8%
2. タブレット端末	3.8%	6. その他【具体的に： 無回答	3.6% 18.4%
3. 携帯電話(スマートフォン外)	24.0%	7. 情報通信機器は利用していない	7.8%
4. パソコン	8.4%		

問 24 あなたは、スマートフォンなどの操作手法など、情報通信機器の使い方を教えてくれるような機会があったら参加(利用)したいと思いますか。(1つに○) (N=871)

1. 参加(利用)したい	20.8%	3. 参加(利用)する必要がない	21.7%
2. 参加(利用)したくない	21.4%	4. 分からない	25.9%
		無回答	10.2%

問 25 新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、あなたの生活にはどのような変化がありましたか。(いくつでも○) (N=871)

1. 友達・親戚付き合いが減った	42.1%	6. 家族と過ごす時間が増えた	14.6%
2. 電話・ビデオ通話やメールが増えた	9.9%	7. 以前から興味があったことを始めた	2.3%
3. 外出を控えるようになった	51.8%	8. 健康状態が悪化した	11.4%
4. 運動量が減った	30.1%	9. 介護サービスの利用を控えた	4.2%
5. 家で過ごす時間が増えた	46.0%	10. その他【具体的に： 無回答	9.8% 12.9%

認知症、権利擁護についておたずねします

問 26 将来、もしも認知症になった場合、心配なことは何ですか。(いくつでも○) (N=871)

1. 家族の負担が増える	62.2%	5. お金の管理	22.7%
2. 世話をしてくれる人がいない	17.7%	6. 心配なことはない	3.9%
3. 公的サービスが十分にあるのか心配	31.6%	7. その他【具体的に： 無回答	3.2% 10.9%
4. 自宅で生活できるのか心配	49.6%		

問 27 あなたが、認知症などで判断能力が十分で無くなった場合、あなたに代わって家族や家族以外の信頼できる方などから家庭裁判所が選んだ「成年後見人」に財産の管理に関することや各種手続き、相談といった生活のサポートなどを任せるとについて、どう思いますか。(1つに○) (N=871)

1. 任せてもよい	23.2%	3. 任せたくない	24.7%
2. 一部なら任せてもよい	10.2%	4. 分からない	32.0%
		無回答	9.9%

問 28 物忘れや認知症状態のある方へ日常的な金銭管理や書類などの預かりを行う「日常生活自立支援事業」について、あなたはどの程度ご存じですか。(1つに○) (N=871)

1. 名称も内容も知っている	5.7%	3. 知らない	64.8%
2. 名称は聞いたことがある	18.5%	無回答	11.0%

3 要介護・要支援認定者調査

問 29 次の中で、あなたが高齢者虐待を受けたことがある、または発見したことはありますか。(いくつでも○) (N=871)

1. 身体を傷つけるような暴力をふるうこと	0.9%
2. 暴言や無視などで心理的な傷を与えること	3.6%
3. 食事や世話などをせず衰弱させること	0.2%
4. わいせつな行為をすること、またはさせること	0.1%
5. 高齢者の財産を無断で使うこと	0.8%
6. 分からない	34.1%
7. その他(具体的に：)	14.4%
無回答	47.0%

介護保険制度についておたずねします

問 30 あなたは、「地域包括支援センター※」を知っていますか。(1つに○)

※「地域包括支援センター」…高齢者の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、介護・福祉・健康・医療など様々な面から関係機関との連携をとりながら、総合的に支えていく機関

1. 知っている	74.6%	2. 知らない	15.7%	無回答	9.6%
----------	-------	---------	-------	-----	------

問 31 あなたが今後地域で暮らししていくために必要だと思うことは、次のうちどれですか。(いくつでも○) (N=871)

1. 在宅生活を支える介護サービスを充実すること	58.8%
2. 介護する家族に対する支援を充実すること	47.5%
3. 一人暮らしなどの見守りネットワークを充実すること	29.3%
4. 健康づくり、介護予防サービスに力を入れること	22.0%
5. 在宅生活を支える医療・介護の連携を充実すること	39.6%
6. 特別養護老人ホームや認知症グループホームを整備すること	31.5%
7. 介護人材の確保・育成や定着支援の取組みを充実すること	25.9%
8. コミュニティバスなど移動支援や外出支援を充実すること	23.4%
9. 配食や送迎、見守り介護などの生活支援サービスを充実すること	26.8%
10. 介護保険料や利用料(1割～3割負担)等の費用負担を軽減すること	36.7%
11. 困ったとき気軽になんでも相談できる場所を増やすこと	34.6%
12. 介護保険をよりよくするために市民等の意見を集約し、都や国に提言すること	21.6%
13. その他(具体的に：)	3.7%
14. 分からない	5.3%
無回答	7.7%

3 要介護・要支援認定者調査

※以下は、宛名のご本人を介護している方がご記入ください。

問 32 日頃、あて名のご本人を介護なさっている方はいらっしゃいますか。(1つに○) (N=871)

1. いる	61.7%
2. いない ⇒これで調査は終了です。ご協力ありがとうございました。	16.3%
無回答	22.0%

問 33 あて名のご本人を主に介護している方の性別はどちらですか。(1つに○) (n=537)

1. 男性	31.1%	2. 女性	63.3%	無回答	5.6%
-------	-------	-------	-------	-----	------

問 34 あて名のご本人を主に介護しているのは、ご本人からみてどなたですか。(1つに○) (n=537)

1. 夫または妻	38.7%	5. 親	3.4%
2. 息子・娘	41.9%	6. その他の親類	0.2%
3. 息子・娘の配偶者	4.5%	7. 友人・知人、近所の人	0.6%
4. 兄弟姉妹	2.0%	8. その他(具体的に：)	3.5%
		無回答	5.2%

問 35 あて名のご本人を主に介護している方の年齢をご記入ください。(数字を記入) (n=537)

平均	67.9	歳
----	------	---

問 36 あて名のご本人を主に介護している方はどこに住んでいますか。(1つに○) (n=537)

1. 同じ住宅	65.2%	4. 西東京市内	17.9%
2. 同じ敷地内	2.4%	5. 東京都内	3.7%
3. 同じ町内	1.1%	6. その他(具体的に：)	4.7%
		無回答	5.0%

問 37 あて名のご本人を介護している期間はどのくらいですか。具体的な期間をご記入ください。(n=537)

約	平均 5.5	年	約	平均	7.6	時間(1日あたり)
---	--------	---	---	----	-----	-----------

問 38 あて名のご本人を直接お世話・介護している時間は、1日にどれくらいですか。具体的な時間数をご記入ください。(n=537)

約	平均 7.6	時間(1日あたり)
---	--------	-----------

問 39 あて名のご本人は、医師から認知症の診断を受けていますか。(1つに○) (n=537)

1. 受けている	28.9%	2. 受けていない	65.5%	無回答	5.6%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

3 要介護・要支援認定者調査

問 40 お宅にはあて名のご本人以外に次のご家族が同居していますか。(いくつでも〇) (n=537)

1. 一人暮らしのため他の家族はいない	16.0%
2. 介護・看護を必要としている家族がいる	17.9%
3. 障害のため介護を必要としている家族がいる	5.0%
4. 未就学児・乳幼児がいる	0.9%
5. その他(具体的に: 無回答)	23.6% 38.5%

問 41 あなたが介護をする上で、大変なことや困っていることは何ですか。

(いくつでも〇) (n=537)	
1. 精神的に疲れ、ストレスがたまる	58.7%
2. 肉体的に疲れる	38.2%
3. 介護の技術・方法が分からない	9.7%
4. リフレッシュする方法が分からない	8.0%
5. 家族や自分の仕事に影響がある	22.5%
6. 今後の介護の見通しが立たない	19.4%
7. 介護費用の経済的負担が大きい	19.4%
8. 家族や親族間の意見の調整が難しい	4.8%
9. 遠距離介護である	1.7%
10. 自分以外に介護する人がいない	33.3%
11. 介護者の自分も高齢・病弱である	28.1%
12. 育児や、他の家族の世話ができない	2.2%
13. 相談したり話を聞いてくれる人がいない	3.5%
14. 適切なサービスが分からない・ない	5.6%
15. ケアマネジャーや事業所に不満がある	4.1%
16. 医療や福祉の制度が分からない	7.4%
17. 事業所・医療機関が家の近くにない	0.7%
18. 夜間のサービスが足りない	5.6%
19. その他(具体的に: 無回答)	5.6% 8.0% 11.0%

問 42 介護の社会化をめざした介護保険がスタートして 20 年あまりです。少子・高齢化とともに、介護者(ケアラー)支援が一層必要になっています。西東京市の介護者への支援策として、これからどのようなことが必要になると思いますか。(いくつでも〇)

(n=537)	
1. 介護保険(地域支援事業)での、家族介護支援、権利擁護などの充実	57.4%
2. 介護者(ケアラー)の帰郷と健康を守り、社会からの孤立を防ぐ、社会の仕組みづくり	39.3%
3. 本人と介護者(ケアラー)と一緒に過ごせる居場所やプログラムづくり	18.2%
4. 老老介護、ダブルケア、ヤングケアラー等への支援策や支援ネットワークの充実	44.1%
5. 海外や国内での介護者支援やケアラー支援の取組を紹介する情報提供	3.7%
6. 認知症や障害に対する市民の偏見をなくし理解を深めること	20.5%
7. 介護経験当事者の立場からの、電話相談や訪問相談	12.7%
8. さまざまな立場の介護者(ケアラー)が集まり、提案できる場づくり	10.6%
9. 介護者(ケアラー)が仕事や学業と、介護の両立ができる支援制度、相談支援	26.3%
10. 介護者(ケアラー)の経験を活かした発言・提案の場づくり	11.0%
11. その他(具体的に: 無回答)	5.0% 13.2%

調査にご協力いただき誠にありがとうございました

記入もれがないかどうかもう一度お確かめの上、同封の返信用封筒(切手は不要)に入れて、**12月12日(月)までに**お近くのポストに投函してください。

西京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定のための市民アンケート調査（在宅介護実態調査） ご協力のお願い

日頃から、西京市市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を1期として一体的に策定することとされており、西京市では、令和5年度に、令和6年度から8年度までの第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定します。

このアンケート調査は、市内在住で要介護・要支援認定を受けている方のうち、在宅生活を送っている方とご家族を対象に、サービスの利用やこれからのこと、ご家族の仕事と介護の両立などについておたずねするものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月

西京市長 池澤 隆史

記入についてのお願い

1. この調査は、令和4年11月1日現在でお答えください。
2. この調査票は、【A票：あなた（あて名のご本人）について】と【B票：主な介護者の方について】の2種類あります。
3. 回答は、特に説明のない限り、あてはまる番号を選んでください。
4. 回答が「その他」にあてはまる場合は、その番号を選び、〔 〕内にその内容をご回答ください。
5. 対象者ご本人おひとりの回答が難しい場合は、ご家族の方がお手伝いいただくか、対象者の意見を聞いた上でご家族の方が代わりにご回答ください。B票は、主な介護者がいない方は回答しなくても結構です。

★対象の方が何らかの事情により記入できない場合は、回答不要です。下の枠のいずれかに〇印をつけてご返送ください。

1. 医療機関入院中 2. 福祉施設入所中 3. 転居 4. その他〔 〕

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、

12月12日（月）までに ご返送ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時（土日・祝日を除く。）

★調査の内容、調査票の書き方や同封物の不足について

株式会社 生活構造研究所

TEL 0120-335-120（フリーダイヤル）

★調査の趣旨について

西京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810～2816（直通）

（この調査は西京市から株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。）

回答にあたってのお願い

※本調査では、アンケート調査後、要介護認定データ（認定調査、介護認定審査会のデータ）と関連づけて集計を行い、在宅サービスや介護の状況について分析をさせていただきます。調査票表面の左上の3桁の番号はそのための番号です。

※つきましては、以下をお読みいただき、同意いただいた場合、ご署名欄にあて名ご本人のご署名（代理でも可）をお願いいたします。

同意書

私は、「在宅介護実態調査」の実施にあたり、要介護認定データ（認定調査、介護認定審査会のデータ）の活用について、以下の事項を確認のうえ、同意します。

■要介護認定データの利用目的について

本アンケート調査の結果と関連づける要介護認定データ（認定調査、介護認定審査会のデータ）は、西京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（第9期）策定に向けて、市の在宅介護の現状と課題、方策を検討するために利用するものです。その他の目的のためには一切利用いたしません。

■アンケート調査の回答内容の取扱いについて

なお、アンケート調査でご回答いただいた内容は、入力・集計・分析を行う会社に預託しますが、個人情報保護に万全を期し、適切に管理致します。

以上

令和 4年 月 日

ご署名：

A票 あなた（あて名のご本人）について

◎このA票を回答するのは、どなたですか。(いくつでも○) (N=381)

1. あて名のご本人	60.1%	4. 調査対象者のケアマネジャー	0.8%
2. 主な介護者となっている家族・親族	42.3%	5. その他〔具体的に：〕	1.3%
3. 主な介護者以外の家族・親族	2.4%	無回答	4.5%

※以下の質問における、「あなた」とは封筒のあて名ご本人のことです。

問1 あなたの世界類型について、ご回答ください。(1つに○) (N=381)

1. 単身世帯	31.5%	3. その他〔具体的に：〕	32.0%
2. 夫婦のみ世帯	32.3%	無回答	4.2%

問2 あなたは、ご家族やご親族から、週にどのくらい介護をうけていますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)。(1つに○) (N=381)

1. 受けていない	26.0%
2. 週に1日より少ない	6.6%
3. 週に1～2日	12.9%
4. 週に3～4日	6.8%
5. ほぼ毎日	41.7%
無回答	6.0%

⇒問8へ

問3 (あなたを介護する) 主な介護者の方は、どなたですか。(1つに○) (n=259)

1. 配偶者	32.0%	4. 孫	0.0%
2. 子	52.9%	5. 兄弟・姉妹	0.8%
3. 子の配偶者	6.2%	6. その他〔具体的に：〕	3.9%
		無回答	4.2%

問4 (あなたを介護する) 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(1つに○) (n=259)

1. 男性	26.3%	2. 女性	71.8%	無回答	1.9%
-------	-------	-------	-------	-----	------

問5 (あなたを介護する) 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(1つに○) (n=259)

1. 20歳未満	0.0%	4. 40代	3.5%	7. 70代	15.8%
2. 20代	0.0%	5. 50代	25.5%	8. 80歳以上	19.3%
3. 30代	0.8%	6. 60代	32.0%	9. 分からない	0.4%
		無回答		無回答	2.7%

問6 現在、主な介護者の方が行っている、介護等は、次のうちどれですか。(いくつでも○) (n=259)

【身体介護】			
1. 日中の排せつ	24.3%	12. 食事の準備(調理等)	71.0%
2. 夜間の排せつ	21.2%	13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)	82.6%
3. 食事の介助(食べる時)	19.7%	14. 金銭管理や生活面に必要な手続き	68.3%
4. 入浴・洗身	32.8%		
5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	26.3%	【その他】	
6. 衣服の着脱	35.1%	15. その他〔具体的に：〕	10.8%
7. 屋内の移乗・移動	28.6%	16. 分からない	0.4%
8. 外出の付き添い、送迎等	69.5%	無回答	2.7%
9. 服薬	54.8%		
10. 認知症状への対応	33.6%		
11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)	15.4%		

問7 ご家族やご親族の中で、あなたの介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)。また、自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。(いくつでも○) (n=259)

1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)	10.8%
2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)	1.2%
3. 主な介護者が転職した	1.9%
4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した	0.4%
5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	58.3%
6. 分からない	2.3%
無回答	25.9%

※ここから再び、全員の方がお答えください。

問8 現在、あなたが利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスは、次のうちどれですか（総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます）。（いくつでも○）

1. 配食	17.1%	7. 移送サービス（介護・福祉タクシー等）	12.1%
2. 調理	6.0%	8. 見守り、声かけ	7.6%
3. 掃除・洗濯	13.9%	9. サロンなどの定期的な通いの場	4.5%
4. 買い物（宅配は含まない）	11.5%	10. その他（具体的に： ）	10.0%
5. ゴミ出し	10.5%	11. 利用していない	39.9%
6. 外出同行（通院、買い物等）	13.9%	無回答	11.8%

問9 あなたが、今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）は、次のうちどれですか（介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます）。（いくつでも○）

1. 配食	20.7%	7. 移送サービス（介護・福祉タクシー等）	33.9%
2. 調理	13.6%	8. 見守り、声かけ	20.7%
3. 掃除・洗濯	21.8%	9. サロンなどの定期的な通いの場	9.4%
4. 買い物（宅配は含まない）	20.7%	10. その他（具体的に： ）	7.1%
5. ゴミ出し	13.4%	11. 特になし	21.0%
6. 外出同行（通院、買い物等）	27.0%	無回答	12.3%

問10 あなたは、施設等への入所・入居について検討していますか（「施設等」とは、特別介護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設（有料老人ホーム等）、認知症高齢者グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別介護老人ホームを指します）。（1つに○）

1. 入所・入居を検討していない	56.4%	3. すでに入所・入居申し込みをしている	6.3%
2. 入所・入居を検討している	25.5%	無回答	11.8%

問11 あなたが、現在抱えている傷病について、ご回答ください。（いくつでも○）

1. 脳血管疾患（脳卒中）	8.1%	10. パーキンソン病	5.8%
2. 心疾患（心臓病）	23.4%	11. 難病（パーキンソン病を除く）	2.9%
3. 悪性新生物（がん）	6.0%	12. 糖尿病	14.4%
4. 呼吸器疾患	10.0%	13. 眼科・耳鼻科疾患	
5. 腎疾患（透析）	4.5%	（視覚・聴覚障害を伴うもの）	32.3%
6. 筋骨格系疾患		14. その他（具体的に： ）	26.8%
（骨粗しょう症、骨質減少症等）	24.4%	15. なし	2.4%
7. 膠原病（関節リウマチ含む）	5.5%	16. 分からない	1.0%
8. 変形性関節疾患	13.6%	無回答	5.5%
9. 認知症	29.9%		

問12 あなたは、現在、訪問診療を利用していますか（訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含まれません）。（1つに○）

1. 利用している	23.4%
2. 利用していない	71.4%
無回答	5.2%

問13 あなたは、現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。（1つに○）

1. 利用している	60.9%
2. 利用していない	32.5%
無回答	6.6%

問14 問13で「2」と回答した方にお伺いします。

あなたが、介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（いくつでも○）

1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	48.4%
2. 本人にサービス利用の希望がない	22.6%
3. 家族が介護するため必要ない	24.2%
4. 以前、利用していたサービスに不満があった	3.2%
5. 利用料を支払うのが難しい	7.3%
6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない	3.2%
7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	15.3%
8. サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	8.1%
9. その他（具体的に： ）	8.1%
無回答	7.3%

■次頁からのB票は、問2で「2」と回答した方が調査対象となります。次頁以降は「主な介護者」の方がご回答ください。

■「主な介護者」の方が回答できない場合は、あて名のご本人が、ご回答ください（ご回答が困難な場合は、無回答で結構です）。

日票 主な介護者の方について

問 1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1つに○)
(n=259)

1. フルタイムで働いている	21.6%
2. パートタイムで働いている	23.6%
3. 働いていない	44.0%
4. 主な介護者に確認しないと、分からない	0.8%
無回答	10.0%

⇒問2～問4へ }
⇒問5へ }

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」「嘱託」「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問 2 問1で「1」または「2」と回答した方にお伺いします。
主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をして
いますか。(いくつでも○)
(n=117)

1. 特に行っていない	32.5%
2. 介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」 しながら、働いている	30.8%
3. 介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている	20.5%
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	12.8%
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている	12.8%
6. 主な介護者に確認しないと、分からない	0.0%
無回答	3.4%

問 3 問1で「1」または「2」と回答した方にお伺いします。
主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効
果があると思いますか。(3つまで○)
(n=117)

1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	12.8%
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実	28.2%
3. 制度を利用しやすい職場づくり	20.5%
4. 労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	18.8%
5. 働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	12.8%
6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供	9.4%
7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	8.5%
8. 介護をしている従業員への経済的な支援	19.7%
9. その他「具体的に：」	1.7%
10. 特になし	18.8%
11. 主な介護者に確認しないと、分からない	2.6%
無回答	14.5%

問 4 問1で「1」または「2」と回答した方にお伺いします。
主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つに○)
(n=117)

1. 問題なく、続けていける	12.8%
2. 問題はあるが、何とか続けていける	55.6%
3. 続けていくのは、やや難しい	11.1%
4. 続けていくのは、かなり難しい	15.4%
5. 主な介護者に確認しないと、分からない	0.0%
無回答	5.1%

※ここから再び、全員の方がお答えください。

問 5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等に
ついて、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)。
(3つまで○) (n=259)

【身体介護】			
1. 日中の排せつ	22.8%	12. 食事の準備（調理等）	21.2%
2. 夜間の排せつ	33.6%	13. その他の家事（掃除・洗濯・買い物等）	24.3%
3. 食事の介助（食べる時）	10.4%	14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き	20.8%
4. 入浴・洗身	34.7%		
5. 身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	8.5%	【その他】	
6. 衣服の着脱	12.0%	15. その他（具体的に：）	16.2%
7. 屋内の移乗・移動	15.8%	16. 不安に感じていることは、特にない	3.9%
8. 外出の付き添い、送迎等	36.3%	17. 主な介護者に確認しないと、分からない	0.8%
9. 服薬	13.5%	無回答	10.0%
10. 認知症状への対応	39.0%		
11. 医療面での対応（物理療法、ストレッチ等）	8.1%		

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめの上、同封の返信用封筒（切手は不要）に
入れて、**12月12日（月）までに**お近くのポストに投函してください。

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 策定のための介護保険サービス事業者アンケート調査 ご協力をお願い

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を1期として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和5年度に、令和6年度から8年度までの第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定します。

このアンケート調査は、市内の介護保険サービス事業者の方に、サービスに関することなどについてご意見とご要望をお聞かせいただき、計画の策定に役立てるものです。ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月

西東京市長 池澤 隆史

貴事業所についておたずねします

問1 貴事業所で提供している介護保険サービス（予防含む）は何ですか。（いくつでも○）
(N=112)

1. 居宅介護支援	19.6%	13. 介護医療院	0.9%
2. 訪問介護	20.5%	14. 地域密着型通所介護	18.8%
3. 訪問入浴介護	0.0%	15. 小規模多機能型居宅介護	0.9%
4. 訪問看護	14.3%	16. 夜間対応型訪問介護	0.0%
5. 訪問リハビリテーション	0.9%	17. 看護小規模多機能型居宅介護	0.9%
6. 通所介護	21.4%	18. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0.9%
7. 通所リハビリテーション	3.6%	19. 認知症対応型通所介護	6.3%
8. 短期入所生活介護	5.4%	20. 認知症対応型共同生活介護	5.4%
9. 短期入所療養介護	4.5%	21. 福祉用具貸与・購入	8.9%
10. 特定施設入居者生活介護	2.7%	22. 住宅改修	6.3%
11. 介護老人福祉施設(特別介護老人ホーム)	4.5%	23. 訪問型サービス(総合事業)	5.4%
12. 介護老人保健施設(老人保健施設)	3.6%	24. 通所型サービス(総合事業)	8.0%
		無回答	0.9%

問2 次の介護保険外サービスのうち、貴事業所で提供しているものはどれですか。
(いくつでも○) (N=112)

1. 介護保険サービスの上乗せサービス (宿泊タイプサービスなどの時間延長して利用したサービスや総額限度基準額を超えて利用したサービス)	8.9%
2. 家事援助等サービス (掃除、洗濯、調理、買物等の代行、ごみ出し、簡単な大仕事、庭仕事、ベットの散歩など)	14.3%
3. 訪問サービス (訪問理美容サービス、訪問マッサージ、訪問趣味講座、訪問生活健康相談など)	2.7%
4. 配食サービス (調理した食事を居住施設まで配達するサービス)	3.6%
5. 物販等サービス (日常生活用品や食材の通信販売・移動販売または貸与・お届けなど)	1.8%
6. 安否確認・緊急通報サービス (定期訪問サービス、定期的な電話サービス、緊急通報・安否確認機器販売・貸与・設置)	0.9%
7. 移動支援・付き添いサービス (移送サービス、通院・入浴・外出付き添いなど)	10.7%
8. 通い・サロンサービス (喫茶・レストラン・会食サービス、生活健康講座・相談・指導サービス、趣味講座・レクリエーションなど)	4.5%
9. 金銭管理・契約代行サービス (成年後見、葬儀対応、残存家財整理、身元保証支援、金銭管理に関わる支援など)	0.9%
10. その他(具体的に：)	8.0%
11. いずれも提供していない	42.9%
無回答	16.1%

問3 貴事業所が指定(許可)を受けているサービスについて、令和4年11月1日現在の、職員数を下記を記入ください。(数字は右詰で記入し、いない場合は「0」を記入) (N=112)

1. 常勤職員	平均 10.1 人	3. 臨時職員	平均 0.3 人
2. 非常勤職員	平均 10.1 人	合計	平均 20.5 人

記入についてお願い

- この調査は、令和4年11月1日現在でお答えください。
- この調査は、貴事業所名で提供するサービスについてお答えください。同じ事業所名で異なる種類のサービスを提供している場合、それぞれ調査票をお送りしております。ただし、施設併設の短期入所生活介護及び短期入所療養介護は施設サービスと併せてお答えください。
- 回答は、特に説明のない限り、あてはまる番号を○で囲んでください。
- 回答が「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み、() 内にその内容を記入してください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印(⇒)など、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。

調査票、返信用封筒には住所、事業者名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒(切手は不要)に入れ、

12月12日(月)までに 返送ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時(土日・祝日を除く。)

★調査の内容、調査票の書き方や同封物の不足について

株式会社 生活構造研究所

TEL 0120-335-120 (フリーダイヤル)

★調査の趣旨について

西東京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810~2816 (直通)

(この調査は西東京市から株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。)

5 介護保険サービス事業者調査

事業運営についておたずねします

問4 円滑な事業運営を進めていく上で、現在、特に困難に感じていることは何ですか。(いくつでも) (N=112)

1. 従事者の確保が難しい	75.9%
2. 利用者の確保が難しい	40.2%
3. 事務作業が多い	55.4%
4. 施設・設備の改善が難しい	25.0%
5. 必要な情報の入手に支障がある	8.9%
6. 従事者の資質向上を図ることが難しい	25.9%
7. 利用者や家族の制度に対する理解が進んでいない	18.8%
8. 市町村等との連携を図ることが難しい	15.2%
9. その他(具体的に:)	5.4%
10. 特に困難に感じることはない	1.8%
無回答	1.8%

問5 職員の充足状況についてお答えください。(1つに○) (N=112)

1. 過剰	2.7%	3. やや不足	40.2%	5. 大いに不足	9.8%
2. 適正	31.3%	4. 不足	14.3%	無回答	1.8%

問6 昨年1年間の就職・離職状況を教えてください。(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

	常勤	非常勤
①就職者総数	平均1.4 人	平均1.3 人
②離職率	平均8.2 %	平均8.4 %
③就職者総数	平均1.9 人	平均1.9 人

問7 貴事業所では人材確保のためにどのような取組を行っていますか。(いくつでも○)

	①現在行っている取組	②今後行いたい取組
1. 新規採用枠の拡大	29.5%	23.2%
2. 中途採用枠の拡大(初任者～管理者)	59.8%	17.9%
3. 柔軟な勤務時間など働き方改革の推進	47.3%	25.0%
4. 好条件の給与や福利厚生の充実	26.8%	30.4%
5. 職員間の助け合い・支え合いの仕組み	58.0%	17.0%
6. ホームページやSNSの活用による情報発信	61.6%	23.2%
7. 介護や福祉の魅力を向上する事業の実施	17.9%	13.4%
8. 小中学校の介護体験、ボランティアの受け入れ	15.2%	18.8%
9. 無資格者や他業種経験者の積極的な採用	32.1%	16.1%
10. 大学・専門学校のインターンシップ制度の活用	9.8%	19.6%
11. 担い手研修受講者、暮らしヘルパー受講者の活用	7.1%	8.9%
12. オンラインも活用した就職相談・説明会の開催	8.9%	14.3%
13. 東京都福祉人材センター、ハローワーク等活用	52.7%	16.1%
14. 外国人材の採用	9.8%	9.8%
15. その他(具体的に:)	1.8%	0.9%
無回答	4.5%	30.4%

5 介護保険サービス事業者調査

問8 貴事業所にて特に確保の困難な職種はどれですか。(いくつでも○) (N=112)

1. 介護支援専門員	13.4%	10. 作業療法士	1.8%
2. 介護福祉士	44.6%	11. 言語聴覚士	2.7%
3. 訪問介護員	17.0%	12. 機能訓練指導員	6.3%
4. 介護職(資格なし)	18.8%	13. 管理栄養士・栄養士	0.9%
5. 社会福祉士	8.9%	14. 音楽療法士	0.0%
6. 医師	0.9%	15. 事務職	2.7%
7. 看護師・准看護師	36.6%	16. その他(具体的に:)	10.7%
8. 保健師	4.5%	17. 特にない	9.8%
9. 理学療法士	3.6%	無回答	1.8%

問9 職員の早期離職防止や定着促進のためにどのような取組を行っていますか。(いくつでも○) (N=112)

(労働時間・勤務負担軽減)	
1. 労働時間(時間帯・総労働時間)の希望を聞いている	71.4%
2. 時間外労働時間の削減に取り組んでいる	67.0%
3. 年次有給休暇等の取得を促進している	83.0%
(職員の健康支援)	
4. 職員の健康教育や身体的健康対策(腰痛防止対策等)に取り組んでいる	47.3%
5. 職員のメンタルヘルス対策に取り組んでいる	52.7%
6. 感染症予防対策に取り組んでいる	79.5%
(いじめ・ハラスメント・人権)	
7. いじめやハラスメント等へ対応できる体制を整備している	60.7%
8. LGBT、外国人等の人権に関する研修を重視している	6.3%
(仕事と子育て・介護等の両立支援)	
9. 育児・介護等の休暇制度の活用を奨励している	51.8%
10. 子育て支援(託児所を設ける、保育費用の助成など)や介護支援を行っている	19.6%
11. 多様な勤務形態(短時間勤務、短日勤務、交代勤務など)を活用している	50.9%
(キャリア形成支援)	
12. 新人の指導担当・アドバイザーを置いている(メンター制度など)	19.6%
13. キャリアパスを作成し、能力評価や配置・処遇への反映に活用している	36.6%
14. キャリアに応じた給与体系を整備している	42.9%
(職場風土・環境整備、定着支援)	
15. 経営者や役員との意見交換がしやすい職場環境づくりを行っている	50.0%
16. 定期的なミーティング等の実施による、風通しのよい職場環境づくりを行っている	73.2%
(業務の効率化・負担軽減)	
17. 情報通信機器を活用した業務の効率化、省力化を推進している	49.1%
18. その他(具体的に:)	4.5%
19. 特に行っていない	0.0%
無回答	1.8%

5 介護保険サービス事業者調査

問 10 キャリア形成支援のために、どのような研修や資格取得支援を行っていますか。

(いくつでも○) (N=112)	
1. 採用を前提とした資格取得支援の研修 (採用前)	7.1%
2. 事業所内での採用時研修 (新任研修)	54.5%
3. 事業所内での資格取得支援の研修 (既採用職員向け)	28.6%
4. 事業所内での定期的な現任研修の実施	43.8%
5. 事業所内での事例検討会や、外部研修受講者による報告会	36.6%
6. 西東京市介護サービス事業者連絡会が実施する研修等への参加を奨励	42.9%
7. 東京都社会福祉協議会が実施している研修等への参加を奨励	27.7%
8. その他民間団体が実施している研修等への参加を奨励	34.8%
9. 業務として勤務時間中の研修参加を承認	59.8%
10. 研修受講費用の補助	61.6%
11. 資格試験に合格した場合、受験料や登録費用等を負担	32.1%
12. 資格試験に合格した場合の報奨金	15.2%
13. その他 (具体的に:)	1.8%
14. 特に行っていない	1.8%
無回答	3.6%

問 11 介護職員によるたんの吸引など、医療的ケアへの対応は実施していますか。

(1つに○) (N=112)	
1. すでに実施している	13.4%
2. 検討している	18.8%
3. 対応は考えていない	58.0%
4. その他 (具体的に:)	7.1%
無回答	2.7%

問 12 医療機関との連携について、貴事業所として取り組んでいることはありますか。

(いくつでも○) (N=112)	
1. 医療機関から利用者の健康管理や処置について助言を受けている	47.3%
2. 住診をしてくれる医師・医療機関がいる	32.1%
3. 急変時の受入を依頼できる病院を確保している	13.4%
4. 提携している診療所や病院があり、入院を受け入れてもらっている	6.3%
5. 職員への研修講師などをお願している	21.4%
6. ケースカンファレンスに参加している	31.3%
7. 緊急時の対応に同行している	25.0%
8. その他 (具体的に:)	5.4%
9. 特にない	17.9%
無回答	1.8%

問 13 医療機関との連携を進める上での課題は何ですか。(いくつでも○) (N=112)

1. 医療機関の協力が得られない	24.1%
2. 情報共有システムが確立されていない	50.0%
3. 共有すべき情報が分からない	8.0%
4. 連携の必要性を感じていない	3.6%
5. その他 (具体的に:)	5.4%
無回答	15.2%

5 介護保険サービス事業者調査

問 14 新型コロナウイルス感染症の拡大により、貴事業所にはどのような影響がありましたか。

(いくつでも○) (N=112)	
1. 利用者に感染者が出た	83.9%
2. 職員に感染者が出た	83.9%
3. 事業収益が減った	58.9%
4. 感染拡大期にはサービス提供を停止した	23.2%
5. 新型コロナウイルス感染症拡大を理由とした離職者がいた	8.0%
6. サービス提供体制の維持に苦慮した	55.4%
7. その他 (具体的に:)	8.9%
8. 特にない	2.7%
無回答	0.9%

問 15 新型コロナウイルス感染症対策として、どのような工夫をされましたか。(いくつでも○) (N=112)

1. 事業所の感染予防対策 (消毒、関係者の健康管理等) を徹底させた	99.1%
2. 職員への感染症に関する研修・訓練を実施した	73.2%
3. 利用者及び家族に対して、感染対策を周知・アドバイスした	57.1%
4. 業務継続計画 (BCP) を作成して対応した	35.7%
5. モバイル・タブレット端末で利用者情報を共有するようにした	25.0%
6. 感染拡大期にはオンラインミーティングツールによる会議・面会を原則とした	47.3%
7. その他 (具体的に:)	6.3%
8. 特にない	0.0%
無回答	0.0%

サービスの質の向上に向けた取組についておたずねします

問 16 令和3年度までに第三者評価を実施したことはありませんか。実施したことがある場合は直近の実施年度をお答えください。(1つに○) (N=112)

1. 令和元年度から3年度に実施した	23.2%
2. 平成30年度以前に実施した	7.1%
3. 実施したことはない	67.9%
無回答	1.8%

問 17 令和4年度以降に第三者評価を実施する予定がありますか。(1つに○) (N=112)

1. 令和4年度に実施 (予定)	15.2%
2. 令和5~7年度に実施する予定	13.4%
3. 令和8年度以降に実施する予定	3.6%
4. 実施する予定はない	64.3%
無回答	3.6%

問 17-1 問17で「4」と回答した事業所におたずねします。

その理由(は次のうちどれですか。(1つに○) (n=72)	
1. 費用がかりすぎるから	22.2%
2. メリットが分からないから	20.8%
3. 評価機関の選び方が分からないから	18.1%
4. その他 (具体的に:)	26.4%
無回答	12.5%

5 介護保険サービス事業者調査

問 18 サービスの質の向上に向けて、貴事業所で (1) 現在課題となっていること、また、(2) 今後取り組むこと (または続けること) はありますか。1～23 のそれぞれ項目について、あてはまる欄に○をつけてください。(いくつでも○)

(1)現在課題となっていること	(2)今後取り組みること(または続けること)	
1. 事業所の経営理念の明確化	14.3%	34.8%
2. 従業員への経営理念の周知徹底	19.6%	40.2%
3. 職場内での人材育成・教育の充実	46.4%	44.6%
4. ケアケアプランへの積極的な参加	15.2%	28.6%
5. 専門職の定着・確保	44.6%	41.1%
6. 利用者にとって有益な情報開示の推進	15.2%	23.2%
7. 利用者に分かりやすい契約書の工夫	18.8%	27.7%
8. 利用者の納得と意思の尊重	17.9%	39.3%
9. 利用者のプライバシーの保護・個人情報管理の徹底	14.3%	42.0%
10. 各種マニュアルの作成	26.8%	44.6%
11. 苦情処理対応	8.9%	32.1%
12. サービスの自己評価の取組	12.5%	28.6%
13. 従業員の労働条件	18.8%	37.5%
14. 提供するサービスの量的拡大	18.8%	18.8%
15. 提供するサービスエリアの拡大	10.7%	16.1%
16. 福祉系事業所との連携	14.3%	21.4%
17. 医療・保健系事業所との連携	17.9%	28.6%
18. ボランティア活動団体との連携	19.6%	23.2%
19. ボランティア受入の拡大	17.0%	19.6%
20. 家族等介護者とのつながり	17.0%	33.0%
21. コミュニティや個室化の推進	5.4%	8.0%
22. 高齢者虐待防止への取組	14.3%	46.4%
23. その他〔具体的に： 無回答	0.9% 10.7%	0.9% 15.2%

問 19 貴事業所の職員は、利用者の望む生活 (自立支援) を意識したサービス提供を行っていると思うとしますか。(1つに○)

1. 思う	63.4%	4. 思わない	0.0%
2. 少しは思う	31.3%	5. 考えたことはない	0.9%
3. あまり思わない	0.9%	無回答	3.6%

5 介護保険サービス事業者調査

問 20 貴事業所では、介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービスを提供していますか。(1つに○)

1. 提供している ⇒問 20-1へ	53.6%
2. 提供していない 無回答	45.5% 0.9%

問 20-1 問 20 で「1」と回答した事業所におたずねします。
介護予防・日常生活支援総合事業の課題は何ですか。(いくつでも○)

1. 単価が安く、事業所として取り組むメリットがない	43.3%
2. 総合事業の制度が理解しにくい	25.0%
3. 住民主体のサービスが育ちにくい	16.7%
4. サービスの終結につなげることがむずかしい	28.3%
5. 特定の日時や曜日に利用希望者が集中する	5.0%
6. サービスの効果測定が難しい	20.0%
7. 総合事業のサービスコードが複雑である	23.3%
8. 利用者宅までの移動や送迎が課題となっている	6.7%
9. 職員のスキルが不足している	5.0%
10. その他〔具体的に： 無回答	6.7% 13.3%

問 21 貴事業所で提供しているサービスについて、今後、どのように考えていますか。(1つに○)

1. 現状維持で考えている	62.5%
2. 事業規模の拡大を考えている	25.9%
3. 事業規模の縮小を考えている	1.8%
4. その他〔具体的に： 無回答	0.9% 8.9%

問 22 貴事業所では ICT (情報通信技術) 機器や介護ロボット (ロボット技術を活用し、利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器) 等を活用していますか。(1つに○)

1. ICT 機器、介護ロボットとも活用している	⇒問 22-1、2へ	2.7%
2. ICT 機器のみ活用している	⇒問 22-1へ	48.2%
3. 介護ロボットのみ活用している	⇒問 22-2へ	0.0%
4. いずれも活用していない 無回答	⇒問 22-3へ	45.5% 3.6%

問 22-1 問 22 で「1」または「2」と回答した事業所におたずねします。
 真事業所では、どのような業務でどのような ICT 機器を活用していますか。
 業務ごとに活用している機器に○をしてください。(いくつでも○) (n=57)

	パソコン	携帯電話	スマートフォン	タブレット端末	その他	無回答
利用者情報等の共有	87.7%	15.8%	29.8%	56.1%	1.8%	1.8%
報酬請求との連携	91.2%	0.0%	1.8%	8.8%	0.0%	8.8%
ケアプランの作成	66.7%	0.0%	1.8%	14.0%	0.0%	33.3%
オンライン会議	78.9%	3.5%	21.1%	40.4%	0.0%	14.0%
科学的介護情報システム (LIFE)	36.8%	0.0%	1.8%	7.0%	0.0%	63.2%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%	96.5%

問 22-2 問 22 で「1」または「3」と回答した事業所におたずねします。
 真事業所では、介護ロボットをどのような時に活用していますか。

	(いくつでも○) (n=3)				
1. 移乗支援	66.7%	5. コミュニケーション支援	66.7%		
2. 移動支援	0.0%	6. 入浴支援	33.3%		
3. 排泄支援	0.0%	7. その他〔具体的に：〕	0.0%		
4. 見守り	66.7%	無回答	0.0%		

問 22-3 問 22 で「4」と回答した事業所におたずねします。

ICT 機器や介護用ロボット等を活用していない、活用できない理由は何ですか。(いくつでも○) (n=51)

1. 価格が高いから	35.3%	4. 補助制度などが煩雑だから	19.6%
2. 機器の扱いが難しそうであるから	19.6%	5. その他〔具体的に：〕	27.5%
3. 人で十分に対応できるところから	35.3%	無回答	11.8%

問 23 真事業所では、LIFE (「科学的介護情報システム」) への登録、活用をしていますか。(1つに○) (N=112)

1. 登録、活用している	⇒問 23-1へ	27.7%	3. 登録していない	56.3%
2. 登録のみしている		10.7%	無回答	5.4%

問 23-1 問 23 で「1」と回答した事業所におたずねします。

真事業所では、LIFE をどのような場面で活用していますか。(いくつでも○) (n=31)

1. ケアの質の向上に関する方針の策定・実施	35.5%
2. 利用者状態の管理・課題把握	54.8%
3. 利用者状態の多職種での情報連携	25.8%
4. フィードバック票を用いた提供サービス・ケアの見直し	9.7%
5. ワードバック票を用いた利用者・家族への説明	3.2%
6. その他〔具体的に：〕	9.7%
無回答	9.7%

問 24 真事業所では外国人の人材を受け入れていますか。または受け入れたいと思いますか。(1つに○) (N=112)

1. はい	30.4%	2. いいえ	⇒問 24-1へ	68.8%	無回答	0.9%
-------	-------	--------	----------	-------	-----	------

問 24-1 問 24 で「2」と回答した事業所におたずねします。

外国人の人材を受け入れていない、受け入れられない理由は何ですか。(いくつでも○) (n=77)

1. 日本語でのコミュニケーションに不安があるから	58.4%
2. 緊急時の判断や対応に不安があるから	29.9%
3. 外国人への指導のための他の職員の負担が増えるから	32.5%
4. 外国人からの接遇に入所者が慣れていないから	18.2%
5. 外国人職員を受け入れるための費用がかかるから	13.0%
6. 補助制度などが煩雑だから	7.8%
7. その他〔具体的に：〕	22.1%
無回答	9.1%

職員の処遇についておたずねします

問 25 令和 3 年は前年 (令和 2 年) を 100% とした場合にどの程度の収支状況でしたか。(1つに○) (N=112)

1. 大きく増えた (120%以上)	0.0%	5. 少減った (90%以上~100%未満)	14.3%
2. 増えた (110%以上~120%未満)	8.0%	6. 減った (90%以上~90%未満)	19.6%
3. 少減った (100%超~110%未満)	17.9%	7. 大きく減った (80%未満)	8.0%
4. 変わらない (100%)	25.0%	8. 新増職数により前年と比較できない	0.9%
無回答		無回答	6.3%

問 25-1 前年に比べ収支が増えた (減った) と考えられる最も大きな要因は何ですか。(1つに○) (n=76)

1. 利用者の増加 (減少)	40.8%	4. 介護報酬改定による加算が利用できた	11.8%
2. 人件費の抑制 (増加)	9.2%	(利用できなかった)	7.9%
3. 介護報酬単位の増額 (減額)	2.6%	5. その他〔具体的に：〕	27.6%
無回答		無回答	

問 26 介護従事者の各種手当について、引き上げまたは新設を行ったものはありますか。(いくつでも○) (N=112)

1. 処遇改善手当	46.4%	5. 夜勤手当	3.6%
2. 資格手当	8.9%	6. 時間外手当	6.3%
3. 職務手当 (役付手当等)	6.3%	7. その他〔具体的に：〕	8.0%
4. 家族 (扶養) 手当	1.8%	8. 引き上げ、または新設なし	29.5%
無回答		無回答	15.2%

問 27 賃金改善以外での改善策はありますか。(処遇全般、教育・研修、職場環境等) (1つに○) (N=112)

1. 賃金体系等の人事制度の整備	17.0%	5. 休暇制度、労働時間等の改善	24.1%
2. 非正規職員から正規職員への転換	27.7%	6. 職員の増員による業務負担の軽減	25.0%
3. 短時間正社員制度の導入	9.8%	7. その他〔具体的に：〕	6.3%
4. 昇給又は昇格等の要件の明確化	28.6%	無回答	24.1%

5 介護保険サービス事業者調査

(2) 教育・研修 (いくつでも○) (N=112)

1. 人材育成環境の整備	37.5%
2. 資格取得・能力向上のための支援	45.5%
3. 能力向上がみとめられた職員への処遇	35.7%
4. 配置への反	22.3%
5. その他 (具体的に:)	0.9%
無回答	15.2%

(3) 職場環境 (いくつでも○) (N=112)

1. 出産、子育て支援の強化	27.7%
2. ミーティング等による職場内のコミュニケーションの円滑化	58.0%
3. 事故、トラブル対応マニュアル等の作成	36.6%
4. 介護補助器具等の購入、整備等	8.9%
5. 健康診断、腰痛対策、こころの健康等の健康管理面の強化	37.5%
6. 職員休憩室、分煙対策等の整備	23.2%
7. 労働安全衛生対策の充実	21.4%
8. 業務省力化対策	26.8%
9. その他 (具体的に:)	1.8%
無回答	15.2%

問 28 職員の処遇改善を行う上で、課題となることは何ですか。(いくつでも○) (N=112)

1. 介護報酬制度では、職員への処遇改善にまでは回らない	36.6%
2. 事業所の経営の安定のためには、基本給までは手をつけられない	33.9%
3. 介護報酬改定後も経営状況は変わらないが、人材確保のために処遇改善せざるを得ない	27.7%
4. 処遇改善だけでは、人材確保や定着に結びついていない	53.6%
5. その他 (具体的に:)	6.3%
無回答	11.6%

地域生活課題への対応についておたずねします

問 29 利用者の生活支援をしていて、地域の課題だと思われることは何ですか。(3つまで○) (N=112)

1. 必要な介護サービスを身近で利用できる事業所が少ない	10.7%
2. 相談・支援窓口の認知度が低く、サービスが受けられていない高齢者が多い	30.4%
3. 医療機関とのスムーズな連携ができていない	17.0%
4. 老老介護、8050問題など、支援が難しいケースが増えている	59.8%
5. 単身で身寄りのない高齢者が増えてきている	63.4%
6. 地域での見守り・支え合いが難しい	27.7%
7. インフォーマルサービスを含めた社会資源の情報提供が不足している	32.1%
8. その他 (具体的に:)	3.6%
9. 特にない	2.7%
無回答	1.8%

5 介護保険サービス事業者調査

問 30 地域課題の解決のため、必要と思われることは何ですか。(3つまで○) (N=112)

1. 不足している介護サービスを提供可能な介護事業所の誘致	18.8%
2. 地域包括支援センターや市との連携強化	26.8%
3. 医療と介護の連携強化 (研修会の開催等)	30.4%
4. 介護をしている家族等への相談・支援の充実	42.9%
5. 地域での見守り・支え合いのネットワークの構築	23.2%
6. 高齢者の孤立化防止対策	50.0%
7. インフォーマルサービスを含めた地域資源の把握と市民への情報提供	32.1%
8. その他 (具体的に:)	5.4%
9. 特にない	0.9%
無回答	5.4%

西東京市への要望についておたずねします

問 31 今後保険者としての西東京市に対し、事業者として望むことは次のうちどれですか。(3つまで○) (N=112)

1. 苦情相談への指導・助言・援助	15.2%
2. ケアプランの指導	8.0%
3. 施設等の空き情報の提供	17.0%
4. 処遇難ケースの対簿・助言・援助	27.7%
5. 介護保険制度の最新情報提供	44.6%
6. 研修会やケース検討会の開催	20.5%
7. 医療と介護の連携	31.3%
8. 被保険者・家族への制度の周知	33.0%
9. 事業者に対するサービスの質の評価	8.9%
10. その他 (具体的に:)	11.6%
11. 特にない	2.7%
無回答	5.4%

問 32 「介護保険制度」全体をよりよくするため西東京市が力を入れるべきだと思うことは、次のうちどれですか。(3つまで○) (N=112)

1. サービス事業者の質の向上につとめること	20.5%
2. 介護支援専門員やヘルパーなどの人材を育成すること	31.3%
3. 在宅サービスの充実を力を入れること	23.2%
4. 住民主体による介護予防やサービス提供の取組を推進すること	7.1%
5. 介護保険外サービスの充実を図ること	13.4%
6. 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) などの施設を増やしていくこと	9.8%
7. 高齢期になっても住み続けられるよう、多様な住まい方の施策を充実すること	21.4%
8. 利用料や保険料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減すること	27.7%
9. 介護保険の目的や利用について、市民への啓発・PRを進めること	18.8%
10. 豊たきりにならないよう、介護予防サービスに力を入れること	17.0%
11. 地域全体で介護を支援する仕組みを充実すること	18.8%
12. 困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと	20.5%
13. 市民、事業者等の意見を集約し、東京都や国に提言していくこと	20.5%
14. その他 (具体的に:)	1.8%
15. 分からない	0.0%
16. 特にない	1.8%
無回答	7.1%

調査にご協力いただき誠にありがとうございます。
記入もれがないかどうかもう一度お確かめの上、同封の返信用封筒 (切手は不要) に
入れて、**12月12日(月)まで**にお近くのポストに投函してください。

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定 のための介護支援専門員アンケート調査 ご協力をお願いします

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を1期として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和5年度に、令和6年度から8年度までの第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定します。

このアンケート調査は、市内の介護支援専門員（ケアマネジャー）の方に、介護保険サービスやケアマネジメントなどについてご意見とご要望をお聞かせいただき、計画の策定に役立てるものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月

西東京市長 池澤 隆史

記入についてお願い

1. この調査は、令和4年11月1日現在でお答えください。
2. 回答は、特に説明のない限り、あてはまる番号を○で囲んでください。
3. 回答が「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み、〔 〕内にその内容を記入してください。
4. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、矢印（⇒）など、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。

調査票、返信用封筒には住所、氏名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、

12月12日（月）までに ご返送ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時（土・日・祝日を除く。）

★調査の内容、調査票の書き方や同封物の不足について

株式会社生活構造研究所

TEL 0120-335-120（フリーダイヤル）

★調査の趣旨について

西東京市健康福祉部高齢者支援課

TEL 042-420-2810～2816（直通）

（この調査は西東京市から株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。）

あなたのことについておたずねします

問1 あなたの性別をお答えください。（1つに○） (N=91)

1. 男性	22.0%	2. 女性	76.9%
		無回答	1.1%

問2 あなたの年齢をお答えください。（数字を記入） (N=91)

※令和4年11月1日現在の年齢でお答えください。

平均 54.4 歳

問3 あなたの勤務形態は次のうちどれですか。（1つに○） (N=91)

1. 常勤	91.2%	2. 非常勤	8.8%
		無回答	0.0%

問4 あなたの介護支援専門員としての経験年数は次のうちどれですか。（1つに○） (N=91)

1. 1年未満	5.5%	4. 5年以上7年未満	13.2%
2. 1年以上3年未満	3.3%	5. 7年以上10年未満	18.7%
3. 3年以上5年未満	19.8%	6. 10年以上	39.6%
		無回答	0.0%

問5 あなたが介護支援専門員以外にお持ちの資格はどれですか。（いくつでも○） (N=91)

1. 社会福祉士	20.9%	11. 作業療法士	0.0%
2. 介護福祉士	81.3%	12. 栄養士（管理栄養士含む）	3.3%
3. 精神保健福祉士	6.6%	13. あん摩マッサージ指圧師	1.1%
4. 医師	0.0%	14. はり師・きゅう師	1.1%
5. 歯科医師	0.0%	15. 柔道整復師	0.0%
6. 保健師	0.0%	16. 薬剤師	0.0%
7. 看護師	0.0%	17. ホームヘルパー1級	12.1%
8. 准看護師	0.0%	18. ホームヘルパー2級	39.6%
9. 歯科衛生士	2.2%	19. 介護職員初任者	0.0%
10. 理学療法士	0.0%	20. その他〔具体的に： 〕	11.0%
		無回答	0.0%

貴事業所についておたずねします

問6 あなたが担当している西東京市内の利用者数と西東京市外（他市）の利用者数の
おおよその割合はどのくらいですか。 (N=91)

西東京市内 : 西東京市外 = 平均 9.6 : 平均 0.4

問7 所属する事業所と同じ所在地内において、居宅介護支援事業の他に介護保険サービス事業を運営していますか。(1つに○) (N=91)

1. 居宅介護支援事業だけを運営している	30.8%
2. 他の介護保険サービス事業も運営している	67.0%
無回答	2.2%

ケアマネジメントについておたずねします

問11 あなたが現在、ケアマネジメントする上で困難を感じることは次のどれですか。(いくつでも○) (N=91)

1. 一人暮らし等で日頃の本人の状況が分からない利用者が増えている	56.0%
2. 経済的な困窮、障害など、介護以外の支援が必要な世帯が増えている	57.1%
3. 地域で孤立している高齢者や高齢者世帯が増えている	33.0%
4. キーパーソンがいない利用者が増えている	59.3%
5. 本人と家族の意見が合わず、調整困難なことが増えている	48.4%
6. 認知症等で利用者の意思が確認できない、繰り返し確認が必要なものが多い	48.4%
7. 望ましいサービスを提供しても、本人や家族の理解を得られない	52.7%
8. 本人の経済的な理由で、必要なサービスを組み入れられない	47.3%
9. サービスはあるが、希望の日時にサービスを組み入れられない	13.2%
10. 訪問看護やリハビリなど、医療系のサービスと連携がしにくい	5.5%
11. 介護保険外サービスに関する情報が少ない、得にくい	30.8%
12. 介護保険サービスが全般的に不足している	13.2%
13. 地域包括支援センターからの情報が少ない、連携がしにくい	13.2%
14. サービス担当者会議開催の調整が難しい	37.4%
15. ケアマネジメントの書類作成が負担である	70.3%
16. その他(具体的に:)	11.0%
無回答	1.1%

問12 あなたは、困難なケースを担当したとき、主にどのようなように対応していますか。(1つに○) (N=91)

1. 地域包括支援センターに相談している	61.5%
2. 在宅療養連携支援センター(通称:にしのわ)に相談している	1.1%
3. 保険者(市役所)に相談している	2.2%
4. 事業者内で解決できているので外部には相談していない	8.8%
5. 相談していない	0.0%
6. その他(具体的に:)	6.6%
無回答	19.8%

問13 あなたは、ご自身が担当している方の望む生活(自立支援)に向けたケアプランの作成が十分できていると思いますか。(1つに○) (N=91)

1. 思う	11.0%	4. 思わない	0.0%
2. 少し思う	78.0%	5. 考えたことはない	0.0%
3. あまり思わない	9.9%	無回答	1.1%

問14 あなたは、ご自身が担当している認知症の方の望む生活に向けたケアプランの作成が十分できていると思いますか。(1つに○) (N=91)

1. 思う	3.3%	4. 思わない	0.0%
2. 少し思う	71.4%	5. 考えたことはない	0.0%
3. あまり思わない	24.2%	無回答	1.1%

問7 所属する事業所と同じ所在地内において、居宅介護支援事業の他に介護保険サービス事業を運営していますか。(1つに○) (N=91)

1. 居宅介護支援事業だけを運営している	30.8%
2. 他の介護保険サービス事業も運営している	67.0%
無回答	2.2%

問7-1 問7で「2」と回答した方におたずねします。

サービス内容はどれですか。(いくつでも○) (n=61)	
1. 訪問介護	65.0%
2. 訪問入浴介護	0.0%
3. 訪問看護	13.1%
4. 訪問リハビリテーション	4.9%
5. 居宅療養管理指導	4.9%
6. 通所介護	31.1%
7. 通所リハビリテーション	8.2%
8. 短期入所生活介護	26.2%
9. 短期入所療養介護	4.9%
10. 特定施設入居者生活介護	4.9%
11. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	19.7%
12. 介護老人保健施設(老人保健施設)	6.6%
無回答	0.0%

問8 新型コロナウイルス感染症の拡大により、貴事業所にはどのような影響がありましたか。(3つまで○) (N=91)

1. 利用者に感染者が出た	87.9%
2. 職員に感染者が出た	65.9%
3. 事業収益が減った	13.2%
4. 感染拡大期にはサービス提供を停止した	7.7%
5. 新型コロナウイルス感染症拡大を理由とした離職者がいた	1.1%
6. 感染拡大期にはサービス提供を中止する事業所が多く、ケアプラン作成が困難となった	29.7%
7. その他(具体的に:)	19.8%
8. 特にない	3.3%
無回答	0.0%

問9 新型コロナウイルス感染症の拡大により、モニタリングや利用者の状態把握に影響がありましたか。(1つに○) (N=91)

1. あった	87.9%	2. なかった	11.0%	無回答	1.1%
--------	-------	---------	-------	-----	------

問10 新型コロナウイルス感染症の流行により、利用者のサービス利用にどんな変化がありましたか。(いくつでも○) (N=91)

1. デイサービスの利用回数を減らした	70.3%
2. 通っている通所系サービス事業所数を減らした	38.5%
3. デイサービスの利用に代えて、訪問介護の利用に変更した	15.4%
4. 外出控えによるADL低下により訪問看護や居宅療養管理指導を追加した	18.7%
5. 外出控えによるADL低下により、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションを追加した	19.8%
6. その他(具体的に:)	23.1%
7. 特にない	9.9%
無回答	0.0%

6 介護支援専門員調査

問 15 ケアプラン作成時に、介護事業所数もしくは定員など、(1)量的に不足していると感じるサービス、また、(2)ケアプランに組み入れにくいサービスはありますか。下記の介護保険サービスから選んで番号を記入して下さい。
((1) 、 (2) ごとにそれぞれ3つまで)

	(1) 量的に 不足している サービス (3つまで○)	(2) ケアプランに 組み入れにくい サービス (3つまで○)
1. 訪問介護	54.9%	1.1%
2. 訪問看護	4.4%	2.2%
3. 訪問リハビリテーション	7.7%	5.5%
4. 訪問入浴介護	27.5%	2.2%
5. 居宅療養管理指導	1.1%	4.4%
6. 通所介護	2.2%	1.1%
7. 通所リハビリテーション	8.8%	6.6%
8. 短期入所生活介護	16.5%	4.4%
9. 短期入所療養介護	11.0%	16.5%
10. 特定施設入居者生活介護	0.0%	3.3%
11. 福祉用具の貸与	0.0%	0.0%
12. 特定福祉用具購入	0.0%	1.1%
13. 住宅改修費の支給	2.2%	2.2%
14. 介護老人福祉施設	20.9%	1.1%
15. 介護老人保健施設	7.7%	2.2%
16. 地域密着型通所介護	0.0%	1.1%
17. 小規模多機能型居宅介護	4.4%	25.3%
18. 夜間対応型訪問介護	26.4%	19.8%
19. 看護小規模多機能型居宅介護	8.8%	27.5%
20. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	25.3%	40.7%
21. 認知症対応型通所介護	15.4%	3.3%
22. 認知症対応型共同生活介護	5.5%	3.3%
23. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	2.2%	2.2%
24. 特になし	5.5%	18.7%
無回答	2.2%	8.8%

6 介護支援専門員調査

問 16 西東京市のケアマネジメント、地域マネジメントの特徴は何だと思いますか。
(例：見守りネットワーク、フレイル予防、訪問、アセスメントやモニタリングについて)

.....

問 17 貴事業所では、LIFE (科学的介護) を活用していますか。(1つに○) (N=91)

1. 活用している	⇒問 17-1へ	2.2%	2. 活用していない	93.4%
		無回答	4.4%	

問 17-1 問 17 で「1」と回答した方におたずねします。

LIFE (科学的介護) を活用することで役に立ったことは何ですか。
(いくつでも○) (n=2)

1. 科学的根拠により、利用者に適したサービスなのか客観的に選べる	50.0%
2. 経験が浅いスタッフでも効果の高い介護サービスを提供できる	0.0%
3. 他の事業所のデータも蓄積されているため、サービスの質的向上が期待できる	0.0%
4. 業界全体のガイドラインができることによって、業務が効率化される	50.0%
5. 利用者がサービスを主体的に受けることで、ADL や QOL の向上が期待できる	50.0%
6. その他 (具体的に：)	0.0%
無回答	0.0%

問 18 AI の活用について、何かご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

.....

介護保険外サービスについておたずねします

問 19 あなたは介護保険サービス以外のサービスをケアプランに加えたことがありますか。(いくつでも○) (N=91)

1. 市の高齢者福祉サービスを加えたことがある	⇒問 19-1へ	89.0%
2. 市の高齢者福祉サービス以外のサービスを加えたことがある	⇒問 19-2へ	75.8%
3. どちらもない		1.1%
無回答		2.2%

問 19-1 問 19 で「1」と回答した方におたずねします。

どのような内容ですか。(いくつでも○) (n=81)

1. 見守り配食サービス	92.6%	8. 日常生活用具等給付サービス	2.5%
2. 寝具乾燥サービス	6.2%	9. 高齢者入浴券支給サービス	3.7%
3. 紙おむつ給付サービス	82.7%	10. 住宅改修等給付サービス	24.7%
4. 理・美容券交付サービス	65.4%	11. 高齢者緊急短期入所サービス	9.9%
5. 救急代理通報サービス	12.3%	12. 在宅療養後方支援病床確保事業	22.2%
6. 徘徊位置探査サービス	23.5%	13. その他 (具体的に：)	3.7%
7. 外出支援サービス	19.8%	無回答	0.0%

問 19-2 問 19 で「2」と回答した方におたずねします。
 どのような内容ですか。(いくつでも○)

	(n=69)
1. 介護保険サービスの上乗せサービス (個別サービスなどの時間延長して利用したサービス)	55.1%
2. 家事援助等サービス (掃除、洗濯、調理、買物等の代行、ごみ出し、簡単な大仕事、庭仕事・ベットの散歩など)	52.2%
3. 訪問サービス (訪問看護サービス、訪問マッサージ、訪問趣味講座、訪問生活健康相談など)	75.4%
4. 配食サービス (調理した食事を居住施設まで配達するサービス)	89.9%
5. 物販等サービス (日常生活用品や食材の通信販売・移動販売または貸与・お届けなど)	13.0%
6. 安否確認・緊急通報サービス (定期訪問サービス、定期的な電話サービス・貸与・設置)	29.0%
7. 移動支援・付き添いサービス (移送サービス、通院・入浴・外出付き添いなど)	39.1%
8. 通い・サロンサービス (喫茶・レストラン・食サービス、生活健康講座・相談・指導サービス、趣味講座・レクリエーションなど)	27.5%
9. 金銭管理・契約代行サービス (成年後見、葬儀知照、残存家財整理、身元保証支援、金銭管理に関わる支援など)	68.1%
10. その他〔具体的に： 無回答〕	4.3% 0.0%

問 20 西東京市内で、量的に不足していると感じる介護保険外サービスはどれですか。
 (1) 市が提供する高齢者福祉サービス (いくつでも○)

1. 見守り配食サービス	12.1%	8. 日常生活用具等給付サービス	1.1%
2. 寝具乾燥サービス	2.2%	9. 高齢者入浴券支給サービス	3.3%
3. 紙おむつ給付サービス	9.9%	10. 住宅改修等給付サービス	3.3%
4. 理・美容券交付サービス	1.1%	11. 高齢者緊急短期入所サービス	31.9%
5. 救急代理通報サービス	7.7%	12. 在宅療養後方支援病床確保事業	15.4%
6. 徘徊位置探索サービス	8.8%	13. その他〔具体的に： 無回答〕	6.6%
7. 外出支援サービス	36.3%		25.3%

(2) 上記以外の介護保険外サービス (いくつでも○)

1. 介護保険サービスの上乗せサービス	16.5%
2. 家事援助等サービス	30.8%
3. 訪問サービス	15.4%
4. 配食サービス	9.9%
5. 物販等サービス	9.9%
6. 見守り・安否確認・緊急通報サービス (定期訪問サービス、定期的な電話サービス、緊急通報・安否確認機器販売・貸与・設置)	24.2%
7. 移動支援・付き添いサービス	39.6%
8. 通い・サロンサービス	13.2%
9. 金銭管理・契約代行サービス	30.8%
10. その他〔具体的に： 無回答〕	0.0% 20.9%

スキルアップについておたずねします

問 21 あなたはこの1年以内に、スキルアップのための研修や講習会に参加しましたか。
 (1つに○) (N=91)

1. はい	79.1%	2. いいえ	13.2%
		無回答	7.7%

問 22 あなたは今後、どのような研修や講習会に参加したいと思いますか。
 (3つまで○) (N=91)

1. 基礎研修課程 I	0.0%
2. 基礎研修課程 II	5.5%
3. 専門研修課程	9.9%
4. 主任ケアマネジャー研修	12.1%
5. リスクマネジメント研修	18.7%
6. ケアプランの作成・評価	25.3%
7. 困難事例の検討	34.1%
8. 介護予防に関する知識・技術	8.8%
9. リハビリテーションに関する知識	13.2%
10. 医学一般に関する知識	33.0%
11. 摂食嚥下や口腔ケアなどに関する知識	11.0%
12. 住宅・住環境に関する知識	1.1%
13. 福祉用具に関する知識	3.3%
14. 認知症ケア、認知症医療	34.1%
15. 成年後見制度など権利擁護関連制度	29.7%
16. 消費者問題などの法律知識	9.9%
17. 介護福祉士等の資格取得	0.0%
18. 職業倫理に関する知識	4.4%
19. その他〔具体的に： 無回答〕	7.7% 3.3%
20. 特になし	5.5%

問 23 あなたは、担当している方の医療に関する情報を十分把握していますか。
 (1つに○) (N=91)

1. 十分把握している	4.4%
2. ある程度把握している	81.3%
3. あまり把握していない	9.9%
4. ほとんど把握していない	1.1%
無回答	3.3%

6 介護支援専門員調査

問 26 あなたは、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を実践した、または実践に携わったことがありますか。（1つに○）
(N=91)

1. 実践、または実践に携わったことがある	47.3%
2. 実践、または実践に携わったことがない	49.5%
無回答	3.3%

※ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは
人生の最終段階における医療や介護について、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合うこと。「人生会議」ともいいます。

問 27 あなたが、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を進める上で必要と考えることは何か。（3つまで○）
(N=91)

1. 利用者・家族をはじめとする、市民への啓発が進んでいること	39.6%
2. 早いタイミングから行うこと	23.1%
3. 一度だけでなく、継続的に意向の確認や話し合いをすること	54.9%
4. 日頃から、気持ちを話せる雰囲気や人間関係をつくること	57.1%
5. 本人の意向を尊重し、最終まで意思決定支援を心がけること	53.8%
6. 適切なサービス調整や支援ができて多職種での連携を進めること	23.1%
7. 本人・家族との不一致、家族間の調整にも配慮すること	30.8%
8. その他（具体的に：）	1.1%
無回答	3.3%

地域包括支援センターについておたずねします

問 28 所属する事業所は、地域包括支援センターから介護予防支援又は介護予防ケアマネジメント業務の委託を受けていますか。（1つに○）
(N=91)

1. いずれも積極的に受けている	37.4%
2. いずれも仕方なく受けている	45.1%
3. 介護予防支援のみ受けている	3.3%
4. 介護予防ケアマネジメントのみ受けている	3.3%
5. いずれも受けていない	5.5%
無回答	5.5%

問 29 介護予防支援又は介護予防ケアマネジメントに関して望むことは何ですか
(いくつでも○) (N=91)

1. ケアプランの作成方法の研修を受けたい	30.8%
2. 個々のケアプラン作成時に市や包摂からのアドバイスを受けてたい	17.6%
3. 介護予防ケアプランにより、自立支援・重度化防止となったよい事例を知りたい	34.1%
4. 簡易プラン様式を見直ししてほしい	26.4%
5. その他（具体的に：）	17.6%
6. 特になし	11.0%
無回答	6.6%

6 介護支援専門員調査

問 24 あなたと次の関係機関、職種との連携状況をお答えください。
(ア～ンそれぞれ1つに○)

(N=91)	よく連携がとれている	ある程度連携がとれている	あまり連携がとれていない	ほとんど連携がとれていない	無回答
ア. 病院の医師	1.1%	34.1%	51.6%	9.9%	3.3%
イ. 病院の看護師	2.2%	38.5%	42.9%	13.2%	3.3%
ウ. 病院の地域連携室（医療ソーシャルワーカー）	7.7%	62.6%	20.9%	2.2%	6.6%
エ. サービス利用者のかかりつけ医	3.3%	57.1%	30.8%	4.4%	4.4%
オ. サービス利用者が必要と考えられる診療科の医師	2.2%	28.6%	48.4%	16.5%	4.4%
カ. 歯科医師	6.6%	25.3%	42.9%	19.8%	5.5%
キ. 薬剤師	9.9%	48.4%	24.2%	11.0%	6.6%
ク. 地域包括支援センター	31.9%	54.9%	6.6%	1.1%	5.5%
ク. 在宅療養支援センター（通称：にしのわ）	5.5%	22.0%	37.4%	31.9%	3.3%
コ. 訪問看護ステーション	46.2%	46.2%	2.2%	1.1%	4.4%
サ. ホームヘルパー	51.6%	39.6%	3.3%	1.1%	4.4%
シ. 通所介護（デイサービス）	51.6%	42.9%	1.1%	1.1%	3.3%
ス. 訪問・通所リハビリテーション	45.1%	48.4%	2.2%	1.1%	3.3%
セ. 短期入所生活介護（ショートステイ）	44.0%	42.9%	7.7%	2.2%	3.3%
ソ. 市の職員	3.3%	27.5%	47.3%	17.6%	4.4%

問 25 高齢者の在宅療養を進めていく上で不足している機能は何ですか。
(いくつでも○) (N=91)

1. 訪問診療や往診をしてくれる診療所	19.8%
2. 訪問看護（訪問看護ステーション）	4.4%
3. 訪問・通所リハビリテーションなどリハビリテーション施設	23.1%
4. 介護老人福祉施設や介護老人保健施設などの介護保険施設	31.9%
5. 一人ひとりの状況に即して関係者が連携して対応するチームケア	40.7%
6. 高齢者の在宅療養を地域全体で支える地域ケアの仕組み	60.4%
7. その他（具体的に：）	9.9%
無回答	6.6%

6 介護支援専門員調査

問 30 これから地域包括支援センターに期待するのはどのようなことですか。

	(いくつでも○) (N=91)
1. 多職種のネットワークづくり	44.0%
2. 介護予防・生活支援サービス事業の推進	12.1%
3. 地域ケア会議や生活支援体制の拡充(地域ネットワークづくり)	29.7%
4. 総合相談の充実	35.2%
5. 介護支援専門員・ケアプランの支援、指導	30.8%
6. 権利擁護事業	22.0%
7. 後期高齢者、一人暮らし、認知症高齢者等の実態把握	24.2%
8. 高齢者を取り巻く様々な地域生活課題の把握	40.7%
9. 消費者被害や振り込み詐欺等の防止	16.5%
10. 困難ケースへの対応	71.4%
11. 医療機関との連携	18.7%
12. 住民への意識啓発	22.0%
13. その他(具体的に:)	4.4%
無回答	4.4%

西東京市への要望についておたずねします

問 31 あなたは、ケアマネジメントを実施する上で、保険者(西東京市)との連携はとれていますか。(1つに○)

	(N=91)
1. 十分とれていると思う	3.3%
2. ある程度とれていると思う	47.3%
3. あまりとれていないと思う	26.4%
4. まったくとれていないと思う	5.5%
5. 分からない	11.0%
無回答	6.6%

問 32 あなたが、「介護保険制度」全体をより持続可能なものにするため西東京市が力を入れるべきだと思うことは、次のうちどれですか。(3つまで○) (N=91)

1. サービス事業者の質の向上につとめること	8.8%
2. 介護支援専門員やヘルパーなどの人材を育成すること	34.1%
3. 在宅サービスの充実を力を入れること	19.8%
4. 住民主体による介護予防やサービス提供の取組を推進すること	8.8%
5. 介護保険外サービスの充実を図ること	38.5%
6. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)などの施設を増やしていくこと	12.1%
7. 高齢期になっても住み続けられるよう、多様な住まい方の施策を充実すること	29.7%
8. 利用料や保険料を補助するなど、利用者の費用負担を軽減すること	15.4%
9. 介護保険の目的や利用について、市民への啓発・PRを進めること	23.1%
10. 働き方改革などにより、介護予防サービスに力を入れること	13.2%
11. 地域全体で介護を支援する仕組みを充実すること	31.9%
12. 困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと	29.7%
13. 市民、事業者等の意見を集約し、東京都や国に提言していくこと	25.3%
14. その他(具体的に:)	6.6%
15. 分からない	0.0%
無回答	1.1%

6 介護支援専門員調査

問 33 これからの西東京市の認知症施策で重要なものはどのようなことだと考えますか。

	(いくつでも○) (N=91)
1. 認知症を自分ごととして考え、支援の輪を広げる地域づくりを進める	51.6%
2. 認知症に対する偏見をなくし、認知症の人の地域での役割の保持を進める	42.9%
3. 子どもたちが認知症を正しく理解するよう、教育や啓発を進める	38.5%
4. 認知症の人への虐待をなくし、認知症の人の権利を守る仕組みや制度を充実する	28.6%
5. 認知症になっても使いやすい情報機器や商品の開発を進める	29.7%
6. 認知症の発症や進行を遅らせる予防や治療、リハビリテーションの研究を進める	24.2%
7. 若年性認知症の人の生活支援や、しごと、社会参加の支援を進める	50.5%
8. 認知症の人と家族が安心して買い物や外出ができる認知症/リアフリーを進める	40.7%
9. 認知症になってもあらゆる段階で医療と介護の連携が進められる	50.5%
10. 認知症になってもその人らしさが失われないような介護サービスを提供する	45.1%
11. 認知症の家族介護に関する相談や仲間づくりを進める	48.4%
12. その他(具体的に:)	5.5%
13. 分からない	2.2%
無回答	2.2%

問 34 西東京市の介護保険制度について、ご意見、ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございます。

記入もれがないかどうかもう一度お確かめの上、同封の返信用封筒(切手は不要)に入れて、**12月12日(月)までに**お近くのポストに投函してください。

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定のための医療機関アンケート調査 ご協力をお願いします

日頃から、西東京市の高齢者保健福祉施策・介護保険事業の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、標記計画は、老人福祉法及び介護保険法の規定により3年を1期として一体的に策定することとされており、西東京市では、令和5年度に、令和6年度から8年度までの第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定します。

このアンケート調査は、市内の医療機関の方に、医療と介護の連携に関することなどにご意見とご要望をお聞かせいただき、計画の策定に役立てるものです。

ご多用のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年11月

西東京市長 池澤 隆史

記入についてお願い

1. この調査は、令和4年11月1日現在でお答えください。
2. 回答は、貴医療機関としてのお考えを表明できる方がお答えください。
3. 回答は、特に説明のない限り、あてはまる番号を○で囲んでください。
4. お答えが「その他」にあてはまる場合は、その番号を○で囲み、〔 〕内にその内容をご記入ください。
5. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、失印（⇒）など、次にお答えいただく質問番号への案内にご注意ください。

調査票、返信用封筒には住所、医療機関名を記入する必要はありません。

記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、

12月12日（月）までに ご返送ください。

【問い合わせ先】 ……受付時間 午前9時～午後5時（土日・祝日を除く。）

★調査の内容、調査票の書き方や同封物の不足について

株式会社 生活構造研究所 TEL 0120-335-120（フリーダイヤル）

★調査の趣旨について

西東京市健康福祉部高齢者支援課 TEL 042-420-2810～2816（直通）

（この調査は西東京市から株式会社生活構造研究所に委託して実施しています。）

貴医療機関についておたずねします

問1 記入者の職種は次のどれですか。（1つに○） (N=194)

- | | | | |
|---------|-------|----------------|------|
| 1. 医師 | 30.4% | 5. 医療ソーシャルワーカー | 1.5% |
| 2. 歯科医師 | 25.8% | 6. 事務職 | 8.8% |
| 3. 薬剤師 | 30.9% | 7. その他（具体的に：） | 1.0% |
| 4. 看護師 | 1.5% | 無回答 | 0.0% |

問2 貴機関を教えてください。（1つに○） (N=194)

- | | |
|------------------------------|-------|
| 1. 病院 | 2.6% |
| 2. 一般診療所（在宅療養支援診療所としての届出有） | 13.9% |
| 3. 一般診療所（在宅療養支援診療所としての届出無） | 24.2% |
| 4. 歯科診療所（在宅療養支援歯科診療所としての届出有） | 4.6% |
| 5. 歯科診療所（在宅療養支援歯科診療所としての届出無） | 22.7% |
| 6. 薬局（在宅患者訪問薬剤管理指導に係わる届出有） | 26.3% |
| 7. 薬局（在宅患者訪問薬剤管理指導に係わる届出無） | 4.6% |
| 8. その他（具体的に：） | 0.0% |
| 無回答 | 1.0% |

問3 貴機関は、在宅医療の実施に関してどのようなようにお考えですか。（1つに○） (N=194)

- | | | | |
|--------------------|-------|----------------|-------|
| 1. 積極的に提供していきたい | 28.9% | 3. 提供したいが、できない | 28.4% |
| 2. 提供しているが、積極的ではない | 21.1% | 4. 提供するつもりはない | 18.6% |
| 無回答 | | 無回答 | 3.1% |

問4 貴機関について、在宅医療を実施する上での課題をお答えください。

- | | | | |
|---------------------|-------|----------------------|-------|
| (3つまで○) (N=194) | | | |
| 1. 訪問するための時間が確保できない | 60.8% | 6. 採算がとれない | 10.3% |
| 2. スタッフが不足している | 63.4% | 7. 病院との連携が難しい | 9.8% |
| 3. 患者からのニーズが少ない | 21.1% | 8. 他の（歯科）診療所との連携が難しい | 3.1% |
| 4. 実施するためのノウハウの不足 | 19.6% | 9. 介護事業者との連携が難しい | 8.8% |
| 5. 体力的に無理がある | 29.4% | 10. その他（具体的に：） | 2.1% |
| 無回答 | | 無回答 | 1.0% |

問5 貴機関では、新型コロナウイルス感染症の影響があまりなかったか。（いくつでも○） (N=194)

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 1. 患者に感染者が出た | 69.1% |
| 2. 職員に感染者が出た | 52.1% |
| 3. 患者が減って、経営に影響があった | 48.5% |
| 4. 感染拡大期には医療提供を停止した | 9.3% |
| 5. 新型コロナウイルス感染症拡大を理由とした離職者がいた | 7.7% |
| 6. 医療提供体制の維持に苦慮した（スタッフ不足等） | 33.5% |
| 7. 感染患者の医療事務に時間が取られた | 23.2% |
| 8. オンライン診療が定着した | 3.1% |
| 9. 感染症対策に努めたことにより、感染症への対応力が向上した | 27.3% |
| 10. その他（具体的に：） | 5.2% |
| 11. 特になし | 4.1% |
| 無回答 | 1.0% |

在宅医療の取組状況についておたずねします

問6 西東京市民への在宅医療の取組状況（令和4年11月1日現在）についておたずねします。

（1）は一般診療所、（2）は歯科診療所、（3）は薬局の方がお答えください。

(1) 一般診療所

令和4年10月中に以下の在宅医療を行いましたか。		(n=74)	
	行った	行わなかった	無回答
①訪問診療	35.1%	58.1%	6.8%
②住診	32.4%	59.5%	8.1%
③訪問看護ステーションへの訪問看護指示書の交付	60.8%	35.1%	4.1%
④在宅での看取り	20.3%	71.6%	8.1%
⑤居宅療養管理指導	24.3%	68.9%	6.8%

(2) 歯科診療所

令和4年10月中に以下の在宅医療を行いましたか。		(n=53)	
	行った	行わなかった	無回答
①訪問歯科診療	26.4%	73.6%	0.0%
②居宅療養管理指導	15.1%	77.4%	7.5%

(3) 薬局

令和4年10月中に以下の在宅医療を行いましたか。		(n=60)	
	行った	行わなかった	無回答
①在宅患者訪問薬剤管理指導	36.7%	56.7%	6.7%
②居宅療養管理指導	65.0%	30.0%	5.0%

問7 令和4年10月の1か月間における、貴機関の在宅医療患者数（実人数）について、居住地別にご記入ください。

	西東京市内	西東京市外
自宅	平均5.46人	平均2.34人
居住系施設※	平均1.86人	平均3.89人
介護老人福祉施設（特養）	平均1.21人	平均2.73人
介護老人保健施設	平均0.19人	平均0.01人
その他（具体的に：）	平均0.04人	平均0.28人

※有料老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅等

問7-1 問7で記入した在宅医療患者数に対し、さらに何人程度の患者に対応できると考えますか。（1つに○）

	(n=194)	
	36.6%	4.1%
1. 0人	3.6%	3.6~10人
2. 1~5人	33.5%	5.7%
		4. 11人以上
		無回答
		20.1%

問8 貴機関は、在宅医療を行う区域や距離を決めていますか。決めている場合は、具体的な内容をご記入ください。（1つに○）

1. 区域を決めている ⇒ [具体的に：]	10.8%
2. 距離を決めている ⇒ [具体的に：]	14.9%
3. その他 ⇒ [具体的に：]	11.3%
4. 特に決めていない	46.9%
無回答	16.0%

問9 貴機関は、在宅医療を行う時間帯を決めていますか。（1つに○）

1. 24時間365日対応している	13.4%
2. 営業時間内（外来診療時間内・開局時間内）のみ対応している	17.5%
3. 営業時間外（外来診療時間外・開局時間外）のみ対応している	4.1%
4. 平日のみ対応している	2.6%
5. 曜日や時間を決めて対応している	13.4%
6. その他（具体的に：）	8.8%
7. 特に決めていない	26.8%
無回答	13.4%

医療と介護の連携についておたずねします

問10 貴機関を受診する患者への対応について、医療と介護は連携していると思いますか。（1つに○）

1. 十分連携していると思う	4.1%
2. ある程度連携していると思う	36.6%
3. 連携が不十分であると思う	19.1%
4. ほとんど連携していないと思う	11.9%
5. 分からない	23.7%
無回答	4.6%

問10-1 問10で「1」「2」と回答した方におたずねします。

貴機関は、どのような方法で連携していますか。（いくつでも○）		(n=79)
1. サービス担当者会議に参加している		36.7%
2. カンファレンスを行っている		11.4%
3. 日常的に顔の見える関係を築くための会合を行っている		8.9%
4. 電話で行っている		65.8%
5. FAXで行っている		58.2%
6. 電子メールで行っている		25.3%
7. ハンコンやタブレット端末、TV電話などのICTシステムで行っている		17.7%
8. その他（具体的に：）		15.2%
無回答		2.5%

問10-2 問10で「3」「4」と回答した方におたずねします。

貴機関がそのように考える理由は何ですか。（3つまで○）		(n=60)
1. 医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない		23.3%
2. お互いに多忙で連絡がとれない		33.3%
3. 個人情報保護の観点から情報が共有されない		6.7%
4. 交流の場がない		58.3%
5. 誰と連絡をとればいいのか分からない		36.7%
6. 医療関係者の介護に関する知識や理解が不足している		21.7%
7. 介護関係者の医療に関する知識や理解が不足している		13.3%
8. その他（具体的に：）		5.0%
無回答		0.0%

7 医療機関調査

問 11 貴機関を受診する患者への対応について、次の関係機関、職種との連携状況を
お答えください。(ア～ソそれぞれ1つに○)

	連携 している	少しは 連携 している	あまり 連携 していない	連携 していない	業務上 関わり がない	無回答
ア. 病院	45.4%	26.8%	12.4%	8.8%	1.5%	5.2%
イ. 一般診療所	29.9%	35.6%	16.0%	9.3%	2.6%	6.7%
ウ. 歯科診療所	11.9%	17.0%	25.3%	27.8%	8.2%	9.8%
エ. 薬局	33.5%	26.3%	13.4%	12.9%	4.1%	9.8%
オ. 居宅介護支援事業所	20.1%	10.8%	16.5%	28.4%	13.9%	10.3%
カ. 訪問看護事業所(ステーション)	20.1%	17.5%	13.9%	26.3%	13.9%	8.2%
キ. 訪問介護事業所	10.8%	16.5%	21.6%	27.8%	12.4%	10.8%
ク. リハビリテーション施設	3.1%	7.2%	22.7%	39.2%	17.0%	10.8%
ケ. 介護老人福祉施設(特養)	4.1%	6.7%	20.6%	42.3%	16.0%	10.3%
コ. 介護老人保健施設	4.6%	6.2%	21.6%	42.3%	15.5%	9.8%
サ. 地域包括支援センター	16.5%	13.9%	21.1%	29.4%	10.8%	8.2%
シ. 在宅介護支援センター(通称:にしのわ)	5.7%	5.7%	21.1%	41.8%	14.4%	11.3%
ス. 保健所	7.2%	13.4%	28.4%	35.1%	5.7%	10.3%
セ. 市役所	7.7%	18.0%	27.3%	31.4%	6.2%	9.3%
ソ. 社会福祉協議会	1.5%	9.3%	22.2%	43.8%	12.9%	10.3%

(N=194)

問 12 認知症の人の受診・治療にあたって困ることとして、どのようなことがあ
りますか。(いくつでも○)

1. 本人や家族への説明の仕方を迷うことがある	46.9%
2. 本人・家族との関係の調整が難しい	43.8%
3. ケアマネジャーや介護・看護サービスとの連携が難しい	21.1%
4. 症状や状態の変化が大きく、治療の方針が難しい	20.6%
5. ひとり暮らしの人など生活の状況が把握しにくい	50.0%
6. 服薬管理が難しい	53.6%
7. 認知症医療に関する情報収集が難しい	13.4%
8. その他(具体的に:)	4.6%
9. 特にない	6.2%
無回答	4.1%

(N=194)

7 医療機関調査

問 13 認知症の人の治療にあたりどのような機関と連携をしていますか。(いくつでも○)

1. 認知症疾患医療センター	12.4%
2. 認知症外来などがある高齢者医療の専門機関	13.4%
3. 高齢者医療の専門機関ではないが、相当の設備を有する医療機関	8.8%
4. 診療経験豊富な医師や専門職のいる医療機関・クリニック	19.1%
5. その他(具体的に:)	4.6%
6. 特に連携していない	57.7%
無回答	3.6%

(N=194)

問 14 今後、認知症の人も含めた医療・介護の連携のためには、どのようなことが大切だ
と思いますか。(いくつでも○)

1. 今後の生活、在宅療養、看取りに関する本人・家族の意向を把握すること	57.7%
2. 医療・介護の関係者間で共通の目的を持つこと	43.8%
3. 生活支援や地域の関係者も一体となった、医療・介護連携を進めていくこと	45.4%
4. 医師等が介護支援専門員の相談を受け付ける「ケアマネタイム」を充実すること	11.3%
5. 在宅医療患者の情報を共有するための統一フォーマットを作成すること	22.2%
6. さまざまな連携にも対応できる、医療と介護の連携マニュアルを作成すること	20.1%
7. 在宅医療患者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保すること	23.7%
8. 関係者のためのネット上で連絡が取れるような仕組みを構築すること	29.9%
9. 医療(病院・診療所)と介護の役割分担を明確にすること	27.3%
10. 医療と介護の連携を支援する機能が充実すること	30.4%
11. その他(具体的に:)	4.6%
無回答	7.2%

(N=194)

問 15 貴機関(あなた)は、西東京市が医療と介護の連携を支援する機関として設置した
「在宅介護連携支援センター(にしのわ)」を知っていますか。(1つに○)

1. 名称も内容も知っている	26.3%
2. 名称は聞いたことがある	35.6%
3. はじめて聞いた	無回答
無回答	1.5%

(N=194)

問 16 「在宅療養連携支援センター(にしのわ)」に期待することは何ですか。

1. 地域の医療・介護資源の把握	40.7%
2. 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	36.1%
3. 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築	41.2%
4. 在宅医療・介護関係者の情報の共有支援	40.7%
5. 在宅医療・介護関係者の研修	38.7%
6. 医療・介護関係者の研修	22.2%
7. 地域住民への普及啓発	37.1%
8. 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村との連携	25.8%
9. その他(具体的に:)	4.6%
無回答	11.3%

(N=194)

問 17 市では今後とも医療と介護との連携を推進していく方針ですが、貴機関として今
後の意向をお聞かせください。(1つに○)

1. ぜひ協力したい	16.5%
2. できる限り協力したい	37.6%
3. 協力したいが多少などの理由により難しい	32.0%
4. 協力したくない	1.0%
5. 分からない	10.8%
無回答	2.1%

(N=194)

7 医療機関調査

看取りの状況についておたずねします

問 18 貴機関で、令和3年11月1日から本年10月31日までの1年間に在宅で看
った患者数は何人ですか。(N=194)

平均 2.1 人

問 19 在宅での看取りが可能な条件は何ですか。(いくつでも○) (N=194)

1. 複数医師で診る体制づくり(他医院との連携体制などのチーム医療)	41.8%
2. 在宅看取りに関する情報交換、相談や支援を受けられる体制づくり	32.5%
3. 在宅看取りに関する研修会の充実	16.5%
4. 24時間対応訪問看護ステーションとの連携強化	38.7%
5. 患者・家族や住民への啓発・普及	27.8%
6. その他(具体的に: 無回答	4.6% 28.4%

問 20 在宅での看取りに関する課題等は何ですか。(いくつでも○) (N=194)

1. 急変時や増悪時の後方支援病院等のバックアップ体制の確立	51.0%
2. 複数医師で診る体制づくり(他医院との連携体制などのチーム医療)	35.6%
3. 24時間対応訪問看護ステーションとの連携体制づくり	38.1%
4. 在宅医療に関する情報交換、相談や支援を受けられる体制づくり	23.2%
5. 在宅医療に関する研修会の充実	13.4%
6. 在宅介護従事者との連携体制づくり(訪問介護、通所サービス、短期入所など)	23.2%
7. 在宅医療従事者との連携体制づくり(訪問リハビリテーション、訪問歯科診療など)	19.6%
8. 患者家族や住民への啓発・普及	25.8%
9. その他(具体的に: 無回答	3.6% 27.8%

問 21 貴機関は、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を実践したことがあり
ますか。(1つに○) (N=194)

1. 実践したことがある	11.9%
2. 実践したことがない 無回答	76.8% 11.3%

※ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは
人生の最終段階における医療や介護について、本人が家族等や医療・ケアチ
ームと繰り返し話し合うこと。「人生会議」ともいいます。

7 医療機関調査

問 22 貴機関が、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を進める上で必要と考
えることは何ですか。(3つまで○) (N=194)

1. 利用者・家族をはじめとすと、市民への啓発が進んでいること	36.6%
2. 早いタイミングから行うこと	24.2%
3. 一度だけでなく、継続的に意向の確認や話し合いをすること	36.6%
4. 日頃から、気持ちを話せる雰囲気や人間関係をつくること	35.6%
5. 本人の意向を尊重し、最期まで意思決定支援を心がけること	29.9%
6. 適切なサービス調整や支援ができて多職種での連携を進めること	27.3%
7. 本人・家族との不一致、家族間の調整にも配慮すること	27.8%
8. その他(具体的に: 無回答	5.7% 21.1%

問 23 地域包括ケアシステム構築に向けた課題は何だと思いますか。(1つに○) (N=194)

1. 必要な介護サービスを身近で利用できる事業所が少ない	6.7%
2. 相談・支援窓口の認知度が低く、サービスが受けられていない高齢者が多い	17.5%
3. 介護事業所とのスムーズな連携ができていない	4.6%
4. 老老介護、8050問題など、支援が難しいケースが増えている	11.3%
5. 単身で身の回りのない高齢者が増えてきており、緊急時の対応等が難しい	17.5%
6. 集合住宅では、地域での見守り・支え合いが難しい	0.0%
7. インフォーマルサービスを含めた社会資源の情報提供が不足している	3.6%
8. その他(具体的に: 無回答	4.1% 34.5%

問 24 西東京市の在宅医療・介護連携や介護保険制度について、ご意見、ご要望がご
ざいましたら、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございます。ご意見、ご要望がご
記入もれがないかどうかもう一度お確かめの上、同封の返信用封筒(切手は不要)に
入れて、**12月12日(月)までに**お近くのポストに投函してください。

西東京市

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第9期)

策定のためのアンケート調査報告書

令和5年3月発行

発行:西東京市健康福祉部高齢者支援課

所在地:西東京市南町五丁目6番13号(田無第二庁舎)

電話番号:042(464)1311